

東奥日報紙上に見られた水産関係記事の再録集

平成 30 年 7 月

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

水産総合研究所

発刊のことば

本書の執筆者である塩垣優氏は、鳥取県出身で、長崎大学水産学部修士課程を修了後、昭和 48 年 4 月に青森県に奉職、青森県水産増殖センターをスタートとし、以後、青森県水産試験場、青森地方水産業改良普及所、内水面試験場を経て、平成 20 年 3 月に増養殖研究所を最後に退職された。魚類学を専門とし、在職中は魚類の種苗生産や資源管理など数多くの研究業績を残し、平成 5 年には東京大学より「北方系ギンポ類の産卵生態・仔稚魚の形態および系統に関する研究」で農学博士の学位を授与されている。

本再録集執筆の経緯については、塩垣氏が「はじめに」に述べており省略するが、明治 22 年から昭和 5 年までの水産記事の抜粋が、ページ数 520 ページ、文字数 649,362 文字、行数 18,711 行に詰め込まれている大著である。文字の検索機能を使うと、鯧（ニシン）335 件、鮑（アワビ）247 件、海扇（ホタテ）207 件、鱈（タラ）177 件が検出され、当時から本県の主要な水産物が記事に掲載されていることがわかる。

東奥日報紙は明治 21 年 12 月 6 日創刊なので、再録集最初の「海扇貝」の記事は創刊翌年にあたる。当時からホタテガイが重要水産物であったことがわかる。じっくり読み解くのも好し、興味ある文字を入力して検索するのも好し。明治期～昭和初期の青森県の水産を知る貴重な資料であることは間違いない。

平成 30 年 7 月 30 日

青森県産業技術センター 水産総合研究所

所長 野呂恭成

はじめに

青森県立図書館所蔵のマイクロフィルムから土日を利用してコピーした記事を判読、ワープロに漢和辞典を引き引き入力を行いました。明治 27 年から昭和 5 年までようやくたどり着きましたが、ついに根が尽きとりあえず終了としましたが、その後、思い直して明治 22 年 3 月から明治 24 年 3 月までを追録しました。

この作業を始めた動機は、陸奥湾内における鱈底建網漁法の開発が明治 40 年代であり、これが平舘村と蟹田町塩越の漁業者による共同開発の結果で、開発者は当時の農商務省から顕彰され大銀盃を授與されたと蟹田町広報誌に見えたことから、このことを確認したいと考え、それは明治末から大正初期のことであろうと狙いを定めて関係の記事を探ったのですがついに発見できなかった。この間、当時の水産事情が少しずつ理解できるようになり、その後、昭和初期まで続けたのですが、これは拾い読みに過ぎず多くの収録脱落期間があります。

この作業は在職中には入力しっぱなしで捨て置いたのですが、平成 20 年 3 月退職とともに、これを何とか完成させたいと考えるようになり、入力ミスの校正とせめて大正時代までは収録したいものと図書館通いを再開したものです。

紙面の汚れから判読できない箇所は□で示しております。

古い県水産事情と漁業及び漁業者の生の生活を探る資料として活用願えれば望外の幸せです。

平成 15 年 6 月 19 日入力了

平成 21 年 1 月 19 日校正了

元青森県水産総合研究センター増養殖研究所

研究調整監 塩垣 優

目 次

項目	ページ
発刊のことば	1
はじめに	2
目 次	3
明治22年	4
明治23年	21
明治24年	26
明治27年	33
明治28年	38
明治39年	39
明治42年	42
明治43年	97
明治44年	150
大正元年	151
大正2年	153
大正3年	183
大正4年	242
大正5年	261
大正6年	345
大正7年	456
昭和5年	518

明治二十二年三月六日

●海扇貝

本縣下に於て客年五月一日より十二月三十一日までの海扇貝捕獲高は一億二千三百〇八萬個此の金額は拾貳萬二千〇八拾圓にして生鮮にて管内各地へ賣却したる分は數量六百七十七萬個金額六千七百七拾圓平均十個につき壹錢なりとす又貝柱に製造せしものは六十七萬五千斤此金額八萬七千七百五十圓にして平均百斤につき拾三圓の相場を有し重に横濱及神戸に向け輸出し其黒干に製造せしものは四十二萬四千斤金額二萬七千五百六拾圓百斤につき平均六圓五拾錢とす而して其販路は新潟東京酒田仙臺等に在り今風雨其他事故の日を除き出船の日數を見るに凡そ九十五日なるを以て之れを平均すれば一日の捕獲百二十八萬五千〇五十二個余此金額千二百八拾六圓余なりとす而して其組合漁村五十四ヶ村漁人の概數千三百三人に分配するときは一入一日の所得金は平均九十八錢七厘弱當れりと云ふ

明治二十二年四月十日

●水産談話會

鯨漁は西津輕郡水産中重要の一大物産にして年々の産額實に尠なからず然るに該業に就ては是迄種々の弊害有之蕃殖上の妨害尠なからざりしが郡役所に於ては大いに之を憂慮せられ先般開設の第一回水産談話會に係る問題は會員一同規約の必要を感じ愈本年鯨漁の濟次第規約取結方に着手する趣なり尤も郡役所にては規約準案取調出來居候由にて今其談話會問題を得たれば左に掲げて看者に示す

第一回水産談話會問題

一硝子器械を用いて鮑を捕獲するを禁する方法如何

説明 當海岸に於てする處の鮑は實に鮮からざるを以て水産物の一助たり然るに近年頻りに硝子器械を使用して其根跡を絶たんとするの景況なりき仍て右器械の使用を禁す益蕃殖せしめ將來に於て無尽蔵の實利を得んと欲するに在り其方法如何

一鰯の子即ち「ブリコ」の捕獲を禁する方法如何

説明 鰯の漁業たる本郡水産物の第二にして其収利最も多しとなす然るに右蕃殖せしむるの原因を顧慮せず其の子なる即ちブリコを捕獲するは一般の通例なりとす右等の如きは殖産上尤も注意すへきものなるを以て斷然之を禁する方法如何

一水産事業の拡張又は其隆盛を計らん為め左の目的を以て組合を組織するの可否

一 營業の隆盛を企圖し及其の福利を増進する事 二 漁場内各魚類の蕃殖を企圖し及之を捕獲する事 三 漁場内に産出する處の各魚類の製造法を改良し其聲價を高揚する事 四 場内に産出する各魚類生物製品の販路を擴張し及其の需要の増加を企圖する事 五 共同の力を以て各自の營業を保護し又はその弊害を矯正し利害を慮る事 六 營業者の親睦協和及其の光榮を企圖する事

説明 水産事業たるものは漁撈製造販賣の三職業なれば苟も之を改良し又は之を擴張せんとするときは直接に其業に當る處の漁師製造人売商の三營業者を連結一体とするにあらざれば到

底改良及拡張する能はさるは勿論なりとす就ては本郡内水産事業に關係ある各町村を以て組合を組織し而して之が規約なるものを訂盟せしめ以て大ひに將來の繁榮を期せんとするにあり其可否を問ふ

一 魚寄せ場設置するの可否

説明 緑林鬱葱たる影海面に映ずるの場所は期魚の好んで郡來するは古來より動かすべからざる定説なるの如し當港は後ろに連山を負ひながら樹林の設けなきが故に漁獲上影響を及ぼし居るは蓋し尠なからざるべしと信ずるなり今魚寄せ林を造るは其利益二あり魚介の湾内近く群遊し來たれば遠く沖合に航し漁獲するの危険を免るゝなり第二此魚寄せ林を以て防風林と為さは荒蕪の地變して良圃となるの期あらん實に一举兩得の策此問題を提出する所以なり

水産談話會員 (岩崎村) 七戸藤之助(深浦村)上田善七(舞戸村)成田章(十三村)成田又左衛門(鱒ヶ沢富根町)關村重次郎(同濱町)寺澤丑松(姥袋村)奥口儀三郎

明治二十二年四月十六日

●鯨の相場

西津輕郡海岸地方は去十二日頃より鯨は大漁にしてこのごろ鱒ヶ沢に於て一駄金五十六錢位なりと

明治二十二年五月三日

●浅虫便り

春風駘蕩として將に梅櫻桃李の芳を闘わんとするの時節に立ち至りたれば東津輕郡浅虫村に續々歩を運んで積日の鬱気を散じて酔余の歡を買わんとするの客多く去月第四日曜日の如きは記者も散策を同村に試みたるに旅人宿等は頗る雑踏を極めたり中に少々見苦しきものと感ぜしは何處の紳士の細君か知らざるとも身粧も立派な二名の女中さんの満酌泥酔カッポレやら何やら人もなげに躍り狂ひしは如何にもお身分には相應せぬものと見受けらる婦人改良とは識者の已に喋々して社会の一大問題となり居り候ぞや是等の先導者ともなるべきお身分にして斯かる境界なればどうして社会の婦人を改良することが出来ますものか請隗より初めよ以後御注意あらまほしとご忠告を申し上げます併し是は貴頭にまねての舞踏会なりとのお答えあらば記者は余儀なく閉口せんのみ

明治二十二年五月四日

●河魚大漁

當地湾内の上磯下磯地方及北郡等の河々に於て當春程鱒や大貝魚(注：うぐい)の遡ぼりし事之なき由にて何れも大漁なりと云ふ

●青森湾内の鯨

當地湾内より捕獲せし鯨を見て或人は西浜や松前より群集せしものとせしが元來當湾内の鯨は柳葉鯨と云ふて一種特異の鯨なりと云ふ

明治二十二年五月九日

●第百号祝

客年十二月六日本社東奥日報第一號を發兌せしより以來日を重ね月を追ふて江湖の好評を博し従つて愛読の諸君益々多きを加へ聖代昇平の時勢と共に本月本日日出度も第百號を發兌するに至る是れ畢竟本社員の勉勵能く記事の精確なるによると雖も亦愛読諸君の庇護によらざるはなし以後は一層探訪に緻密を加へ勉めて記事に詳細を尽くすべければ愛読諸君にも其心して好評の榮を給ひかし仍て附録として携帯至便必要欠くべからざる七曜日早繰表を贈呈いたします

明治二十二年五月十一日

●慶喜公魚釣を廃す

大政を奉還して静岡に閑居せらるゝ前の徳川慶喜公には頻りに魚釣を好ませられ数々危険の場合もありとて勝公なども屢々諫められしも更にお聞き入れなかりしが先ごろ家達公が全地へ赴かれし折大に魚釣の不可なる事を切諫されしかば公にも之を嘉納し爾後斷然釣を廃せられしと云ふ

明治二十二年五月二十三日

●漁業組合會社の通常會

去る廿日より縣會議事堂に於て青森灣漁業組合會社の廿二年度通常總會を開設せられたり

●海扇貝白干價格の下落

當地方沿岸の村落に於て至る處として本業に従事せざるなく日に其盛大なる現況と見るも横浜市場に於て頗る其價格を下落せしと云ふが何等の原因より下落せしかと聞くに海産商人らは賣買上至つて競争の爲め自然其風潮に急がれて製造家の粗製に流るゝに出てたると此の如き有様にては到底本業の拡張を図る能はざる次第なりとて大ひに取締方を嚴重にする積なりと

明治二十二年五月二十四日

●鯨大漁

北津輕郡小泊村は此頃鯨大漁にて百石目搾粕は五百圓胴鯨は四百圓内外の相場なりと云ふ

明治二十二年五月二十六日

●漁業に関する取調

目下其筋に於て明年開設の第三回内國勸業博覽會へ差出す爲め漁具一切漁法季節等の参考書を取調中なるよし

●水産物の出品

過日報道せし通本縣農商課に於ては第三回内國博覽會へ重なる水産物を出品するよしなるが右はフカヒレ、披鱈、棒鱈、掛鱈（尻屋産）、干鮑（泊村産）等の十三品なりと云ふ

明治二十二年五月二十八日

●船客多し

昨今に至り北海道出稼ぎ人の歸縣する者頗る多く函館より日々の便船下等客は船内に充満すると云ふ

明治二十二年五月三十日

●汽船の出入

日本郵船會社の汽船播磨丸は去る九日東京より宮古港を経て鮫港へ入港せしが直ちに帰港し又、同社の兵庫丸は今三十日東京より鉄道用の貨物を積載して鮫港へ入港するとの廣告あり而して毎度延期勝ちなる函館八戸間の定期船第二兵庫丸も去る二十五日入港同日直ちに函館へ帰港せしとのことなれども地方の人々は毎度出帆延期の違変に懲りて一向信用するものなきの有様なり

明治二十二年六月二十七日

●漁船転覆

昨朝午前二時頃當所大字蜷貝町沖合にて帆立貝引漁船は東風の非常に強かりし為めに転覆したるも幸ひに救船の早かりし為め乗組四人は命には別條なかりしとして漁船は東津輕郡新田村へ漂着したりと云ふ

明治二十二年七月二日

●奇魚の捕獲

西津輕郡鱒ヶ沢町大字田中町の漁業者は去月廿八日同所の沖合にて鰯魚漁獲のため投したる網の中に一の奇魚を獲たる由其形の全体河豚に似て長さ一尺五寸以上あり眼及び鰭尾は金色を帯び背は鱗に似たる青黒色の斑紋あり腹は淡黄色にて何魚とも名付け難けれど其形よりすれば河豚の一種ならんか同地の戸沼源蔵氏は之を購求して海産物参考の為め丸乾になしたるといふ
(注：シマフグのことか)

明治二十二年七月四日

●十和田湖

秋田縣下十和田湖は直径凡八九里にして陸奥、羽後、陸中の三國に跨り又西北は秋田縣管轄にて東は本縣の管轄なるが此度同地なる大日本水産會々員長瀬通一氏が同湖へ鯢(注：あめのうをの振り仮名があるがやまめのこと)及び嘉魚(いわな)の移殖を企圖し同湖の調査をなしたるが元來十和田湖は山間に水を湛へたるものにして四圍の山澤中清冽なる湧泉少なからず其湧泉大小数十相合して小河となり常に湖水に注ぎて歇ます又溪流は冬猶一尺立方の水量を減ずること無しと雖も寒氣凜冽の山間なれば嚴冬に際し細流は氷結すれども絶えて流勢を失ふことなし又

湖底の地質は泥土磐石砂礫等にして泥土最も多く砂礫之に垂ぎ磐石は處々稀にあるのみ魚類の餌料となすべきものは其適否明瞭ならざれども初夏より初冬に至るの候其形状蚤に似て稍小き一種の小蟲あり全湖至る處見ざること無し又沿岸には樹木鬱葱之に栖息する小蟲湖水に散布するもの少なからず之亦餌料の一助とならん既に數年前二三の有志家魚族成育の如何を試みんが為め鯉及び鱸數千を放流したる事ありしが爾來年々生育し湖岸に遊泳せり依て人工按合法を施し魚卵を孵化するの必要なる事を發見し大日本水産會社へ同湖に放流するに尤も適切なる魚族及び卵子運搬の方法及び孵化の方法其他を照會し來りたりといふ

明治二十二年八月二十九日

●臨海實驗所設置

帝國理科大学にては今度本縣下への臨海實驗所を設置する事に決したるよしにて同科大学教授飯島魁氏は來月上旬當縣へ出張し設置の場所を選定する筈なりと云ふ

明治二十二年九月二十九日

●水産諮會問題

來月五日より開會の水産諮問會問題得たれば左に録す

- 一水産巡回教師の件
- 一漁船を改良せしむるの利害
- 一各郡水産業者聯合集談會を開設せしむるの利害
- 一海産商組合を設けしむるの方案
- 一杭打待網は鮭鱒の蕃殖及堤塘に妨害の有無

明治二十二年十月五日

●奇魚の捕獲

去る一日の事なりとか當所安方町漁師大柳某方にては鰯漁撈のため朝早く幾十間の網を下せしに図の如き一種奇怪なる見慣れぬ魚を捕獲したれば不取敢縣廳農商課へ差出したりと今の此魚の模様を記さんに丈ヶ一尺三寸許にして兩鰭は大約五寸許□□は鯛に似て少しく黒味を帯びたり而して口は誠に小にして鯛の如く齒なく尚ほ鼻穴に類するもの額上に四個ありし抑も此魚は如何なる名の魚なるか今に知る由なければ揚げて江湖諸彦の供覽に供する事となしぬ(圖省略)(注：体高高く側扁、急峻な吻、喉位の腹鰭などの特徴からツバメウオと思われる)

因に記す去る十一年十月頃北海道茅部郡森村に於て鮭網に入りて漁師の手に落しものは而かも図の如き魚にて丈ヶは二尺七八寸もありしと當時森村の漁師一同は其名を知らざるは勿論見るも初めての事なれば果して肉の食ふべきものなるや否やを知らず數多の魚商に示せども誰一人の知る者なく又誰一人の買ふ者なければ止むを得ず漁師どもは水中に放ち遣らんとしたりし折函館の投機師か通り掛り見世物にせんとて若干かに買ひ取り直ちに當時の開拓使函館支庁へ差出したりしか同支庁に於ても其名を知らず其まま干物にして同地公園地内にある博物館に備

へ付け衆人の縦覧に供することゝなしたりと又聞く處によつては當時同支庁外事掛なる某氏が曾て米國に在りしとき見たることありて米國にては扇魚と名付け居りし云々と話されたれば同支庁にて直ちに扇魚と稱へて今尚同地の博物館にありと或る人の物語を聞きし儘ここに記しぬ

明治二十二年十月二十九日

●烏賊と鮫

西津輕郡深浦村に於ては目下烏賊釣の季節にて漁民は挙つて之に従事し近年覚なき程の漁獲にて秋田地方へ輸出せしもの幾十駄云ふ數を知らず魚商は争ふて買い集めに多忙を極め居れり其釣高は日暮れより午後十時頃までには大凡三百位翌晩にかゝりて八百位も釣り得ると尤も其價格は一尾二厘にして鰯にしたるものは一枚六厘なりと云ふ又鮫は從來同地方に漁獲することなかりしか去る十七八日の両日間に四五尾の漁獲ありて目下は大いに釣方に従事し居れりと云ふ

明治二十二年十月三十一日

●海扇貝製造家

本年の海扇貝漁獲は昨年と異にして稍薄漁なりしか加ふるに先日來の暴風雨ありしか故殆ど休漁の姿なり然し生海扇貝の値段は昨年より二倍余りも騰貴し而して貝柱製造家は随分昨年は多かりしか何にしる製造家の競争より其損失に恐れ本年は余り手出す人なき由に聞く

明治二十二年十一月十三日

●共進會縦覧人

去る十日の縦覧人は百五拾二人にして男百拾六人女三拾六人十一日の縦覧は二百五拾四人にして男百六十三人女七十三人特別縦覧人十八人なりしと

●共進會

は本日をも以て閉場する筈にて去る十日褒賞を授與せし等級を現品へ添付し縦覧を許すとのことなれば參觀人にとりて一層の裨益多かることゝ考えらるときは參觀人の人々よ閉場時間のつきぬ内に續々行きて御覽なさい

●褒賞授與式の詳報

昨日一寸其模様を報道したるか今其詳報を報道すべし去る十日正午十二時事務員及出品人來賓一同式場に列するや審査長農商務技師山本五郎氏は左の如き薦告分を朗読す

本會三區十二類出品二千十六種一も人生需要に適切ならざるはなし就中農産は自然頭角を顯し水産之に垂き工藝其後に歩し其地勢民情の然らしむる處にして亦以て本縣富源の極めて深きを測知するに足れり若し夫れ開道宜しきを得は將來の効果口けて數ふ可からず共進會開設の主眼蓋し斯に在る口鄙官漫に審査長の任を帯ひ此の有為の土に來て此利用の物を験す歡喜歎むことなく光榮余り在り今や審査諸子の精勵に依つて本務全く了れり乃ち出品者一千七百人の中に就て當賞者四百五十九人を選抜し以て薦告す冀くは褒賞せよ

審査長農商務技師

明治廿二年十一月十日

正七位 山本 五郎

青森縣知事正四位勲二等鍋島幹殿

次に鍋島知事には左の如き旨意書を朗読せられたり

旨意書

今や本會出品審査全く了り審査長の薦告を領したるを以て茲に褒賞授与式を行ふ抑も殖産興業の事たる国家富強の基にして本會出品農産水産工藝品等は是れ其重要の物なり之れか改良進歩を圖る豈に一日も忽諸すへけんや本會開設の主旨亦た斯に在り願ふに本縣共進會たる本會を以て第二開設とす而して出品者は一千七百余人にして優等受賞者は四百五十九名の多きを見る是即ち出品人諸子精勵従事の効す處にして余の甚た嘉する處なり爾來冀くは出品優等にして賞を受けたる者は益々進んで其産出を増殖し品位壹體粗精不同あるなく以て其名譽と價値を發揚保持すべし又其賞を受けざる者は自棄弛縱することなく他精巧長技を斟酌し奮勉従事以て其名譽を後會に期せんことを聊か處思を陳す諸子夫れ旃を勉めよ

明治廿二年十一月十日

青森縣知事正四位勲二等 鍋島 幹

明治二十二年十一月二十一日

●捕海豚組

上北郡横濱村は下北郡田名部地峡中程に位し西方陸奥灣に濱して海産収獲も少なからざる土地にて古來其磯邊に数多く海豚の遊泳することありて今を去る八年以前二月より八月までの間に百頭余を捕獲せしも其後捨て顧さりしか本年同村の有志者荒戸喜兵衛杉山源吉横濱直視三氏他廿四名は見出の如き組合を結び去る二月より八月まで十九頭を捕獲し是を青森水産本部に託して仙臺地方に送り一頭平均五圓にて売捌きたりとされば同捕獲に従事せし人々は益々其規模を擴め盛に捕獲に従事すると云ふ

明治二十二年十一月二十七日

●北海道鰯の大漁

此の程北海道函館住吉町より西北棚法花村迄拾三里の間鰯式萬石余竝に鰯六千石余の漁獲ありしよしなるが實に近年に稀なる大漁なりと云ふ

明治二十二年十一月二十八日

●博覽會出品 明年東京上野公園地内へ開設する第三回内國勸業博覽會へ當東津輕郡より出品數は二百二十三品にして其出品人は八十六名なりと云ふ

●又 同博覽會へ出品せんとする人には荷造の上所在地より郡役所迄は運送費自辦にして其郡役所より東京迄は縣廳にて地方税を以て補助する積りなりと聞く

●又々 同博覽會へ出品する開設用紙を縣廳より各郡市役所へ下渡さるゝよしにて郡役所に

ては所轄町村役場へ夫々配布の筈なりと

●物産陳列場 本縣農事試験場附属物産陳列場を元中學校内の一舎に於て之を開設するの計畫なりしが今聞く處によれば彌々來る十二月一日を期して開場し毎日曜日水曜日の兩日を以て衆庶の縦覧に供すると云ふ

明治二十二年十二月一日

●漁業

東津輕郡上磯海岸に於ては宇田頃々川石崎の三村は目下烏賊の大漁にて價格は金拾四錢五厘なりと又郷澤村に於て同様大漁の由又石崎村にては鱒漁の計畫最中にて來月八日頃には網下しの手順なりとのこと

明治二十二年十二月四日

●無人島漂流奇談

世に名高き漂流奇談といへば彼のロビンソン・クルーソーの物語なるが之にも優せし漂流奇談は前号に記せし青森縣下北郡下風呂村の佐賀喜作（注：四十三年）、北海道日高國三石郡姥布村大工職神成廣吉（注：三十一年）、同郡白糸村遠藤とら（注：三十三年）の三人が南洋硫黃島の南方凡四十里に在るサンオーガ島（注：南硫黃島）に三年間漂流せし事是なり今或る人が新しく聞き得たる漂流者三人の物語を左に記して此の驚くべき事實を看客に報道すべし（本文中の月日は物語のまま悉く旧曆に依る）（毎日）

忘れもせぬ明治十八年舊十月二十七日のことなり余等三人（佐賀喜作、神成廣吉、遠藤とらのことなり、以下同じ）は函館より青森の下風呂村に渡らんとて八拾石積の松尾丸（注：正しくは松王丸）に乗り込み午前六時に出帆したり此日空晴れて西風吹きしか陸を離るゝこと五里許りと覺しき頃風南に變りて船進まず余儀なく後へ引戻し午後拾時頃再び函館へ入り一同上陸して辯天町の旅宿に泊り順風を今日か明日かと待ちつゝ四五日を過ぐす内に十一月三日となれり此日は晴天にて風も西北なり今日こそ出帆すべしとて再び松尾丸に乗り込み午前六時頃函館を發したり同船は余等三人の外

青森縣陸奥國下北郡大畑村

船頭 菅原鋼吉
三十五年

全 水夫兼賄方 伊藤芳太郎
二十七年

全 水夫 川畑又吉
二十四年

全

船客 新井田 仁太郎
五十一年

全 同 上林 清右衛門
五十八年

全縣全郡烏澤村 同 寅 吉
三十一年

全縣全郡大畑村 同 毛馬苗 直 介
三十六年

等都合拾人なり此度は此儘にて穩かなれかしイヤ此分なれば大丈夫なるべしと語り合ひつゝ午後二時頃に及びしに又々風は西南に變じて船進まず開き開きて漸く午後七時頃目指す下風呂を離るゝ一里許りの沖へ達しをり今少しと云ふ處なるに奈何せん風彌々強くして進み得ず大畑へ向かはんとしたれとも是亦能はず終に轉して尻屋に向へり此時は四日の午前五時頃なりしか風波益々荒く終に尻屋にも着き兼ねて今は見す見す風に任せ東々と吹き流されたり夜明けて見れば雪降り出て船は尻屋を距る凡五里許の沖の方に在り夫れより唯た風に任せ船の流るゝに従ふのみ八日午前六時頃日高國幌泉郡小串村エレモン崎を沖の方凡十五里に見て過ぎ十一日午後五時に凡三十里を隔りて泊の山を見たり日々風強く或は北に或は東に漂ふ内早や此日も半ば過ぎて十八日となれり此日も同じく暴風にして波濤高く雨雪交々降り午前七時のことなりし船方一同數日間の漂流に躰も勞れたれば錨二挺を垂れて暫時留まらんとしたるに風の為め上笠艀舳などを破られ船体半ば傾きて今にも沈まん勢なれば船中一同必死を究めて是を防がんと働き船頭は終に號令して錨を切捨て風に任せつ東に流れさせ漸くに沈没の難を免れたり夫れより二十八日迄は晴天なれど暴風尚ほやます

明治二十二年十二月六日

●無人島漂流奇談（前号の續き）

扱て此船が積込みの荷物飲食物と云ふは白米二斗、清酒一斗三升入十九樽、黒砂糖一樽、金米糖六拾斤、源氏豆六拾斤、花菓子百斤、甘藷二俵、鮭塩引四百本、味噌一貫目、醬油五合、水五斗許、石油一箱、平釜一個、二升鍋三個、大工道具一箱、蜜柑十五箱等なるか水は打揚ぐる波濤の為め情けなくも潮水に侵されて飲料に適せず二斗の米は勿論食し尽せり何を煮て食はんにも肝心の水なければ酒を以て甘藷を蒸し之を食料に充てたりソレも一日三度とは為し難ければ一日二食のことに定めつ此末如何せんとして各々額を集め相談果てしなし其内船客の一人南に向て走らは必ず外國なり何れの地へなり着すべしと云ふ此言に随ひ針路を東南に取らんとせしか此船に羅針盤なければ差当たり船客の携へ居たる磁石に依りて進路を定め駛行する事數日次第次第に暖氣となれり時に十二月六日幾日に及ふか縹渺たる青海原未た一つの島地だに見へ

されば船中一同再び相談の上此度は南方へ走りしが辛く露命を繋ぎ留めし食物は廿八日目にして全く竭き是非なく二三回大雨ありしを幸ひ此度ごとに天水を取りて飲料に供せり斯くて此年も心細き船中にて送り正月三日となりしに正月いふは唯の名のみにして時候は三伏の最中熱帯にや近きけん酷暑肌を焦がし船中に居堪まれざれば皆々海に入りて体を冷やしつ日々暑さを凌げり斯くても更に陸地を見ざれば船中一同又々相談し到底此針路には陸地あるべしとも覚へず此上は西北に転じて見るべし西北は多分我が日本國死しても今一度我が生まれし國へ着かばやと儀定まり風も亦た南に變りたれば之に任せて走ること三日同六日大雨あり依りて又々天水を取り飲料に備えたり此時風西北に變じれば帆を下げ船をつかし五日間洋上に漂ふ同十日風東南に變じ帆を巻きて又西北に向へり六日に取りたる天水は十三日間にして尽きたり同十七日シイラ六尺余のもの六七尾を得たれば船中大に悦び水なき為め塩水にて之を煮たるに非常に渴き居る處へ潮煮のことなれば咽喉に下らず終に鮮のまゝにて食せしが鮮も尚ほ熟煮したるものゝ如く争ふて食せり(未完)

明治二十二年十二月七日

●無人島漂流奇談 (承前)

全廿二日又シイラ二尾を得て鮮肉のまゝ之を食せしが常食の物とて何一つなく數十日漂流せしことなれば一同餓死に逼る許りにて誰一人生きてる心地なかりしに廿三日に至り悲しむべき出来事ありけり船客の一人上林清右衛門といへるは五十八年にして乗合中の長年なれば相談の時なども余等を始め皆此人を相談頭の如く為し居たるが同人は老年の上に斯かる飢渴に際せしこと故他の者に比し体力なかなか堪へ兼ねけん或る時腹に力を持たせんと手拭にて縛りしこともありしに其手拭二折にて足りしほど腹は小さくなり居たり此日同人は何か言はんとする様子なりしも終に其力なく口を動かす許りにして其儘餓死したりアナやと驚き皆々介抱せしも今は早や虫の息だになく余儀なく三日を過ぎ全廿六日船中の者一同屍を抱へ出たして水葬に附し我等始め皆々水面に向ひ合掌回向せしは東の空漸く白む未明のことなりし傍にて此餓死の様を見たる我々の心の中如何なりしや語らんとても語らるゝものならず扱て余等三人を始め船中のものは今でこそ他を水葬した身なれば此有様で続かんには明日にも自分達が水葬されて一遍の回向を受くる身となるやも知れず憐れなる境界かなと口にこそ言はね胸の中は斯くもありなん兎角して午後二時頃となりしに幸ひ降雨ありたれば急ぎ天水を取りて之を飲み一時の渴を凌ぎ居る最中又一ト騒きありけり船客の一人毛馬苗直介といへるは容れ物にピタと取付き息をも吐かか飲み居たるが豫々疲労の處に多分の水を飲みたる為めにや其場に仆れて気絶したり一同打ち驚きつゝ力無き腕にて口背中を打つやら精一杯の聲立て耳元に呼ぶやら或は水を口中に注ぎなどしけるに当人は漸く心附きたり今朝水葬が済みしかと思へば今又たこの騒ぎあり此難儀の中で今日位の忌はしき日はなしなと語り合ふ内に其日も暮れ夜もろくろく眠らずして翌廿七日となれり皆は恰も晴天なりしが午後三時頃西南の方に当り一ツの島見へたりソレ見いた見いたソレ彼處アレ其處にと船中一同群がりて之を見る其悦びは早や島に着きでもしたる様なりイザ彼方へ船を着けべしと其針路を取りて進みたり既にして此夜右の島に近づきければ船方は帆を

巻き艦を押さんとしたるに疲労の上今や陸地に近づき少し気弛みのなしけん斯くするの力もなし其内に船は流れて翌廿八日午前六時頃同島の西岸に近寄りたれば一生の力を出し竿にて岸へ寄せ着きたり定めし人家もあり水もあることならん先づ我等が命は是で助かれりと元気俄かに増し或は神仏祈願の利益なりとて心の中に之を拝み或は顔見合わせつ初めての悦眉を披き一同上陸して島内を見巡りたるに圖らざりき無人島にて家も無ければ水もなし一同すごすごと又た歸船し凋れ返りつ折角島を見附ければ斯くの始末に此末島に留まらんか或は尚ほ進みて當てもなきことながら頼みある地へ着するの時を待たんかと膝付き合せて相談を始めたり船方の者は此上は據ろなければ尚ほ西北を指し進まんと云ひ余等三人の中佐賀喜作は此島へ着きしを幸ひ上陸して此島を最期の地となすべしと云ふ

●帆立貝漁場発見

此の頃下北郡川内村大字檜川の蛭名多利蔵氏は同村海岸を距る三十六丁の沖合に於て東西六十丁南北三十丁もある帆立貝漁場を発見したる由然るに右は堅場の三年子なれば其質健全にして青森近海に産する貝よりは餘程優等なりと聞く處に依れば全場は十年以前に發生したることありたる由なり

●鱈漁の準備

當湾内に於て追々鱈漁に差迫りたれば下北東津輕郡二郡の漁業者は目下寝る暇もなき位にて専ら準備中なり

明治二十二年十二月八日

●無人島漂流奇談（承前）

是にて議論二つに岐れしが神成廣吉は豫々船中にて喜作と共に如何なる島にても見當らば上陸せんと約し居れば直ちに同人の組となり遠藤とらも女氣の不入此後の海上を頼みなく思ひむしる此島に留るべしとの決心なり他の六人は之に反し仮令此島に留まることも露命を繋がん術なし同じ死ぬなれば命の続く限り進みて運宣ければ頼みある土地に着すべし運悪くして船中に死するも萬が一其船の日本國に着かんも知るべからず兎に角にても進みて見るべしと云ふ議一致せざれば余等三人は終に別るゝことゝなり我等は此島にて死する覚悟なり此島にて死すれば何れの時か遺骨を拾はるゝの時あるべし海底の藻屑となるよりは増しならめと船頭の止むるをも聞かず他の六人に別れて上陸し船は天水五斗五升許の溜水と薪五六本を載せ添へて午前十一時頃西北へ向け出帆せり残るは余等三人暫しは船を見送りしが涙の曇りに掩はれてか船は終に影だに見へず今は打寄する波の音も一ト入物凄く聞こへけり余等三人の携へて上りしは鍋一個鮭の塩引と九寸許の短刀一個丈なりしが漸く我と我身を励ましつゝ天水にて鮭の片身を煮て食せり翌廿九日の朝此高山に水のなき道理なし死ねほと口三人が未来の旅立ち先づ水を飲みて相死すべしと三人打連れて東のほうへ回ったり五丁許り行きたるに海鳥の雛の大きなるが遙か彼方に居たれば之を捕へて食せんと又二三丁登りしに諸々崩れ掛かりけり必死を究めつ昇り昇りて行きたるに身體疲れて其夜は終に明かし翌三十日の朝元の上陸場所へ帰らんとする途中一つの洞窟を見當れり是ぞ無人島にては窟竟の住家なりとて之に入り辺り見廻しつゝ我住家振るも

涙の中なり岩屋の夢寒く結びも果てずして翌くれば二月一日なり未だ水の場所を探し當てざれば一人穴を出で、所々を巡りしに三拾丁程南の方にて海岸より一丁程上の處に海鳥（バカ鳥）の大雛三四羽を認めれば其の辺を昇りつ降りつして十三四羽の海鳥を捕へ持ち帰へり此鳥最上の食料なるべしとて先つ一日三羽つと定め之を食せり全三日二人にて前の場所に至り十五六羽の海鳥を捕へ來り同四日には他所を探る中北に當りて多きなる島髣髴として見へたり我らと別れし船は多分彼の島へ着きしならん彼の島はあれほどの大島ゆえ人家もあらん上陸せし人々は日ならず我らに向ひに來るべしと急ぎ歸りて斯くと語り今日船や見へん明日人や來らんと待つこと數日彼の島は依然として模糊の中に見ゆれど情けなの波心なの風は待ちに待つ船を送り來らず水はなし海鳥は捕ふに随ふて尽く其心細さは如何許りなりけん露の命の彌々消へんとする折しも住家なる岩屋の上より水滴り出でければ是ぞ日頃三人が祈願を籠る神佛の助けならんと戴くが如くして之を飲み其日其日を過す内終に四月の初めとなりぬ(未完)

●無人島漂流人の餘聞

前項本縣下風間浦村佐賀喜作外二名の奇聞を掲載し居りしに同奇聞中にありし如く残り六名の踪跡に付ては全郡よりの通信に依るに前後多少の差異ありしと以て其一端を知り得へければ其儘之を記しぬ猶ほ其顛末を目下取合せ中なれば聞取り次第其奇聞の後聞として掲載すべし

去る明治十八年旧曆十一月三日下北郡菅原綱吉持船松王丸函館より帰航の際暴風に遭ひ海洋に漂ふこと八十余日にして一つの無人島に着きしか乗組員十名の内四名は漂流中に倒れ上陸せしもの六名なりしが該島には飲料水なきを見以て永く留まるへからずとなし内三名は斷然再び破船に乘し方向を西北にとり運命を天に賭して海洋に漂ふこと數十日にして我が琉球徳之島へ着せしが其島地に残りたる三名の行を俱にせざるを惜しみ誰一人生存せるなるべしと豫想せしものもなかりしが此頃下北郡風間浦村佐賀喜作北海道日高國三ツ石郡尾花村神成廣吉同郡キナツブ村遠藤猿松妻トラの三名が一孤島に於て不思議にも生存し三ヵ年の永き日月を送り小笠原島なる南洋丸の送り船新榮丸に救助せられたる旨同郡衙へ電報を以て其筋より通知ありたり尤も風間浦村佐賀喜作の親戚が同人を以て死亡せるものと臆定し悲しみのあまり破船に乗りて明治十九年中不思議にも徳之島へ着したる人口を深く疑ひ居るとのことなるが今此電報を以て兎に角親戚の人々は殆ど蘇生の想ひにて其喜び察するも猶ほあまりあり

明治二十二年十二月十日

●無人島漂流奇談(承前)

折しも四月の初め空晴れし或日のことなり三百石積位の和船沖の方四五里の處を南より北に向かひ見掛けたりソレ我等のこと知らせて救助を請はん我らに取りては命の親の助け船ぞやと急ぎ火を焚きたるに忌はしや此の日に限り風強かりし為め知らせの烟り立たず心せきつ々様々に焚火をあしるふ内彼船は過ぎ去りて帆影だに留めず空しく此方に憾を残すのみ余等三人は上陸の當時狐狸の行く道さへなき處を彷徨ひ或は此島の山々頗る峻険なるを昇りつ降りつするに素足にて堪ふべきにあらねば着し居たる衣服の端裂きて足を結びつ漸くに歩み居たるが其の後木の葉や(スゲ草)の茎を以て草履を造り常住の履物と定めたり水は岩間より清水滴り出でし以

來先づ用口足るも茲に又不自由を來たせしものあり初めは船中より持ち出でたるマッチ残り居けるが五月十一日の朝起き出で見れば前夜來溜め置きし火は消へて灰も冷やかなり前日までに大切のマッチも尽きたれば今は火を起さん種もなし木を擦合わせて火を出ださんと思ひ付き海辺に漂着せるを拾ひ來り擦り合せたるに唯だ熱を持ちしのみにて火は出でず今度は轆轤を作り火を發せしめんとしたるに是亦た少しの甲斐もなし早や是迄なり火無くして露命を繋がんこと思ひも寄らざれば日頃念ずる神佛の口日を限りに死すべしと覺悟を定め其の後は鯉鳥を捕へ之と其卵とを鮮のまゝ食しつ命の終らんを待ち居たるに其の日となりても身に別條なし扱ては神佛も未だ見離し玉はむと見へたり此上は兎も角もして命の続かん限り生存ふべしと決心せり其後或日のことなりし鳥を捕へ來り海岸に出でて其肉を洗ひ居たるに蛇鰻(注：ウツボの類)其他さまざまの魚集まれり釣るべき道具などは勿論なければ空しく此儘に捨て置くことかと残念に思ふ内とら女は妾に考へありと云ひつゝ束ねしといふは名許なる頭髮に差し居たる簪を取り之を曲げなどして釣針に造り縫糸を持ち來り釣糸に代へ數尾を得たり斯くして日々數十尾の魚を釣り天日に乾して食せり又た或る時は一錢銅貨を石にて打ち釣道具の内に用ひたりしことあり(未完)

明治二十二年十二月十一日

●無人島漂流奇談(承前)

九月二十七日の頃海鳥も住めば捕へらるゝと知りてか多く來たらず一日一食位にして十月三日まで過ぎけり其の日より三日間は暴風吹き高波絶へず打ち揚げ岩屋の住家より一步も外に出で難く魚鳥を獲ることもならざれば三日の間一日一食は愚か全く食を絶てり同七日は晴天にて風も静まりければ一人岩屋を出でて海辺を廻りたるに小蝶といへる鳥何れより打ち寄せられしか既に落ちて處々に其屍を曝せり乃ち三四十羽を拾ひ帰りたるに絶食後のことゝて二人の悦び一と方ならず翌夜一人出で行きオサ鳥の眠れる處を押へて廿羽程持ち帰る折珍しき木の実落ち居たると認め拾ひて帰りしに其香頗る好し打碎きて食したるに味も美なれば翌朝より此木の実を常食となせり是れは洋名ルワラと云ひ小笠原島辺にてはタコと称する木の実なり鳥來たれば捕へ蛇鰻を見れば釣り鮮か白干にして食しつ其日を送る様自分ながら人間とは思はれず實にも憐れなる境界なりき斯くて十九年の年も茲に暮れ翌二十年を迎へ此年の三月下旬頃となりしに三百石足らずの船西より東へ向け硫黄島の方十里許の沖を過ぎ行き又た八月下旬西の方に當り三本檣の風帆船北を指して二里許の沖を行くを見掛かり其度ごとに火のなき為め知らせの烟を揚ぐる術もなし又斯かる時に用ひんとて木にて作り置きし喇叭を吹き立てしも其聲は終に達せざりけん兩度共見す見ず船を過ぎし遣りぬ是より後はいよいよ助けらるゝ望みたへだへの命生存らへんも無益なりイデ相刺して死なばやと携ふる短刀を把りしを幾度かを知らず又帶などもて首を縊らんとしたることもありしが始終仕掛けてはイヤ今少し生存へ見んと流石に欲出でて抜きし短刀を鞘に収め解きし帶を再び身に纏ひつ脆くも思ひ止まりけり(未完)

●水産傳習生派遣

二十年通常縣會の決議を経て地方税を以て學資を補助し沿海六郡より實業者の子弟六人を撰

び東京水産傳習所へ傳習の爲め派遣せしむるよしにて其の筋にては撰擧方を夫々郡長へ達せられたりと尤も學資金は一ヶ月金七圓五十錢を支給すると聞きぬ

●漁業組合本部

西津輕郡に於ては今回漁業組合同規約を締結の上過般其の筋の認可を受けたるに依り鱒ヶ澤大字本町六拾番戸竹谷伝次郎方に同本部を置き去月二十八日より事務を取扱はれたりと尤も頭取は諏訪子讓氏なりと云ふ

●鱒漁

此の頃東津輕郡蟹田近海に於て大漁にて去る八日當青森へ二千餘尾輸入になりたりと云ふ

明治二十二年十二月十二日

●無人島漂流奇談の續き

日本の方と思ふて打ち眺め今頃故郷の人々は如何暮らすやらん家のものは□□此世に無き人と諦め船出の日を忌日とも命日とも思ひつ香華を手向け居るならん屢々夢に入りて諦めしこと共又思はする日もあらんと思ひ屈して物凄き岩屋の内も一ト入ヒッソリとせし時は氣を慰めんよすがもなし唯バカ鳥の皮を乾して胴を張り鳥の筋を抽き三線の糸に代へて三味線を造り漂流の竹片にて尺八を製し置き斯く重い屈したる時に取り出しては喜作は三味線を弾き廣吉は尺八を吹きとら女此れに合はして踊るを例とせり酌み水を酒の積り日干しの鳥肉を焼肴の心にて食しつゝ歌ひつ踊りつ笑ひつ責めてもの憂晴らし孤島三年の岩屋住ひ時に斯かる楽しみありて保ちしなるべし或る日彼の北に見えたる島のことを思ひ出し如何にもして渡らんと木の葉もて小さなる舟を編み漂流の木にて其の縁を造り之を海辺に浮かべ大石を載せて何位の重さに堪ふべきか試ろみしたるに忽ち沈みければ其の後は諦めて又た斯る考へを出ださず二十年も無事に暮れ翌二十一年の一月下旬前に見たる如き風帆船同北方へ行くを見たり二月の或る日何か漂流物はなきやと海辺を廻りしに五寸許の船釘二本を拾ひければ石に擦り鉤に造りて木の皮を剥ぐ道具となし又た一人の持ち居たる時計の螺線を延ばし木片など刻む用に充てたり又た繩を縋ひて釣り糸となし赤鯛鱸笹魚を釣り投網を造り小魚を獲りしことあり此年九月廿日頃なりしと覺ゆ上陸以來の暴風にて大波小波岩屋へ打入り非常の困難を極めたり(未完)

●鰯の漁獲

本年は未だ時季の早き爲めか西津輕郡海岸深浦にて數日前より鰯多少の漁獲あるよしなるが鱒ヶ澤其他にては未だ漁獲なしと

明治二十二年十二月十三日

●無人島漂流奇談(承前)

初秋の頃互ひに思ふ様斯くて何時迄此島人となり居らんも知れざれば衣服の工夫も肝要なりと木の皮を剥ぎ太布の如きものを織りて衣服になせしことあり此島には別に大木なく唯小木繁げり山楠マルハチなど先つ大木の方なり此雑木中重もにシワラの葉を取りて行李蓆など編みしことあり三人の内佐賀喜作は兼ねて二百六拾七圓五十錢許の金子を肌につけ居たるが島住ひに

は何の用にも立たざりし斯くて其年も過ぎ早く今年の六月六日となれり此日例もの如く三人海辺に彷徨ひ居たるに一艘の漁船に出遭へりシカも其中に居るは我國の人々なりこはこは夢ではなきやと我を忘れて駆け寄り暫し言葉も出でざりしが臆て此人々を官吏の巡視ならんと思ひ言葉短かに仔細を告げて救助を請へり彼方も余等三人が其頃の炎熱に堪へ得ず裸体にして見る影もなき荒れし姿に怪しくも思はれたるならんが我等の頼みを聞いて驚き早速舟に打ち乗せたり余等三人は此救助の人を見ること神の如く佛の如く心に拝みつゝ此島を去りて右の人々と硫黄島に赴き其處に此の漁船を待合はせし人達にも世話せられつ南洋丸に乗りて小笠原島に向へり故國に歸る嬉しさに船中の月日早く経ちて程もなく同島に着し此度駿河丸の便にて上京せしなり我等の如き憂目に遭ひしもの世間幾人かある今よりして思へば渾べて夢なりソレに付けても別れし六人のものは如何なしけんとは今は我等が助かりしを悦ぶと共に此の人々の行衛を思ふぞ不思議なる我等が生命なり云々

因みに記す此物語りに依れば三人が函館を出発せしは十八年十一月三日なれば漂流八十餘日にてサンオーガスト島に着きしなり島に在りたるは十九年の舊正月二十八日より今年舊六月六日まで都合三年半程なり又た此の三人は形容枯槁して見る影なかりしも硫黄島に連返られて米食を為すに及び日々に肉付き來り顔色もおひおひ血の氣付きにて來りしとぞ此の三人は常に金毘羅を信じ居たるよしにて今日在るも偏へに此神の加護に依れりと去る二十六日東京を発足し讃岐の金毘羅詣でに出掛けたりと云ふ

明治二十二年十二月十四日

●北海道漁業出稼人

東津輕郡三厩村に於ては明年の出稼人給料は昨年よりは多少減額せられたりと然るに同村には漁業仕込みの親方と称するもの所得税を収むる者と都合十一名なれば一戸より平均二十人を出しとすれば出稼人は二百二十人あらんとのこと

●三厩近海の漁況

東津輕郡三厩近海の漁業の景況を聞くに本年は臆て冬季になりたれども烏賊魚は屢々漁獲したれりと又宇鐵村字龍飛の近海に於ては此の頃鮪網を差立鮪漁に従事せしが鮪六尾を得たりと而して其価大鮪一尾六圓内外なりと然るに此の頃の噂に依れば本年は同魚の漁獲に見込みあれば同漁撈網の計畫ありて其の資金は千餘圓なりと云ふ尤も同網は去る十四五年頃組立せしことあれとも其の際利益なきが為め廢絶したりしを今般組立することになりたるものにて其の組合は宇鐵村の重立ちを除きたるものなりと又此外源兵衛間と云ふ處に匿網を差居りしか同網は一種仕方の異なるものにて其の大体を言へば大謀網に類せるものにて其の元金は貳百圓には充たざるよし

明治二十二年十二月十五日

●鱈船

當青森漁業口にて三十三艘の内蜆貝堤の両町にて二十四艘安方町にて九艘の漁船を卸し去る

十四日より差網したりと尤も一里許の處より沖へ二里餘も差網し居るとのことなりと云ふ

●鯖大漁

上磯海岸奥内村沖合に於て此の頃鯖大漁の由にて是迄一艘大抵四五百尾を漁するに此度は一艘千尾の大漁なりと云ふ

明治二十二年十二月十八日

●鱈網貸付

本縣東北漁業組合本部事務所に於て鱈試漁の爲め宮城縣に於て使用する差網を購入し各所へ貸付試漁をなせしも注文の行違ひより巖手縣水澤の網問屋より仕送りたる網近頃着せしより附属品準備の手配等彼れ是れ季節に切迫し居れば本年は先づ蜆貝安方の両町漁業者へ貸付不日使用の積もりなりと

明治二十二年十二月十九日

●本年の鱈は近來の大漁にて本郡上磯沿岸各村及び下北郡脇野澤村續々の大漁にて悉く青森に積み送りし爲めに追々値段下落して一尾四錢五厘より六錢までなりと尤も目下新鱈拵へ随分昌んにして新鱈は大抵横濱生鱈は宮城縣へ販賣せりと尤も脇野澤村にて建網にて大漁するは例なるが本年は差網の漁獲は勝りしと云ふ

●鰯の漁獲 深浦村にて七八日前より鰯の漁獲相應にこれあり大抵五百圓位の取高にて一駄の値段昨今日は七拾五錢なりと

明治二十二年十二月二十日

●無人島漂流奇談拾遺

回を重ねて無人島漂流奇談を報道したる内今去る七日發兌の本紙に於て無人島漂流人餘聞と題して神成廣吉佐賀金作(前号喜作は誤)遠藤とらの三人と袂を分ちて琉球徳之島へ漂着したる澤田寅吉山谷又吉(川畑とせしは誤)伊藤芳太郎三名が漂着顛末を聞き得たれば左に掲載することゝなしぬ看客幸ひに前後を参照して其奇遇の顛末を確かめ給へ

數ふれば四年以前明治十八年霜月三日下北郡菅原綱吉の持船日本形松尾丸(九反帆)に乗り組み函館より歸港の際暴風の爲め吹き流されしことも知らぬ海洋に漂ふこと八十餘日漸く一つの島を見當て上陸やれ人里にて嬉しやと思ひしことは情さけなや何處とも知れぬ無人島かてゝ加へて一滴の水もなければ我々はなとて命を繋ぎ得んつまり死を待つのみなれば一層のことに今一度日本の方に漂ひ見んされとも若しそれなりに山も陸地も見へぬなら其の時こそは我々の運の果てともあきらむへし仮令屍は海洋の荒き波間に漂ふとも若し日の本の土地にたに漂着すること存るならば人をも知らぬ無人島の鬼と消ゆるまゝすなるへしと言ひしも神成廣吉佐賀金作遠藤とらの三人が身を魚腹に葬るよりは陸地に留まり死するにしかずと再び破船に乗り組むを聞き入れされば止むを得ず偕てこそは本紙にて報ぜし通り澤田寅吉山谷又吉伊藤芳太郎の三人が茲に袂を分ち數日の絶食に疲れ果てゝよろめく足を踏み直し折れたる梶は命の綱敗れし舟は

此の世の宿振りさけ見れば何處とも定め兼ねたる青海原日本の方は西北と針路を定めて三人は船中に積置きし魚類等を平分し跡に残りし三人に分ち与へておさらばと見送る三人見返る三人是は此の世の別れかと思へばいとゞなつかしや家に残りし妻や子は嘸ぞ今頃は帰るか門に立ちつゝあるならんと十二の袖は諸共に乾く間もなき沖の石暫し名残を惜しみしも無常の風は忽ちに船の進行を急がせつゝノウ待て暫しと呼ぶ聲も磯打つ波の音に消えて船は西北に進みつゝ影だに見えずなりにけり斯くて寅吉又吉芳太郎の三人は必ず神佛の加護を祈念し西北の方向を取りて一直線に船の進行を急ぎせしに幸ひ波浪穏やかなれと舟は固是完全ならず楫は折れ櫓はくじけ食物は鮮魚を積置きたれど久しく海上に漂流して穀食を絶ちたるなれば身体は殊に疲労して誰一人の容易に立つものなく只身を舟舷に寄せ掛かりて潮のまにまに流れたり見渡せば蒼海漂茫として水か天の際限を知るに由なく只眼界を遮る者は洪濤放浪の時に白雪の如きあるのみされば三人は誰しも生きるの心なく孰れも命を天に任せて瞑目して死を待ち僅かに船の西北に進み行くを覚ゆるのみにして十日餘も漂流したり(以下次号)

明治二十二年十二月二十二日

●無人島漂流奇談拾遺(前号乃續)

澤田寅吉山谷又吉伊藤芳太郎の三人は十日餘も漂流せしも未だに一山の目に遮るなく針路は常に西北の方角を誤らされども陸地の方は何處にあるや果てしもならぬ浪の上二三日漂流して十七日間を消費せて偕て十七日目の日は朝霧濛々として咫尺を弁せず船の進行は何となく方角を迷はんとするの有様にてなりたれば山谷又吉は驚きて其の日の天気合を見んものと漸くに身を起し折れたる櫓を力として伸び上かり仰いで天の一方を望み雲の通ひ路何つれにあるかを見定めんと遠ち近ちを見渡す内それかあらぬかを見定めんと霧の裡曖昧模糊たるの間に雲か山か定かにそれと知らねども彷彿として一山の眼界を遮れり茲に於てか寅吉は一聲高く山見えたりと叫びたれば残る二名は聞きつけてそれ山見えたるぞ嬉やと一齊に立ち上がらんとしたれど十七日の間絶食後六日目なりしかば足踏みしむるの力なく只展転として相共に身の恙なく陸地見出したるを喜ぶのみ之も偏へに神佛の加護によるなるべしと天を拝し地を拝し只此の上は片時も早く上陸するこそ肝要なれと一念共口協合すれば船の進行も速かに朝霧の裡を進み行けば前山近きが如く又遠きが如く慥かに認む陸地の前方に在ることを其時の喜びは何に例ふる物もなく殆ど狂して又亂するが如く益々船の進行を急がせられたれば暫時にして浅瀬に乗り上げて朝霧も霽れ渡れり斯くして寅吉又吉芳太郎の三人は足に縄を巻きて踏み込べらさるの具となし畢生の力を極めて匍匐して漸く船より下り立ちたりしか澤田寅吉は下船の際誤て転倒股を石に突き懸け三寸餘を負傷せしも絶食疲労の極なるか一滴の血を流さざりしと茲に於て三名は漸く歩して海濱に上ぼり五六間も歩みしか畠ありて女子の稼ぎ居るを見たり即ち食物を乞ふて救助を乞へども言語通さざる様子なれば止むを得ず手真似て其意を知らせしも善く解せるものと見えて薩摩芋を掘り來て焼て三人に与へたり實に一ヶ月目にて漸く食事に逢ひしことなれば其の味の美なること太牢の滋味も之れには如かずと覺へたり臆て充分に食し終りて謝礼として船に積み來たりし黒塗の食櫃を送りしかは彼の女子は痛く喜びし面色にて尚ほ五六個の薩摩芋を与

へたり斯くする内役人と覚ぼしき人來り日本語にて其顛末を問ひ糺されたり其の時の嬉しさは地獄で佛に遭ひし心地せり然るに又其人は重ねて三人に金員の有無を問ハレタリ其の□□又三人は或は此の役人は三人の金錢を貪ぼりて我等三人を殺すものにあらざるかと馴れぬ土地とて□殊更の思ひをなせりされとも包むに由なき場合なれば澤田寅吉は金七圓五十錢を所持なし居るを答へ其の役人の導かるゝ儘随ひ行きしに思の外鄭重の取扱かひを受けたり此地は即ち琉球徳之島にて同地に留まること三日にして鹿児島に送られ同地に滞留する五十日専ら養生に勉めし上にて帰郷せり其の間縣廳に請ひて無人島に残り止まりし人々を捜索の爲め前後三回船を乗出せしも見當らざりしが今四ヵ年を経て二十二年の今日無人島に止まりし人々の不思議に恙がなく茲に再会の日は遠きにあらざれば眞に奇遇・・・・奇遇・・・・不思議の奇遇と寅吉又吉芳太郎の人々は何づれも其の日を待つたれりと通信ありたり（をはり）

（注）本漂流記は前段は明らかに佐賀喜作の語りを聞き書きしたものであろうが徳之島に漂着した奇談の語り部が誰であったのかは不明。此の漂流記は田名部、大畑に永く在住した郷土史家笹沢魯羊が著した大畑町誌、風間浦村誌や宇曾利百話にも取上げられており、それらを総合すると本文に記した注のようになる。

喜作等が上陸した南硫黄島は硫黄列島最南端にあるピラミッド状の火山島で周囲 7.5 Km で切り立った海食崖をめぐらし砂浜は殆どなく上陸は困難。標高 916mとこの列島の中では最も高く頂上付近は常に霧がかかっているという。

この島に上陸した者と別れた六名とは前者が北海道と下風呂出身の船客三名であり、後者が大畑と近くの鳥澤村出身者で、しかも船員三名全員と船客三人であった。徳之島上陸の場面では頻りに三名の名のみがでてゐるが、実際は南硫黄島に漂着するまでに亡くなったのは一名のみであり、徳之島組は六名全員が生存し帰郷したことになる。

大畑町誌に依れば、南硫黄島で救助した漁船は遠洋漁業の鰹釣船であり、廣吉、とらは似合いの年齢であり夫婦となったとのことである。

明治二十三年七月十七日

●勸業博覽會受賞人名

本縣にて第三回勸業博覽會出品者の中褒賞を授與せられたるは左の諸氏なりと云ふ（注：明治 23 年東京上野公園で開催された内國勸業博覽會）

賞等及び出品	住所	姓名
一等進歩賞（海參）	下北郡川内村	金濱 唯八
一等有効賞（馬）	三戸郡名久井村	中村 善藏
全（全）	同郡田部村	田中 兵治
全（全）	同郡八戸町	福田 祐寛
全（全）	上北郡野邊地村	野村新八郎
二等有効賞（苹果）	中津輕郡清水村	楠美冬次郎
全（全）	弘前市一番町	黒瀧 忠藏

全	(馬)	上北郡七戸村	工藤 轍郎
全	(全)	同郡同村	山本松三郎
全	(全)	中津輕郡岩木村	農 牧 社
全	(二番鰯 灰鮑)	東津輕郡三厩村	山田 亀治
全	(海參)	上北郡野邊地村	上野 長助
三等進歩賞	(海參)	下北郡川内村	香嶋藤五郎
三等有効賞	(紫蕨織)	弘前市本町	興 業 社
全	(白紋織)	同市同町	武田 たけ
全	(米)	南津輕郡柏木村	斎藤 正
全	(牧草)	上北郡野邊地村	中澤喜三郎
全	(牛)	同郡三澤村	廣澤 安任
全	(全)	中津輕郡岩木村	農 牧 社
全	(馬)	下北郡東通村	畑中 丑松
全	(全)	上北郡七戸村	盛田重兵衛
全	(全)	同郡三澤村	廣澤 安任
全	(繭)	弘前市在府町	櫻庭 又蔵
全	(澱粉)	中津輕郡清水村	佐藤喜一郎
全	(全)	弘前市本町	武田 庄七
全	(鎌)	同市土手町	農 具 會 社
全	(灰鮑)	三戸郡八戸町	富岡新十郎
全	(花折昆布)	同	同人
全	(帆立貝柱)	東津輕郡青森町	澤谷三次郎
全	(二番鰯)	同郡三厩村	蝦名文三郎
全	(鰯 ^ノ 粕)	上北郡横濱村	畠中 幸八

明治二十三年八月六日

●歸廳 雇斎藤惣太郎氏には七月二十八日東津輕郡宇鐵まで潜水器使用鮑採取の實況觀察として出張せられたるが八月四日歸廳せり

明治二十三年八月三十日

●農商務省技手山本由方氏

去る二十八日を以て農商務省技手山本由方氏には西津輕郡海岸を巡回せらるゝ筈なれば同郡深浦村漁業組合支部取締廣田群一氏を初めとし漁師總代若干名有志者數十名は之を好機とし水産上の質問をなし大に其の道に覺悟あらんとして去る二十五日同村尋常小學校内に集會をひらき右諮問案を決定したりと

●八戸通信(二十七日發)

○不漁 本年は八戸近海にて鰯漁甚だ薄く漁民の困難申す許りなし四五日以前には上北郡大北通折笠邊にては一日二百駄若くは三百駄位漁ありしとのことなりされど其他には一向漁なく米穀不廉の際漁民の困難思ひやらるゝ次第なり右の次第につき去る十九廿日の両日八戸普善教会の僧侶等白銀に於て漁祈祷及大供養を施行したるに老若男女参詣人殆ど人山を築くばかりなりき元來此數年來不漁續きにて本年も引續き不漁なるに此儘にて打過ぎなんには漁民の窮迫益々甚だしかるべし別けて北海道も本年は不漁の由にて八戸近海より罷り出でたる出稼人等も路用を得たるのみにて漸く歸村せし次第なれば單に當地近海の大漁を楽しみ居たるに斯く不漁なるには皆々困却し居れる有様なりされば當地方の金融不通も多くは此不漁のためならんと思はる

明治二十三年九月二日

● 技手山本由方氏と鮑漁

西津輕郡深浦村沖合十數里を隔て「久六」島と云へる小島あるが近頃同村有志者が該島邊に鮑の夥しきを發見せしを以て之を漁獲せんと欲し最と熱心に之が方法を考慮し既に該島を發船せんとするの際幸ひに今般農商務省技手山本由方氏水産改良の爲め當地へ出張せしを以て有志者が此の機を幸ひとし随行員縣雇齋藤惣太郎郡吏大瀬與三郎漁業組合本部員一戸正夫水産學校卒業生今周之丞同村有志者上田應之助柿本善七齋藤岩太郎齋藤長太郎金澤甚助有馬勇之助伊藤與七郎山本龜之助松本留次郎の十四氏去月二十八日午前二時同港を出帆午後二時「久六」島へ着該島周辺に住む鮑を漁獲するに其の貝の大いなる径六七寸程ありて甚だ美其の種類は「マダカヒ」のみ最も多しと云ふ尚ほ浴く其の周辺を測量して同日二時該島を立ち去りしが二十九日午前1時深浦へ帰り山本技手及縣雇郡吏本部員の四氏は去二十九日朝大間越へ向け陸路出立せり又三十一日同技手には實業的演説を爲す筈なりとかゝる事なれば同地有志者は愈々機械にて右鮑を捕獲することを縣廳へ請願するとて二十九日集合して協議会をひらきたりと云ふ

○又 山本技手の同島沖に於て海流の方向を試験せんが爲め硝子瓶中に書面を入れ投流せし由なるが右書面を拾ひたるものは山本技手の名を以て農商務省へ報知を得たき爲めなりと云ふ

明治二十三年九月三日

● 上北郡沿海の鰹漁

上北郡および三戸郡の沿海は往古より鰹漁の盛んなる場所にて去る明治十四年の頃までは其漁網數八十統餘に上り其收穫も年々十萬石内外に下らず品位亦た上等なるを以て上総九十九里濱の鰹粕に次ぐの名聲ありしに逐年海岸に沿ふ處の山林の樹木を濫伐せしより自然山麓欠損して土砂を海中に押流したために緑を湛へたる深淵も終に砂漠となり又は浅潭に變ずるを以て鰹魚は舊來の如く海岸に沿ふて郡來する能はず皆遠く沖合に去るにぞ従來の魚網にては短小にして漁獲するの便を得ざりしかば漁業者一同大に之を憂へ漁業の改良を希圖し一の組合を結びたれど如何せん資本乏しくして其目的を達するに至らず随つて近年に至りては益々不漁を極め漁業者は彌々貧窮に陥るの慘状を來たせしより上北郡三澤百石兩村並三戸郡市川村等の漁業者一同

は茲に大に奮発し別に北濱漁業組合なるものを結び資本家を得て改良の目的を達せんとて本縣廳に具申し資本供給者を得んとせしかば縣廳に於ても豫て憂慮し居たる折柄なれば三井物産會社函館支店に資本貸与の議を協議せし故全會社は之を諾し本年より右組合に資本貸与の契約を取結び既に數千圓を貸出せしよしにて目下漁業着手中の處追々収穫もありし故組合漁業者は大に喜び漁網仕入れの爲め該組合總代は昨今函館に至り目下買入れ中なりと右總代某の話なりとて或る人の云ふを聞くに該組合の漁場は凡七里間に連続して網敷は本年着手の初めなる故五十統と定め其資本金は五万圓の見込みにして又収穫の絞り粕は一旦函館に送りし上再び内地の需要地に輸送するものなりと内地の収穫品にして内地に販賣するものなるに拘らず斯く函館を経由するのみならず内地漁業者が需要すべき漁具等も皆な函館にて購入するが如きは是れも当地方水産業發達せる一現象と云ふべく有志家の着目ありたきことなり

明治二十三年九月十一日

● 技手山本由方氏

曩に西津輕郡海岸地方を巡回し居たる農商務省山本由方氏には去る四日同郡鱒ヶ澤町着翌五日同町高澤寺に於て漁業家數十名を会合し魚類の繁殖方法漁獲方法製造方法等に付き懇談せられ全六日には數十名の有志者申し合わせ懇談會ならびに同氏送別會を工藤富三郎方にひらきたるに縁酒紅燈の間水産上の談話を爲し質疑問答等ありて實に近來の盛會にてありし由

明治二十三年九月二十五日

● 出張 斎藤惣太郎氏は上北郡下北郡兩郡鯉節試験の爲め去二十三日出張せり

明治二十三年九月二十七日

● 魚肥製造高

本縣に於て昨二十二年中製造せし魚肥は乾鯉九千八百八十貫鯉搾粕七十二万八千八百貫鯉搾粕十一万七千四百六十八貫にして之を前年に比すれば乾鯉に於て九千七百七十五貫鯉搾粕に於て一万七千八百三十七貫鯉搾粕において八万二千八百六貫を増加せりと云ふ

● 八戸通信 (二十四日發)

○ 鯉漁 八戸近海の沖合に於ては鯉大漁殊に景氣能く漁師共の喜び居ることなるが此頃の雨天にて一向磯邊に近寄らざるにより掛網(注：地引網のこと)を仕掛くこと相成らすために漁師共の困難も甚しく殆ど糊口に迷ひ居るものゝ如き有様なれば早くも晴天となり西風の吹き渡るゝことこそ實に待ち焦るゝ次第なり

明治二十三年十月七日

● 下北郡大湊村通信

○ 鰯の不漁 當地は七八年以來鰯不漁にて漁師の困弊言はん方なく殆ど糊口にも差し支へる程なりしより先程鰯の沖合に見へしかば漁夫ども大悦びにて夫々準備に取掛かりたりしに過日

來の大風雨にて田名部川の水漲り落ちて波高く海荒れしかば鰯は何れへ吹き流されなん影だも見えざるより漁師益々困難なし居るよしにて其他の魚類も不漁なるよし

○下風呂の烏賊漁 去る三十日の頃なりとか下北郡下風呂村にて烏賊の海面を掩ふて寄せ來たり殆ど水色を見ること能はざる程なりしかば村民は大喜びにて釣り始めたるに一人にて十五樽より二十樽をとりたりといふ然るに之を鰯に製する為め乾製せんと用意なしたるに生憎翌一日の強雨に過半を腐爛せしめれば其投棄したるもの海岸に山を築きたりといふ然し其後ち烏賊漁少なからずといふ

明治二十三年十月十二日

●鰯の不漁

下北郡大畑村にては其重なる物産と称すへきは檜材鰯漁にして同地方人民は是の兩富源に便り例年生計を営み來りしが先年來山林伐材の嚴令に依り檜材の伐高も大に減じたるものと見へ本年の如きは檜材の輸出も大に減少し為めに充分の利潤を得る能はざるのみならず船持の困難云ふばかりなしとの事なり併かし是等は官林盜伐の如き不正の富源禁遏したる次第なれば差まで其減少を憂ふるに足らざるへきも唯同地方至要の富源たる鰯漁は本年稀薄の趣にて先づ不漁とも稱すへき程なりと云ふは氣の毒の至りなりされば其割合を考ふるに本年の収入は十分の一に過ぎざる次第なれば漁師等は何つれも大困却の模様にて眉間八字を描きて説かざるはないと同地通信に見ゆ

明治二十三年十一月二十六日

●漁船の遭難

本月二十一日のことなりとか西津輕郡大戸瀬村大字金ヶ澤長谷川某の船頭となり乗組五人して全日午前二時頃鰯を漁せんか為め全村を出船せるか大戸瀬沖に於て風模様の悪しきため夜を明かしたるに格別風の変動もなかりしを以て再び出帆して八九里を進航し漁場近くなりし頃俄かに大風に遭ひ浪荒く船小さく遂に風浪の為め船体転覆し乗組一同狼狽一方ならざる折しも幸ひ全所に出駐したる同村根上多助及び京名直作外三名の漁船にて船頭嘉四外四名は辛くも救助を得て九死一生の場合を免れたるなるか残り一名は無惨にも溺死せるといふ

明治二十三年十一月三十日

●難船救助

東津輕郡蟹田村平民山岸茂太郎(三八年)は所有小廻船(四間)に乗組同村丸尾由蔵(五一年)兩人と共に流木を積載當港へ輸送せんと昨二十八日蟹田村を出帆し本日午前九時頃當港へ着せし時恰も北の風激しく激浪船を打ち船体自由ならざるより遂に堤川尻の浅瀬へ打ち揚げられ船具流木は全所砂原へ運搬せしも船は正に破碎されんとする勢ありされとも人夫器械等を要せされば引揚ぐこと叶はざる旨當地水上派出所へ申出たるにより派出所にては夫々人夫を備ひ小廻船を引揚げたるに共報酬として茂太郎より金三圓を人夫に送れりといふ

明治二十三年十二月二日

●久六島捕鮑の計畫

東北漁業組合本部頭取土岐八郎氏其他の發起にて過般願濟となりたる西津輕郡深浦村大字鱸作沖合久六島(海岸より十里餘にして航海に苦しむ周圍七里餘)捕鮑の大事業を興起せんと其初めの出願者より譲り受け尤も宏大なる装置を以て取掛かる筈にて右器械買入及び蒸氣船傭人及特約旁々土岐八郎氏は不日上京の途に就くよし

明治二十三年十二月六日

●漁業組合沿革一斑

明治二十一年七月三戸郡上北兩郡の魚粕商相團結して三北魚粕商組合を設け専ら輸出の魚粕を検査し粗製濫造の弊を防せき改良を圖りたるを以て嚆矢とす翌二十二年中同兩郡の魚粕製造人一村若しくは數村協同して魚粕製造組合を組織せしか區域狭小にして充分の改良を見ること能はず依つて同年中双方の組合交互に合併し三戸郡より上北郡三澤村字口淋代に至るまで一組合と為し之を三北魚粕改良組合と改稱し又同二十三年中更らにその區域を廣め上北郡三澤村字天ヶ森迄とし尚規約中實際不都合の条項を更め一層業務の擴張を計るに至れり青森灣に瀕する各村落に於ては明治二十一年中西方東津輕郡平館村より東方上北郡を通し北方下北郡脇野澤村字武士泊至る漁村連結して組合を設け青森灣漁業組合と稱し漁具漁法及製造法の改良並びに水産物の繁殖保護を企圖し同二十二年中其區域を擴張し西方東津輕郡三厩村大字宇鐵までとし其規約を更正し又本年更らに規約を更正し益々進歩改良を圖れり

明治二十三年十二月九日

●汽船の鱻積

西海岸地方にては本年鱻の多獲にして西津輕郡深浦地方にては汽船一丸にて新潟へ向け續々輸出したることは本紙にも掲載せるところなるが去る四日入港の渡島丸には前濱にて又々鱻二百餘を積込み同日午後五時函館へ向け出帆せりといふ

●鰯の初漁

西津輕郡深浦村にては四五日以前より前濱に於て鰯相見へしよしにて漁民一同喜びたるも生憎風浪悪しく思ひの漁獲もなかりしよし

明治二十四年一月二十日

●社説 遠洋漁業と漁船の改良

金融の逼迫米價の暴騰其の及ぼす處の影響や細民路頭に迷ひ一家団欒の樂は化して東西に離散し親は子を捨て夫は妻に訣かれ其の慘状や實にいふべからざるものなりとす試みに思へ客年春來漸次米價の昂騰を來たし融通逼迫して小民為めに苦界に沈淪し辛ふして其露命を繋きたるもの先づ東京を始めとして其他各地方同しく一轍殆と酸鼻の情に堪へざるものありき本縣下に

於ても亦其餘響の波及を受け慈善家の煩惱となり南京米の輸入となり茲に堪べからざるの痛痒を感じたり然れとも其間甚た久しからずして米價の平準を見るに至りたるは不幸中の幸幾多の細民始めて愁眉を伸ばすことを得るに至りたりしなり

天災地變は神ならぬ此の身の固より豫想し能はざる處なれ經濟社會の轉々變化亦た容易く之を先知すること能はざる處なれされば米價暴騰金融逼迫等の恐慌は何時の間にやら此の人事社會を蹂躪し來るものなるや之を確知し其來襲の禍害を被らざることを為すは難事中之難事なり故に先つ是等恐慌の要意をなし救濟の策を講ずるは時至らざるの前ならざるへからず地震洪水の天為的災害は余輩人類の如何ともすること能はざる處なれば敢て余輩の論ずる處にあらず區々たる經濟社會の小波瀾小恐慌のため□□悲劇に呻吟するに至るは殊に慨嘆に堪へざるものなりとす是れ余輩か將に拙口を講じて本縣下有志者の贊助を得んと欲するものなり何そや先つ我が青森縣下の地勢上より考一考すれば水産業の擴張と改良を以て今日の急務となさざるべからざるなり

吾が青森縣の地たるや本邦の北劈頭にして凹字形をなし海洋に面すること百數十里實に天與の水産國にして本邦中多く其比を見ず而して其の水産額如何を見は昨今の多少の差異あるべしと雖も二十一年の調べによるときは其の金額大凡三十四萬三千一百六十一圓に過ぎすかゝる天與の水産國にして其の産額遠く他縣に及はざるは魚介海藻の尠なきにあらずして之を捕獲するの術拙なるに拠る即ち近海の漁撈に止まり遠洋漁業を営むものなきによる斯く遠洋漁業を営み扱漁大なるときは其製造業も従つて大ならざるべからず従つて多數人を要す是□今日の細民をして其業に安するを得せしむるに至る所以なりとす

遠洋漁業は既に之か擴張を謀らざるへからずされは先つ從來使用しつゝある漁船の改良を要す目下使用の漁船は歐米のものに比し其構造甚た粗惡にして巨波激風に堪ゆるの力なく遠洋漁業に適するものなしと雖も他縣人は自ら勇を鼓して遠海に纜を解くもの多し本縣人に至つては遠洋に出るものなく僅かに十數里に過ぎざるを以て其漁する處に至つても甚少額□□故に宜しく漁撈船の改良を促し遠洋業を奨励し其漁額を増加せしむべきは目下急須の事業なりと信して疑はざるなり左は左ながら漁船の改良たるや素□漁業の目的及び海流の異なるあるに依り各其構造を斟酌せざるべからざるものなれば一朝一夕にして容易に之を為し得べきにあらず又仮令これを為し得るものなりとするも其要する處の費用甚だ大にして細小漁民の能く之を弁す得べきものにあらざればかゝる事は獨り東西沿岸幾多漁民に委すべきものにあらず地方の有志者は申すに及ばず當局者に於ても百方周旋焦□苦慮其成功の全からん事を期し漸次改良を施して一大事業を興起し輸出物を増加して我が同胞の豊富を謀らざるべからず又た併せて漁業者の忍耐冒險氣力を養成し風を衝き波を凌ひて虚心平氣更らに屈撓の色なく勇奮大漁を期するの英氣を發達せしむるは漁船を改良して遠洋漁業を営まんが為め缺くべからざるの材料となし若し漁船の改良を為したりとて斯くの勇氣無かりせば又以て無用の者たらん論去論來此處に至り貧民をして其職を得せしめ生計の度を高からしめ經濟社會小恐慌の爲めに周章狼狽するなく益々勉め励んで地方人民多數の福利増進を見るに至らば豈又人間の一大快挙ならずや地方の有志士夫れよろしく熟慮せよ

●漁夫乗載の小蒸気船

例年今頃は當縣より北海道に渡海する漁夫を乗載して漁場に直航する汽船頻繁なる季節なるが近頃は同道小樽近傍より小蒸気船の函館港に來航せしもの多きにも拘はらず約定整ひしは僅かに一二にして他は更に之れなしといふ

●久六島及十和田湖

本縣に於ては水産事業擴張の爲め農商務省技手山本由方氏を聘し昨年八月以降凡そ六十日間縣下各地を巡回し漁具漁法製造法漁船の改良漁場の探究及び繁殖保護の方法につき親しく講話せしが就中最有益の探究は鮑の發見とす管下西津輕郡深浦村の西約十二里内外の沖合に於て久六島と唱ふる一孤島あり此の辺從來同地方の漁業稀に釣漁を爲すの慣行にして鮑生息の有無を探究せんと企圖したるものなれども潮流急劇頗る危険の場所にして其目的を達し得ざりしか今回山本技手は當業者を奨励し全行員及漁業組合役員等と共に一艘の小漁舟に乘し之が探究を爲したるに元來該島の近傍は一面暗礁にして各所果たして鮑の栖息せることを發見したれば即ち「ヤツ」を以て數個の大鮑を得たり其鮑は「マタカ」の種類にして明鮑を製すべき良種なりといふ依つて有志者は尚ほ漁獲を擴張せんがため既に縣廳の許可を得て目下潜水器使用の準備中なり又た上北郡法奥村大字奥瀬の山間に介在する十和田湖は秋田縣鹿角郡に連口せる湖水にして其周圍大約十里餘なれとも從來魚類の栖息せるものなかりしを先年二三の有志者相謀り鯉を移殖せしに良結果を得たりしと尚ほ同技手の調査によれば鮭魚等の繁殖に適すべき見込みなるを以て有志者漸次之が繁殖を計らんがため魚類を移植せんとするの計畫をなせりといふ

明治二十四年一月二十一日

●北水協會報告

北水協會報告第五十九號は客年十二月二十五日札幌區北三条西七丁目北水協會より新刊されたり尤も同協會にては「北海道に漁民を移住せしむる方案」てふ懸賞文を募集中なるが其締切期限は來る二月二十八日迄とし賞金は甲賞乙賞丙賞の三等に分ち一等金三拾圓二等金拾五圓三等金五圓なりといふ

明治二十四年一月二十九日

●難破船

東津輕郡深泊村平民角田平吉所有漁船は去る二十五日午後三時頃鱈八百尾を積み載せ同村を發帆し翌二十六日午前八時頃當地大字安方町海岸に碇泊の場合暴風激浪に吹き荒らされ終に破船せしといふ

明治二十四年一月三十日

●鱈ヶ澤通信(二十五日發)

○輸出水産物價格 昨二十三年中鱈ヶ澤港より輸出したる鯧等の水産物價格は大凡金壹萬六千三十餘圓なりといふ

明治二十四年二月六日

●鯨漁者の準備

最早鯨漁の期も間近ふなりたれば北海道小樽港近傍の漁業者は何れも漁夫傭入の為秋田山形及當地方へ夫々人を派遣し前口使用の諸器械の修繕薪炭を山に求むる程目下頻りに準備中なりといふかゝることにて労働社會の人々は早や同港に入り込み頗る頻繁の模様を相成りしよし

●漁民の困難

上北郡六ヶ所村にては不漁の為出稼ぎする者殆と二百名に達し一人の給額は十八圓乃至二十圓なり斯く漁獲の尠なきより税金未納者尠なからすと

●慈善家の施與

當地大字蜆貝町貧民の情黙視するに忍びずとて當地慈善家大村鶴松氏は客月八日味噌五樽を施與致したりとのことなるが又一昨五日上田幸兵衛氏は白米五俵佐藤龍辯氏は全三俵何れも町内貧民救濟として施與致し度き旨願ひ出てたりとは實に奇特のことにとぞ

明治二十四年二月七日

●鯨漁者傭入の不景氣

北海道各漁場にては毎年旧曆十二月下旬の頃より各地諸方へ向け續々右傭入者を派遣し為めに當地方へ舞込むもの尠なからず旅籠屋料理店當一時一入の景氣を添へ立ていとも賑ひ合ふ事なれとも本年はトント事變はり同道漁業出稼人口入會社より出張する者及びその出稼口人も殊の外尠なく當地旅籠屋を始めとし其他何れも滅切困まりはて居る由今ま右不景氣の原因を聞くに第一鯨魚粕の値段下落し小樽邊にては思ふ儘金の繰り合わせは出來ず今まに三百有余名の滞留者あるよしなるが又た漁場出稼口入者の時々不正の振舞あるも右一原因にあらさるか云々と云ひ囃し居るものありといふ

明治二十四年二月十日

●獵虎の密獵

近來千島近海にて外國船の密獵を行ふは追々増加する模様あるにぞ昨年の夏外務省にては海軍省と謀り軍艦を派して巡邏せしめんとせしが如何せん該近海は海霧の多きが為め軍艦の碇泊するの良港無きを以て一時見合せとなし色丹島の港湾にて嚴重なる取締を為せしが目下同島は結氷の為に封鎖され自然其取締も行届かざるより此機に乗じて外國船は恣に密獵を行ふ由偶ま帝國水産會社其他の漁船の發見することあるも露領にて捕獲したるものなりと詐り甚しきは暴行にも及ぶと云ふ

明治二十四年二月十一日

●水産傳習所生徒募集

東京芝區三田四口町なる大日本水産會水産傳習所にては生徒の欠員あるにより本縣沿岸實業

者中志願の者誘導せられたき旨幹事より本縣へ出願せし由なるが右は將來本縣事業發達上裨益
少なからざるを以て成るべく事業家の子弟たるべき者入學せしむるやう奨励すべき旨當町役場
へ通知ありたるやに聞く元と此の水産事業たるや本縣の適応の事業たるにも拘はらず世人の之
に對する最も冷淡にして或る一二の篤志者團結して東北水産會社なるものを設け専ら該業に奔
走なしをる事なるか實業家自からはその必要貴重なるを思はざるためか漠として進歩の色を見
ず昨年の博覽會に出品したる本縣水産物は十六年の博覽會に比して幾何の進歩をも見ずとは一
般の承認する處である去れば本縣水産實業家の子弟たるべきものはこの機を逃がさず該業を傳
習しその改良進歩を計畫せられたきものにこそ

●水産傳習生募集期日

別項にも記せし如く大日本水産會水産傳習所にては過般生徒募集のことなるが右期日は來る
三月にして志願の者は二月二十八日迄に同所に申込むべき筈なりといふ今ま同所規約の概略を
擧ぐれば生徒を分つて予科本科専科の三となす先つ予科に入り次いで本科に移り本科卒業の後
専科を修むるものなるが其予科入學試験科目は左の如し

本邦地理(地名氣候)(山川位置物産等)

算術(四則応用、小數、分數、比例)筆算或は珠算

講義書取(カタカナ文)

作文(読書、筆跡)

明治二十四年二月十三日

●出稼漁夫

北海道各漁場漁業期も最早や期近ふなりたれば各郡各村よりそろそろ出發し來る十五日頃よ
り當港及び下北郡安渡地方より汽船にて漁夫を載せ増毛、鬼鹿、力屋、利尻、禮文、古平、小
樽の各漁場へ向け直航する手筈なりとの事なり

●小樽港の鯨漁況

過日北海道小樽港は波静かに漁獲多かりしよりなれとも超へて數日海上殊に激浪を起し僅か
に鯨の漁獲あるに過ぎざる位にて一般の漁船をも見ざる程なれば此の時化こそ本年鯨大漁の
前兆なりとの評判にて何れも意気込み居るといふ

明治二十四年二月十四日

●漁場の不景氣

先般書き記せし如く北海道各漁場にては例年と異なり其景氣のよろしからざるため漁夫雇入
者は大抵同地に滞留し居るよしにて未だ各地方へ出發せず唯各地より同道漁場へ向け自費にて
出掛くる漁夫を雇ひ居るもの有り勝なれば従つて相當の旅費を受け取り渡道せんと覺悟せる諸
方の漁夫共には大方ならぬ不便なりと苦情を唱へ居るもの尠なからずといふかゝる目下の模様
にて漁夫雇入者の本縣への入り込む者甚だ多からされば當地を始めとし弘前及其他何處に於て
も一方ならざる不景氣と呟き居る有様なるよしに聞く

●秋田市の出稼人 秋田縣秋田市内より北海道各漁場へ向け出掛けたるもの惣べて二百五十三人にして内女九十六人男百五十七人なりといふ

明治二十四年二月二十四日

●田名部通信(二月十八日發)

○北海道出稼人夫の出發 北海道出稼人夫は昨今大湊より汽船にて續々出發し居れり

○市日の賑ひ 當地へ來着し夫れより大湊へ出立するを以て當地に於て諸品買入れの者多く市中中々賑へり

明治二十四年二月二十六日

●下北郡大湊の賑合

北海道漁場へ向け出稼漁夫出發の爲め下北郡田名部方面は大方ならぬ賑合なりしことは曩きの本紙上に掲載したることなるか今またきく處に依れば全郡大湊は目下陸續出稼人の渡道し居ること故毎日三四艘の汽船出入りありて渡道者は日々數百人隊をなして同港に詰めかけ實に人山を築くの大賑合なりとはいへり

明治二十四年二月二十七日

●六日町の魚市

八戸六日町の魚市は明治十九年頃何かの御都合にて一時廢止となりたりしを同年八戸町除族平民なる奥谷某とかいふ人は同町を魚類販賣場としたき旨同署分署に出願したるに御許可となりたる上に同人が右取締迄なりしか其の後は五十葉一人より一ヶ月金十錢宛三十人にて都合三圓ほど募集して右給料に宛て外に送り荷一個につき二錢五厘と毎日毎日港邊より集まり來る婦女子共の魚策より五厘つゝとか不當の金を取りたること故五十葉共の苦情は申し分なけれど其の向きの御達しとか何とか申すに恐れ泣き泣き取られたり然るに此の話か何時の間にか今回八戸警察署長に轉任せられたる警部さんのお耳に入りたれば種々お取調べの處如何にも不當の取立て方につき警察署よりの御吟味の處事の次第も分りたれば奥谷某を呼び上げ説諭の上にて該願書を返却し其の後は決して取立金致さざる様御達しになりたりといふ右につき漁師の婦女子ともが今の警部長さんを手を合せてその有難を拝み居るとは同地よりの通信に見ゆ

明治二十四年二月二十八日

●鱒ヶ澤小民の困窮

西津輕郡鱒ヶ澤地方にては近來漁獲も左程多からず殊に去る二十一日頃より風雪甚く一時往來途絶へたれば薪炭の價暴騰し小民の困窮思ひやられたりと同地よりの通信に見ゆ

明治二十四年三月三日

●出稼漁夫と汽船

目下本縣より北海道各漁場へ出稼の漁夫續々出發する季節なるか安渡及當港より右の漁夫を搭載して漁場へ直航する重なる汽船は淺野回送店の金澤丸日の出丸鶴丸等なり其他社寮丸小菅丸奈古浦丸外小船數艘にして何れも折り返し航海せり又毎年郵船會社にては各店競争して船賃を下くる故漁夫搭載を手控へたるなりと

明治二十四年三月五日

●深浦鱧漁商人の失策

西津輕郡深浦村柿本某外數名には昨年同地方漁獲の鱧を買ひ占め塩漬けにして新潟丸に積込み越後國に運搬し川中島邊に販賣したるに利益相應になりたれば其の後又々多く鱧を買入れ函館に到り横濱に發電して其の値段を問合せしに至極氣配よろしきとのことにつき直ちに投錨し同地商家に賣買を試みたれと鱧は少しく腐敗の氣味なるより誰一人も對手とするものなく大に失望して函館へ積み戻り莫大の損をなしたる上此頃漸く歸村せりといふ

●薪炭の高値細民の困難

八戸地方は先頃の大雪より村落は一切馬車等の通行なり難く薪炭其の外日用品は僅かに担き荷にて八戸町へ運ひたる有様なればその價平年より三倍も高値となりしが加ふるに昨年米價の暴騰たに下落せざるより細民の困難一方ならざるに八戸町の金満家及ひ豪農商は津輕郡には優るとも劣らぬ事なるに津輕地方は細民を救助すること往々あるに當地は全く反對にて飢餓に瀕するものなるも誰れなりて救助するものなく同縣下にてケ程に人情の違ふものかと或る慈善家の嘆息話

●大畑村通信(二月二十七日發)

○出稼人の出發 鱧漁の甚だ薄かりしたため北海道各漁場へ向け出稼に出掛くるもの前年に比し殊の外多く舊元日より昨今にかけ本村内のみにて殆ど四百餘人中にも天塩國増毛地方へ向け出發するもの尤も多數なりまた移住者も有之よしその出稼労働期は向ふ六ヶ月間にして給金は平均四十圓内外とのことなり

○大畑村の近況 下北郡大畑村は元田名部三町の一にして同郡中田名部に次ぐ繁華なる處なりしが近年は年を追ふて衰微に趣き空家のみ多く出來する有様なりといふ今その理由を聞くに該村には水田凡無く畑とても野菜を植ゆるに止まり物産といへは僅か數人の従事する鱧漁なるのみにて米塩等は凡て他に供給を仰かざるを得ず數年前までは村民は大抵北海道漁業家支配人番頭などの奉公をなし金銭も相應に入りたるか今は昔と打って變り奉公口さへ求め兼ねる有様なれと昔の奢侈仲々止まず村民は該して懶惰に流れ居るものゝ如し今退きて一村収支の點より見れば實に後年の程も思ひ遣らるゝことなれば地方の有志者幸ひに一考あれ云々と同地より通信

明治二十四年三月十九日

●練建網區域の争ひ

西津輕郡大戸瀬村大字關柳田の二村交互に連合して練建網を使用し柳田村と姥袋村との境界

に網張りせんと致したるより姥袋村人民は己等が鯨漁境界に建網を用ひられては一村の不利益尠少ならず投げ棄て置かれたしと大ひに騒ぎ立て去る十三日姥袋村民五十餘名鱒ヶ澤町に駆け込み漁業組合會議員に向かつてその事情を述べ是非とも柳田關両村の建網を放棄せんとの覺悟にて大奮發致し居れりといふ

明治二十四年三月二十日

●鯡の初漁

西津輕郡金ヶ澤方面にては近頃初めて鯡魚の漁なりしが一尾値段三錢五厘なりといふ

明治二十四年三月二十四日

●鱒ヶ澤の初鯨 西津輕郡鱒ヶ澤町に於ては去る二十二日初鯨漁なりといふ

明治二十四年三月二十六日

●水産傳習所卒業生村林石崎の兩氏

兼ねて記載の如く水産業擴張のため本縣より派遣したる西津輕郡深浦村石崎傳三郎青森町村林重治郎及ひ私費生青森町中村利吉の三氏は今回同大日本水産傳習所を卒業したるが尚村林石崎の兩氏は目下東京府魚油蠟製造會社に於て實地研究中なりと今ま聞く處に依れば本縣及北海道より輸出する魚油は重に東京及横濱に売り捌き同所商人は更らに□□を製し巨大の利益を得て外商に売り捌き居るといふかゝること故本縣の如き北海道に近く水産擴張の見込みある好位置に於て一大製造所を設け以て直ちに横濱東京の外商に売り込み乃方法を設けたらんには層一層の巨利を博するを得ん何には兎まれ右三氏は首尾よく卒業して歸縣するに至りなば本縣廳に於いても水産上面目をひらくに至るべし

●鮑捕獲の計畫

西津輕郡鱒ヶ澤町五十番地寄留阿部重郎兵衛(宮城縣)人と云ふは平素漁業熱心家なるか兩三年前より各地を通歴して能くその實況を視察し水産の擴張を同業者等に謀りて信用を得大に為す處あらんとせしか茲に鱒ヶ澤港沖合海底に長さ三四里幅殆と一里許の所謂暗礁とも云ふべきは是ぞ鮑の栖息せるものならんと同氏これを確かめたるより本年より翌二十五年中潜水器を使用し鮑捕獲の儀に付き本縣廳に出願に及び許可になりし上は速に着手すへき處目下鯨漁の期節なるを以てこれを見合せ該漁の終了と共に其の捕獲に着手するの準備中なる由尤も該事業に付ては本縣の水産商及同町有志者の賛成を得しものなれば遠からず成功を見るに至り其の得る處の利益尠なからざるへしと實に悦ばしきことにこそ

明治二十七年一月七日

●鮫地方は烏賊と鰯漁

三戸郡鮫村沿海に於ける烏賊の大漁は此程の本紙上に於て報道せる處なるが其後南濱に於け

る日々の収穫高を聞くに一夜一人に付多きには千四百尾少なきも七百尾位釣上をる由にて何れも皆大烏賊のこととて鰯に製造せんとするも時節柄寒氣の為乾燥する事も相成り難く殆ど當惑の体なりといへるが然し大漁の事なるは生のみにては賣尽くし難きより止むなく氷結するにも頓着せず干方に従事し居る者多しと云へり又前濱にては意外にも舊臘二十三日より鯨の為に油鰯の大寄りとなり白銀港及鮫等にては何れも地曳網を曳き出せしに同日はカッコ船に四五艘宛て取揚げしのみなりしが夜に入りて益々海岸に向け群來するより漁民一同漁火を焚き夜網を掛けるなど之が支度をなせしかど人夫共には寒氣の為に堪へ難き模様なるにつき一先見合わせることになり翌二十四日には午前一時頃より一同出船網張と為し十分に巻き込みをなせしに一番川にて全体に二袋づつ取揚げしが尚ほ他には三袋取揚げたる網の三張ありと夫れより二番川に張りしに是を又一袋或ひは二袋にて皆無のものもありしとなり然るに右鰯汲取中俄然大風雪吹來たりて覆没の危険に遭遇せんとするより折角漁収せし鰯をば投げ棄て人命救助に尽力せしものありて一時大混雑を極めしかども右兩日間に漁獲したる高は殆ど一萬八千圓代と見積もりて誤りなかるべし尤も此の鰯は大抵玉粕に製造すべしといへるが若し干方に充分に出來得るに於ては少なくとも二萬二千圓位の價值は之あるべく為に同地方の漁民には何れも大喜びなりと云ふ

●定期各船の噸數 日本郵船會社の所有にて青森室蘭間の定期航海をなし居る各船の噸數は實に左の如しと云ふ

田子浦丸	五百四十一噸
千歳丸	三百二十五噸
青龍丸	四百五十三噸
松前丸	四百四十五噸
貫効丸	三百八噸

●輸出入物資

一昨日出帆千歳丸輸出物資計千十三個内苳繩三百八十四個鰯二百七個米四十六俵新鱈二百二十五個昆布十七個大豆五十俵蕎麥二十七個昨日入港松前丸輸入物資計二百十四個内鹽鮭八十三個セメント六十個筋子二十四樽生魚二十八個大阪酒五個大釜一個雜十三個

●松江回漕店

取扱の函館丸は去る二日入港陸揚貨物は秋鮭三百石鹽鮭バラ三百石苳包鮭九十二個筋子三十二樽船客四十名全三日出帆積込物貨計六千三百九十六個内鱈二百石米三百石其他繩苳船客七名

●都丸の輸出物資

昨日午前七時出帆船客十一名物貨計百四十個内米四十俵木綿類五十個其他雜貨

●都丸の出帆 南部航海の都丸は本日午後入港明八日午前七時出帆

●船客

一昨日出帆青龍丸上等二名下等六十八名昨日入港松前丸上等六名下等百六十八名

●入港定期船

本日は青龍丸入港午後十時出帆函館寄港室蘭行

明治二十七年一月九日

●漁夫の遭難

北海道渡島國福山惣社堂町小金谷嘉吉（慶応二年六月十五日生）は客月十二月十四日午前十時頃福山沖合に於て建網を置き漁業に従事し居れる際暴風の襲ふ處となりて何處となく押流され遂に本縣下北郡大間村部内牛滝へ漂泊し今や溺死せんとするの有様を當時同地の漁夫沿岸にありて之を認め大いに驚き近地の同僚に告げ相共に尽力して救助せしかば嘉吉も僅かに萬死を免れたりといふ

●上磯沿岸瑣報

○気候 新年に入るや東津軽郡上磯沿岸にては去る四日午後二時頃少しく降雪ありたるのみにて去る五日迄も晴天寒気も意外に緩み流水場の結氷も為に融解して左も正月に入れる心地せられて最も凌ぎ易し

○漁況 最早寒入りとも相成りたれば二ツ谷深泊にても鱈網を止め何れも釣漁に着手し居れるが是も亦好況にて漁夫どもには大に喜び居れり

●鱈漁の様相

先達て左程の漁獲なかりしが此の頃は南部及上磯小湊邊りにて随分の捕獲ありしといふ

●暴風被害

客年十二月四日暴風起り北津軽郡小泊村大字下前にて潮汐の為二十余戸被害を受け破壊せし舟もありたる由なり

●出稼人の証明願

近頃北海道場所の傭主續々來縣し出稼人の渡道の機も近づきたれば例年の通り當地の出稼人には証明願を得んと即今町役場に至るもの數多なりと

●穀物相場

此の節青森町の穀物相場は古一等白一石八圓八十錢、全二等白八圓五十錢、全三等白八圓十錢、古玄米一石七圓九十錢、次七圓七十錢、新白一等八圓三十錢、全二等八圓十錢、新玄米一石一等七圓三十錢、次七圓二十錢、糯白米一石九圓八十錢、大豆一石四圓七十錢より四圓八十錢まで、小豆一石六圓二十五錢より六圓五十錢まで、蕎麥三圓十錢、赤粟上七圓、白全六圓五十錢、大麥三圓七十五錢、小麥六圓五十錢、小糠一貫目八十錢、黒平豆大粒六圓五十錢、大角豆九圓五十錢、豌豆五圓より空豆六圓、黒胡麻十一圓五十錢より十三圓までなり

●東京米價電報

昨日東京米價相場電報は先刻八圓五錢にて段々下落の様相あり

●蜜柑の相場

目下青森に於ける蜜柑の存在高は殆ど一萬箱以上なるが近頃の悪路にて運賃昂騰せるより兎角遠地の需要に應じ難き有様なり尤も新年以來少しく廉價の気味なるも來る二十日頃に至り出稼人夫渡道の際と相成るに於ては自然景氣を添ふるに至るべしといへり尚ほ目下の處にては上物は少なく定價は一箱に付上等五十錢より五十二三錢まで中等三十七八錢より四十二三錢迄下

等三十錢より三十二三錢迄なりと

明治二十七年一月十日

●出帆後行衛不明

下北郡大湊村大字大湊平民山本金次郎（四十年）全人長男金三郎（十八年）全村傳次郎長男川村由蔵（十八年）の三名は客月十二月十四日小廻船へ木材を積み大湊より青森へ向け航海中暴風に遭ひ脇ノ沢へ寄港同二十一日當青森へ着き更に白米、味噌、石油其他雜貨を積み出帆同二十三日大湊へ寄港再び出帆せしが其の後の行衛は今に不明にして搜索中なりと

●輸出物資

昨日出帆青龍丸積込計三千百五十八個内蕨二千三百十九個柏木皮百三個礮石百一個新鱈五百八十個雜貨五十五個千歳丸輸出物貨四百五十七箇内蕨百十個生鱈八十三個空罐五十個米六十俵大豆四十俵雜百十四個

明治二十七年二月一日

●都丸難船を救ふ

少々舊聞に属すれども報道に接したるは昨今日なり去月二十三日東津軽郡油川村津幡福太郎氏の所有下北郡斗南鑛山の雇船たる都丸には下北半島に向て航行中夏泊岬の大島を距つ五海里の邊に於いて其日の十一時頃小廻船の風雪に苦しみ居るを見て救助に尽力し乗組員二名を助けしが此者は三厩村字増川の鶴谷乙吉外一人にて鶴屋の持船に鱈千本を積み青森に向ひたる途中にて西南風に吹き流され困難せしものなりぞ斯くて其船を引留めんと船員一同尽力せしに風波益々激しくなりしより止むを得ず直ちに脇ノ澤に向て進航せしといふ

●輸出入物貨

一昨日出帆青龍丸輸出物貨計千八百八十七個内蕨繩千三百三十七個菜種三百個米五十俵昆布二十個雜百八十個昨日入港千歳丸輸入物貨計九百六個内蜜柑六百五個石油七十三個函生魚八十一個吹生魚七十三個鹽鮭二十一個雜三十一個

●康安丸

小藤松江扱回漕店の康安丸一昨日出帆積荷八百四十個船客十二名本日入港午後十時出帆の筈

明治二十七年二月二日

●青森町の商況

○米穀 舊曆正月に間近かくなりし為め各在より續々輸入ありて為めに十錢下落を來せり又南部米も益々輸入有り尤も従來當節に至りて北海道鯨場出稼人食料として當地より直ちに買上げ輸出せられ居りしが本年は盛岡地方へ直買に出掛け居れり

○魚類 は正月に近付づきし為め景気好し釣鱈は不足の為め高値となりて一本の價六錢五厘

○繩蕨 は北海道鯨場より注文により例年の通り気配好し

○鑄物 為替相場一定せざる為め高價となせり尤も夏季頃に至れば下落すべしと和鋏に至りて

は殆ど二割の高價を呈せり

○石油 は横濱港へ輸入の見込ありし為め随つて當地も安値の模様を呈し來れり

明治二十七年十二月六日

●風帆船の難破

客月二十九日午前十一時頃北津輕郡脇元大字磯松海岸へ風帆船漂着せしに依り警察官二名出張し村長立會にて檢視をなしたる由なるが船体は散々に破損し居るとのことなるが同船は函館西濱町三十九番地平民石光龜太郎の持船にして船長は山口縣周防國大嶋郡戸田村十八番地平民中光兼蔵（三十七年）外に乗組水夫五人あり船名は航安丸と稱し長九間巾一丈三尺十九噸積にして客月八日石炭六百五十個を積込み室蘭より出帆して函館へ寄港し全二十六日函館を出港して松前郡吉岡に立寄り全二十七日吉岡を出港し秋田縣能代へ向け航行中斯く難船に逢ひし由にて乗込員には幸ひ異常なく又積込居りし石炭も大抵陸上をなしざれば陸揚せし石炭丈は全村内の人々へ賣渡の約束整い既に船主其他へ電報を發しされば返事の有り次第陸路出發渡函の積もりなると云ふ之も又船舶不足の一結果ならざるか

明治二十七年二月八日

●青森町の商況

○鱈 不足なるも値段には別に變りなし

○鯨 函館港に於て近年稀なる大量にて鰯網にて二日間に殆ど千七百圓代位漁獲せし由なり右に付當地へも續々輸入せられ居りしが價は石油箱へ二百三十尾入にて二圓なり

○繩蕨 は五錢口下落せしも引續き輸出

○魚類賣高 昨年は一昨年陰曆詰より殆ど二割半位賣高は劣れり

○鹽鮭と筋子 鹽鮭は下落せり一尾に付九百目廻十七錢七百目廻十四錢筋子は八貫目入壹圓五十錢より壹圓七十錢までなり

●小賣商人の準備

來る十一日頃より出稼人夫等には夫々北海道へ渡航することとなるが右に付濱町邊の小賣商人には蜜柑を初め其他人夫等が需要の物品を買込みて之が需要に應ぜんと目下最中準備に着手し居れり

●松前丸の航海期限

日本郵船會社の松前丸は本月二十日にて航海期限を失ふ由にて近々中には一先づ横濱に至り又々許可を得たる上にて回航し來るべしと聞けり

明治二十七年二月二十一日

●岸上技師の巡回

前号の紙上にも記載の如く農商務省技師岸上鎌吉氏は本縣技手今周之丞氏と共に本日より下北郡巡回せらるゝと

●東津軽郡の戸数人口

總計 戸數一万二千五百二十九戸人口七万八千四百五十六人

内譯省略

明治二十七年十二月二十三日

●北海道出稼人取扱所の縁起及現況

弘前市に初めて北海道出稼人取扱所の設けありしは明治十二年にして同市鍛冶町櫻庭八五郎氏が貧民救助の一手段として増毛、利尻、留萌三郡の建網漁業者両三名と結託して同所を設けたるを濫觴とす其後明治十七年に至り小山内口氏は城西部に全取扱所を設け次で二十一年福永豊吉氏城南部に同扱所を設け二十四年工藤喜太郎氏亦之を設け二十五年平野敬太郎氏同所を城東部に設けたり現在に於て之が取扱を為す者右の五個所にして同市其他の郡村より北海道に出稼する者は右の五個所の内何れかの手を経ざる者殆ど稀なり而して五個所の取扱所に於ける本年の取扱人数を検するに總數五千二百人にして其出稼先は鬼鹿方面は千五百人、苫前方面は七百人、増毛方面に千人枝幸方面は五百人、島牧方面に千二百人を出せり右五個所の内取扱人数の多きは櫻庭八五郎氏第一、福永豊次郎氏第二に居り就中櫻庭取扱所は同地に信用あるを以て同道中七十名餘の建網漁業者は其得意先にて年々櫻庭取扱所より出す人数は八九百人を下らず時に千人以上四五百を出すとあり、然して其取扱方法は出稼申出人ある時は豫め其身分を調べ業に堪える者なりと認むれば之と約條を結び成るに及て雇主なる漁業家より之が給料を前借し其金は身元慥かなる資産家に貯入れ其当人が出稼を畢り歸る迄には多少の利子を附する事とし若し出稼人出稼中に逃亡又は不都合なる時は該金預り金を以て其の責任を果すものにて取扱所中櫻庭氏の如き信用ある者に大概右金の預かり方を依頼さるゝなり而して取扱所が出稼人より受取る手数料は出稼人給金の五分を定規とす出稼人の給金は一漁期に於て下等二十圓より上等三十五圓其他船頭と稱へらるゝ者の給金は五六十圓乃至百圓以上もあり故に數年間引き續きて出稼を為す人々は富有の者も多く就中弘前取扱所の出稼人は何れも戸主或は一家を有する者又は其子弟にして彼の函館取扱所の出稼人の如く零落の餘當座凌ぎに申出る者にあらず大概之を以て家業と為す者のみなるが故北海道雇主の信用特に厚し之漁期ごとに五六千の出稼人を出す所以ならん又毎年來春の漁期に出稼せんとする者は其の年十一月頃に取扱所に申出で寄留等の手続きを為し來れるに本年は日清事件の爲め軍用人夫となれる者も少なからず特には戦争といふに懼れを為してか本月に入るも未だ充分の申込なきにより來春の出稼人給金は昨年の一割乃至一割半以上の増給を見るならんと云へり

明治二十八年一月二十七日

●漁船の難破

去る二十三日の暁天鯨ヶ沢の海上浪静かなるに実に近來稀なりたれば漁夫共には我先にと漁船を出して烏賊釣に出掛けしが頼み難きは冬の空午前十時頃に至りて俄然暴風に雪さへ交えて吹き荒むことのいと甚だしければ向か□堪まらん數十の漁船は悉く離散して風のまにまに吹き

流され帆も櫂も櫓も今は何の用をか為すべき或は転覆するあり或は船を打捨てて大船に乗り移るものありて九死に一生を得て大船に救助されたるものは七八名ありしが幸にも一里許りの沖のこととて人命に怪我もなく何れも七里長浜に漂着するを得たりといふ尤も昨年の今頃は全海上に於いて鱈釣船の暴風に流されて数多くの人を殺せし事もありしが漁夫の困難想ひやられていともあわれなり

明治三十九年十一月十八日

●難破船漂着

北海道檜山郡江差町大字津花町二十五番地末田熊五郎（五十）といふは船員岡田亀次郎（二十八）氷見由五郎（二十五）生地栄蔵（三十一）の三名と共に本月一日午前八時頃全町田菊治所有西洋形帆船吉徳丸に乗組み秋田県土崎港へ航行の目的にて出帆したるが翌二日以来の暴風に遭遇して難破し船鑑札及破損の船底は西郡車力村大字豊富海岸に漂着したるも乗組員一同は行衛不明なりとて目下沿岸各警察にて捜査中なりと

●遭難清人の引渡し

既報の通り成田警部保護の下に遭難清人船長以下十四名は去る十五日の汽車に横浜に向ひたるが一昨日午後七時無事到着全地駐割清國領事に引渡しを了したりとの電報昨日其筋へ達せり因に成田氏は本日帰廳の筈なりと

明治三十九年十一月二十一日

●漁船の転覆

當市蜷貝町塩谷豊吉といふは二男藤作及全町田名部福松と共に去る十三日より漁船に乗込み東郡蟹田村大字中野泉清作方に止宿全村沖合に出でて鱈漁に従事中去る十九日午後五時頃より再び出漁したるが十一時頃となりて俄然東風に変し激浪山の如くなり為めに帰港する能はず天明を待ちて中師川尻に入らんと一夜流され居り二十日の朝七時頃漸くにして船を川尻五六間の處に漕ぎ着けたるも此時大山の如き激浪來たり船を打ちたれば船は其まゝ転覆し前記の三名は海中に転落せり而して福松のみは辛うじて陸に泳ぎ付たれど豊松及藤作は沖合に流されアナヤ溺死せんとし居る際折能くも全所に居合せたる蜷貝町大坂藤太郎外三名が斯やと見るより豊吉を救ひ上げ上陸せしめしが藤作は愈々沖合に流され居れるにこれまた天運幸ひにも市内蜷貝町塩谷實吉外七名の乗組める船に見出されて救助を受けたるが藤作は船より落下せし際船体に頭部を厭と云ふ程打ち人事不省となり居り應急手當の上出町医師の治療を受け居るも未だ恢復せずといふ

明治三十九年十一月二十二日

●漁夫雇入の資金と銀行

北海道漁業家の來青のことは既報の如くなるが例年來青する漁業家の數は一千三百名より一千六百名の間にて是等の漁夫雇入れに要する資金は大抵小樽札幌函館東京大阪名古屋地方より

送金し來たるものにして例年當市各銀行を通じて百二十萬圓乃至百五十萬圓を下らざることなるが本年も本月下旬より來年二月上旬まで約二カ月間にて該金額を送金し來たる事なれば夫より當地銀行も當分同金額の拂ひ込みにて頗る繁忙となることならんか片為替一方にのみ偏する為め是が拂渡しに要する資金も大抵二十萬圓内外の金額は用意しあるべしと雖も何にせ各漁業家は一時に來青するものなる為め銀行資金乏しく且つ手詰まることあり夫れが為め空しく兩三日も滞在を餘儀なくせらるゝことあり就ては銀行に於ても餘程注意を為さざれば獨り漁業家の不便不利益のみならず延は銀行業者の信用を損ずることゝもなるべければ此の際注意の上從來の如く不便を來たさざることを望まざるを得ずとは某漁業家の談なり

●海岸埋立

當市安方町共一舎回漕部に於ては本年縣廳通上海岸に大倉庫二棟を建築したるが福田組敷地に隣り共一舎敷地の欠壊せる箇所多數あるを以て明春早々全海岸敷地の埋立を為すことなるが大時化の際は通船位を繫留し得べき突堤をも築く計畫なりと

明治三十九年十二月七日

●漁夫輸送の船舶

例年當港より北海道各沿岸地方に向け漁夫の輸送に要する船舶の數は毎年約六萬噸内外なりにしに當春樺太漁場の開始と又更らに舊夏全地沿岸に新漁場の開設されたる為め輸送船舶著しく増加し明春使用すべき船舶は九萬噸を下らざべく函館小樽地方の船舶所有者及び大坂神戸新潟土崎越中地方の船舶所有者は既に夏期より右輸送に回航をなすべく運動中にて當港回漕業者なる海運組、磯野回漕部、青森回漕合資會社、共一社、海陸運送社、堀谷回漕店、桂井回漕店等に船舶の回航を求め申越し來たるもの多く其の數已に百數十艘の多きに達し居る由なれば何れの船舶所有者も右積取輸送には専ら望みを囑し居るやにて來たる十日頃より前記各地方の船舶所有者を初め函館小樽岩内地方の回漕業者は續々來青各回漕業者と共に夫々積取約定の運動に奔走すべくされば漁業家來青と共に壹週間以内には頗る回漕業者に活気を呈するならん

●食鹽の大輸入

磯野扱の神幸にて安方町池野商店に全食鹽六千俵濱町藤林商店に全二千七百五十一俵米町鎌重商店に全五千俵濱町三圓商店に千俵昨日三田尻より輸入せり

●石炭入津 磯野扱の神幸丸にて九州大浦より石炭二千六百噸昨日入津せり

●石油の入津 昨日港の振洋丸にて當地石油商同盟組合にチャスタ勝利取合五十二箱輸入せり

明治三十九年十二月二十二日

●各地の暴風被害

去る十九日來の暴風にて海陸の被害尠なからざる由なるが其筋に報告ありしは如左

▲一本木の被害 東津輕郡一本木村長より同郡長への電報に拠れば十九日來暴風の為家屋の被害最も多く其の他の被害も尠なからざるも幸ひに人畜に死傷なしとありしよし全郡にては直

ちに被害戸數竝に救助の必要あるや否やを電報にて照会したり因みに当局者の談に拠れば全村は海岸に沿ひたる家屋多ければ暴風にて激浪の為被害なるべしと

▲水雷艇及び汽船遭難 下北郡大湊發青森航行の全要港部並田名部港出帆青森回航陸奥灣丸の二艘は十九日暴風激浪の為航海できず為に辛うじて川内港に避難し機関部に少しく故障ありしも差たる事なかりしと尚ほ郵船会社及び社外船にも出帆見合わせたるものすくなからざりしと云ふ

▲三本木の被害 上北郡三本木村にて屋根の剥ぎ去られしもの十一戸其の外板塀等の被害すくなからざりしとの報告あり

▲金木村の損害 便所の転倒其の他本家倉庫屋根の被害多数尚ほ板塀雪囲等の被害もすくなからず目下損害等に就いては取調中なりと

▲漁船の難破 下北郡大間警察署よりの電報に依れば去る十九日東津軽郡蟹田村の者一層の漁船に九名乗組み陸奥灣に於いて漁獲中午後六時頃暴風浪の為押し流されて佐井村沖合に漂流するや俄然数丈の大波に遭遇したれば何條堪るべき該船に木の葉の如く破壊し乗組員九名何れにも行方不明なりしを全村民の発見する処となり直ちに救助船を出して救護に尽くしたるもただ一人救ひ上げしのみにて他八人は未だに行方不明なりとさらば大間署にては村民を督励し目下搜索し居る筈

▲八戸の暴風 去る十九日昼頃より時ならぬ暴風来たりて夜に入りて其の勢い益々猛烈を極めたり翌二十日尚ほ止まずかてて加えて寒冷身に沁み渡り兎角天候不穩の状態なり

▲十三村の大火 一昨午前四時西津軽郡十三村に出火ありし折柄暴風のこゝとて見る間に二十戸消失し目下原因損害等に就いては取調中なりとの電報其の筋に達せり

明治三十九年十二月二十五日

●豊山丸の沈没

北海道留萌郡五十嵐億太郎氏所有汽船豊山丸は十九日午後二時石炭三十余噸を積み留萌を出帆し小樽に向かひて進行中その船足の進むに従ひ怒濤狂乱益々激しく殊に咫尺を弁ぜざる降雪さへ加わりたれば総噸六十噸の小型船のこととて船員奮闘防御も遂に山為す怒濤と戦ふの力尽きて無惨にも増毛沖合にて本船は沈没し畢んぬ本船には一名の船客ありたる他積荷は前記の石炭のみにて乗組員は船長乙種二等運転士塩谷七〇郎(四一)機関士小池其他八名にて十一名全部行方不明なるが冬季の暗夜にて溺死を認むるの他なかるべし

●漁民の遭難後報

去る十九日午後六時頃下北郡佐井村大字全字黒岩と称する海岸に一艘の難破船あり乗組員九名の内一名を除き八名は行方不明となりしは本紙既報の如くなるが今其の詳報を報ぜんに東郡蟹田村大字石浜字深泊赤平善五郎(二八)外八名は当日漁船に乗組み鱈量の為め全郡平館村沖合へ出漁したものなるが午後一時頃漁業中暴風に遭遇し為めに自由を失ひ漂流せしが全四時五十分頃佐井近海に吹き流され遂に船体転覆し全部行方不明となりしを全村民救助の結果善五郎のみ救助せられ左の八名は未だに不明なりと

角田惣之助、川村要助、小川男治、角田三之丞、赤平要太郎、赤平清次郎、赤平又五郎、外一名は不詳

因に右と同時に出漁したる全村の小川金次郎外の七名乗込の漁船も何處に漂流したるか未だに行衛不明と云ふ

●風雪と汽車

十九日來の風雪は昨日に至るも尚ほ止まず為に汽車は屢々延着し一昨夜奥羽線の終列車の如きは昨朝二時頃漸く到着せり

●昨今の天候と社外船

先日來の暴風雪にて時化の為め社外船は非常に延引既に五六日間も入港せざる船もある由なるが又壹兩日前當港を出帆せる汽船にて平館沖に碇泊し居るものもある由されば壹兩日中天候の風次第續々社外船の當港へ入港を見るに至るべし

●八戸の暴風と損害

去る十九日の八戸に於ける暴風の為八戸及付近の屋根其の他の損破頗る多かりし由なるが之が損害約八百円なるべしと又當日の暴風の為湊街道八戸より下り左にある有名なる二本杉の一本は倒れたりと

明治四十二年一月六日

●遠洋漁業の成績

本邦漁業の發達は頗る著しく殊に日露戦役後の沿海州カムチャツカ樺太方面における漁獲高は非常に増加したるが某遠洋漁業會社側の統計に依れば同方面昨年度の漁額左の如し

カムチャツカ東海岸	鮭鱒漁額	二万	石
同	西海岸	九万二千	石
ニコライスク	秋鮭	三万八千	石
同	夏鮭	六万	石
同	鱒	四万	石
樺太	鮭鱒	二万七千	石
エトロフ	同	二万	石

鮭一石は六十本鱒一石は百四十本也

即ち合計三十一万七千石にして此の見積価格約三百五十六万圓なり

●鱒は不漁

舊臘以來の下北及前濱における鱒漁は一寸好漁の有様なりしも其の後絶えて漁獲なく網漁は全然不漁に終はり昨今日よりぼつぼつ釣漁に着手したるが之とて思はしき模様なければ今期の鱒漁は近年稀なる大不漁に終はるならんと云へり因に記す下北地方の不漁に反し北海道は非常に好漁の由にて東京地方に多數輸出あるため値段は著しく暴落したれば當地は値段不引合にして昨今遠方手合せは見合せの商状なりし

●練漁場の賣却

北見國宗谷郡宗谷村海面東外第三十九號及び第四十號の二ヶ鯨場所所有主渡島國松前郡吉岡村船木順作より當市安方町太田佐馬吉氏に賣却方依頼せられたれば希望者は全氏へ申込むべしと尚都合により貸付くるも差支えなしと云ふ

●難破船(死傷あり)

稍々舊聞に属すれども去月二十四日午後三時頃上北郡百石村字川口沖合約百二十間の處にて全村川口官治外九名は難船し内二名輕傷を負ひ一名上北郡百石村堀切川堀川福松(三四)は終に溺死せり

●生魚出來値

昨日上磯今津方面より安方魚市場に入荷せる生魚出來値段は金頭一尾二錢二厘鱒壹本十五錢青鱈一貫六十五錢なるが近來は薄漁の爲め入荷至って小數の模様なり

明治四十二年一月七日

●漁夫備入に就て

北海道及樺太地方漁場に於ける漁夫雇に就ては嘗て記せる處ありたるが實際北海道及樺太の兩漁場は客年の大不漁にて漁業家の損害を被りたる者多大なるに續て金融逼迫の影響を受け一般に本年の漁場仕入に困難し居る有様なれば之が為小資本の漁業家は倒産或は漁業を見合せ又重なる漁業家にも仕入方を縮小し宗谷枝幸地方の如きは昨年大不漁の結果本年は大抵休業の模様なり而して舊臘以來當地方に漁夫備入の爲め入込みある漁業家には既に七分通り雇ひ済みの由なれど例年は漁夫給金一人につき平均三十二三圓なりしも昨年の不漁に續き本年は諸物価下落の結果又是迄北海道及樺太漁場に凡そ四万人近くの漁夫を輸送することなるも本年は斯くの如き事情よりして七八千人減少する次第なれば随って本縣の經濟上にも非常の影響を及ぼすことならんと云へり

●漁場材料仕入に就て

別項の如く北海道及樺太兩漁場に於ける漁業家は不漁に連れ金融逼迫の影響よりして本年の仕入非常の困難を來し何れも小樽に於いて資本の調査に苦心し居るも思はしき結果を得る能はざる模様なれば是迄多く當地方に於て仕入たる荒物及米穀等の如きも自然小樽より供給するの有様なれば本年も當地方より輸送すべき荒物及米穀は殆ど半額位ならんと某漁業家は語れり

明治四十二年一月八日

●海扇濫獲に就て は是迄數回□□□□□□□□□□□□□□□□で散見せる海扇の小貝は多く東津輕郡野内村大字野内沖合にて捕獲せるものゝ如く現に全大字には十四艘の海扇採捕船あり毎日午前二時頃出漁して午前八時頃帰□し夫れより荷馬車にて一先東津輕郡油川村へ輸送し全村に於て調製の上浦町驛を經過して横濱地方へ輸送し居り而して其の一分を當市方面に來たり賣却し居るものなりと云ふ其筋の檢舉望ましけれ

●鮪漁場の拡張

下北郡に於ける山崎卯之助氏の鮪漁場は從來七ヶ所なりしも本年は更に三ヶ所を増設せるこ

ととなり昨日共一社扱ひの天晴丸にて尻屋、尻勞、白糠の三漁場に向け荒物二千五百個白米二百六十俵味噌二百二十樽を輸送せるが遠からず第二回の材料を輸送せる由

明治四十二年一月十日

●海扇の濫獲

△蜆貝沖合の海扇貝

△當路者の取締緩慢

陸奥内海及び上北下北に濱せる太平洋方面に於て驚くべき海扇貝の蕃殖あり目前の小利に幻惑して禁令を犯し沿海漁民の之を濫獲するもの在所に尠からざる由は是迄屢々報道し以て其筋の注意及び一般漁民の反省を促したること一再にして止まらざるが今當市蜆貝町の一老漁夫に就き聞く處に依れば全町沖合に蕃殖散布し居る海扇貝は未だ多く二寸を出でざるも殆ど無尽蔵にして或る部分の如きは海底悉く是海扇貝なるの有様なれば今兩三年も海に置き其の成長を待ちたらんには優に三十萬圓餘の漁獲はあるべく全町は此の數年にして大豊漁に潤ふべきに昨今鱈漁獲の絶無なる為め背に腹は替へられず窃に法令を犯して禁令の三寸五分以内のものは扱て措き二寸未滿の小貝をドシドシ採捕し前號記載の如き手段を取りて一先之を東郡野内村へ輸送し夫れより他地方へ轉々せしめ居るが斯く採捕の虞ある場合には魚介と雖も自己同類の棲息場所を變更するものにて殊に海扇貝の如きは一夜にして全部他の海底へ移棲する場合尠なからず心有る漁夫等の甚だしく之を心痛し組合を設置し違反者を厳罰すべしとの説を為す者もなきにあらねど何分之が檢舉告發に任ずべき當路者の処置至って手緩き極みなるより目下如何ともなし難く町民全体の將來の巨利をば今日に於て而も縣令犯則者の為ミスミス蹂躪せらるゝをいたく遺憾に思ひ居ると云ふ

●海扇濫獲檢舉續々

東郡小湊警察署にては去る十五六日左の如く檢舉其筋へ告發せり

△東平内村字清水川漁師船橋多七(三六)船橋弟造(一八)山口仁三郎(一七)同村狩場澤戸田三郎(一六)の四名は十五日午後八時三十分西平内村字土屋字浪打に於て石油箱入れ五個半採捕せり△中平内村大字沼館船橋口松(三六)同村濱子平田七之助(三五)西平内村大字稻生蠣崎由松(二七)の三名は十六日石油箱入三十一個採捕し中平内村字濱子工藤寅吉(三二)へ六圓八十二錢に賣却せり

●海扇を買って調べらる

市内柳町三十二番戸勘太郎妻葛西いそ(四七)は去る十四日市内浦町百九十一番戸藤林政吉(三二)は十七日何れも法禁中なる三寸五分以下の海扇を買取したため青警の取調を受け昨日事件を検事局へ移されしが共に公判罰金に處さるべし

●トロール船の出帆

北洋丸は金頭其の他三百箱を漁獲す再昨日入港せるが漁業中ウインチを破損せる由にて入港否や修繕中なるが昨日出來全夜函館に向け出帆せりと

●函館氷の輸入

昨日石狩丸にて函館より當地大町横井商店に龍紋氷八十噸到着せり尚ほ一昨日島山商店に到着せしは北京氷の誤也

明治四十二年一月二十一日

●法禁の海扇採捕と賣買

東郡油川村字油川美濃谷禮作(二二)は既報の如く一月十二日三寸五分以下の海扇呷入四個を四十錢で買ひて昨日検事局へ事件を廻さる△東郡中平内村字東滝遠嶋卯之松(四二)全姓彌三郎(六二)兩名は一月十七日西平内村字稻生及茂浦沖合で貳斗樽入十個程法禁の海扇を採捕し青警の藪谷白鳥二巡查に告發さる

●新鱈と生魚

新鱈は近海産品皆無目下北海道のみなるもそれとて品小數にして値段は壹俵壹圓七十錢の成行なり又生魚は昨今汽船にて多數入荷し居れど鰈蛸等にして需要期の折柄賣行非常に好況なり爰許出來値は真鰈十貫目に付四圓五十錢真蛸二圓水蛸一圓五十錢宗八鰈一圓二三十錢の成行なり

●生魚輸入

桂井扱ひの樺太丸にて古平より生魚二千五百箱磯野扱ひの日高丸にて江差より全二千箱堀谷扱ひの神龍丸にて函館より全一千箱何れも安方市場に輸出せり

●タンク油積取

磯野扱ひの酒田川丸は昨日氷の陸揚げを終へたるが本日野内タンク油一千餘箱を積取函館に向け出帆する由

明治四十二年二月一日

●トロール網禁止請願書

既報の如く去月二十九日東郡平館村長福井七藏△油川西田林八郎△原別全津川正道△野内全田村武之助△東平内全小泉辰之助△中平内全竹内民藏△西平内全辻村善雄△一本木全□谷□助△蟹田全柿崎實△奥内全川田市次郎△蓬田全坂本義敬△瀧内全中村豊作△後潟村助役三上吟策△平館根岸漁業組合理事尾鷲清兵衛△青森市全相馬駿の十三村長他二漁業組合理事より武田知事へ提出せる全請願書は左の如し

トロール網禁止の儀に付請願

本縣に於て手繰網或は或は打瀬網漁業の儀は漁業取締規則により許可を得て漁業すべき□規相成居候處客歲三月十日頃より内灣平館村沖合に於てトロール網と稱する汽船組織の漁業を営む者有之候に付段々取調べ候處右は山形縣下に於ける北洋漁業株式會社所属の北洋丸他二三の漁業汽船にして網形は打瀬網同様の構造に有之候得ば申す迄もなく許可を得て漁業すべきものと被存候處聞く處に依れば右は何等許可の事實無きのみならず元來斯くの如き大仕掛の漁具を以て灣内或は海峡の狭隘なる場所に於て使用する時は海底魚族の根拠地を攪乱し為めに繁殖上の妨害を來して従つて一般手繰網漁業者に多大の損害を蒙らしむる次第なれば當

灣内に於て漁業禁止の儀相成四月十六日付東津輕郡平館村石崎漁業組合理事小鹿兼次郎外四名より請願仕候處六月中旬頃當灣内を退去致候に付漁業者一同安堵罷在候然るに去る十二月中旬頃より又々右トロール船灣内に進入し來り先同様の方法を以て漁業に着手し目下頻りに灣内を攪乱致候に付漁業者一同損害を蒙り紛擾致候間速やかに該漁業御禁止被成下度沿岸關係村長並漁業組合理事連署を以て此段請願仕候也

明治四十二年二月二日

●タンク船の入港

野内タンクへ向け去る二十日頃南洋新嘉坡(シンガポール)を出發したる英國サミュエル商會の石油タンク船ローマン號は來る六日頃野内着港の趣き當市同代理店へ近電ありたるが同船の日本來港は今回初めてにて搭載噸數約式千五百噸タンク船としては精麗稀なる者なりと云ふ因にライジングサン社にて九州博多に新築せる西戸崎精油所にては愈々去る十一月一日原油七千噸を輸入し目下製油に着手中なるが來月上旬まで更に三万噸を輸入の筈にて製油の成績頗る良好なりと云ふ

●弘前の漁夫雇入に就て

近來津輕漁夫の評判宜しからざる為め北海道樺太の親方等多く秋田山形方面に向ひたりしも全縣下は諸事業勃興し募集に應ずるもの無く該地方に出張したる親方は却って弘前方面に逆戻り目下募集中なるが弘前の周旋業者は一旦閉店したるもミスミス得意を逃がすに忍びず同市本町三上漁夫周旋宿に於ては四五日前より再び開店一割方の高値を以て備入れ居ると云ふ

明治四十二年二月三日

●縣當局の對トロール策

縣令違反の濫獲船北洋丸駆逐に關し沿岸東部の十三村長其他二名より縣知事へ請願處を提出せしが右に付縣当局者の意嚮なりとて聞く處に依れば今回は決して曩日の失敗を繰り返さざるべく高手的積極的手段を取るに決し既に夫々手配を尽くせりと聞く

●農商務大臣へ請願

トロール網漁業禁止の儀に付東郡内沿岸各村長及漁業組合長より不日農商務大臣へ提出の筈なる請願書は左の如し

客年三月十日頃より本縣内灣平館村沖合に於てトロール網と稱する汽船組織の漁業を為し灣内或は海峡の狹隘なる場所に使用するを以て海底魚族の根拠地を攪乱し為めに蕃殖上の妨害を來し一半手繰漁業者に多大の損害を蒙らしめ漁業者一同紛擾致候に付篤と其の内容を取調候處右は山形縣下に於ける北洋漁業株式會社所属の北洋丸外二三の漁業汽船にして網形は打瀬網同様の構造に有之候然るに本縣に於ては手繰網或は打瀬網漁業の儀は漁業取締規則により議決を得て漁業すべき規制に相成候に付兎に角急施を要する為直接被害の平館村部内漁業組合理事並青森市同組合理事連署を以て該漁業禁止の儀客年四月本縣廳へ請願の處本縣廳に於ても早速之が取締を勵行したる結果六月中旬頃より當灣内を退去し漁業者一同安堵罷在候

處去る十二月より又々右トロール船灣内に侵入し先同様の方法を以て漁業に着手し目下頻りに灣内を攪乱致し漁業者紛擾再燃致候に付去る一月二十九日沿岸關係村長並漁業組合理事連署を以て本縣廳へ請願仕候處本縣廳に於ては速やかに之が取締を勵行致居候に付不日退去致し候得共元來漁船漁業の手段として出沒極まりなく若し灣内において取締嚴重なる時は忽ち灣外に出づると同時に津輕海峡の關門を扼して魚道を閉塞し何れにしても妨害を逞ふる次第に有之候就ては聞く處に依れば該汽船の儀は御省より漁業獎勵船として補助金の交付を相受居るやの由に候得共今回の所為□□では決して漁業の獎勵に非ずして却つて魚族の蕃殖を妨害するの現況に有之候間當灣内は勿論灣外海峡近傍に於ても右様の漁業不致様堅く御禁止相成度沿岸關係村長並漁業組合理事連署を以て此段請願候也

●北洋丸檢舉

トロール船北洋丸は曩に漁業取締違犯にて公判に付され未だ判決を見ざるに過般來又々上磯沿岸に亂入し來り不許可の漁業に余念なかりしが去る三十一日午後より二月一日午前十時頃まで東郡平館村宇田領海内に於て打瀬網を使用し濫獲に從事中の現場を現認せられしとも知らず一昨日午後二時頃當港に入港し來たるを待構へし高橋警部及太田部長の爲めに漁獲金頭其の他取交石油箱七十餘箱及漁具とも全部差押へられ昨日事件を検事局へ移さる全船の責任者は左の如し

北海道小樽區色内町全船長興田喜一郎(二七)漁撈長竹内虎之助(三三)

●海扇濫獲公判

海扇を濫獲または賣買したる為本日青森區裁判所公判に付さるべきもの左の三十四名十三件なり

△漁業取締規則違犯工藤寅吉△船橋市松外二名△畑井吉助外一名△田中庄一外一名△笹原多市外三名△笹原清助△畑井仁兵衛外三名△笹原岩吉外三名△笹原岩藏外四名△吉川末松外一名△田中由太郎外一名△飯田長兵衛飯田仁三郎外一名

尚ほ右に關し明後五日全裁判所公判如左

△漁業取締規則違犯南郡富木館村大字永木□運次郎(五三)△上北郡野邊地町字八幡町荒物商瀧野澤幸之丞(四五)△及海産商濱中松次郎(二八)

●塩鮭の出來値

郵船花咲丸の接續にて昨日根室よりブナ鮭百石輸入せるが値段は圓替二貫二百目に手合出來せりと

●鯨釜の到着

東郡久栗坂赤坂市三郎氏は樺太漁場に於て使用の鯨釜は釜石鐵工場に製造方注文の處昨日入港の浦汐丸にて五十一枚到着せりと

●鰯粕其他の輸入

塩谷扱ひの神童丸にて昨日函館より鰯粕百二十個生魚三百個輸入せり

明治四十二年二月六日

●漁夫輸送の船繰

△二十日頃より輸送開始

△漁夫も漁業材料も減少

漁夫積取船繰に就て北海道に於ける漁夫の輸送期も日増切迫し來るが之が輸送に就ては鬼鹿の高田回漕店, 函館の林回漕店, 小樽の佐藤回漕店、苫前の秋山回漕店, 美國の中川回漕店, 等當地に出張船繰に就き何れも準備中なるが例年なれば漁夫の積取は大抵は三十日間も要することなるも本年は漁業家に於ける事業縮小の結果漁夫の減少及仕入の如きも従来は荒物其他総ての材料は當地に於て購入すべきを本年は金融上の影響より小樽より供給ある向きも多い模様なれば自然貨物に於ても又非常に減額すべく随て積取汽船の噸數も著しく減ずることなるべし而して例年は汽船の不足より運賃の如きは頗る高値にて且回漕業者も輸送に就ては成るべく丈大型の汽船を用ひ到底漁業家及荷主をして満足せしむること能はざりしが本年は海運業の不振よりして大船は勿論小船に至るも一般に貨物に欠乏を告げ殆ど困難し居ることとなり何れも漁夫積取に注目し居る場合なれば運賃も餘程低廉なる故本年の漁夫積取は各回漕業者も総て小型の汽船を用ひることに略一定したる模様なれば漁業家及荷主に對し便利なるべし而して本年漁夫の輸送に就ては二十日間に積取ることとなり愈々本月二十日頃より輸送を開始し三月十日迄に終了することとなりたる由にて市内に於ける各回漕業者は來る十三四日頃集會を開き運賃及船繰に付協議することとなり又樺太漁場に於ける漁夫は三月十四五日頃より開始し四月二十日迄に終了することとなるべし

●海扇濫獲事件

左記九名は各括弧内罰金に服せず四日控訴申出たり

△東津輕郡野内村大字久栗坂野村石太郎(五圓) 全村野村清太郎(二圓) 全村野村石松(全上)

△全村熊谷多吉(四圓) 相坂寅八(全上) 熊谷末吉(全上) △全村堤石松(四圓) 工藤粕松(全上) 熊谷惣吉(三圓)

二月三日左記の通り罰金を科する

△東郡中平内村畑井吉助笹原庄作(各七圓) △全村田中庄一田中助藏(各八圓) △全村笹原多市福田甚作田中庄八(各五圓) △笹原清助畑井豊吉加藤寅次郎(各四圓) △畑井仁兵衛蝦名三太郎畑井茂太郎中村浅吉(各四圓) △笹原岩吉全市三郎吉川清藏加藤久太郎(各五圓)

△笹原岩藏田中吉三郎加藤久五郎畑井清太郎笹原小之助(各六圓) △吉川末松全末太郎(各三圓) △田中市太郎吉川清藏(各三圓) △飯田長兵衛(四圓) △飯田仁三郎全與三郎(各二圓)

●生魚の大輸入

昨日社外船にて小樽其の他より當市各店に輸入したる生魚は六千四百四十三個にて積取船は如左

共同運輸丸(久遠積) 六百五十個、第二日高丸(古平積) 九百五十個、新第二運輸丸(江差積) 千五十個(以上磯野扱) △繪鞆丸(函館積) 千四百十三個、神龍丸(岩内積) 千五百個(以上塩谷扱) △□洋丸(函館積) 八百六十個(淡谷扱)

尚本日樺太丸は古平より生魚千五百個積入港の旨昨日磯野方に電報あり

●白米と荒物輸出 堀谷扱の繪鞆丸にて昨夜函館に向け白米三百俵荒物二百個輸出せり

●氷の輸入 淡谷回漕店扱の第一亀丸にて安方魚市場各店共同用氷百六十噸函館より輸入する由

明治四十二年二月七日

●遠洋漁業奨励（道家水産局長説明）

遠洋漁業奨励は飽くまで必要なるが漁業者が往々國際問題を惹起するは實に遺憾とする處にして如何にして將來之を杜絶すべきかに關し目下詮議中なり同漁業奨励法を制定したる當時の遠洋漁業船は僅かに十四隻に過ぎずして主として臘肭、獵虎等の捕獲に従事し政府は銳意其奨励に努め三十七年に至りては全く外國船を驅逐したり又鯉漁業の如きも四十年頃より漸次發達し來り近時新に石油發動機を應用するに至れり云々

明治四十二年二月八日

●漁夫備入の減少

△不漁の結果△本縣の影響

北海道各漁場に於ける漁夫の雇入に就ては各漁業家に於て本縣より毎年四万四五千人を募集雇入ることゝなり居るも昨年不漁の結果本年は各漁場にて網は約四百統を減ずる由にて之が為め本年の漁夫雇入人數は三万二三千人に減じ結局一万二千人餘を減ずることゝなりたる為漁夫の給金も一人平均三十圓と見積り一万二千人分即ち三十六萬圓同一人宿泊料消費高とも最低一圓五十錢と見積り一万八千圓荒物減額高一万二千個にて約三萬六千圓米は一人三俵と見積るときは三萬六千俵なるも他縣米も使用することなれば一俵最低五圓八十錢と見積り價額六萬七千二百圓乗船切符一人平均一圓五十錢と見積り一万八千圓船賃金全一人七錢にて六百圓貨物船賃一個二十五錢見積り合計四十八萬四千八百圓は實際本縣の經濟に影響を及ぼすべきものなり之が為め船舶業者の蒙るべき打撃も又頗る多く噸數に於て約一萬五六千噸を減ずることなるべし而して其の内當市各業者に及ぼすべき重なる影響は來青せざる漁業家等の消費額を除き漁夫の宿料及び消費高一萬八千圓船賃八百四十圓貨物全千八百八十圓貨物の船賃は一人三個と見積り合計二萬圓以上なるが此の外漁業家其他の之に付帶の消費額も多數有ることなれば詳細に調査せんには莫大の金額に達するならんと某漁業家は語り居れり

明治四十二年二月十一日

●水産資金融通

年來の宿題たる水産銀行設立の件は衆議院委員会に於て當局者の説明せる如く尚調査中に屬し何れとも決し居らず然れども本問題に關しては當業者の熱心なる希望もあり且實際必要を認めざるに非ざるを以て當局に於ては資金融通一法として勸銀興銀及び農工銀行法を改正し水産資金の融通を円滑たらしめ之が成績如何により水産銀行を特設するの方針に決し本期議會に右

三銀行法の改正案を提出すべしといふ

●漁業警察設定調査

農商務省にては近時漁業の發達と共に漁業上の違反者漸次多きを加へ今日の所謂水上警察に於ける一部の任務をなし置きては不都合の點尠なからざるを以て此の際欧州諸國の例に倣ひ獨立の漁業警察制度を設定せん計畫にて既に諸外國の制度其の他に關し調査を開始せり

明治四十二年二月十三日

●巡查助役抑留

密漁船北洋丸の無法
船長及漁撈長の留置

トロール使用漁船北洋丸は一度ならず二度までも知事の許可を受けずして青森縣領海内に於て打瀬網を使用し其筋の為に檢擧さるゝ處なりしにも拘らず依然灣内平館沿岸付近の領海を横行し魚族の漁獲至らざるなく去る十日午前一時頃よりも又々夜暗に乗じて全村大字宇田領海を搔き廻し午前八時頃に至るも尚ほ止むべきも見へざるより豫て全船の不法漁業を取締まるべく蟹田警察分署に特派し居れる本縣巡查工藤義幹全藤田藤五郎及平館村助役武田勇吉全村漁業組合理事鷺尾清兵衛全最上清太郎の五名は漁船に乗込みて全船内に乗り移り兩巡查は本縣漁業取締規則違犯にて檢擧するものに付全汽船を尚ほ陸岸近くに進航せしむべしと命令したりしも言を左右に託し應ぜざるにぞ然らば青森港へ至るべしと云ひしも船長興田喜一郎（二七）漁撈長竹内寅之助（三三）等は仲々之に應ずる色なきのみか今は巡查等を相手にせず其儘汽笛を鳴らして全沖合を出帆し始め宇田部落を後方に函館港を差して直航し同日午後二時頃全港へ到着したるも船員及漁獲物の上陸を許さず折返し一昨日午後一時頃當港に入れるを電報にて打合せ居りたる青警よりは高橋警部全船へ臨場し漁具とろ一着及金頭其他雜魚共石油箱入れ二十二箱を差押へ且前記の船長及漁撈長を引致し直ちに取調べに着手せるが全署にては兩名を不法拘禁、公務執行妨害、漁業取締規則違犯の三罪あるものと認め全夜より二名を署内に留置し居れりと云ふ尚ほ被告等の申分なりとて聞くに同日宇田沖合より函館へ直航せるは全村民數十人手に手に鎌、鋏、鉞等を打翳し漁船數十艘に乗込み將に全船を襲撃せん模様なりしより万致方なきに出でたりと弁解せり因に喜一郎は先年船舶検査法違犯にて罰金十五圓に處されたることある由

●ローマニー號出帆

野内タンクへ石油を輸送し來たれる輸送船ローマニー號は昨日を以てタンクへ移注を了し今夜直ちに上海へ向け出帆の筈なるが船長以下高等船員は當市よりの盆栽繪葉書骨董品等を土産として買入れたりと

明治四十二年二月十五日

●北洋丸船長等の拘留事情

三十二艘の漁舟に包圍される

巡查助役を愚弄至らざるなし

トロール船北洋丸船長興田喜一郎及漁撈長竹内寅之助の兩名が一昨日青森分署に拘留されたる事件に付當時の實況を目撃せる人の談を聞くに全船は去る十日東郡平館村大字宇田領海に於て今回の椿事を出来せしめたる前二三日來全付近に假泊し居りたるものゝ由にて全日午前一時頃に漁業に従事せるが之より先宇田部落にては北洋丸の來漁に備ふる為め沖合二百間の海上に數間ずつを隔てゝ浮標を浮置し全船にして寸分だも右浮標内に入來たらんか一も二も容赦する處なく彼の船体に乗移り漁具及漁獲物の差押へを為し告發すべしと既報の二巡查が待構へ居りしに午前八時頃果たして右浮標内に入來たりしかば氣早く既報二巡查及助役漁業組合理事等は日章旗を翳し二艘の漁舟に分乗して全船に近づき領海内に於て漁業を為すべからざる旨を告げて全船に乗移り差押なさんとしたるに少人数なるを見て馬鹿にし目の前にて又々トロールを海中に下ろしたるより二艘の漁舟に居残れる漁夫等は今は憤懣の極權を上げ非常の報知を齎せしにぞ合圖を得し三十二艘の漁舟は四方より全船めがけて取囲み來れるを見るや船長等は色を失して為す處を知らず命令のまにまに平館村陸岸近くに碇泊し差押檢舉に應じければ何分漁舟の包圍を解かれたしと哀願したるが固より全村の漁民等は自衛止むを得ず一時的に全船の進航を自由ならしめざりしなりしかば敢えて不穩の挙動に及ぶ者なく助役等の一令にて右漁舟の直ちに四散するや轟々たる汽笛の音と共に平館村へ進航すべしと思ひきや遠く沖合を差し雲煙模糊裡に入りたり而して全日午後二時頃函館港へ着せるは既報の如くなるが此の間船長等は既記の五名を火氣なき一室に閉じ込むるばかりにし食事等も下等船員同様に取扱ひ且つ本船を告發せんと云ふも能く如何なる事の出来得べきやなど五名に對し愚弄至らざるなかりしと云へるが全港に於て水上警察署長の厚き説諭に流石の船長等も遂に腰を折りて當港へ入港したりしなりと因に北洋丸に抑留されて思ひがけなく當市に揚陸せる二巡查及武田助役鷺尾清兵衛氏等は一昨日歸村せりといふ

明治四十二年二月十八日

●樺太雜漁業に就て

鑑札下附の餘地なし

追々樺太島漁業の時期に入るに際し或は從來の例に依り渡航後容易に漁業組合に建網漁業の免許ありたるを見誰人も希望により其組合に加入し鯨鱒鮭業の利益に均口し得べきものと速了し全島に向けて渡來するもなきを保せずと雖も本年の漁業鑑札は主として前年來全島に於て漁業鑑札を受けて漁業に従事したる者並前年來の居住者にして其經營確實と認むる者に之を下附するの方針にて目下概ね其の処理を了り従つて組合員たるべき者も殆ど充實したるを以て此の上新に渡來したる者に鑑札を下附するの餘地は殆ど之なき状態なれば同島雜漁業に志す者は豫め右の事實を了知し無謀の渡航を為さざる様注意すること肝要なるべしと

●漁夫積取船日割

當地桂井回漕店に於ける漁夫積取船の出帆日割は昨日左の如く確定せり

幸成丸二月二十一日厚田利尻行△第三共榮丸全二十三日厚田行△留萌丸全二十五日増毛行△

中國丸全二十六日美國余市小樽行△蛟龍丸全二十七日増毛留萌行△大蔵丸全二十八日禮文行△留萌丸三月一日羽幌行△伊吹丸全二日古平小樽行△第三共栄丸全二日利尻禮文行△天晴丸全三日古平利尻行△中國丸全四日利尻行△伊吹丸全五日利尻禮文行△幸成丸全五日鬼鹿行△敦賀丸全七日利尻禮文行△大蔵丸全七日鬼鹿行△第三共栄丸全九日利尻禮文宗谷行△幸成丸全十二日鬼鹿行△蛟龍丸全十二日壽都小樽行△大蔵丸全十五日宗谷行(以上)

明治四十二年二月二十一日

●鯨漁業談(上)

▲六十年前の青森▲北海道漁業に対する當時の觀念

▲漁業の全盛期▲稀有の大不況

北海道天塩國力晝村の有名なる漁業家福祉儀兵衛氏來青塩谷本店に滞在中なるが語りて曰く私が青森港を起点として北海道天塩國沿岸に鯨漁業を開始したのは本年で渡島六十年になります、私は本年とて七十九歳になりますが、十九歳になる時に父と共に青森に來り、今でも定宿として居る濱町塩谷本店に投じたのでありますが、只今の主人より三代以前の時でありました、其の當時は青森港も今の五分の一位の人口で○戸數は式千五百戸位しかありませんでした、そんな時でありましたから青森で北海道の鯨漁業などと云ふと恰も今の沿海州か、勘察加へでも出掛ける様な心持ちで、漁夫なども誠に頼み難いので連れ行くにも甚だ困難な事ばかり多く御座いました、其の當時私等が能く聞いて居ります世間で里謡となつて居る○忍路高島及びがないがせめて歌棄磯谷迄などと歌ふて居った頃で、世人の余り踏査して居らぬ天塩沿岸に渡航して漁業を開始した次第で御座います、元來私の居村は舊松前城下のあつた、福山より五里程函館方面に偏つた方の沿岸で御座いまして毎年三四月頃に帆船と申して百石位積みの和船で當港に來まして津輕地方よりは漁夫を雇入れまして當港よりは漁具荒物其他米味噌等の食料などを積みまして直ちに漁場に赴くと云ふ次第にて御座いました、其の時などは天塩沿岸地方に鯨漁業に出かけて居る人々は甚だ微々たる次第で年一年と漁業者も増加致しまして去る明治二十五六年頃は最も全沿岸中にて○繁盛した時代で御座います、其の當時の鯨建網の數は四五百統も御座いまして鯨の收穫も大抵二十二三萬石以上で御座いました、三十二三年頃より○鯨の收穫も漸次減少し來まして昨年などは三分の一即ち十一萬石と云ふ減少を來した次第で御座います、それに銀貨暴落の結果大豆粕の暴落となり輸入の増加となりて北海道鯨粕の爲め一大勁敵を作つた様な次第で御座います、それかあらぬか昨冬迄は小樽函館地方まで鯨粕の停滞して居るのみにても既に二十萬石以上と云ふ様な次第で是迄絶えてなき不況で御座いました、加ふるに金融切迫と云ふ様な余響を受けまして北海道の漁業者の爲には誠に尠なからぬ痛撃を受けました次第で御座います、爲めに○本年は青森市なども少なからぬ影響を受けましたそうで御座います、過日も東奥日報に見えてありました通り青森縣下にて受けました北海道漁業の影響に依りたる收穫上の減少は大約五十萬圓以上に達し、また青森市のみにても七八萬圓以上に達し居るそうで御座いますから昨今の不漁に依る自然の影響と思ふより致し方ありません

明治四十二年二月二十三日

●鯧漁業談(下) (漁業家福士儀兵衛氏談)

▲漁夫の雇入地方 ▲縣廳の証明と漁夫の信用

▲青森縣の富源 ▲粒鯧製造會社と青森

私も兩三年以前迄は天塩沿岸のみにて自分の直接經營する漁場二十八ヶ處及間接に資金を貸與して就業せしめ居る二十四ヶ處程御座いまして本縣下より漁夫は千五百名程連れ行つた事も御座いますが本年は不漁の結果投網數も減じまして私の手回り共に千名内外しか連れ行きません重に頼み入れた地方は○黒石方面の村落を中心として木造、五所川原地方でありますが能く天塩沿岸地方の漁業に慣れて居るのでありますから甚だ使い能き事で御座います七八年以前迄は北海道に出稼をするのは地方の収得になると云ふ様な觀念を有して出稼するものは甚だ尠ないと云ふ有様で御座いました、漁場に雇はれてから途中で逃亡するとか又は漁場で逃げるとか乃至二度売りするとか云ふ様な有様で自然津輕地方の○漁夫の信用を失墜した様な結果に陥ってありましたが、黒石の有志家岡崎守三と云ふが之を聞き付けて地方の繁榮を減殺する弊害なりとして確か三十五六年頃と思ひましたが縣廳へ出頭して右の事情を具陳した結果縣廳よりは各町村長に訓令を發しまして管内より北海道に出稼する漁夫は一切縣廳より出稼の証明を得る事の規定に相成りましてから、二度売又は逃亡する等の弊害を除去されまして、北海道の漁業家も大いに安心して縣の証明のある漁夫は信じて頼み入る事になりました、元來北海道の沿岸で投網する鯧建網の數も全道中で五十統内外で御座いまして、之に使役する○漁夫も十二三万程要する次第で御座いますが、重に本縣下より連れ行くのであります、年々本縣下より四万人内外出稼に出掛けるさうで、仮に一人に付三十圓づつと見積もりても漁夫の出稼に依りて本縣下に收穫する金額は百二十萬圓内外の巨額に達する次第で、其の他間接に費消する米味噌其の外の費用を省略する取得上の計算も少なくない金額で御座います○北海道の鯧業は獨り北海道の富源たるに止まらず對岸なる當青森縣下に取りて一大富源たること相違ありません、本月二十日頃より又々吾々業者が當港より數萬の漁夫等と共に出漁する時節となりまして當青森港も時ならず繁榮を見るに至るでありましょう、又當青森の商人の方々も奮興一番北海道の富源たる鯧漁業の到來し收穫する時期を見計らい當港に○粒鯧製造する會社の如きものを設立して盛んに製造に工夫をしたならばそれ相當に販路の途も出來吾々漁業者も悦びて粒鯧の輸送を計るべく然る場合は東北は勿論關東北信地方に迄供給し得る一大海産市場となすを得べく大いに囑望するところであります(完)

●暴風と遭難船

○和船の破壊 去る二十日の暴風にて下北郡佐井村碇泊の和船一艘破壊し船員三名行衛不明となりたる旨大間分署より電報あり

○小廻船遭難 一昨朝三時東郡今別村沖合に於て小廻船三艘遭難破壊し死体三名全地海岸へ漂着せるが詳細は不明

●水戸口塞がる

去る二十日の西方暴風にて西津輕郡十三湖水戸口が塞がりし為め湖口付近は勿論遠くは北郡武田村字長泥附近一帶に湖水に浸され被害多大ならんとの電報其筋へ達せるが詳細は取調中

● 舢舨の遭難

當市新濱町高柳豊次所有第十九號舢舨は船頭花田喜三郎外六名乗込み一昨日朝入港の日本郵船株式會社肥後丸に貨物の積入れの為め全日午後四時頃汽艇漣丸に曳かれ本船に向け航行中俄然猛烈なる西北風に襲はれ激浪怒濤の翻弄する處となり將に転覆せんとせしも左記貨物を濡損せるのみにて漸く危険を免れたりと

明治四十二年二月二十七日

廣 告

漁場行汽船出帆廣告

船 名	出帆月日	行 先
蛟龍丸	二月二十七日	増毛留萌行
伊吹丸	三月 二 日	古平小樽行
留萌丸	全 二 日	羽幌行
第三共栄丸	全 二 日	利尻禮文行
幸成丸	全 三 日	古平利尻行
大蔵丸	全 三 日	鬼鹿行
中國丸	全 四 日	利尻行
伊吹丸	全 五 日	利尻禮文行
蛟龍丸	全 五 日	利尻禮文行
敦賀丸	全 七 日	利尻禮文行
大蔵丸	全 七 日	鬼鹿行
留萌丸	全 九 日	壽都小樽行
第三共栄丸	全 九 日	利尻禮文宗谷行
幸成丸	全十二 日	鬼鹿行
蛟龍丸	全十二 日	壽都小樽行
大蔵丸	全十五 日	宗谷行
第三共栄丸	全十七 日	樺太西海岸行
幸成丸	全十七 日	宗谷行
第三共栄丸	全二十八日	樺太西海岸行
小樽丸	四月 壹日	樺太西海岸ナイポより□マリポ迄
大蔵丸	全 七 日	樺太大泊行

右の外臨時申込の分は便宜御相談可致候也

明治四十貳年 青森市大町

貳月貳日 桂井回漕店 電話百五十四番

各漁場行汽船出帆廣告

高砂丸	二月二十七日	羽幌行
京幾丸	全	初山別行
禮文丸	全	風蓮行
甲辰丸	全二十八日	力晝行
日露丸	全	美國利尻行
天佑丸	三月 一 日	濱益行
松島丸	全	増毛行
利尻丸	全	濱益行
英照丸	全 三 日	古宇積丹行
白神丸	全	濱益行
天晴丸	全	美國行
小野丸	全	小樽禮文行
第二日高丸	全 四 日	島牧行
新第二運輸丸	全 五 日	壽都岩内行
京幾丸	全	鬼鹿行
高砂丸	全	増毛行
第五勢至丸	全 六 日	留萌行
日露丸	全 七 日	苫前行
甲辰丸	全 八 日	力晝宗谷行
天晴丸	全 八 日	濱益行
英照丸	全	禮文行
敦賀丸	全十五 日	樺太各地行
日露丸	全 二十日	全
長幸丸	全二十三日	全
松島丸	全 三十日	全

青森市濱町 磯野回漕部

明治四十二年三月六日

●漁夫雇入機關の必要（某漁業家の談）

例年北海道に於ける漁夫の輸送は昨今最中なるが漁業家の實際出發に際し折角雇入たる漁夫は往々種々の事由に依りて欠員を生じ旁非常の不都合を來し事あり當市濱町に於ける丸一方にては斯かる場合漁夫補充の目的にて毎年時季に際し各地に多數の漁夫を雇入契約を為し又は雇入れたる者を自己の家屋に止宿せしめ全家の保証を以て是れ迄で各漁業家に補充し便宜を與へつゝあるが近來に到り漁業家にして直接全所に契約を依頼し來りたるものもあり年々漁夫の取

扱高も増加し居る模様なりといふ當市は北海道及び樺太地方の關門なれば斯の如き有望なる事業は會社組織か若しくは組合か強固なる取扱所を設け他郡市及び他縣に於ける雇入りを為し漁業家の直接雇入の必要なからしめんには漁業家及び當地方に於ても大ひに利する所あるべしされば他郡市に於ける漁夫周旋所の如きも自然必要なきに至るべく漁業家も一層正確なる漁夫の雇入をなすを得るべしなれば是非共當地に此種取扱機關の設立ありたきものなりと某漁業家は語れり

●漁夫と貨物の輸送

當市に於ける第二期の漁夫及び貨物の輸送は一昨日より開始せるが全日搭載の漁夫は二千二百四十人貨物は米其他雜貨取合五千七百三十個にして昨日搭載せる漁夫は千四百六十人貨物は二千五百八個にして搭載船舶の内艘は左の如し

錦旗丸人夫四百二十人雜貨二百三十個（古宇濱益行）蛟龍丸人夫四百人雜貨千四百七個（鬼鹿行）、留萌丸人夫二百四十人雜貨取合三百八十七個（羽幌行）、第二勢志丸人夫四百人雜貨四百八十七個（積丹美國行）、以上一昨日出帆△幸成丸人夫三百二十人雜貨八百個（利尻禮文行）、中國丸人夫六百人雜貨二千六百個（利尻行）、利尻丸人夫三百二十人雜貨七百三十個（濱益尻内行）、小野丸人夫五百人雜貨四百個（利尻宗谷行）、京幾丸人夫五百人雜貨千二百個（鬼鹿行）以上昨日出帆

因に記す第五勢志丸高砂丸白神丸の三艘漁夫積取の為め昨日入港せり

●魚商株式會社の總會

當市魚商株式會社にては昨日午後一時より公會堂に於て左の件に付臨時總會を開きたり
△貸付金取立法の件△二社長死亡に付書類引継授受に關する報告の件△解散可否の件△解散するとせば清算人選定の件

明治四十二年三月七日

●魚類と氷の利用

（小岩井本縣技手の談）

私は今回西津輕郡岩崎村へ水産講話の命を受け出張の上是迄實見せる色々の話をなし且色々取調べて参りましたが地方に於ける漁業上の状態既往七ケ年と今日の状況を追想するに漁撈にまれ製造法にまれ随分進歩發達しあるので頗る喜ばしく感じましたが其細事を申し上げますと話が長くなりますから其内極く感じた点と注意すべき点を申上置きたいと思ひます其は外でもありませんが漁業家魚商家が氷利用の方法を研究し來りたる一事であります、元來私の初めて西部巡回した時より今日まで口癖の様に當業者に向ひては是非氷を利用して見よと申して居りました其は深浦岩崎地方は魚は尠ないと云ふものゝ又魚價を高むると云ふ事に餘り重きを置かないから自然利益も得る事來ないと云ふ状態であるので、彼の八九月頃の魚は漁場にあるときでさいも腐敗しかゝりてあるのに其を秋田、弘前二十六里乃至二十里と云ふ遠距離に輸送せなければ忽ち鮮魚の販路は塞がると云ふ場所にありて駄送するが故に安値に買取られ漁業者の利益なきのみならず魚商も利益を減ぜられ只所謂道中肥やしという状況なるから再三再四氷貯蔵の

上使用するの必要を語るも只テーブル論として誰れ一人の馬耳東風と聞き流されし状況であった

然るに七年後の今日を見ると初めて其夢覚めたようで該地方に於て雪及び氷を貯蔵するの計劃をなし今回深浦にて雪氷を貯蔵したるものもあり（少量）又氷貯蔵の為め目下盛んに氷の切り割りあり實況を車上にて見て参りましたがあれでは失禮ながら其の方法萬事素人式だと思ひます依つて私出張の序であるから當業者を集めて私の知り居る事を御話し致そうと思ひましたが豫定の日限も過ぎ又當業者を集めるのも前々よりの準備なく一寸に集めると云ふ事は容易でないと申されましたから不得止帰りましたが方法の悪しきを抜きにして折角費用をかけ氷を貯蔵しても収支相償わないと云ふ事になりますと是よりの起業者にも亦漁業者にも不利益を來す事と思ひますから参考迄に概略を申述べて置きたいと思ひます（續く）

明治四十二年三月八日

●魚類と氷の利用（續）

（小岩井本縣技手談）

元來雪や氷は貯蔵方法の如何により長くも持て且つ分減も少なくなる者なるに、當方面の貯蔵しある處は實見せざるが為め彼是を云ふわけには至らざるも目下氷を切りつゝある様を見るに氷を切る道具、取扱ふ道具等は間に合せるから自然手間賃を要すること多かろうと思ふ、別して氷の如きは原料は無代價同様（食料氷は別として）なる代り融解する事も多きにより百噸の氷を保たせるとせば約百八十噸も貯蔵せねばならないのに多くの手間を要するとせば仲々廉ならざるものになる

また手間賃のみならず氷の切る時期はある即ち最も適當の時は寒明け間もなくでなければならぬ、如何となれば寒中の氷は切り割りて見ると透明にして殆ど玻璃鋭の如きも寒明け次第に融解して結晶力弱く為めに磨硝子の如くなる、斯る氷は例へ凍方厚くも融解非常に早い、例へ寒中の氷でも年により出来不出来ある位のものに今深浦方面の氷を見るに殆ど磨硝子以上不透明にして且つ氷の厚さ大抵一尺以内であるし又切り方も非常に小さい北海道函館の氷で而も寒中間もなく切る者でも大概長さ二尺巾一尺八九寸厚さ一尺四五寸ある、斯様な者でも盛夏の頃になると殆ど上等の倉庫で四割乃至四割五分減るを通例とするが深浦の氷を見ると餘程嚴重に貯蔵せざれば半減は愚か場合によりては六割以上も減るまいかと思ふ聞く處によれば土穴に貯蔵すると云ふことだが土穴も成程宜しいが水気尠なき處に貯蔵せざれば却て板倉よりも悪しき事もあり又澤山の氷を一室に入れ置き夏期に至りて傍より引抜き引抜きすると其他の氷も非常に解け少し許り貯蔵の氷なれば一個を引抜きたる為め全部を解かず事ありますれば可成倉を數個に分け一室二三十噸位づつ納めた方が宜しい詰め方も可成氷と氷を密にした方が宜しい

又雪を貯蔵せし人の話を聞くに土を深く掘り其の上に雪を入れ木の葉を以て包み置きたる由斯様な方法では殆ど三分の一乃至四分の一より残りませんが雪を囲う人の為めに一寸話置きますが先づ穴なら穴に雪を詰め程よく詰めた頃を見計らひ其に水を數杯かけて解かし傍ら踏み堅め十分堅めた頃を見計らひ雪を入れて水をかけ數回反復して堅めた上に木の葉なり鋸屑を以

て包み置くに非らざれば分減多くて澤山のものを貯蔵使用すること出来ぬ又倉庫にしても土蔵なれば宜しきも土蔵とせば中々費用が掛かるから板倉でも宜しいが板二枚張にして其の間に「インシクペーパー」即ち絶縁紙と言ふ者を以て張詰めれば完全のもの出来ると思ふ又處々に窓を設ける必要あるも之を嚴重に取付け可成空気の流通せざる様設備せなければ氷の解け方多きわけであるから重ねて申し上げて置きます

而して此の氷を安値に貯蔵する様になると魚商者の利益のみならず漁業者も氷を使用する事になる現に各地方でも氷を出漁に際し積込んで行くが静岡にては鯉漁には是非氷を使用せざれば鯉を釣り帰しても購買者ないと云ふ状態で盛んに使用するが現に深浦の漁師有馬勇之助も八九月頃氷を積み出漁の結果成績非常に宜しく氷を積まざる船は秋田にて「ガサ」「アラ」類一尾六厘に賣りたるものを有馬は一尾一錢二厘に賣り意外な利益を得たと云ふ實見談を聞いたが實際是よりは萬事夏期は氷詰めと云ふ事になりますから一層氷の貯蔵法も研究し使用の方法も研究してもらいたいと思ふ夏期氷を使用する事の研究は四十年より本場に於ても多少研究をし且氷蔵庫迄も建設して研究し居りますから申し述べたいと思ひますが餘り長くなりますから追て御話する事に致します（完）

明治四十二年三月十日

●海産物商勢

本市附近の海産物中海參、鮑、鯛、鮫鰭等の殆ど全部は在横濱支那商人の手を経て上海、廣東等に輸出さるゝ者なるが客年南清ボイコット及び銀價下落の餘波は直ちに該輸出に打撃を與へ商況沈静萎靡振るはざるの觀ありて當市の海産物商も甚しく其の影響を被りしがボイコット熱の屏息と銀價の恢復したる昨今は商勢頓に活發を呈し好望の時期に向かへり元來支那料理の高尚なる者は必ず前記の海産物を原料に用い随て支那中流以上の家庭を通じて一般に供給さるゝ斯種の輸出額は年々夥しき者あり就中海參、鮑等の如きは當地沿岸の産を以て最も優良なりとし結氷以前の輸入期たる十月の候及び解氷後の昨今は一年中取引の最も活發なる時期にして價格の如きも客臘よりは昂騰気合の姿にて各産地よりも續々當市商店に向け入荷ありて目下當業者は其製造乾燥に孰れも繁忙を呈し居れり海參は北海道羽幌産を以て尤とすれど最も産額の多大なるは縣下北郡大間附近にして現に其捕獲期に際し毎次函館地方の海産商は同地に集合入札買占めに着手する者なるが當地方の同業者は斯かる商機に参する者殆ど無く此点に就いては今更地方商賣の苟安を遺憾とせざる可らざるも兎に角海産物は當季より輸出好望の機運に向ひつゝあるは喜ぶべしと

明治四十二年三月十六日

●トロール漁業

（漁民の恐慌と輿論の同情）

トロール漁業は、近來、本縣の漁業界に於ける一大問題となつて居る、トロールと云ふ響は如何に本縣漁業者の恐慌を來し居るであろうか、乱暴なるトロール漁業者は、特に本縣に於て

は、之を禁止し居るにも拘らず、恬然として、其の禁を冒かし、濫漁を逞ふし、遂に裁判沙汰とまでなつて居るが、其にも考慮せず、益々近海を荒らし、剩さへ、警察権をも蹂躪し、侮蔑して、更らに、一の被告事件を醸し居ると云ふ騒ぎである、此のトロールは、獨り本縣沿海の漁業者を苦しめ居るのみならず、北海道の各近海にも跳梁を逞して、同道の漁業者との間に一大衝突を來たし、漁業者數百、團をなして之が襲撃を試みんとしたといふ騒ぎも屢々聞いて居る、彼れトロール漁業者の側より云ふも、當地を初め、函館、小樽等魚類需要の多き都市を扣えての漁業は、便宜で、利益も、其れ丈け多大であるから、何ふしても、彼等は、是等の需要地を目當に、此の近海の漁業を主とし居ることは云ふまでもなく、従つて、此の近海の魚族は、漸次消滅の運命に陥り、近海漁民の打撃は、實に寒心すべき次第で、一般漁民の爲めには、如何にも氣の毒といふべきである

聞けば、當地の魚商の中で、暴利を占むる事が出来るので、此を引受けて居るものもあるそうだが、其の他の者は、天に近海の一般漁民に同情を寄せ、何れも申合せて、トロールの魚類は、一切之を引受けぬことにして居るといふことである、亦以て、如何に此の漁業が、一般漁民の敵で、漁民を窮地に陥るかを推想すべきである

固より此の漁業は、本縣や北海道の近海を荒らし、獨り兩地方の問題となり居るのみならず、實は、我が邦水産界に於ける大問題で、既に過日開かれたる、全國水産大會の問題となり、此が禁止の建議は、當局者に提出せられ、更に議會に請願せられ、尚ほ其れのみならず、之が取締に關する建議案は、衆議院に提出となり、現に去る十二日の本會議に於て、本案の提出理由を説明するに際しても、大いに同情を寄せられ、拍手をもつて歓迎せられ居るといふ有様である、此の建議案は、所謂取締に關するもので、漁場区域の制限、漁船數の制限、販賣市場の制限、魚族繁殖保護の方法を立つべしといふにあるが、斯云ふものゝ此が實行は、却々困難なることであらう、是に於てか、一面に於て、寧ろ之を禁止すべしと云ふことにもなるのである

禁止論は、獨り當業の水産家ばかりでなく、近來識者の間に持出され、現に東京の新聞社界にも、頻りに之を主唱せらるゝようになって居る、當局者の、最初の考へでは（今も尚ほ然らん）、該漁業は外洋に適するを以て、沿岸に於てするに及ばずといふにあれども我が外洋の状態は之に適せない、何ふしても近海二三十乃至六七十尋の漁場を適當とせなければならぬといふこと、されば先進の外國に於ても、既に其の弊を認めて、之を禁止し居るところ少なからずである、然るに當局者は、實際に、且充分に研究をも遂げずして、輕忽に之が保護奨励を立てたのが、今日の誤りで、今更ら之を禁止すると當局者として、其の矛盾、其の無定見、固より心苦しきことではあろうが、過は改むるに吝なるなかれ、一二の資本家の爲めに、幾百萬の漁民の生業を剥奪し、之を窮殺し、剩さへ、我が邦沿岸の魚類を剥滅するが如き危害を招致するの愚をなすべからずといふこと、是れ禁止の主張である

兎に角、近頃の問題で、斯、世間の注意を惹くこと甚だしきものは、稀れである、是れも、幾百萬の漁民の運命に關する、一大事であるからである、余輩は、地方の関係者は、尚ほ、彼の漁業に注意し、一面に其の聲を大にして、世論を動かし、當局者を反省せしめて、之を禁止せしむるか、少なくとも、巖なる制限を附して、さなきだに、逐年窮境に傾きつゝある、漁民に

影響を與ふるが如きことのないやうな方法を取らしむことにしたいものである

明治四十二年三月十九日

●上北郡産尾駁鯨調査

上北郡尾駁沼には毎年十一月頃より翌年二三月頃まで一種の鯨魚を産し土人之を尾駁沼鯨と稱し居れるが右は太平洋より川を上りて尾駁沼に至り産卵するものにて鹽水魚の湖水に於て棲息し且つ産卵するも學術上一の研究題目たるべく更に全附近の土人の談に依るに右の卵は該沼にて越年孵化すとの説あり旁た年々の産額とて多き場合にて尚百石位のものに過ぎざれど右の如く果たして該沼に於て産卵孵化するものとせば將來の産卵開拓の一端に貢するを得べし兎に角鯨は元來日本海産と太平洋産とのものすら全然別種類なりとの説さへあれば此の際本縣水産試験場にては多少右尾駁鯨に對し研究し置くの要ありとし本日越田技手を全地へ出張せしむる筈

●十和田湖和井内養魚場鱒養殖成績（一）

和井内氏の事業にかかる十和田湖和井内養魚場は昨四十一年度には事業を拡張し孵化場附属建物壹棟、採卵場一棟並びに一個壹万五千尾収容し得る完全なる親魚貯蔵池第一號より第四號に至る四個の増設又は漁具の購入及び孵化器具多數の調整等をなし大いに拡張したり▲捕獲昨年度春季鱒捕獲數は十月一日より着手し十一月十八日を以て終了せしが其捕獲數實に七萬尾の多數に達し好成績を得たり殊に捕獲最も盛んなりしは十月中旬にして一日六千尾を得しことあり捕獲親魚は凡て和井内鱒三歳魚にて皆成熟し居るものゝみなり▲採卵鱒 採卵は十一月五日より着手し日々五名の技術者にて採卵し十一月十九日を以て終了せり採卵に供せし親魚雌數は壹萬尾雄數は四千尾にして其の採卵總數七百三十八萬八千粒の多數に達し一日中最も多數採卵せしは百八十萬粒なりと云へば如何にして其盛大なりしやを知るを得べし採卵數の内百五十八萬粒は帝室林野管理局外八ヶ場へ分與し残卵は孵化本場二ヶ分場に収容し目下孵化育養中にして成績洵に良好なり最も早きは本月下旬より投餌すべしと云ふ而して全國未だ鱒卵を多數採卵し得る養殖場なかりしが該湖をして斯多數の採卵をなし良結果を得つゝあるは斯業界の模範たるべきなり▲分與場及び分與數 は左の如し

分與場名	分與數量
帝室林野管理局	四十萬粒
栃木縣西那須野松方侯爵農場	五萬
滋賀縣坂田郡藤野養魚場	六萬
青森縣水産試験場	三十萬
福島縣水産試験場	十五萬
茨城縣水産試験場	一萬
秋田縣水産試験場	三十萬
滋賀縣水産試験場	三十萬
新潟縣立能生水産學校	一萬

計九ヶ場

百五十八萬

尚右の外兵庫縣外三縣より分與希望ありたりしも卵の運搬時期に後れたる為め不得止他は拒絶せりと云ふ近來湖沼のある地にて各縣共皆鱒養殖を奨励し居れども其種卵の供給場なき為め大いに苦心しつゝありしが今や十和田湖にては前記の如く各所に多數の卵の分與に應ぜしは實に斯界の便益大なるべく尚本年は多數採卵の豫定なるを以て十分世の希望に應じ益々養殖界を益せんとすと云ふ殊に全湖採卵の種卵は全部和井内鱒種卵にして鱒魚中最も優秀にして成長速やかにて美味魚兒健全にして又捕獲し易きを以て世上最も希望する處の種卵なりと云ふ（つづく）

●海鼠、鮑、海扇採捕告發

上北郡横濱村字下川原鳥山誠治（一八）は目下禁漁中なる海鼠五十四個を採捕告發されて一昨日罰金二圓に處され△下北郡脇野澤村大字脇野澤角野良八（二三）は三寸以下の鮑三十五個△東郡中平内村大字東瀧佐々木兼次郎（二七）全松五郎（一五）は海扇三十六個△全村遠藤清藏（五四）全三次郎（二六）の兩名は全八個を採捕して告發され不日公判ある筈

●難破船（溺死三名）

去る十一日東郡蓬田村瀨邊地及び郷澤間海岸を距る約百間の沖合に転覆破損の小廻船あるを發見したるが全船は當市新安方町佐藤末吉所有小廻船安全丸（八十石積二十口）にして去る五日午後二時頃藁縄等を搭載の上

東郡蓬田村大字廣瀬久慈長作（二七）市内鍛冶町室屋兼吉（二七）外越中國生の氏名不詳男（二十位）

の三名打乗りて當港を發し下北郡大間城屋六郎方へ右運送すべく航行中全日下北郡武士泊沖合に於て難破し船体の大半破砕せられたるを風浪の為め前記の沖合へ漂着したるものなりと三名は多分溺死したるものならん

明治四十二年三月二十日

●交通丸の出帆

本年第二次青浦定期船交通丸は豫報の如く林檎三千四十二個、長芋十五個、藁細工一個、叭三十五個、計三千九十五個を積み昨日午後一時十五分當港を出帆せるが乗客は荷主外四名なりしと

●十和田湖和井内養魚場鱒養殖成績（二）

▲孵化兒放流 和井内養魚場に於ける孵化育養せし鱒兒放流の場合の注意周到なるは未だ他に其例を見ざる處なりと云ふ和井内氏子息貞時氏の談に依れば鱒養殖成績の結果は孵化事業中最後の業たる放流のときの注意如何に依りて顯はるゝものなりと云ふ全湖本年の放流は四月下旬より五月上旬までに全部放流し終はるとのことにして本年は一層放流鱒兒の安全を計る為め昨秋より種々調査をなしつゝあり湖中四カ所放流する見込なりと云へる而して孵化業は採卵より放流に至る迄で百七十八日を要するものにして其間給水、水温變化、検卵、投餌其他細大晝夜少しも油断の出来ぬ仕事にして多大の注意を要するものなり若し少しにても注意を怠るときは

多數の卵及び魚児を斃すものなれば夜分も二三回も見廻り中々容易の業にあらざるを以て和井内氏子息貞時氏自ら其難行に當り熱心に孵化業施行し傍ら夫が研究調査を成し居るを以て全湖の人工孵化業は年々進歩し良好にて完全なる魚児を放流する為成績益々良好を得るものなり▲本年の捕獲 本年捕獲は既に本月上旬より着手し居るが日々豊漁にて多數を捕獲し居り湖邊漁夫等大いに喜びつゝありと云へば鱒捕獲の盛漁期なる五、六月頃に至らば意外の大漁となるべし本年捕獲の鱒は全部東京帝國冷蔵會社に送付販賣をなし居りしに世人既に知る如く同湖産魚は味甚だ美にして他魚に優れるを以て賣行甚だ良好なりと云ふ▲本年の採卵豫定 本秋の親魚捕獲數は三十万尾餘の見込にして採卵豫定數は二千万粒以上の大多數を採卵する豫定にて消雪を待ちて着々準備をなすと云へり尚本年卵子の分與は何程にても充分量の希望に應じ供給し斯界の發達を計らんとすと云ふ（つづく）

明治四十二年三月二十三日

●十和田湖和井内養魚場鱒養殖成績（三）

▲孵化場の新築 全湖當時使用の孵化場は去る三十七年新築せしが狹隘を告げ三十九年急に簡易孵化場を増築外壹個分場を新設し孵化育養し來りしが又々狹隘を告げ到底収容し能はざるを以て大孵化場新築の計劃にて昨年より夫々準備に着手中なるが殊に今回新築すべき孵化場は全國に模範たらしめんとのことにて水産講習所長松原新之助氏に其の設計を依頼し居れり▲松原氏の來湖 水産講習所長松原新之助氏には全湖鱒養殖成績の甚大なるを大いに喜び居りしが愈々今回魚児放流の時期なる五月上旬放流状況視察並びに新築孵化場の設計上及今後の事業施設上に付指示かたがた協議の為來湖するとのことにして全氏來湖親しく教示したらんには其發展や一層著しかるべし▲外人の鱒嗜好 外國人の鱒を嗜好すること甚だしく其嗜好する程度は日本人の想像以上にして如何なる盛餐と雖も鱒の料理なきときは日本の夫に於ける鯛、鯉又は刺身なきが如き觀ありて盛餐とは思はざるものゝ如し又最も貴重なものとして賓客の饗應には必ず用ふるものにして其使用夥しきものなり又娛樂としては淡水に鱒を釣ることを非常に愉快とするものにて鱒さへ釣るゝ時は如何なる山間にても苦とせず來遊するものなり本邦戦役後外國人の來遊すること日々多きを加へつゝありし今日本邦未だ是等外人に對し其嗜好する鱒を供給し能はざるより政府も養鱒の急務なるを奨励し居れども種卵の供給所なきに困難し居たりしなり然るに十和田湖にては昨秋より多數其種卵を供給し斯界の發達を計り又捕獲の鱒魚は東京に出荷し東京、横濱等の使用に供し便益を與へ居ると云ふ因に記す前記の如く事業の経過良好にして其成績著しく殊に優秀の種卵を多數世に供給し又鱒魚を外來人に供給し水産界の利益本邦の便益や巨大なるものなり是れ和井内氏多年苦心の効果にして尚益々規模を擴張し事業の發展を計らんとして和井内氏父子等をして益々多忙ならしめつゝあり（完）

明治四十二年三月二十四日

●本縣出稼人減少

本縣より年々北海道及樺太漁場に出稼する出稼人の員數は平均毎一年六萬人を越え此の賃金

約百八十萬圓にして一月より三月までは其の出盛り時期なるが今彼等一人の受くる賃金如何と尋ぬるに男女及出稼地に依り自ら高低の差異あるを免れざれども最高といへども男百三十圓女三十五圓を越ゆることなく最低に至りては更に男十圓女五圓に下がる口のあり而して出稼期は概して一月乃至三四月に互るもの最も多きを占むと云ふ扱て昨四十一年に比し本年の出稼人如何を取調ぶるに其筋の調査に依れば去る十二月に於て既に人員三千五百十二金額十二萬八千七十一圓二十錢の減少を來し居れり尤も今三月は例年共出稼人出盛り中の出盛り月に相未だ適確なる統計を得ざるも既往の一二両月の状勢に徴するに思半ばに過ぐるものあり結局漁場地方の年々不漁に赴くと一般不景気の打撃を被り本年本縣の出稼人は尠なからざる減少を來すものと觀て大過なかるべく兎に角此の三カ月に於てすら尚ほ約二十萬圓以上の減少を見るならんか今正確なる統計を得たれば左に掲ぐ

		員 數	賃 金
北海道	前年 一月	七、一七九	二二二、三〇五、五五〇
	二月	八、七八四	二八一、〇三〇、九五〇
	本年 一月	五、九五四	一六五、九二八、七一〇
	二月	六、五八九	二〇七、四六二、〇五〇
樺 太	前年 一月	二、四〇八	九六、三一七、八五〇
	二月	一、六四二	五五、九九八、五〇〇
	本年 一月	二、四四六	九六、〇六三、八五〇
	二月	一、六一〇	五七、一五七、〇〇〇
合 計	前年 一月	九、六八七	三一八、六五三、〇〇〇
	二月	一〇、四二七	三三七、〇二九、四五〇
前年と 比較減	本年 一月	八、四〇〇	二六一、九九二、六〇〇
	二月	八、二〇二	二六四、六一九、〇五〇
前年と 比較減	本年 一月	二、一二五	七二、四〇〇、四〇〇
	二月	一、二八七	五五、六六〇、八〇〇

尚ほ参考の爲め本年に於ける前記出稼人の内市町村役場より出稼證明書を得たる者及得ざるものと男女別を内澤する時は左の如し

		證明書を得たる者		得ざる者	
		男	女	男	女
北海道	一 月	五、三五八	二五	五四一	三二
	二 月	五、二三四	一五	一、二九九	三九
樺 太	一 月	二、三五一	四	九八	二
	二 月	一、三六五	三	二三八	五
合 計	一 月	七、七〇七	二九	六三〇	三四

●捕鯨解剖所設置計畫

日本捕鯨株式會社にては三戸郡沖合遠洋に於て捕獲したる鯨の解剖所を全郡鮫村海上蕪島に設置せんと計畫あり未出願なるも二十日田中事務官の全地へ出張したるも多分右に就てならんと聞く

明治四十二年三月二十七日

●本年鯨豐漁か

北海道鯨漁期は彼岸後三週日を以て走鯨漁期となすも近來鯨來遊期は極めて不順序となり一月に於て雑魚網に掛かり或は二月に於て初鯨の漁獲ある等の如き往々ありと雖も之れ等は俗に迷鯨と稱し漁季の産卵鯨にあらざるなり古來斯の迷鯨の來る年は豐漁なりとて漁家は是を祝したるの例あり然れども全く理由なきものにして現事に在ては斯の如き迷信者も自然減少せしものゝ如きが本年の鯨漁は如何あらんか昨今小樽近海に於ける海水温度は五度内外にありと云へば未だ産卵鯨の來遊季節に達せず鯨は海水温の七度内外に至りて始めて來遊するものにして目下海水温は一日増しに上昇しつゝあれば來月四五日頃にも至れば小樽以南檜山近海は初漁あらむ檜山近海は連年不漁續きにて漁村困難其極に達したる時昨年突然大群來せしと雖も既に漁具漁船の用意を欠き且つ漁民は轉々各地に出稼せし等にて十分の漁獲を行はず且つ大漁せしものも連年の瘡痍は尚療するに足らざりしが本年も亦々大群來するものと豫期し目下投網準備に怠りなきが如し一朝不漁なりとせば夫こそ該方面は更に一層困難に陥るもの多きに至るなる可し而し鯨來遊の厚薄は種々の關係あるべく且つ之とも原因確定せるにあらざれば豐凶は豫知し難きも潮流其他の關係を以て推測せば決して薄漁の年にはあらざるべし云々と某水産家は語る

明治四十二年三月二十八日

●尾駁鯨に就て

越田水産講習所技手の談

上北郡尾駁沼より産する尾駁鯨に就て取調研究のため來縣せる東京水産講習所技手越田徳次郎氏は既報の如く去る十九日小笠原本縣水産試験場技手と共に全地へ向ひ出張し一昨日歸青されしが全日午後縣廳にありて記者に語れる談話の要旨を記載せんに初め尾駁沼は淡水湖なりと聞きしかば頗る奇異の感に打たれ若し果たして然りとせんか今後全沼所産の該魚卵を採取し彼の鮭鱒等の如く人工孵化法に依りて隨所の淡水湖沼に生産せしむるを得べきかと豫想せざるにしもあらざりしかど實地調査の結果全沼は曩に聞けるが如く淡水湖にはあらずして明らかに鹹水湖に属すべきものなるを確知せり云ふまでもなく鯨は世界共通の魚類にして之が需要の範圍最も廣く吾が日本に於ては未だ曾て聞かざる所なるも米國にては至る所全沼にして當初自分の聞知したりし如く淡水湖なりしならんには即ち吾れ亦た期年ならずして彼れ米國の如くなるを得べしと期待せしに遺憾なりき加之ならずして全沼は今尚一尺乃至二三尺の薄氷に掩はれ且つ

時期後れし為めにや遂に一尾の漁獲するなかりしは是亦た遺憾甚だしかりしも幸ひにして出發以前縣廳に於て親しく全魚を觀察し行きたれば彼の地には専ら土俗の人士に就きて全魚の習性其他に關し研究調査を為したり而して鯨の川を上りて鹹水湖に入るには敢へて珍奇の事象なりと稱すべからず北海道厚岸湖の如き亦た是れなり兎に角叙上の如くして鯨は世界共通の需要を有すれば水産講習所に於ても決して之を輕視せず年々北海道西海岸に練習船を派し其の生殖場等に對し研究調査をなし居る程なり云々因に全氏は今後尚ほ十餘日間縣下に滞在し水産狀況の視察を為すべしと云へり

明治四十二年三月三十日

●本年鱈魚の成績

本月上旬來山形秋田縣等の漁夫百餘名樺太西海岸に渡來越年者と共に鱈魚獲の為め出漁せしも天候適順ならざる為め從漁困難なりしも今日まで數回の出漁は頗る良好にして各一隻一日平均六十束の收穫を得一漁村に於て既に三千石を得たる者さへあり然れども經濟界不況の為め出漁準備を為す能はざりしもの多かりしを以て満足に就業せしものは許可を受たる人員の半數に満たざると云ふ

明治四十二年四月六日

●本年の沿海州漁場の入札

露領沿海州の入札を了へ浦汐より歸來せる漁業家の談によれば入札の為めに浦汐へ渡りたりし日本人は九十四名委任状を渡航者に託したるもの二三十名あり露人は「クレマニコ」「デンドー」「リッチ」等重なる漁業家九名にて競賣は口頭にて競上げ後入札を開き最高者に落札する方法をとりたるを以て昨年と異なり日本人の側には頗る狼狽せり入札保証金は見積額の手額を豫納することゝ為り居れり日本人は右の保証金は單に出額の箇所のみ効力ある者との見解を持したるに露國競賣官は露國の競賣法により保証金豫納の多寡に因り他の漁場をも口頭競賣の際廣く競上げて値上げの便に供せり殊に曖昧なりしは「クレマンコー」の態度にて露國政府と結託せるにあらざるやとの疑はあり昨年帝國水産會社に落札せる百四十四號「エンチンスキー」第七は餘りの競上げ方にて日本人側は手を引き四千圓にて遂に「クレマンコー」に落札せり其外二百五號ポリシレッキー第七は豫定價格千四百十四圓のものを三千四百十五圓に競上げ帝國水産會社に落札せるを日本人側の筆頭として何れも倍額に越へ少くも二百圓位の競上げを見ざるはなく案外の結果を來せり去れど本年は計劃準備をなしたる人々の多かりし事とて不満ながら引受けたり明年は日本人漁業家は益々團結を固くし一致の行動に出て此の不利益を蒙らざるやふ努めざる可からず云々

●樺太定期航の開始

郵船の樺太定期航路は本月より開始する事なるが社外船にして同航路に従事するものゝ昨今を見るに樺太漁場一年の仕入季なる丈に樺太漁場各地に向け輸送漁夫及食料其他賃客共相應にあるも樺太よりの輸出品皆無にて歸港には何れも空船の状態なり

明治四十二年四月十日

●トロール漁業取締反対運動

今回農商務省は六日トロール漁業の取締規則を發布し其漁業區域を限定したるを以て當業者は非常なる打撃を蒙り為めに地方によりては廢業の已むなきに至れるものある由なるが今回九州中國の當業者は全國のトロール漁業者を糾合して福岡市に大會を開き其取締及び漁業區域を寛大にせられたしとの決議を為し一面當局官省に陳情すべく代表者を上京せしむべしと云ふ

●捕鯨解剖問題

○三戸郡湊村漁業家長谷川藤次郎氏等が斡旋の勞を執られ、鮫村蕪島に新設せらるべき捕鯨解剖所に就て、端なく關係漁民の反對を喚起している、而して兩方の意志の衝突点は鯨油か魚類に有害なるや否やにある、即ち長谷川氏は有害でないといへば漁夫が有害であると云ふ

○無害論者は學理上より研究せる結果であると公言しているが、有害論者は實驗上より立言している、而して有害論者は涙を以て訴へているが、無害論者は將來の利益を豫想して説き立てゝいる、即ち前者は飽迄魚族の滅殺は漁夫等の死活問題である、延いて關係村の衰滅の基であると泣いている、然るに後者は將來の利益の為め漁夫の犠牲は止むを得ないのである、此の捕鯨解剖所新設の為め無数の商船が入込んで來る従ひて年來の漁港も築成し得ると樂天的希望を以て語って居る

○要するに此の問題に就ては十分研究の余地あると思ふ、加之斡旋者と漁夫の間に手續上に於て疎隔している点がある、即ち各漁業組合の理事等が專斷の嫌があると云ふことだ、實は此の如く騒ぎ立つに至つたことを遺憾とする、兎に角縣廳の精密なる調査と公平の處決を望むより外ない

明治四十二年四月十七日

●各地鯧漁彙報

▲余別 十三日夜三半船にて二三杯宛收穫あり午前二時頃より天氣俄に不良となり激浪の為め揚網せり▲入舸 積丹入舸村にて去る十三日夜角網にて初鯧傳馬船に八杯の收穫ありし▲積丹過日の暴風後去る九日より投網同日の收穫は余別村中川、丸二、一丁、曲丸の各漁場に於て五尾より三百尾を得たり其他各郡鯧模様無し十一日朝午前二時より西南風の為め揚網せり

▲磯谷漁報 八日夜横澗村及び島古丹村の一部沖合に鯧郡來し各建網に乗り多きは杵一枚半少なきは二三十本の漁獲ありたるも去る九日午後四時頃天候俄然激變西方の風烈しく折角の漁獲物も放棄せしもの多く従て收穫高は約二千五百石放棄したる石數千五百石に及び漁具の破損多く船一隻杵四枚以上なり▲美國の漁報 八日夜より各漁場に弗々收穫あり九日夜種田銀作漁場にて四五杯水口榮吉漁場にて三杯其他二三本乃至五番位の漁獲ありて人氣大に振るへり

明治四十二年四月十八日

●各地鯧漁彙報

▲濱益 十四日鯨二千二百石収穫尚天候次第豊漁の見込なり ▲岩内 九日以來鯨差網は網揚げ出来ず収穫高四千石の外は十三日夜の時化にて九千枚の網と共に流失せり ▲歌棄 十四日夜建網凡そ二千石収穫目下沖揚げ中 ▲島牧 十四日より大漁全郡収穫高凡そ二萬石目下沖揚げ中 ▲爾志郡 十四日朝夕風各建網に悉く乗り港内に引入れたる枠數六厚郡來あり ▲利尻沓形 十四日夜走鯨建網収穫高凡そ五六本近々大漁ならん ▲留萌郡 十四日朝建網差網等に収穫あり尚模様あるも時化の爲め揚網せり ▲美國の豊漁 十四日夜建網に乗り全郡収穫高凡そ四五千石今朝天気俄に不良となり目下揚網中 ▲積丹の公電 十三日夜來岸村字西河に於て五百石以上の収穫あり ▲古宇 十四日夜より翌朝迄凡そ三百石天気俄に不良になり激浪の爲め揚網せり ▲古平 十四日夜より中谷漁場外建網十六統合計五百四十石の収穫あり

明治四十二年四月十九日

●密漁船の大檢舉

▲小蒸気にて突進と海岸の警備

▲密漁船數十艘の内七艘を檢舉

青森灣内に於ける海扇、赤貝類の禁漁中なることは先刻承知し居るに拘らず沿岸の漁民は競ふて密漁に従事し居り一人一日の密漁額三圓乃至四圓代位に上る由なるが夫れかあらぬか本年の如きは北海道若しくは樺太等の出稼を止めて密漁にかゝり居る者多しとの噂もあり本縣警察部に於ても部下各署に命じて嚴重に取締るべきを以てせるが青森署にては一昨日の好天気をトしてこれが第一回の大檢舉に着手せり以下檢舉の状況を記せん

○大檢舉準備 警察部長より督励せられ且は平素よりこれが蕩掃を期しありたる青警署長北條警視は好時期をと待ちに待ちたる檢舉日和が到着せり數日來強風にて汽船まで出港を見合わせた程の天候も一昨日となり近來になき好天気となりたればこれも密漁の日和を待ち居たる漁夫等が先を競ふて出漁せる模様あるより今日こそはと朝來非番巡查十數名を招集して訓令する處あり檢舉の準備をなせり

○小蒸気にて突進 午後一時となるや某會社より雇ひたる小蒸気船に小鹿次席警部の引率する十名の警察隊は乗り速力を早めて密漁の巢窟とも云ふべき茂浦沖を指して進航せり

○沿岸の警備 一方に於ては密漁船の出入りせる海岸最寄り最寄りに巡查を配置し一方小蒸気の追跡を逃れて海岸に來るものゝために警備を嚴重にせり

○密漁船數十艘 小蒸気船は郵船會社棧橋をはなるゝや各自警官の持てる双眼鏡或は望遠鏡を以て絶へず前方を監視し居りしが茂浦沖に近くに從ひ密漁船のレンズに映るもの其の數四五十艘の多きを認めしかば全速力を以て群がる船中に突進す

○密漁船の狼狽 數十艘の密漁船は早や小蒸気船の航行しあるを見たれどもヨモヤ警官隊を乗せたるものとは思はず平氣にて密漁を繼續しありしが益々近付くにつれて嚴然と正服を着せる警官を認め大いに驚き網を揚ぐるやら余りの驚きに只だ打ち騒ぐやら網を投じたるまゝ逃げ出すやら大狼狽せり

○七艘を檢舉す 其の内に逃げ支度の早き者は茂浦方面或は上磯に向け逃走し右往左往に逃げ

廻る警官隊の小蒸気は縦横に追跡して七艘を検擧し小蒸気を以て引き船として凱歌をあげて棧橋に歸着せるは午後五時

○押収せる海扇の數 前記七艘より押収せる海扇の數は實に一千二百個入の仄七十に及べり而して右は全部三寸五分以下の小貝のみなるに更に一驚を喫せり

○検擧されたる者 七艘にて十七名なるが最も多くは奥内村の漁民なり中に稻生の漁民五名あり左の如し

花田園次郎（三五）全網吉（一七）全春次郎（二八）吉崎豊五郎（二九）飯田春吉（二六）濱中兼吉（四八）山崎善五郎（二三）全清蔵（三九）田村豊作（三一）村上仁助（五三）全久次（三四）全豊吉（五三）以上奥内▲蛎崎多與吉（二八）全佐吉（三〇）全惣吉（一四）全鶴松（六一）豊島久太郎（三三）

明治四十二年四月二十日

●沿海州漁區の競賣

浦汐よりの特報

本年度露領沿海州漁區競賣に付いては本邦人に落札したるものは短期漁區の方百十二ヶ所なるが露人の實際競賣に與りたるものは十二三名に過ぎずして其の落札漁區は長期二十九ヶ所短期六ヶ所なり而して競賣金額は本邦人の分のみにして約十七万四千留露人に係るもの約四万九千留入札の際競争の結果評定價格より競り上げたる金額大凡そ三万留にして或る漁場の如きは一千留より千六百留まで騰貴せしもの七八ヶ所ありしは蓋し競賣参加の露人或るものが故意を以て本邦人に對し競賣價格を攪乱騰貴せしめたる為めなり

斯ることは元より漁區競賣法手續きに反せるなるを以て早速我が駐在領事は該委員長に對し其理由の説明を要求し同時に斯かる行為の停止を申込みたるに彼等は兎角言を左右に託し決して露国競賣法に違反するものにあらずとて其後尚引續き前記の如き無法参加者を加入せしめたるに少なからず漁區の評価を騰貴せしめたり是畢竟彼等露人が規程協約の精神に暗きの致す處なりとは云へ不法極まる事例なれば何れ當局者間の交渉問題に移すなるべしと

●露領沿海州の出漁

露領沿海州漁區競賣期の早かりしが故に今より出漁せば鯨漁期の中に合うを以て全漁業者にして本月中出漁する者多からんとし本月に入りて續々海外旅行免状の下附を出願する者ありと謂

●北方移民の韓國渡航

北海道移住民は昨年來殊に減退し本年の如き就中激甚なる減退にして是迄移住して開墾に従事せる者にあつても北海道を見切りて韓國に移住する者尠なからず奇異なる現象を呈しつゝあるが其の原因何れにあるにせよ畢竟北海道を悲觀したる結果ならん然るに驚くべきは樺太の移住農民の韓國に向かふもの多き事にして同島唯一主要の農村たる鈴谷域に在る各農村民は全嶋に於ける一般農業經濟を悲觀するの餘り東洋拓殖會社の韓國農業に多大の望みを囑し全嶋渡航移住の準備をなし居る者尠なからず鈴谷、伏瀧、ルゴーオニ等の農民殊に渡韓者多からんと

すと云ふ

●各地鯨漁彙報

▲余市の大漁 余市灣内十六日より一帯に厚群ありて十七日早朝迄全郡の収穫高約八千石にして尚後模様あり差濱中、大川等は皆無なり▲美國豊漁 十六日夜西風大漁廊下をからめたり収穫凡そ四五千石人気大いに振ふ▲塩谷の大漁 十六日夜より塩谷、桃内迄一帯大々漁にして枠を放せし數二十余鯨未だ去らず海上至て静穩なり▲祝津公電 祝津村山中今井漁場出張にて十一網は沖村はかなりの好漁なるも山碓、畚元場まで十六日僅少の収穫ありたるが天候に激變なき限りは大漁の見込にして鯨來遊沖合に認めらる▲歌棄郡 十六日夜より今日迄建網差網共に大漁海上至て平穩目下必死に沖揚中委細郵報▲鬼脇 連日激浪の爲め十六日夜投網せしに石崎丸ヶ場にて磯舟一杯其他の漁場にても數百尾を得たり海上一二里の間鯨模様あり近々大量あらん人気大いに振るふ▲第一期公報 小樽支廳内第一期四月十五日迄収穫高は合計八千二百九十石にして高島郡は皆無なりし

明治四十二年四月二十二日

●樺太移民収容方針

樺太島在來の移民収容成績を見るに農業上何ら経験なく且企業資金をも有せずして漫然渡航し遂に生業を得ずして窮民の班に入る者多々ありしを以て同島當局は本年度よりは農業上の経験ある者若くは勞働に堪へ企業上相當資金あるものより之を採る事とし同島移民と關係深き北海道及青森外奥羽北陸八縣當局へも其の旨申し送れりと

●各地鯨漁報

▲岩内の豊漁 十七日夜より掘株より雷電に至る海岸一帯即ち岩内全郡に亘りて鯨模様あり差網建網にて約千石、同茅沼村にて二千五百石の収穫あり海上至て静穩▲古宇の好況 十七日夜より泊村管内にて四千五百石の収穫あり珊内方面も大漁の報あるも石數未だ不明▲祝津の好漁 十七日夜祝津山中に於て二千八百石の収穫あり▲古平 十六日夜より十七日朝に亘り二千石の収穫あり▲余市の漁況 十六日夜八時半頃より余市海岸一面の厚群來にして目下陸揚中なるも一万石以上の収穫見込あり差網十本以上二三十本迄建網は一枠より七八十枠迄にして海上至て平穩なるが引續き群來模様ありて人気大いに振るへり▲天賣郡 天賣島にては十七日夜建網にて磯舟に五六杯宛の収穫ありたるが海上平穩にして人気大いに振るへり▲苫前郡 苫前村にて十七日夜角網に初鯨十三尾を得人気大いに振るひ海上至て静穩なり▲焼尻島 十七日群來模様ありたるを以て何れも競ふて投網せるが建網にては一枠乃至二枠の収穫なるも目下沖揚中▲稚内初漁 稚内にては十七日夜前濱にて角網に初鯨乗り三畚乃至十五畚の収穫を得たり

明治四十二年四月二十三日

●各地鯨漁報

▲檜山管内漁獲高 同管内にて確實の鯨漁獲高は生賣五千石、身欠及肥料製造の分二万五千石合計三万石の見込なり因に管内にて爾志郡蚊柱村は中にも未曾有の大漁なりと▲熊石村の大漁

爾志郡同村は是亦大漁にて建差網にて一万三千石の見込▲歌棄郡 八日より十五日まで歌棄郡第一期の鯨漁獲高は建網總數七十一統の内三十一統のみ収穫し凡そ二千石十六日より十七日に至る漁況は近年稀なる豊漁にして目下沖揚げ中なる建網全部にて一万八千石一統二百石より五百石まで刺網は一万八千四百九十放しにて約五千石計二万三千石の見込なり人気大いに振るへり▲積丹の豊漁 十七日夜より西川來岸の建網十統にて十四五艘より二十二艘其他各村にても二三艘より磯船二三隻位又刺網は來岸にて少しく収穫ありたり目下沖揚中なり▲入舸村 積丹郡入舸村に於て十八日の収穫高五千石に達せり▲磯谷郡 十八日千五百石の収穫ありたり▲忍路郡 忍路郡内に於て十六日七千五百石の漁獲ありたり▲高嶋郡 十七日一千五百石の収穫ありたり▲美國 十七日より十九日に至る漁獲高五千石ありたる旨小樽支廳へ着電▲祝津 高嶋郡祝津村字山中にて十八日の漁況は近來稀なる大漁にして穴澤漁場は千二百石を収穫し附近の總収穫高は二千五百石以上なるべしとの報あり

●海扇密漁檢舉續報

△船を乗り捨て逃走

△第二回大檢舉準備

青警に於ける去る十七日の海扇密漁第一回大檢舉に就ては既報の如くなるが全日小蒸氣の警官隊の追跡を逃れ海岸にて檢舉せられたるもの多數ありたるが續報として左に記さんに

△船を乗り捨て逃走 當日別動隊たりし熊谷、古川、逢坂の三巡查は午後二時頃茂浦沖合に小蒸氣の應援として漁船を装ひ突進せる際一團の密漁船は盛んに八尺の台網を使用して漁業中なりしかば好敵手ござんなれと大聲疾呼近づきしに不意の襲撃に密漁船の驚き一方ならず大いに狼狽して逃げ出せしかば何處までもと急遽追撃せしが密漁船も一生懸命なれば其の逃げ足の早き事追撃船の及ぶ處にあらず遂に密漁船は東郡後潟村大字小橋の海岸に上陸し雲を霞と逃げ失せたる後警官等も全海岸に着し見れば船は流されて沖に出で海岸には海扇貝一万五千個及船の付属品遺棄しありたれば犯人は逃がせしも証拠品として押収せり

△精製せる海扇押収 大檢舉をなせる翌十八日青警の岩田、須藤の兩巡查は油川方面より後潟海岸まで密漁船の視察として出張せしが午後一時頃油川の東端にて上山九郎助という駄賃附の荷馬車に會ひたるが積みある蕙包みの箱は海扇の臭するより取抑へ訊問せるに果たして精製せる海扇にて荷主は全村岸井龜之助より横濱及函館へ送るものなりしかば其のまゝ差押へ其の足にて龜之助方を臨検せる處大箱入れ二十六個あり何れへか運搬準備中なりしかばこれまた押収目下取調べ中なり

△第二回大檢舉準備中 青警にては既報の如く第一回密漁大檢舉に際しかなりの好成績を挙げたれば近々第二回の大檢舉に着手する筈にて目下それぞれ準備中なるが今回は如何なる警官隊を派するや事秘密に属するが故に既報するを得ざるも其手順大分意外に出て一艘も逃がさず檢舉するを得べしと當局者は語れり因に平常と雖も私服巡查を海岸に特派し嚴重に取締の方針なりと

明治四十二年四月二十四日

●一期練収穫高

道廳調査に係る本年第一期四月十五日迄の練収穫高は五万五千九百十一石にして之を前年同期の収穫十九万七千九百六十一石に比し實に十四万二千五十石の減収なりとす郡區別内譯左の如し

郡 區 名	第 一 期 収 穫 高	前 年 同 期
山 越		二石
茅 部		一〇
函 館	六三五	八四八
上 磯	五三	一、〇二〇
計	六八八	一、八九〇
松 前	四、五〇〇	三、五五五
檜 山	五一〇	三、一六六
爾 志	八、八〇〇	七、八五〇
久 遠	四、八六五	七、九五五
太 檜	一、四五〇	六七〇
瀬 棚	五	六、二五〇
計	二〇、一三〇	三九、四六六
島 牧	八、四〇〇	一三、三六〇
壽 都	三、九五〇	一一、一三〇
歌 棄	二、一〇〇	三、二五〇
磯 谷	三、〇〇〇	三、七二〇
岩 内	七、三四〇	一七、三三〇
古 宇	九〇〇	二六、九五〇
積 丹	六二七	一二、六四〇
美 國	七、〇〇〇	一五、二〇〇
古 平	五六〇	一五、六五〇
余 市	六八	六、五〇〇
忍 路	四〇	七〇〇
高 嶋		三、八八七
小 樽	二	
計	三三、九八七	一三〇、三一七
厚 田	一	
濱 益	九七〇	七、四〇〇

増	毛	一〇〇	二、五〇〇
苦	前		二六、三〇〇
利	尻		一六
禮	文	三五	一七
	計	一、一〇六	三六、二三三
厚	岸		二五
釧	路		三〇
	計		五五
總	計	五五、九一一	一九七、九六一

次に既往五カ年間の収穫高を掲載すれば左の如し

年次	収 穫 高
三十七年	三八一、七四八
三十八年	二七四、八五七
三十九年	二一一、二三三
四十年	二一八、〇一一
四十一年	一九七、九六一
四十二年	五五、九一一

明治四十二年四月二十七日

●各地鯧漁報

▲留萌 十九日より多少の鯧模様ありしも建網は一二艘刺網は十本位の漁獲なりしに二十日には禮受村佐藤漁場にて暫時に約七八艘の収穫あり其後少しく群來したるも少額より漁獲せず今日まで約五百石なるべし▲雄武 鯧建網は各漁場とも此節大抵準備整ひたるが早く設置したるも、の内幌内村角田宗三郎の漁場にては十八日大鯧一モッコを収穫せり本年當村管内鯧漁の嚆矢なり▲苦前 鯧漁は近來時化續きの為め漸く十八日頃より一般投網するに至り稀に三半船にて二三杯位の収穫あり磯舟にて半分位獲たるもあり投網日浅き故未だ充分の収穫無し▲余市 鯧の群來二日に亘り各建網に悉く乗り孰れも一棹乃至二棹収穫したれば漁家頓に活気を呈し大漁旗を押立て居れるが差網も亦同じく大漁なり中鯧ヒカタ市中為めに賑ふ總収穫高六千石▲鴛泊 二十二日鯧角網にて初漁凡百石を収穫し市中為めに賑ふ近々大漁あらんと期待し居れり▲函館管内 本月十八日より二十二日迄に松浦郡鯧収穫高三千百石上磯郡茂邊地村千三百八十石▲天賣 二十一日朝迄當組合全収穫高凡そ三千石にして建網一統の収穫多きは百石余少なきは三半船一杯乃至二杯なり差網は群來模様無きを以て未だ投網せず既に季節の事とて何れも気を揉み居れり本年の營業建網十四統差網七千六百放なり

明治四十二年四月二十九日

●鯨棲息所調査建議

曩に北海道會に於て北海道に於ける重要水産の一なる鯨魚に漸次減少を來せるに關し國費を以て其の棲息所を調査し之が蕃殖保護を計られたしとの建議案を可決し其の成案は道廳より農商務省に送達され次いで内務省より農商務省に回附され目下其の採否に關し審議中なるが一當局者の語る所に依れば北海道に於ける鯨魚の減少は憂ふ可き事なるも國費を以て其の棲息所を調査せんことは却々容易の技にあらざるのみか今日の財政に在りては之が經費を支出するの途或は殆んど之なかるべく假令之ありとし調査に着手し得るとし後之が蕃殖保護の方法を果たして如何にすべきかは頗る困難の問題にして現在の漁場並びに漁網の制限を必要とするに至るやも測り難く斯くては北海道に於ける重要漁業の地盤を根本より變改するものにて實行の容易ならざるや言ふ迄もなく止むなくば地方若しくは團體組合等の力に依りて協力的に之を企畫せしむるより外に道なかる可く孰れにせよ水産當局者としては可成建議の趣旨に副ふやう何等かの方法を案出したき希望なり云々

●冬期間の三漁業

▲鱈漁と遭難豫防

今次水産協議會の結果として日本海並びに北海方面に於ける鱈漁船の遭難をして減少せしむる方法は最良の方法としては良き漁船を造るに若くはなしと決し西洋型帆船を稍や理想に近きものと為したるも經費と操業上の便否果たして如何あるべきかは今一二回の試験を経るにあらざれば之を確かむること能はず或は事に依り從來の川崎船を改良し波濤を凌ぎ兼ねて防寒を為す為め甲板組織に為すも可なる可く要は漁船の改良を期し危険尠なからしむるやう為すを以て頻々たる遭難の救済を為し得るものと信じ得るも營業者のために計り収支相償ふ策を講ぜざる可からざるに依り昨年十一月より本年にかけ北海方面に於て實地に就き西洋型帆船をして鱈漁に従事せしめ該船の能く北海の波荒く風寒きを堪え得るものなることを試験し得たるも漁獲の比較的多大なる能はざりしに依り經費の能く収支相償ふを得るや否やに關しては未だ精確の断定を下す迄に至り居らず本年も亦冬期を期し營業者を奨励して之が試験に従事せしむる豫定なるが冬期に於ける浮体器は北海の如き寒烈の海上に何等の甲斐なく長き時間を海上に浮游する遑もなく凍死を敢てすべきは遭難船の内にも船中に凍死体を發見する事の多きを見ても知るを得べく漁船改良の一要件として防寒設備の尤も必要なるを認め居れり

▲冬期中の鮪漁

新潟、山形、秋田、青森等の日本海方面に在りては最近夏期に於て大謀網を用い鮪の漁獲を見得るに至りたる冬期間に之あるや否やは疑問に屬し實際に於て魚族の棲息するあるも海波荒き為め之を漁獲する能はざるに因るものなるが將た事實に於て棲息せざるものなるかに付試験の要あり冬期操業に便なる方法を用ひて之を試験する筈なるが日本海と北海は海勢同じ其の結果に依りては北海も亦裨益する所尠からざる可きか

▲鯨の冬期棲息

冬期間に於ける鱈漁試験に次いで行ひたる鯨魚試験の結果に依れば北海道に於ける鯨魚は冬期間は沖合の海底深く棲息するものなることを確かめ得たるも其の果して那處を以て好漁場と

看做すべきかは未だ之を知ることを得ず今冬も亦引續き之が試験に従事する筈なるが鯨魚の果たして深海に棲息するなるものなることを確かめ得たる暁は沿岸に於ける鯨漁業の革新を要するに至る可きか（當局者の談）

明治四十二年五月一日

●各地鯨漁報

▲小樽郡 にては二十七日夜より二十八日朝迄に銭函の金谷與助漁場にて保津船に一杯、伊藤伝四郎漁場にて八十箱、碓張にては久末々吉漁場にて六十箱、山崎彌八漁場にて保津船に二杯、其他朝里熊碓にても僅少の収穫あり總計三十石なりと云ふ▲留萌 二十七日夜より鯨模様あり杵を放せし數六、差網は凡そ五六本の収穫あり總収穫高凡そ千五百石にて目下沖揚中なり又三泊方面にも鯨模様あり建網大漁杵曳き盛んにして留萌港内に七杵を曳き入れたり▲入駒 十六日以來二十七日に至る十日間の入駒村に於ける第二期収穫は約九千石なり▲小樽管内一期漁況小樽支廳管内に於ける本年第一期鯨収穫高は八千二百九十七石にして之を前年同期の五万六千九十石に比すれば四万二千三百九十三石の減差を示す郡別比較左の如し（省略）

尚投網は各郡三月二十七日より始め四月四日に至りて全部を了りたるも氣候概ね寒冷且暴風雪の日多くして魚群の來遊を妨げたるものゝ如く即ち如上の成績に畢りたり因に本期間内小樽、高嶋の兩郡には魚族の群來を見ざりき▲樺太の初漁 二十一日樺太西海岸バイカイザクシ藤山漁場千尾、オダトモ谷漁場にて十九尾、ポンコンタン中塚漁場にて九尾の初鯨を得たり

●遭難船の救助

一昨日午後三時頃堤川々尻に於て一艘の小廻船が浅瀬に乗り上げて救助を求め居るより蜷貝町薪炭商福嶋春吉外九名が馳せ付け救助したるが右は下北郡脇野澤大字小澤山本一之助(三二) 全人養子吉四郎（一七）の二名にて全日朝薪三千三百本を積みて全村を出帆し全時刻に當港に着したるが不幸にして川中の浅瀬に乗り上げた次第なるが薪二千本を流失したり

明治四十二年五月二日

●各地鯨漁報

▲熊石大漁 爾志郡熊石村は十八日朝建網五十一統の中十統は各三百石内外の収穫あり他は皆無なりしも差網は二十一日沖揚を了し五百戸に對し一萬石の収穫あり差網は六年以來の大漁なり▲天賣島 二十二日より二十五日朝迄建網に頗る不平均に薄乗りす又二十三日拂曉より宇太郎兵衛岬鷗鳴一帶群來あり差網放網せしも甚だ薄群來にてこれ亦収穫不同なり之が建刺網の収穫總高約二千石二十五日晝頃より南西風吹き續きて二十六日に至るも投網されず群來の模様無し▲羽幌村 二十九日朝來沖合一圓の群來目下必死となりて収穫中人氣大いに振ふ凡そ四五百石の収穫ありたり▲濱益村 札幌支廳管内濱益村本月十九日より二十四日迄一週間に於ける鯨漁況は二十二日五百七十五石六斗、二十三日六百九十二石、二十四日三百五十四石、合計千六百十六石六斗の漁獲にして二十四日午後警報と共に時化となり沖揚中流出したるもの二百石なりしが本年も前年と同様舊黒金村一圓収穫僅少にして本旬の収穫は全く茂生以北の収穫なりと

云ふ▲紋別村 北見國紋別に於て二十八日鯨五百石の漁獲ありたり▲力晝村 初鯨より二十九日迄の收穫高凡そ千石近々大群來あらん沖模様宜し

●海鼠に関する調査

本縣水産試験場に於ては去る四十年より海鼠に關し學術上未定に係る生殖腺發達の過程及成熟産卵期等を正確に解明すべく之が調査に従事せるが右生産場所は東郡東平内村大字清水川沖合にて深さ十尋乃至十五尋の海底にて海鼠を採捕し形状の大小生殖腺發達の模様其他を四季に亘り調査する也其の重なる目的の一として何年生の海鼠が生殖腺の如何なる程度状態に到達せる場合何月頃に於て産卵繁殖するものなるやを發見し將來之が保護増殖を確實ならしめんとするにあり縣當局者の語る所に依れば前記清水川沖合は縣下の主なる海鼠産地にして二十年以前に於ては海底悉く是れ海鼠なるの盛觀を呈し形状の如き優に二三尺に達するの巨大なる物を産したり爾來年所を経るに随ひ之が蕃殖保護を計らずして徒に濫獲したるの結果著しく其の産額を減少せり然るに海鼠は南海及北海道本縣地方何處にも産すれど兩者多少其の種類を異にし殊に本縣北海道等を以て比較的優良なりと為し遠く支那方面まで販路を有するも近年當地方生産品漸次劣等の域に陥り海産業上憂慮すべき状況也と云ふ而して昨今俗間傳説の全産卵期に入らんとするより過日小岩井技手出張し本年最初の取調べを為したるが尚ほ是より時々數回に亘り出張調査する筈にて來年度を以て一應の調査を完了する見込なりと

明治四十二年五月三日

●各地鯨漁報

▲鴛泊 雄忠士内に三十日朝群來し各建網に悉く乗る收穫高凡そ四五千石の見込にて只今必死となり沖揚中▲禮文 三十日朝より尺忍村各建網の收穫凡そ千石にて鯨未だ去らず全郡の收穫高凡そ二萬五千石なり▲樺太 三十日朝亞庭灣内の漁場三箇所に於て約四千尾宛の初鯨を收穫して人気大いに引立てり▲余別役場管内の第二期總收穫五千石の見込なり▲増毛二十六日迄の全郡總收穫額三萬五千石以上なるも猶群來の模様なれば益々豊漁なるべし▲古平本郡初漁より二十九日迄の總收穫は一萬二千石建網一萬五百石差網千五百石にて種田漁場は一統千二百石臺目漁場は八百石を收穫し其他六百石を獲たるもの七八統あり▲壽都二十七日の夜より二十八日の朝にかけ矢追町より山中に至る各漁場に於て傳馬船に一二杯の收穫あり又た政泊村宇水無の漁場にては四十本位宛の漁獲をなし差網も相當に收穫せり

明治四十二年五月五日

●各地鯨漁報

▲朝里 一日夜より二日朝に掛け保津船四杯乃至一二杯の收穫あり▲樺太 二日朝朝來スズヤ沿岸一帶鯨群來し各漁場二百五十乃至百石收穫せり大泊方面も又群來し人山を築けり▲余市同郡今日迄の總收穫高三萬石▲鴛泊 二十八日迄の收穫額五百石に充たず然るに同夜宇雄忠士内にて約二千石の漁獲ありしと傳へらる

●宮殿下に鮪献上

▲下北郡同業者の歡喜

下北郡に於ける本年の鮪大謀網數は四十ヶ所にして何れも漸く建込を了して競ふて最先なる初漁を祈り且つは支部總會へ台臨の宮殿下へ献上の光榮を得んものと同業者一同の思ひたるところにして神仏の加護を祈り三日恐山竜神の大供養をなすの豫定の處其の前夜之が準備を了えるの刻限に当たりて全郡大謀網の魁たる山崎卯之助、河野榮蔵其他の經營に係る尻屋に於て目方三拾貫近くの初鮪三尾を漁したるを以て諸氏が恐悦措く能はず直ちに定期陸奥灣丸便にて全會社長たる河野氏携帶山崎氏より殿下へ献上台覽に供したる上御食膳に上する筈なりしと是れ實に諸氏が光榮たるのみならず鮪本場たる下北郡の光榮として郡下の全業者は大に幸先よしとし本年の大々漁疑なしと歡喜し居ると云ふ而して献上物の價格一尾七拾五圓にして他二尾の一は函館へ一は青森の問屋へ初賣買の手打ありしと云ふもと有功章佩用たる山崎氏特別社員たる河野氏が赤十字總會に際して眞先に初漁ありたること目出度しと云ふべしとて噂とりとりなりと（注：大日本赤十字青森支部第二回總會を昨午前九時より合浦公園地に於て總裁閑院宮殿下台臨）

●下北郡奥戸の漁報

○鮑漁 奥戸村は古來鮑の産地として名ありこれを漁獲するには元來すべて長き竿（一名ホコ）にモリの如き金（一名ツガネ）を付し突揚ぐる方法なりしを明治拾三年本村何某（注：木村唯八氏）の發明にかかる鮑網の効を奏せし以來近海岸一般これを使用するに至れり故にこの鮑漁の大漁と否とに於ては村民の死活問題にて従つてその漁獲高も萬以上と算せらる明治三十六年後は不漁も打續き随分困難の景況も現出するに至りしも昨年思ひがけなき大漁の為め人氣俄かに回復し小學校舎新築の議すら採用するに至れり今年も去る四月二十五日より差込を開始せしが昨年よりは層一層大漁にてこれまで衰微に衰微を重ねたる本村も漸く活気を呈するに至れりこれまでの経過は一人前一朝大抵四斤より七八斤余りの水揚なり此後益々漁収の見込にて農夫も杣夫も總て各業を擲ちてこれに従事すると云ふ有様なり

○鮪漁 鮑漁に相次いで重要な漁業なり本海岸一帶にて數ヶ所の建設あり目下夫々準備中にて大抵形入れだけは手仕舞投網の日を待ち居れり白砂柳谷漁場のみは最早投網済みこれまでに加藤鮫一本の捕獲ありしのみ何れ近日中に一漁あらんと待ちに待ちつゝあり

○鯧漁 十數年前迄は相當の漁獲もありしが其の後昨年までは只食料丈けに多少の漁獲を見たのみなりし所昨年は思ひがけなき群集あり然し何年となく不漁續きの為め漁具不整理故折角群集せし鯧も漁獲することならず空敷く切齒扼腕せしのみ殊に本年は鮑大漁の為め手不足の為め毎年建込あるタナゴ網すらも揚網し居る事なれば去る四月二十九日夜以來群集せし鯧は夥だしく漁夫の狼狽一方ならず例の油断より漁具の不整頓を來し漸く總計約貳百石許の漁獲ありこの後鮪漁も相當にあるなれば永年に計畫せる小學校の新築も其の實を見るに至るべし人氣益々活気あり

明治四十二年五月六日

●碧海御舟遊

宮殿下近海御巡航

巒峰走り白鷗飛ぶ

青嵐颯々として碧波起らず眺むれば釜伏、平館の山々雲か霞かすがた面白く一沫黒煙遠く立ちのぼりて白帆の揺曳する様もいと長閑なりや實に陸奥灣の春、風光今は最もたずぬべきの時也去ればにや一昨日の午後三時、日本赤十字社青森支部第二回總會に台臨あらせられたる閑院總裁宮殿下には兼ねて御便乗を承はるべく碇泊中なりし駆逐艦に召されて近海御巡航の御なぐさみを催されたり御供の方々は御附武官鍋嶋男爵、松井家従、小澤副社長、岩崎主事、武田支部長、山根師團長、玉利大湊要港部司令官等にて棧橋より汽艇に召されて御召艦に御移乗あり別に御先導艦には二三の陸軍將校、永田警部長、矢継技師、船越、橋本の両佩有巧者及新聞記者等便乗を差許されぬ二時四十分殿下には兩艦總員登舷禮を行ひ天皇禮式の喇叭啾啾たる間に右舷より御登艦あらせられ艦長以下乗組將校に拝謁を賜ひたり時に三時御先導艦は先づ動きぬ御召艦の甲板にも水兵忙はしく立ち廻はり錨を巻くもあれば信號旗を揚ぐるもありて間もなく先導艦に續きて進航を始めぬ兩艦の間隔約二艦身、艦は刻々に速力を増加して堤川沖より野内を過ぎ大浦小浦の浦近く進む頃には通常全速十八哩、甲田の巒峰恰も走馬の如く碧波艦首に砕けて白沫飛散し白鷗艦上を翔りて壯觀實に云はん方なし仰ぎ見れば宮殿下には扈從の人々を相手に舷近く立ち寄せられ御英姿雄々しく一灣の風光を指賞せらるゝ御有様吾等の艦上より有々と拝し得べく殿下が如何に御壯快到わたらせらるゝかは拝察するに餘りありき斯くて浅虫近海を進む頃は御召艦稍々遅れて湯の島わたり嶋近く徐航を試みさせられしとゞに此のわたり風光の佳なるを愛でさせられたる御模様なりしが御先導艦は裸嶋の向ふより左舷に轉廻して帰途につくや御召艦も後を逐うて航路をたどり夫より一直線に青森差して歸港し四時少し過ぐる頃棧橋沖に投錨したり棧橋よりは汽艇前の如く御迎へあり兩艦の總員は御乗艦の時の如く登舷禮を行ひ天皇禮式の喇叭を吹奏して御奉送申上げたるが棧橋より沿道一帶には例の通り一般の拝觀者を以て埋められ殿下は御気色麗はしく御旅館に御歸着あらせられたり因に記者の便乗を得たる曙にては便乗者一同にコーヒを饗され尚ほ通常全速十八哩を出したる時にはシャフトの回転一分時間に二百五十回に達せること、サテは無線電信の装置、水雷発射の方法など懇切に艦内を説明せられたるは便乗者の感謝する處なりき

明治四十二年五月七日

●水産基本調査

農商務省にては豫ねて本邦水産事業の根本的整理調査を行はんとの意向を有し居りしが今回愈々

- 一、近海に於ける潮流の方向及温度
- 一、漁業全般の状態
- 一、魚族の種類及繁殖の状況

等を重要項目として之が實行をなすに決し潮流の温度に關する第一次調査は既に各地水産試験場等に命じて之が開始に着手したる由

●魚付林増置奨励

現在本邦沿岸の立木雑木林中には數千箇所に涉りて適宜魚付林をさだめ之に對しては山林法の規定に基づき伐木禁止を行ひ居れるが近時漁業の進歩は更に之が必要を生じたるを以て水産當局にては此の際一層巖密なる調査を為すと共に増置奨励に努る筈なりと

●各地鯿漁報

▲稚内大漁 三日夜納沙布崎より聲間に掛け一圓の厚群來にて差建網共に大漁なり建網は二百五十石迄の收穫にて今尚盛んに沖揚中總高七千五百石の見込▲厚田の初漁三日夜より四日朝にかけて一帯に模様あり厚田は一杵山中方面よりオツリに亘り二杵收穫せり▲濱益 四日朝より一面の群來總收穫高凡そ一萬五千石▲熊石方面 三日夜より一帯に模様あり百石乃至四五十石づゝの收穫あり▲樺太 西海岸にては本月一日以來西南風吹き荒み投網出來ざりしが三日より風となりし為め一般に投網しクスンナイ方面にて七百石乃至百石づゝの收穫あり▲雄武方面 二十八日より幌内方面の群來し折柄潮勢激しき為收穫思はしからざりしも全組合にて凡そ七八百石の收穫あり當地四月中の漁況は十數年來未曾有の好況なりし

明治四十二年五月八日

●本縣漁業汽船の嚆矢

弘前市土手町呉服商宮川健三氏は昨年本縣水産試験場にて遠洋漁業船新造の計劃あるを聞くや機先を制して總噸數十九噸の漁業汽船を大阪造船所へ注文したるに此の頃竣工し目下日本海を廻航し青森港へ向かひ航行中なるが一兩日のうちに着港の豫定にて本縣にありては本船を以て實に漁業汽船の嚆矢と為すと云ふ今全船廻航後の計劃に就て聞くに不日當港へ着の上は指導の為め本縣水産試験場長渡會技師及喜多山技手の便乗を乞ひ直ちに下北郡大湊へ向ひ全地に於て一切の準備を整ひたる上太平洋面に現はれ上北郡泊村を根拠地と為して本年は専ら鱸、鮫等の漁獲に従事すべく宮川氏の令息某氏は大湊に呉服支店を有し居る間に多年本縣水産業の將來に着目したる結果本船を製造し漁業に着手することになりたるものゝ由にて全氏は昨年來静岡縣へ至り漁業船に乗込みて餘程實務修行に練習を積み居れば今後の活動眞に目醒しきものあらんとなり而して右汽船の構造は本縣にて注文中なるものと略全一にして約二十馬力の石油發動機を据付け居る約五千圓の工費を要したりと云ふ

明治四十二年五月十日

●北洋丸の北海道荒らし

△漁民の激昂、形勢不穩

トロール汽船漁業者と沿岸漁民の衝突に就ては屢々既報する處ありしが彼の久しく本縣沿岸を荒らし訴訟沙汰と迄なり居る北洋丸は今や本縣當局者の強硬なる態度に辟易して更に其の横暴を専ら北海道に振ひつゝあり殊に之が取締法規の實施期は來たる六月一日にして其間一カ月以上の時日あるを以て去月中旬頃より殆ど捨鉢的態度を以て北海道の海岸を荒らし廻り殊に目下鯿漁期中なるより沿岸漁民の迷惑甚だしく彼等トロール漁業者にして顧みる處なくんば今後

如何なる椿事を見んも計られざる状態にあり去る五日にもトロール汽船北洋丸は午後濱益村沿岸に現はれ殊に鯨定置漁業区域に侵入し濫獲を敢へてし鯨漁業者に大なる妨害を與へて逸走したれば郡民大に激昂し之が防衛方法に付民心憤腸し居れり而して北洋丸は其夜小樽に入港したるを以て水上警察署にては直ちに船長を召喚し取調べを為し同船長は濱益にては僅かに章魚一個漁獲せしのみなりと陳辯し居れど尚ほ引續き取調中又た高島郡高島村にても五日晝間に一隻のトロール汽船來りしが一兩日來殊に頻繁に現はれ陸岸より三四百間の近距離に接近することあり去る六日夜は二隻の該汽船殆ど定置鯨漁業区域に接せん許りに押寄せ海面を縦横に疾走して明方近く立退きたり高島は鱈釣漁業盛んなる地にして從來よりトロール漁業汽船の爲めに苦しめられしこと最も甚だしければ村民の憤怒猛烈にして血氣の壯漢等は何事をか凝議し居れりと云へば或は不測の騷擾生ぜんも未だ以て知る可からず尚ほ本縣沿岸にても警戒こそ然らん彼等のことゝて何時來たらんも知るべからざればなり

明治四十二年五月十二日

●下北郡の鯨群來

準備なく空しく取逃がす

下北郡外海岸にては是迄何十年前より鯨の群來したることなかりしに魚道の變はりしものか昨年は佐井地方より東通村字岩屋邊まで北海道に於ても珍しき程の鯨は群來しも漁場や漁具なき爲めに少しばかりの収穫ありしのみにて空しく多大の利益を目の前に見ながら取逃がしたる有様地方の漁民等一同残念に思ひたることは當時の紙上に報ずる所あり本年は如何にしてと注意し居りたる所四月二十七八日より本月に亙り昨年の通り佐井村より東通村大利まで一帯に群來し居るを地方の漁民等を見るに忍びず鯨地引網及び鮪大網等を利用して四五百石の収穫ありたる所もありし由にて此の有様にては今後とも年々群來するなるべく従つて全地方にても完全なる漁場及び網等を準備するに於ては北海道にも劣らず収穫すること疑ひなかるべければ縣廳に於ても鮪大謀網にのみ重きを置かず何らにても出願の際は便利を與へ許可するの方針を採られたきものなり是迄は只鮪大謀網の爲めに下北郡外海岸はあるものゝ爲めに獨占せられ全人の出願なれば一議もなく早速許可せらるゝも其他の者より他の漁場を出願するも一向に許可せざる有様で不公平此の上もなきことなれば今回の如く鯨の群來甚だしく多大の利益は目の前にぶら下がり居ることなれば縣廳や郡役所の當局も依估臆負なく一般地方の利益の爲めにする圖られたきものなりと全郡より來吏し人は語れり

●上磯の鯨

一兩日前東郡平館以北の海岸に近年珍しき鯨漁あり船一艘にて二百石の大漁せしものありといふ右の鯨は形少々小さけれど脂肪多く昨日キリ塩にして續々青森市場に現れ居る由なり

明治四十二年五月十三日

●樺太の鯨漁報

▲樺太亞庭灣 五月二日迄の總収穫高二千四百三十石にして百十二號漁場より百二十四號迄

の収穫なるが其の後時化の爲め揚網せずも四日朝より海上漸次平穩となり鯨模様あるも収穫高は目下調査中▲眞岡附近全上百六十四號ナイポロより百九十二號トウケシの間に於て四千五百五十石の収穫あり▲西海岸 △ウシトマナイ方面 在來の漁業家は去月二十三、四日頃より投網せるも昨年競落の當期着業者は準備不十分の爲め漸く二十七八日頃に投網を了せしが同二十五日イントクシナイよりウシヨロ方面に掛け鯨模様あり五月一日より同四日迄に何れも相當の漁獲あり二百十九號パイカシナイプより二百二十三號イントクマリの間に於て七千五百石餘の収穫ありたる由△クスンナイ方面 本月五日ヲロンペンとトマリヲロ間に於て枠二乃至三の漁獲ありたるも全日午後一時頃より西南の強風となり海上荒れたる爲め止むなく放棄せるものを出し八日頃迄は投網の見込なかりしが如し△パイカザクシ方面 五月三日百九十四號パイカザクシより二百十七號パイカザクシ二號漁場迄三十四箇所の収穫概算は一萬二千三百石にして今日迄の處第一の好況を示し居れり以上の集計は二萬六千七百八十石に達せり

明治四十二年五月十四日

●本縣肥料製造販賣狀況

最近縣廳の調査に係る

▲製造 從來本縣に於ける製造肥料の主なるものは南部三戸郡地方に於ける鰯、鯨、笹目、鱈鮪粕等を主とせる魚肥類にして去る四十年末の調査統計に依るに之が總額三十六萬三千五百八十三貫十五萬六千七百七十圓に達し之に次ぐは弘前市地方に於ける菜種荏種粕類の植物質肥料にして其の産額二十五萬四千五百五十九貫六萬一千十二圓余なりし而して去る四十年には上北郡野邊地町に於て人造肥料の生産ありしも昨年より製造を廃止せり

▲輸出入 次に管外より毎年輸入さるゝ主なる肥料を考査するに北海道よりの魚肥類十六萬二千五百八十八貫六萬五千八百二十四圓を最多とし東京方面よりの過燐酸石灰五十餘萬貫六萬三千餘圓及秋田方面よりの植物質油粕類僅かに之に亞げり而して輸出は前記本縣に於て製造したるもの及輸入と合して重に東京以北の地方へ捌け殊に魚肥類は殆ど前記の全管部外へ輸出さるゝの景況にして縣内の需要は甚だ少なし因に年々輸出は二十六萬餘圓なり

▲需要 縣下に於て販賣需要さるゝ肥料の總額は曾て本紙の既報せし處なりしが使用高の縣下通計は二百七十萬貫余にして價格は二十一萬餘圓なり之を去る三十五年の使用高に比すれば實に三倍余の増加にして殊に南郡の使用高最も多く殆ど縣下の二分の一は全郡の需要なりとす而して其の使用種類は南郡三郡は主として燐酸肥料及其他の人造肥料を用ひ魚肥の如きは單に苗代一部に使用さるゝのみ津輕五郡にありては鯨、鯨鱈其他の魚粕に大豆粕油粕其他窒素質肥料を加味して使用し人造肥料にありては園藝家栽培者を除く外多く使用されざるものゝ如く是れ全地方の理化學的性質に由來するならんかと云ふ

明治四十二年五月十六日

●宮川氏の遠洋漁業船

弘前市宮川健三氏が率先して漁業汽船を新造し去る九日大湊へ廻航したるは既報の通りなる

が其の後聞く處に依れば全船は多分目今上北郡六カ所村大字泊の豫定根拠地に碇泊し若しくは大湊より全地へ廻航するの準備中に在るべく全船体は幅員十一尺延長四十七尺にして総噸數十四噸（十九噸とせしは誤聞）に過ぎざるに機關は二十五馬力を有するより最も快速力なるを要する漁業汽船としては頗る好適なる装置なれども船体は寧ろ稍々小形なるに失せずやと云ふ而して本縣の漁業に關しては目下三戸郡方面出張中なる本縣水産試験場長渡會技師及喜多山技手共に縣下に於ける最始の漁業汽船なるものから奨励の爲め多大の好意を表し漸く發展の兆を呈せる本縣漁業界の將來を慮り之が指導の勞を執る筈にて三戸郡より歸來後多分兩氏共上北郡泊の全船根拠地へ向ふならんと聞く因に船名は太平丸と命名せり

●海扇濫獲

目下禁漁中に係る海扇を濫獲又は賣買し來たる十九日公判に付さるべきもの如左

○四人で二十三箱 東郡東平内村大字清水川村船橋與四郎（三八）全常八（三四）全寅□（五五）龜田徳松（二一）の四人は四月十九日茂浦地内双子島沖合にて石油箱にて二十三個採捕し江戸久八（二三）に賣却せり○一人で十一箱 東郡中平内村浅所飯田□八（三二）は五月六日遠嶋要次郎外四名より石油箱にて十一個を購入せり

●山中で海扇製造

海扇濫獲檢舉の詮議きびしきより東郡油川村大字油川三上龜太郎（三一）平井勇作の兩名は全郡奥内村大字瀬戸子山中奥深き處に於て之が製造をなし居たるを十四日午後認められ石油箱八個差押へらる△尚ほ全郡奥内村大字飛鳥溝江瀧五郎（三五）全又吉全大之助（五一）阿部藤太郎（一八）の四名は四日海上に於て採捕中警察に引致せらる

●身欠鯨の輸入

淡谷回漕店扱ひの第二日高丸及磯野回漕店扱ひの天晴丸は身欠ゞ粕満載昨日入港せるが目下當地に於ける身欠鯨の成行は磯谷壽都産上八圓より七圓五十錢下等全六圓五十錢江差熊石産上七より次六圓岩内産最上七圓五十錢より次品六圓五十錢にして最早需要季節のことゝて上方地方及近在各地よりの注文夥しく賣行好況の様相なり

明治四十二年五月十七日

●海扇の濫獲と東郡理事會

東郡役所にては明十八日郡内蟹田以東の漁業組合理事を召集して海扇濫獲取締に關する諮問會を催す筈なるが其の趣意なりとして洩れ聞く處に依れば今や海扇の濫獲は縣下の至る處に於て行はれ殆ど停止する處を知らざる状態にあり是獨り國産保護の途たらざるのみならず連年引き續き不漁の爲めに慘憺たる窮迫の状を呈し居る多數漁民を馳りて過般の舉に出づるの止むなきに至らしめ遂に漁具を没収せられ剩へ罰金を科さるゝの憂目に遭遇せしむるは法條の存する處固より止むを得ざる次第なれども之が救済の一方法として或る區域を限り一定の時期に於て漁獲を公認されんことを縣知事へ請願せんと欲するにあるものゝ如しと

明治四十二年五月十九日

●海扇海鼠採捕解禁期

▲來たる三十一日で解禁

三十九年十二月二十五日縣令第六十一號に依り海扇貝、海鼠、赤皿貝等の採捕は去る三月一日より絶對禁止されありしが右は本月末日を以て満期となるべければ海扇は三寸五分以下のものを除き六月一日より九月末日まで採捕するを得べし

明治四十二年五月二十日

●三戸郡の難破船

▲乗組六名溺死

去る十六日夜の大暴風の為め鮪漁に出かけたる三戸郡湊村濱通六百十八番戸清水惣吉所有の和船は難破し乗込八名のうち六名溺死し二名は辛じて道佛字榊東二町の處に漂流せるがその外全夜出漁の鮪船四艘は今に行衛不明にて家族らは悲嘆に暮れ居たる處別項の如く岩手縣にて無事なりとの報ありて家族は初めて安心し居れりといふ

●漁船遭難情報

十六日の暴風雨にて三戸郡地方沖合に於ける漁船遭難のことは別項の如くなるが今全方面より縣水産係に到達せる情報のまゝを記載すれば左の如し

▲二十隻遭難十二名溺死

十六日夜鮪流網漁業中の漁船約二十隻遭難し△木村某等八人乗の内二人波に浚はれ一人助かる船無事△清水某等全上六人溺死船全潰△花オイ某全上三人溺死船全上鮫南濱の船全上二人溺死せり

▲九分通り遭難

別報に依れば全夜出漁の漁船は約九分通り遭難せり岩手縣九戸郡八木濱港に於て避難し居れる本縣漁船三十余隻の内二十四五隻は大小多少の被害を受けざるはなく二隻は全く破壊し無事なるは四隻のみ

▲死体十五發見

岩手縣八木濱港に於て本縣漁民死体十五を發見せり

▲天地暗澹

全夜は稀有の暴風雨にて咫尺を辨ぜず沖合にありし漁船は宮古、久慈湊等へ避難したるものゝ如く一旦避難したる後も港内に於て船と船と衝突し依て今回の慘事を惹起せるが如し

明治四十二年五月二十一日

●本年の鯧漁豫想

(北海道大不漁に終らんか)

本年の第一期鯧收穫高は六萬二千九百三十二石第二期は二十一萬七千五百三十七石にして第一期第二期を合算すれば二十八萬四千二十九石なるが之を前年の同期合算に比するに二萬三千九十二石四十年に比するに十萬八百四十五石三十八年に比するに十二萬二千三百四十二石三十

八年に比するに十八萬一千百四十八石三十七年に比するに三十四萬一千二十五石又最近五箇年間平均收穫高に比すれば十八萬八百四十四石の孰れも減少せり然るに既往三ヶ年間の第三期以後の收穫高を見るに如左（省略）

即ち平均五十九萬六千六百五十一石にして若し本年第三期以後去る三十八年の同期丈の收穫ありとすれば總收穫高五十一萬四千三百六十八石に上るべく又三十九年の同期丈の收穫ありとせば總收穫高四十五萬一千八百五十二石四十年の同期丈の收穫高ありとしても四十一萬五千七百九十石の總收穫高となるが之にても前年の收穫高に比し尚且左の如き減少を見る（省略）

右の如くなるを以て本年の鯨漁は遂に未曾有の不漁に終ると見ざるべからず

●難破船情報

○三戸郡沿海各町村及岩手縣九戸郡種市村全中野村の漁船約二十七艘去る十五日より出漁中翌十六日暴風の為め激浪高く岩手縣種市村字八木濱沖合に碇繫避難しありしが全日午後十一時頃右の内十三艘は船体破壊され就中本縣三戸郡戸田利吉所有の改良漁船一艘及び岩手縣九戸郡種市村字鹿糠野口千松所有の小廻船一艘全村字玉川安藤兼蔵所有の改良漁船等は大破を被りたるが幸ひにも乗込員には一名の死傷なく辛ふじて上陸したりと云ふ

○本縣三戸郡階上村大字小船渡七三北條仙太郎は所有の改良漁船に七名の漁夫と共に乗込み去る十五日午後四時頃居村を出帆し漁業に従事中暴風雨の為め針路を失ひ沖合に漂流しありしが十六日午後二時頃に至り俄然船は岩上に突當りたるを一同は陸岸に達したるものと悟り必死となりて上陸せんと努めたるも目的を達する能はず再び激浪の為に押し流され岩手縣九戸郡侍濱字麥生の陸岸より約百間の處に至りしに又々岩上に乗り上げ船体は微塵に砕かれたるより乗組員の内二名は行衛不明となり外六名は辛ふじて上陸し全村中塚健一方に於て救護を受けつゝあり又全村漁業組合にては人夫を出し行衛不明者を搜索せるも未だ發見せず

○本縣三戸郡湊村字黒金佐々木初太郎（三四）高橋末吉（一七）佐々木仁太郎（二二）小清水駒治（三五）伊藤豊太（二六）小清水徳太郎（二八）吉田吉太郎（四〇）の七名は全村字濱通一九伊藤長十郎所有の改良漁船に乗込みて去る十六日居村黒金濱を出帆し岩手縣九戸郡種市村字玉川沖に於て漁業に従事中十六日の暴風雨に遭遇し全日午後九時四十分頃全村字角の濱沿海に漂流し來りしが怒濤の為め乗込員の内高橋末吉、小清水駒治、佐々木仁太郎の三名は海中に没はれ駒治は溺死を遂げ末吉、仁太郎の二名は行衛不明となり外四名は辛ふじて全村に上陸し救護を受けつゝありと

○本縣全郡鮫村大字濱通若松利助（三四）岩崎徳治（二〇）佐川萬次郎（二四）佐野秀治（四四）藤川惣吉（二二）星徳四郎（五〇）磯崎福蔵（二六）岩崎松太郎（二一）手代森福四郎（二一）中嶋末十郎（二七）以上十名は木村源十郎所有の改良漁船に乗込み去る十六日午前八時居村を出帆し岩手縣九戸郡種市村字平内約六海哩の處に於て漁業に従事中暴風雨に遭ひ翌十七日午前三時頃全村角の濱沿岸に漂流し來りしが其際中嶋末十郎は怒濤に没はれ行衛不明となり外船員辛ふじて上陸し瀧口熊之助方にて救護中

○岩手縣九戸郡中野村大字小子内平龜松（三二）南市蔵（三四）小子内馬吉（一六）松下三太郎（三三）鹿糖藤松（三五）全種市村高八木加口重次郎（四四）の七名は同じく去る十五日全

郡全村の曾我所有改良漁船に乗込み居村を去る三十海哩の沖合に於て鮫三十本を捕獲し翌十六日午前五時歸途に付たるに全日午後二時より暴風雨の為め針路を失ひ北風稍々烈しく激浪に弄ばれ全十一時頃全郡種市村字大濱に漂流せしが怒濤の為め船体転覆し乗込員の内原坪仁太、鹿糖藤松の二名は行衛不明となり外五名は全村宿戸竹市太郎方に収容救護中なりと

明治四十二年五月二十二日

●青森近海の貝柱

去月来横濱市場の貝柱は全く品切れなるにも拘はらず昨今チラホラと荷動きあるにぞさては奇怪なることもがなと探り見れば此は青森近海よりの密漁品なること明瞭となれり▲此分毎日千斤内外の手合出来しつゝありと漁師連は巧妙なる手段に依り干魚として輸送せるものなりと▲從來青森近海よりは相當の産出ありたるも今回は更に幾千百倍の豊沃なる大區域を發見したる為め方今正に閑散に苦しめる漁師等にして六月一日よりの解禁期を待つ能はざりしも無理なからぬ事ながら横濱の間屋筋にして若此が仕切りをなさざりしならんには眞逆に頑迷なる漁師等も敢て密漁に従はざりしならむと云ふ斯の如くにして干魚なる假名に依て入荷せる數量は蓋し僅少には非ざるべく公許期にも入りたらば更に莫大の額なるべし惟ふに北海重要産物たる該品が斯る強敵を發見すると同時に彼地に於ける同業者の打撃や亦甚大なるものあるべし▲目下横濱に於ける建相場は上物百斤六十五圓より七十圓にして並物五十七八圓を唱え居る者の如く六月以後は必然の結果一段の暴落を告げ次いで來たるべき北海物の出廻り品に對しては些少の影響に止まらざるべきは無論のことなるべし

明治四十二年五月二十五日

●鯧蕃殖保護調査

△金田北海道水産技師談

本年鯧不漁の原因は漁期鯧群來の時に於て時化多くして投網を為す能はざると或は時化の為め鯧群の沿岸近く來たる能はざりし等によるものなるべきが魚族の年々減少するは獨り鯧に限らず府縣に在ても從來多獲の漁ありし鯧或は鯛、烏賊其他悉く一年毎の薄漁となるは全く人口は増える、人智は進んで漁具は改良され益々漁法が巧妙精緻となるを以て一寸の魚族も悉く網目に掛ると云ふ始末となり其の成長を待つ違なくして漁り盡さるゝ為め自然魚族の減少するに不思議は無かるべし北海道鯧も斯の如く最初刺網は行成網となり又角網となり或は旋網となる有様で魚の成長を待たずして次第次第に稚魚迄も獲るので就中イカナゴ網と稱し年々六七八月の候建網を以てザコ漁を行ふ例なるがイカナゴを漁するは名目のみで漁する處の魚は約七八分通りは鯧子なるが未だ身丈一寸にも及ばぬ稚魚を斯の如く獲り盡すとせば如何にして鯧の蕃殖する理由なからむ鯧保護に付ては此のイカナゴ網漁業の制限あるべしと信ぜり農商務省にても魚族基本調査を為して魚族蕃殖保護の為め府縣にては鯧鯛其他地方特有の魚族に付調査を行はんとする際北海道會より鯧蕃殖保護調査の建議ありし為め北海道では鯧の調査を行ふ事となつて居るが本年八月頃には水産局より特に調査員派遣の事となり鯧調査に着手する事と成て居る

が猿澗湖中の沼鯨は調査の好材料となるであらふ云々

●海扇繁殖状態調査

海扇は三寸五分以下のものを除き本月末日限り採捕解禁と成る次第なるが右繁殖状態調査の
為め小岩井水産試験場技手は昨日東郡夏泊崎附近海底視察の為め出張

明治四十二年五月二十六日

●特産海扇保護に就て

採捕解禁期も愈々來月一日よりと云う目睫の間に迫り來たり沿岸漁民の之が採捕準備に多忙
なる際水産魚介族に關し一隻眼を有する某氏語るらく元來海扇は吾が青森縣及北海道沿岸の一
部に生産する魚介族にして九州地方に於て海扇に類似せるイタヤ貝なるもの産すれども海扇に
比し形状甚だ矮小且光澤美麗なれども貝肉の豐滿ならざるを憾みとす海扇の分布斯くの如く狭
小なれば隨て其の研究調査の如きも從來多く等閑に附され居れば其の生態繁殖特質等に關し今
日直に明確なる知識を得難し去れば本縣令の示すが如く三寸五分以下のものは絶対に之が採捕
を禁じ且年々十月一日より翌五月三十一日までは全介全部の絶対採捕禁止を勵行するも果たし
て眞に全介の蕃殖を助長し得べきものなるや否や實際上に於ては兎まれ學理上は未決の問題に
屬せり唯本縣に於ける過去數十年間の經驗に徴するに全介は凡そ十年毎に蕃殖するものゝ如く
而して残余の九年間に於て多く其の漁獲を見ざるは該繁殖當年の濫獲に基づくものなるや若し
然りとせば來たる六月一日よりの漁獲に就ても十分の注意手心を要すべく海扇繁殖保護に關し
予刃右の一事を宿題として縣下の漁業家に提供するもの也云々

明治四十二年五月二十七日

●帝國艦隊回航期

(六月八日大湊入港)

帝國艦隊は毎年夏期を以て陸奥灣内に集合し諸種の演習を舉行することなるが全艦隊は香取、
敷島、生駒、石見、日進、春日の六艘にして來月三四日頃室蘭に入港し石炭を搭載し夫れより
函館を経て全八日大湊に入港の豫定にて全月中は陸奥灣に於て諸種の演習を行ひ七月一日拔錨
北海道小樽方面に巡航し全中旬再び大湊に歸港九月上旬迄行動する筈因に記す演習地は矢張り
去年の如く茂浦附近なるべしといふ

●海扇採捕要許可

來月一日より海扇採捕解禁に付所々に於て之が採捕準備を為しつゝある次第なるが右採捕に
使用する俗稱八尺網は本縣漁業取締規則第十一條(三)桁網に屬し全網を以て漁業を為さんと
する者は全條に依り知事の許可を受けざるべからず然るに昨日迄に全網使用方に付許可出願せ
るもの一名もなしと云へば漁業者は此の際去る四十年一月二十九日告示第二十九號第二十二の
書式に準拠し左記事項を具備したる漁業許可願を差出し手落ちなきやう期すべきなり

△漁業の場所△漁獲物の種類△漁業時期△漁具數又は使用船數△許可期間△従業員數何人
(以上)

●本縣漁業船の航程

本縣水産試験場の遠洋漁業船は愈々來月上旬中當港へ廻航し來る筈なるが當港に於て一切の準備を終り夫れより全月下旬若くは七月上旬三戸郡方面に出づべく漁期尚ほ早かるべきも遠く大洋に現はれ先づ鯉を漁獲し初功名せんと當局者は今より腕を撫して時期到るを待ちつゝあり

●樺太西海岸鯉漁

水産組會第一回報告

本年の漁況は走り鯉を去月二十四日ノタサン附近に見たるは例年の如しと雖も折柄西南の強風吹き續き去月二十九日三十日の兩日少々緩なりし為めクスンナイ北方エビシ方面少々好漁を催したり五月一日より四日迄又もや西南の強風に逢ひ最も群來の漁期を空しくするに至らしめたり五日北風強となり同夜尚ほ止まざりしも各漁場奮勵多少の収穫を為せり聞く處に依れば北方ウシヨロ附近は頗る好漁にして各二千石内外の漁撈を為したる者ありと尚ほ最北方國境附近は比較的好況のよし海馬嶋亦一回群來せりと云ふ且つクスンナイ方面以北は確實なる漁況を得ざるを以て西海岸一帶の漁報を審かにする事能はざるを遺憾とする處なれども眞岡附近四十八カ所の八十三統にて一萬餘石ノタサン附近七カ所二十統にて一萬二千石餘トマリオロ附近十ヶ所凡そ一萬五千石クスンナイ附近十三カ所六千石ウシヨロ附近十六カ所一萬五千石ナヤシ附近十六カ所四千石海馬嶋九カ所三千石合計約六萬五千石の収穫にして昨年第一期に比し約半獲に過ぎざるべし以上の漁況は天候不良にして漁期を逸したると且つ冷潮の為め群來の遅きは止むを得ざれども此の後に對して多少の杞憂なき能はず

●東郡平内たより

▲水害

去る十六日烈しき東風に加ふるに降雨引續きたる為め諸河の出水甚だしく苗代は大抵浸水苗の流出多く目今漸く一寸以上茂生することゝて再蒔も出來ず農家一般に苦慮し居れり

▲海扇

數月來陸奥灣内にて海扇群集せる場所發見せる以來緒村漁民は競ふて密漁中の處大檢舉の結果何れも恐慌を來し稍中絶せるものゝ如し方今漁民は不景氣に加へて他に漁獲物なく閑散に苦しめる漁師は六月一日よりの解禁期も間近き事とて之が準備に忙殺しつゝあり

▲製造場設置

海扇の解禁期も切迫せる故中平内村東田澤までは各地よりの製造人十二名に對し村有の原野を貸付けたれば製造人は何れも設置の準備中なり

明治四十二年五月二十八日

東京電報 二十七日

▲海軍記念會

本日築地水交社に日本海大海戦の記念會を開き各宮殿下を初め海陸文武官二千餘名參列餘興相撲あり常陸山に梅ヶ谷、駒ヶ嶽に國見山、西の海に太刀山、朝嵐に伊勢濱、大の川に玉椿、外數番の取組にて非常の喝采後ち祝杯を舉げ東郷大将の發聲にて萬歳を三唱し散會せり

▲漁船の補助

農商務省は青森縣の請求に對し石油發動機遠洋漁業船使用試験、漁場調査を命じ漁船建造費補助壹千貳百圓、漁具其他設備費補助三百圓本年度より交付指令せり

大湊電報 二十七日

▲海軍記念會

本日日本海大海戰記念日に付大湊要港部に於て記念會を開催せり午前九時兵員一同はブリッジ前に整列して各分隊長の海戰講話あり午前十時より餘興は始まり假裝西洋舞踏其他各種の餘興は催ふさる此の時恰も青森よりは來賓を搭載し來たれる大湊丸着港したるが玉利司令官以下には棧橋に出迎へて案内したり夫より水雷の爆破各種の餘興を縦覽したる後正午十二時食堂は開かれ玉利司令官の挨拶に次いで君が代の奏樂大元帥陛下の萬歳を三唱し野島歩兵第五聯隊長來賓を代表しての謝辞あり海軍萬歳を三唱歡を盡して宴を徹したり當日の來賓は野島聯隊長横山事務官淡谷市長其他六十餘名朝來の雨霽れたる為め近村の人出多く頗る雑踏せり青森よりの來賓一行は歸途椿山に立寄れる豫定なりしが風波の為め中止（午後一時半特電）

明治四十二年五月三十日

●海扇採捕船五百餘

一日の漁獲一萬圓

明後一日より海扇採捕の件解禁さるゝに付東郡下北郡其外より灣内平館角附近及夏泊岬より脇野澤に至る海面に於て之が採捕に従事すべき漁船は少なく見積もるも尚ほ五百餘艘を超ゆべく是等の漁船一艘にて一日の漁獲十五圓乃至四十圓内外の見込なるが假に二十圓平均とするも五百艘にて一日一萬有餘圓の漁獲あるべし因に右漁船にて使用すべき八尺網は許可を受けざるべからざるが昨日より其の使用を願出づるもの續々あり本日は日曜なれども縣水産係にては特に出動し其許否を決する由

●海扇採捕網出願數

東郡油川よりは一昨日十五統青森市よりは昨日約三十統東郡平内、野内、原別、後潟、蓬田各村よりは合計百餘統の八尺網使用の件縣知事へ出願せり

●輸出入貨物左の如し

磯野扱の第三凌波丸は身欠ノ粕取合千五百個を積み昨日小樽より入港△淡谷扱の草薙丸は身欠ノ粕取合二百三十個を積み昨日壽都岩内より入港荒物三百個を積み直ちに壽都行△全扱の辯天丸は身欠取合千百四十個を積み全夜岩内行△全扱の日本海丸は身欠ノ粕満載本日濱益より入港の筈△共一舎扱の樺太丸は荒物二百個を積み昨夜留萌行

明治四十二年六月一日

●天産六十萬圓

▲海扇採捕の前景氣

灣内に於ける海扇繁殖分布の狀況は屢々既報せるが愈よ今日を以て右採捕の件解禁され五

百餘艘の漁船は各所属漁業組合の旗押立て夏泊岬より脇野澤村に至る海上に於て傍目も振らず之が採捕に従事すべく灣頭為めに近時未曾有の壯觀を呈せんか

▲天與の産物

當市蜆貝町在住の一漁夫曰く、一昨々年も一と頃灣内脇野澤附近に小海扇の群生繁殖するを見しが數日ならざるに悉く姿を隠せり一体海扇は海底にありても能く所を變へる貝類にて三日見ぬ間に其所在を異にし漁師等が安んじて成長を待ち翌年を楽しむ事能はざるものなるに今回は一昨年頃より本年にかけて口に余り動揺したる模様もなきのみならず灣内に於ける解禁以前の密猟漁船の跋扈尠なからざるものなるに而かも尚ほ依然として生成繁殖せるは近頃の不景氣に對する天與の産物と見るの外なし云々因に當市にては全町及び相馬町の漁師約百五十餘名は漁船約三十艘位に五六名づつ分乘し一昨夜夏泊岬方面へ向かへり

▲全村擧げて出漁

東郡油川村長西田林八郎氏昨日来青せるが語りて曰く油川村にては今回の海扇採捕に関し殆ど全村擧げて之が出漁に従事し行かぬは自分と三上重郎兵衛氏のみと因に全村にては火災豫防上人家を距る五十間以上の海岸にあらざれば海扇製造所の建設を許可せぬ方針なりと

▲上磯諸村の出動

油川以北奥内後瀧蓬田より遠く蟹田平館一本木に至るまでの漁村は何れも各二十乃至五六十の船隊を組んで一昨夜又は昨夜より出動し野邊地灣沖合かけて夏泊岬附近へ航進せり

▲採捕陸揚地は何處

最も繁殖状態の豊密なるは東郡平内村大字浪路、稻生、茂浦、浦田沖合なるが如く當市より出漁の漁夫は多く全地水揚げし當市より出張の製造者へ直接賣渡す筈にて價格は石油箱入れ一個二十五六錢乃至四十錢ならんかと云ふ尚ほ右製造品は當市相馬町にも一二ヶ所建設さるべく其他青森東方野内浅虫及前記平内地迄にて二三十ヶ所位建設さるべきか

▲人夫の拂底

右の如くにて海扇製造者は數日以前より製造に要する人夫を雇入れ當市及附近より食料持ち月四五圓の給料にて日雇人夫等を雇ひ行きしかば當市の昨今は甚だしく人夫の拂底を訴へ居れり尚ほ右製造人夫にも不足を告げ女子又は十四五才の小兒を雇入たるものも尠からず

▲何時まで續くか

本年の海扇は實際天與の賜物とも見るべく一網優に石油箱入れ二十個位の漁獲ある所もある由なるが採捕の方法に依りては來る九月末日の禁止期到着の日まで漁獲あるべく追々薄漁に至らんは數の免れざる所なるも十目の見るところ本年中五六十萬圓の産額あるべし

▲小海扇無數

三寸五分以下の海扇は縣令の絶對採捕禁止する所なるが是に反し昨今の不景氣より打算し二三寸に至らばドシドシ採捕すべしとの説を為すものなきにあらざり是等は各漁業組合に於て十分漁業者へ戒慎する所ありて然るべきがそは兎もあれ當市蜆貝町沖合に於ても二寸内外の小海扇は無數に繁殖しありと

▲海扇網許可數

縣知事より昨日許可せしは東郡東平内村六十六統△油川村二十一統△青森市四十七統にして尚ほ詮議中なるもの百三十七統あり

▲昨日より採捕

繁殖地に到達せる漁船は禁を犯して昨日より採捕に従事せるもの多しと情報あり

明治四十二年六月三日

●下北の鮪漁

鮪漁は例年五月より七月末日を以て漁期となせるが本年は魚の大きさ大小不同にて前月二十四五日頃の漁獲物中に小なるは八九百匁の物あり殆ど終漁期に見るの現象なりしを以て當業者は本年の漁況に付悲觀せしが一日下北に漁獲あり尻屋の二百尾を多しとし少なきも四五十ありたる由にて漸く愁眉を披きたりと

明治四十二年六月四日

●海扇採捕彙報

去る一日より解禁されしが縣廳へ報告ありし△初日の景氣を聞くに油川方面は十三隻の漁船中一隻は古船にて阿迦の侵入甚だしく一回投網したるも得る處なくして午後五時歸村せしが其他は三箱乃至十一箱の漁獲あり△當市蜆貝町方面は總計二百箱の漁獲ありたり斯く案外不漁なりしは初漁にて漁場の不案内なると新調漁具を使用せしより少なからず手慣れぬ處ありしに依る如く且つ一般に死殻多しと△相馬町の製造所 當市相馬町海岸に去る一日建設されたる製造所は小山内福士兩氏の分にて此の外柳川、今村、佐末等にも不日建設する筈なるが小山内にては男女三口余名福士方にては十余名の人夫を雇入れ製造しつゝあり因に製造所面積は大抵四百坪位なりとす△支那へ輸出 右の海扇は一先ず煮沸せる眞水湯にて貝諸共洗淨し貝柱、脂肪及俗稱ミヅの三部に分類して脂肪は肥料と為し其他は多く横濱を経て支那へ輸出するものなりと△價格は密漁時代にはビール箱入百斤八十圓なりしが昨今四十圓乃至六七十圓に下落せるも是以下とはならざるべし△漁網許可數 三十一日より二日までに桁網使用許可せしは四百二十九個に達し從來許可の分約百と合する時は五百余なり△海扇の海漬け 解禁前採捕したるものは去る一日まで採捕後海中に漬け置きたれば是等の内には腐敗したるものも多數ありしと△各地の製造所 今日まで建設されたる各地の製造所は油川大字新井田二カ所沖館一カ所蜆貝町一カ所相馬町四五カ所野内浅虫以東約三十ヶ所なるが一カ所一日に付各百圓乃至四五百圓の海扇製造を為しつゝあり△一艘の漁獲八十箱 去る一日當地蜆貝町及産地前濱より出漁の採捕船は其の漁獲一艘に付多きには石油八十箱余少なきも三十箱を下らざりしが油川方面より出漁の漁船は何故に右の如く案外不漁なりしやと云ふに全地方漁民は産地及當地方漁民に比し全貝採捕の方法甚だ熟練せざるに依ると云ふ△追々薄漁 初日の漁獲七十箱余なりしもの甚だ多數なりしが二日目には四十箱位になりたり是は繁殖地の陸岸を距てること追々遠きに至るより随て漁業の自由ならざる事多きが為めなりと△三寸五分以下 目今漁獲最中なるは大抵貝殻三寸五分位のものにして四寸以上は先づ大なる方なるが中には二寸三寸位の小海扇貝も尠からず

採捕され居るが斯の如きは國産保護上十二分の取締こそ望ましかれ但し一漁夫の談を聞くに本縣の海扇は貝殻小なるも肉豊かに北海道産は貝殻大なるも肉少なしと

明治四十二年六月六日

●海扇無盡蔵

六十萬圓は受合ひ

東郡西平内村大字茂浦沖合に於ける海扇繁殖の状態は眞に意想外にして幅員二十丁延長二里に亘る泥土質の海底は海扇の上に更に幾重にも海扇押し重なり居れば幾回投網するも必ず漁獲あり本紙既報の如く五百余艘の漁船は右の狭小なる範囲内に於て毎日舷々相摩するばかりに接近し海底の海扇と海上の漁船と互いに其の数の多きを争はんとするの盛況を呈し居れど而かも一艘五六人一日の漁獲高優に石油箱入平均五十個に達し多きには昨今猶ほ八十箱位の漁獲を見つゝありて殆ど無盡蔵なるやの觀ありとのことなるが之を漁民より製造者へ賣渡しの相場は一箱二十五錢乃至四五十錢なりと云ふ去れば假に之を平均三十錢と見積るも一日一艘の収入十五圓以上にして五百艘なれば七千五百有余圓なるが諸報を綜合するに昨日まで建設されたる油川より西平内に至る沿岸の海扇製造所は約百カ所なりと云へば各製造所毎日使役の人夫を三十名とするも合計三千余名なるべく今日の不景氣に際し昨今市況に多少活気を呈せしも是が為めなるべし尚ほよし右の海扇を本年解禁期中に採捕し盡すとすも全附近東平内村大字清水川沖合には前記の場所に比し繁殖圏の廣汎なる海底に於て小海扇無數棲息し又當市蜆貝沖合にも全介の繁殖し居ること既報の如くなれば來たる九月中までに漁夫より製造所へ賣渡しの分のみにて漁獲高六十萬圓は必ず受合ひならんと

●恐るべき海扇の寄生虫

去る一日より海扇漁獲の解禁されてより市各店海扇を見ざる無きが何れも径二寸位の小貝にて正しく法令違犯なるに當局者は何故取締を励行せざるやと思ひしに是等の貝には皆藤壺と稱する蠣の一種寄生し居るが右は海綿の密殖の結果發生せし者にて法令を恐れ捕獲せざる時は悉く此の害虫の為め海扇の斃死する惨状を來すを以て止むを得ず大小を問はず濫獲し居る由なるが關係者も心痛一方ならず當局者に移牒して何とか善後策を講ぜざるべからずと云ひ居れり

●下北郡にて鯨漁獲

下北郡太平洋面には年々一二の鯨現はるゝを例とするが去る一日にも尻屋崎方面入口村に於て鮪網に一丈五尺位の小鯨入りたれば漁獲し相當の價格を以て他へ賣却せりと尚ほ昨年にも鯨一頭漁獲ありしが迷信の為め將來の薄漁を氣遣ひ其儘放ちやりたりと云ふ

明治四十二年六月八日

●陸奥灣の慘劇

第五日本海丸の火災

船長初百數十人惨死

郵船陸奥灣丸が昨年三月二十三日北海道炭鑛鐵道會社所有の汽船秀吉丸と津輕海峡のたゞ中

にて衝突し無残や河内船長初め二百有余の生靈空しく魚腹に葬られ或は海底の藻屑と化してより爰に満一年又三月にして此の度は近く陸奥灣内東郡中平内村大字小湊沖合陸岸を距てる僅々四哩の海上に於て今や數ヶ月の北海道漁場出稼を終りて各自の故郷に歸らんとし父母妻子故舊の吾を喜び迎ふる顔をば胸中に描きつゝ今數時間の後は彼方の野邊地町に上陸して歸郷の途に就き得べしと勇躍し居る頑丈の本縣漁夫百五十余名を満載せる新潟縣新潟鐵工場株式會社所有船第五日本海丸（百九十六噸）が去る五日午後十時頃全沖合に差掛るや端なくも中央機關部石炭積置場より火を失したる折柄細雨蕭々突磋の間に陸影を認むる能はず黒雲天際を包みて一点の星光だも映さざるさへあるに出火場所の石炭庫なりしことゝて火は忽にして火炎天を焦がすばかりの猛威を振ひたれば哀れ百五十余名の同胞は猛烈なる火威に堪へ兼ね阿鼻叫喚の焦熱地獄も斯や悲鳴と號泣の聲を限りに絞り盡くして果ては死に物狂ひに吾から千仞の海底に身を沈め一時の火熱を避けんとするもの算なく救助船辯天丸の來たるありて纔に内漁夫二十七名船員一名を救助せしも遂に別記の如く船長中山軍之丞氏始め船員約十六名漁夫約百三十余命の慘絶なる溺死を見るに至れり吁悲絶、凄絶、愴絶の極

▲慘禍汽船の航程

前記第五日本海丸は本年の二月進水の新造船にして今回は去る三日午後一時北海道増毛郡茂生村より本縣漁夫約百九十名を乗船させ翌四日午前一時全郡幌村に寄港し全所よりも本縣漁夫約八十名を積み込み全日午前十時全所を出帆し五日午後四時本縣北郡小泊村大字下前に寄港し右の内より約百二十名を上陸せしめ午後四時五十分小泊村を出帆し灣内に入り來たり野邊地港を差して全日午後十時頃小港沖に出現せし砌り前記の慘事を出來せしなり

▲出火の原因

出火の原因に就て正確なる真相は今に至りて知るに難きも生存の水夫山田仲太郎の談に依るに別に失火の痕跡なき由なれば前記石炭積置場より自然出火したるものらしく同船が實際航路に就きてより未だ満二カ月ならざるに本縣鮫村沖合に於て一回小樽沖合に於て一回都合二回右石炭置場より發火したることありしも大事に至らずして消火せることありたるとも云へば多分石炭庫の装置に不完全なる箇所ありて今回の大慘事原因を為したるは眞に近きが如し

▲消火に盡力

右の如くにしてソレ火事だとの聲船内隈なく傳はるや狹隘なる甲板は一時人の頭を以て埋没せられ大混乱を來したるが數名の船員は氣早やに備付のポンプを引出し卒ぎ消火にと取掛りしも損所のあるにや少しも通水せず恨みを呑んでポンプを海中に投げ捨て手に手に小桶を下げ海水を汲みては炎々たる火にブツかけかけしたれど差しも激烈を極めたる猛焰烈火のことゝて何處を人間様かと嘲り顔に只だ只だ燃えに燃え盛り舳部に或は艫部に火を靡かせしより追々船体の動揺烈しくなり東に又西に傾きつゝ幾度か幾度か今にも沈没せんず様にぞ打見えたる

▲船を突進せしめよ

かくて猛火と悲鳴を満載せる日本海丸は今まで進航せる惰力のまにまに右に左に行きつ戻りつ船中の載貨の焼盡するに随ひ船足軽く浮上がり今にも轉覆して沈没せんとするを見るや多數の漁夫は聲を限りに『船を陸へ着ける』と絶叫せしも其の漁夫等自身も闇夜にて咫尺を辯ぜざ

れば陸影の那邊にあるやを知れるにあらず剩へ出火場所が中央機關部なるより船には最早進行の自由なく留まるも生命なく留まらざるも死ぬるを見て取るや今まで火の粉を浴び火傷を忍びつゝ救助を待ちし百二十余名の漁夫は自らの死を急ぐが如く吾れも吾れもとざんぶざんぶとばかり闇夜の海中に飛込めり何等哀痛の事象ぞや燃えつゝある船中に残れる者は今や僅かに二十余名となりぬ

▲中山船長の最後

事や如何に成り行くらんと舳部にありて終始暗黙を守り居たる中山船長は船体の要部既に消失し乗組の漁夫亦た大方身を海中に没せるを見るや最終まで船内に踏み留まれる生存者三戸郡上長苗代村大字根岸上野徳太郎（三〇）外數名に對し唯々『多數の人を殺して濟まぬ』との一語を残し身を躍らして全じく多數漁夫の後を慕ひて底知れぬ暗碧の海中に没せり時に午後十一時過ぎなりし

辯天丸の援救

▲遙かに微光認む

翌六日午前一時頃に至りては船内隻影を認めず余焰天を煽るのみなりき生存者の一致せる談話に依れば五日より六日へ渡り口の十二時前後なりしが何時しか細雨止みて雲収まり月明りほのかに海上を照らし且つ陸影を示せり時しも遙かに一微光の此方を差して來進し來れるを認めたりしかば一旦陸影を差して泳げる遭難者も引返して微光を待てるが此の微光こそ前日野邊地沖に滞泊中なる函館區松田助八所有辯天丸（百七十五噸）が遙かに日本丸の火災を認めて救助の爲め特に來援したるなれ

▲救助に着手

辯天丸の來援したるは午後十二時頃といひ又翌午前一時頃なりともいひ諸説區々なれど午前一時前後と見て不可なかるべし全船は遭難現場へ到着するや直ちに二艘のボートを放ちて約二時間附近海面の捜査に従事し左記の如く船員一名及乗組漁夫二十七名を救助し尚ほ死体十一を収容

△船員の部（一名）

新潟市四ツ谷町二丁目三千六百二番地水夫山田仲太郎（二二）

△漁夫の部（二十七名）

三戸郡根岸村四七上野常吉（一七）全郡川原木村字日計村久保田佐兵衛（四二）上北郡百石村字一ツ目田中正三郎（一八）三戸郡豊崎村字七崎田中三郎（二四）三戸郡下長苗代村字川原木川原木勝蔵（二二）全郡湊村字上山古川佐太郎（二三）上北郡百石村字一ツ目吉田與之助（四六）秋田縣山本郡能代町秋田留五郎（四五）三戸郡上長苗代村字根岸四五上野徳太郎（三〇）全郡湊村字白銀佐々木徳三郎（二三）西郡森田村字山田七戸與助（四一）北郡鶴田村字鶴田吉川吉次郎（三九）三戸郡小中野村字北横町大久保正次郎（二二）上北郡三澤村淋代瀬川榮造（二七）三戸郡下長苗代村字名久井悪虫千之助（二四）全村清太郎（三五）全村仁助（五〇）全村豊吉（一八）全村角時次郎（一九）上北郡百石村字保切川橋本佐太郎（五五）全郡三澤村佃谷堀内佐太郎（二三）三戸郡下長苗代村字名久井川原木藤次郎（三一）全

郡湊村字上山古川徳松（二三）全村柳町島森福太郎（二六）全村出川元吉（二九）三戸郡小中野村字南横町築館吉太郎（三六）三戸郡豊崎村字七崎田中三郎（二四）

△収容死体（十一名）

三戸郡上長苗代村字根岸上野末吉（四一）脇部打傷△新潟縣新潟市船場町一丁目船員口野清吉（二八九）負傷なし△三戸郡浅田村大字口水北上子之（二二）左脚部に打撲傷三カ所ありて出血△三戸郡下長苗代村大字川原木字日計証吉妻福田かね負傷なし△三戸郡下長苗代村大字川原木字日計証吉子供福田名不詳（二）負傷なし△日本海丸船員梶田名不詳（二五五六）負傷なし△北郡鶴田村大字全下山勘助（五〇）全上△三戸郡百石村大字一川目川口榮次郎（三十四五）全上△住所氏名不詳男一人（五十位）丈五尺二寸位、色黒き方、目耳口鼻並顔丸き方頭髮五分刈り着衣黒綿縞の綿ネルシャツ一枚口中より出血し顔面數ヶ所に軽傷あり其他左脚部三カ所の打撲あり出血し居れり△全上男一人（五才位）丈三尺一寸位顔丸色浅黒髪五分刈其他並赤縞ネルシャツ一枚と縞木綿無尻一枚△全上女一名（七才位丈三尺五寸位顔丸色浅黒頭髮亂中肉其他並赤縞綿ネル腰巻き一赤縞の脚半一赤縞ネルの單衣一但袖口赤染

▲勇敢なる機關長

右の内上野徳太郎外田中三郎七戸與助、大久保正次郎、悪虫豊吉、角時次郎、古川徳松等其他合計約二十名の者は中山船長の最後を見届けたる後尚ほ一時間ばかり舷側にブラ下がり連鎖に攀ち或は船底に嚙り附くばかりになりて滞船を努めし者共なるが此の間機關長某（三十六七歳）は絶えず火中を潜り往返して汽笛を鳴らすに努めありしが一人もその最後を認めし者なしと云ふ

▲溺死者は何程なるや

生き残れる山田水夫の談に依れば溺死者は船員十六名乗組漁夫百二十三四名なるべしとのことなれど漁夫等の談を聞くに漁夫のみにて二百余名なりと云ひ居れば未だ確報に接せざるも百五十名内外の溺死者ありたるものなるべし

▲船員の死亡者 左の如し

船長函館區中山軍之丞（五〇）△機關長一名不明（三十五六）△一等運轉手小樽區稻生町高野忠次郎（三二）△水夫長新潟市横七番町一丁目大野次郎吉△火夫四名△機關部火夫及油差しにて計五名△賄部三名

明治四十二年六月十五日

●海扇採捕便り

▲昨今の價格 其後採捕地の模様を聞くに未だ差して薄漁とまでには至らず尚ほ一艘一日四五十箱均しの漁獲あり居れど斯く多大の漁獲あるものから漁師より製造所へ賣渡しの價格は低減し得る限り低減され一箱最低二十銭より四十五六銭五十銭位迄なれど貝殻小なる故三十五銭平均には先ず以て六ヶ敷き有様なり▲漁師等の大コボシ 右様の次第なるを以て當地より出稼ぎの漁夫等は何れも大コボシの体にて昨日までに網新調及諸入費をはぶき一人十圓内外の利得に過ぎずと云ふ之に反し製造者は何れもホクホクものにて一箱より平均貝柱一二斤出し一斤に付

十二三錢内外の純益を得つゝありと▲貝は段々大きくなるを 平内地方の海扇は小貝漸く尠なくなり昨今當市へ輸入の者は概して四寸位なるも本市沖合より採捕の分は尚ほ未だ二寸内外なり▲明治二十五年の海扇 某氏より聞くに全年産出の海扇は總價格四十五萬八千余圓に上りしとのことなるが當年は百斤三十二三圓の相場なりしかば若し之を昨今の時價に見積もる際は優に百萬圓を越ゆべしと云ふ右は夫れより以前明治二十四年頃理學博士岸上鎌吉氏數回來縣し親しく實驗研究を為したる上三年間絶對採捕禁止したる結果なりしと云ふ本年の如きもセメて來年まで成長を待ちたらば更に多額の生産を見たりしならんと▲本市の製造所 昨日までに相馬町に四カ所蜆貝町に二カ所設けられたり

●海扇寄生虫に就て

岸上理學博士の來青

フヂツボと稱する寄生虫蔓延の爲め海扇の斃死する恐れあるを以て三寸五分以下の小貝を止むを得ず捕獲しありしが當局者も之を深く憂ひ渡會水産試験場長より農商務省へ技師派遣駆除法研究せられたき旨請求せし處本日午前九時三十分岸上農商務省技師來青することゝなりたり海扇の外海鼠の研究をも為すべしと云ふ

●市内の海扇網免許數

市内に於ける漁業海扇の桁網を免許されたるは其數五十九件ある由右は何れも陸奥灣茂浦沖のみなりと

●海扇採捕だより

▲本市沖合の採捕船 當市蜆貝町の漁夫は大抵平内方面へ出稼ぎせしが家に残りし老少の者共は一昨日頃より濱町公會堂より蜆貝町沖合にかけ約八九十の漁船を浮べ海扇採捕に従事しつゝあるが一日一人の分け前二圓内外なりと▲浅虫以東の製造所 は左の如し

浅虫二カ所△土屋八カ所△浪打二カ所△茂浦七カ所△浦田八カ所△稻生三カ所△東田澤十ヶ所

右の内浅虫、土屋、浪打合計十二カ所の海扇は案外小にして一箱十八錢買ひの由なるが一斤大凡四百五十粒以上なりと茂浦以東は漸次形体大となり東田澤は三寸五分以上のもの七分通りを占め稻生、浦田は六分、茂浦は五分五厘の割合なるが此の邊は一箱三十五錢より四十錢なり▲製造の方法 は大同小異なるも不熟練の製造者殆ど六分通りを占め惡品を製出し居れり因に茂浦より東田澤までは一箱の海扇貝數百五十より三百二十まで又土屋を中央にして三字は一箱二百二十より五百五十個までの見當なりと▲漁場 は大嶋沖より茂浦嶋までにして去る一日より六日までの漁獲高は船一艘に付二十五箱以上七十五箱なりしも其後稍々薄漁なるが如し▲不正漁具多し 使用の漁具は桁のツメとツメの間に正規の間隔を有するもの六分にして他四分は殆ど制規外なるが各漁業組合より取締員を派遣し漁業者へ懇話しつゝあるも其の効なし▲製造小屋の風紀 各所二三十人以上の夫夫を使用せざるはなきが夜間に於ても全一個所に男女を混同臥床せしめ居れば各所風紀の紊亂甚だしき中に茂浦の瓜田與吉小屋のみ男女寢室區別せりと

●日本海丸遭難義捐金募集

陸奥灣内に於ける汽船第五日本海丸の災禍、何等の悲惨事ぞ、百數十の生靈、水火の慘苦と

戦ふこと數時間、空しく恨みを呑んで惨絶なる最後を遂ぐ、嗚呼何等の悲劇ぞ、殊に遭難者の大多數は本縣出身の漁夫、幾多の心勞を北海に嘗めつゝ、漸く歸郷の途中に於て非命の死に接す、而して憐はれ不孝者の遺族の境遇を察すれば更に悽愴感一層深きものあるを覺ふるなり、誰れかまた涙なからんや、我社は、此の椿事に接して、滿腔の同情禁ずること能はず遭難遺族の爲めに、廣く天下仁慈の士女に訴へ、左の方法により茲に義捐金を募集し、聊か弔慰の誠を表せんとす、庶幾くは一片の同情を吝まざらんことを

- 一、義捐金は一口金拾錢以上とす
- 一、義捐金は本紙上に廣告して受領の証とす
- 一、募集期は六月二十五日迄

日本海丸遭難義捐金

金五圓	米町	渡 邊 佐 助
金貳圓		某
金壹圓	弘前市本町	三 上 新太郎
金壹圓	南郡大杉村高屋敷	古 村 兵太郎
金壹圓	大町	藤 林 三郎兵衛
金壹圓	安方町	川 内 勘三郎
金貳十錢	長島	津 幡 富三郎
金壹圓	裁判所官舎	伊 藤 昇 太
金壹圓	米町増田病院内	梅 村 秀 仁
	全	梅 村 敬 愛
	全	溝 江 すみ子
	全	中 村 いし子
	全	古 我 ひさ子

計金拾三圓貳拾錢

通計金九拾貳圓九拾五錢

●岸上博士の海扇調査

海扇研究の泰斗たる岸上理學博士の來青せられたるは別項の如くなるが本縣滞在は五六日の豫定にて本日茂浦方面に赴き専ら海扇の研究調査を爲し夫れより鮪に就き調査すべく何れも二三日位宛の時日を要すべしとの事なるが若し時日に豫裕ある時は下北郡より再び青森に引き返す筈

●岸上博士の講話

水産調査の爲め昨朝來青水産局調査課長農商務技師岸上博士の水産に関する講話を昨日午後三時より青森中學校に於てなせり

抜け 6/15—11/18

明治四十二年十一月十九日

●青森博物學會

△故箕作博士記念會

本月の同會は予報の通り去る七日（日曜）午後零時半より當市長島小學校内において開會せり同會は先般病没せし我邦動物學の太斗たる箕作博士の記念會を兼ねて開會することゝて會場の正面には同博士の肖像並びに筆蹟を飾り中央及び四隅には翠綠滴る許りの盆栽と黃白爛漫たる菊花の植木鉢を配置し更に場の一方北窓の下には博士の幾多の論文著書親筆又は博士の撮影にかゝる写真等一々博士の記念物を整列したれば來會者に何れも皆此等の景況に對して故博士を偲ばれつゝ着席の上木梨會長は開會を宣し先ず秋澤庄太郎氏は博士の家系経歴並びに性行に就き水越正義氏は伊豆新島又は東京等にて博士に親灸せる顛末を述べて博士の高義に感化せられたる一部始終を木梨延太郎氏は博士の風采態度より慈愛に富める実話に及び更に博士の手になれる幾多の研究論文を一々紹介して博士の着眼の尋常ならざりしことゝ斯學に偉大なる貢獻ありて世界有数の學者たること最後に博士の著書に就きては更に斯學の普及に教育上に關する意見とを詳述して博士の早逝を悼み渡會絹三郎氏は學者としての博士は既に紹介し尽くされたれば之より應用上水産事業に倣されたる功績を述べんとて氏が愛知縣就職當時博士の親しき指導により海鼠の養殖事業に従事し三年にして同事業の成功を告げ爾來今に同地方一般に其恵に依るに至りしは曩に嘲笑せる漁夫をして全く顔色なからしめたりとて博士の論拠は常に精密なる實驗に基礎を置かるゝにより遺算あるなしとて壇を降られたり此に於て木梨會長は閉會を告ぐるに當り去る三十六年八月在相州小網代理科大學臨海實驗所に於いて當時の實驗所長たる同博士には一度は青森の地にも足を向けたしと親しく話されたることありしも或は洋行の為或は病魔に襲はれて遂に博士の志望を達せしめざりしに今や當博物學會は役員會に於て同博士記念會のことを決議し將た又同博士の恩顧を受けたる水越氏の當地に滞在せらるゝありて幾多の記念物を出品され茲に無事記念會を閉づるを得るは偶然の事にあらざる旨を述べ之より會員思ひ思ひに爐を擁して斯學の談話に熱中し陽既に没して薄暮に至れるを知らざりき因に記す當會の會合者は約三十名にして本県各地の小學教員にして同會より招待を受け態々出席せる者も多かりしとぞ

明治四十二年十一月二十日

●東郡水陸物産批評會授与式

去る十五日より東郡役所樓上に於て開設せられたる東郡水陸物産批評會は昨日を以て閉會せるが全日午前十一時三十五分より濱町公會堂に於て夫が褒賞授与式を舉行せり参列せる出品人は百數十名の多きに達し縣廳よりは武田知事田中事務官を初め審査官なる渡會技師工藤青木の兩技手臨席淡谷市長も見えられたり深見會長は挙式の旨を述べ武田知事は本日褒状授与致すべきも本賞状は印刷に間に合はざれば假賞状を交付すべき旨を告げ審査官の審査報告に移る渡會技師は水産出品物に付縣下に於て海岸線の延長冠たるを以て有名なる本區の出産物として出陳

物の寥々たるは甚だ遺憾とする處也と前提を置き出席人の注意を促し然れども其の出品の多くは精良品に属し就中清国貿易品として重要たる『海參，干鮑，貝柱，鰯』等に優良品の出品を見たるは本郡の特産として頗る意を強ふするものありと信ず又た内地向けの出品として鱈の製造品の多数有るも亦た嘉みすべき事にして其の内の焼乾鱈，目刺鱈には頗る良品を見る将来一層産出の多大ならん事を希望す乍併煮干は塩の分量及び煮熟の具合に就き製造區々に分れ且つ製造の方法に就ても尽さざる處あるが如し改良の方法としては例えば地獄煮を改めて笹煮とし竈を改良して煮熟を速かならしめ原料の鮮度を保つと共に生産費の減少を図らん事に留意せられんことを望む譯であるまた田作も原料の選択を誤り居るが如き感ありヨシヤ多少の販路を有するとするも畢竟田舎向きたるに過ぎず甚だしきは肥料とするも尚不十分なるものあり開鮫の出品ありしも全く塩を用いざりし為に外觀見事なるも蛆を生じたるものあり是等は調理を加へたる後に塩に浸して後乾燥するを可とす之防腐の効あると共に味を付するの益あり，と批評し結局一等二名二等四名三等九名等二十名を撰めりと報告

明治四十二年十一月二十七日

●みさご丸と衝突

△鱸部の柱を折る

本縣水産試験場所有船みさご丸は一昨日午前九時本港に郵船會社船入場沖合に碇泊せるが全夜午後八時半郵船高松丸は室蘭へ出帆せんとして浮標を後方に逆転したる折柄風強く吹雪烈しくして咫尺を弁せず付近に碇泊せる前記みさご丸の鱸部に其の舳部を衝突せしめたれど幸ひみさご丸は全部の柱を折斷されたるのみにて他に何らの損害なく無事後進し得たり因に右みさご丸は本月中本港に滞在したる上來月一二日の頃を以て鱈漁の為北海道恵山沖付近に進航せる筈なるが是迄全船に乗込みありし喜多山技手は一昨日より全船を辞して試験場事務を取扱ふこととなり去る二十三日より新に佐浦盛（陸前塩釜の人）氏全船々長の事務を取り扱ひ居れるが全氏は既往七年間獵虎船に乗込み居りし経験ある人なりとのことにて全夜の衝突は全氏がみさご丸初乗りの日の出来事なりし也尚ほ全船今日までの収穫は二千二三百圓に達せるが今後鱈漁にて約四千圓の漁獲を得んと意気込み居れり

明治四十三年一月六日

●青森灣汽船會社

營業の方針に就て

青森灣汽船會社は青森港に於ける唯一の汽船會社なり東北枢要の大港灣にして未だ一人の汽船會社を有せざる青森市は青森灣汽船會社によりて僅かに其の面目を維持せりと云ふべきなり然るに全社の現状、大いに意を強ふするに足らざるものあるは青森港の為に遺憾とせざるべからず今全社が其の位置及び航路より觀察して大いに發展し得べき實質を有しながらも其の發展を見る能はざるは畢竟全社の營業方針の誤れるが為に他ならずとて昨今海運業者間に全社の發展策を講ずるものあり其の説く處に依れば全社は其の本社を堀谷回漕店に置き社務一切を堀

谷回漕店に委託しつゝあるを以て堀谷回漕店は會社の有する繪鞆、神龍の二汽船をして自己の營業以外に使用せしめず甚しきに至っては荷物の閑散なる場合二船とも休航を敢へてしてまでも他の回漕業者に使用せしめざる有様なるを以て自然會社の發展を阻碍し昨四十二年の如き一カ年を通じて三千餘圓の欠損を招くが如き不成績を醸すに至れるものなり故に同社の為めに圖るに全社と堀谷回漕店とは全然別個の組織に属するものなるを以て此際兩者を分離し繪鞆、神龍の二船をして單に堀谷回漕店占用たらしめず荷物次第何れの回漕店にも賃貸使用せしむの方針を採るゝに於ては市内回漕店が急速を要する荷物の為に一々函館若しくは新潟地方より汽船を回航せしむるが如き手數と不利益とを免るゝのみならず汽船會社も自然營業頻繁となりて其の収益の上にも好結果を生ずるに至るべきは見やすき事實なり云々と云へり

明治四十三年一月十日

● 茂浦の価値

舊号の紙上に上北郡愛山町の投書にかゝる「青森と浅所」と題する記事を掲げしが浅所は従來識者間の問題となり來たれるもの次は茂浦築港問題にして先年海軍省にても調査したるとあり當時調査主任なる某海軍大佐は全所を天然の良港なりとして報告したりとのことなりしが左はその調査の結果に基づける某氏の意見なるが参考の為に掲ぐ

陸奥灣に於ける好季節は四月乃至十一月にして船舶荷扱いの頻繁なるも實に此期間にありとぞ然るに此期間の悪風は俗に山背と唱うる東北風にして此風起こる時は常に雨を伴い來たり數日に互ること多し而して此風は青森港に於て荷扱いに不便を與へるを最も甚だしきもの也今青森付近に於て東北風に対して毫も顧慮せざる錨地は

青森を距てる北東八海里なる茂浦のみなりとす

又十二月、一月、二月、三月には北西強風多く其力四乃至六に達す之を此期間に吹く地方の流行風とす

茂浦港は東風及北方に陸を負うを以て北西風を防ぐに足るべき風下区域は別図（略図）中斜線を施せる部分なりとす水路誌にも此辺を最高の錨地なりと記せり此錨地や狭小なるも尚ほ大船二三隻を泊し得べし但し湾口西に開くを以て多少波浪の侵入を免れざるべきならんも貨物の揚陸点は湾内水静かなる所茂浦人家の付近に最も好位置を有す

板の崎と茂浦島と長崎とを接続したる線以南を碇泊地とせば十隻に近き船舶を泊し得べし但し北西風に對しては前記風下区域の他碇泊地の状況概して青森と異なることなし

上記の如くなるを以て茂浦は小規模の碇泊地として青森の副港たるに適し四季共に荷扱いの安全を保ち得べきを以て鐵道の支線及必要の設備成るあらば陸奥西灣に於ける唯一の良埠頭たる可し抑我國東北地方の大埠頭たるべき青森港あるに拘らず之に近く船舶の碇泊地を選定するの主意は好季節間屢々起こる所の東北風及び冬期の流行風強くして青森に於て貨物の揚げ卸しに困難を訴ふるときの用に供するにあり而して此目的に適するの港湾は茂浦を措いて他に良港あるを見ず

又青森に於て四季安全に荷扱いを為すに足るべき築港工事を施さんとせば莫大なる費用を要

すべきも茂浦に必要な設備を為して同様の効力有らしむるには比較的僅少なる費用を以て足れりとす之特に茂浦港の價値を賞する所以なり

明治四十三年一月十二日

●雪の貯蔵に就て

△製氷より簡易なり

△其の用途は水産界

鮮魚の運搬は冷蔵貨車や冷蔵船によると申分は無いけれども普通小資本の當業者には中々難しい交通の便は好くなるに連れて昔の如く塩乾魚の取引をのみ生命として居る理に行かず鮮魚の供給運搬が繁くなる故簡易な設備を講じなければならぬ其は氷を使う事であるが製氷に比し雪の貯蔵は更に經濟である北海道を初め雪のある國では何處でもやって居る事だが本縣の如き氷雪に豊かな地方に在りては尤も必要な事であるさて貯蔵室は山腹山麓等の陰影となる坂に設くる方は好いので深さ六尺位の方形の穴を掘って底と四壁は地温と絶縁せしむる為め菰様なものにて囲み底部の絶縁体の下には溶解水の流れ出る溝を作って排出を自由にする降雪の度毎に雪を掻き集めて水を撒いては叩きつくるか踏みつくるかして堅め穴に一杯になったら藁か菰で日の当たらぬ様に覆ひをなし斯くて夏季使用する時適宜切り出すのであるが至って設備は簡単で且廉価に出来るので水産物の運搬貯蔵には此の上も無く徳用である秋田縣では砂口堀で雪を貯蔵して居るが之も一法で溶解した水は砂の中に吸ひ込むからである云々と渡會水産試験場長の談なり

●灣内汽船の業務擴張

下北郡田名部に於ける陸奥灣汽船會社にては業務擴張の為め當港を起点とし汽船南部丸を本月より毎月十日二十五日の二回に全郡外南部海岸大畑より佐井迄（各地寄港）の定期航路を開始することとなり又當港大湊間の定航時間は是迄大湊出帆午前九時半青森着午後三時の處昨日より大湊出帆を午前十一時半青森着を午後五時に改めたるが青森出帆は從來通り夜十一時半也

明治四十三年一月十三日

●相馬町の難船

下北郡佐井村字牛瀧村野村権太郎竹内利佐吉は去月二十九日漁業の為め出帆東郡深泊沖合に一泊二日迄東郡新田村沖合にて夜を明かし昨日午前一時頃本市相馬町に漕ぎ着けんとして暴風雪裡に激浪の翻弄する處となり水船となって溺死せんとせしが同町の水難救護所員に救助され積荷を流失せるのみにて船は少しく損じたれど人命に無事なるを得たり

明治四十三年一月十九日

●海扇漁獲の近況

客月二十六日より解禁されたる海扇漁獲の近信を聞くに今回は昨年と反對に野辺地に盛んに繁殖しその区域は馬門の近傍より小湊沖合に至る海中至る處に山を成し居るが近海各村の漁獲

盛んに行われ居る結果賣却に競争を生じ目下の相場は石油箱に一ぱいにて金二十銭より二十五銭にて漁夫三人にて一日に風のよき時は石油箱にて五十箱を獲る事を得る由各村の景気頓に加わり仲々の盛況あり

柴田氏の製造所 禁漁以來全方面に海扇の製造所を設けて盛んに製造し居るは全地方資産家二三人の外は當市安方町柴田惣造氏の製造所最も多く馬門，狩場澤，清水川，濱子，浅所，田澤の七カ所に小屋掛けをなし人夫は総て製造所所在の各村より集めて使役し毎製造所男六七名女四十名許りを日雇となし風雪甚だしき時は休む事となし一日給料二十銭を給し居るを以て昨年の夏青森地方より人夫を連れゆきたるに反し雇主に於ても非常の便宜なりという

乾燥法は火力 貝を取り抜きたる貝柱は室にに入れて火力にて乾燥し約三日間にて完全に乾き炭を多量に消費するも夏の日光乾燥法の七日かゝるに比し甚だしく短時間にて出来上がると尚製造品の相場は横濱にて百斤麥酒箱一ぱいに五十圓より四十八圓の間にて目下全品は上海，香港その他南清各地の需要期にて頗る好況なりし

明治四十三年一月二十一日

●漁夫雇入の不振

▲今年は約二萬五千人内外

北海道に於ける鯨漁期も追々切迫し來たりたることゝて過般來各漁業家の漁夫雇入及び貨物仕入の為三十餘名來青せるも大抵は漁夫雇入に付南部及び秋田方面出張目下當市に滞留者は約十數名なるが漁業家も毎年不漁續きなれば從來の如き元気なければ空しく滞在し居るものなく用済のものは直ちに歸北の様様なり而して本年の漁夫雇入賃金を聞くに頗る安價にして平均二十五圓なるが不漁の結果建網を見合はせる者多ければ本年の雇入漁夫は北海道及び樺太兩漁場にて約二萬五千人位なるべし随て之に伴ふ米味噌其の他荒物等も著しく減ずることなれば搭載船の噸數も又た非常に減ずる由にて此の噸數は約七八千噸位なるべし

明治四十三年一月二十二日

●海扇業者の請願 ▲二寸五分以上は認可

客歲極月二十六日より海扇漁の解禁なりしが上北郡野邊地沖合の漁獲は大いに當って野邊地馬門より約百六七十艘の出船あり津輕方面の漁師も船を出し殊に今年は鱈の不漁なる為め殆ど悉く海扇に従事する盛況なるが何分貝が小さく三寸五分以上と嚴重にされては漁師や製造所で口は乾上がってしまふ様な始末故不景気の昨今市況殷賑の策として小さい貝を漁獲してもよい事にして貰わねばと云ふ事にて製造人漁師協同して野邊地警察分署町役場に請願に及びしかば一戸署長井山町長も同業者の意を諒とし其の筋は請願手續きをなさしめ遂に素志を貫徹して一週間計り前より二寸五分以上の海扇なら漁獲してもよいと武田知事より認可ありしに付き漁師等の喜び一方ならず目下毎日漁師は一人六七圓位の収入あり製造高著しく増加し貝柱の横濱輸送頗る活気を呈し居るといふ尚横濱相場は目下四十四圓台より四十六七圓位なる由

明治四十三年一月二十三日

●平館沖の難破船

東郡平館村大字野田番戸不詳藤田萬次郎は船子二名と長さ三間の漁船に三反帆を張りて去る十九日午前九時頃出漁せしが海上一里許りの處にて漁業に従事中遽に強風浪を卷いて船体を転覆しあわや三人とも藻屑とならんとするや恰も時化の為に網を卷いて歸港中なる蟹田村石濱佐藤三四郎口坂専蔵對馬惣吉全貞吉全幸吉の五名に救はれ船は引き船となして辛く野田海岸に引き揚げしが搭載漁具等洗はれたるが如く流失せりと云ふ

明治四十三年一月二十五日

●縣水産會設立

縣水産界の發展を期して新たに水産會を設置し大日本水産會と連絡を保つて種々の事業經營に資する由なるが去る二十日渡會水産試験場長は發起人として水産界有力者三十九名に左の如く通牒せるが二月五日佐末方に於て發會兼相談會開催の由、

拝啓 新年早々定めて御多忙の事と存じ候處此際本縣水産上の前途に關して特に高慮を煩し度儀相生じ候由來本縣は帝國東北の要衝に当たりて近く北海道と一葦帯水を隔て殊に東西北の三面皆海を控え斗南津輕の兩半島相擁して一大海灣を成し候為め沿海線の延長實に百七十有余里に亘り候等海上に於ける利点他に一頭地を挺き従ひて海洋魚族の遊泳幾萬介藻の蕃殖幾千頗る水産の好望地たることは今更多言を要せざる所に候斯く本縣の事情は既に地の利に據り天の産に富み極めて優勝の地を占め居候にかゝはらず從來の統計に徴すれば一ケ年の収利僅か百萬圓内外の少額に過ぎざるは苟も斯業を以て此の世に立てる吾々の深く遺憾に堪へざる次第に候尤も指導奨励の道に關しては夙に縣の經營に依りて水産試験場の設置を見漁撈、製造、養殖の各種に就きて夫々實驗講究を積みたる結果年々伸張の機運に向ひ候へども此の沿岸線の長さ本縣に於て其の實効を一試験場の力のみ待ちて収めんことは猶ほ幾多の歲月を要することゝ考へられ候

本縣の實況上述の如く一日も黙過し難きものあるを以て茲に吾々同志者相謀り縣下の斯業家と協力の上此の無窮なる利源の開發を期待せんが為青森縣水産會を設立し常に縣に於て調査せる成績に照らし各自の實驗したる結果に顧み採長補短専ら各種の研究施設に努め一層斯業の發展を企圖致度來る二月五日青森市魚市場佐藤末吉方へ集合の上會則其の他諸般の必要事項を協議決定することゝ致度候間右の趣旨御賛同相成り當日は萬障を排せられ御來會の程希望の到りに堪へず此旨御案内申上候也

追而會則其他の協議事項は總會の席上にて御配付致すべく候間御了承相成度候猶準備上の都合も有之候に付御出席の有無は來る二月一日までに水産試験場宛御通報相成度申添へ候也

△青森縣水産會規則

以下省略

明治四十三年二月一日

●縣水産會發起人會

既報の如く昨日午後二時より新安方町佐藤末吉方に於て縣水産會創立發起人會を開きたるが
(西) 廣田, (北) 伊藤, (東) 津幡, (青森) 山崎, 佐藤, 前田, 小田原, 柴田, (下北) 河野, 西山, (三戸) 口田

の諸氏外十九名の發起人委任状來會し渡會技師, 小岩井, 喜多山, 杉江の三技手も臨席したるが渡會氏より縣水産會組織につき其の趣旨を述べ夫々既報の規則につき協議したるが

△第十二条役員は會長一, 副全一, 幹事二, 評議員十とあるを幹事長一幹事三と修正し△第二十四条の次に第二十五条本會に於ける總會並評議員會は出席員の過半数を以て定む, 第二十六条本會創立初年の評議員は發起人會に於て選任し追つて總會の承認を受くるものとすの二条を加へ

次に評議員には

(西) 廣田牧人 (一名欠), (北) 伊藤廣太郎, (東) 津幡文長, 田中金兵衛, (青森) 佐藤末吉, 千葉傳三郎, (上北) 米内山與左衛門, (下北) 佐賀清太郎, 河野栄蔵, (三戸) 長谷川籐次郎, 富岡新太郎

の諸氏を選任し尚ほ創立當時の予算は發起人三十余名にて三百圓を抛出することとし總會は來る四月頃開催に決して四時過ぎ散會せり

明治四十三年二月六日

●漁船三百艘の遭難

増毛留萌鬼鹿の沿海

留萌沿海に於ける眞鱈釣漁船は目下三百余艘に達し出漁毎に相當漁獲あるが去月三十日も朝來の晴天にて出漁に屈強の日和なりし為多くの漁船我先にと出漁したるが當日午前十一時頃より俄然天候一變し西北の暴風に加ふるに降雪咫尺を辨ぜず怒濤屢々船を覆へさんとするにぞ一同必死となり歸航の途に就きたるも少しく遅れたる者は何れも遭難し午後五時頃迄に歸岸せる漁船は半數に満たず漁夫の家族知己等は終夜海濱に群衆し篝火を焚きなどして應援し留萌分署員も出張救助に盡瘁し午後十二時過ぎまでに歸着せる者十數艘に過ぎず翌三十一日に至り風雪は稍静まりたるも波涛尚高かりし斯くて其の後に至り鬼鹿方面に避難せるもの數十艘あるを知りたるも留萌町米倉金次郎 (九人乗) 三泊村佐藤政吉 (四人乗) 外十數艘は未だ行衛分からず沿海漁民大捜査に着手したるも今以て不明にして破船の續々漂着するを見れば多くは溺死したる者なるべく佐藤政吉の如きは父子諸共溺死したるなるべしとの事なるが一昨四十一年三月鱈釣漁船遭難に劣らざる惨事なり更に後報を怠らざるべし

●難破船三艘

東郡一本木村大字奥平部奈良金次郎所有の日本形小廻船長運丸七十石積に奈良金次郎外三名乗込み運送し歸航中去月三十一日午前五時下北郡大奥村大字大間港碇泊中暴風激浪の為め錨綱を切断せられ全海岸に漂着せしを村内の漁夫數十名の助力にて全員無事上陸せり

▲福栄丸 下北郡大奥村大字大間廣谷六郎所有の日本形小廻船福栄丸二十五石積に山崎竹松

乗込み全港に空船にして繫留中三十一日午前七時頃暴風激浪の為め錨綱を切断せられ同様▲朝日丸 下北郡大奥村大字大間山崎藤松所有の日本形小廻船朝日丸二十五石積に山崎富三郎外三名乗込み二十九日青森より白米五十七俵粟七俵を歸港中全港灣に碇泊三十一日午前七時頃暴風激浪の為め同断

●今年は無雪

十二月中に二尺以上の積雪があつて一月初旬には泥雪相半ばせる薄雪になつたが昨今の暴風雪は數日にして積雪三尺に垂んとして居る三十八年は近年第一の薄雪であつて全年の當期は僅か一寸越したは零で二月末に一尺二三寸になつたに過ぎなかつた平年よりは薄いが決して薄雪とは云はれぬ寒氣も一月二十六日の七度七分は最低であつたが今月一杯積雪も降れば寒さも仲々引くまい余寒は三月初旬頃迄續くだろうと木村觀測所長は話して居るが今年も農家の心配する年では無いらしい

明治四十三年二月二十四日

●漁夫積取船と期日

北海道に於ける漁夫の輸送は愈々来る二十六日より開始することに決定せるが桂井回漕店取扱に係る漁夫積取船は左の如し

天晴丸二月二十六日積丹古平利尻行△伊吹丸三月一日厚田行△幸成丸全一日鬼鹿行△留萌丸全一日寿都増毛焼尻行△敦賀丸全二日美國古平小樽行△蚊瀧丸全二日増毛留萌行△第二小野丸全二日古平余市小樽行△蚊瀧丸全六日利尻礼文行△幸成丸全六日鬼鹿行△第六勢至丸全六日利尻礼文行△留萌丸全六日鬼鹿行△留萌丸全十日羽幌行△蚊瀧丸全十二日礼文宗谷行

●漁夫輸送開始

當市淡谷回漕店扱いの第五勢至丸は明日野邊地より漁夫を搭載の上入港當市より更に二百五六十名を積取り直ちに岩内、古宇、泊の各漁場に向け出帆の都合なるが本年の漁夫輸送開始は全船を以て嚆矢となす

明治四十三年三月三日

●出稼人夫の通過

北海道各地の漁場行出稼の季節に入りたれば秋田方面及本縣各郡より來青する出稼人夫多數にして一昨日は奥羽線川部、浪岡、大釈迦の各駅より五百名余東北本線の古間木、乙供、沼崎、小湊の各駅より六百名許り來着し市内旅館へ宿泊し居る事とて各旅館とも大混雑を極め濱町新濱町は仲々の賑ひにて小料理店居酒屋等は繁昌の様なり鐵道院にては此季節間各駅に予備客車を配置し何時にても出稼團體の乗用に備へ居れり昨日は午後四時二十六分着列車にて秋田方面より五百三十名來青せり

●伊勢丸の漁夫輸送

函館に停泊し居る郵船會社予備船伊勢丸は北海道歌棄行出稼人夫輸送の為め昨朝四時當港へ入港したるが人夫五百名及漁場行貨物千三百個を積みて全日午後三時歌棄向け出帆したり

●漁夫積取船の出入

左の如し

成田回漕店扱の甲辰丸は漁夫七百名雜貨壹千個米二百俵を積み昨日増毛留萌行△全扱の長幸丸は漁夫壹千名雜貨千三百個を積み昨日濱益増毛行△桂井扱の留萌丸は漁夫二百五十名雜貨三百五十個を積み昨日増毛行△郵船扱の伊勢丸は漁夫六百名雜貨八百個を積み昨日歌棄行△淡谷扱の大成丸は美國利尻行漁夫積取の爲め昨日函館より入港せり

明治四十三年三月十三日

●縣水産試験場傳習部

縣水産試験場傳習部にては規定を編成中なりし處昨日県知事の決裁を得たれば本日告示の筈なるが傳習部は水産に關する學理及び學術を傳習するを以て目的とし本科及別科を置き本科は修業年限二カ年とし學理及技術を兼習せしめ其の學科目及課題は

水産通論（一般水産に關する學理大意）漁撈法（漁具の構成及漁撈の方法）製造法（水産製造器具機械製造品及製造方法）遣船法（漁船構造大意）氣象學（地文大意及海上氣象學大意）算術（大意）博物學（水産動物學大意）理化學（大意）實習

にして傳習期は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る傳習時間は毎週四十時間以内とし時宜に依り伸縮する事あるべく入學志願者は

- (一) 本縣在住者にして水産業に従事する志望確實なる者
- (二) 身体強健にして品行方正なる者
- (三) 年令滿十六年以上にして修業年限二カ年の高等小學校を卒業し若しくは之と同等以上の學力ある者

にして入學志願者の數募集人員を超過する時は修業年限二カ年の高等小學校卒業の程度に依り試験を行い選抜すべしと▲別科は修行年限三カ月以内とし主として技術を習得せしめ學科目及課程並傳習期は隨時之を告示すべく入學志願者の資格は

年令滿十六年以上にして水産業務に従事したる經歷ある者但本人の體質又は従事の經歷等に依りては本項の制限に依らざる事なるべし（他一二項は本科と同斷）

尚三戸郡湊村立湊水産小學生徒にして一カ年以上の過程修了したる者は四十三年度に限り試験の上本科二年に編入する事あるべく傳習生の員数は本科四十名別科は隨時之を定むべしと因に製造事業に限り縣内當業者十名以上の請求ある時は原料の種類又は漁業時間の都合に依り特に出張傳習を爲す事あるべしと云ふ

明治四十三年三月二十八日

●下北漁況

大謀建込準備

數日前より各大謀網漁場は一漁場三十人乃至四十人位宛宮古付近の漁夫入込み建込準備を急ぎつゝあり尻矢岬の如き昨年は思はしき好果を見ざりしにも拘らず本年は更に一新場を企つる

ものあり三漁場相隣接して各々好漁を自信確望するの形勢なりと

鯧漁豫想

一昨年東通及北通沿岸各所に鯧の漁獲ありて以來去年は又々大群來あり折しも各漁家の不用意漁具の不完備なりしにも拘らず意外の大漁をなせる部落もありしことゝて本年は何れも多少の漁獲を期待し心切に一獲千金を夢みつゝあるの有様なり因みにいふ昨年の大群來は五月上旬にして沿岸各所に産卵したれば孵化せし鯧子の群遊しあるあり又客冬以來小鯧子の激浪の爲めに寄せ上げらるゝが拾はるゝこともあり尚又昨年一昨年と打ち續きての漁獲なれば畢竟潮流の変化に至大の關係あるものにして或は爾今第二の北海道たらんともやと沿岸各村いづれも漁期の至るを千秋の情勢なりといふ

明治四十三年三月三十一日

東京電報

▲漁港候補地調査

農商務省は四月早々候補漁港百餘ヶ所の調査を為す先づ青森より静岡に至る太平洋沿岸を調査して後全國に及ぼすと

明治四十三年四月二日

●各地通信

▲東郡今別便

○鮪大謀漁場 三厩村工藤此吉氏等の共同經營に係る濱名鮪大謀漁場及山崎大田三太郎氏等の鮪大謀漁場とも既に陸中宮古、津輕石方面より多數の漁夫を雇入れ本年の大漁を確信して昨今勇ましく網入れ準備中なり

▲浅虫たより

○浴客満員 湯之島の福壽草も春風に吹き乱れ八幡山遊園地轉山等の青草萌え一日つゝの陽気に裸島附近の汐干狩等を為し春の浅虫各温泉宿は満員にして約千名以上と見受けられ學生多數入込居れば旅館商店は活気を呈したり

○湯之島の賣店 洞口他二三名にて湯之島へ賣店設置の計畫中舊三月三日の汐干迄に落成して大いに遊覽者の便をはかる由

○汐干狩繪はかき 今回島津商店主人は同繪はかきに意匠をこらせし組物の由にて外に浅虫附近の奇巖風景等の繪はかき十枚綴り帖汐干狩記念スタンプ押捺して發賣する由

明治四十三年四月三日

●下北郡大畑便り

小林區保管の木材拂下に相成候由にて盛んに汽船に積入れ或は積入れ準備中に有之人夫不足のため青森方面よりも四五十人入り込み居り申候△鮪大謀網も期節に相成りそろそろ支度に取り掛り居り申候本年は山崎氏關係の漁場に與ふる優勝旗調製に相成り候にて各腕を扼し居り候△

漁業組合の建物を買入れ區の公會堂とする筈にて役場地所内に昨今盛土し居り候右は平野勇造堺誠太郎二氏の寄附に依て建設に相成る由に候△此の間小學校に於て小岩井技手の水産講話有之三十余名の聴講者有之候

●小廻船の轉覆

去月二十八日午後一時頃東郡油川より出帆せる小廻船あり所有者は後潟村左堰の相馬千代吉（五九）にて乗組員は千代吉外工藤寅之助（四五）山口政次郎（四四）、工藤巳作（四二）の四名にて網十六丸縄一丸白米一俵大釜一箇柏木皮十丸糠四俵を積み左堰に歸航の途奥内村飛鳥の海岸を離る百五十間位の沖合に於て突然強風に逢ひ轉覆せるが之を見たる全村溝江市太郎全市彌の兩人は救助の爲め舢を出して救護中村民十一名が三艘の船にて救助に盡力し人命は勿論積荷までも救助の目的を達せりと

明治四十三年四月八日

●青森市の水産漁獲物

昨年度に於ける本市の水産漁獲物總高は四十二万一千五百七十貫此の價格三十万六千三百六十二圓なるが海扇の十五万貫此價格二十万圓を始めとして重なるもの如左

鰯三万七千八百圓△鰈一万六千九百圓△鯖一万三千六百五十圓△油目八千二百二十五圓△そい四千五十圓△金頭五千百圓△鮫鱈三千五百圓△（魚類）其他計十万二千七百七圓△ほや百五十圓△うに六百二十五圓△海扇二十万圓△（介類）其他二十万九百四十五圓△烏賊三百三十圓△鱈（やりいか）一千二百二十五圓△なまこ四百八十圓△蟹五百七十五圓△（水産動物）其他二千七百十圓

因に海藻類收穫は皆無なるが前記の價格を昨年の收穫十五万圓に比せば約倍數に達せり

●渡會技師の上京

渡會技師は本日開らかる可き傳習部の入學式に臨み終了次第全國水産試験場長會議に出席の爲め上京すべしと

明治四十三年四月十二日

●西郡深浦便

○大謀網 入前崎大謀網の三橋政治氏六日當地に着せり投網の準備殆んど整ひつゝあれば不日着手すべしと云ふ當地方海面は魚類の棲息確かに多きも奈何せん土地に相應の投資者無く亦一般漁具の購求力に乏しき折柄なれば事業施設の方法及設備に依りては慥かに成功疑ひなかるべし今回の大謀網は必ずしも地方漁業界を益し且つは西海岸に於ける斯業の先覺者たるべき事疑ひを容れざる處なり山海の利優りたる深浦に斯かる事業の年々増加して地方産業を開拓せられん事は村民一同の希望してやまざる處なり

○中林書記の辭職 多年深浦村役場の書記として勤務し事務の敏捷執務の熱心を以て聞へたる書記中林長一郎氏は今回實業方面に新活路を啓き社會的活動の舞臺に乗り出すべく去る五日其職を辭せり深浦村は爲めに好事務家を失ひたと云ふべし

○汽船江陽丸 樺太行き漁夫搭乗の爲め七日午前汽船江陽丸入津全午後出帆せり

明治四十三年四月十四日

●口廣沖合の海扇濫獲

東郡東平内村大字口廣沖合にて去る七日海扇を濫獲せるもの二十餘名を發見したるが事件は昨日區裁判所へ廻附さる

明治四十三年四月十五日

●海扇濫獲者二十余名

東郡東平内村口廣阿部由助（一六）阿部三郎（二三）太田鐵次郎（二一）の三人は去る六日狩場澤沖合で石油箱にて三拾箇採捕し全村江戸留次郎へ賣却したり△全村井筒市三郎（三七）全三次郎（一九）江戸辰五郎（三一）の三人は七日石油箱で二十箇を採捕して井筒權吉へ賣却したり△全村阿部重太郎（五〇）八戸源之松（二二）江戸彌之助（二一）等は七日三十箱を採捕し江戸留次郎へ賣却せり△東平内村清水川船橋松太郎（四二）全松三郎（二八）全さき（二六）等は七日三十箱採捕したり但しさきは起訴されず△全村鳥谷部喜八（三九）全伊乃松（五九）全しの（一五）三名は七日三十箱を採捕し鳥谷部要吉へ賣却したり但しシノは起訴せられず△全村大字狩場澤田中與助（三六）は七日海扇二十六箱を採捕せり△全村田中三之助（三五）金澤清三郎（二四）赤坂岩太郎（二〇）は石油箱で十六箱を採捕したり△中平内村大字東瀧菓子小賣商遠藤與三郎（二九）全職竹内平太郎（三一）は九日三斗入吠に八箇を採捕したり△全村大字浅所三津谷石五郎（五六）濱田定吉（四五）は吠入二箇を全上

明治四十三年四月十七日

●九百二十圓損害要償

▲回漕店堀谷と磯野の確執

市内新濱町合名會社堀谷回漕店代表社員堀谷惣太郎は去る十一日市内濱町回漕店磯野商店青森支店主人磯野吉太郎を相手取り金九百二十四圓五十錢の契約金取戻及損害要償の訴訟を青森地方裁判所へ提起し來月三日公判に決定せるが其原因とする所を聞くに原告堀谷は去る四十一年七月一日訴外市内安方町佐藤末吉より東郡三厩村大字宇鐵所在の生鮪一千五百尾を當市まで運送の爲め適當汽船差向け方を頼まれたるより堀谷は右荷主に代はりて被告磯野が當市に於て營業せる回漕店に交渉したるところ全店にては三百圓の賃金ならば申込みに応ぜんとて其所有船なる高砂丸を即夜十二時までに出港せしむべき約束成立し其保証として堀谷より磯野に金二百圓を交付したり然るに磯野は如何なる譯か右契約を履行せず高砂丸は他の運送に従事する爲め福山地方へ出港し去りたり堀谷は此事を覺知するや急遽他船を求むる事に奔走し荷主佐藤は漸く翌朝に至り他汽船を仕向けて其運送を爲すを得たれども以上の如き時機の遅延より荷主に對し鮪賣却値段につき金七百二十四圓五十錢の損害（品質及相場の下落）を生ぜしめたるより荷主佐末は之が要償を堀谷に迫り堀谷は尤もなりとて之に應じたるが右は結局磯野の契約違背

より生じたる損害なれば之が賠償を求め且つ先に保証として交付したる金二百圓の返還を要求するものなりと云ふにある由

●賣買の禁を破る

東郡東平内村大字口廣江戸留次郎（五〇）は目下賣買禁止中に係る三寸五分以下の海扇介を去る六日全村阿部三郎外二名より買受け又た全村大字清水川鳥谷部要吉（三八）も四月七日全村鳥谷部金作より全様の事を為したる為め何れも二十二日公判開廷

●海鼠も採捕されず

海扇を採捕して罰金に處される為め公判に付されたる者は二十餘名ありたるが海鼠も目下禁漁中なるに下北郡川内村大字川内福嶋松次郎（二八）は其禁制を犯して去る十日全六十個を採捕したるより來る二十二日公判に付さる

●漁業法違犯の罰金

東郡蟹田村小川三郎は既犯せる漁業法施行規則違犯にて去る十五日罰金三圓に處さる

●白米其他輸出

磯野扱の樺太丸にて一昨夜函館に向け白米取合二百七十五個岩内に全三百個小樽に縄筵取合三百個輸出せり

●輸入貨物

昨日室蘭より石狩丸にて生魚三九、蒲鉾五、焼魚五

●蛟龍丸の出港

當地共一舎扱蛟龍丸は北海道北見國網走行人夫百十名を載せて一昨日午後五時出張せり

商 況

▲正米（保合） 爰許正米は東京期米の昨日より稍々上鞘を顕はし跡益々手堅き模様なれば産地は依然頑強に賣惜み居るのみならず各地に引合ふ處殆ど一もあらざれば最早悲觀賣は之なかるべく此の處依然睨み合ひの商状にて津輕玄米十二圓同次十一圓五十錢一等白十三圓三十錢二等十三圓十錢同三等十二圓九十錢秋田二等白十三圓三十錢同三等十二圓九十錢の成行なるが跡定期の引續き變動あらんには連れて高下は免れざるべし

▲肥料（高保合） 日増需要期切迫の折柄弗々賣行あり相場は追々在荷の減退に伴ひ又々十圓方の高値を顕はしたるが本日相場は鰯玉粕上々千七百十圓全上千六百八十圓大豆粕壹枚壹圓六十四五錢の成行なり

明治四十三年四月二十日

●漁船改良并に救済

△試験場長會議の決定

先般鹿島灘に於ける大遭難より農商務省に於ては大いに漁船改良其他救済方法を講ずるの必要を認め此程開會せる全國水産試験場長會議に之を協議したるに満場一致を以て大要左の如く決定したりと

一、漁船の改良にして明治四十年第十一號の趣旨を敷衍し之を勵行する事

- 一、流網等の沖合漁船を西洋型と為し階梯として此種漁船の試験及乗組員の養成を為す事
 - 一、天気豫報を可成實際的にし漁船をして暴風警報を利用せしめ警報の方法を細密にし其種類及び低氣壓中心と進路を明かにする事を要す
 - 一、漁業に必要なる地點に測候所を増置し又は漁業組合等の豫報所を設けしむる事但し測候所及豫報所の位置を選定する事
 - 一、漁業組合事務所に晴雨計を備付くる事、漁船には沖合に出る種類に依り空口晴雨計を備付けしむる事
 - 一、出船後気象の大變化あらん事の報知を受たる時は適宜の方法を以て之を漁船に急報する事
 - 一、漁夫に通俗的の氣象思想を注入する為講話會を開き颱風避難法等を解せしむる事、銚子のチョキ船の如きものには特に警報に依り進退せしむる事
 - 一、標識の設置即ち燈臺を適當の位置に設る事、燈竿漁船出入の為是等の設備を為し暗夜の水路を知らしむる事、『ブイ』を設け港口の暗礁等を知らしむる事、銚子港の如く潮の干満及び河水の増減ある處には潮時報設備をなす事
 - 一、避難港修築の調査設計を為さしむる事
 - 一、水難救済の方法を完全にする事、遭難多き地點に於て常に救命漁船を設備する事、消防夫の如き組織を設けしむる事
 - 一、遺族救済の方法は貯蓄又は保険の方法を設けしむる事
- 以上の各項は各府縣知事に於て夫々設備實施の事に決したる由

●海扇の密売

東郡油川村平澤口助（四八）は去る十六日午後四時頃中村甚之丞の小廻船に乗り東平内村清水川沖合に至り海扇の密漁者より三寸五分以下の海扇五万個を六圓五十錢に密買し自宅に持歸り土間に隠し置きたるを三上巡查の知る處となり漁業取締規則違犯として告發され昨日検事局へ書類のみ送られたり

●荒物輸出

淡谷扱の第一日高丸にて昨日岩内に向け荒物取合二百五十箇輸出せり

明治四十三年四月二十二日

●北海道の生鯨漁業

△昨年度より増収

本年第一期の生鯨漁業に於て初漁以來最も好成績なりしは岩内、忍路、高嶋の三郡にして同地は常に天候適順にて風廻りの為め沖揚げも無事に終了せり之に垂ぐは美國、古平、余市郡にて中には好漁を以て目すべからざる處もあれど概して相應の收穫をなしたり其他函館附近より檜山近海歌棄、壽都方面は例年四月初旬より中旬に至る一期間は最も有望の季節なるに渉々しき漁報に接せざりしは遺憾なりしも其後の模様は極めて良く遠からず恢復の望みあり石狩沿岸より天賣、焼尻、利尻、禮文は今後は好成績を見るべく期待されつゝあり今各地の報告を基礎として本年第一期の總漁獲高を概算するに實に二十二万五千五百石にして之を四十一年度の二

十五万二千五百石に比すれば二万七千四百石の減収なるも昨四十二年度の十二万九千五百石より見れば實に九万六千石の増収なりと云ふ

●樺太漁業は豊漁

樺太に於ける鯨漁の状況を聞くに本年は解氷後殆ど流氷の影を見ず海温常に高く海藻密生せる為め自然魚族の來遊を誘致せるものゝ如く例年初漁は四月二十七八日頃を以て季節とせるに本年は之に比し半月以上早し斯の如くなれば漁業者は何れも前途の豊漁を信じ居るものゝ如し而して各地の漁報を綜合すれば概算去る十六日迄に既に西海岸のみにても總收穫高は七千石に上り居るものゝ如しされば愈々盛漁期に入らば多大の漁獲ある可し

明治四十三年四月二十三日

●下北の漁信

△果然鯨の群來 沿岸各漁人が心竊かに多少の漁獲を豫想しつゝありたる鯨は果たして豫期を空しゅうせしめず去る十七日以來大畑より岩屋海岸一帶に群來の様あり瀕海各所續々として多少の漁獲もありたれば何れも血眼にて中原に鹿を争ふの活況なり

△下北郡第一の鮪漁場 として又山崎卯之助氏の金庫として夙に其名を知られたる東通村尻労大謀網は十七日劈頭第一番に建込を了し尚其他の各漁場も建込準備を急ぎつゝありと

明治四十三年四月二十五日

●第一期の鯨收穫高

前年より約十二万石増収

北海道廳水産係の調査に係る本年第一期（四月十五日迄）の鯨總收穫は十七万七千四百六十九石にして是を前年の同期に比すれば十一万二千六百六十一石の大增収を見たり更に之を最近五カ年間の平均額に比すれば約一万五千石の減収なりと雖も道廳の報告に依れば岩内郡は四万一千石とあるも實際収量は六万四千石に達せるは疑ひなきものゝ如く此他高嶋郡は一万五百余石忍路郡の如きも六千石餘との報告なるが其實際收穫は忍路郡一万石以上高嶋郡は一万五六千石なるは事實に近きを以て實際の總收穫は少なくとも二十万石を越え最近五カ年平均よりも却って豊漁を見るに至りたると云ふ

明治四十三年四月二十七日

●荒物検査問題

縣當局者と青森組合の衝突

紛々たる青森荒物組合は、一昨日漸く臨時總會を開き、縣廳より却下されたる、検査事業中止の四十三年度豫算を再議し、總辭職後の役員を選擧するを得たり、兎に角、役員的首尾能く決定を見るに至りたるは、同組合の為に喜ぶべきことゝして、検査事業中止問題は、今後如何に成り行くべきかが、尚ほ注意を要す、即ち、縣當局者は、同組合が、從來實行し來れる、輸出荒物の検査を中止すべく、豫算を決議したるに對して、是れ組合の目的に悖るものなりとし

て、其の再考を促したる處、組合は、飽迄も從來の検査が、経費と労力とに伴はぬ効のなきものなるを理由として、前議を執りて動かず、組合の決議を貫徹すべく、陳情するに決したればなり、此に於て、結局此の問題は如何に成行くべきか、縣當局者は、遂に組合の決議を読むべきか、其陳情を廳許すべきか、或は飽迄も之を却下すべきか而して、組合は如何に之に對するべきか

今回の問題に關しては、予輩は既に幾度も論ずる處ありしを以て、最早之を繰返へしの必要なきに似たり、されど、尚ほ黙すること能はざるなり、何となれば、本縣重要産物に關する体裁問題なればなり、予輩の希望は、同業者の自動の下に、其の改良發達を期するにあり、青森組合も之が為なるべし、然るに、青森組合が、今や其の検査事業を完ふするの難きを白状して、他に適當の方法を講ぜざるべからずとなし、或は南部組合に検査を囑託せんとして成らず、更に、各郡同業者の聯合を策せんとして、未だ動かず、今や恰も五里霧中の態度にあるものゝ如くなれども、熟々青森組合員の行動に察するに、到底大いに為すあるに足らざるの觀あるは予輩の如何にも遺憾とする處なり、本縣の中樞たる青森の同業者にして、斯の如し、各郡の聯合を策せんとするも、覺束なきや疑ひなきに近かし、是れも、同業者に誠意なく意気地なく、且組合の無能なるが為にして、青森組合が、検査の中止を主唱するに至れるもの、實に其事實を語れるものと云ふべく、情けなき次第と云はざるべからず

されど、一日と雖も、斯業の改良發達を忽にすべからざるを以て、只だ漫然と、之を中止すとして看過すべきにあらず、之が善後策を講ずること、同業者として、組合として當然の義務責任ならざるべからず、適當なる方法手段をも講ぜざる内に、全然之を廢止して、顧みざる如きは、無責任極れる行動と云はざるべからず、縣當局者として、其の再考を促したるもの、當然と云はざるべからず、既に組合に於て、其の効果を擧ぐるに能はずとせば、他に適當なる方法を講ぜざるべからざるに云ふまでもなけれども、差當り、善後策を講じ、之を實行するに至るまでは、從來の關係よりするも、青森組合の如き、此の際最も慎重の態度を採りて協心努力、苟も斯業の不利を醸すが如き行動を避けざるべからず

●下北外海岸の鯨漁

去る十七日以來下北郡東通村大利濱附近へ群來せる鯨は日に日に入口村、岩屋村等灘傳ひに尻屋岬沖まで幾團となく色をなして押行くにぞ目下角網地曳網等にて各漁村盛んに漁獲中なり尚聞く處によれば二十二日迄の各所取揚高は約四五百石と喧傳せられ今後四五日間は風次第にて大々漁確望の由なり

●八戸便り

▲汐干狩 去る二十四日日曜日朝より天晴れ渡り鮫浦に汐干狩と出掛くる老若男女多く時ならぬ賑を呈せり

●海扇濫獲三十余名

▲來たる三十日公判

東郡小湊分署にては左記の如く海扇濫獲者三十餘名を検舉し告發したるが何れも來たる三十日區裁判所にて公判開廷に決したり

西平内村（二十名）大字茂浦逢坂三蔵（三九）後藤福太郎（三四）工藤兼松（四五）は十八日茂浦沖合にて二斗入樽に一個△佐々木初太郎（四二）須藤與太（六一）蛎崎由吉（三四）は十八日石油箱で一個一斗樽で一個△須藤作太郎（三一）全元吉（二一）は一斗樽で二個△佐藤次郎（三九）蛎崎捨蔵（二九）須藤市太郎（四七）は十八日石油箱で二個△蛎崎喜代吉（四七）全秀次郎（一七）佐々木松五郎（二十）は一斗入樽で一個△後藤善松（四十）全三太郎（四八）全愛太郎（二四）は僅に貝殻にて七十枚△蛎崎春松（四七）全春吉（一九）須藤権作（二九）は一斗樽で二個△東平内村（十名）清水川工藤西松（二八）阿部由松（一七）山谷浅吉（二九）は十五日狩場澤沖合で採捕△大字狩場澤前科二犯船橋弟蔵（二十）は海扇を買入れ△大字清水川亀田治三郎（三四）は全上△大字口廣阿部長松（二六）太田申松（五一）は十五日石油箱で十二個△大字清水川塩越庄太郎（一九）全松五郎（二十）全まん（二十）は全上△中平内村（一名）大字浅所前科一犯飯田門兵衛（四五）は十四日石油箱で半分何れも採捕せり

尚ほ蟹田分署にては

東郡油川工藤平蔵（三二）蝦名蓮次郎（三六）吉澤要作（三十）

の三名が蓬田村大字長科海岸にて約七口製造し居るを發見告發し是亦三十日公判に決せり因に當市内蛎貝町附近にても盛んに禁漁中なる海扇を濫獲し居れりと云ふ

明治四十三年四月二十八日

●漁業と漁港調査

過日の水産諮問會は大體水産諮問案を可決せしが各水産試験場にては個々の行動を取らず成るべく聯合的に總ての調査を為すことゝなせり從來日本海方面にては海上の静穩なる時期に限りて沿岸漁業を為し冬期に至れば一切漁業を為さざるを以て今後は此の方面の漁業調査に向けて大いに力を致す事に決定せり日本海に於て冬期漁業の出來ざるは畢竟風波に堪え得るの漁船及漁港の設備無きに因るが故に漁船の改良漁港の修築及漁獲すべき魚族の聯合的調査を為すこと最も必要なり近來漁船の改良は漸次行はれつゝあれども尚未だ大に行はるゝに至らず故に當年は三四水産試験場に於ても石油發動の新式漁船を建造することゝなれり又鰹節の製造に就ては從來其仕上げに二月位の日子を要せしが為め經濟上非常に不利益を感じしに近來水産講習所及び千葉縣にて十日乃至二十日に仕上げるの方法を發見せしを以て今回各水産試験場をして専ら此の方法に依りて鰹節製造の試験を為さしむることゝなれり而して其の結果良好なれば一般に之を普及せしむべきを以て非常の利益を與ふることゝなるべく尚鰹節の貯蔵に付ても其の蟲蝕に對しては容器の改良を要するか若しくは藥品を使用すべき是亦各試験場に於て研究する筈なり又先般議會の問題となりし漁港踏査は既に青森方面より着手して千葉静岡兩縣に及び高知縣の漁港も亦一應査了したれば是より漸次其の他に及ぼす考なりと道家水産局長語れり

廣 告

北海道廳命令路航廣告

函館小樽線（代船）樺太丸 總噸數五五六噸速力拾海里
 起点地 小樽 終点地 函館
 寄港地 岩内、壽都、江差 復航 江差、釣掛、瀬棚、壽都、岩内
 函館瀬棚線 日向丸 總噸數二七四噸速力九海里
 起点地 函館 終点地 瀬棚
 寄港地 福嶋、吉岡、福山、江差、熊石、久遠、釣掛、太櫓
 小樽天鹽線 禮文丸 總噸數三五三噸速力拾海里
 起点地 小樽 終点地 天鹽
 寄港地 増毛、留萌、鬼鹿、苫前、羽幌、初山別、遠別、天鹽

○各地取扱店

小樽西谷回漕店、小樽小林回漕店、増毛屋敷回漕店、留萌村田回漕店、鬼鹿上田回漕店、苫前苫前回漕店、羽幌立崎回漕店、初山別初山別回漕店、遠別紙谷回漕店、天鹽旅河回漕店、鬼脇利尻回漕店、鴛泊鴛泊回漕店、岩内由利回漕店、壽都松井回漕店、瀬棚星野回漕店、太櫓牧口回漕店、釣掛國枝回漕店、久遠光錢回漕店、熊石荒井回漕店、江差大島回漕店、福山共同回漕店、吉岡船谷回漕店、福嶋長橋回漕店、函館宮本回漕店、青森磯野回漕店

明治四十三年四月

小樽區北濱町六丁目一番地

受命者 藤 山 要 吉

前記命令航路の外本州西海岸各港及下關門司尾道兵庫大阪北は天賣焼尻利尻禮文稚内を経て北見沿岸並びに樺太へも所有汽船を以て航海致居候に付接續貨物等は専ら貨主の御便宜を相計り迅速丁寧に御取扱可致候間一層御引立の上御用命仰付被下度奉懇願候 敬具

青森市新濱町

扱 店 山上 磯野回漕店 電話一一番

明治四十三年四月二十九日

●漁業法改正に就て

某縣當局者の談

今般法律第五十八號を以て從來の漁業法は全部改正せられたるに就て某縣當局者語りて曰く其の改正の要点としては第一に漁業法適用の區域を明確にせしこと第二は漁業權を物件と看做して本法中特に規定あるものゝ外は土地に関する規定を漁業權に準用することによりたる結果漁業權を抵當として漁業經營の資金に充て直接の財源に為し得ることになりたること第三には水面使用に關する權利義務は漁業權の處分と共に當然移轉することになりたるを以て從來の如く漁業權を得たる者は其都度水面使用の許可を申請するに及ばざること第四は漁業免許に對し必要なる制限又は條件を付することが出来るやうに行政廳の規定を設けたること第五に漁業權の取消又は特に重要な場合にあらざれば之を行ふことを得ざる事第六は他人の漁場に入漁をする事實に係りて入漁權の意義を明確にせしこと第七は登記に代はるべき登録の制度を規定し

漁業に関する権利を固ふすると共に其の権利者と第三者との関係を定めたること第八に漁業上重要な事項の爲め他人の所有権を制限し得る場合を定め漁業の發達を圖る一助となりたること第九は漁業取締中從來不備の点を補充し以て漁業を永遠に持續するの途を開きたること第十には漁業組合の目的を擴充し従前に適切な施設をなさしむる途をひらき且つ其の聯合會に依り漁業組合の目的を貫徹せしむること第十一には法規を勵行する爲めに適當の職務を有する吏員に漁業取締権限を与へ且つ罰則に訂正補充を加へたること最後に慣行出願の漁業権若くは其の他の権利に付ては從來の例により處置することゝなれり右の事柄は改正法の大體に過ぎざれば斯業者は今より該法律を研究し施行の際に於て意義の誤解なき様せられたし云々因みに本法の施行は勅令を以て定めらるゝものなり

●生産調査の範圍

調査事項を局限す

農商務大臣の諮問機關として新設する生産調査會の調査事項は如何なる範圍を限度とすべきか生産なる文字を廣義に解釈する時は鐵道港灣に至りても調査の歩を進むるの至當なる如きも元來同會は農商務大臣の諮問に應じ諸般の調査に當るべきものなれば随つて調査事務をも農商務省の所管以内に止め農商工は勿論鑛業、林業、漁業等に就き調査すべく委員の顔觸は未だ發表されざるが常置委員の外學者専門家中より臨時委員を擧げ主として專攻科學に属する方面をも調査すべく三四年間繼續の豫定なりと云ふ

●青森驛と鯨の輸送

本年の初鯨は例年より一週間許り早く去る二日より當地へ輸送され夫れより□□に輸送さるゝことなるも最も多く輸送されたる時は一日百三十車にて其の運賃三千五百餘圓なりしが青森驛にて貨物取扱以來絶えて無き事にて之が爲め上旬は貨物輸送噸數東北線一千三百二十二噸奥羽線一千三百七十二噸の多量にして八分までは鯨の輸送なりしが昨今に至り北海各漁場の漁獲減じたる爲め鯨の到着更になく之にて北海道近海は第一期を終りて第二期に入り來月よりは樺太近海の第一期鯨漁に入るべしと

●鎌重其他の大漁

當市米町鎌重商店の樺太漁場にて大漁の入電ありし由亦福岡源太郎氏も西海岸ノトロスにて第一回目に二百石の收穫ありし由昨日電報ありたり

●商況

▲正米（安含み） 定期米も先日来殆ど釘付同様の成行きにて昨日迄は依然保合の態度を持續し來たりたれば本日の納會も著しき變化は之なかるべきが然し來月の初會は是等反動よりして或は意外の結果を見るやも計難しされば爰許正米も諸種の事情よりして農産地は相變らず賣惜しみ廻米なくも品質の粗悪なる秋田米の弗々入荷あり安値出來の爲め自然押され気味にて本日相場は却つて人気安含みの有様なりき

▲粒鯨（安値） 昨日第三大龜丸にて海馬嶋より沖五商店に粒鯨三十万尾千葉商店に前濱鯨五百箱入荷せしが値段第三大龜丸分割高にて一丸二圓五十錢又た前濱鯨は全一圓六十錢に手合出來

▲身欠（安値） 本品は日増し安價の商状なるが爰許相場は上物八圓より七圓迄の成行なるも次品は賣行頗る不味の商状なり

▲身欠（下向） 本品は新潟及敦賀地方より直接産地の買入れある為め爰許當地は産地高唱へに付不引合にして目下賣行上物の外次品は殆ど不味の状態なるが月替上物入荷の見込にて一昨日岩内より出羽丸にて沖五商店に四百個其他へ三百九十個入荷せしが八圓五十錢より七圓二三十錢にて跡引續き安値の商状なり

明治四十三年四月三十日

●海扇海鼠濫獲（十七名）

左記十七名は一昨日起訴五月四日公判の筈

上北郡横濱村清水子野（四五）は十八日横濱沖合にて海鼠二十一個を採捕す△野邊地馬門須藤大次郎（四三）熊谷三郎（三八）横濱五三郎（三十）全春松（五五）全百松（二八）柴田清次郎（三四）全慶造（一七）は海扇を賣買せり△上北郡野邊地町柴崎重次郎（二四）横濱由松（一七）は海扇七箱採捕せり△全與太郎（三八）全仁太郎（二九）は海扇十二箱採捕せり△全町全子之松（三五）高田仁太郎（一七）熊谷七太郎（三六）全豊松（二五）全喜助（二一）は吠にて海扇一俵を採捕せり

因に右の内須藤大次郎等七人組の發覺されし次第は去る二十三日野邊地署の佐藤、葛西兩巡查が馬門の人家を距る西方約百間の處に海扇製造場二カ所を設置し人夫約百名を使役し居るを認め調査したるに未製造吠入四百七十六個又た製造済の貝柱約五百個入折板三百四十六枚全筵入のもの百七十枚あるを發見したるより手蔓を得しものなりと

明治四十三年五月一日

●下北郡外海鯨魚の群來

▲折悪しく烈風激浪

下北郡外海岸の鯨漁は既報の如くなるが其の區域は尻屋岬より大和濱に至り僅々五里内外の沿岸にして其の群來せる情景に至っては北海道にも未だ嘗て見ざる處なる由にて白晝薄葡萄酒をなしたる大集團が岸近く押し寄せ浪打際は白子濁りと油の澱みたるもの宛然壁土を溶かしたる如く數千万の白鷗波間に乱れ飛んで沖を窺うことも能はざるの有様なりしが惜しい哉潮汐の急激なると烈風激浪の打續きたる為め幾萬石の鯨を目前に控えながら空しく手を束ねて歎聲を漏らすのみなりし各村いづれも漁獲中風浪に襲はれて獲り損ねざるはなく中にも入口村古野牛川村等にては辛ふじて二三百石許り水揚げしたるが残り二三百石許りの分は袋網に詰込める儘二日間激浪の翻弄するに任せて海中に放置したる為め遂に網は破損し漁船をさへ破壊せしむるに至れりされば去る二十六日二十七日迄網を漏れたる鯨は岩屋村海岸に夥しく打寄せ村民一同怒濤を冒して拾ひたるが二十六日の如きは夜気冷風の骨髓に徹するにも拘はらず女子供に至る迄激浪中に半身を浸して必死となり折柄大粒の驟雨あり豆大の雹さへ混じれるをも物ともせず徹宵收拾に努めしかば忽ち百石許を拾ひ揚げたりとぞ尚風次第にて漁獲の望あり目下熾んに

搾粕製造中なり兎に角下北郡外沿岸の鯨漁は一般漁業家の刮目に値すと云ふべし

●四十二人で百六十六圓

△昨日の海扇濫獲判決罰金

昨日青森區裁判所で開廷したる海扇濫獲事件公判は四十二名の被告全部欠席したるが左の如く何れも欠席判決あり此の罰金合計百六十六圓にて右採捕の爲め使用したる八尺網は悉く没収さるゝことゝなりたり

後藤善松外二名罰金各二圓▲龜田治三郎、蛎崎喜代吉外二名、佐藤藤次郎外三名、須藤作太郎外一名、工藤酉松外二名、逢坂三蔵外二名、佐々木初太郎外二名、蛎崎春松外二名（以上罰金三圓づつ）▲阿部長松外一名、塩越庄太郎外二名、工藤寅吉（以上各罰金四圓）▲木戸仁太郎外三名、田中利三郎外二名、飯田長兵衛（以上各罰金六圓づつ）▲船橋弟造七圓▲工藤要作十圓、蛭名運次郎、工藤平口各四圓（以上四十二人）

●身欠其他の輸入

堀谷扱の振洋丸はゞ粕肥料三百個身欠六十個笹目六十個鹽鮭七百個雜貨百個を積み昨日函館より入港△磯野扱の第一北越丸は身欠六百五十個を積み本日岩内より入港の筈△淡谷扱の帝城丸は身欠三百六十八個ホッキ五個鹽鮭十五個ゞ粕五十九個雜貨五十個を積み昨日壽都より入港

●荒物輸出

淡谷扱の帝城丸にて一昨夜函館に向け荒物三百三十八個輸出せり

●石狩丸の輸入

一昨日石狩丸にて函館より大坂酒八〇瓶酒一〇黒砂糖五〇素麵二四四竹輪一〇干饅頭六〇醬油一二八雜品八〇室蘭より蒲鉾一〇空樽一六醬油粕八

明治四十三年五月二日

●漁船改良の新案（武田知事の考案）

漁船の改良は漁業界の一問題として目下諸方面に於て考究されつゝあるが武田本縣知事は夙に此の事に留意し種々自ら考案する所ありし結果今回新案の改良漁船模型を携へ地方長官會議列席の序を以て農商務省に出頭し各専門家の参考に供したるが從來日本漁船は船舷航底に至るまで一枚板を以て造り來り今後永く一枚板を使用し難き傾向あると同時に漁業の發達に伴れ現今の漁船は多く遠海に乗り出し危険を伴ふ虞れあるが故に此の危険と經濟上とにより打算して案出したるものゝ由にて其の船型は船底に肋骨を設けて之に一定の板を張り以て西洋のボートの如くならしめ且つ中板を船底に設けて帆走に便ならしめ尚水密室は勿論甲板を越へて侵入する海水は該中板より排水するを得せしむると同時に櫓はボート式に倣ひ操縦に便ならしむる等頗る見るべきものありと

●椿山遊覽會の延期

浅虫有志者の發起にて昨日椿山遊覽會を開催の筈なりしに前日來の風は尚歇まず海上の波荒き爲め延期となり浅虫に於て宴を張りたる由因に同地の米田氏は今回汽船を買入たる爲め希望者の便を計り椿山に限らず何時にても相應の賛成者あるに於ては灣内の回遊に應ずべしとのこ

となり

●漣丸の試運轉

過日郵船々入場に於て船腹を破損し沈没したる當地高柳氏所有の小蒸気船漣丸は兼てより修繕中の處一昨日竣工したるを以て昨日灣内試運轉をなしたる結果良好なりしを以て本日より就航する筈

明治四十三年五月七日

●青森市大火彙報

東京電報（六日）

▲青森大火奉答

平田内相は青森市大火視察の潮事務官の復命電報を奏上し御下問に奉答せり

縣下慈善の士女に訴ふ

今回の青森市の大火は實に空前の慘事にして三萬餘の罹災中路頭に迷ふ者實に少なからざるなり固より應急の處置としては現に夫々救済の方法を取り僅かに遺憾なきが如くなれども夫は単に一時的救済に過ぎず此の悲惨なる多數の不幸者中今後に於て如何にして衣食住の道を得るかに至りては偏に江湖の深厚なる同情に待つの外なき者亦少なからざるは云ふまでもなし今夫各地の情報による東京其他に於て大いに同情を寄せられ義捐金募集の舉に出て之に應募するもの少なからざること余輩のその厚意に對して感謝措く能はざる處にしてそれにしても本縣下の士女の如き苟も一滴の涙あるに於ては此の際奮ふて同情を注がれ隣保相扶くるの誼を完うするに吝ならざらんことを切に望まざるを得ず

潮事務官に陳情

（工藤市長等の訪問）

慘状視察の爲め五日來青されたる潮内務事務官は中嶋支店に滞在中なるが工藤市長、樋口、上田、田中、高橋の四參事員及川田商業會議所書記長、鈴木友吉、松森豊の八氏一昨日午後八時全事務官を旅館に訪問し親しく慘害に關する陳情をなしたり其の際工藤市長は青森市今回の火災は疾風猛火實に慘酷を極めたるものにして殆ど全市を燒燼し盡したりと云ふも敢えて過當にはあらず殘骸悲惨の光景現に御覽の通りなり去れば之が保護救済は國家の力に依頼するより道なし例へば青森市に何等か政府事業（築港の如き此の際最も妙ならん）を經營して勞銀を與へらるゝも一策なるべく或は政府の助力によりて此の際本市の爲め金融の道を講ぜらるゝも一策ならんか要するに法令に基づく縣、市の罹災救助金のみにては到底數萬の罹災民をして住居衣食の道を得せしむること能はざるのみならず青森市の恢復も遂に覺束なしと云はざるべからず希くは政府に於ても十分御同情を寄せられ何等かの方法を以て保護救済の措置を採られんことを切望す尚今回の罹災について青森大林區署は市役所の証明ある者に對し小屋掛用木材の拂下げをなしつゝあるが其の方法頗る簡短を欠きしが爲め僅かに一日に四五十名より拂下げをなす能はず斯の如くは假に二千戸の拂下出願に對し四十日の下渡日數を要する勘定となり救濟的

措置としては遺憾の点あるを以て貴官よりも相當助言せられ簡潔敏捷に下渡さるゝ様御盡力下されたしと陳情し川田商業會議所書記長も本市今回の火災は全國類例なき悲惨事なることを述べ之に對する政府の保護、救済として青森市は他の都市に比し火災保険の契約高も少なく經濟界も數年以來疲弊を重ねつゝある場合なれば只今工藤市長の希望に就て御配慮を願ふ外尚ほ縣稅の前記免除と國稅の延納に就て今後市民の請願ある場合は充分の御同情を寄せられて市民の願意を採納せられん事を懇望すと陳情し其他一行の人々も熱心陳情したるに潮事務官も非常の慘害に就ては多大の同情を表せられ累々たる土蔵の如きも満足に残りたるもの極めて少なきは一層氣の毒感に堪へずとて市長等の心勞を慰められ尚ほ木材拂下の如きは自分よりも農商務省に報告意見書を差出すべきにつき知事市長よりも夫々希望を上申するが得策なるべし要するに今回の青森市大火災は燒燼の慘酷なると損害の多大なるとに於て稀有の事柄に属するは自分も意外としたる所にして帰京の上は詳細に此の慘狀を大臣に報告し御希望の点に就ても自分より大臣に復命して及ぶだけの盡力は申上ぐべしと答へられたる由

▲燒死二十四名 十七名の燒死者ありたる事は前號に記載せしが昨日に至り左記六名も燒死したる事分明したり

寺町金貸業きよ夫羽賀昇（四六）

鍛冶町彦太郎母柏原やす（七七）

博勞町左治兵衛嫁岡本なよ（三〇）

荻町佐々木庄吉（四一）

南郡富木館村横山金平（五七）

以上五名は皆其の死体をも發見したるが南郡黒石生れ當時市内米町原礦作方平野梅作（五〇位）及び前記岡本左治兵衛の娘一人も燒死したるを見たる人あれども未だ屍體は發見せられず之にて昨日までに屍體を發見せしもの二十一名全上未發見三人あり尚ほ昨日までに行方不明なる者多數あれば今後更に燒死者を増加するならん而して是等の燒死者を年齢別にすれば左記の如し

（省略）

▲安方より新町方面

當日は西方の強風なりしかば其の風上は火勢も割合に烈しからず一時は殆ど鎮火せん模様なりしも消防の手は風下の各方面に飛火延焼したるを見て何れも安方方面を引揚げたるより殆ど全く此の方面は消防に見棄てられし如くなりければ火は自然に任せられて漸次風上に延焼し更に上新町方面に侵入し來たりたる次第なりしが上新町方面に延焼してよりは火の手は更に猛烈を極め瞬時にして其の風下を焼き拂はれたるにて本社の如きも隣家なる陸奥新報社の方より襲來せる猛火の爲めに包まれ本家屋は一たまりもなく燒燼し印刷工場も危機一發の間に立ちしが社中全力を挙げて猛火の裡に消防に努め殊に二個の消化器を利用して意外の功を奏し初めより萬一の僥倖さへ期せざりしもの無事なるを得たるは眞に天佑とも云ふべきか

▲火元は何處

ソレ大事と云うや誰いふとなく安方町川嶋飴屋の煙突からだとの聲は全市に廣まれり然るに

其の後精査の結果建物は川嶋方の所有なれども實際の住居者は安方町山手百四番戸菓子商成田當吉（□□）方なりとの説出でて一昨日來青せる潮内務事務官は先づ全方へ至り夫れより全市を視察したる程なり依って記者は當吉に面会し發火當時の状況を聞きたり即ち當吉は妻つさ（二〇）母よね（四九）の三人暮らしにして最初火元と認められし川嶋飴屋（以下判読不能により省略）

注：五月三日青森の中樞部七、〇〇〇戸全焼。焼死二六名。損害七五〇萬圓。全國の見舞金一六萬一、〇三八圓餘。五月十四日勅使北条侍從來青慰問の叡旨伝達、天皇御下賜金一萬圓。五月十七日青森市建物取締規則制定（縣近代史年表より）

明治四十三年五月二十日

●第二期鯨收穫高

本年鯨第二期（自四月十六日至三十日）に於ける鯨來遊の状況は概して薄く宗谷郡の三萬七百石利尻郡の二萬二千石濱益郡の一萬七千五百七十四石苫前郡の一萬一千六百石等を最も豊漁とし他は孰れも一萬石に達せるものなく就中檜山、札幌、増毛支廳部内は第一期以來不漁に終はれり天候は初期以來概して良順にして僅かに宗谷地方に於いて風波の為め多少乗網鯨を流失せしものありしが差したる影響を受けず各地共に沖揚げを完全に了し總收穫十六萬九千二百七十七石にして前年の回期に比すれば六萬三千四百二十九石の減最近五カ年平均の同期に比し三萬五千七十四石の減なりし第一期第二期を合算すれば三十四萬六千七百四十六石にして前年よりは却って四萬九千二百三十一石の増収を見るに至れり今之を各鯨漁場に區別せば左の如し

漁場名	本年	前年
各鯨	一一、七三九	四、六九九
走鯨	二三五	五、六五七
中鯨	四八、五二七	一四六、五九六
後鯨	一〇六、六七四	七四、〇九一
奥鯨	二、一〇二	一、七〇三
合計	一六九、二七七	二三二、七〇六

△本年第一期第二期合計三十四萬六千七百四十六石

△前年同上 二十九萬七千五百十五石

更に最近五カ年の第二期を示せば

三十八年	十五萬四千百五十七石
三十九年	十八萬六千百七十九石
四十年	十七萬二千三百七十八石
四十一年	二十七萬八千六百十七石
四十二年	二十三萬二千七百六石

●樺太漁船遭難

本縣人十餘名の溺死

去る三日西海岸トブケン遠藤又兵衛漁場に於て漁夫三十五名作業中誤て漁船轉覆の爲め慘死を遂げたる椿事あり何分漁船轉覆の原因が意外の意外に基づきしと且つ溺死者死体の大半は今日まで未発見のまゝ打過ごせる事と詳報は傳へ難き各方面の零聞を綜合して當時の状況を述べんに遭難生起の當日たる五月三日は折柄西北風強くて豫ねて付設の建網流失の懸念あるより揚網の爲め同漁場なる最屈強の猛者三十五名は三半船に乗込み漕出す間もなく磯波船を襲ひて操縦意の如くならず必至となりて押進み沖合僅か十六七間のあたりに進める折柄遽かに逆巻く怒濤に船は高波に吞まれて突嗟に轉覆し憐れ三十五名の若者の無限の恨みを抱いて海底の藻屑となれり左に不幸なる遭難者中本縣出身の原籍氏名を掲載すべし

上北郡六戸村番地不明付田七太郎不明△三戸郡中澤村字鳩田一三小林二郎三九△全村字中野九五澤市田松三七△全郡全村字大森一四久保定吉一九△全郡大館村字新井田一〇六上田市太郎三五△全郡豊川村字東波七〇上野石太郎二三△全郡中澤村字中野八九澤向多利四〇△全郡下長苗代村字小田一〇川村仁太郎四三△全郡八戸町相崎新町三刈田長吉四〇▲死体未発見三戸郡鮫村大字濱邊神子澤豊吉三二△全郡中澤村字泉濱外長根寅蔵三三△全郡中澤村字森六二小林花蔵三三△全郡湊町字久保村岡田太郎三〇△全郡中澤村大字森一〇中村亥之助二三△全郡全村大字大森一二澤口榮次郎三八△西津輕郡館岡村字大湯町丸山作太郎二六

●東郷丸搭載貨物

堀谷扱の全船は明日入港の由なるが搭載貨物は如左

セメント二千個尾去礦山行△食鹽三万二千二百四十七噸專賣局揚△台灣米五千袋池野商店揚△蘆二百個大〇大丁圓揚△七曜表三十個大〇大丁山イ揚△編笠十個東石揚

●身欠鯨入荷

磯野扱の北越丸にて身欠千三百個は岩内より全扱の東光丸にて全千二百個はカモイナエより何れも昨日入荷せり

●粒鯨入荷

磯野扱の第三凌波丸にて昨日海馬嶋より千葉沖五揚粒鯨三十萬尾入荷せり

明治四十三年五月二十一日

●改良漁船の製造

石油發動機据付

本縣の水産試験場も民間に改良漁船を用ひらるゝやうにと勧誘して居るとのことなるが東郡後瀉村大字六枚橋の佐藤六三郎といふは過般右の勧誘に従ひ改良船を建造することを決意し下北郡川内村田中造船所に製造を依頼し目下製造中の由にて六月中旬頃堤川尻に回航し青灣鉄工場に頼みて石油發動機を据え付ける筈なりと該船は帆前船（九十石）にて巾一丈長さ九間にて出來上がり五百圓諸道具三百圓にて之れに千八十圓の石油發動機（八馬力）を据付けるにて据付け費共にて千三百圓即ち總費用二千一百圓なりと漁船主は語りて曰く從來の漁船にては當地方より下北郡方面に出漁すること能はざるも本船ありては自由に曳いて行くべく又た夏期には販賣前に腐敗するを以て漁獲せざるも本船に託する時は其の心配なし尚時化の時は漁船を救助

するを得べく其他利用の途頗る多し云々

明治四十三年五月二十二日

●海扇濫獲處罰

其後海扇漁獲を為して公判に付され罰金三圓乃至八圓言渡されしもの左記三十六名あり
羽賀峯太郎 栃木俊彦 小關喜右衛門 小關七郎 △上北郡杉山次郎 鳥山誠次 △東郡中平内村白砂柴
田留吉 柴田作太郎 △東平内村狩場澤戸田忠吉 △中平内工藤さくら 半田儀助 濱田留吉 船橋権太
郎 △大字浅所三津谷善八 △大字清水船橋弟藏 △上北郡浦野館村阿部由松 △西平内村藤澤山谷
浅吉 △逢坂清太郎 蛎崎政吉 梅木兼松 須藤兵之助 蛎崎三九郎 須藤幸太郎 全豊松 佐藤與太郎 須藤
岩吉 佐藤政次郎 全勇次郎 蛎崎丑太郎 △中平内村飯田友吉 全徳松 全仁三郎 全松次郎 若山口松 △
木村兼松 全仁太

明治四十三年五月二十三日

●災後の青森

思ふたよりも建築が早くて全市斧鉞の音で景気がよい

一度祝融氏の激怒に觸れて全市の九分通りを焼燼せしめられたる青森市は去らでだに不景氣の疲れに差加へられた大打撃とて衰亡か將た奮起か興廢の決容易にトすべからざるものありとは蓋し一般の觀測する處なりしに災後未だ二週間に足らざる今日此の頃事實は早や意外にも好状態に趣きつゝあるが如き兎に角喜ぶべき顕象として市民一層の奮發を請はざるべからず▲平たく云へばモウ青森では家が建てれるか什麼かとまで危ぶまれたるは事實なり人口も罹災者の三分の一は立所に減ずべしとは之亦一般の推断なりき此の觀察は近來商況の不振に加へて青森市の全部状態の頗る不健全なりしより來りしものにして兎に角何人もしか信ぜざるべからざる觀察なりき詰り大体に於て青森市民は此際非常の奮起をなすにあらざれば到抵衰頽より外なかるべしとせるものあり▲三日慘害の當日は云はずもがな四日、五日、六日・・・凡そ四五日の間は三万の罹災市民何事も手につかず餘りの慘狀に殆ど為すべきの手段さへ知らざる状態なりきこは無理もなき事ながら之を以て市の再興覺束なしと觀察せられたるも亦止むを得ざる所なり非常の場合は計劃と云ひ觀察と云ひまだまだ素より尋常なる能はざるものなり▲兎も角も大体に於て悲觀説の多かりし災後の青森も大災當日より七日と過ぎ八日過ぎる頃より漸く市民の頭も冷靜に立ちかへり爰に奮起の初一步を見るに至りたりき焼け跡の取片付も初まりぬ次で官營製材所の便宜拂下も開始せられぬ機を見るに鋭敏なる木材商等は鐵路に船舶に四方より木材を輸入し初めぬ之に伴ひて黒石、木造、五所川原、八戸の各地より大工職の入り込む者引きも切らず取わけ國道筋の一地点は五間に拾五間のバラックを設けて北海道より三拾余名の大工を呼び寄せたる者あり其他人夫人足は勿論左官、石工、屋根職、煉瓦師等の大火を當込んで入込みたる數約三千名に近かるべく爰に悲觀説の多かりし災後の青森も漸く一段光明の前途を見るに至れり▲試みに晩頃焼燼の跡を巡回するに拾日以前とは全く趣を一變し引き交ふ荷馬車は總て木材を積まざるなく戸々の敷地内には大抵建築材を積み置かざるなし殊に安方通り及濱町

通りの山の手と大町の両側一帯は屋並に建築に取りかゝり米町、博労町、寺町、新町其他各方面とも所々村になって居る所もあれども至る所斧槌の音鉋鋸の響きに賑やかならぬはなく全市舉げてどがんどがんの好景気なり尤も中にはホンの間に合わせも多く又た建築令に拘束せられたる結果相當資産ある者も比較的詰らぬ家を建てゝる者も少なからざれど兎に角最初悲觀した程では決してなく善かれ悪しかれ片っ端より家を建てつゝあるは一寸景氣を呼びつゝあり若し夫れ此の調子を商工界にも推し進め奮起努力精力を傾注し行きたらんには青森の再興期して待つべきなり三万罹災民たる者奮勵以て上は兩陛下の聖旨に添ひ奉り下は天下の同情に背かざらんことを期せざるべからず▲東宮行啓の記念並木も悉く焼枯して市内殆ど綠色を見ざるが中に流石金森楼だけに家の建つより先に一大老松を植え込みたるは一異彩なり淡谷家にては邸内に亦た一松樹を移し植えたるが如し繁中の閑奥床しくぞ思はる▲建物にては縣廳通りの石春商店にて小締まりとしたる二階造りの古家を買って來て真っ先に建込み安方の村木支店にては建築令に當嵌った工事にて八分通り既に出來たり魚市場にても大きな板倉が出來てもう盛んに荷捌きをしてるもあり濱町にては大和田旅館も大きな古家を買って來て之も七分通りの出來大町に行つて念入りの工事に着手しつゝある者甚だ多く警察の調査では二十一日現在復舊家屋は本假建物合計八百戸以上なりといふ

明治四十三年五月二十四日

●北海道移民奨励

北海道は現在僅かに約百四十万人にして尚優に三百五十万以上を容れるべく之を人口の密度に徴するも内地に於て最も希薄なる宮城すら一方里千三百人の割合なるに北海道は僅々二百五十人に過ぎず就中北見、天塩、十勝、根室、釧路の如き最も甚だしきを以て當局者は百万移民奨励に腐心するも未開地処分法發布以來其數頓に減少し到底移住者増加の見込なきより今回左記の移民奨励方法を設けたり

△移民証明 從來移住証明書は總て府縣知事に於て下附し來たりしが斯ては移住者の不便鮮なからざるにより市町村長に於て下附することゝし且従前は團體若くは組合移住のみ許可せしを個人にも下附することゝせり

△移民取扱所 新に移民取扱所を神戸、伏木、名古屋、福嶋、青森、函館、室蘭、小樽八カ所に設け後の三カ所は常設其他は十一月より翌年五月まで設置し移民に關する指導説明其他諸般の便宜を取扱はしむ

△旅費割引 移住民の汽車汽船割引歩合を高むると共に從來郡市町村に於て下附せしを北海道出張員より渡すことゝし又北海道廳を各府縣の郡市町村會議等に臨ましめ開墾に關する實情を話説せしむ

△未開地貸付 移民の減少は實際未開地所分法の誤解に基くものなるが今回は従前より寛大の處置をなし十町歩以上の土地を有せんとする者は拂下をなすも夫れ以下の者は無賃貸付を行はんとするものにて従前は法規の設けあるも實際は一個人五町歩以内に限りたるが之を十町歩に増すことゝせり

明治四十三年五月二十五日

●浅虫製塩場の廃止

△愈々五月三十日限り

大蔵省於ては既報の如く塩田整理の爲め全国各地に存在する小規模の製塩場を廃止し之に代ふるに台湾及び南滿の關東地方の製塩を輸入して需要を充たさんとし本年度より二カ年間には整理終了する筈にて先づ東北地方より整理を行ふ事となりたるが爲め東郡浅虫製塩場は愈々本年九月限り全廢するに決したり之が爲め全製塩場の賠償價格其他を調査すべく當地煙草專賣局出張所員は二三日中に全地に出張し後日の参考迄に一通りの調査する筈因に全場の製塩高は一カ年四十万斤にて米田甚吉氏の獨營なりと

明治四十三年五月二十七日

●茂浦と商港

△商港として價值なし

昨今青森市災後の一策として青森を茂浦に移すべしとの議を唱ふるものあり是青森港の修築が巨額の費用を投ぜざるべからず反し茂浦は天然の良港極めて少額の費用を以て立派なる港灣ならしむるを得べしとの見地より起りしものにして此の議は當地の某新聞のみならず函館の或る新聞にも連載されつゝありて爲めに時節柄世間の注意を惹きつゝあるが如くなれども今或筋の人の語る處によれば青森市を茂浦に移轉すべしといふが如きは茂浦の實際に通ぜざるものゝ夢想に過ぎず尤も數年前に茂浦の良港説東京に於て盛んに唱道せられ茂浦修築の事貴衆兩院の議にも上らんとしたり政府に於ても東北地方殊に陸奥の一角に良港を撰擇し修築の必要を認めつゝあることなれば東京有力者間に其の議盛んなるを見るや直ちに其の調査に着手せしめたり若し茂浦にして天然の良港にして修築の費用少額にて足らんには此の上もなしと内務省は無論海軍省側も調査し又鐵道側にても支線布設に關する調査までしたり成程茂浦の灣形は天然に良港に出來居れり尤も灣内は狭小に失するも水深く浪靜かに船舶の碇泊には此の上もなし恐らくは僅少の費用を投ぜば修築し得べし即ち海に於ける茂浦は灣形小なりと云ふ外に他に申分なし只だ陸上に於ける茂浦の之に伴はざるを奈何港灣の良否は獨り海のみならず陸上の設備も之に伴はざるべからず商港として發展の餘地存するものならざるべからず、惜哉茂浦は山を負ひて都市を造るべき餘地なく又た不可能なり是れ茂浦が商港としての價值なきものとして政府が中途調査の手を引き世間また重きを置かざるに至れる所以なり青森を移轉し青森の如き都市を造らんとするが如きは想ひもよらず云々

●罹災者と市事務

大火災後の混雜も今は多少秩序恢復の模様なるが普通事務は尚ほ眞んの中に合せ同様にして吏員一同依然臨時事務に忙殺せられつゝありたとへば類焼届けの如き今尚日に二百通の受理あり之等は罹災者が届出でを怠るが爲めにして市役所の不都合此の上もなしとの事なれば此際漏れなく届出の手續きを了するが宜しかるべく又た義捐金分配の如き既に第二回の分配を開始せ

る今日にありて尚ほ第一回分配の分を請求する者絶えざるは之亦罹災者の怠慢に外ならざれば總て給與又は分配を受くる者は夫々告示ある毎に速かに其の手續きをなさざれば市事務に及ぼす障碍實に尠少にあらず惹いて當局者が災害復舊事務並に普通事務を進捗する上に於て大なる不利益を生ずべければ斯の如きは罹災者も公務の障碍を生ぜしめざる様充分注意ありたしと市當局者は語れり

●義捐金の分配

一昨日分配せし義捐金は七十九戸三百九十五圓なるが累計戸數四千百七十九戸分配金高二萬八百九十五圓なりと

●出稼漁夫の歸郷

北海道出稼の漁夫は一兩日前より弗々歸郷しあるが昨日も共一舎扱の貫効丸にて全漁夫二百名上陸直ちに歸郷せり

●生魚入荷

昨日下午北九艘泊若由商店にホッケ二万尾鰯四百箱ソエ二万尾入荷せしが價段はホッケ一尾一錢鰯は全七厘より三厘五毛にソエは壹貫目三十五錢より四十錢に手合わせ出來たり

●タンク石油輸出

共一舎扱の貫効丸は昨夜野内よりタンク石油一千五百箱を積み小樽に向け出帆せり

●輸入貨物の増加

當港に於ける貨物は客年の今時に比較し北海道方面に於ける漁業の結果良好なりし為めか海産物の各地より輸入する物日増し多きを加ふる由各回漕店にては何れも多忙を極め居れり

明治四十三年五月二十八日

●海扇海鼠濫獲の罰金

上北郡野邊地町大字馬門栃木俊彦（二九）は去る三十四年電信法違犯詐欺取財及全未遂罪にて輕懲役六年に處されしものなるが五月二日海扇十二俵を他より買取し為め二十五日罰金六圓に△上北郡横濱村鳥山誠治（一九）は五月五日海鼠を採捕し全日罰金三圓に△全村杉山次郎（二一）は全上にて全日罰金全上に△東郡西平内村大字茂浦佐藤紋次郎（五三）佐藤勇次郎（一九）蛎崎丑太郎（二二）三人は四月十八日海扇を採捕し全日各罰金四圓に何れも處されたり△下北郡脇野澤村大字小澤東谷喜作（五八）は五月十八日坂田勝治（二一）山本多一郎（二一）兩名を役使して海扇を密猟せしめ三十日公判の筈

明治四十三年五月二十九日

●海戦記念講話

△一昨日弘前縣立學校に於ける

去る二十七日日本海海戦記念日に弘前各縣立學校の招聘に應じ三時間に亙りてなせる大湊要港部園田海軍大尉の講話の大意如左

回顧すれば五年前の本日は日本海に於て敵の一大艦隊を殲滅せしめたる誠に愉快なる記念日

である、此の記念日に際し諸君の面前に於て講話し得るは誠に光榮とする處、諸君忠君愛國義勇奉公の心を以て余の拙辯を聞かん事を希望す一体本日は日本海海戦記念日であるが、日露開戦記念日であるから全般に涉りて話さうと思ふ

日露戦役の原因は露國が滿州を無斷占領して動かないのみならず兵を送って守備する事益々巖しく、吾國で度々抗議したけれども頑として動かない、去れば吾國では朝鮮の沖或は津輕海峡其他方々にて大演習を行ひ以て示威的行動を取ったが何とも思はない、然るに司令官より佐世保近海にて行ふべく命令はあつた、數日にして全艦隊は佐世保港に集合した、時は三十六年十月頃で、戦役の間近くなつた事は初めて知つたので皆腕を撫でて待つて居た然るに三十七年二月五日の夜である、東郷聯合艦隊司令長官は各司令官を集め愈々陛下より出發を命ぜられた事を報じ直ちに豫定の如く六日の朝兵糧や弾薬を十分に積んで出發した、我々の駆逐艦は第二番目に出發したが當時の登舷禮式は實に忘るべからざる感情を出さしめた

翌七日全隊朝鮮沖の一小島に集合したが、上村隊はロシア、マンチリアの二義勇艦を捕獲し大いに前途を祝した、八日の夜我々駆逐隊に豫定行動に出づべしとの命令があつた尚ほ出發に際し駆逐隊の成功を祈ると司令官の信號に接し登舷禮式を行ふて出發した時の我々の心中は悲壯であつた、明日は共に顔を合はする事は出来るかと思へば初め二度位は万歳を唱ふ事は出来るけれど三度目には何だか知らん一種の感に打たれたが、後には勇氣百倍し却つて愉快的感じがした、是から旅順と大連方面に分かれることになつたが自分等は旅順探索の組になつた、此は日露戦役の幕開きであるので、皆死を期して進航した、遙かに敵艦の見ゆる程近寄つたが敵は気付かぬので、益々進んで數發の水雷を發射して退却したが、初めて知つた敵艦今度は雨や霰と發砲したけれども味方には何の損害もなかつた、途中大連支隊と合したが支隊よりは只鴨二三羽居つたのみと失望の信號があつた、其から主力隊は二月九日旅順の港外に於て敵砲台と交戦し敵に多大の損害を被らしめた

一方の瓜生艦隊は陸軍運送船を護送して仁川に向かつて進航した、當時仁川港に露艦ワリヤーク、コレーツの二艦を初め英米獨佛の諸外國艦及我が千代田艦等居つたが千代田艦は明日にも開戦すると云ふ今日迄何知らぬ風して露艦を初め諸外國艦を訪問して敵状を探つた、艦長の心底こそ如何であつたらう、其の夜直ちに出港して瓜生隊に合した、瓜生隊は陸軍を上陸せしめた後入港し、露艦に書面を以て明日出港して戦はんか若し戦はぬ時は沈めるのみと通じ又諸外國艦にも報じたが露艦は翌日出て來た、サー戦は始まつたが物の三十分も立たぬ内に港内に退却して自ら發火して沈んだ閉塞隊は旅順港口を閉塞せんとするにあつた、是れは西班牙と米國と戦争した時ボクソン大佐は行つた前例はあるされば有馬中佐は是非行なはんと決心し請願して決死隊を募集したが、約二千人もあつた、而して三回迄も行つて大いに世人の耳目を驚かした、其れより大連を占領し旅順を包圍攻撃した為め遂に三十八年一月陥落した（以上を第一期海戦と云ふ）

當時バルチック艦隊は亜弗利加に居り旅順陥落を聞知して非常に落膽し旅順は落ちて東洋に行くのかと云ふたそう一だ、又第三太平洋艦隊はスエズ運河を通過し佛領印度に於て合体し三十八艘の一大艦隊を組織し一撃の下に日本艦隊を破砕せんとの意気込みで來たり、時に我隊

は敵の來航路は對馬海峡と判断し朝鮮の鎮海灣に集合して期待して居たが、其後杳として行衛知れずに居りしが二十七日即ち今日の午前七時半頃偵察隊の電信にて敵艦見ゆとの報ありしかば東郷司令長官より大本營に打電し直ちに聯合艦隊を引率して出發した、午後一時頃沖島の北に集合したが敵艦はロチストベンスキーを眞先に二艦列にて北進して來た、ここに於て我は三笠を眞先に沖島を隔て西進し、直ちに方向を變じて敵と並んで北進した時に敵も一列となつた、同時に三笠艦のマストの上に戦闘旗は見ゆるよと思ふ間に「皇國の興廢此の一舉にあり各員奮勵努力せよ」との信號はあつて、勇氣日頃に百倍した、第一に敵は發砲した二十分頃に我も亦發砲した、彼我の士死力を以て戦つた我が一艦隊は敵の旗艦スワロフを全力を擧げて攻めたので二時半頃火災を起こして退いた又第二隊はナバリン艦を沈めた、斯く旗艦退いたのでアレキサンダー一世艦眞先になりて進んだが我が弾丸の猛烈に恐れけん次第に減りゆく敵艦隊は遂に麻の乱るゝが如く四方に逃れた、逃がしてなるまじと勝に乗じて之を追っかけ沈める者數を知らず内五艘は逃れて浦汐に入らんとしたが我が主力隊の爲め包圍され四艘は降参し一艘は逃れた此の外或はマニラへ或は上海へ逃れたるものあるけれども他は皆沈んだり捕へられたりしたのである、斯くの如く三十八艘の大艦隊の内目的地の浦汐に入ったのは只の二艘に過ぎないとは情けなし、日本海軍の力豈偉大ならずや

諸君は出校後何業に付くとも此の名誉ある記念日をば決して忘るゝ事なく益々帝國の威武を發揚せん事を望む

●浅虫と石油タンク

△野内タンクと競争

△馬場山附近に設置

米國スタンダード石油商會にては野内サミュエル、ライジングサン石油商會の石油と一大競争を行ひて東北地方に全石油の販路を擴張せんとする目的にて之がタンク設置の場所を當地浪打柳原附近に選定し去る二月頃全方面の地主等に土地賣買の交渉をなしたるが例の大地主たる某は暴利を貪らんと高價を云ひ振らしたれば全商會はさらば他に候補地を選ばんと東郡浅虫村の馬場山附近を適當なるべしと見立て仲立人をして土地の所有主を尋ねしめたるに同所は浅虫村の共有地なるとの事にて三月十日直ちに村の重立に買収したき旨を云ひ含められたれば重立等は野内タンク設置以前の同村は漁業又は農業にて僅かに生活し來たれるをタンク設置以來は打つて變り全村へ落つる金も尠なからざれば近年村人の手間も相應にありて不景氣知らずの有様なるに見較て従來は一坪十圓でも賣らざりし土地をソナラ全商會の入用土面を寄附的廉價にて提供すべしと之を村會に附議したるは去る三月二十日なりしが當時全商會の申込みたる入用土面積は馬場山附近七千五百坪にして一段歩金二十圓にて賣渡さんことに満場一致にて議決し承諾の旨を述べたれば全商會にては百圓の手附金を出して第一の候補地に指定したりと云ふ

明治四十三年六月二日

●深浦たより（二十九日付）

大謀網

三橋氏外二名組合の入前崎及行合崎の大謀は投網否や八尾の鮪初漁し日々雑魚の漁獲あり不日大漁の機に到るべしとは漁老の話何れにせよ大々漁をさせたきものなりと一同希望し居れり(火山報)

●東郡東田澤便り

海扇解禁

各漁師及製造人の待ち焦がれ居りし海扇は六月一日解禁なるを以て何れも之が準備に忙殺されつゝ有れば漁獲の暁にはさぞかし好況を呈するならんか因に海扇は陸奥灣一面に繁殖し居る事として今年の如く他より製造人の出張を見ず随而目下のところ閑散の状態に見受けらる

椿山観覧

青森大火の影響か椿満開の當時は見物人の影だに見えざりしが四五日前より団体にて来遊するもの夥しく其の重なるものを挙げれば二十二日は五連隊九中隊は浅虫より海岸來山椿神社に参拝の上即日歸隊二十三日は弘前中學二年生五十餘名來村一泊翌日浅虫へ向け出立せり二十四日は西平内茂浦小學校生徒二十五日は同山口小學校生徒二十六日は同藤沢小學校生徒には何れも校長に引率せられ椿山大島巡覧の上同日歸校せり而して椿花は稍々散り去りたれど其の内満開の箇所も有り未だ随分見頃なり

●海扇乱獲 (五十一名)

禁漁中なる海扇を乱獲したる為昨日起訴されしは左記五十一名なり
東郡中平内村大字福館竹達五三郎二一辻村豊次郎二六△全村木村清太五一全勝三郎一八熊谷まる二一△全村濱子畑井金太郎三四△上北郡野邊地町大字濱町奥寺重次郎二四東郡東平内村清水船橋福松△東平内村大字清水川船橋市五郎五四△全清五郎二九全清次郎二四△中平内村大字東田澤笹原万助五三山本長吉六二間山金作五二△東郡野内大字久栗坂熊谷豊吉三五工藤久太郎六一佐藤小三郎二〇△東平内村大字清水川船橋米蔵三二濱田與太郎三四全さくら二二△野内村大字久栗坂熊谷久太四五杉山由松四五川村孫市五八△全村川村文助五九平田喜久夫四二川村定吉六三船生長次郎三九△東平内村清水江戸與三郎二一全初三郎一七齊藤才八郎二三△中平内村沼館船橋西松三八全五八二六△東平内村大字口廣江戸弥七三二全とせ二五全巳之助一八△東平内村清水川船橋多七三八全そよ一五鳥谷部さき三九駒井由太郎二四△全村大字狩場澤吉田長次郎二四須藤留四郎三五松浦藤太郎三九▲以下七名は海扇を買受たるものなり東郡中平内村大字福館辻村徳松三十△全村木村つな二五△全村濱子菊池丑蔵四六△東平内村清水川塩越虎蔵四四△青森市安方町高田重助四五△東平内村狩場澤戸田忠吉五一△全村品郡松太郎三七・・・以上五十一名

●海扇の解禁

湾内の海扇は六月一日より直径三寸五分以上のものは採捕し得ることゝなれり

●鰯益々大漁

昨日は前濱に於て約十万尾の漁獲有り日増し大漁の模様にて昨日安方魚市場價段は一尾三厘五毛に手合わせ出來せり

明治四十三年六月四日

●浅虫製塩場と交付金

既報の如く浅虫製塩場は来る九月三十日限り撤廃さるゝ為船場當地煙草專賣局出張所長は二
三日前全地に出張し後日の交付金等の關係上参考の為調査を成したるが全氏の語る處に依れば
全製塩場は温泉を利用して海水を蒸發せしめ漸次塩分を濃厚にして後釜に入れ煮て製塩するに
て全國中唯一の製塩場なるが為政府にては撤廃するに就いても他の塩田を整理すると同一なる
方法をとる能はざるべく何れ廢止後に於ける全敷地の利用及び現今の収利投資等を詳細に調査
して相當金額を交付すべし右に就いて来月中旬頃より下調べに着手し其を監督官署に差し出し
更に全署より吏員出張して調査決定する次第なりと因に米田製造主は去る明治二十年より製造
に従事し其間幾多の障害と苦闘し今日に至り基礎漸く強固となりて是より益々該事業を盛大な
らしめんと計畫し居たるを今回計らずも撤廃さるべき運命となりたることゝて全氏にとりては
大打撃と言ふべく廢止後の全場に就きては如何に処分するや未定なりと

東京電報三日

▲内務技師來青

一瀬技師は本日出發築港調査の為青森に出張す

●鰯の利用試験

目下陸奥灣内にては小鯨大の大鰯盛んに漁獲中なるが之に就き渡會技師に談片を聞くに右大
鰯は秋田方面より群來せる産卵鰯にして其漁獲は近來稀有の事なれば今後年々漁獲あるべきや
否やは疑問なるも若し毎年相當の漁獲を見る事ならば蓋し當地方の一産物としてこれが製造利
用に就いて一工夫を要するものなるべし目下の處にては余りに油濃き為乾燥の方法なく塩もの
とするより見込なきが如し而も塩ものとするも普通の方法にては十分貯蔵の見込立たざるを以
て昨今多少の材料を取り寄せ塩漬製造に就いて試験中なれば今後一週間以内に相當其成績を見
ることを得可く恰も台灣地方に於て盛んに需要しつゝある米國産鯨の塩漬の如き製法を取り
つゝ有れば幸いに好成績を得るに於ては輸出物として好販路を有するものとなるべし尚漁獲豊
かにして一尾二厘ないし二厘半までの価格に低下するに於ては之をメ粕に製造するも十分算盤
が取れゆくべき見込なり云々

●鰯益々大漁

上磯方面を除くの外當港より浅虫方面に至る近海は一帶に豊漁にて昨日は約三十万尾の漁獲
あり益々大漁の模様にて此の程より弗々メ粕を製造しあるが昨日價段は一尾三厘乃至三厘五毛
に手合わせ出來弘前各方面に向け續々輸出し居れり

●鮪の大漁

一昨日東郡三厩村大字宇鐵沖合網四統にて鮪一千百尾漁獲ありしと尚南部地方にても昨今
續々漁獲ありと

明治四十三年六月六日

●出稼漁夫歸郷

磯野扱の第一北越丸にて美國古平より出稼漁夫百五十名全扱いの高砂丸にて濱益より全三百名は何れも昨日上陸直ちに歸郷せり

●鮪輸入

昨日神童丸にて上磯漁場鮪四百本入荷せしが値段は一貫六十錢出來せり

●身欠ノ粕輸入

淡谷扱いの萬歳丸にて昨日寿都より身欠ノ粕取合百五十個輸入△又磯野扱いの高砂丸にて胴鮪ノ粕取合五百個昨日濱益より輸入せり

明治四十三年六月九日

●小廻船の遭難

上北郡六箇所村字泊今野常蔵（三十）泊村宮下卯之松（三九）下北郡大湊山本岩松（三三）の三人は何れも小廻船榮久丸の乗組員なるが去る四日下北郡東通村字尻勞より鮪百一本を積入函館に向け航行せるが途中にて時化に逢ひたれば鮪約二十五六本を海中に放棄し漸く六日午後六時函館に入港せり然るに荷受人なる又一印安達商店に時化の為鮪三十余本放棄せりと報告し大鮪五本をチョロマカシたるを水上署に探知され七日引致の上取調中なり

●出稼漁夫の歸郷

桂井扱いの若嶋丸にて苫前より出稼漁夫七百名全扱の神武丸にて積丹より全百五十名何れも昨日上陸歸郷せり

●漁夫輸送

桂井扱いの萬歳丸にて昨日エドロフに向け漁夫二百五十名荒物五百個輸出せり

明治四十三年六月十一日

●東郡小湊より

△帆立漁 目下盛んなり解禁後時化の為毎日の休みなり雇人男女の風俗壊乱甚し小湊分署はこの間午前一時頃濱子に於て男女同衾しあるを認め淫賣と認め拘留中なり▲帆立禁漁中差押へられたる貝柱は山の如く代價格に換算すれば頗る多額に上るべし未だ何とも処分なきやに聞くたゞ腐敗せしむは惜しむべし

●海扇乱獲 一昨日罰金に処されしもの左の如し

東郡野内村熊谷久太（四六）川村孫一（五八）杉山由松（四五）各四圓△上北郡野邊地船橋福松（二七）各五圓△東郡中平内村木村清太（五一）木村勝三郎（一八）熊谷まる（二一）各五圓△東郡中平内村竹達五三郎（二一）辻村豊次郎（二六）各六圓△東郡東平内村塩越虎蔵（四五）金六圓△市内安方町高田重助（四五）五圓

全日新たに起訴されしもの左の如し

▲以下三件十七日公判 東郡中平内山田三郎（四三）米内幸作（四二）金坂粕太郎（一六）は五月二十七日清水川沖合にて石油箱十八個△東郡中平内村鳥谷部與太郎（三五）全二三郎（二

十) 佐々木辰之助 (二十) 全日全沖合にて二十箱△東郡中平内村宿野邊末太郎 (二七) 飯田元八 (三三) は海扇を買受たり

▲以下七件二十日公判 東郡中平内村平田彦一 (三四) 後藤松助 (四五) 木村酉松 (二六) は五月二十七日清水川沖合にて海扇四十六箱採取したり△東郡中平内村飯田太郎 (二七) 三津谷與市 (二一) は六月一日二十箱採捕△東郡東平内村鳥谷部市三郎 (二三) は五月二十七日海扇を買受たり△東郡東平内村船橋岩松 (四三) 全重太郎 (一七) は五月二十七日四斗呎四個を採捕△中平内村工藤虎吉 (三四) は全日海扇を買受たり△全村菊池かや (四四) は全上△全村飯田松次郎 (三四) 全上

明治四十三年六月十三日

●十和田湖の鱒と販路

本縣及秋田縣の縣界に有る十和田湖は景勝地として内外人の探勝に赴くもの近年に至りて益々多く殊に夏季に入りては絶好の避暑地として漸く名聲を高むるに至れり全地の和井内貞行氏は人の知る如く去明治三十五年の頃より十和田湖に魚類を養殖せんと鱒鯉鮒等を放養せしに鯉及び鮒は散乱繁殖するため捕獲至難にして目的を達せずと雖も北海道支笏湖産カパチッポ種は常に一群を成して散乱することなく捕獲容易にしてかつ育養上全湖に適し従って繁殖も好結果を得たれば爾來全種の鱒のみを放養することゝなせり試みに最近の孵化数を掲ぐれば四十一年には三百萬粒四十二年には四百七十萬粒四十三年には七百萬粒と逐年其數を増加す而して孵化したる鱒を全湖に放流して三年を経過して一尺以上の長さに達せざれば絶対に捕獲を禁止し之が取締には特に請願巡查を雇入れ居ると言ふ一尺一二寸に達する時は其重量五十五匁乃至八十匁に達し平均一尾七十匁となるなり之が漁獲は地元の漁夫になさしめ利益の四割を與へ所有主は六割を得ることゝなし居るが漁獲鱒の需要地としては昨年春東京に輸送して帝國冷蔵株式会社に委託販売せしめたるも當時は小坂大館間の輕便鐵道開通せざる折りとして魚体を絶縁紙をもって包み箱入れとして大館まで駄送し更に全駅より汽車積みにて青森を經由して東京に輸送したる為少なくとも日数三四日を費やし変味するを以て売却価格も思はしからず不結果に終わりたれば以後は輸送を廢止して専ら付近の鹿角郡大館、花輪、毛馬内、小坂方面に販路を求め需要も日に加はりつゝ有り然るに小坂大館間の輕便鐵道開通以來輸送數も減じ奥羽線廻り上野直行列車に積む時は二十三時間にて上野まで到達せしむるを得るに至りたれば和井内氏も全湖産鱒の販路を擴張して東京方面に輸送せん計画にて一兩日前青森運輸事務所に対して運賃の割引及び輸送の速達便宜を與ふるよう交渉したる由なるが事務所にて出来得る限り輸送上の便宜を與ふる筈にて目下考案中なると云へば近日中に生鱒として東京の需要を充たすに至るべし左に放養上の統計を示せば

△鱒魚孵化放流數と捕獲高

	四十一年	四十二年	四十三年
孵化數	三百萬粒	四百七十萬粒	七十萬粒
捕獲數	五萬尾	五十萬尾	百萬尾

捕獲時期と其の盛衰

月順	五月	六月	七月	八月	九月	十月
歩合	一割五	一・五	〇・五	〇・五	三・〇	三・〇

△四十二年捕獲尾數と換算屯數

	五月	六月	七月	八月	九月	十月
尾數千尾	七五	七五	二五	二五	一五〇	一五〇
換算屯數	二〇	二〇	七	七	三九	三九

△四十三年捕獲尾數豫想

	五月	六月	七月	八月	九月	十月
尾數千尾	一五	一五	五	五	三〇	三〇
換算屯數	三九	三九	一三	一三	七八	七八

明治四十三年六月十五日

●本縣水産補助金費途

△みさご丸に回轉推進機装置

過般農商務省より本縣水産試験場に対し金六百円の補助金交付ありたるが右は鱈漁試験のため試験場唯一の漁業船みさご丸在來据付の固定推進機を装置してその航力動作を更に一層敏活ならしむると共に鱈漁に要する延繩捲き上げ機械を購入する費途に充つるものにして全船は先に灣外沖合に於て多少の損所を生じたれば此の損所修繕と右推進機据付の為約一カ月間新潟鐵工場に入渠したるが既に全ての工程を終了して目下佐浦船長喜多山技手監督の下に水産伝習部二年生八名を乗船せしめ巖手県金華山沖合付近に於て鱈漁況の視察見學を為しつゝ有り不日歸航に就くべければ其の上は愈よ實際的活動を初め鱈漁獲に従事し以て鱈漁期の至るを待つべしと云ふ

明治四十三年六月十六日

●鮪小屋で四人組賭博

下北郡東通村大字尻屋山崎藤松鮪漁場の納屋に於て去る四日午後二時半頃メクリ賭博を為したる左記四名來る二十二日公判に付さる

岩手県下閉伊郡船越村大字大浦川端清之助（五〇） 全村野田忠三郎（六〇） 全郡山田町字川向堀合留之助（二四） 函館区榮町佐々木勘吉（五二）

●漁業取締規則違犯

上北郡横濱村橋本竹松（二九） 成田石松（二七） 兩名は五月二十五日横濱沖合に於て三寸五分以下の海扇石油箱にて四十箱を採捕し全村谷榮蔵へ賣却したる為三人は來る二十日公判に付さる

明治四十三年六月十七日

●本縣の海扇調査

縣水産係にては目下野邊地灣内各地にて採捕されつゝある海扇調査のため不日吏員を派し實況視察を為さしむべき由なるが右は海扇の製造方法に就いて一般に未だ幼稚なる状態にあるを免れずして折角の産物をミスミス不良品として製造し價格の失墜を來さしむる憂ひあるを以て一は之が指導説明を為さんとする必要あるが為にして彼の三寸二分以下の海扇を採捕するが如きは取締上勿論將來全介の繁殖上にも多大の悪影響を及ぼすべきものとして其の不可なるを言明し居れり

●塩蔵鰯の輸出計画

本縣水産試験場にては近頃灣内に於て漁獲されつゝある大鰯の利用法に就いて考慮を巡らしたる末之を塩蔵鰯と為して支那向け貿易を計らんと四十二尾三百六十匁のブリキ箱入れにして此の程名古屋横濱地方の商人へ見本を送付したる由なるが若し價格上の折合いもつき将来輸出向けとして見込ありとの回答に接するに於ては其の製造法を示し民間事業として奨励することゝすべしという

●岸上博士來縣せん

鮪孵化状態調査の為昨年來縣し下北郡へ赴ける岸上理学博士は本年も昨今鮪漁最中なるを以て近々來縣し矢張下北郡へ赴くべき都合なるが今年は昨年と比較し鮪の漁獲甚だ少なく為に調査材料を得る上に於て多少の困難あらんかと因に昨年博士來縣の際は鮪の産卵未熟なりし為め余り思わしき結果を得られざりしと云ふ

●みさご丸の消息

縣水産試験場の漁業船みさご丸は昨日陸前氣仙沼に入港し生徒等は石巻港を視察せりと

●鮪の大輸送

目下北海道及下北近海にて鮪の豐漁中なるが一昨日當地より上野まで輸送したる鮪は十七車にして鮪漁以來の大輸送なりしと

●主要駅と貨物の集散

鐵道院にて調査に係る全國各駅の一カ月二千圓以上の貨物賃金収入あるは合計三百三十八駅あるが其の内に含まれ居る青森運輸事務所管内の駅及び其の順位左の如し

	發送 (噸)	到着 (噸)	賃金 (圓)	順位
青 森	12, 829	12, 515	44, 339	8
大 館	9, 300	11, 161	27, 896	19
弘 前	3, 465	2, 701	7, 344	66
盛 岡	1, 708	2, 761	7, 344	78
沼宮内	940	293	3, 951	184
福 岡	728	183	3, 151	235
大釈迦	1, 643	93	2, 705	260
三 戸	668	1, 177	2, 523	286
沼 崎	557	166	1, 090	323

(備考) 一番は大阪, 二秋葉原, 三綴, 四上野, 五隅田川, 六夕張, 七横浜の各駅にて次は青森駅なれば貨物の集散地としては全国屈指の駅と言ふべし

明治四十三年六月十九日

●鮪の大漁

先日来上磯方面に於ける各漁場にて鮪大漁あり日々多数入荷しあるが昨日も堀谷扱の繪鞆丸にて三厩村宇鐵漁場より佐末揚鮪千四十本全扱鮪千四十本全扱後志丸にて全地より千葉伝鮪二千九十本二千九十本輸入せしが値段は一貫目四十銭に手合出来せり

●鰯の不漁

此の程は時化續きの為近海に於ける大鰯は著しく不漁を來たし昨日は尤も收穫尠なかりしも天候の稍々回復と共に好漁の見込なれば値段の如きも安保合一尾二厘半に出来

明治四十三年六月二十日

商 況

▲魚粕肥料 (下落)

該品は總て需要期遅れなりたる為賣行涉しからず従って値段の如きも日増安値に傾向しつつあるが此の處相場は何れも五十圓の下落を見るに至れり本日成り行きは

鯨粕上千六百圓より次千五百五十圓

鰹粕千七百圓

鱈粕千二百圓 笹目千百圓

鱗八百圓より七百五十圓迄

帆立粕七百圓

▲干魚 (不振)

該品の賣行は總じて不勢不味の姿なれば不相変出捌き涉しからず此の處頗る不振の商情なれば随って相場も下向きの有様にて本日成行は

身欠鯨上六圓五十銭より次五圓迄

干鱈上五圓より四圓五十銭迄

数の子八圓五十銭

塩鮭上一貫目三十銭より二十八銭迄

塩鱒新全五十銭

塩鱒古全二十五銭

明治四十三年六月二十二日

●平内方面の海扇漁

東郡平内地方の海扇漁は昨年に比し豊漁にて船一艘の漁獲は一日十五六箱より七十箱に達し

平均一艘一日五十箱内外の好況なり

値段は生貝一箱（石油箱）大貝三寸以上，中貝二寸五分以上，小貝二寸五分以下の区別により八錢より二十八錢位の相場を唱え居り豊漁なれども安価なる為漁師の収入は意外に豊かならず

製造貝柱の値段も昨年より安く箱詰百斤は横濱，神戸の各地とも三十二圓より四十圓を唱へ先日は横濱より百斤三十六圓の仕切り着せり貝柱の値段は右の如く昨年より格安なれど原料安価なる為製造人等は相當の利益を得つゝある模様なり

今回浅所から白砂の各沿岸に於ける海扇製造人等一の契約を結び各取込み船の区域にて甲の製造者は乙製造区域の海扇を一切買ひ込みをなさざる方針を採るあり之は原料の騰貴を防ぐ為にて漁師にとりては非常の打撃にて昨今漁師側と製造者側と種々□□きつゝあり

●冷蔵船の入港

大坂水産株式會社に於て冷蔵船有魚丸（百五十噸）は是迄朝鮮近海より大阪に回航しつゝあるが今後當地磯野回漕店扱いにて當地樺太間を航海し東京大坂に輸出すべき鮭鱒の運搬に従事する由にて全船は一昨日入港空箱満載の上本日樺太に向け出帆

●船舶給水に就いて

當港は過般來北海道出稼漁夫及び海産物輸送に付き續々社外船入港しあるが是等船舶にして夜半給水の必要を生じ積入方交渉するも水道給水請負者は容易に応ぜざる為各船舶は止むなく函館に歸港給水し居る有様にて不便尠なからざれば市役所に於て取り調べの上速やかに便宜を與へられたしと各船舶扱業者は希望し居れりという

●汽船の避難

磯野扱いの隆陽丸は石炭百五十噸積み小樽港を出帆既に當港に入港の予定なりしが航海途中大時化に遭遇し隆陽丸は余別に避難せし旨昨日扱店に入電ありしも樺太丸は何れに避難せしか何等通知なき為磯野方にては各所に照会の電報を發せりと

明治四十三年六月二十五日

●漁夫の遭難

去る二十二日北海道釧路郡桂恋村字ワカツヤラヒ海岸に於て阪東漁舎主阪東萬次郎（四八）は雇ひ漁夫十二名と共に出漁中海岸より二百間を距たれる處に於て山の崩れたらんが如く襲ひ來たれる狂瀾の為に磯舟を転覆され乗り込み十三名は木の葉の如くに波間に漂蕩されたるを見たるアイヌ等四名は逆巻く波を冒して救助に向かひたるも漸く三名を救助したるのみにて他の十名は行方不明となりし椿事あり其の後村民舉つて死体の搜索に努めしも風浪強くして船の操縦自由ならず死体を發見すること能はざりしが翌二十一日朝二死体漂着したりと内本縣出稼の漁夫にて溺死したるは左の三名なり

南津輕郡浅瀬石村字清川百五番種市善作△全郡田舎館村大字畑中字上野木崎虎藏（三二）△黒石町大字濱町佐々木嘉之（三九）

明治四十三年六月二十六日

●灣内の海扇貝

△本年産額は三十万圓の見込

昨年より採れ初めたる海扇貝は本年も灣内上北郡横濱村沖合より東郡平内村沖合までの間に於て續々採捕されつゝあり製造所は約百五十箇所位に達し居る由なるが値段は各製造業者個々別々に少し位ずつ輸送し居るため横濱神戸表にて昨今百斤入れ三十七八圓を唱へつゝあれど追々下向きの商状を呈しきたりたれば當市柴葦商店にては價額回復のため野邊地を根拠地として此の程より各製造所に人を派し貝柱の一手買占めを開始し既に三四百箱の買入れを為したる由なるが之が為輸出減少して横濱方面の價額は日増しに上向となれる由にて本年は約三四十万圓位の製造を見得可き見込みなりと云ふ

●鯖の大漁

昨日市内蜷貝町沖合にて大鯖の大漁有り約八百圓の収穫有りたるが値段は一尾六錢より五錢に出來大抵東京方面に向け輸出せりと

明治四十三年六月三十日

●浅虫の貝柱製造

陸奥灣内における海扇の漁獲は來る九月まで解禁され居るが本年は青森灣内一帯に薄漁なるに反し野邊地灣の平内近海は大漁にて昨年の倍以上なりとの事にて全地海岸には數十の貝柱製造小屋を設けて盛んに製造し居るが浅虫には轉山の處に全地高田勘助、鳴海金吉の共同にて三間に六間の製造小屋を造りて日々製造し居るが材料は米田氏所有の小蒸気船を借りて遠く平内近海より運搬し來りつゝあり尤も製造にとりかゝりてより日猶浅きをもつて百斤許りより製造せざるも九月までには余程製造し得る見込みなりと云ふ因に本年の横濱相場は非常の下落にて百斤三十六七圓なりとの事にて製造者一般に不捌きの状態なりと

明治四十三年七月三日

▲水産講習卒業

本日水産講習會卒業式を行ふ卒業生四十一名の内優等者に銀時計の恩賜あり有栖川総裁宮殿下の令旨代読ありたり

明治四十三年七月九日

●本縣の出稼人員數 本縣内二市八郡より毎年北海道樺太地方へ出稼する人員及び金額を聞くに

	人 員 (人)	金 額 (圓)
三八年合計	22,381	687,790
三九年合計	24,956	798,587
四十年合計	23,456	787,937

四一年合計	16,806	790,213
四二年合計	20,450	679,952

●鮫と深浦の漁況

△鮫方面 二日より四日まで鰯油目鮫鮪小漁あり五日東風浪高く漁事なし

△深浦方面 一日より九日まで鮪約四百本漁獲せり

明治四十三年七月十三日

●遠洋漁船燕丸

△根拠地は青森港

東京京橋区清水兄弟會社遠洋漁業船燕丸は樺太近海に臘虎狩りの為再昨日當灣に入港せり該船は十七噸の小型帆船にして而も補助機関としては三十三馬力の石油發動機を据え付け居る事は本縣漁船みさご丸に似たり工費は約一萬七千圓にして本年の竣工に係り今回を以て初航海となすといふ而して全船は今後當港を根拠地として食料品その他一切を當港より給與を受くる筈にて一昨日はタンク石油三十五箱マシン油十箱其の他糧食を積み込み風次第出帆の豫定也しが行先は渡島の小嶋大嶋より小樽を経て樺太東灣内に入り其より千島近海に出て漁業に従事し九月當港へ歸港し横濱に回航して會社と諸般の打合をなし來年より引き続き千島近海に出漁する筈

●海扇の缶詰製造

上北郡野邊地町長末源四郎、吉田新吉、立花喜一郎の三氏協同して近海より漁獲されつゝある海扇の缶詰を製造して横濱市場へ出荷し居るが賣れ行き好況にして去る六日は貨車一車に積み込み輸送せりと

明治四十三年七月十六日

●最終の陳列場

△ひっそり閑としたもの

縣立物産陳列場は昨日で愈よ閉鎖せられた實は去る十二日より閉門して開場せずにいるのだが改まって閉鎖すると在ればそこに一種の新しい感想が沸いて来る正午横合いの耳門から入って最終の陳列場を観ると大きい建物に女看守人三名及び須藤書記の忙がはしげに跡片付けている外には誰一人も居らぬ流石にヒソソリ閑としたもの棚に残ってるは唯縣の参考品ばかり一寸評判だった渋谷翁の製作に係る山林伐採の模型は師範學校へ、造花や果實模型や善知鳥を初め美しい鳥類の剥製や外國製品のインキ台や盆栽台などは青森女學校へ、數々の奇麗な昆虫標本は青森中學校へなど夫々行先を書き付けて居る、詳記すると左の如し

陶磁器全部、木工品（湯元細工）行李類、洋傘真田類、外國製品、農産物標本、花莖壘表（以上師範學校）△木工品（一號より三十八號まで）外國製品（以上青森女學校）△漆器、行李等（工業學校）△鯨鬚細工、鉞石等（青森中學校）△織物全部、繭（女子實業學校）

此の他水産に関するものは水産試験場へ製造機械や農業に関するものはソックリ農事試験場

へ送る筈だと云ふ因に本月一日以來の總參觀人員男 1,210 女 447 計 1,657 人委託販売高 262 点 140 圓 74 錢

●海扇と鮪漁況 渡會水産試験場長の談

岸上理學博士と同行し縣下各地の漁況を視察歸序せる渡會水産試験場長は語りて曰く野邊地沖合横濱あたり迄の海扇貝は實に非常のものにて昨年位の漁獲は必ずあるべき見込なるが此の製造所は約四五十箇所あり漁船は毎日四百艘位つつ沖出し居れるが此がため單に野邊地のみにても約八百人からの製造人夫が入込み居れり而して同地製造人等は本年初めて貝柱の水煮缶詰なるものを製造し横濱方面へ輸出し居れるが今後有望なる水産製造たるべきか次に鮪大謀網は東郡九，北郡三，西郡六，上北郡二，下北郡三十二，合計五十二統あり

●鮮魚列車の増發

鐵道にては當地及び北海道方面よりの鮮魚を輸送するに午後一時二十分の貨物列車に積載して翌日午後十時四十分東京に到着せしめ居りしが為夜間當地に着せる鮮魚を輸送するに不便多きを以て今回更に午前十時發一ノ関行き混合列車に搭載して翌日午後七時三十分東京に到着する様一列車を増發する由

明治四十三年七月二十八日

●大湊たより (二十六日)

○軍港出港 二十四日悉く出港唯時々糧食積取及び郵便物發受の為艦載水雷艇の入港するあるのみ

○蛸出づ 一週間前位よりチラホラ見ゆ土曜後の暑氣激しく納涼の人出所多し目下八十余度なり

○貝柱製造 各所に互り盛んに製造中小學兒童の放課後各製造場に至り勞銀を得る者多し目下大平濱に於て製造中の渥美久幸氏には既報の如く殊に製造に巧みのみならず仕上りの貝柱にして可良なるものには一々函毎に保証書を添付し雨天等のため不完全に仕上りしものには函上に不の字を刷りてその良否を明らかにす以て取引上の信用厚く現に京阪地方及び清商等よりの注文續々なりと云ふ

●野邊地より (上)

▲海扇漁の近況に就いて

○海扇貝は陸奥灣に於ける唯一の天産であつて今年の野邊地町市況は海扇漁の為例年に無く振興しておる漁期は六月一日より九月三十日迄及び十二月二十五日より二月末日迄年二回解禁されて居るが去月一日解禁以來馬門村付近より北横濱村付近に至る曲浦殆ど十里の間に製造小屋は建設され中旬に於て已に製造所は五十六カ所人夫は千百十七人と計上された

○初めは土地の人ばかりの様であつたけれども貝の棲所は横濱沖から掛けて川内沖に互つて居る一カ所に限られて居ることが發見されたので津輕方面の同業者も漁舟を發し製造所を設けた更に去月下旬より北海道出稼人が續々歸つて來たので漁舟は益々多く従つて製造小屋も建て増され製造に従事する人夫は老若男女を問わず激烈なる増加を示し本月初旬製造所は八十余カ

所漁舟は二百人夫は三千と称される様になった

○舟は三人または五人乗りで一昼夜の漁獲高は一舟五十乃至百箱生貝一箱の相場は二十銭乃至三十五銭であるから十圓乃至十五圓の収穫となる而して人夫の方はどうかと云ふに勿論製造所に依って大同小異はあるけれど共男人夫は飯を食はして釜焚は月給八圓乾燥係は十圓雑用六圓女人夫は常雇人夫になると五圓五十銭位臨時雇人は日給二十五銭乃至三十五銭になる子供と雖も十五銭以上を働く様な有様だ去れば漁夫農人を問はず中産以下の子女は翕然として海扇製造所に馳る

○製造されたる貝柱は何処へ輸出さるゝかと云ふに横濱神戸を経て海外主として支那へ輸出されて居る去れば産地と問屋との間に競争を生じ現に横濱の小幡某氏は實地視察として来て居る横濱の相場は四十圓乃至四十五圓であるが七月一日北海貝の解禁と同時に函館より三百個を横濱表に積荷したものがあつたので北海道も亦豊漁ならんと早合点し貝柱の相場は遂に下落したそうなこの下落は製造家に多少の響きを與へたが更に驚くべき事は本月八日以來俄然薄漁となり遂に原料払底を呼び従つて品質亦小粒となりし為依然相場は下向きとなり漁夫も製造家も等しく海を睨むで失望する事が出来た

明治四十三年八月四日

特別広告

野邊地名産

海扇貝柱罐詰

ボイル

▲水煮罐詰は生貝の風味を失はずして

▲佳良なる和洋料理各種の材料となり

▲進物としても亦優美嗜好家の福音也

(尚味付罐詰もあり)

陸奥野邊地港

製造・発売元

中立商会

明治四十三年八月五日

●新聞社へ下賜の銀杯

県下四新聞社に對する三十七八年戦役の際盡力に付下賜の銀杯は既報の如く青森弘前兩市役所の手を経て夫々交付する事となりしが本社及び陸奥日報の分は昨日工藤市長、佐藤庶務係長立会の上にて交付せらる本社の分は

東奥日報社

明治三十七年戦役の際盡力不尠に付銀杯一組を賜ふ

明治三十九年四月一日

賞勳局總裁從二位勲一等子爵 大 給 恒 印

にして下賜の銀杯は其の社によりて大小の型を異にし本社の分は大(径六寸), 中(径五寸五分), 小(径五寸), の一組にして陸奥日報の方は大(径五寸), 中(径四寸五分), 小(径四寸), の一組にて本社のよりは小型のものなりと

明治四十三年八月六日

特別広告

帆立貝柱高値引受

目下横神表ヨリ割合ヨク御引受ケ可申候間多少トモ御送り被下度候

青森市安方町九十四番地

岸商会第三支店

海産物産・委託賣買 岸 糸 三 郎

電 話 四 百 番 電 略 (キ シ) 又 ハ (キ)

明治四十三年八月十二日

●鮪の豊漁と潮流 (上)

△津軽海峡の新事実

△岸上博士の調査談

東北沿岸の潮流に就いては曾て記する處ありしが青森, 岩手兩縣の水産に關して調査せる理學博士岸上鎌吉氏の談に拠ると更に右の事實の証拠になる様な種々なる事實がある

▲津軽海峡潮流の變動 本縣の津軽海峡では從來下北郡の大間岬と佐井との間或は東津軽郡の龍飛岬と三厩との間等に張った網に秋鮪が懸かった事も折々はあつた, 併し夫れは僅少であつた, 處が去る三十五六年頃だか龍飛大間の兩岬を中心とした其東西の兩岸で夏盛んに鮪が獲れ始めて夫れから年々七八十貫目位の大鮪も獲れ大漁の時は一網に二千尾も掛かる事がある位で三十九年頃は實に全盛で今夏も季節は少し遅れたが相當に獲れて既に過般の如きも一時に十四列車に鮪を満載して東京の鮪の相場を狂はせた事さへある, 鮪が如何なる潮流に棲むものか未だよく分からないが兎に角從來余り來なかつた鮪が近年引き續いて來る事は確かに潮流の或る變動に相違ない, 其他從來余り來なかつた鰯も近年この津軽海峡に來始めた又本年からは是迄來たことのない大鯖大鰯等も盛んに來るようになった, 此確かに潮流の或る變動である

▲周期的の變動? 然るに今度博士が下北郡大間岬へ往つて見ると茲處に珍しい一つの品を發見した夫れは鮪を塩漬にして地中にいれて置く道具で大きな箱である然るに同地の八十歳位の老爺に聞いても生まれてから一度もこの道具を使ったのを見た事も無いと言って居るそうだが然し鮪の澤山獲れた時に使う道具には相違ないから此辺で曾て尠なくも八十余年前に鮪の澤山獲れた事があつたらしい, して見ると他の處の事は解らないが尠なくも此の津軽海峡の潮流には凡そ定まった何年目或は何十年目かに一度去つて了つた潮が又來ると云ふ様な所謂周期的の變化がどうもあるらしいのである果して然うとすれば唯漁業上から云ふも是は却々大切な事で

あるから今後渡島の方面からと青森の方面からと両側から尚十分研究の必要があるうと思ふ

明治四十三年八月十三日

●魚類仲買商の恐慌

△鮮魚の取引他に移らんとす

大阪冷蔵株式会社は今春來所有の冷蔵船有魚丸（三百噸位）を當港に回航せしめ當港を根拠地として當灣近海は勿論北海各漁場を廻りて鮮魚を購入し來たり東京魚問屋と直接取引を行ふ事となり目下鐵道と特約して隔日に當港へ歸り毎度五車又は六車の冷蔵貨車に鮮魚を積載して東京まで直輸送し居る為近來當地の仲買商なる千葉伝、沖五、佐末等より輸送するもの著しく減少して昔日の如くならず為に全仲買商間に一大恐慌を惹起し遂には當地の輸送店にて同氏と特約する者には出荷せざる事となしたるが一方冷蔵會社にては當地三立社の手を経て運搬し益々販路の擴張を期せんと着々企劃したるが然も五車を首尾よく輸送する時は約五千円の利益を得ると放言し居る有様なりと東京に送らるべき鮮魚は當地仲買商より輸送する物は漁場より和船積みとして當地へ來たり其を冷蔵貨車にて送出することなれば品質變わり易きに反し冷蔵會社の方は購入したるを直ちに冷蔵船に積み込み其より冷蔵貨車にて輸送する故東京へ到着後と雖も新鮮にして品質に變化無きを以て魚問屋の受よく搗て加えて當地仲買商の手に入りて相場定めらるゝと異なり全會社にて直接輸送するなれば到着後の相場に甚だしき差異を生ぜずして益々好望なれば來年度は更に冷蔵船一艘を回航せしむる計画なりと云ふ

明治四十三年八月二十八日

●漁船の難破

東郡平館村大字石濱木浪與三郎所有の漁船二十石積み一艘は與三郎他十一名乗り組みの上十日午後三時下北郡九艘泊を出発し帆立五十五箱生鯖五箱生鯛一箱を積載して當港に向かい航海途中十一日午前八時頃東郡奥内大字前田沖合に於て激浪の為船体転覆し乗組二人は海中に漂流し居るを全大字澤田福吉他十二名が危難を冒して救ひ上げたるが荷物及び貨幣の流失にて損害約七十圓なりと

商 況

▲綿糸網（追々好況）

本品は追々鰯漁期も間近く日増し需要期に向かひつゝあれば賣れ行き益々好況にして爰許相場は原料高に拘らず持合の姿にて本日成り行きは

經二号百掛二十節二十五圓五十錢

全十四節十五圓

三号全二十節二十六圓五十錢

全十四節二十圓

全十節十七圓五十錢

全四号百掛二十節三十二圓五十錢

全十四節二十五圓八十錢
全十節二十二圓
全九節二十一圓
全八節二十圓
全七節十九圓
全五号百掛十四節三十圓
全十節二十五圓八十錢
全九節二十四圓八十錢
全八節二十三圓七十錢
全五号百掛二寸目二十三圓五十錢
全三寸目二十圓
全六号百掛九節三十一圓
全八節二十九圓七十錢
全百掛二寸目二十六圓五十錢

●鯉の大不漁

△三戸郡湊方面漁業者の大恐慌

年々縣下三戸郡湊方面に於て漁獲さるゝ鯉價格は十万圓近く此間各地より入込む漁夫は約七八百人漁舟亦八九十艘を算し全地方の景氣に多大の關係を有し居れるが本年は該漁業期に入りて既に三十余日を経過し最早其半ばを過ぎんとするに未だ思はしき漁獲をなしたるもの更にあるなく僅かに縣有漁船みさご丸が陸中方面に遠洋出漁を試みて僅々百二三十尾を漁獲したるに過ぎず此を除いては今迄に前記の漁夫數及び漁舟を以てして果たして能く百尾を超過するの漁獲ありたるや否やさえ疑問なる程にて全方面漁業者及び漁民の落胆云ふばかりなし其原因は不明なれど本年は全く海中に鯉の影さへ認めぬ次第なりと云ふ右に就いて去る二十五日漁民一同は館鼻に於て豐漁祈願を為せりと

明治四十三年九月二十日

●下北郡城ヶ澤便り

▲帆立漁 四十戸よりなき小村に六月以降三つの帆立製造場設けられ漁船二十近くの水揚げ貝を受取り盛んに製造しつゝあるが為め漁師及び製造人共に景氣よし

明治四十三年九月二十三日

●沿海漁業會社好況

今春當市の山崎卯之助、田名部の河野榮蔵其の他の漁業家により資本金五万圓を以て組織せられたる沿海州合資會社は第一期に於て豫期以上の豐漁を収め會社所有の帆船は漁獲鱒二千三百石を満載して去月二十八日無事函館に入港一部荷物の揚陸をなしたる上直ちに東京に向け出帆したる由なるが會社にては引き續き本年度漁期以内に於て凡そ五千石の漁獲をなすべき見込

なりと云ふ此の好結果は沿海州漁業の有望を証明するものにして此処地方漁業家發展の暁鐘とも云ふべく明年よりは一層大規模の仕組みを以て着業する心算なりと云ふ

明治四十三年十月一日

●海扇蕃殖保護に就いて

△來る十二月二十五日迄禁漁

本縣水産物中海外に販路を有して重要なる地位を占むる海扇貝は昨日限り來る十二月二十五日まで禁漁期に入れるが従來の例に徴するに斯禁漁の事縣令を以て布達されあるに拘らず往々にして法令を犯して採捕を為すものありて之が蕃殖保護上頗る憂慮すべきものあるより縣にて本年よりは一層嚴重に其の乱獲を取締るべき意向なるやにて此の旨沿岸漁民へ周知せしめられたき旨一昨日付郡役所へ通牒したりと

明治四十三年十月五日

●漁業奨励金廃止

明治三十七年初めてトロール漁業船を製造せるものあり翌三十八年奨励法を改正し各種漁業の新造船に奨励金を下附するに至りてより同漁業に於ても漸次起業者を増し其結果成績頗る良好にして本年度に於ては起業者相次いで起り既に之が為奨励金の下附を出願するもの二十余隻之を従來のものに合わせば約四十隻に達せんとす奨励金の効果斯くの如く顯著にして將來奨励を待たずして益々發展の氣勢を示せるを以て之が奨励金の下附を廃止する事とせり

●各地の漁況

▲深浦方面小鰹群

西郡深浦村にては去月二十三、四日頃より二十六日頃迄に同沖合にて小鰹二千余尾の漁獲あり數年來稀なる群來なれども餌料なく空しく漁獲を逸したること多しと

▲下風呂烏賊大漁

下北郡下風呂方面にては去月二十一日より烏賊大漁にて一艘に付二十一日は七八百尾づつ△二十二日は五六百尾より二千尾づつ△二十三日二千尾より七八千尾△二十四日は約二千尾づつ△二十五日は五六百尾より二三千尾づつ、漁獲し就中蛇浦より正津川に至る海面は近年稀なる群來なりと

▲宇鉄方面烏賊漁

去月二十六日より一艘に付多きは二三百尾の漁獲ありと

明治四十三年十月九日

●魚市場の改善

農商務省に於ては魚市場法案の調査中にして第三十七議會へ提出するや否やは未定なるも早晩議會へ提出すべきが現在の魚市場は設備取引方法に於て旧慣を墨守し世運に應ずるの改正を為すに至らず偶々これに關する法規を見れば衛生警察の方面より見たる食品取締規則等に

て微細の点に官憲の取締を為すに止り東京は勿論全国の魚市場に對し統一的の取締規則あるにあらず従つて魚市場の取引方法の如きも組合への申告不正確にして到底信頼するに足らず賣買も指値成行其の他適宜の方法を以て行はれ唯全く慣習に従ふのみ故に此儘に放置せんか當局者は一方に漁業を奨励するに拘らず取引關係保存方法不完備のため漁業者の利益は他に壟斷せられ其地位は甚だ案固なりと云ふべからず魚市場法制定の目的は即ち此等の点に付改善を加へんとするに有り唯魚市場と云ふても全國に涉り其數多く且つ大小の軒輊甚しく又同市場にして海魚と河魚を取扱ふ者有り生魚と乾魚を取扱う者有り又其漁業者より消費者の手に移る迄にも幾多の仲介者を存し然も市場に依りて其慣例を異にするを以て此を一様に律するは頗る困難なるべく東京日本橋の魚市場關係者の如きは同市場の設備不完全にして改善を要するとの自ら認むる所なれども同市場は専ら荷主との取引によるものにして多くは其指値成行き若しくは單純の委託賣買なれば漁業者の利益を壟斷する如き虞なきのみか同業者相互の競争に勢力を傾注しつゝありて改善の方法に就いては殆ど考慮するの余裕なく又其改善も一朝一夕の業にあらずと語れり

明治四十三年十月十三日

●鮮魚輸送に就いて陳情

鐵道院にては來る十五日より噸扱魚類輸送賃金一噸九圓五十錢を十圓五十錢に値上げするに決したれば當地海産商運送業者に影響すること甚だしく此に加へて北海道産商は近來當地の商人の手を経ずに直輸送をなす者多く一面に於ては大阪冷蔵會社にては所有冷蔵船を當港に廻港せしめて近海各地は勿論遠く北海道各漁場を巡航して鮮魚を積み込み來たり直接東京其の他の市場に輸送するより當地の海産商の打撃を受くる事尠なからざれば同商等寄り寄り相談して共同にて九十噸乃至二三十噸位の冷蔵船を造り以て自己の護衛を為し益々斯業の發展を図る方針を定めたる折り一噸一圓を値上げ実行されては由々しき大事と一昨日海産商若井由太郎、松尾福次郎、坂上五郎兵衛、渡部安吉、千葉伝蔵、佐藤末吉の六氏及び内國通運支店長成田、○大小田桐、○十成田、三立社田中の四運送店主は運輸事務所に兒井所長を訪ひて前記の打撃を受くる事に關し縷々陳情し從來の賃金を其儘に据置かれたしと申込みたるが兒井所長は此を諒とし出來得る限り盡力すると運賃値上げのことは本院の定る所なれば諸氏は陳情書を差出す時は宜しく取計らふべしと告げ一同も亦好意を謝して歸りたるが更めて本院に陳情書を差出す由

明治四十三年十一月二日

●遭難船救助

下北郡脇野澤の向川政吉（二十四年）同杉浦米吉（十二年）二名は漁船に鰈搭載去月二十九日下北郡同村を出帆し翌三十日午後十一時當地着市内博勞町伊藤藤太郎方に販賣の上全三十一日居村に向け出帆凡そ一哩以上沖合に至りしに俄然西北より大風吹き起こり進行困難に付き堤川に向けて引返し一昨日午前一時頃ようやく川口に入らんとせしも電燈なく暗夜の為川口を逸す相馬町口沖に流され且つ生命も危険なれば救助を乞ひたれば恰も全町大谷重吉の濱邊にて鰯

網の番し居たる折とて之を聞き付け水難救済會組合救助夫を呼起こし救助に従事し全午前三時頃船体とも無事海岸に引揚げ救助を了せしか當日救助に従事せしは佐々木鶴松他十七名なりと

明治四十三年十一月五日

●奇魚人を騒がす

△西郡深浦濱の光景

△時ならぬ提灯行列

西津輕郡深浦村大字深浦漁師中川□□郎所有鱻釣船は去る二十九日例日の如く深浦沖合三里余の場所に至り漁業し居れるに浮標の動きしよりソレ鱻ツと釣繩を手繰りたるに容易に浮き上らざるより船中總がかりにて上げたるに漸く水際までは來たれるも鱻にはあらで一種異様の大奇魚なるに一時は驚きたるも如何なる金目のものにや解らざれば漁夫一同懸命にかゝるも到底引きあぐる事能はざるにぞ付近の同業船一艘に加勢を頼み漸くの事に船に上げたがサテ何と申すものやらサッパリ解らず或はキナンポーと云ふものだ又はマンボウだと沖合から評議區々で戻ってきたが何にせよ百五六十貫以上の重みのもの故大騒ぎで濱揚げしたるに其晩の中誰云ふとなく奇魚を漁せること一般に知れ渡り近所合壁は勿論濱の町影の町澤の町小半里もある間の町より見物人山の如く遠く之を見れば無数の提灯右し左し全人地先の濱一面提灯行列も斯くやとばかりこれに名が解らぬからサー大騒ぎソレキナンポーだマンボウだ果てはノッペラポーと云ふ魚だとかベラポーと云ふ魚だとか気の利いた奴はナニッ泥棒だつと向こう鉢巻に鳶口もって走る者もありイヤハヤ深浦は時ならぬ光景を呈して大騒ぎなりしも道理嘗て此の付近の人々は見た事も無き奇魚にして長サ六尺位巾三尺位口は目よりも小さき程にして背と腹に三四尺もあらんと思しき鱗あり外皮は頗る硬性のものにして真に形状ノッペラポーのものなり未だに買手も無く其墟に磯に晒されつゝあり當村水産補習學校教師澤田富蔵氏はマンボウなりと云ふ或る古老の言はそれにあらざるべしとも云へり何にせよ人騒がせの奇魚と云ふべし

明治四十三年十一月十一日

前橋電報 十日

▲共進會授與式

本日聯合共進會褒賞授與式を行ふ大浦農相の式辞終わりにて三十七名に功勞賞を一萬九十名に對して褒賞を授與せり

▲本縣功勞者

本日の物産聯合共進會褒賞授與式に於て産業の功勞者として表彰されたるもの各府縣を通じて三十七名内本縣は左の三名なり

水産	東郡油川村	津幡	文長
同	青森市	山崎	卯之助
苹果	中郡清水村	外崎	嘉七

●鐵道院の茂浦着眼

△久野技師の實地視察

鐵道院勅任の久野和義氏は北海道管理局管内の特命巡視を行ひたる歸途松永保線事務所長の案内にて小蒸氣船津輕丸に便乗して茂浦港に至り灣内の状況を詳細に取調たる事は既報の如くなるが右に就いては茂浦港は旧日鐵時代にも有望なる港灣として實地踏査を遂げたる事ありしも其後間もなく鐵道國有となりたるを以て別に問題とならざりしが同灣は人の知る如く規模は頗る狭小なるも海の深さも相應にありて二三千噸の汽船は容易に入港する事を得べく且前面に横たはる茂浦島は西風を遮り東風及北風は後部に連なる山脈に依りて遺憾なく防がるゝを以て四季灣内の波穏やかにして良灣たる資格を失はざればにや鐵道院にては本紙の既報せる如く來年度に於て青森港に二十萬圓を投じて大棧橋を建設する計畫あるに際し防波堤なき廣口なる當港灣の事なれば仮令棧橋を設けて連絡船を横付けし得るとするも冬期北風の吹荒む際には汽船は到底満足に横付けする能はず加之らず波浪の為に棧橋は尠なからぬ修繕を施さざるべからざれば年々之に對し多大の費用を投ぜざるべからず故に建設する前に於て茂浦港を調査し小規模ながらも同灣に對して青森港に設くる棧橋の費用を投じて連絡船の発着点となさば青函間四時間の航海は半時間許短縮するに至べく従つて消費石炭を節約するを得べし杯有力者間の意見となりて鐵道院に於ても茂浦港に着眼し居るを以て久野技師をして一應の調査をせしめたる次第なれば久野技師は歸京の後調査せる處を復命して可否を決するならんといふ而して鐵道院にて若し茂浦を連絡船の発着点となす暁は浅虫駅より海岸に沿ふて支線を付設し灣内の施設としては茂浦島を北方の地峽約三千尺の処に沿岸より一千尺許の突堤を設けて防波設備をなし市街地を拓むるため後面の山を崩して海深三尋の処迄埋立てする時は埋立地に倉庫を五六棟建設するに差支えなかるべく小市街を形造る事容易なるべしといふ又二百圓位を投ずる時は茂浦島と北方の地峽を連絡して防波堤を設け南西方の地峽を汽船の出入り口とする時は之こそ東北随一の良港灣となる由なるが事實となる時には青森港を貨物の輸送となし茂浦を船客と速達の小貨物の連絡を取らしむるに至るべしと

●漂流せる小廻船

△乗組人は転覆か

當市安方町浅利重次郎全浅利雷太郎全浅利重藏全浅利重三郎全野口三次郎全大字長島中村忠吉の六名は去る十日午前八時鯖漁の為當港を距つる約一里位の沖合に於て漁事に從事中沖合より小廻船一艘流され來たり全漁船に押し掛かりたるが船中を見るに乗組員なく丸太及び炭類を積み下脇第一七八号定繫場下北郡脇野澤村海岸小廻船長三間柴田丹藏と印たる船鑑札を打ちあり模様を見るに乗組人は転覆したる形跡あるを以て一昨日全船を曳き來たり直ちに拾得の旨市役所に届出ありたり

明治四十三年十一月十七日

●死体魚網にかゝる

△過日漂着の空船の乗組員二人

市内大字蜷貝町漁夫今村岩太郎（二四）は全弟単藏（二二）及び柳谷彌三郎（一四）の兩名

と共に去る十四日午後十一時半頃公園地を離る約一里の海上に出漁中手繰網を引上げしに縦縞の肌着を着たる十六歳許の男の屍体かゝりたるを以て船中に引上げ早速巡査交番所に届出んと翌朝堤川川尻に係船し菫町交番所に届出しかば全所より更に本署に電話にて報告したれば榊田巡査部長は午後十二時頃工藤病院医員を連れ行きて船内にて検死したるに溺死後五日許経過したるものにて身体蒼白となり所々海虫に侵食され皮膚離脱し居りたるが其の身元は下北郡脇野澤村大字新田平民松浦銀次郎（十六）と云ふ者にて出漁に出たる儘行衛不明となりしものなるが死体は全村柴田勝五郎に引渡したり又市内造道字浪打番外地平民漁業秋田武五郎（四十）は全町須藤仁太郎（三三）と共に十五日午後十一時頃公園を離る約一里の海上に出漁し翌十六日午前五時頃手繰網を引上げしに又もや裸体の屍網に掛かりたればびっくりして船中に入れ早速歸りて其旨を菫町交番所に訴へたれば戸田巡査部長は工藤医員を随へて船に至りて検死の結果前全様溺死したるものにて身元は矢張下北郡脇野澤字新田番戸不詳平民柴田丹蔵（三七）と云ふ者にて銀十郎と共に全船せるを難破したる結果全所にて溺死し船は空となりて斯安方町海岸に漂着せるなりと死体は同じく柴田勝五郎に引渡したり

●海扇を採捕賣買して

左記數名は目下禁漁中なる海扇貝を採捕又は賣買し何れも告發さる

上北郡横濱村口徳太郎（三十）十月二十七八日全沖合にて五箱採捕△東郡中平内村浅所館田丑五郎（二三）全吉太郎（一六）他一名は十月三十日四箱全上△上北郡横濱村館辰五郎（二四）は十月二十七八日六箱全上△東郡中平内村大字東田澤加藤由吉（二六）は十月二十三日海扇を買取る△上北郡七戸町字川向泉山金兵衛（二九）は十月二十七日全上

明治四十三年十一月二十日

●西豫丸の遭難

磯野本店所有汽船西豫丸（八十二噸）は先年當港大湊間の定期船として暫く航海を為し其の後も時々入港せしが目下函館酒田方面の航海を為し居る由にて再昨日も酒田より米其の他の貨物満載し函館に向け航行中大時化の為遭難秋田縣下北浦に船員一同漸く上陸せし旨全日午後小樽支店に急電あり支配人永島氏は直ちに遭難地に向け出發せしが未だに何等報告に接せざれば船体の模様は不明なりと

●川崎船遭難後報

去る十三日上北郡横濱沖合にて川崎船一隻遭難し三名溺死せる旨報せしが右は全日午後八時頃川崎船に乗りて全村海岸に漂着せし南郡大杉村大字大釈迦天内弥一郎（二六）の申立てに依るものにて全人は東郡清水川沖合にありて禁漁中なる海扇を採捕中時化に遭い全船者三名が海中に投下されたるなりと申立てしかども其姓名を知らず尚ほ彌一郎は精神に異常を呈し居るらしく全村にて保護中逃走し今に行衛知れずと

明治四十三年十二月三日

一府十四縣聯合物産共進會受賞者

本日の本紙には群馬縣主催にかゝる一府十四縣聯合物産共進會に於ける受賞者を紹介する為本紙記事の他特に二頁の付録を添へたり

功 勞 賞

水 産 東郡油川村大字油川 津 幡 文 長 写真

安政二年十月十五日

從來海産商を營みたり而して去る明治十年以來専ら外國貿易に従事し其重なる海産物は本縣産の明鮑，灰鮑，煎海鼠，海扇貝柱等にして各地に博覽會，共進會，品評會等の開催さるゝ毎に必ず之を出品し而して毎回一二等の褒賞を受けざることなし之を以て見るも其製造改良方法は頗る佳良にして他に誇るに足るものあるを知るべし加之氏は漸次斯業改良法の普及に努めつゝありて其功績亦尠なからず今回其功勞を表彰せらるゝも宜なり

水 産 山 崎 卯 之 助 写真

氏は安政二年四月宮城県桃生郡雄勝濱村に生まれ明治十一年本縣大湊村に移住す初め空手空拳にして廻船問屋を創めしが二十三年更に田名部町に移り海産商を營む先之氏は屢々北海方面を航行して備に沿岸一帶の地勢と水産實態とを査察し我が下北半島に於ける鮑漁業の極めて有望なることを發見したるに當時資本の不十分なると斯業關係の調査未だ全からざりしとの為空しく數年を経過したるも一旦の決意牢固として抜くべからざる氏は日夕之が起業の志念頭を去らず遂に二十九年に至り非常の苦心と奮勵とを以て同郡尻勞に鮑大謀網を敷設したるも不幸大時化に遭遇して漁具漁船一切流失し慘憺たる苦心の結果も一朝にして水泡に歸し了んぬ氏の失望殆ど言語に絶せりと雖も翌三十年捲土重來の勢ひを以て更に前年の尻勞と佐助川との二カ所に其建込みをなしたり氏満身の希望將に此の一舉に在り結果如何か天を拝して其運勢を祈りしことも實に一再ならざりしと云へり然るに此年幸いにも良好の結果を収め一漁期間に能く五千余圓を利し氏をして益々其施設を擴大するの決意を固からしめたり爾來鮑大謀網漁業は陸續として下北半島に勃興し近年更に津輕半島方面にも及ぼして現今縣下建網總數七十九統に達し年々三十萬圓乃至三十五萬圓の産額を見るに至れるもの畢竟氏の奮勵開發によるものと云はざるべからず氏は又一昨年以來青森市千葉三次郎，田名部町河野榮藏氏と力を協せて沿海州漁業を興し帆船水安丸（一九二噸）を使用して良好の成績を収めつゝあるもの以て氏の抱負を見るべし然して氏は田名部小學校建築寄金千五百圓を初め地方の公共事業に寄付し盡力したること數十，今回一府十四縣聯合共進會に於て水産功勞者として薦賞せられ多大の名誉を担はれたる寔に故なしとせず

明治四十三年十二月六日

●烏賊釣船の破碎

△漁夫四名の溺死

下北郡東通村白糠は烏賊漁期に入りて漁船は千葉、新潟、函館辺より入り込み居り昨今は非常の人気なるがこの四五日は打ち續きて時化なるが為休漁のところ去る一日少し風たるを以て下船せるものと見え川崎船一隻は荒れに荒れたる大波に翻弄され果ては破壊の悲惨を來たし遂に漁夫四名の溺死となり一人は辛くも一命を得たるが船体は散り散りに破れて濱辺に打ち上げられたり姓名は未詳なるも土着の人にあらざるが如し

●幸運丸の転覆

市内蛸貝町石戸熊太郎所有小廻船幸運丸は去月三十日下北郡川内へ向け熊太郎一人乗りて當港を出発せしが航海中暴風激浪に遭遇し二日午前五時頃流されて東郡平舘村大字石崎字彌蔵釜石崎岬を距つる百間沖合に投錨避難せるに一陣の強風と共に俄然船体転覆したるを全村小鹿兼次郎他三十五名が見て協力救助し船体及び瀬戸物二十三個魚粕四十四個白米六俵石油三箱味噌六樽清酒五樽其他を陸上に引揚げたるも尚九十余圓の損害を來せり

明治四十三年十二月十六日

●十和田湖の養魚

△鱒卵の分與とカパチツポ魚移殖

本年十和田湖秋季鱒捕獲高二十萬尾餘にして其の内親魚に要せし分は雌鱒二萬七千尾雄鱒一萬千二百尾此の採卵高壹千五百萬粒の孵化場に收容せしが常時發眼期に際し本年地方輸出種卵數量殆ど七百萬粒餘に達せり其の輸出先は宮内省の養魚場日光及び箱根兩湖始め福島、青森、秋田、山形、滋賀、北海道、東京、兵庫、茨城、長野、新潟、島根、宮城、栃木、神奈川等の各府縣なり然るに十和田湖に養殖成功の結果各府縣に於ても川、沼、湖、池等の流用に注意し養魚事業の年を追ふて擴張に趣き従つて如斯十和田湖より歳々多數の卵を各縣に輸出するは喜ぶべき事なり○尚ほ十和田湖に於て明治三十五年中北海道支笏湖産カパチツポ魚を始めて移殖し三十八年これを捕獲せしに魚体一尺二三寸にして量目二百匁以上大なるは三百以上ありしが爾來全湖に於て採卵蕃殖し來たりし所當時捕獲鱒は至つて小魚となり三年生にして一尾の量目稀に百匁内外の者あるも多くは六七十匁位に止まり依つて尚ほ試験の爲め今回北海道廳に依頼し支笏産魚卵千歳孵化場より輸入し目下孵化中の所良好なりと云ふ

●三戸郡の難破船

岩手県九戸郡種市村大字鹿川野口岩松所有小廻船榮運丸は外二名乗船し去る八日居村より三戸郡湊村川口に航行中十二日午後六時半頃鮫村字小船渡海岸より約三十間沖合にて俄然暴風に遭遇し激波烈しく船体の自由を失ひ暗礁に突き当り船体破損海水侵入して沈没したり積載の木炭百四十俵を海中に投棄し損害百三十四圓に上れりと

明治四十三年十二月十八日

●四百餘圓追徴

下北郡佐井村大字佐井漁業法違反前科二犯西谷兵助（五四）は免許を受けずして本年四月二十日より六月末迄鮪大謀網を使用し全百二十二本此の價額四百四十五圓六十八錢を收穫したるが為昨日罰金七十圓に処され且鮪代金四百四十五圓餘追徴すとの判決を下さる

●漁師七名救はる

東郡蟹田村大字塩越漁業小川源作（注：甚作であろう）外六名は長四間の漁船に乗込み去る十一日下北郡脇野澤村沖合に於て鰈手繰網漁業に従事せしが正午天候激變し暴風の為船体転覆したるを全村蛸田杉本三次郎外二名が発見し救ひ出したりと

明治四十三年十二月二十三日

●東郡久栗坂たより

○初鱈 沖合漁業中なるが初鱈四五本づつの收穫あり例年に比し魚体肥大なれば本年は大漁ならんと人気大いに振るふ

明治四十三年十二月二十五日

●野邊地たより

○北海道漁夫雇入 客月下旬より各旅館に見ゆるも案外少數なるに被雇人多き為に一兩日にして五六十人は雇入らるゝ由従つて場所行支度とかにて呉服店始め各商店共多少景気を副ふるものなるに寂寞として振はず所謂場所親方の未だ十分に入込ざる為ならんも不景気なる低気圧に因るべしとの雇員の観測

明治四十三年十二月二十六日

●東郡久栗坂たより

○漁船の遭難と救助 隣村野内中畑要次郎外二名乗込二里位沖合出漁中誤つて転覆救助を絶叫し激浪漂流しつゝありしを久栗坂松山孫市外數名乗込歸帆航行中之を認め要次郎外二名を救助歸宅應急手当を施して漸く九死に一生を得たりと因に風浪の為漁船救助の余裕なく該船は打棄て置きしに全宇中畑定吉外數名乗込船にて之を拾得して歸帆せりと

明治四十三年十二月二十七日

●荒物、米穀、漁夫

△北海道と青森縣

△荒井道會議員談

○藁細工物 の中縄は此の頃西海岸に於ても聲價を博して秋田や北国筋のものより評判は良くなりましたが藁に至つては信用は全くありません干藁は粕が漏つて使はれません、而して見本と實物と全く別物で其の内中身は四尺か三尺五寸近いものもあつて全く用に立ちません検査などは如何して居るのでしょう、昨年五所川原より草履を送られました但し値段も勿論一足七厘と云ふ安値でしたが、實に小さくて女の外使用に堪へません其も指の通さざる様なもの許りで

処分に困って壁のつたにしました、僅か一葦水を距つと青森縣が如斯ものを送って信用を害して居るは實に遺憾の事でありませんか、秋田の監獄草履は青森届け一足一錢三厘ですが一足一錢五厘でも人の履けるような物を作って貰いたいものです

○米穀 は昨年より検査の効能が漸次能くなりまして今少し注意したら信用回復は出来るでしょう

○出稼人 は一般に情けで一寸でも人の閑を盗んで遊び居るのは青森縣特に津輕地方の通弊でしたが此の頃は充分能くなりました、他地方人には劣りもするし夫に途中から逃げたりするのも津輕人の特有の弊で近年は北海道に於ても経済的になってかなり人夫を減して行く方針になったのと薄漁との為人は余ってきましたし樺太も始めは互いに人夫の多きを誇りとしましたが昨年頃より何れの漁場も半減しました特に此の頃は北國地方の漁民の出稼ぎも漸次増加して來ましたから之に押される様では目と鼻の間の津輕地方の経済上に余程影響するかと思いますから一つ官民共に注意ありたいのです秋田縣の模様を申せば村長などは十分世話をして呉れ某は前科はあって未だ操行は修りませんからこうだとか何の誰は勉強だからどうのと種々云ひましたから私共も安心して雇ひ入れる事が出來ます當地に於ても此の際特に村長や村の有志と協力して旧弊を打破せなければ將來取返しの付かぬ損になりませう

明治四十四年十一月二日

●鮫漁民の暴動

△捕鯨會社其他を焼拂ふ

▲第一報（午前十時鮫特派員發電）

本日午前九時鮫村漁民數百名捕鯨會社を襲ひ同會社を焼き拂ひたり負傷者十數名漁民は進んで大字白銀に至り肥料商長谷川、關川の兩家屋を破壊しつゝあり慘憺たる光景を呈しつゝあり人心恟々たり

▲第二報（一日午後一時八戸特電）

△漁民の焼打 鮫村漁民の爲めに捕鯨會社を初め其他附近にある肥料商各は全部焼き拂はれたり

△民家の破壊 漁民は更に武器を携へ鬨の聲を擧げ進みて鮫の石田屋を襲ひ多少の破壊をなし夫れより大字白銀の肥料商關川、長谷川藤次郎、湊の神田等の家屋其他をメチャメチャに破壊し午前十一時過ぎ巧みに退散したり白銀巡查駐在所も破壊せられ長谷川藤次郎の網全部焼棄せらる

△重軽傷多し 鎮撫に向ひたる巡查部長二名、巡查三名負傷し鮫村前村長久保忠勝重傷を負ふ其他負傷多し

▲第三報（一日午後三時八戸特電）

△警官の負傷 巡查部長矢野虎太郎、廣瀬今朝吉、巡查狩野尾慶吉、小關末太郎、海老田篤次の五名負傷せり

△暴行止まず 漁民の暴行止まず八戸方面へも來襲すべしとの報あり警戒中なり

▲警官の應援

(司法官の出張)

暴民の報に接するや道岡警察部長は成田保安課長心得と共に又岡本警部は巡查二十名を引率して共に午前十一時三十分の汽車にて兇行地へ急行したり又青森地方裁判所よりは伊藤豫審判事男庭検事は松岡書記を随へ午後二時の汽車にて出張せり

▲講習生の避難

鮫の漁民蜂起して常に悪感情を抱き居る捕鯨會社の建築物に放火して乱暴を逞うしたる為め同附近にある本縣水産講習所にては萬一暴行を加へられるを慮り職員生徒一同安全なる處に避難せりとの報縣廳水産課に達するや渡會技師は急遽午後二時の列車にて現場に出張せり

▲暴動の原因

捕鯨會社の鮫地方に捕鯨事業場を設置せんとするや地方の漁業に影響すること大なりとして反對の盛なりしは世間の既に知る處なるが其の後會社は捕鯨頭數に應じて歩合金を關係地方に出し以て慰撫し其の反抗を緩和し來たりしが其の歩合金は關係地方一般に及ばざるより鮫地方民はますます反感を増し來りつゝあり近頃に至りて形勢次第に不穩となり兩三日前に至りて漁民側と會社との間に交渉されつゝありしとの説ありしが昨朝に至りて遂ひに爆發したるものゝ如し因に久保前村長は鮫村に於て捕鯨事業賛成者の主たるものと目せられ居りしもの長谷川藤次郎氏等が該事業の爲めに盡力し來れるは皆人の知る處被害の大なるべしと某消息通は語れり

▲暴行者の引致

暴動の首謀者として十餘名拘引されたりとの報或る向きに達せる由

大正元年十一月八日

●海扇鐘詰成功者

△中立商會店主の談

十月二十三日、成功せる海扇鐘詰業の製造方を視察の爲め出張の際中立商會店主に面會し説明を請ひたるに大要左の如く談された(文責在記者)

海扇の鐘詰ですか。今では如何やらペーパーも賣れて來ましたが最初は随分苦心したものです。抑もの始まりは支那へ輸出の目的で掛ったのですが如何しても上手く行きません。何遍も何遍もやり直して漸々兎に角相當のものを造りあげましたが御承知の通り。其の當時は海扇の鐘詰が未だ何処にもなかったのです。盛んに見本々々と見本代に倒される程取られたものです。何も發展の第一歩と思って損を覺悟で廣告したのが今では段々効力が顕はれ逆も造り續かないと云ふ有様になって來ました。賣れ先は内地では東京、横濱が最も多く次いで神戸、大阪、新潟、長野及び東北各縣に向けて居ます。又外國では米國布哇が一番賣行きよく清國は豫想程は行きませんが之も段々好況を呈して來ましたし夫れに昨年あたりから英國へもドシドシ向いて來ました。何見本さへ送れば幾何でも販路を廣げられるが残念な事には灣内から捕り得る海扇に制限があつて逆も全國には廻しきれないのです。で目下の急務として海扇の繁殖力を研究して居ますが一体海扇の産卵は三月ですが、毎年一定に繁殖してくれないので弱ります。是に就

いて某博士の御話を承はると、海扇は毎年一定に産卵する事は産卵するのだが其の産卵期は天然の気候と一致しないために寒気其他の影響で空しく死んで仕舞うのださうです。夫れに今一つ困る事には卵は潮流の比重に依って飛んでも無い方へ運ばれ孵化する機会を失って仕舞うのもあるさうです。青森灣から一昨年は三十萬圓、昨年は拾萬圓、本年も約拾萬圓代捕れました。尤も數から云へば非常に減じて來ていますが去年のは一昨年の取り残し、今年のは去年の取り残しだから數から云へば無闇に減っているが粒が大きいので價格ではそんなに劣りません。斯うして居る内に又産卵の都合の良い年が來て灣内が海扇に敷かれる事もあるでせう。又三年生頃からそろそろ産卵し出す様ですが何年生の卵が一番良く生存競争に勝ち得るかと云ふ事は矢張今研究中です。夫れは兎も角も今全國で海扇鐘詰の製造に従事しているのは下北郡の川内に一個所、野邊地に當商會の外一個所、それから北海道の根室に一個所都合四個所ですが大抵未だ大仕掛けにはやって居ない様です。海扇の収穫は五月から翌年の一月迄許可されて居ますが秋から冬は日も短く沖も荒れるので如何しても一番良いのは五月から十月迄の五ヶ月間です。當商會の製造高は左の通りです。

年度	四打入箱數	全價格	販路
四二	二〇〇	八圓五	内地
四三	一、六〇〇	八圓五	内七外三
四四	一、四〇〇	九圓〇	全
四五	一、五〇〇	九圓五	全

是れ位では逆も一般の要求を満たし得ないので段々發展さして行くつもりです云々。

●牛鐘と寒天

吉田直次氏の試業

材料豊富化為好望

○畫中の生活

一昨年以來縣水産試験場の小岩井技手指導の下に寒天製造に従事して居る吉田直次氏は一面野村治三郎氏の聲援を得て寒天製造に就いては確かに成功の光明を認めて居る現に青森種馬所道脇觀音林前に小流れを構へて製造小屋を建設し本年も原草若干を買入れて目下器具の手入れ中である寒天は冬期のものであるから當地方の事業としては誠によい手本であるが個人經濟としては春夏秋の長い期間を如何に善用せんか尤も考ふべき事で氏は此の期間特に春季を利用して小河原沼産の蝦とはぜの佃煮及び灣内のわかさぎを漁獲して飴煮を試み此方面も頗る賣行に於て好評を博して居る記者は晩秋の透徹せる日光を浴び廣汎なる刈り田を踏んで氏が所畫中の生活なる寒天製造所を訪ねたら數人の人夫は器具の整頓に忙しく職工は製鐘に忙殺されて居た此の鐘こそ氏が最近關西地方視察によりて得たお土産の一つで

○牛肉の鐘詰 を試みるのであった牛肉鐘詰の好望なる事は秃筆を弄する迄もなく世に定評ありて鐘詰中十分の四は牛肉鐘詰であると云ふのでも其の需要の多い事が知られる然るに本家本元なる神戸の大和煮は生肉賣行の關係より近時著しく原料に不足を感じ此の分で押進めば牛鐘業者經費倒れに倒れはせむかと寒心されて居るさうな關西及び東京の企業者は關東特に青森

北海道の牛に目を注ぎ最寄り最寄り計畫して居るさうで當地方の企業は最も有望とせられ八戸地方でも罐詰熱に犯されて居る模様であるさて牛罐業の經濟如何を顧みるに單に生牛を屠殺して罐詰のみにする肉の價を論ずる時は左程甘い算盤も取れぬけれ共罐詰に附帶して角、骨を利用する工藝品脂肪を利用する石鹼製造其他肥料等多々副産物を起こし得る望みがあるウマク行くかどうかは今後の問題であるが自分は飽くまでも此事を成功したいと思ふて居る云々と語り終わって吉田氏は意氣軒昂としてあつた中立商會の海扇罐詰は販路に於て成功して居るが材料収集の点に於て一なるを得ない寒天と牛罐は材料の豊富なる点に於て天下一品であるから希くは後継者の為め地方殖産のため成功さしたいものである落日暉々として堰を流れ遊ぶ客鴨の暮□を誘ふに驚き辞した。

●野邊地と交通機關

△石郷岡驛長談

今回品評会の開催に就き特に野邊地町の交通状態を知らんとして石郷岡野邊地驛長を訪問せしに大要左の如く語られたり（文責在記者）

△鐵道は主力 野邊地町の交通機關としては海に汽船陸に汽車荷馬車を控へたれど、荷馬車は元より數ふるに足らず。又汽船も汽車に比しては到底及ぶべくもなく結局鐵道をもって主力とせざるべからざるなり。尤も汽船は大湊間の定期船の外、伊藤福平、中村久治、杉山久之丞等數氏の私有船あれど、數量に於ては遠く鐵道に及ばざるなり

△一日二百圓 野邊地驛は明治二十四年九月十日開通以來目下九代目の驛長なるが現今一日の収入は平均約二百圓にて旅客収入と貨物収入とは略相等しく又一日の乗客約百人と云ふ情勢なり、次に昨年中の

△主なる輸出高 を記せば如左

- (一) 牛約千頭、代金約二萬圓（一頭平均二十圓）
- (二) 馬約二千頭、全二十萬圓（全百圓）
- (三) 木炭、約千噸、全一萬四千圓
- (四) 帆立貝柱、約四十噸、全三萬圓
- (五) 帆立罐詰、約四十噸、全一萬圓
- (六) 鮮魚、約二百噸、全五千圓

右の内牛馬は野邊地産のものよりも寧ろ北海道より大間に渡り夫れより陸路を経て野邊地より乗車するもの多く比例は略一と二との割合なるが如し木炭は枇杷野より出づる楠美榮吉のものも少からざれど大部分は六カ所村字戸鎖に約三百町歩の雜木林を有する濱中源七氏の事業産出高なり又帆立貝柱は濱中重次郎、杉山新之助、長末源次郎三氏の輸出に係り帆立罐詰は中立商會三山根吉三郎氏一の割合にして鮮魚は濱中重次郎、長末源次郎二氏のものなり。此の他味噌、醬油等の積荷無きにしもあらねど其等は大抵前記三氏の私有船にて北海道に向くものなれば驛の取扱數は甚だ少量なり

大正元年十二月十七日

●東郡久栗坂だより

▲鱈漁

前濱漁況皆無の有様にして市況更に振はず昨今一二尾の鱈を海濱に見受くるのみ

●茂浦沖の鱈漁

灣内茂浦港沖合に於て近來珍しくも鱈漁ある為め漁民は盛んに投網漁に取掛かりし結果可成の漁獲ありたれば昨日浅虫驛より仙臺に向け同所にて漁獲せる生鱈七噸車一車の輸送をなしたる由なるが之を以て浅虫開驛以來嚆矢となすと云ふ

大正二年一月五日

●遭難船救助

東津輕郡三厩村大字字鐵十五番戸神與八（四十八年）全人妻ヨソ（三十四年）去月二十二日午前七時長三間の漁船に乗り込み居村龍飛出帆北郡小泊村を差して航行中午前八時龍飛岬汐の口に差掛りたるに潮流激甚にして船体の操縦意の如くならざるに際し俄然強風に遭ひ船体轉覆して船底に縋り救助を求めたり然るに龍飛救難所救助夫三浦岩松の遭難現場の附近に在りて漁撈中以上の實況を認め他十名と協力し風波を侵して之を救助したり

大正二年一月六日

●父子の海上遭難

△半死の状態となりて浅虫に漂着

東郡蓬田村大字阿弥陀川口森市兵衛（五七）及二男與太郎（一七）の兩名は去月三十一日朝全郡平館村へ木炭回送の為め長さ五間の漁船に乗込み居村海岸を出帆し二ツ谷沖合に至りしに風向き變じたらば歸村せんとしたる處午後四時頃より西南の暴風となり急に沖合遠くへ吹流され折柄日没となりたるさへあるに暴風雪益々吹き募り激浪烈しく船具を洗ひ落とされたれば運命を天に委して漂流せる内翌元旦の午前五時頃東郡浅虫温泉沖合裸島より約五丁位南に當る海岸に漂着し兩名辛うじて上陸したるも手足凍傷の為め身体の自由を失ひ死を待つばかりなりしを浅虫時田鎌次郎が発見したる旨浅虫派出所へ届け出たれば寺山部長は森山區長と協力し人夫三十名を出し漁船を揚陸せしめ且つ兩名保護に盡し歸村せしめたりと

大正二年一月十一日

●海參を原料として

△新なる菓子を造くる

△野邊地の野坂若松氏

△海參は言ふまでもなく海鼠を煮て乾したるものであるが、清國人は昔から非常に此の海參を尊重するので、元禄の頃から俵物三品の一として輸出したものだ

△清國人の斯く賞美する所以は、海參は補温滋養の効あること、人參に比すべきものであるといふにある、いりこを海參と書くやうになったのも、要するに人參より出たのださうだ

△海參は北海道産を第一とし、之に次ぐは南部及津輕産である、徳川時代には長崎に海參輸出検査所といふやうな役所を置いて、製品の階級を十段に分ち、最も善いものを十番とし、九番、八番と漸次劣等なものと定め、十番の最良は北海道産及南部産津輕産の優良、次ぎの九番は南部産津輕産と定めたものだ

△斯の如く本縣は海參の主要産地であるが、昔から海參を只だ海參として輸出するのみにて、海參を原料として何等か新なる製品を試みたる者が無いのは、或る意味からいへば發明心の薄弱なるを示して居るかのやうで、多少の遺憾が伴はざるを得ない

△野邊地町の野坂若松といふ人は海産物商であるが、前記の意味と同様の感を抱き、今は海産商であるが以前は菓子製造業者で、製菓に種々経験があるので海參を原料として斬新なる菓子を製造せんと、數年前より頻りに研究した

△菓子などを製造するには、其の原料を何かしらちょっと分からないやうにするのと、なるべく原料の香味を失はないやうにするのとある、或る地方の名産となつて珍重されて居るもの、殊に補温滋養の効ありと賞美されて居る海參などは、其の香味を失はざるやうに製造しなければならぬ

△野坂氏は種々研究の結果、羊羹を製造することは最も適當なるを考へ、幾百回となく試製して、漸次改良を加へ、遂に目的通りの新なる羊羹を製造して、之を「滋養海參羊羹」と命名した

△愈々發賣するに就いては、先ず十分斯道大家の批評を乞はざるべからずと、食道樂の村井弦齋其他の諸氏に贈つて清鑑を乞ひ、他方には衛生試験所に送りて分析を願い出たりとのことである

△我輩も此の頃ある處に於て、其の一片を試食することを得たが、其の色は漆黒にして光澤あり、之を舌上にする時は、一種高雅なる海參の香味徐に生ずる、而して他の羊羹の如くニチャニチャと齒に粘着やうなことはなく、頗る齒切れが只よい

△其の一片を試食したるだけだから、斷言は出来ないが他の羊羹に比して堅くなり易い憂はないかしらと疑はるゝソレと今一つは原料が高價なものだから、他の羊羹のやうな値段に發賣することは出来なからうといふ点である

△兎に角海參は本縣の名産であるが、其の名産を原料として何等かを新製するといふ發明心は閑却されていた遺憾を、今回野坂氏に依りて除去することを得たのは、我等の快心とするところであるから、こゝに不取敢紹介するのである（一記者）

●隼丸の初手柄

△タンク船無事離礁す

野内に座礁せる英國汽船ウォリユート丸は一昨日午後三時頃より石油の陸揚を為し船足の軽くなると共に前日は勿論當日早朝より全船の離礁に勉めつゝありし警察ランチ隼丸がウォリユート丸の船側に碇綱を結び遠く沖合に碇を沈めて數回引寄せたる處午後四時頃までかゝりて漸く離礁し午後九時頃には全く航行自由なるに至りしかばウエルトン船長の喜びは非常なりし一方又警察署にては四千余噸の石油を搭載せる外國船を無事救助し得たるものなれども是れ署員

の力にあらずとて功を隼丸に歸し新年早々隼丸の初手柄として望月所長初め救助に盡せる戸田警部補小田桐部長等大喜びなり

大正二年一月十七日

●船舶試験所新設

汽船各種の装具船型等に就いては勿論鎖船燈の末に至るまで歐米の海運國は既に夫々適當なる智識を集めて之が調査研究の機關を備へつゝあり然るに我が帝國は東洋の英國を以て自任し海運業亦日を逐うて隆昌に向かひ且工業試験所、農事試験場等の設備あるにも拘らず獨り海運の原動力たる船舶に對し何等の機關なきは頗る遺憾なるを以て年來通信省は案を具して一個の船舶試験所の設備を要求し來れるも所謂財政上の關係は常に不急の事業として之を削除せられ居れるが近時船舶の増加と海難事故の頻發は是非とも該機關を設くるの必要急迫したるを以て明年度豫算には一部の經費を求め置きしが果たして如何の結果を見るべきか懸念に堪へず尚海運關係の新豫算は前記試験所費以外僅かに六萬圓の燈臺新營費あるのみなりと湯河管船局長は語れり

大正二年一月二十二日

●海上の悲劇

▲深浦沖合の椿事

▲父と子と共に死す

▲鱈釣舟の轉覆三人死す

西津輕郡深浦村有馬勇之助全市太郎堀江慶吉野呂惣作岩根吉助の五人乗合鱈釣舟は去る一月十一日他の鱈釣舟と共に出漁せるが他の漁舟は何れも歸り來れるも有馬の漁舟と中川慶蔵の漁舟は午後の八時に至るも歸らず折から雪は鷲毛の如く飛んで咫尺を辯ぜず風さへ無くも夜は暗澹として物凄く折り折り吹き起こる強風に雪は落花と亂れて狂ふにぞ親族知己の驚き一入にて磯岸に

▲篝火を焚きて 目標となし居る折しも中川慶蔵の漁舟歸り來れり磯に待ち居りたる人々は先づ中川漁舟の無事を喜び同時に有馬漁舟の安否を聞けるに廣戸沖合にて確か此の漁舟の後となつて來れる筈なりと告げしかば後刻歸り來るならんと人々聊か愁眉を開き安堵せし甲斐も無く待てど暮せど歸らざるに再び心を煩しけるも既に降雪も歇み風も和らぎ波も起こらねば轟木邊に落船せしならんとさまで心にも懸けざりしが十二時頃遙かの沖合にて

▲救助を求むる人聲 の山に響きて聞ゆるとの報に接し破驚一大事と乗合員の家族は勿論漁業組合水難救護組合其他大騒ぎをなし村中上を下への混亂を極め陸上偵察海上搜索船を出し人を四方に走らせなぞする内に早や三時も過ぎたりこれより先出漁中の有馬漁舟は中川漁舟の後を追ふて來れるも降雪の為め方角を失ひ兎角する内如何なる機會にや廣戸沖にて漁舟轉覆し乗合員一同死力を盡して漁舟を起こしたるも舟具の大半を沈め舟中の海水を排除するに由なく辛じて海水を排し櫓を漕り居たるも當日は

▲寒気猛烈にして 一旦海水に入りし人の到底堪ふべくもあらず十二日午前七時頃堀江慶吉凍死し次いで有馬勇之助亦凍死せり現在實父勇之助の落命を目撃せる長男市太郎は落膽の餘り殆ど倒れん許りなりしを野呂岩根の兩人に励まされ元気快復し漁舟を操縦し來れるも寒威は沁々と膚を刺して針の衣を着けたるが如く既に一日過ぎるに至れり漁舟に残るは唯一挺の櫓のみなりしかば此を以て漁舟を漕り深浦差して漕ぎつゝあるも海水に浸りし帆と四十餘枚の配繩は半ば海に入りしを狼狽の餘り心附かず為めに

▲漕げども漕げども 漁舟は進まず兎角する内に市太郎は己の死を豫期したりけん自ら綱を以て帆柱に己が身體を縛り付けしこそ哀れなりされど野呂岩根の兩人に励まされ「今少しだ我慢せよ」と居り居り聲掛らるゝ度毎「大丈夫だ」と應呼し來れるも深浦沖合に近づく頃は其の聲も沈み勝ちにて次第次第に消えるが如くなりしと、折から

▲救護搜索の為め に行ける深浦漁業組合水難救護組合の救助船はこれを發見し直ちに救助船内に移し先づ有馬市太郎野呂惣作岩根吉助の三名を第一救助船にて歸途に就き舟夫一同之を励まし又有馬市太郎は如何に呼べど叫べど應ふる聲なく灣内間近き大岩の沖合にて「親・・・」と唯一聲を名残にて此の世の人とは見へずなりしと市太郎は既に既に死の神に誘はれけん魔の神に導かれけん最初救助船に移し時は帆柱を抱きて容易に離さず辛じて移乗せしめたりと云ふ磯岸に歸れる彼此午前七時過ぎ海岸一帯人を以て垣し此の遭難の漁夫を迎ふ直ちに家に入らしめ醫者二名を招き市太郎に長時間の人工呼吸法を行ひたるも時既に遅く遂に彼の世の人となる家族は申すに及ばず知己親類悲泣鳴號

▲父と子の死屍を抱き 狂い叫ぶもの實に目も當てられぬ有様なりし市太郎長男市太郎は本村に於て漁業に就いては最も熱心にして漁場の選定漁具の改善漁撈方法の改良等又有馬勇之助は嘗て深浦漁業組合の理事として組合の發展策を講じ父子共に有為の人々なりし一月十四日午後二時堀江慶吉氏の葬式は當地寶泉寺に營まれたり會葬者は深浦村消防組漁業組合員及有志等稀なる會葬者なりし漁業組合より弔旗一旆及弔詞を贈りたる全十六日は市太郎父子の葬式は莊巖寺に於て營まれたり息市太郎氏は在郷軍人會員なるを以て當日は部隊會葬をなせり深浦村消防組深浦漁業組合水難救護組合在郷軍人會深浦村分會其他の有志無慮五百名の會葬者なりし大日本帝國水難救濟會深浦組合長藤田林次郎、深浦漁業組合長理事島川久一郎、帝國在郷軍人會深浦村分會長代理副會長島川久一郎

諸氏の弔詞朗読あり弔旗は救護組合深浦漁業組合より二旆寄贈あり近來稀にみる盛大なる葬儀なりし

●浦汐港の結氷

△奇觀想像以上

本年に於ける浦汐港の結氷は只に其の區域の廣きのみならず厚さも近年無比にして四尺餘に及べる部分あり去れば前年我が政府より露國に還付せる軍艦姉川丸を始め港内に停繫の水雷艇、小汽船は等しく堅氷に封鎖され氷詰めの奇觀を呈し其他大豆積取りの為め回航せる三井物産の雇船及英國商船の四五隻は船體を動かせば推進器を損すべき虞れありて立往生の已むなきを見るに至る然るに一方にては此の結氷の利用されて荷馬車は船荷積卸しの為め頻繁に氷上を往復

し又盛装の女子は盛にスケーティングを演ずるの壯觀を呈しつゝありと

大正二年一月二十二日

●冷蔵船の竣工期

過般農商務省より漁船奨励金を下附せられたる青森冷蔵汽船株式會社の冷蔵船二隻は其後東京築島石井造船所に於て建造に着手中の處萬事豫定の如く進行したれば三月十五日を以て受渡しの手續きを了し得べく尚船名は第二第三善知鳥丸と命名したる由なるが噸數は何れも約六十噸なりと

大正二年一月二十四日

●鐵道院船田村丸の遭難

△函館港外更木岬にて座礁

△十余時間經過後漸く離礁

鐵道院青函連絡船田村丸は一昨二十二日午後一時當港出帆函館へ航行すべき處折柄暴風雪烈しくして貨物の荷役遅れし為め午後二時三十分に至り漸く出帆したりき然るに全夜午後九時過ぎに全船が北海道渡島郡木古内附近なる泉澤村部内更木岬沖合に座礁したりとの急電突如として青森運輸事務所に到達したり

▲救助不可能人命危急 即ち二十二日午後八時泉澤村長發九時過ぎ着電に依れば田村丸、更木岬に座礁し、救助不可能とあり其他を記載せざるも全夜當地の天候に依りて察するに多分對岸北海道に於ても非常の暴風雪にて海上大時化なりしなるべく之が為め眼前座礁を知るも到底救助に手を出し様なかりしならん然るに同九時四十分着電に依れば今一時間も此の儘に經過せば人命に拘る恐れある旨を傳へ急速救助船の派遣を求め來れり

▲比羅夫丸及阪鶴丸急派 茲に於て青森運輸事務所にては一方函館事務所に打電協力して援助を乞ひ且全夜十一時三十分當港を出帆すべき比羅夫丸を以て遭難地に赴き救助に盡さしめんとしたるも當地の暴風雪は尚ほ止まず遂に一時間四十分遅れて翌二十三日午前一時十分石丸特使一行初め兒井所長、熊谷技師、島野技手及前日來青せる廣瀬函館事務所長外船客一等一人二等十七人三等百二十七人を搭載し先づ不取敢田村丸の遭難地へ向ふ豫定にて比羅夫丸は當港を出でたり同時に第二阪鶴丸をも田村丸救助の為め派遣することゝなり之は函館揚貨物約百六十噸を搭載して比羅夫丸より少々遅れて遭難地へ向ひたり

▲函館よりも救助船 比羅夫丸及第二阪鶴丸が當港を出帆するや間もなく函館松田海事工場發にて午後十一時救助船富士丸（八十噸）に技師及救助員を乗せ急派せりとの電報當地に到着し少々安堵し居たる内函館區佐々木榮次郎所有古宇丸及郵船和歌浦丸も二十三日午前一時前後を以て遭難地へ向ひたりとの電報到達せり

▲船客貨物船員皆無事 其後は昨朝迄電報杜絶せしが昨日午前七時四十分函館發電に依れば留萌丸は航海途中田村丸の遭難を認め郵便三百四個を積み午前五時二十五分函館入港し尚ほ田村丸船客一等二人二等二十人三等百二十人は現場に無事上陸したるが之は比羅夫丸に收容の見込

にて手荷物小荷物及其他の貨物三十七噸初め船員一同無事なりとありたり

▲漸く離礁し函館入港 而して船体は目下引き上げ中なりとありたるが損害の程度は尚ほ不明なるも機關の中心に狂ひを生じたりと右の如く座礁を繼續すること十餘時間にして昨日午前十時五分漸く離礁し全十一時比羅夫丸に引かれて函館に入港したり尚ほ上記の如く一次揚陸せる旅客は第二阪鶴丸にて昨日正午無事函館に入港したりと

▲船長は山本運轉士 右座礁に就いては當然海事審判に附せらるべきが此の日は恰も總裁特使の訓達ありし為め水口田村丸船長は上陸し居りて豫備船長一等運轉士山本口氏及一等運轉士古垣兼保二等運轉士川崎和一郎機關長山縣文人氏其他船員約七十名乗務し居りたるにて水口船長は遭難地へ赴かず昨日も在青し居りたり

▲船線の變更 右に付昨日午前十一時函館出帆すべき比羅夫丸は十二時半遅發し昨夜十一時三十分再び函館へ向ひたるが田村丸は修繕の必要ある為め其の間第二阪鶴丸が之に代りて本日午前五時入港し當分毎日青森午後一時發を三十分繰上げ航海するに決せり

●下北郡佐井たより

▲夜學會閉場式

青年團夜學會は客年十一月十五日開會以後六十日間實地教授五十七日臨時休業一、正月休み二、都合三日間の休業をなせるのみ在籍講習員三十八名の内半途鱈網出稼ぎ四五名ありしを以て日々出席平均數三十名六部四厘皆勤者十三名にて國語數學共に既定教案全部を終了したるにより本月十五日午後六時閉場式を舉行せり定刻専嘱教師の事務の報告と第二回學力考查答案の可否を訓示せられ金谷取締は教師に對する感謝の意を述べ次いで講習員は層一層の智力の研鑽と品性の改善を為さん希望を述べ午後八時全く式を了せり

▲三上旅館との奇遇

明治三十一二年の頃下北半島の三女傑と言はゞ知る人ぞ知らん即ち一は田名部山理旅館の婆さん二は大畑榎旅館の婆さん三は佐井三上旅館の婆さんなるを而して旅館建築の改良を計り自ら京濱に遊び歸りて半島に三階樓建築の元祖となり二は昔古風の料理献立に熱心にして其の名を得たるも今や故人となり三は僻陬に稀なる辯論家にして如何なる酒豪家も襟を正すの奇談あり當時余は半島の水産使として毎年數回全館に泊しつゝ賢息剛太郎氏と大いに酒を飲みて婆さんの説論を受しこと今尚ほ記憶せり更に余は日露戦争に参加し或る任務を帯びて大連に在りし時剛太郎氏に邂逅し以降數回面語するの機ありて談偶々下北半島の産業に教育に衛生に之が改善談に渉るや余曰く若し無事歸還するを得ば從來の抱負を捨て、小學教師となり半島青年の教育の改善を圖らんと氏笑ふて曰く君が現職を捨て、小學教師とならんとは只夫れ一時の理想たらんのみと然るに余は剛太郎氏の所謂理想を實行することゝなり今や三上旅館の隣家を借れ昔の酒豪は一滴も口にせぬ下戸教師となりて一は婆さんの説論に酬い特に大佐井青年團夜學會の専嘱教師に信託せられて恰も三上氏の出生地たる佐井青年の教育に従事しあるとは誠に奇遇と言はざるべからず因みに氏は今や秋田縣某病院の榮職にあり令弟は既に醫學士の尊稱を博し令妹は本郡青年實業家中の立身者縣會議員河野榮藏氏の婦人なり（青柳生）

大正二年一月二十八日

●上北郡の難破船

△六名の内三名行衛不明

上北郡六カ所村大字泊上野喜之助方寄留岩見今蔵所有川崎船に福井縣境郡鷹の津村森藤太郎外五名が乗去る二十一日午前四時頃泊沖合にて漁業中俄然暴風起り轉覆したる為め藤太郎及全村山松五郎（二九）富山縣越中井轉町上野五郎（三二）の三名は海中に轉落し今尚ほ行衛不明の旨昨日電報ありたり

●鮫沖合の難破船

△十名の内八名行衛不明

三戸郡湊村大字白銀佐々木太郎（二六）全村全姓市太郎（二三）外八名は去る二十五日改良漁船に乗りて全郡鮫村大字濱通字双子石を發し上北郡三澤字大川目沖合に赴かんとして午後十時頃天ヶ森沖合に差掛かるや俄然暴風起り船体破壊され前記の二名生存せしも他の八名は遂に行衛不明となりしが内鮫村姓不詳長吉（三二）は死体となりて漂着せりと

大正二年一月二十九日

●遭難船救助

去る二十五日夕東郡油川村鈴木勘五郎、秋谷証吉、岩崎與之、鈴木勘之丞等の小廻船は下北郡へ鱈積入の為め米味噌數十個宛積込み出帆の準備にて碇泊中の處午後九時頃突然暴風雪起こり激浪の為め船体翻弄せられ今や轉覆せんとするも夜間の事殊に寒氣烈しき為め進退極まりし處へ全村伊藤力蔵は手廻りの漁夫數名引連れ所有の綱や錨を持運び巡查三上豐氏の應援を得て該四艘の小廻船を救助し人命は申すに及ばず積荷とも別條なく救ひたるは畢竟するに伊藤力蔵の盡力による處なり同人は何時も難破船等の場合は率先して必死の働きせるは實に感ずべきなり

大正二年一月三十日

●下北郡の難破船

下北郡大奥村大字大間字下手道辻幸次郎外一名は去る二十二日午前九時半頃全村矢越作造所有の川崎船に鑛山用釜外價格千二三百圓の荷物を積み全郡下風呂へ向け航行中俄然暴風起りたれば陸岸へ近付き避難せんとしたる刹那船体を岩石に突き付けたる為め一溜まりもなく船体破壊し損害四百圓を受けたるが人命及積荷は下風呂村及附近の水難救済會員等協力して救助せり

●春日丸漁船を救ふ

市内下堤町横岡留五郎所有の私有船春日丸は去る二十五日下北郡川内より薪材を積み歸港の途鱈釣り漁船の轉覆し乗組員三人船にスガリ居たるを救助し暴風雪と奮闘無事全夜中堤川に入港せりと

大正二年一月三十一日

●青森冷蔵汽船の成績

青森冷蔵汽船會社にては善知鳥丸を以て鮮魚輸送を為し居れるが過ぐる下半期の當港輸入總價額は五萬三千九百二十圓に達し鮮魚種類を擧ぐれば去る六七八月頃は下北郡、東郡西郡より生鮪約八千尾、九十十一月は樺太根室方面より大鮪四百三十六尾十二月下北郡より油鮫二千尾全月厚岸より粒鯨を輸入したる等なりと

大正二年二月三日

●本縣の出稼ぎ人

△毎年二萬人六十餘萬圓に達す

△本年渡航は何程に及ぶべき乎

北海道樺太沿海州各地に赴くべき本縣の出稼人は毎十二月より契約を為し一月より七月迄に渡航するを例とし而して此の人數年々概二萬人以上に達し其の雇賃金亦優に六十萬圓乃至八九十萬圓に及びつゝあるのみならず出稼人の多くは稼ぎ盛り且食ひ盛りの壯年者のみなるを以て一方縣の生産力を減少すとの説あると共に彼等は出稼中其の食料を他に仰ぐなるものなるを以て之が為め結局本縣産米額に對する県民の食料問題を善き具合に調節する間接的効果尠なからずと云ふものありそは姑く措きて之より昨年中の出稼人數を調査するに北海道樺太沿海州合計一萬九千七百四十八人にして之を表示するときは

	人	員	金	額	一人平均
北海道	一四、	七九五	四二八、	一四六圓	二八、九四〇厘
樺太	四、	八三〇	一五六、	九七七	三二、五〇〇
沿海州	一二三		五、	八九六	四七、九三〇
大正元年合計	一九、	七四八	五九一、	〇一九	二九、九二八
明治四十四年	一八、	八五二	六五四、	二一七	三四、七〇二
明治四十三年	一九、	三一五	六四二、	〇九一	三三、二四三
明治四十二年	二〇、	四五〇	六七二、	九五四	三二、七九六
明治四十一年	一六、	八〇六	七九〇、	二一三	四七、〇〇〇
明治四十年	二三、	四五六	七八七、	九三七	三三、五九一

右の如くなるが是等に依れば年と共に出稼人數を減じ居れるも而かも尚ほ且つ二萬人以上を算ふべきは敢て察し難きにあらざ何となれば元來出稼人の多くは出稼證明書を受くるを以て至便とするも突磋の事情に依り証明を得ずして契約渡航するもの尠なからず是等は往々にして統計より脱する事あるは數の免れざる處なればなり而して以上出稼は獨り男子のみに限らず即ち前記大正元年合計中の四百六十人八千九百九十三圓は實に女子の出稼人なるが其の賃金は男子より低きこと云ふまでもなく男子最高八十圓以上百圓位の時も女子は二十五六圓に過ぎずと云ふ扱本年の狀況に就て聞く處に依れば既に大方契約済となりたる如くなるが賃金は農家好景氣にて應募者少なき為め例年より三四圓位高きが如く最高百圓より四五十圓の處最も多く平均三十五

圓以上なりとのことにて人数は例年よりも少なかるべしと茲に参考の爲め昨年中本縣出稼人の月別渡航數を掲ぐれば左の如し（省略）

大正二年二月十一日

●比羅夫丸の救難

△帆船榮徳丸の難破

青函連絡船比羅夫丸は去る九日午前十一時二十五分函館港を出帆し青森へ航行中午後零時三十分函館を距てる十八海哩の矢越岬沖きまで差し掛かるや遙の左方に當り難破船あるを發見し接近せるに

▲帆船は榮徳丸 右遭難中の帆船は東郡三厩村大字増川島中榮吉所有に掛かる帆船榮徳丸（百二十四石）にて全朝北海道吉岡港より木炭八百俵を積載し三名乗組み出帆せるに航行途中暴風雪の爲め梶を折られ進退の自由を失ひ剩へ風浪烈しきを以て今は運を天に任せ

▲漂流しつゝ救助 を求め居れる者なりと判明せしかば船長秋田吉之助氏は直ちに端艇を卸し二等運轉士成瀬塞、航海修業生大島久次郎、舵夫三浦長作、全吉良亭蔵、水夫奥野力蔵、和田勘三郎、川端孫三郎、小坂新之助

を乗せ救助に赴かせしが全日は寒氣凜烈南西の暴風猛威を逞うし海に落ちし綱は直ちに凍結する程なりしも一同勇を鼓して乗組の船主島中榮吉（六〇）全人長男佐吉（三八）船夫奈良正吉（三二）の三名を救助し比羅夫丸に移乗せしめたり

▲船体及積荷を放棄 然れども暴風益々加はり到底船体及積荷を救済するの途なき爲め恨みを呑んで暴風海上に之を放棄し午後一時三十八分遭難救助地を發し全日午後四時五十五分青森へ入港したり

●田村丸の修繕工事

△四月二十六日竣工

青函連絡船田村丸は函館船渠に假入渠中なりしが函館にては全部の修繕を爲し難かるべしとの説ありて未定なりしが過日兒井所長松岡書記長出張の結果愈々函館船渠會社と修繕工事契約を爲し來たる四月二十六日迄に竣工する筈

●出稼賃の持逃げ

市内造道七十五番戸平民當時函館區松風町二百三十八番地工藤儀八方同居屋根職成田忠吉（三三）は昨年四月五日より八月五日迄大野藤蔵經營に係る露領沿海州西南區アドジンスキー漁場へ金四十圓にて出稼の約束をなし實父成田貞吉及び小山内春吉を連帶借用人として証書を入れ乍ら契約の内金三十七圓を持って逃走したるを告訴され青警より検事局に送られたり

●木材薪炭輸送の盛況

青森運輸事務所管内に於ける二月中旬木材輸送豫想は四千七百六十三噸にして前年全期に比し三百六十九噸を増加するの盛況を呈せるが全期の薪炭は二千五百三十五噸にして前年より之亦六十噸を増加したり木材は重に日本線各驛より輸送せらるゝものにて沼宮内の六百五十八噸三戸の百四十噸尻内湊の各百四十噸沼崎の二百八十噸青森の五百噸新城の二百十噸大鰐の百四

十三噸其他等なるが薪炭は全部日本線各驛より輸送せらるゝものにして劍吉百五噸八戸三百一噸湊三百五十噸を初め其他は岩手縣内のものなりと

大正二年二月十三日

●機械製繩品評會 △昨日本市公會堂に於て開會

豫報の如く機械製繩工品製作組合にては昨日本市公會堂に於て第一回品評會を開きしが出品点数八十二点に達し午前は一般の縦覧に供すると共に審査を為し午後一時より賞品授與式を施行したり當日の來賓は新聞記者其他にして出品人五十餘名參列先ず審査長なる本縣繩工品検査監督佐野忠治氏の審査報告あり要は從來の機械繩は到底 手紉ひ繩と比較にならざりしが今回の出品を見るに成績頗る良好手紉ひ繩に比して毫も遜色なきを認む唯だ欠点中に毛焼きを為したるものあること、打ち方の少々不完全なるもの有りし事なり縣下には一千餘台の繩機械ある筈なれば是等所有の人々は益々其の成績を擧ぐるに勉められたしと述べ次に青柳縣技手及び柿崎商業會議所書記長の祝辭的演説あり終はりて組合長江渡要吉氏より左の通り商品を授與し三時終了せり

一等木綿一反（三名）市内古川町鈴木とく二点、長島町後藤榮作△二等全上（五名）須藤榮作二点、小林清治、八木橋松藏、鈴木とく△フランネル包み（十名）三浦つる、工藤由藏三点、大沢子之助二点山谷文治、佐藤又太郎、福井多吉、鈴木とく△四等繩捲台一個（十名）山谷文治、横山やよ、宮館ふよ二点、三上榮吉二点、大澤子之助、逢坂長次郎二点、神井たま

大正二年二月十五日

●尻矢崎の難破船 ▲無人の船漂着

十日午後三時頃津輕海峡に面せる尻矢崎約二海哩の沖合に小廻船らしき船体の梶を折たるものゝ如し帆も張らずして北々西位の風のまにまに岩屋方面へ漂流しあるを折柄の吹雪の霽間に認めし者ありしが翌十一日朝尻矢海岸へ破壊せる船体及び四五貫目入の木炭二百俵許り漂着したり船方は如何にせしや人は影だにもなく衣類手廻しの品多少あるのみなれば沖合にて他船に救助せられ船と積荷とは放棄せるにあらざるなきか前日船の沖合に漂流しありし時既に無人の船なりしならんと

大正二年二月十六日

●出稼賃を騙取

自稱岩手縣下閉伊郡津輕石村大字赤前當時市内浪打番外戸戸主平民田名部仙太郎長女タキ聳佐々木（三一）は去る一日市内松森町相馬松五郎方に至り同人の經營に係る北海道天塩國苫前郡羽幌村大字上ノ瀧と稱する漁場へ金三十七圓の約束にて全月一日より來たる六月三十日迄漁夫として雇はるゝ口約を為し前金として五圓を受取り又同月四日に身元証明書及戸籍謄本は周旋人たる浪打上野清吉より明五日に相違なく渡すべしと虚偽の事實を述べ内金として更に金十

五圓を騙取し直ちに其足にて全町柳谷惣吉方に至り安方町迄用足しに行くべければ歸り迄外套を貸し呉れよと全人の鼠色無尻羅紗外套價格八圓五十錢及現金一圓五十錢鱒一本二十錢代を騙取し其儘逃走したるを青警に擧げられ検事局に送られたり

脱落 T. 2. 2. 17-T2. 10. 30

大正二年十月三十一日

天 長 佳 辰

景雲爛として、瑞氣四海に充つ、恭しく惟れば、本日は是、今上陛下御登極以來、初めて行はせらるゝ、天長の佳辰なり、畏れ多くも、陛下の御降誕ましますは、實に明治十二年八月三十一日、三十一日こそ天長の佳辰に當ると雖も、時恰も盛暑炎熱の候にかゝるを以て、陛下至仁、國民をして、奉祝の誠を表するに遺憾なからしめんとの大御心より、異例にも天高き氣清き時を撰ませ給ひ、本日を以て、別に御設定あらせられしこと、恐懼措く所を知らざるなり、予輩何の光榮か、二重の國民的大祝日に逢遇して、無上の佳節を奉賀するを得んとは

昨年の御登極第一の天長節は、恰も諒闇中にあり、天下愁雲に鎖され、上下共に喪に服して、祝賀の意を表し奉ること能はざりしが、今や國喪の期既に過ぎて、國民は茲に初めて、公けに、天長の祝日を迎へ、聖壽の無窮を賀し奉ることを得るは、予輩の欣喜に堪へざる所なり

今上陛下天縱英武、極に登らせ給ふや、皇謨を恢宏して、皇威既に六合に普ねく、億兆其慶に頼り、萬邦其徳を仰がざるなし、陛下實算を重ね給ふこと、正に三十五、予輩本日の賀節に際して、満腔の歡喜を以て、特に上天に向かって感謝せざるべからざるは、陛下の益々御健勝に、益々御活達に亘らせ給ふこと是なり、一國の元首は、一國の幸福の泉源なり、國家の君主は、即ち國家の元氣の根源なり、陛下の御活達は、即ち國民をして活氣あらしめ、陛下の御健勝は、即ち赤子をして、常に歡喜の情をみたさしむればなり

今夫れ大正の新政を迎へて、聖徳天の如く、殊に玉體極めて御健勝に渡らせ給ふ陛下を奉戴す、皇運の無窮、帝國の隆替、國民の幸慶、前途洵に洋々たりといはざるべからず、帝國臣民たるもの、焉ぞ其祝福を歡喜せざらんや

然ども、斯の如く、幸福なる御世に生き、洪大なる聖恩に浴するもの、宜しく之に奉答するの道に出でざるべからざるは、固より論なき所、自奮自彊、大いに積運の發展を期し、所謂大正維新の實を擧ぐるに努めざるべからず、謹みて、今上陛下第一次の天長佳辰を祝し、聖壽の無疆を賀し奉る

● 聖 恩 如 天

▲ 渡邊宮内大臣謹話

今上陛下御踐祚後第一次の天長節祝日に当たり渡邊宮内大臣の感想を叩けるに宮相は肅然として語るらく

時恰も晩秋天高く氣清く季候人身に適す此の好時期に於て今上陛下の第一次天長節祝日を迎

へ奉るは千秋の感激に堪へざる處なり 陛下には過般桃山御陵及御近陵に御参拝あらせられ又皇后陛下にも御陵御参拝に次いで藤原氏の先塋に行啓御追遠あらせられたる御孝道の程は仰ぎ奉るも最とも賢き次第なり

(以下省略)

大正二年十一月八日

●東通村だより

▲勤續三十年 下北郡東通村は十二大字、二十二部落より成り全郡の東部即ち陸奥東海に接し隣村の上北郡泊村より本州の盡頭たる尻屋岬燈臺に達する間は砂濱九里に及び各大字より大字まで一周するには二十六里あり面積十四方里也此の村に村長たる人は二瓶勝介氏と云ひ勲七等を有し去る十七年大利外十一ヶ村戸長役場時代より現今に至るまで勤續實に三十年に及ぶ去れば氏は少なくとも六十余歳を越え居るべく温厚質實の氣を風貌に浮べつゝ本年の凶作其他に付左の如く語り

▲蕨の根掘り盛なり 當村は現住戸數六百五十九戸人口六千五百五十九人にして農漁五分五分の生活を為し居れるが村民は概して米食を為さず稗を常食とし少々分限宜しきものにして初めて稗一升に米二合を混じて食し居る状態なり然るに本年は春作の馬鈴薯が可なりの成績なりし外は秋作の大小豆は全然皆無作に歸し蕎麦は四五分作粟稗は三分以下若しくは皆無作なる上に米も又皆無作となれり上述の如く本村は稗常食の地にして村内の植付け反別の如きも米三分稗七分の状況を占め平年作ならば米一反分二俵位にて八九百石の産額あり稗は二千二三百石の産額あるに右の有様なれば村民の困窮名状すべからず依て昨今清潔法施行の時期なれども之を見合せ天氣の良きうちに蕨の根掘りを為せと村民に命じ目下冬支度の準備を為さしめ居れるが村民は御料地國有林野等に毎日出動して盛んに蕨の根掘りを為し居れり

▲種籾なし 右の如く本村は稗作を主とし米作第二の次第にして米は多く糯を植栽し居るが凶作の結果全く來年種籾の欠乏を來したるも他部落より輸入の種籾は成績不良なるものなるを以て一本二本づゝ拔穂を為さしめ居れど果たして種子と為し得るや否やは疑はし

▲烏賊漁は甚だ良好 斯の如く未曾有の凶作となれるが少々意を安んずべきは本年烏賊漁の豐漁なること是なり而して烏賊釣船は遠く越中佐渡方面より團體を為して來たるあり晩春六月上旬頃本郡の北通り各村即ち大間下風呂大畑方面に於て烏賊釣りに従事し八月上旬より尻屋岬を越えて東通村に入り込み毎年十二月頃まで天氣良ければ毎晩出漁するものなり而して近頃入り込める川崎船は大小約百艘位一艘に七八人より十六七人位乗り出漁するが本年は頗る好漁にて海岸漁民は恰も凶作を知らざる如し去れど鰹漁は不良なりき而して前記の川崎船は多く他縣人の所有にして此の邊の地船は二人乗りの小舟に過ぎず従つてミスミス本郡の海産物を他縣人に取り去らるゝは遺憾なれば地方漁民の發奮して漁船を改良せんこと最大急務なりと信ぜらる

大正二年十一月十日

●西郡鮪漁業者組合組織

西郡鮭ヶ澤長谷川義、菊谷榮七、新岡善蔵三氏の發起にて西郡鮭大謀漁業者組合を組織することとなり來たる十五日鮭ヶ澤町に於て同業者相會し發會式を舉行する筈なるが下北郡にては遠に全漁業の先驅丈けありて數年前に組合の組織を告げ居れるが西郡にても近年同業の發展と共に之が計劃あり今回愈々之が實行を見んとするに至れるなりと發起人の通知書は如左

(前略) 本縣西海岸に設置せらるゝ鮭大謀網漁場は既に十數ヶ所の多數に相成候得共同業者に於ける何ら親睦を謀るの設備無く従て各自意志の疎通を欠き孤立經營の様見受られ候其營業方針の如きも昔時の慣例に倣ひ大正の今日に至りては凡て改革の必要ある事を認め申候茲に發起人は大に感ずる處あり西津輕郡鮭大謀漁業同業者組合なるものを組織し相互の親睦を保ち漁業權を保護し弊害を矯正し營業を安全ならしめ且つ經費の節減を勵行し漁獲物製造販賣等に關しても一致の態度を以て利益の増進を講究すると同時に益々將來の發展を斗り度候為め諸氏の會合を得て熟議致し度候條來たる十一月十五日午前九時(會場) 鮭ヶ澤町本町二丁目無名俱樂部へ萬障御繰合御出會相成度若し御差支有之候節は代理人御遣し被下度此段及通知候也

大正二年十一月十一日

西海岸たより

□東奥日報社西海岸支局設置に當たり不肖余の如きは支局記者として此の重責を負ふに至れり非才薄識素より其職に堪へざるも誠意以て聊か期する處あらんとす、希くは余の微意を諒し幸ひに庇護の勞を垂れ賜らん事を乞ふ

□西郡の地由來各部機關の設備を欠き就中交通報道の機關乏しき為めに須要の問題と雖も一般の耳目に觸るゝ無く延いて世に閑却せられつゝあるは遺憾なり、地方問題の新聞紙上に現はるゝ事殆ど稀にして偶々新聞に發表せらるゝは一村一部落の斷片的記事のみなり、余は不肖にして時事に痴鈍にして到底此点に就て初心を貫くに難きも支局設置の趣旨たるや實際此の欠陥を補ひ地方問題をして速やかに發表し公衆の眼前に展開し以て地方の為めに盡し新聞本來の目的を達せんとするに在り

□彼の西北の平原を貫通し海岸を経て能代に至る鐵道豫定線工事の如きも政府が偏屈なる財政縮小方針にのみ委ぬる無く余は西郡有識者諸彦と共に一層攻究の歩調を高めんとするものなり、又彼の山田川改修問題の如き久しき以前より一部有志者間に唱道せられ實行せられつゝあるも未だ全く的確なる曙光に浴する能はず而して山田川は一部被害町村のみの問題にあらず本縣延いて國家の問題なり之を海岸地方の長老に尋ぬるも其間何等交渉のあるなし之畢竟新田地方と海岸地方と自然情勢の異なるより出でたる問題なるべくも斯く冷淡なるは寧ろ嘆ずべきなり、余は此際此聲をして益々大ならしめ期成同盟會の活動を促し全郡一致これが解決を呼號せんと欲す或は十三架橋問題の如き相當調査を為し速成を期せざるべからず、本問題の如きは山田川改修に至大の關係を有すべければ其の解決を俟つて之を解決する等は迂遠なり、大体に於ける調査了するあらば速やかに實施を斷行すべきなり、聞く處に依れば十三村は其間直接の財源を大林區署に掠奪せられてより生活状態日を逐ふて困難に陥りつゝありと果たして然らば此際救

済工事として一舉兩全の策を施すべきは郡民共通の研究問題なり、又彼の鯨ヶ澤町より木造に至る道路の分岐点より野木を経て弘前に至る道程は以前縣支辯に属せるものなりしが近時聞く處に依れば何時の頃よりしてか郡費支辯となりつゝあり嘘の如き事實なりと聞く果たして然らば是非共是が復舊方法を講ぜざるべからず、赤石川、追良瀬川、笹内川等是亦縣費支辯川に編入を要す、河川は素より國の所有なり國に属するが故に縣支辯を唱ふものにあらず河川の利用せらるゝ性質よりして當然縣費支辯に属すべきを信ず、將亦能代道幅員擴張の如きも速急改修工事を起こすべきなり殺人器に等しき危険の極致に達し居る縣道に據りて恬然たる寧ろ關係町村民の誠意を疑はざるを得ず、或は西海岸の漁業問題等曾ては紛議に紛議を重ねたる北金ヶ澤組合横磯組合等是等は法規の権限に在るの人に依頼せず當然一般人士が共に社會的制裁を加ふべきなり、又三十里の沿岸何等救護の機關無く漁港の設置無く亦水産學術研究の機關に乏し就中漁撈製造動植物の保護等の機關は全く之無し斯かる閑却せられ寧ろ度外視せられつゝある西海岸の漁民は此際奮起するありてこれが適當の施設を實施するに努めざるべからず、又鯨ヶ澤町深浦間の海岸沿道に連續せる臥牛の如き禿山は一見慥かに地方の荒廢を意味し地方民が思想の凋落を意味するものゝ如き余は絶へず山上松柏を植へ綠翠樹間櫻樹花を交へて四季の風致を添景し一面町民の基本財産を造成し他方魚附林の繁殖を計り且つは間接水源の潤沢を計りて開墾を奨励し又氣候の平均を保たば海岸風光の美を添ふるのみならず間直接の利益又頗る大なるものあらん余は飽くまで之が實施を希望して歇まざるもの適當の時宜に於て有識者の攻究を望むものなり、或は森林問題の如き畜産問題の如き勸業上の施設等は勿論近くは凶作と救済の根本的解決又は耕地の整理及農政問題將教育問題、商業問題最後には黨派問題等數へ來れば無数の問題描出せらるべし、斯の如きも全て閑却せられ不問に附せられ郡民の顧ふ無きは遺憾なり余は支局設置と共に着々是等の研究に従事し郡内の問題は細大調査し研究し以て本郡の爲めに盡して職責を全ふせん事を期す（於鯨ヶ澤町・・・島川觀水）

大正二年十一月十三日

●深浦沖の難破船

▲救済組合員の出動

北郡小泊村齋藤五郎所有なる西洋形帆船千二百石積三友丸は船長境奈良七外七名乗組み去る四日午前八時に新潟港解纜し小泊港に向け歸港の途に就けるが折柄南西の烈風にして操縦意の如くならず止むなく羽後國飛島に一時難を避け九日午前八時風の稍風ぎたるを機として出帆し航を急ぎしに九日夜來の暴風に遭ひ激浪に翻弄されて航行の自由困難を極めしかば十日朝深浦沖合に差しかゝりて又々避難せんとしたるも怒濤益々荒れ狂ひて船員必死の活動も甲斐なく正午近く深浦村大字廣戸行合岬に打ち寄せられたれば錨を投下して岸に打揚られずと百方苦心したるも遂ひに風波に適し難く船体は見る見る大破したり之より先深浦水難救済組合にては組員の非常召集を爲し現場に出動し船員の救助に努めたる結果一同無事なるを得たりといふが積載貨物は無かりしを以て損害は船体に止まるべしと

大正二年十一月十五日

●西海岸鮪漁業組合

西海岸鮪ケ澤長谷川義菊谷榮七鳴澤村新岡善蔵の三氏發起の下に西海岸鮪漁業者同業組合設置すべく來たる十五日を以て組織會を無名俱樂部に開設すべしと聞く余は最も時期に適せる必要なる組合なりとして其組織せらるゝを望むものなり

抑も西海岸の鮪漁業は其敷設網數に於て十有餘從業者投資家を合すれば多數の關係者を以て組織せられつゝあり然るに一面斯業の發達と共に他方忌まわしき權利上の問題を惹起するに至れり是れ余が曾つて屢々論じたる如く漁業法の改正に伴ふ一種の惡産物にして質朴なる漁民の法規に曉通せざるを奇貨とし奸譎なる小才子の出でて這箇の問題を捕ふるに至りたるによる是等の徒を名けて漁業三百と稱ふ而して彼等は幼稚なる漁業組合を攪亂し權利の移轉を殆ど業務とし苦情を醸し平地に波瀾を起こさしめ遂に西海岸の名誉を傷つくるに至れり薄弱にして幼稚なる漁業組合は既得の漁業權を高額に貸附するは漁業組合本來の目的の如く誤解し手段方法の如何を問はず單に貸附せし料金よりも乙の希望料金は高額なる時は是れに移轉せしむる事を劃策し惡辣なる方法をも自ら進んで行ひ遂に苦情漁場たらしむ其の甚だしきは一カ年の貸附料金千五十圓てふ寧ろ不當なる漁場もありと云ふを聞けり

加之漁業方法等も殆ど一定せず經營費の如きも甚だしき差異あるが如く且又茲に最も寒心に堪へざるは漁業者その者は一種の高利制度の資金を仰ぎ投資者又更に適所に出資を求め二重三重の利益分配を謀り其結果山師的漁場の敷設となり遣繰算段も出來ず遂に清算の際訴訟に亘り簿冊に檢證等を見る痛嘆に堪へざる處なり且つは漁場經營に先だつて前祝の酒代をのみ費やし俗に大謀なるものゝ帳場さんと云へば或る方面の氣受け能く米噲で屋根を葺くものなかるべけれども巷間又説を區々に傳ふるものさへあるに至れり其他質朴なる漁民に對し種々良からぬことを扇動する等遂に篋棒網か泥棒網か區別無きに至る大謀網なるもの流行して以來一面國利を増進し地方經濟を益すると同時に他面質朴なる漁民の氣風を害し良俗の破壊するもの無きやを疑はしむ正々堂々漁業の爲めに誠意を以て盡しつゝある漁場主は爲めに甚大の迷惑を感じつゝあり西海岸の鮪漁場と云へば青森邊にて相手にせざるが如き有様なりし余は斯かる事柄は西海岸の一大欠陥として痛嘆しこれが矯正の方法を認むるや久し而かも事業者中之を認めつゝあるも唱道の機を得ざりしを今や三氏に依つて這般の事態を解決し西海岸の鮪漁場をして真正の鮪漁場たらしめんと企畫せらる余は双手を舉げて之が健全なる發達を望むもの就中長谷川氏は樺太漁業の經營者にして又漁業政策家なり菊谷榮七氏に至りては事業家として幾多の辛酸を経たるの人新岡氏は實驗家として資産家として這個の經驗家たり來たるべき十五日の會長は果たして余等の希望を充たし又大謀網に現はれたる幾多の欠点を補ひ或は事態の解決を爲して遺憾なかるべし余は誠意を以て此の會合の實質上の發達を祈るものなり敢へて苦言を呈して同業者の参考に供す妄語多罪（十日・・・於鮪港島川觀水）

●鮑鐘詰製造所を見る △浪打海岸に新設せる

陸前氣仙沼町夏谷清太郎氏は現に全町議員の職を有し全地に於て鮑鐘詰製造所を設け居るが尚ほ當地にも全鐘詰製造所設置の有利なるを感じ安方町根市兼次郎氏に交渉せしに愈々協同事

業として着手するに決し過日來市内博勞町三圓商店にて浪打海岸に鯛乾燥の為め設置したる場所を借入れ着々鮑罐詰及竹輪蒲鉾製造業に着手し居るが左に一見せるまゝ其の概況を記報せん

▲製罐工場 目下据付居る機械は

チンブス一臺（蓋底抜機械）切斷機械端機械、ビーターロール（縁付機械）三本ロール（圓形を造る機械）シュウマール一名胴付機械各一臺足踏み回轉機（蓋底を付る機械）六臺あり職工五名にて之を使用しあるが一日の製罐高四千八百罐を出來し居れりされば該製罐たるや市内小罐詰製造業者に於て東京より取寄せ居るものに比す頗る廉価なれば工場の整頓次第是等工場にも販賣する計劃なりと

▲蒸罐釜 製罐を蒸す為め据付ある釜は百二十五磅にて蓋の重量三十貫ありチンブロックを用ひ上下する仕掛けなるが釜の巾直径四尺深さ五尺にて一回に七百貫を入れ一日七回に四千八百罐即ち箱詰め百個を出來し居れり

▲竹輪蒲鉾製造 全製造場にて鮑罐詰の外に竹輪蒲鉾の製造を為し居るが機械は筋切三臺肉練ロール一臺にて職工十數名を使役し盛んに製造しつゝあるが一日の製造高は三百三十七本即ち四十箱を出來し居るが賣先は重に東京大阪神戸朝鮮京城方面なりと

▲原料と輸出先 罐詰に要する原料鮑は北海道奥尻及本縣各地東郡宇鐵方面より買入れ居るが輸出先は支那にて既に横濱の商人萬福商行他に二千五百箱賣約済となれり

▲鯨肉製罐 全所にて鮑罐詰の外尚ほ明年三月より鯨肉の罐詰にも着手することなるが原料は室蘭より取寄せ五千箱出來の都合なり

▲インズンと温室 目下使用しある工場建坪は二百坪にてインズンの設備及乾燥室もあれば遠からず事業擴張の上製罐及蒲鉾製造業にもインズンを用ひ從來の乾燥室をして温室に改め製罐せしものは全室に於て温度検査を行ひ輸出先に於ける検査の手續きを除く計劃なりと

大正二年十一月十八日

●西海岸鮪業同業者組合 ▲十五日創立せらる

既報の如く西海岸鮪大謀漁業同業者組合は十一月十五日午前九時より鯨ヶ澤町無名俱樂部に於て創立總會を開く出席者は

長谷川義（籠島）菊谷榮七（赤平）新岡善吉（出來島）成田熊五郎、内山由太郎、松山勘太郎（籠島）濱山長四郎（出來島）佐々木兼五郎（瀧淵家代理）山田春吉（關）高田留次郎（大和田）三橋政治（入前）島川惣左工門（魚島）東野好美（出來島）

長谷川義氏發起人を代表して開會の挨拶を為し假會長を諮りしに三橋政治氏の發言にて長谷川氏を假會長に推す事となり議事開始せり議長より書記として東野好美を採用する事を宣し議事録署名者に島川惣左工門、三橋政治、山田善吉の三氏を指名し規約第一條第二項第四號の「紛議調停に關する」件に就き質問ありたるのみにて全部原案に可決せり

鮪大謀漁業同業者組合規約

▲第一章目的 第一條本組合は鮪大謀漁業同業者相互の親睦を旨とし漁業權を保護し弊害を矯正し組合員の利益を計り且つ左の條項を以て目的とす、經費の節減を計る事、漁具漁法に關す

ること、漁獲物製造販賣に關する事、紛議調停に關する事、組合員の利益増進を計るため縣廳其他より技師を聘し水産上の講話を求むる事、△第二條本組合を西海岸鮪大謀漁業同業者組合と稱し事務所を鮭ヶ澤町大字七ツ石町に置く△第三條本組合で使用する印章（略す）

▲第二章組合員加入脱退 第四條本組合員名簿を備置ものとする△第五條本組合に加入の申出ある時は組合長之を承認し組合員に報告するものとする脱退の場合も亦同じ

▲第三章組合員の權利義務 第六條組合員は議会に於ける表決を為す權利を有し経費を負担するの義務を負ふ

▲第四章役員 第七條本組合に左の役員を置き各名譽職とす、組合長一名、副組合長一名、評議員五名△第八條組合長は組合一切の事務を担当す副組合長は組合長を補佐し組合長事故ある時は之に代るものとする△第九條評議員は組合長の諮詢に應じ協議に參與するものとする△第十條本組合の役員は組合員中より互選するものとする△第十一條役員任期は二カ年とす但し再選を妨げず、補欠選挙により就任したる役員は前任者の任期に継承し前任者は後任者の就職する迄責任を負担すべきものとする、役員に欠員を生じたる時は遅滞なく補欠選挙を行ふものとする△第十二條本組合に事務整理の爲め書記一名を置く

▲第五章會議 第十三條會議は通常總會臨時總會評議員會の三種とす、通常總會は毎年八月、臨時總會及評議員會は組合長に於て必要と認めたる時△第十四條會議の決議は出席者の多數決に依る可否同數なる時は會長之を決す、但し會長は組合長之に當る△第十五條會議の決議録は出席員記名調印するものとする

▲第六章會計 第十六條本組合の會計年度は一月に初り十二月に終わる△第十七條本組合の経費は組合員の漁場より賦課徴収するものとする△第十八條經費豫算及徴収方法は通常總會の決議を経て之を定む△第十九條會計は通常總會に於て之を報告するものとする

然るに三橋政治氏より左の建議案提出せられ満場一致これを入れられ直ちに満場決議を爲し第七章附則第二十條より設定する事に決せり

一、本組合にて決議したる事項は遅滞なく各組合員に通知し其の實行を求むるものとする

一、本組合員にして決議に違犯したる行為ありたる時は役員會にて決議したる過怠金を徴収するものとする、但し過怠金は三十圓を越ゆる事を得ず

一、過怠金は通知を受たる日より三十日以内に納付するものとする

一、役員會に於て決議したる過怠金を故なく期間内に納付せざる時は本會の決議を経て除名し且其理由を附し新聞紙に公告するものとする

是にて規約決定したるを以て議長より役員選挙を宣し其結果左の如し

組合長長谷川義氏、副組合長菊谷榮七氏

選挙終わって三橋氏より評議員は組合長の指名とする事を提議し一致を以て組合長より左の五氏指名せらる

菊地文八、島川惣左衛門、柳谷倉吉、福井多四郎、新岡善蔵

長谷川議長より經費豫算案提出せられ原案に可決せられたり

△収入 漁業割百五十圓（漁場一カ所より金十圓宛十五ヶ所分）支出 創立費二圓、會議

費十圓、通信費三圓、事務費二十圓（書記給料）、事務所表札及筆墨料五圓、予備費百十圓
それより左記協議事項を協議したり

協議事項

（一）漁夫の食料を一定するの件（二）歩方漁夫に對する鮪其他の雜魚の歩合を一定するの件（三）漁夫の給金及旅費手当を一定するの件（四）漁獲物製造販賣に關しては製造方法並に販路を講究するの件（宿題とする）（五）大謀網以外の定置漁業者にして大謀網類似の網を使用するものあるときは一致して排斥するの件（六）各漁場に於て命令を遵奉せず又は風紀を亂したる為め解雇せられたるものは組合に報告し各漁場へ通知するものとす此の場合に於て各漁場にては雇入せざること

各項に就き詳細なる協議を為し午後五時三十分閉會それより直ちに竹谷旅館に於て懇親會開設午後九時散會せり西海岸多年の懸案たる鮪同業者組合組織せられ今後の斯業の一層圓滿に有利に解決せらるべきを信じ將來の發達を祈るものなり

（西海岸支局報）

大正二年十一月二十二日

●新鱈の輸送に就いて

昨今北海道産の新鱈輸送期に際し青森驛は稍々多忙の体なるが右に付き一昨日函館運輸事務所より所員を派遣し新鱈の連絡の遅れ勝ちなりとて青森運輸事務所へ交渉ありたる由なれども元來連絡貨物は有蓋車に積むことゝなり居り且つ一車七噸積みに必ず其の通りの載量とし連絡せざるべからずより時に有蓋車欠乏等の場合には多少遅延することあれども青森より輸送の場合は無蓋車にても構わず且一車積みとするに當りても適宜載量を加減し得る為め連絡鱈に比して常に速達する状態なるなりと

●交通丸の林檎積入 浦塩定期船交通丸は既報の如く昨日入港林檎一萬五千七百五十八個を積み午後小樽に向け出帆

●三厩舊陣屋跡消滅せんとす

東津輕郡三厩村大字三厩遠矢場舊陣屋跡地境界査定に付平澤縣屬出張せるも村内輿論沸騰し満足なる解決を告ぐる能はず査定方法の如何に依り大紛擾を來すべき模様なりといふ

大正二年十一月二十三日

●下北郡の將來 △縣會議員河野榮藏氏の談

▲凶作と下北郡 全縣未曾有の凶作にて慘報頻々として至る固より下北郡も又此の災厄を免がるゝ能はず郡内の農作物が未曾有の不作にして農民の困難云ふばかりなけれど幸ひ下北郡は農專業に立脚せず農民と雖も多くは農に兼ぬるに水産若しくは林業を以てし居れば本年の如く稀有の凶歉に際したるに拘らず其の一方水産の恩恵あるを以て未だ津輕地方の如く甚だしき慘状を呈するに至らざるは纔に安堵する處なり思ふに專業と云ふ事は單に農業に限らず將水産業に限らず斯る場合に於て頗る危険なる次第なれば何人も專業の外に二三の副業を有すること肝要

ならん尚ほ下北郡民が本年の凶作に際し差迄甚大なる影響を蒙らざる所以は縣下の貧郡なるに拘らず郡民の貯蓄心旺盛なるにも一因すべし即ち本郡の銀行及郵便貯金を合計せば優に六十万餘圓を算し此の内貸出高は約三十五六万圓に過ぎざる一事を以て推想し得べし

▲多望なる將來 去れば下北郡は本年凶作の打撃を受たるに相違なきも幸ひ水産の豊漁に依り未だ甚だしき惨状を呈さざるのみならず漸次本郡の水産業に改良を加へ行くに於ては極めて多望なる將來を有するや明らかなり縣當局者茲に見る處あり來年度大畑村に水産試験場を設置し漁撈、製造、養殖の各方面に亘り新施設を加へんとす思ふに本年本郡の烏賊鰯生産額は約一萬四千梱に達し一梱十四圓乃至十七八圓の時價を有せしも之に多少の改良を施さば時價平均一圓を増加せんこと必ずしも難事なりとせず況や本製品は海外貿易品として年々正貨流失増加の趨勢を緩和する効果あり且本年の如く農專業に危険の伴ふこと尠なからずとせば本郡が水産立脚の郡なる点よりし極めて須要の施設たるべしと信ぜらる尚ほ大間漁港築堤の漸次成らんとするあり大湊鐵道敷設の遠からず實現されんとするあり下北郡は前途多望なる一路を辿らんとするものなり

▲下北郡鑛業問題 唯だ茲に本郡百年の計を立つるに當り考慮すべき重大案件は郡内鑛業の發展に伴ふ所謂煙毒問題なりとす現今は安部城鑛山の熔鑛爐を有し製鍊に着手しつゝあるのみなれど近く佐井村にて子爵榎本武揚氏の甥某氏の製鍊開始を傳へらるゝあり然るに佐井方面には郡民が百年の計を立てし植林地あり而して植林の事たる今日僅々十錢の私財を投ずれば五十年後に於て幾十倍し百年後に於ては幾百倍す誠に子孫愛護の長計たる者なり而も製鍊事業の開始せらるゝところ殷鑒遠からず近く本縣碓ヶ關を見よ森林は枯稿し魚類は絶滅し遂に人命に影響するに至る然るに鑛業者は現今の幼樹に對し百年後を豫想し多額の賠償金を支拂ふや否や恐らくは然らじ茲に於てか郡民は自己の利益を擁護し鑛業者は其の利益を開發せんとし互いに葛藤を生ずるに至る眞に今より憂慮に堪へざる處なり云々

●鮪同業組合會雜觀

▼午前九時に集まる會であるから十時頃顔を出して見たら發起人三名と島川惣左衛門氏の禿頭が一つよりも見へなかつた、時間は柱の模様のやうに心得て居る内は貧乏が発達するよ▼一人二人殖へたそれに白髮銅顔の三橋政治氏一名マルエム主人は頭同様の霜降りの洋服に顔色に似た金鎖で來たのはコントラストの妙を得た、縣下の辯を揮ふこと甚だしこれだもの鮪大漁だ▼議事が進行するに随つて問題が多く起こる何にせよ泥棒網と綽名せられたものを改善して行くのだから骨が折れる▼會長たる長谷川氏の十二分の活動を希望する▼協議事項中漁夫に外米和米の混合を給すると云ふ問題が随分八釜敷かつたがこれなんぞは土臺話にならぬ云ふ丈け野暮の骨頂だ今時日本米許り食うて居るのは飲食營業者以外には倒産者の卵位のものだ▼組合中奇異に感じたのは一漁場一人制と思ひの外出資者投資者其他の関係者も一個の決議權を持つてらしい重大な事件でもあれば事を醸すかも知れぬ十分の攻究を要望する▼同業者組合以外に鮪大謀網苦情組合と云ふものを設けたら如何であらう此の組合に加入せぬものは苦情を醸す資格が無いとしたらば能からふ此の組合長は誰が適當であらうか・・・甲？・・・乙？・・・▼斯く苦情を以て有名な大謀網であるから將來此の苦情の根を斷たなければならぬそれには唯だ組合員の

誠意があれば他の資料を要せぬ、斯くて模範的の漁場を造り西海岸の名聲を回復せよ▼大謀網類似の網を使用するものある時は一致して排斥する事、とは協議事項の一であるこれこそ不徳義極るものであるからドシドシ処分したが能からう、支局設置以來僅か一兩日なるに類似網の投書は二三舞込んで居る假令慾と相談して敷設したにせよ公然とやるは注意したら能からう▼是等は縣廳で緩慢だからかうである嚴重に処分したらよささうなものである網主もテンとして顧みぬ縣廳でも構わなければ不得止から縣當局者の非を鳴らして輿論に訴へる外あるまい▼西海岸の縣會議員と云へば岸太氏である同氏今や毛祿したのやら横着だのやら漁業に關しては一向力をいれなくなった、こんな議員は次期から、ドシドシお拂箱にして今少し海岸の事情に精通した人を縣會に送りたいものである、海岸漁民が一致したら理想的漁業家を縣會に送るに難からずであらう▼話は横丁に曲がったからこれで擱筆する（雜觀氏）

大正二年十一月二十八日

●下北郡の生産額

△一人當りの生産額五十圓

△一人當りの消費額六十圓

下北郡は水産を以て立つ郡なれば従つて其の生産額の如きも水産最も多額にして大正元年度七十五萬六千七百五十四圓に達したり就中柔魚は最も多額にして二十二萬一千圓を占め特に風間浦、大畑村は産額品質共に他に優越し居れるが本年は近來稀なる好漁なれば前年に比し少なくとも五割以上の産額を増加すべく海扇の如きは前年二萬圓なりしも本年は優に十四五萬圓に達すべし但し鯨、鯉、鮪、昆布等は本年稍々不良なりしと而して水産製造物は大正元年度三十一萬五千五百八十九圓に達し大畑其の他各村の鰯製造最も多額を示しが本年は尚一層の盛況を呈し居れり次に農産物は大正元年度四十三萬六千六百十二圓に達せしも本年は未曾有の凶作にて馬鈴薯の多少收穫ありし意外に何ら數ふるに足るものなきは遺憾なり而して林産物は大正元年度十二萬八千二百三十七圓に達し此の外産額は三十七萬五千四百四十四圓（大正元年度輸出額を以て假に生産額と看做す）を示し二才糶馬價格二萬一千四百三十三圓全じく牛價格一萬五千九百二十七圓出稼賃金五萬四千六百七十五圓を加ふれば以上總計二百九萬九千七百七十一圓となれども水産製造物は實際上水産額と重複の嫌ひあり故に約二百萬圓と見るを可とせん然るに此の内より大正元年中郡外へ輸出せる價格は八十三萬四千二百十四圓にして郡外より輸入せる價額百二十萬七千九百五十五圓なるを以て生産及輸入合計三百三十萬六千八百六十六圓となり之より輸出を差引きたる二百四十七萬二千六百五十二圓は大正元年中郡内の消費若しくは貯蓄額となりし計算なりと云ふ故に之を昨年末人口四萬一千二百二十一人に割當つれば一人の消費額五十九圓九十八錢五厘にして全上生産額五十圓九十三錢九厘に比し一人に付九圓四錢六厘の消費超過なるが下北郡民にして若し此の超過額を貯蓄し居らば格別然らざれば將來經濟上の破綻を免れざるべく郡民の最も發奮を要する處なるべしと即ち元年中の生産内譯左の如し

△水	産		
數	量	價	格 圓
			主 産 地

鯧	一七〇、〇〇〇	一六、五〇〇	大湊
鱈	一五三、八一五	一九、八七二	大、東、畑、脇
鯉	一〇、〇〇〇	七、〇〇〇	東
鮪	二三一、七三九	九〇、一七六	田、東、大、風、奥
鱈	二三一、七二〇	三六、一九四	東、脇、川
鮑	四五、八一〇	八二、三一〇	奥、東、風
海扇	三五〇、六五〇	二九、九九〇	畑、風、東
柔魚	八二四、二〇〇	二二一、五六六	奥、佐、脇
海鼠	七、五〇〇	二、八一五	-----
昆布	五九、八五〇	一四、三五六	奥、佐
石花菜	一一、〇〇〇	一六、一四〇	風、東、畑
恵胡	三一、九二〇	三九、〇一五	佐、奥
布海苔	二一、九一〇	二〇、五七二	東、風
其他	一六〇、二三六	---
計		七五六、七五四	

△水産製造物

鯉節	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	東
鰯	一四九、九四〇	一四九、二八〇	畑
海參	九六〇	四、九一〇	
貝柱	一、四九〇	五、九七〇	湊、川
鮑	八、六五五	七七、九六四	
鱈搾粕	三七、〇〇〇	一五、二五〇	
鯧全左	四四、〇〇〇	一八、七〇〇	
其他		三三、五一五	
計		三一五、五八九	

△農 産

米	三、二九四石	六五、八八〇	田、川、東
麥	一一八	一、一八〇	
大豆	五、〇三七	五四、七六七	田、東、川
小豆	一、二二三	一六、九七一	東、田
粟	四、四二二	五六、三七五	東、川
稗	一四、八六三	八〇、三一八	東、田
蕎麥	二、一五九	一三、四八四	川、東
馬鈴薯	一三九三、九四〇	八一、九五三	東
蘿蔔	一五七〇、八九〇	二四、六六五	各村
林檎	四八、七〇〇斤	三、二八七	田、川、佐

其他	-----	三七、七三二	
計	-----	四三六、六一二	
	△林	産	
薪	二六、二九六個	五九、八二〇	田
炭	四一九、八〇〇貫	二一、一九一	大、田、東
丸太角材	二八、八三〇尺	五一、〇一〇	東
枕木	三六、〇〇〇丁	一三、八〇〇	田、東
横垂木	六六、二〇〇本	六、二五七	
海貝	一、四四五本	四、五六五	
下草	九五三、六六二ヰ	七、四五八	
自然蔬菜	四五、四五〇	二、〇〇三	
其他		一二、一三三	
計		一二八、二三七	

●西海岸鮪組合の陳情

西海岸鮪大謀同業者組合組合長長谷川義氏參應し同組合より差出し置きたる規約を説明し且同組合に於て決議したる鮪大謀網副網新設を許可するの件及類似網排除の件即ち鱒鯛等の定置漁業者が鮪大謀網に類似の網を建込み鮪の進路を妨害し鮪大謀網漁業者に妨害を與ふるが如きは客年既に西海岸に二ヶ所ありたる故規定の事實として籠島及轟木白戸等の大謀網に少なからざる妨害を與へたるを以て今にして之を防止せざれば益々是等類似網にて鮪を漁獲するものを生じ大謀網漁者の利益を害するもの大なるに至るべしとの理由を以て水産課長に陳述したるに縣當局に於ても取締を嚴にするを以て當業者に於ても斯くの如きものに對しては法規上の手續きを取るを相當とする旨懇談ありたりと

大正二年十一月二十九日

●新鱈輸送と冷蔵車

北海道産の薄塩新鱈は一昨年まで鮮魚同様の特別扱を為し來りしも昨年より塩魚扱ひとしたる為め遠距離輸送途中往々にして從來以上の日子を要することあるより荷主の故障申立つるもの無之きにあらざる模様なるが右に就て某氏の語る處に依れば從來東京方面の人々は鱈と言へば直ちに總て塩付けのものを連想する程にて鮮魚としての鱈を知る者甚だ少なき状態なるが之は上述の如く輸送運賃の關係及途中の腐敗を防止せんが為め新鱈を塩付けとし需要地へ輸送する多年の商習慣に起因するものなるべく若し之に冷蔵車を使用し全くの鮮魚として他へ送出するに至らば此が為め或は却って大なる新需要を増加するに至らざるべきか云々と然るに當地方に於ては從來夏期と雖も冷蔵車を利用する者甚だ少數にして昨今漸次冬期に向はんとするに連れて中央も當地同様の寒氣なるべしと速了してか冷蔵車を使用する者皆無の有様なれば此程より其の保管數を十兩に減ずるに至れりと

大正二年十二月一日

●鮑漁獲法の改善を望む

宮城縣気仙沼町生産調査委員夏谷清太郎氏は過般より來青し相馬町の青森鐘詰製造所に於て鮑の鐘詰製造に従事し居るが氏は鮑鐘詰事業に就ては明治二十八年より辛き経験を積み居る由にて本縣の鮑漁獲法の改善を希望して左の如く語れり

▲本縣に來たりて鮑の漁獲法を實見するに法律の嚴禁する「ツガネ」と稱するものを以て鮑の中央部を突き通し貝殻を破り肉を潰亂し形状に於て品等に於て無比の劣等品を出して居る漁業者の舊慣を破るは至難の事に属するとも何時までも之を緩慢に放置しては産業上の損害は實に莫大なるものであらふと思ふ本縣内に於て假に十萬圓の産額あるとすれば賣上げ價格に於て三萬乃至四萬圓の差額がある

▲現状の儘としては全く重要輸出品たるの資格を有して居らぬ各地の市場に於ても來荷があるから賣つてやるといふ態度を持して居るやうに見える夫れでも明鮑灰鮑の如き乾製品ならまだしも鮑鐘詰の如き中華民國でも比較的上流の人の食膳に上るものであるから價格上の問題より品質形状製造法等に重きを置いて居るから是非共漁獲の方法を改善して鍵取の方法に改むるか土地の状況に依りては条件を付して潜水器を使用せしめるならば自然三寸以下の小粒物を捕獲せんでも優に價格に於て二倍余の収入あるや明らかなる事である無論相當の高價を以て買入れると云ふ言質を提供しても差支はない

▲縣當局者に於ても常に周到なる注意を以て蕃殖保護は確信する處であります但願はくは近き將來と云はず最も急速に相當の保護監督を實施せられん事を切望する次第であります

▲吾が宮城縣に於ても七八年以前迄は矢張「ツガネ」を用ひたものであるが鐘詰業者の同盟購買中止の反響に依りて年一年と改まり今日は全然鍵取法になつた以來神戸横濱市場に於ても優等の物品として歓迎を受けて居ります気仙沼といふ港は宮城縣の最北端に位して居る處であるが三陸沿岸の首たる集散地で六カ所の鐘詰工場がありまして年額優に六十萬圓を出し其内の三十萬圓は鮑鐘詰であります

▲私も當地へ參りまして青森の産物として製造に従事する以上は青森の名譽の爲めに鮑迄優良なる製品を出すべく既に温室検査の設備をも調へましたが何に致せ大切の原料が粗惡な爲めに殆ど當惑して居るといふ有様です

▲敢て當局者並びに當業者諸君の考量を煩はず次第であります

大正二年十二月二日

●東郡東田澤村たより

▲救済策 中平内村役場に於ては凶作救済方法を講ずべく村會を開き同會の承認を得て村有基本金を融通して外米、薩摩芋を講求し實費を以て村内の希望者に賣渡す事に決定するや村吏には態々各部落へ出張豫約し居る事とて村民は何れも機宜に適したる處置なりと感謝し居れり

▲村況 一般不景氣の餘波なるか當村産物の一なる黒炭は未曾有の下落にて時價二貫目入一俵僅々五錢五厘てふ破格の低廉なるに拘らず賣行涉々しからず加ふるに本年は鰯薄漁の事とて

目今の窮状見るに忍ざる程なるが然し目前に鱈の漁獲期を控へ居る事なれば豊漁の暁には景況一變するならんか（十一月三十日）

大正二年十二月三日

●西海岸たより

△漁業状態 數旬來引續きの風雨雪は海洋一体の順良を缺き屢々激浪の天に沖すてふ状態出漁をして困難ならしむるものあり陸田の凶作と相俟って凶漁を唱ふる有様なるも昨今鱈の漁期に入り一部の漁獲を見尚此後の豊漁を期待しあり

△凶作の昨今 西津輕郡の凶作は實に意想外の劣作を來し郡内を通じて二分七厘作と稱すと雖も實収は尚其以下なるを疑はず獨り天候の不良に因るのみにあらず斯る歳にありては水害てふ惡魔の影響一層甚大にして善後策を講ずる上に於ても多少他郡と趣を異にするあり昨今湛水のため稻の刈取未濟なるもの郡に於て實地踏査の結果尚百六十餘町歩ありと是等は空しく水下に埋没して一粒の収穫さへ不能に歸すべく以て慘状の一端を窺ふに足らん農民困憊の状日を逐ふて烈しく今冬既に食ふに糧なく餓鬼道に横はるなきを保せざる状態眞に不穩の形勢と謂ふべし

●鹽船入港と需給

去月中旬官鹽百九十萬斤を積み青森に入港すべき坂出發の日北丸は途中佐渡沖合に於て推進機のシャフトを切斷し漸く夷港に入港せしが之が為め青森出張所の鹽供給に手違ひを生じたること夥しく特に八戸方面に於ては鱈豊漁の為め需要を増加したるを以て止むなく去月末に及んで青森出張所の貯蔵鹽約十車を送附し供給を圓滿ならしめたりと去れば去月末當所現在は散鹽約百萬斤包装七十萬斤に過ぎざる有様なるが日北丸は引船となりて來る七日入港すべく尚ほ全日運丸にて九十萬斤輸入の豫定なれば今後受給上支障なきを得べしと

大正二年十二月十三日

●東海岸漁獲豫想 ▲近來稀にみる不漁

三戸沿海諸村本年度の漁獲高は各村別左の如くにて陸の凶作と相俟ちて之も近年稀に見る不漁なり

▲小中野村 全村は湊村と相對し當方面漁業の中心をなし居る湊川口を控へ居り海岸線としては甚だ短きも地の利を占むる為め漁業は盛んなり本年の豫想高は鹹水産に於て鱈最も多く三千五百六十貫價格千百三十九圓鰹之に次ぎ百六十貫百十二圓鯊、鰈、鯛、鮒等稍々漁獲ありたるも何れも百圓に上らざる少額なり淡水産に於ては鮭最高なるも六十圓鯰鰻等之に次ぐも僅かに十圓内外に過ぎず製造物としては鱈メ粕六百貫三百圓鯊肥料八十貫二十三圓を産するのみ他府縣への輸出は生魚介藻類等は合計六百三十圓にて仕向先は主に東北地方なり

▲市川村 本村は上北郡に接する三戸郡の最北海岸に臨み鹹水産に於ては鱈を高とするも八百貫五百六十圓之に次ぐ鮭七十五貫五十二圓鱒九十貫十八圓淡水産は奥入瀬川の鮭三百六十貫二百五十二圓製造物は鹽製の鮭鱈合して百二十六圓鱈肥料三十圓といふ少額なり奥入瀬川の鮭は

名ある産物なるもその鹽鮭さへ百六十六圓に過ぎず

▲階上村 本村は郡の南端にて岩手縣九戸郡に接し海岸線短からず鹹水産の鱈は三萬五千貫三千圓を高とし鮑千五百貫千五百圓鰹千百貫四百四十圓鰈七百五十貫三百圓其他鮪、鱒、鱈、蛸等あるも僅少にて海藻の昆布は五萬貫二千圓石花菜、和布、海布等約四百二十五圓あり淡水産はなきも製造物に於ては鮑六百貫千八百圓鰹節二百貫二百圓を算す

▲鮫村 本村は階上村に接し海岸線最も長く湊村と共に漁獲例年東海岸中最高の位置にあり鹹水産に於ては鱈七萬五千貫一萬二千圓鰹八千貫三千圓鮭八千貫五千六百圓鰈鯛之に次ぎ各一千圓内外を獲その他鮪、鮪、鱒等も六七百圓の漁獲あり海藻は昆布の二万四千貫千二百圓を高とし石花菜、海蘿、和布、海苔等多少産額あり製造物は鱈搾粕の一万五千貫の七千五百圓最も多く海丹は三百貫百圓外に田作鱈煮干漉海苔等あり鯨肉肥料は五萬六千貫にして一萬八千五百圓を算す

▲湊村 本村は小中野村と對して湊川口を挟み鮫村に隣し海岸線長からざれども東海岸漁業の中心と為す鹹水産に於ては鱈最高額にて四萬五千貫一萬五千圓鰹八百十貫鱈九百五十貫鰈九百貫にて各約三百圓に當り刺螺五百圓鯊百五十圓を産す製造物としては鰹節例年數千圓を出すも本年は鰹漁大失敗の爲め殆ど豫想つかず煮干少々多きも一萬一千貫にて五千百八十圓に過ぎず田作二百圓雜百圓鱈絞粕も今の處豫想出來ざる狀況にあり未曾有の大不漁なりとす（各村役場調査に依る）

大正二年十二月十四日

●模範漁夫

西郡深浦村なる出稼漁夫中山形縣加茂町尾形六郎兵衛氏が經營の樺太東海岸里耶漁場に勤續精勵したる中村三次郎、松岡專之助、高谷勘四郎の三名に對し昨年度精勤賞状を授與したるが本年は佐藤儀八郎、寺澤萬之助兩名に對し左記の賞状に金子若干及印半纏を添へ授與したりと云ふ

賞 状

青森縣西津輕郡深浦村

副船頭 佐藤儀八郎（勤續三年）

漁 夫 寺澤萬之助（勤續六年）

右第二十三號中里耶漁場に於て・・・として勤務中克く其の業務に精勵し且勤續・・・年に及びたる旨當該傭主よりの申出に依り茲に賞状を授與候也

大正二年十一月二十日

樺太建網漁業水産組合聯合會

組 長 村 上 祐 兵

古來雇根性として人目を忍ては怠け不正不徳行為多きに彼等の中に斯かる特殊の者あるは感ずべし

大正二年十二月二十二日

●海中に贓物あり

市内新蜷貝町二十六番地平民漁師田中吉五郎（三九）は本月十七日午前二時頃兼ねて差卸置きたる鱈網を見分の為め漁夫五名を乗組ましめたる漁船に自から船頭となりて東郡奥内村大字前田海岸より漕ぎ出し四時頃に網を見分し見たるに僅か三十間位を隔て、差卸しありたる油川村大字油川森三次郎の鱈網が自分の網といくらか混同しありしを奇貨とし三次郎の網卸場なる奥内村大字清水の沖合約一里の水面の網の中より生鱈百六十本を窃取し之を一時海中に沈めて隠し置きたるが小山内與三郎に発見され濡手で鱈の攫み取りを仕損なつて青警から昨日検事局に送らる

大正二年十二月二十三日

●大正博出品手續

東京大正博覽會本縣出品手續左の通り定めらる

東京大正博覽會本縣出品手續

第一條 本縣より東京大正博覽會に出品すべきもの、種類及一点の數量を定ること左の如し
林檎十五個（五個宛三回に分送するものとす）、繭一升、馬匹一頭、林相圖一面、鯛一把（二十枚）、干鮑二斤、海參二斤、貝柱二斤、漆器一個或は一組、木通蔓細工品一個或は一組、鑛物若干

第二條 明治四十年十二月以前に於て採取、産出、加工、製作及製造したるものは出品することを得ず

第三條 出品人は左の各號の一に該當するものに限る（一）出品物の採取、産出、加工、製作又は製造をなしたるもの（二）出品物の採取、産出、加工、製作及製造に參與し之が販賣を以て業と為す者

第四條 同種の物品を同一家族の名を以て別個に出品することを得ず但し特殊の技能を要したるものは此限にあらず

第五條 出品願書は左記様式に依り二通を作成し大正三年一月十日迄に所轄郡市役所に差出すべし

第六條 許可を得たる出品物は品名、數量、出品人の住所氏名を記したる票札を附して大正三年一月十日迄に所轄郡市役所に差出すべし但し林檎は左の三回に差出すものとす

第一回（五個）大正三年二月二十日迄

第二回（五個）五月一日迄

第三回（五個）六月一日迄

第七條 出品物は滅失毀損することあるも郡市役所又は當廳に於て其の責に任ぜず

第八條 出品物の荷造費及運賃は出品人所在地と所轄郡市役所との間は出品人の自辦とし郡市役所と博覽會場との間は當廳に於て直接本縣事務所に送附したるものは凡て出品人の負擔とす

(様式)

出品願書(用紙半紙)

郡市町村大字番地職業

出品人 氏 名

番號 品名 種類 數量 陳列容積 產地 賣價

右東京大正博覽會へ出品致度候間御許可相成度候也

年月日 右 何 某印

青森縣知事宛

大正二年十二月二十四日

●大正博出品注意事項

東京博覽會出品に關する注意事項は如左

- 一、出品願書數量の記入方は出品手續第一條の單位を記入すべし
- 二、出品物にして中途減少することあるものは少しく量増に差出すべし
- 三、漆器の如き特性の容器を附するものは持歸りに不便なるを以て可成出品物と共に賣却し得る様容器の代價をも附記すべし
- 四、林檎、繭、水産物の賣約殘品は陳列期間後夫々内部混同して賣却し其の料金を各出品者に平等に分かつことあるを以て豫め承知すべし
- 五、東京大正博覽會は東京上野公園に於て大正三年三月二十日より七月三十一日迄百三十四日間開催さるゝものとす、馬匹は五月十一日より同月二十二日迄十二日間陳列するものとす
- 六、大正三年二月十八日より八月十日迄東京大正博覽會青森縣事務所を左記の個所に設置す
東京市下谷區谷中坂町五四王林寺内

●泊沖合の慘事(詳報)

△川崎船遭難漁夫二名溺死

上北郡六カ所村沖合の漁夫遭難慘事は既報の如くなるが其の詳報を得たれば記せんに

▲百三十四艘出漁 去る十六日は風宜しかりし為め六カ所村泊附近に根據地を存する通稱川崎船(五六人乃至十人乗り)約百三四十艘はサガ(目ぬき鯛)漁業の為め午前三時頃より七時頃までかけて沖合約六七里へ出漁せるが午後八時頃より山瀬風吹き始め十時頃より大時化となりたれば百三四十艘の漁船は皆避難の為め歸港の途に就きしが時化に加へ暗夜のことゝて遂に今回の慘事を見るに至りしなり

▲艘難船は五艘 泊村附近海面には袖の戸及泊本村の二カ所に漁船避難の船入潤あるを以て此の日出漁せるものゝ内函館區若松町汐見寅吉所有川崎船は新潟縣佐渡郡小木町大字中塚金子藤太郎(三四)外七名が乗り袖の戸避難潤に入らんとせるとき沖合約一丁にて藤太郎實弟音之丞は激浪に浚われて海中に墜落したり實兄藤太郎は弟の助けを叫ぶ悲鳴に板子一枚をソラと與へ早く掴め早く掴めと激勵せしも其の内に姿を失ひたり次は泊村赤石留蔵所有船にて松木勘之助外五名乗りたるが岩礁に觸れ船体中央より二ツに折れ二百五十圓の損害を受しも漁夫は一同無

事なりき第三は北海道釧路町大字茂尻矢石田力松（三九）外六名乗りて老部川海岸に漕ぎ着けんとせし刹那船頭なる力松は櫓に跳ね飛ばされ海中に轉落したれば帆柱を投げて救助せんとせしも遂に激浪の為め姿を見失ひたり第四は泊村赤石申松所有にて長男石松（三二）外五名なるが之は命からがら上陸せり而して一時行衛不明に歸せし函館區若松町石塚力蔵外七名乗りは運を天に任せて翌十七日午前十時頃鮫村に漂着し一同無事なりき尚ほ當夜村民一同は翌十七日午前二時頃迄大字尾駮及泊の二カ所に焚火し是等の救助に盡したりと▲屍体漂着と搜索 音之丞及力松の屍体は火災豫防組合員に於て翌日より搜索せるも二十日まで不明なりしが全日午後一時音之丞の屍体は全海岸に漂着したるを見るに顔色灰白色にて皮下溢血し毛髮脱落左眼出血慘状見るに堪へざりしが力松は尚ほ不明なりと川崎船漁業者は一艘に付二圓づゝ兩溺死者の遺族に香典を送りたりと

大正二年十二月二十七日

●鱈鹽蔵の状況

青森近海にて過般來鱈豐漁にて日増し鹽蔵用鹽の需要を増加しつゝあるが東郡油川村にては從來一年四十萬斤の鹽蔵用鹽を要し居れるが本年は更に増加の様あり青森出張所にては特に過日より油川村へ吏員を派遣し鹽の需要に應ずることゝしたる為め從來の如く青森まで鱈を運搬し來たる必要なく大いに便宜を感じたる結果昨年まで鹽蔵者五名なりしが本年は十名に増加せり尚ほ脇野澤及野内方面の鱈は當地に於て鹽蔵せられ居るも右の事情にて本年は油川よりの移入を減じたる為め結局多少の減少を見るならんか因に脇野澤にても初め鹽蔵開始の見込なりしも販路の關係上鮮魚として當地へ送り來たり當地にて鹽蔵し居れり而して右鹽鱈は主として東京足尾高崎宇都宮方面へ輸出されあり

大正二年十二月二十九日

●八戸たより（二十七日）

▲漁夫出稼ぎ新生面 當方面より上下兩漁場への出稼ぎ漁夫の數は年々三千より五千の多きに上り従つてその出發前の借り入れ金額も一期に十萬以上十五六萬圓位の巨額なるを以て季節には大に地方金融界を助け居るものなるが是等沿道諸村（沿海外の村にもあり）の内本年鮫村より出稼の漁夫は館湊小中野階上等の諸村既に數百名宛を出せるにも拘らず目下の處にて僅かに百名に足らざれば大凶作大不漁の影響を受け窮民多き場合不思議の現象なるを以て調査せるに連年全村より冬期間所有の鰯網を携へ十數名宛一團となり上場所方面に至り全地漁業家と契約を結び漁船漁具萬般を賦金にて借り入れ漁期中全地に滞在出漁し終了後歸村する者年々その數を増し居り本年の如きは二百餘名の全出漁ありたる為め雇漁夫として赴く者減少せるものなるを發見せりこの出漁は從來の如く單に雇入人として先方の顎使に甘んずる者と異なり一種の遠洋漁業的色彩を帯びるものなるを以て地方の為めにも又出漁者自身の為めにも甚だ悦ぶべき傾向なりと云はざるべからず（榎本鮫村長談）

●浅虫たより

▲電燈取付數 豫て計劃せられたりし青森電燈會社の浅虫延長工事は既報の如く愈々本月十五日を以て竣工し点燈され居るが目下の取付燈數は旅館東奥館の七十五燈を初め總數約四百五十燈にして他に明年度よりは町内費を以て電柱1本に一個宛の電燈を取付くる筈なれば彼れ之れ更に三百餘燈は増加の見込なりと云ふ尚其の点火開始と共に萬事に抜け目なき東奥館にてはイルミネーションを仕掛け夜間列車の驛を通過する都度之を一齊に点づるを以て其の美觀云ふ許りもなく且大いに旅人の目を引き居れり

▲近海の好漁 近濱茂浦土屋附近にては近來引續き好漁にて日々鱈八百本内外の漁獲あり為めに相應の活気を呈し居ると

大正二年十二月三十日

●東海岸三漁實額 ▲鮪鱸鯉の大損害

▲鯉のみにて十萬圓 三戸郡は海岸線長からざるも三陸沿岸の漁場中心をなし年々巨額の海産物輸出あるを以て本年の如き凶歳に当たりても海上の収穫さへ通常ならば津輕各郡に比して最も困難少なき筈なるが不幸にして本年は海上亦稀に見るの不漁にて鯉漁と共に主漁と數へらるゝ鯉漁の如き慘憺たる大失敗をなし出漁の全改良船及石油發動機船中は何れも手痛き損害を蒙り中には數年を要せざれば愴痠癒ゆべくもあらざるものさへあり従て三戸郡に於ける凶歉の惨状は山村よりも海村に於て却って甚だしきものあるを見るの有様なり

▲漁夫支拂に足らず

大正元年度に於ての漁業もあまり成績思はしからざりしのみならず多少の豫想ありたる事故本年度の他縣雇入漁夫等は殆ど三分の一にも足らず即漁夫人員去年は六百十人の處本年は二百二十人位（三カ月雇入れ月給平均十八圓）なるも適宜繰り合せをなし鯉出漁改良船數は去年に比して纔に一隻減なるにも拘らず鮪鱸は去年は一萬九百八十圓本年は約半漁の五千八十八圓更に主漁の鯉に入りて不漁の昨年さへ十一萬五千圓の漁獲ありたるに對し纔に一萬六百七十圓にして殆ど十分の一に過ぎず而して昨年度の計算に依れば當業者の支出日額は四百七圓三十三錢にして他府縣漁夫への支拂總額は一萬六千七百四十圓に及び居れば本年の全漁獲（鯉）及鮪鱸ともにては殆どこの金額にも充たず漁業家の投資蒐集は論勿く土地の漁夫への支拂は全く之まで支出一方なりし漁業家の懐を當てにせざるべからざるに當り漁業家の方とてもそう金のある場合にもあらざれば大なる困窮に陥りつゝあり

▲全損も尠なからず

湊川を中心として尻屋沖及岩手縣宮古沖までの海上に出漁し居る石油發動機据付帆船は縣水産試験場のみさご丸外長谷川槻末氏等所有のもの四隻あり同じく鯉改良船は昨年より一隻減じて九十一隻鮪鱸改良船は昨年より半以上を減じ六十一隻のもの本年は二十二隻となれり此等改良船は普通毎度四千より六千までを高とし平均必ず二千尾以上は漁獲する事となり居るものなるが前述の如く本年は殆ど目も當てられざる状態にして比較的有利なる發動機船に於て一千尾左右を得たるを最高額とし三十尾四十尾より甚だしきに至りては一尾だも獲ざる船さへあり數十の漁夫を雇入資を投じ船を整へ尚且一厘の収入もなきに至りては全く火災に罹る以上の惨さ

といはざるべからず斯る間にも支拂はざるべからざる漁夫への平當は昨年より通算すれば鯉改良九十五隻に對するして月給及往復旅費その他合切にて十二萬二千五圓の巨額に上り他府縣漁夫への支拂のみにても五萬六千五百五十圓一日支出三千百五十六圓十一錢一厘の割合なり

▲鯉節も失敗

鯉漁の發展につれ鯉節製造業も近似漸く盛んになり數年前より房州その他より教師を招聘し八戸町鳥屋部町に三戸郡鯉節製造傳習所を設け成績年と共に上り製出額も次第に増加し數カ所の同製造所にては年々多數の職工を雇入るゝを以てその工料も近年殆ど二萬圓に上るの盛況を呈し居りしが本年は職工不足の爲め大部分半製品の荒節として賣却せざるべからざるに至りこの損害亦五六萬圓の多額を算せり當業者は之の陸に劣らざる海上の大凶歳に際して來るべき大正三年度に於ける恢復の方法に就き目下研究甚努めつゝあり（八戸魚商組合の實調査に依る）

大正三年一月一日

凶作時局觀 青森縣知事 田 中 武 雄

昨年は苹果と麥と僅かに平年作に達せるのみにして主要物産たる米及其他の雜穀は著しき違作を來たし漁業亦下北郡の一部を除く外全く不漁にして此の損害價格約二千萬圓と稱するに至りては恐らく本縣未曾有の凶歉にして縣民の窮狀想像に餘あり平年豐饒の際には一カ年生産額より日常の食料品を控除して尚他に輸出し數百萬圓の餘裕を生じ縣民は之に依りて太平を謳歌して冠婚葬祭の典を全うするを得たり今や全く之に反し一カ年生産額の過半は全く空乏に歸し去りて殆ど日常の生活にさへ差支を來たさんとす誠に之れ轍鮒の急、塗炭の苦慘憺たるものあり、然れども今や徒に悲觀して俯仰天地を恨むの秋に非ず、淵に臨みて魚を羨むより寧ろ退いて網を結ぶに如かず、天の或は縣民に與ふる一大教訓にして多少の警告たらずとせず、上下協力一致發奮努力以て此の一大難局に處するの覺悟なかるべからず

縣に於ても今又相當の救濟方法を講じつゝあり現に主食物たる米穀の補填として外米の輸入を企て以て縣民の利益を計り而して昨秋以來縣下に輸入せる價格二百萬圓に達せり凶作の影響は殊に金融の逼迫を促し之が爲め縣下の流動資本甚だしく固定渋滞を來たし各方面の事業に影響を及ぼすこと多大なるものあり依りて之が融通圓滑を計るは當面の急務なるを思ひ縣下銀行團と謀り安田銀行を通じて先づ以て第一次に近く五十萬圓の潤澤を縣下に普及せしめんことを期せり夫れ衣食住は人の一日も缺くべからざるものなれど住所の如き今現に雨露を凌ぐに足るものあり、衣服の如き又一裘葛以て寒暑に堪へ得べし獨り食物に至りては一日も廢すべからざるものあり然るに之が原料たる米の缺乏せるに至りては困苦の狀恐らく想像に餘ありといふべし從來県民の副業としては藁工品の製作ありしかども米穀の缺乏に伴なひ又其の材料に窮し且つ其の質粗惡にして價值少なく到底副業として衣食の資料を得るに足らず然れども幸に比較的優良にして豊富と稱せらるゝ栃木山形より之が輸入を仰ぎ以て一時の急を救はんことを期しつゝあるも更に此の機會に於て適當授産の目的を以て各専門の技術員を派して夫々調査考究する處あり以て寒國的副業の奨励家庭的工業の指導に當り以て窮民の困憊を救ひ其の勞力に應ずる報酬を得て傍ら日常生活の填補となさんことを期しつゝあり然れども之が材料の購入副業奨

勵の資金は此の一大打撃を受たる本縣の到底堪へ得る處にあらざるを以て曩に政府に百萬圓の低利資金の融通を要求せるも事情已むなく七十六萬圓の配當を得四分二厘歩合にて近く貸下の福音に接すべければ各市町村も之が恩恵に浴する蓋し近きにあるべし

縣下有識の士は率先以て縣民を提撕誘掖の任に當り勞働の神聖にして偷安悠逸の生命を全うする所以にあらず、勤勉努力の風習を喚起し意氣消沈人心萎靡は以て大事に處するの覺悟にあらざるを自覺せしめ獨り斯る家庭的工業農閑的副業奨勵に安んぜず尚ほ進んでは農耕上根本的に栽培、耘耨の缺点を補ひ其の進歩的研究心と積極的努力とを以て永久的工業の發展振興を期し茲に所謂人事を盡して天命を俟つの覺悟を以て勞力に酬ゆるの天恵に浴せんことを期せざるべからず特に來春融雪の期に至れば各種の土木耕地整理其他生産事業頻起し數百萬圓の資本は之が為めに注入し金融之が為めに調節を得一般の窮民は職業を得て糊口の資を求め春風駘蕩裡に疇昔の不景氣を挽回し光明ある希望ある前途に向て奮進するの活路を得ば縣下の運輸交通之が為めに開け人力能く自然力と相調整し以て縣民の利福を増進す豈單に之れ窮民が糊口の資を得るといふ消極的利益のみをいはんや斯くして其の利益は上下一般に均霑し始めて縣下百歳の計成るといふべし

斯くの如きは獨り縣當局者にのみ放任せべき性質のものに非ず上下一致、縣郡相應じ相俟ちて始めて其の効果を見るべし殊に昨年度縣會に於て人民の建議請願に係れる地租延納免除の如き政府議會其他江湖の同情に依り早晚或は事實となりて縣民の希望を充たすことあるべし昨年度縣會に於て縣民の負擔額は前年に比して著しく低減せるの状況にして郡市にては更に縣債の一部を轉貸するの議も成立したれば是亦郡市町村に於て前年に比し大体四分減の負擔を見るに至るべし然れども斯る輕減恩恵は一時的現象にして早晚之が恢復償還の責任を有し縣民の双肩は借るゝ時の重量よりも還す時の重量に堪へざるべからざる弾力を保持せざるべからず

夫れ非常の事ありて然して非常の功を樹つ窮すれば達するの道あり、從容自若として相戒め相助け其の天分を盡すに忠實に新運命を開拓するに努力し以て此の難關を踏破せざるべからず光明と希望とは前途にあり邁進の勇を鼓する事干支に因む猛虎の如んば禍を轉じて福となすべし、今上陛下御諒閣後の第一年初頭に立ちて予が凶作時局觀此の如し

大正三年一月十三日

●西海岸又も紛擾起らん

從來西海岸の追良瀬川沖合に鯛角網建設あるも其の實鯛角網は名稱のみにして鮪漁獲を目的とし最初より出願したるものなれば其の設備も全然鮪を漁獲すべき設備を為し昨年の如きは大謀網同様の設備を為したるが為め鮪六千本以上も漁獲したる有様にて從て該漁場は大謀網建設に適當なる場所なるの見込確かなるため數年前より鯛角網を大謀網に変更許可を得んと計りたるも縣取締規則の正規の關係との距離なきが為め數回縣に許可を申請したるも其の目的を達せず今回種々計劃の結果漸く廣戸漁業權者より承諾を得申請したるに一方の隣網なる轟木村漁場とは正規の距離なきが為め又々不許可の指令に接せんとし居る場合某なる者又々其仲に介在し如何にしても許可を得んと試み某議員に其交渉方を懇願したるに全議員は其土地の事情に暗きが為め

交渉方を快諾したる模様にて今後種々なる計劃の下に許可を得んと努めつゝある由なり愈々許可の場合は廣戸村沖合に建設の事なれば全組合よりは種々なる故障出づべく又轟木漁業者よりも故障を持出す可き模様にて現に轟木組合よりは陳情書様のものを鮪漁業組合に提出し事情を訴へ居れば縣當局者の方針如何に依つては如何なる椿事を惹起せんも知るべからずと全地方よりの通信のまゝ

大正三年一月二十一日

●難破船二件

東郡一本木村島中吉五郎所有長五間小廻船は同人外三名乗組十四日今別を出帆し當港へ向け航行中風波高く十五日午前三時全村大字袈月沿岸に假泊したるも潮流急激の爲め轉覆破損し此の損害五十圓の外船具流失四十圓積荷木炭九十俵十八圓の被害▲下北郡佐井村金丸留吉所有漁船四十石積は全人外一名乗組全村前濱辯天島附近に碇泊中十四日午後九時西風激浪の爲め船体動揺海底の岩角に觸れ船底に穿孔し海水侵入して積荷木炭百五十俵の内約十圓代を濡らし船体は修繕費百圓を要する損害を蒙れり

大正三年一月二十七日

●下北郡たより（二十三日）

▲東通の窮民

郡内中最も凶作の打撃を被れる東通村にして全村民の生業は農七漁三ともいふべく殊に近年開墾の爲め南部及津輕地方より移住せる農民には未だその産を為さざることゝて頗る窮苦の境にあり夙に蕨の根掘りをなし辛うじて食料を補ひ來れる有様にて昨今降雪の薄きを幸ひ村役場にては大いに之が採掘を奨励し居れり勉強して一日掘れば約そ三日の食料を得べしといふ今回全村にては外米六百俵の購入を申請せる由

●三戸郡凶作調査（一）三戸郡役所調査

天候の不良に因りて生じたる大正二年の大凶作は各方面に影響を及ぼし數十年來の曾つて見ざる處の慘状を呈せり郡内三十二ヶ町村被害の程度一樣ならず多少の厚薄ありと雖も一として其の災害を被らざるはなく之を三方面に概觀すれば八戸町を中心としたる八戸方面各村最も甚だしく五戸方面これに次ぎ三戸方面を稍可なりとす更に之を町村に見るに上長苗代、館、市川の諸村其度合最も強烈にして市川、小中野、湊、鮫の各村は不作に加ふるに不漁を以て其の困窮も一層甚しきを見る郡内作付總反別六千五百八十三町歩これが平年作八萬四千六百五十石なり然るに昨年凶作の結果この平年に比し九割五厘を減じ實収僅かに八千石而かも其の質粗惡不良にして殆ど市價を有せず畑總反別二萬二千九百九十三町歩麥は幸いに平年作を越たるのみ其他大豆、粟、蕎、麥、稗何れも半作若しくは半作以下に減収し特に粟作に於て最も不良なり即ち大正元年五萬三千石の收穫に比し昨年僅かに一萬六千石を収むるに過ぎず郡の總戸數一萬九千六百三十七戸其の内農戸數實に一萬四千六百七十九戸を占む農業本位の本郡にして而して農作の不良此の如し十三萬六千に餘る郡民其の食料に缺乏を告ぐるや當然なり更に之を海岸地方

に見るに近年薄漁に赴きたりと稱するも海産物の収入は郡の生産に資すること例年多大なるものあり即ち大正元年に於ては海産収入の其製造物を合わせて四十五萬五千餘圓に達したり然るに大正二年に於ては減じて九萬九千餘圓となれり不作斯くが如くにして不漁又斯くの如し郡民の窮態想見するに足る之が影響として昨冬以來金融の杜絶となり窮民の續出となり公課金の不納となり種籾の缺乏となり地租延納免除の出願となり北海道出稼人の増加となり物價の低落となり商況の萎靡となり學童の缺席となり學級の減少となり教員俸給の停滞となり補修教育の休止となる特に寒心すべきは下級細民に於て前途を悲觀し自己及其の家族に對する生命不安の念は刻々として其の腦裏に往來しつゝあることこれなり救濟の事若し之を緩ふせば人心益々險惡となり自暴自棄の極或は聖代の汚点を生ずることなしと謂ふべからず

狀況既に此の如し之が救濟施設は焦眉の急に迫れり依つて郡町村及有志團は一致呼應晝夜兼行これが救濟に焦慮し食料の給與に外米の輸入に副業の奨励に経費の節約に低資の借入れに麥馬鈴薯の多作に種籾の給與に救濟の事の計劃に學用品の給與節約に児童晝飯の携帯廃止等直接間接に又消極積極に銳意其の方法を講じ一は以て多數窮民を物質的に此の苦境より脱せしめ一は以て人身に緩和慰安を與へ社會の秩序と風教の維持を圖りつゝあり以下尚項を分ちて叙説す

●北郡七和村狀況

本村は東西一里六町南北一里二十一町七大字よりなる純然たる一農村なり戸數四百四十戸人口三千二百五十人何れも農家にして田地の總段別四百二十餘町歩及畑段別百二十八町歩にして昨年は春來氣候不順にして降雨續き屢々水害を被り爾來盛夏の候に至りて氣候の激變甚敷冷氣勝にして稲作は出穂の期を失し明治二年以來なき凶作に遭遇するの不幸を見るに至れり今昨年の收穫高を實地に就き調査したるに一段歩僅か一斗五升即ち平年作に比し十分の一に過ぎず是ととも米質粗惡にして到底通常米として販賣すること能はざるを以て農民の落膽言はん方なく今に本村一カ年の食料一人一日平均五合と計算するも一カ年食糧五千九百三十一石一斗五升にして一石代價二十圓とすれば十一萬八千六百二十五圓に達す是は單に米代のみ其他食物日用品納税金を總計すれば二十萬以上の金額なきに於ては一村の經濟を立ること能はざるに本年の收穫米は代金七千五百八十圓より無きを以て他は全部借受ざるべからず然るに金融逼迫し抵当物を提供するも個人は勿論銀行と雖も貸出しを禁止せし為め東奔西走するも金の手配なく扶助は日々の食料の準備にのみ努力し居るため殆ど生産事業に着手する餘日なく窮民山野に食を得んと欲するも降雪の為め目的を達せず巖寒肌に徹し之を凌がんとするも衣服無く食せんと欲するも一粒の米穀無く將に雜穀蔬菜類の如きは殆ど食ひ盡くさんとす

部内窮民は左の各種類を混じ食糧とす

- 一、蕎麥粉に稗及大根を混ぜ
- 二、米糝粉に蕎麥及蕪干葉を混ぜ
- 三、麥粉に米糝粉及蕪葉を混ぜ
- 四、外國米を少量に豆腐粕を混ぜ
- 五、外國米少量に大根を細末に切り混ぜ

六、本村民全部外國米を食せざるものなし

目下に於て然り今後時日を経過するに随ひ益々困難を來すに至るべきは瞭然たり

七和村窮民救濟方法

一、窮民救濟として大正三年度に於ては畑作奨励のため馬鈴薯種子五十俵代價六十七圓五十錢に買入れ雪消を待つて窮民に給與する計劃なり

一、十一月以來外國米を買入れ原價にて賣却し居れり

一、當村には舊藩以來より持續せし備荒貯蓄金各大字に蓄積しあるを以て大字下石川區及前田野目共各一千圓づゝ藁細工製作資金及勞働賃料として貸付たり

一、大林區署へ交渉の上薪炭材を安價に拂下窮民目下炭焼に従事するもの五十戸あり

一、勞働すること能はざる癡疾若しくは老幼者をば區備荒貯蓄金を以て救助し居れり

一、種籾なきを以て縣廳に給與願出たり

七和村收穫調

地目	反 別	平年作	大正二年收穫高	差 引 減
田	四二八、四六二一	五三一〇石	六三二石	四、六七八石
畑	一二八、三六二九	五一三二圓	一五六六圓	三、五六六圓

(備考) 平年作の石數を代價に換算すれば(一石二十圓) 十萬六千二百圓なるに大正二年は(米質悪しきため一石十二圓) 七千五百八十圓差引九萬八千六百二十圓の減なり

●十和田湖岸の救濟 ▲和井内氏の篤志

湖岸民は夏季は漁業遊客にて生計し得れど冬期は適當の職業なく少許の耕作物にて活計し居り他の地方より凡ての恩恵に薄く困難の有様なりしに農作物は一昨年も不作にて住民一般困窮其筋の救濟や和井内氏の救濟策などを受たるものさへありて著しく疲弊を招致し居れる場合に又々昨年の大凶作皆無作にて一層窮狀を來たせしも相當の職業もなく何等施設もなく手間賃など取るの途も無く又少許の手間賃を得て飯米を買ふとしても近き處にてさへ湖より五里余も離るゝ大湯村に出ざれば販賣する處もなく為めに少々の飯米を買ふにも二日或は三日も日數を費やしく住民内實の痛苦は眞に想察に余りありしに和井内貞行氏には獨力横濱より直接外米を購入實價にて一般に分與し尚全氏宅は同じ湖邊なれども各部落より近きも一里遠きは二里三里離るゝ故希望の部落には袋入れの儘渡し置き需めに應じ便利を與へ居り一方救濟事業の一助ともなしたしとて例年冬期は漁業休業なれども本年は漁業者には鱒を捕獲せしめ又一般老幼婦女學校生徒などには漁網を編ませ尚某外夫々職業をなさしむるなどして外米を供給しつゝありと又休屋村惣代中村秀吉氏には熱心に種々救濟的の業を尋ね夫々窮民に與へ其筋にも専心盡力などし救濟策を計り居ると云へり

大正三年一月二十八日

●麻結機械の發明

現下救濟事業としてマニラ糸結業は各地に行なはれつゝあり而して其の繼結機械なるものあるも實驗上手工より効果なく且其の構造の如きも軟弱にして耐久力なく殆ど玩物に過ぎざるの

觀あり徒に廣告を信じて購入するときは全く失敗に陥るもの日々然らざるなき有様なるが今回弘前市土手町櫛引慶造氏には若年に似合わぬ熱心家にして該機械の不完全なるを看破し寢食を忘れて研究の結果意匠を盡し既に成案となり不日其筋へ出願すべしとのことなるが全氏は資力なき由なれば篤志者は此の際振るって同情し斯業の發展を期せられたきものなり（五所川原町救濟事業鼓吹者）

●遭難船を救ふ（久栗坂青年團の奮闘）

北津輕郡脇元村大字磯町二十九番藤田勝次郎外二名乗込みの八幡丸は大湊材木株式會社丸太材百十石（十五尺もの九十本）を搭載し青森へ運送すべく一月二十一日午後二時下北郡川内港を西風に帆を孕まして出帆し廻航中同十時頃大島沖合に差し掛かるや偶然南風に變更し波高く遂に水船の悲境に陥りしも辛じて久栗坂港迄立退きたり正に午前四時漁舟は破損し海水益々侵入して航海全く止み瀕死の状態にて聲を限りに悲鳴を揚げ救助を求むる聲風のマニマニ全村堤巳之松之を聞き付けて直ちに近隣を呼び起こし救助船を出して救助に努めしも少數にて思ふ儘にならず然るに全村青年團員之を認むるや直ちに團長に報告し團員を招集し團長赤坂和一氏指揮の下に應援し救助に努めたるより船は大なる破損ありしも積材九十本の内八十五本を陸揚げし乗込員も辛じて死を免れし處大湊材木株式會社にては其の厚意を謝し酒肴の寄贈ありしも赤坂團長は之を受けざりし處今回又々手拭十二反全團に寄贈せられたる由救助に出動したる人員差の如し

赤坂祥三、熊谷保次郎、根井友太郎、堤丑太郎、堤彌助、赤坂由松、堤巳之松、赤坂久吉、白鳥三蔵、櫻庭兵太郎、祝田鶴蔵、工藤貫一、堤作太郎、赤坂兼吉、工藤初太郎、熊谷初蔵、赤坂圓太郎、横田武三、山口定次郎、川村初義、熊谷安蔵、相坂曾之吉、熊谷巳之丞、横内嘉一郎、相坂慶次郎、第三回出動者堤四郎外五十二名

大正三年二月五日

●東郡上磯の慘状 △小倉十兵衛氏の篤志

東郡書記唐牛要人氏は郡内上磯諸村を視察し歸村せるが其の語る所に依れば上磯諸村中最も慘状を呈せるは

▲一本木及今別部内 にして三厩村の如きは大字増川に極窮者四戸あれども全村を通じては差程の事なし然れども一本木及今別兩部内に入れば窮困者頗る多く就中今別村大字二股と稱する部落は二十七戸の内惣代區長若しくは重立四戸を除けば残る二十三戸は全部極窮民にして數月來米食を為さず如何なる物を食し居るかと云ふに秋大根の少しく残れる分あるに昨今海浪に漂弄せられて海岸に漂着する昆布に似たる海草を混じ或は枯れ藪を山野より採取し來たりて之に混じ味噌醬油は勿論鹽さへなければ水煮のまゝ食用に供し居れるものあり慘状目も當てられず其他の一本木今別兩村に於ける部落も食料は畧ぼ同様なるが一本木村の有力者なる小倉十兵衛氏は此の状況を自ら視察したる結果去月二十五日旧曆年越しに際し私費を以て西貢米二十袋（一袋六斗入れ）を購入し一本木村字山崎及村元並に今別大字大川平、今別、二股、濱名各部落百十餘戸に對し一々人夫を派遣して一戸に付八升乃至一斗五升づゝ配與し賑恤したりと▲何

故に救助せざるか 災害救済會よりの義援金は東郡へ一千百八十六圓六十五錢 配當されたるが右の如き窮民あるに對し何故に一日も速やかに救恤せざるか不審の至りなれども郡内の村役場中には今以て窮民數を報告せざるものある為め各村へ配當する能はざるに依るとのことなるが一二村役場の報告未達も此の如く全部の救恤に影響するを以て未報告の役場は最も迅速に窮民數を報告すべき也

大正三年二月六日

●下北郡たより (三十一日)

○下風呂の近況

風間浦村大字下風呂は戸數二百に足らざる漁村なるも海蘿及柔魚の本場たるのみならず温泉あるを以て其の名高く而かも一昨年及昨年とも引續き鮪、鮑等も豊漁なりしたため村民の生計費非常に膨張せしがその反動として近頃稍々困弊の傾きあり殊に北海道及上北郡地方凶作の影響として従來此の地方人を顧客とせる温泉湯治者は平年の十分一にも足らざれば矢張不景氣を啣ち此の先數ヶ月間の生計を如何にすべきと頭を悩め居れり▲下風呂温泉の効驗著大なるは彼の有馬の温泉に若くものなりとのことにて切瘡、骨折、皮膚病、婦人生殖器病等には効能最も顯著にて始め歩行も出來かねしが僅か三週間許にして全く恢復し喜び勇んで歸れる者ありその實効を見ては何人も驚嘆せざるを得ず只惜しむらくは交通不便なるため治く世に聞へず湯治者の少なきを以て村有志者は之が誘致の方法に付考案中なり▲此の地には主として湯治者の為め設けられある旅館十軒あり旅館料は組合規定により湯治者に限り一日金六十錢にて賄ひ居れり丸本、角長、森脇等比較的設備整ひ待遇親切なり▲當地は輸出入とも専ら海運に頼り殆ど四ツ谷回漕店一手にて取扱ひ居り常に函館、白糠、泊等へ往來し居れり當一月中には函館間と十一回の廻航あり輸入品は米穀、雜貨、荒物にして輸出品は主として鮮魚なり汽船は函館港金森、板村、前田外五六の回漕店の持船にして觀音丸、大龜丸、先山丸等は始終往復し居れり此間航海時間は三時間乃至四時間にして乗客賃金は一圓六十錢とす▲輸入米は越中及津輕産多く越中米九圓五十錢津輕米三等白八圓八十錢の相場なり近頃外國米も亦續々入津し村民の需要に供せり酒及味噌は越後及佐渡産にして醤油は室蘭、函館、野邊地より輸入し來れり▲従前此の地に開業し在りし醫師鳥居龍藏氏(千葉縣人)は東京へ移住のため患者一事當惑し本縣衛生課にてもその後任者を斡旋してくれしに青森市米町鈴木逞氏進んで此の地に來りて業を開き藥局生と二人にて萬事の不便を忍び熱心懇篤に醫療に従ひあれば村民も大いにその仁術に信賴し居れり

○山下村民の苦情

新任大畑小林區署長には本年一月初め人夫どもがその訓示に従はず例年の通り七日間新年休業を為せるを以て痛くその不心得を責め地方民は懶惰にして用ふるに足らず向後一切人夫に採用せず他より呼び寄すべしといふことになりたれば村民には頗る恐慌を來たし畜に人夫その者のみならず一般の市況に影響するを以て同署長に對し穩便なる取運びを願ひ出でたり又同署長には村方へは一本の木すら賣拂はざるを以て木材業者は殆ど營業停止し失職の状態に陥りあれば是亦何とか便宜を與へられたきものなりと切望し只管同署長の寛仁に縋り恩典の取計ひある

べきを期待し居れり

大正三年二月二十日

●西津輕郡誌の編纂 △島川觀水氏に囑託す

西津輕郡に於て兼ねて郷土誌編纂に志し各町村の學校に夫れが調査方を命じつゝありしも何分各町村とも記録舊記等に乏しく或る二三の町村を除きては全く郷土の沿革を知るに由無く斯くては今後幾年經過するも郷土誌の完成期し難きを慨し過般長谷部郡長には西津輕郡誌を編纂すべく郡會に諮りたるに満場の容れるゝ處となり今回遂に全郡誌編纂に決し其の編纂方を深浦島川觀水氏に囑託せりと云ふ内容目次は未定なるも

總論、行政組織、戸口、神社佛閣、宗教、教化、名勝、史跡、衛生、土木、運輸交通、産業、商業、財政、軍事、褒賞、賑恤、貯蓄等

の十數章に分かち維新より現在に至る沿革を詳述すべしと云ふ

●下北郡たより（十六日）

○鮑の商取引

大間は由來鮑の産地として其の名高く當地に於て一位に推され年々三四萬圓の産額あり殊に本年は未曾有の高價を呈し一個（貝の大きさ三寸五分以上のもの）拾錢餘に達し百斤百九十七圓といふ珍値を來たせり第一回の現品取引は約八千斤にして十五日頃受渡を為し第二回はそれより壹週間を経て行はれ價格は第一回より尚ほ五十圓以上昂り數量凡そ六千斤なりとされば大間には爰許十日間内外に四萬圓の金を取込むべき譯なり因に右鮑の取引は田名部町の安野崎商會油川の津幡文長氏等その重なるものなり

○行商人の入込み

凶作地方に反し昨年來當地方は漁獲物引續き良好なりしを以て其の景氣を目當てに入込む人日々幾人なるを知らず古着小間物賣藥等荷を高く背負ひたるもの陸續として當地方を徘徊し居れり

○出稼人の渡航

當北通にて北海道及樺太への出稼人は大畑村最も多く二百五十名内外あり此の給金一萬圓に達す風間浦村は地元大謀網漁に雇はるゝを以て出稼人少なく大間に至りては殆どなし奥戸及佐井亦少し其の被雇者は正に渡航せし者多く残る者も大抵二十日前後を以て全部出立する筈なり

○發動機船の新造

當地方は主として海運に頼るものなるに昨年來陸奥灣汽船會社の船廻し稀なるより物資の輸出入に不便尠なからず孰れも之を啣ちありしが今回大間の矢越及佐井の樋口氏等二三有志の合資にて石油發動機船を新造し二十日頃着船する由向後専ら當地方と函館青森間の海運に従事すべしと同船は海具及木材の積込みに充つるやう構造せるものなれば規模小ならず亦船客の往來にも至極便利なるより地方發展上その前途を祝福し居れり

大正三年二月二十五日

●鱈釣船の惨事

△市内相馬町の漁船

△轉覆して六名溺死

去る二十一日朝鱈釣の為め

市内浪打字相馬町番外戸主柳谷定四郎（四八）全人次男喜一郎（一四）全町柳谷辰之助（四七）全榮八（三一）全忠吉（五二）秋田由五郎（三四）

の六名は出漁せしに歸宅すべき筈の二十二日にも歸宅せざるより全町の人々は騒ぎ出し種々搜索に着手せし二十三日に至り東郡小湊村字茂浦に難破船漂着せりとの報に接し直ちに全方面に搜索隊を出せしに該難破船は前記六名乗組のものにて柳谷忠吉（五二）のみは死体となりて船に残り他の五名は全部行衛不明なるが未だに音沙汰無き事より推せば何れも死亡せるものなるべしとて広くもあらぬ全町は此の大遭難に煮え返る程騒ぎ居れり

△出漁船三艘 柳谷定四郎組の漁船は同人所有の四間船にて二枚帆かけて走るやうにしたるものにて當日全町の工藤平吉組及坂本久八組と共に出發して下北郡川内沖合にて鱈釣りを為し相當の漁獲の上翌二十二日他の二組と共に歸港に就けり

△稀なる腕利 歸航に就きて茂浦沖に至れる際に波高く風又加はりたれば久八組と平吉組とは大島に避難せるが定四郎は「漁士の神」と稱せらるゝほど船の操縦に巧みなる技倆を有するを以てなアにこれしきの浪にと其のまゝ歸航を續けて避難せざりしは今回の惨事を見るに至りし原因なるが如し

△他二艘は無事 大島沖に避難せる二組は二十三日午後二時三十分無事歸着せるが避難せずして其のまゝ歸りたる定四郎の漁船は到着せざるのみか一向其の沙汰なきよりこゝに相馬町内の大騒ぎとなりたり

△搜索船急行 さア大變と全町の重なる人々は相馬駿氏宅に集まりて相談の結果直ちに搜索船一艘八名乗りを茂浦沖に向はしめ一方海岸搜索の為め三名海岸を茂浦に向はしめたり

△船に縛り付け 二十三日午前十時頃茂浦の人が沖合に眞倒さま轉覆せる船は漂流し居るを發見して近寄りたる所忠吉はシャツ一枚となりて身体を船に縛りつけ無残にも既に息絶え居りたるが他は影も形も見えざりしが多分溺死せるものなるべく其の後搜索船は搜索を續け居るも昨日迄は發見するに至らざりし

△隼丸の急行 昨日午前九時水上警察の隼丸は遭難地に急行せるが午後四時頃一先歸港せり

△溺死者の家族 數は左の如し

船主定四郎（九名）忠吉（六名）榮八（二名）辰之助（九名）由五郎（五名）

にて何れも相當に資産のあるものにあらざれば今後の遺族の困難は想ひやらるゝとのことなり

△船と死体 船に体を縛り付けて死しありたる忠吉の死体は昨日遭難船と共に輸送し來たるが残りたるは帆だけにて船具全部なかりしといふが右遭難船を調査せるに再三沈没せるものゝ如く乗込員一同の奮闘思ひやらるゝと

△搜索船十艘 其の後搜索船を増加して十艘と為しハイ繩にて搜索し居れるが天候次第にて網をも用ひ搜索すべしと

△市長の訪問 昨日午後工藤市長は小林書記を随へ各遭難者の遺族を訪問して弔慰せり

●大戸瀬の窮民

▼心根床しき貧家の娘

▼老母の涙ながらの物語

▲岸打つ波 の音高く春まだ浅き浜風は陸奥の如月の空を吹きて春とは唯名斗りの磯の眺めも昨年の凶作に伴はれて一層寂しさを感じらるゝ記者は京都市奥井呉服店寄贈の暖き金を頒ちべく西郡大戸瀬村に見舞ふた、貴田巡查と共に訪れたのは全村でも凶作に依る直接被害者の宅であった、全村大字柳田の熊野神社の社前とも云ふべき村離れ小川に沿ふて訪れた

▲氷柱に圍まれ破屋 の前に来た、二十歳位の顔の蒼い女が戸口に佇んでいる、貴田巡查は「親爺が居るか・・・」と入った、記者も家に入ったら左側からニューと面を出した、右方の土間に板を敷いたとは名斗りの爐には此の寒さを凌ぐべく螢の尻とも云ふ様な些かな火が寂しげに燻ってる、家の内は掛蕙かして棚とも見るべき箱がその邊に横ってる、家の中には道具らしいものが更に無い、これが米谷申松（五二）の家である、申松が炭焼に行つて居なかつた妻いと（四六）が爐邊に居て炭俵を編んで居た、年四十六と云へば女の働き盛りと云ふべきであるに此の女は十餘年前から病気で体の自由を欠いて居る、上下の歯が残らず欠けて口を利いても何やらサッパリ解らぬ、かすの（二三）さき（二一）由松（十八）ア子（十四）由太郎（十）五人の子供と一人の病妻を抱えた申松は何程働いても一家の生計は立て兼ねる、それが平年であればそれ相當の日手間も取れるのだがこう不景気では誰一人手間を頼むものもない、不運と云ふものは異なるもので此の家の兒は概して衰弱に陥入つて世間普通ではない、記者は母子を慰めて若干の金を與へたらさきと云ふ娘が「父が歸つて來れば唯だ金を▲貰えば叱られる」と固辭して受取らうともせなかつた、記者は惠與の理由を貴田巡查と共に説明して無理に受取らしめた、世は舊の小正月と云ふので美しい着物を着て髪を結ふて遊んで居るに此の一家は前世如何なる約束事か此の不幸に沈倫して居る飼馬が他人のものであつて青森市廣田鋭八郎氏の小作人であるさうなが實が少ないので僅かよりも納めなかつたとの事、今日食う物がなく役場から貰ふた米で家内七人は纔に露命を繋いで居るにも拘らず僅か斗りの惠與金を父が居なければ叱らるゝと受取らなかつた殊勝の心掛けが實に感心に堪へなかつた、貧弱な一家確かに

▲古武士の倅 が偲ばれた、記者は此の娘の一語に尠からぬ感を深からしめて背徳偽善の世の冷酷に血涙を濯いだ、記者は貧しくも心根床しき此の一家の為めの幸を祈り病婦の健康を祈つて辭した

▲關の窮民 木村利吉（四一）を訪ふた、窮民とは見へぬ程家の周圍が奇麗である、中に入つてもピカピカして居る、爐の周圍に六十餘の老母と五ツ斗りになる女の兒と二人は座っている一方に二十五六の女が寝ている、家の奇麗なのを貴田巡查に聞けば此の老母が大の潔癖家で如何なる場合どんなことがあつても家の内外は一日三度必ず拭いたり掃いたり掃除するとの事である道理で奇麗である、家の中見渡し限り何者も無い矢張浮世の風の吹き荒んだ後ではあるが奇麗に整理して居る、老母の涙ながらの物語を聞けば聞く程哀れなものである、今は亭主利吉と老母サン（六二）妹りせ（三一）きせ（二七）姪きさ（六才）の五人暮してあるが不幸は廻

り廻りて昨年の田植時利吉の妻と娘は

▲川に流れて死んだ 引續き嘆きの内に凶作に収まって田の収穫は殆ど皆無で矢張世の不景気は仕事一つ手間一日ある譯でもなく四十以上のトワタリ漁夫は雇ふて呉れる人もなく親子手を拱いて餓死するやうな有様餘儀無く利吉は舊隴北海道目指して唯だ「働いてくる・・・」と云ふて何の目的もなく旅立った今頃は何処の空に漂ふて居るやらと老婆は涙をホロリ

▲病苦にやつれた娘 を指してこの間からの病気で醫者に見て貰ふ譯にもならず困って居たが警察の旦那様から札を貰って見て貰った・・・と貴田巡査に聞けば濟生會の治療券であるさうな親子四人と子供何の為す無く唯だ救助米に細き露命を繋いで居るのであった記者は若干の金を恵んで辞した、嗚呼、老婆の涙の影・・・には悲惨な無限の哀史は彩られて居るのであらう・・・
(觀水)

大正三年二月二十六日

●鐵道の漁夫輸送

△輸送豫約申込續々たり

本年の鐵道漁夫輸送は去る二十三日を以て開始せられしが全日は湊發余市行き百八十五名及下田發野邊地着百三十名及湊發黒松内行六十一名にて合計百九十一名なりしが昨二十五日は湊發岩内行五十四名劍吉及小鳥谷發浦町驛着各二十五名にて合計百四名に及たり而して今後の申込豫約は今二十六日機織發余市行五百名二十七日四百六十六名二十八日八十名にして本月は通計一千七百五十名を算する次第なるが來月一日より五日までに能代湊八戸各驛を發し小樽余市岩内黒松内行漁夫數は九百餘名に達し居れり而して是等は主として鐵道連絡船に依るなりと

●青森市の水産漁獲高

△昨年度は九萬二千餘圓

大正二年度に於ける本市水産漁獲物數量は總價格九萬三千五百六十八圓なるが内譯左の如し
(單位圓)

種類	價格	種類	價格	種類	價格
眞 鰯	三、二五〇	鳥 介	一、〇〇〇	背黒鰯	四〇、〇〇〇
淡 菜	二〇〇	鯖	二、〇二五	西施舌	一〇〇
鱈	七、〇〇〇	海 栗	一、〇〇〇	小ざめ	一、一〇二
石花菜	二、一〇〇	鰾	三、二〇〇	烏 賊	一、五〇〇
鰈	一三、〇〇〇	柔 魚	一、九五〇	鯛	二、〇四〇
蛸	五〇〇	鰯	一〇〇	海 鼠	二、四〇〇
こ ち	二、五〇五	蟹	一、〇〇〇	そ い	一、九九五
公 魚	五〇〇	鮫 鰯	一、〇〇〇	玉筋魚	一、五〇一
火 魚	二、五〇〇	其 他	三〇〇	合 計	九三、五六八

●漁船慘事續聞

▲義捐金募集 今回の遭難者は何れも相馬町に於ける下流の生活を為し居る者のみにて且家族

多数あり一昨日工藤市長親しく慰問し其の惨状見るに忍びざるものありとて歸來早々義捐金を募集するに決しそれぞれ勧誘に着手せるが締切は三月末日なりと

▲遺族を救助 市役所にては遺族を救助する必要を認め今明中に救助米其他を給與する由

▲搜索の状況 一昨夜遭難地より歸來せる定四郎長男元太郎の談に依れば一昨日は風浪激しき為め再度投網せしも無効にて針縄を流して搜索中なるが同夜は捜査隊一同平内方面に宿泊し昨日も引續き搜索するといひ居れり

▲九年目の遭難 先年同町大谷榮助所有の八人乗漁船が西平内村字稻生沖に於て遭難し榮助の子供四人と外二名が溺死し僅かに二人救助せられたることありしが右の椿事より本年は九年目に當たる由

▲上田氏の寄附 米町上田幸兵衛氏は遭難の報を聞くや親しく各戸を訪問し窮状に同情を寄せ相馬駿氏の手を経て金十圓を贈られたりと

▲葬具舎の寄特 市内蜷貝町山道葬具舎及榮町珍田葬具舎にて連名遺族に慰問状を贈れるが尚ほ二舎共同装具を無料にて貸與の上造花三對其他付属品一式を寄附申出でたりと因に山道葬具舎の父は昨年田村組の舩遭難の際に於ける溺死者にて當時今回の溺死者なる定四郎に死体を發見せられたる因縁なりと

●愁雲鎖す相馬町

△遭難者の遺族を訪ふ

哀愁の雲に閉ざされたる相馬町は今より二十一年前に初めて堤町より分家せる六七軒をもて開かれた部落であったのが、今では四十二棟の四十八戸で人口三百余人の町を形造って居る住民の何れもが漁師といつてもよい、今回遭難せし五戸は此の部落中にも中流以下の生活を為し居るものゝみで而かも働き盛りの戸主に死なれた為めに残されたる家族は途方に呉れ只泣きの涙で沖を眺めて搜索船の報告を待つばかりである（二十四日・・愛の人）

▲アゝ親子もろとも 艘難船の持主で而かも次男喜一郎（一六）と共に海の藻屑となった柳谷定四郎（四八）方は相馬町最初の住人で家は相馬町でも大きい方である店はこれも今回の遭難死者なる甥の榮八に貸して居る家族は

定四郎妻すえ（四三）長男元太郎（一八）次男喜一郎（一六）三男榮造（一三・・浦町の五年生）四男仁次郎（一〇・・浦町二年生）五男一郎（八）三女いせ（六）六男喜三郎（二）の九人暮しで元太郎は今春禮文に出稼契約をなし前金は既に消費したといつて居る鱈釣には例年秋田由太郎と六人組であるが今年是由太郎が病氣の為め出漁する能はず喜一郎が代って行ったが遂に此の不幸に遭遇したのである涙片手にすえが語るらく

定四郎は組で往ったのであれば致方もなけれど喜一郎は人の代りに行って死んだのだから一層思ひが残る・・船に乗る時新しき手拭を被るといつてあつたが沖へ出るのに新らしくなくともよいと叱り付けて被せざりしが遂に最後となった、死体は海の底に潜つても引揚げなければならぬ・・元太郎は來月三日に北海道の漁場に行くことになつて居るが親と弟の死体が發見されぬ為めにやらねばならぬことが元太郎も行きたくないと言つて居れど借りた金が既に費ひつくして無いものだから

と泣きの涙で語って居たが近來は思はしき漁もなければ家財道具の多くと船具類は大金の質屋へ入質して生活費に充て凌ぎ居れるを以て定四郎に死なれては受質の見込もなしとのこと實に悲惨の極である、昨年一月の鯨遭難の場合は定四郎は激浪と奮闘して死骸の二つも発見引揚げたのが今は人に搜索さるゝ身となった

▲只夢とばかり 遭難死者の一人なる柳谷辰之助（四七）も相馬町最初の住人である家族は妻のよし（四一）の中に長男辰三郎（一八）次男多作（一五）三男三蔵（一二）次女くに（一〇）三女つま（七）四男兼次郎（四）五男兼太郎（二）

出船に際し烏なきの悪しきを気にしながら出て往ったさうなが妻よしは家にありて夫の漁が幸あれかしと祈りながら草鞋の内職に余念なかりし處へ警官の知らせを聞き餘の驚きに涙も出でざりしとて「初めは夢かと思ひしも續々近所の人々が集まり悔やみを述べらるゝに初めて眞かとも思ひたり泣きても今更ら甲斐無しとあきらめ泣くまいと思へど自然に涙が流るゝ」と泣いていたが辰之助は豫て病気の為め濟生會の施療を受け居り未だ健康体に復さねど歩行には差支へなければ糊口に窮するまゝ此の日出漁したのが死別となった、長男の辰三郎は定四郎方の元太郎と同じ親方に雇はれて矢張來月三日に出帆の筈だが辰三郎に行かれては一家の糊口に困るが去りとて前借金を米に代へてしまふた後なれば止むを得ないと眞から同情に堪へぬ愁嘆場を見せられた

▲妻に残した五錢 秋田由五郎（三四）は十二三年前に堤町より相馬町に移住し秋村金次郎方の奥畳四枚ばかり敷かるゝ位の臺どころ兼用の部屋と寢間であらうと思はるゝ二畳の室とに住まって居るが此の小さき部屋に形ばかりの机の上に位牌もなきに燈明をとぼしてある家族は妻よね（三二）との中に長女はる（一〇・・浦町三年生）と次女いと（六）とがありよねは目下妊娠中で今月が臨月の大きい腹をかゝへて涙に暮れて語る夫の収入思はしからざれば家にありて草履や草鞋を作って辛ふじて糊口を凌いで居る由にて

禮文へ履を賣しが前金三十五六圓を借り生活費に充てたり殊に此の頃は不漁續きにて損するのみなれば出漁を見合はせ手間取りをなせよと勧めたれど聞かず特に出漁に際し鍵のハナがプツリと切れたれば強いて止めたるも只だ笑ふて聞かずして「鯨節は何程する、五錢で買はれぬか」と云ひ妾は「五錢や十錢で買はれすか」と答へしに「高値ものだな！」と五錢を残して行きましたが思へばこれが夫の聲を聞きし最後でした

とヨゝとばかり泣く、よねは舊茶屋町笹原茂吉の娘にて實家とても富めるにあらざり其上之まで數回無理な無心をなしたる後なれば今更實家にも話し難く途方に暮れ居れりとて又も泣く・・・

▲親娘涙のうちに 柳谷榮八（三一）は下堤町柳谷長次郎の次男にて七年前妻のきえ（二一）を娶りおじの定四郎方に借家住をなし夫婦暮しであるきえは南郡野澤村字郷山前の福士幸作の娘で二十三日遭難と聞くや相談するにも定四郎方にて二人も死んで居るなれば誰も力とする人なければ直ちに實家に宛「スグコイ」と電報を發せしに實家にては夫婦喧嘩でもなしたるものと思ひしものか母親が餅を持ちて來青したが来て見ると何のことか此の不幸なので泣いても涙が出ぬとて親子して泣いて語る

▲兄弟力を戮せて 死体となっても船を離れざりし為めに第一に発見せられたる柳谷忠吉（五一）方は妻ツル（四五）長男忠助（二七）嫁よし（一九）次男代太郎（一九）の五人暮しにて忠助は裁縫職をなし傍ら漁業に手傳し居るなれば弟代太郎と共に戮力して今後は父の跡を弔らひて稼業に勵むと居るが死体も発見されて居るし兎に角遭難者中比較的何にか今後の方法のつく方である

大正三年三月五日

●大奥村の鮑大漁

△稍も亦大漁にて頗るの景気

下北郡大奥村は例の通り昨年の初冬より突鮑漁に取係り居れるが本年は意外の大漁にて其以來風日多く且高價なれば米價の暴落と共に各漁戸は景気甚だ宜し鮑は生賣にして百斤二百三十圓大間鮑は之より高價ならんもさしたる差はなかるべし是迄は突鮑産價額高七八千圓を最高とせしも今年は一萬圓に達すべき見込十分なれば近年稀有の大漁と云ふべく漁夫の喜色唯ならず而して収穫期は今月一杯ならんと云ふ尚ほ蛸も大漁にして生一貫目十錢なり（三樹夫生）

●大湊たより（三日）

▲村會と區會 二月十七日より三日間村會全月二十三日城ヶ澤區二十四日大平區二十五六の兩日大湊區會を開き三年度の豫算及凶作救濟方法の諸件を議定せり

▲商況と道路 昨今は當湊より乗船する北海道出稼者の出入多く例年なれば日用品の賣店や居酒屋の書き入れ時として殷賑なりしも本春は凶作影響を受しが商家何れも閑散なり昨今雪解け時に降雨ありし為め市内は泥海の如し

▲漁況と漁業者 前月までは海扇漁獲期限の延長と海鼠漁期の為め漸く糊口を繋ぎ凶作の影響も左程甚だしからざりし彼等漁業者も主なる漁獲物の禁漁期に入れると従業者の大多數が北海道に出稼ぎするとにて今後は等家族間に窮民續出するならんと觀測せらる

大正三年三月八日

●下北郡たより（五日）

○佐井の鑛山近況

佐井には大瀧及戸澤の二カ所有之候、戸澤の方は歴史古く今も丸二方に事務所を置き山でもボツボツやり居り候も何分気焰揚がらず、それに反し前途有望と認められ現今呼び聲の高きは大瀧鑛山の方にて此の鑛山主は小樽の寺田省歸と申す人なるが榎本子爵なども關係あるやに聞き及び候、事務所は大佐井の糠森に置き事務所長は坂本鄭二氏會計主任は吉満義明氏にて其他山の方には五人、事務所には二人執務致し居り候、目下熔鑛爐の据付け中にて既に九分通り出來上がり居れば今月末までには煙を揚げ得らるべきかと申居候随つて採鑛雜役の人も現在の員數を倍増し百四五人を使用する由、雜役賃金は五十錢乃至六十五錢位なりと、併し本縣の者は兎角行動遅鈍にして他縣の者の半分より働かないと申し居り甚だ受が宜しからず候

○佐井の軸木工業

岩手縣の人川村市太郎氏が明治三十九年以來引續き經營し居るものにて往時は材料の採集容易なりしたため事業も可なり盛大なりしが大林區署の斯業案實施後思ふやうに材料を得られざれば時に余儀なく休業せざるを得ず近來事業萎微として振るはざるは遺憾の事に候、斯業製品は四月以降に至れば變色の為め價格低落するを以て成るべくその以前に製作を努め居るものにて材料の運搬にも又地方的仕事の按配上冬期間の事業として最も適當なるものに有之殊に目下の如き凶作の影響よりその工場に労働を申込みもの日々續々あるも奈何せん材料缺乏の為め空しく手を拱して休業し居るの有様に候、事業發展のため將た救済民救済のため何とか便宜を與へて振興せしめたまものに候、同工場にては軸木のみならず經木及木履をも製作致し居り候

○鮑の二回入札

過日も報道致し候通り大間鮑は本年稀有の高價を呈し第二回入札は客月二十三日百斤に付二百十八圓十九錢にて津幡文長氏に落札致候現品取引は本月二十五日頃となるべくその數量は一萬斤を越ゆべしとの噂に候因に來たる四月より漁獲さる刺網鮑は奥戸、佐井及他の部落とも既に青田の賣買契約済となり居り候

○名菓の新製

大畑の寺岡香風堂は本郡随一ともいふべきお菓子屋に有之是迄も色々の珍菓を作り各地の品評會にて賞與を博し居候處寺岡父子多年の考案と實驗とにて新たに昆布落雁（一寸一分の四角形にて表面には浪に千鳥と巖に蓑龜との模様あり）を製し過日名古屋の菓子館展覽會に出品せしに有功一等賞金牌を授けられたれば今回愈々賣弘め致候其の色香といひ風味といひ最も佳良にして殊に水産地なる本郡に於て水産物を原料としたる菓子の製作は此の上もなき事に付定めて品評を博することなるべく聽ては本郡名物の一に數へらるゝならんと存じ候

●帆船樺太丸の轉覆

△海龍丸に救はる

西郡十三村宮崎岩太郎所有の帆船樺太丸（二本樺四十七噸）は東郡小湊村字濱子へ木材積取の為め昨日正午青森を發し

脱 落

●東郡東田澤たより（五日）

▲村 況 先月迄は海扇の漁期延長に加へて其他魚類も相應に漁獲あり随つて現今飢餓に類せる程の者なきも彼等漁業者の大多數は出稼に出發すると共に今後家族間には窮民の續出を見るならんか

大正三年三月九日

●水産研究會成る

西郡大戸瀬、岩崎、深浦三ヶ村各漁業組合理事監事集會に於て水産研究會を組織し左の會則を設定せり

水産研究會全則

第一條 本會を水産研究會と稱す

第二條 本會の事務所を西津輕郡深浦村に置く

第三條 本會は水産及漁業の發達を圖るを目的とし左の事業を行ふ（一）水産及漁業上の調査研究をなす事（二）必要に應じ各地に講演會を開く（三）水産及漁業者の業務に便宜を與ふること（四）各地の視察をなすことあるべし（五）生産調査を為す事（六）須要事項は印刷物として各會員に配付す（七）其他必要なる設備をなすことあるべし

第四條 本會は岩崎、深浦、大戸瀬村各漁業組合の理事監事の同志を以て組織す

前項の組合員は何人と雖も總會に出席し意見を述ぶることを得但議決權を有せず

第五條 本會に會長一名監事若干名を置き其任期を三カ年とす但再選を妨げず

第六條 會長は會員中より選舉し監事は會長に於て會員中より指名す

第七條 役員は名譽職とす但總會の決議により報酬を與ふることを得

第八條 會長は會務を總理し會を代表す、幹事は會長の命を承け會務を掌る

第九條 本會は毎年春季一回總會を開く但會長に於て必要と認むる場合臨時總會を開くことを得

第十條 本會の經費は會員及他の収入金を以て充つ

第十一條 本會の會費は一組合に於て一カ年金一圓とす

臨時費用を要する場合は適當の方法に依りて協議すること

第十二條 會務處理の方法は會長に一任す

會則議定の後會長選舉に移り島川久一郎氏當選直ちに全氏より左記の通り幹事三名を指名せり

△幹事 田村安太郎（奥）新岡重吉（風合瀬）佐原松尾（岩崎）

それより左の協議案を議定せり

協 議 案

一、恵胡乾燥及販賣の方法を一定しては如何及可とせば其方法（一定に決し其方法は研究すること）

二、鱒卵禁漁の解除を其筋へ請願すること（可決）

三、漁業取締規則第一條により差出したる書面は經由官廳に於て左の期間内に處理進達する様相當改正を促すこと（可決）

一、町村役場は受理より五日以内

二、郡役所は受附の日より十四日以内

四、同規則第七條の漁業は専用漁場以外は届出にて足ることに改正を望む（可決）

五、同第八條の鑑札は木札に改むる事（可）

六、同第九條の許可期間を十ケ年に改むる事（可決）

七、個人の既得權者の期間の更新に就きては組合の同意を得ざる者に認可を與へざる方針に出でられたきことを請願するの件（可決）

八、組合の豫算は可及的同一方法に出で大差なきを期すること（役員に於て當局と協議の上一定の標準を定むる事）

- 九、海産物製造の改良を謀る事並に縣廳へ右巡回教師の派遣を乞ふこと（可決）
- 十、漁業組合を代議制度に改むることを農商務大臣へ稟請すること（宿題として研究すること）
- 十一、西郡役所に水産専門の吏員一名を置くことを申請すること（可決）
- 十二、漁業組合員の資格を一定する必要なきか（一定すること）
- 十三、無免許網及禁漁期間魚類の捕獲を取締ること（可決）
- 十四、組合地區に属する濱地を組合にて借受ては如何（借受に決す）

以上議定午後六時閉會それより理事幹事懇親の小宴を開きて散會因に當日郡役所より吏員出張の筈なりしも凶作事務の為め出席し兼ねる旨須藤課長より通知ありしは遺憾なりし

大正三年四月十二日

●魚市場の賑ひ

沖の方に黒煙が薄く立ち上がると新濱の魚市場は急に活気が附いてくる、魚揚場は四箇所とも人夫や馬士又は魚商人で一杯になり往復の人も此の雑踏に気を取られて立ち止って見物する、毎日の見物人丈けでも尠なからぬ人數で、鯡時の青森は魚市場の賑ひに人気を奪はれて仕舞ふ、樺太や北海道から近頃引っきり無しに来る汽船は大抵一艘に

▲四十萬匹以上 は積み込んで居るのが多い時には一日に七八艘尠なくとも一日に一二艘はくるまだまだ當分續く相である、沖の暗いのに白帆は見えるあれば北海道の鯡船と歌にこそ歌はねサア船が入る頃だぞと問屋の帳場さんが一聲合圖をすればぞろぞろぞろぞろ其處の軒先此處の屋根下に團まって雑談に夢中になって居った百數十名に上る男女の人夫は一度に立ち上がって魚揚場に押し寄せる頭立った者の指圖に随って女は倉庫から箱を背負って積み重ね男は箱を舢に積むやら筵を敷いて其の上に置二疊位の細長い枠を三つ四つ並べて鯡を入れる用意をするやら仲々急がはしいそれから女の人夫は二隊に分かれ一隊は陸上に居残り一隊は舢に乗って漕ぎ出す準備をする頃には先に一抹の細煙よりも見えなかつた船は漸く船体を頭はし先頭波を切つて陸に近づき來たり間も無く岸に近く碇を投げると同時に女人夫の舢負箱を一杯積んだ舢は汽船目掛けて漕ぎ出して行く女人夫の數は男も混じって一艘の汽船に二三十人位乗り込むが汽船の船倉は大抵前甲板後甲板と二箇所に分かたれ甲板から船底迄

▲二重三重に 仕切つてあるのに鯡が少しの空きもなくギッシリ詰め込まれて居る、船に押し寄せた人夫は男は鍬の様な得物を持って鯡をすくつては畚の中に投げ込むと女が四人で畚を擔ぎ揚げて箱にズシンと鯡を畚から移し入れるすると其の箱を船の胴腹の出入口から舢に積み込むかくして積み込まれた鯢の箱は舢の中に四五十個積まれると舢は岸へと漕ぎ戻る入れ替わりに空箱を積み込んだ舢がくるこれも前同様詰め込むと又漕ぎ戻す又來ると云ふ風で船中の人夫の忙しさは目を廻す程の物だ、かくして上方の一重の鯢を空にすると其の底のハッチの鯢に取り掛るが今度は杭を打ち込む時の様に天井から畚を釣り下げ女が四人で各々繩の端を握り下から男人夫が畚に鯢を一杯投げ入れるのを合圖に畚を釣り上げ又も箱詰めして岸へと送り出す

▲陸の方では 舢が漕ぎ附けるとヨイヤサの掛聲勇ましく人夫は代わる代わる箱を一個宛背負

って最初は問屋の店先に運ぶが其處の女も大勢居て一イニウ三イと勘定しながら別の箱又は樽に詰め替へる廻りは一杯行商人や小賣人に囲まれ此處で値が成り立って取引された鯨は直ちに市中に賣捌かれる此の方が濟むと混雑は揚場の方に移って舢舨から揚げられた鯨は枠の中に箱から空けられる其の廻りを馬子や魚商人が一杯取り巻いて「生だな塩だな」とか若しくは「ドダバ宜い鯨だなあ」と喚く、生とは塩漬とせぬ鯨、塩とは塩漬の鯨であって而してこの一團は人夫が箱から枠へドシンと鯨を空ける度にドダバドダバと連呼する、時に人夫が粗忽して枠外の地面に鯨をこぼすとか箱の尻が割れて獨りでに鯨が溢れたりするとドダバドダバと狂呼して人夫を罵る、このドダバ鯨を又枠から取り出して勘定しながら更に箱詰め又は樽詰めにするのが女人夫の役目で箱は更に藁で包み縄で縛り先程から待ち構えて居る馬子はすぐ様荷馬車に積み込み村落へと賣り出しに急ぐのである、かくして即座に賣買の授受が濟み明日は又この混雑を繰り返すのであるが積み卸の最中の魚市場は車は愚か

▲女子供は通れない程の雑踏で其の混雑の中を菓子屋の屋台店は其處此處に立って居ってどれも大繁昌の賣行だ四十萬匹の鯨ならば約百名近い人夫で正午から晩迄掛かる相だ近頃は重に北海道の美國方面からの船が多い相で偶には帆前もやって來る、鯨の子丈を箱詰めにしたのを一艘満載してくる船もある、何と云っても近頃の青森は鯨の親方やヤン衆でヤット景気を引き立たせて居る位のもので正に鯨の天下である

●泊沖の難破船 △船員二名行衛不明

北海道函館區若松町百十五番戸山本音吉は船員五名と共に其の所有に係る長さ六間一本檣六反帆の川崎船に乗込み四月五日三戸郡大字湊を出發し上北郡六カ所村大字泊を差して航行中四月七日午後八時頃泊字神ノ戸の陸地を距る約二十間の沖合に差しかかるや折からの東風益々猛烈を極め為めに船の轉覆せんとする事幾回なるを知らず殊に船内の浸水甚だしきより船員何れも海水に漂ひ居る中船体は岩石に衝突し後方左右を破損したるも幸にも内四名は船体にしかと取り付き居たる為め無事なるを得たるが他の二名は潮流に押し流されて其の行衛を失したれば多分溺死せるものなるべく辛ふじて命を取り止めし四名は船と共に漂着上陸したり而して破損船体は修繕の見込充分にて費用約五十圓を投ぜば事足るべしといふ尚該漁船は前記の如く五日午後十二時頃湊を發し泊沖合約十五里許りの處に於て「サガ」漁を為し全沖合に一夜を凌ぎ翌七日午後一時頃泊へ向け歸港中八時頃前記神ノ戸の澗口にて無慘難破の厄に遭ひたるものにして船員中行衛を失したるは越前國丹生郡田ヶ浦村番戸不明木村外吉（三〇）及び越後國西蒲原郡石地村番戸不明長崎勘藏（三六）の二名にして死体は今に至るも漂着せざれば目下極力搜索中なりと

大正三年四月十九日

●北海道一期鯨收穫高

本年は鯨の來遊存外早かりしに收穫高又豫想外の多きに達し小樽藤山商店の調査に係る去る十五日迄の全道實收穫は實に五十一萬二千四百石に及び四十一年來の大漁たる大正二年四月十五日の三十四萬五十石を超過する事十七萬二千三百五十石の豐漁を見たるは稀有にして尚且十

五日より一昨日に亘りて降雪あり各漁業家をして漁期の初期に入りたる哉の感を抱かしむるは實に奇なる現象と云ふべし而して各地の収穫高及び四十一年來の實収高を細別すれば左の如し
(大正三年四月十五日調)

檜山	六千五百石	美國	三萬八千石
外六郡			
島牧	三千石	古平	三萬五千石
壽都	一萬三千石	余市	四萬五千石
歌棄	八千石	忍路	三萬石
磯谷	一萬五千石	高嶋	三萬九千石
岩内	二萬七千石	小樽	一萬七千石
古宇	八千石	厚田	賄取
積丹	三萬八千石	濱益	九千石
増毛	五千石	焼尻	九千石
留萌	二千二百石	鬼脇	一萬石
鴛泊	七千石	仙法志	一萬四千石
杓形	二萬石	香深	一萬七千石
船泊	一萬石	鬼鹿	一千石
天賣	三萬五千七百石	宗谷	賄取

總計 五十一萬二千四百石

四十一年四月十八日迄収穫高 二十二萬三千九百石

四十二年四月十八日迄収穫高 十二萬九千五百石

四十三年四月十五日迄収穫高 二十二萬五千五百石

四十四年四月十六日迄収穫高 十八萬三千五百石

四十五年四月十五日迄収穫高 十萬九千石

大正二年四月十五日迄収穫高 三十四萬五十石

大正三年四月二十五日

●大博と東北 (五)

中 略

○水産館に入れば

遠がに日本は水産國、左方には千葉縣の出品物、鰹節、田作、海苔、メ粕、干貝、干蛸、何々と處も狭げに一圓に陳列され居り候、以て千葉縣が水産國中の水産地たるを偲ばしめ申候、神奈川縣は入口の中央部に海産乾物貿易商同業組合の貿易品を陳列し居り其の裏手には茨城縣あり鰹節、鮑、田作、乾鮭等茲も仲々目立ちて見ゆ同縣にては鰹のみにて一百万圓の収穫ありと申し居り候、其他に於て重なるは山口縣海參、鰻、鮑等は其の尤なるものにて海産六百萬圓と稱し居り候、京都府の處に至れば鰻のべら棒に大きいのはかがり居るを見受け居り候、高知縣

の鯉節と珊瑚名産なる丈けに見事に候、鹿兒島縣の薩摩節も同様に候其の産額二百萬圓と申す事、珊瑚も此の地の名物に候、沖縄縣には海參あり、天然真珠は名産、法螺貝も此の地に多し、宮崎縣も鯉節は目立ちて見え候、長崎縣は九州中の水産地其の産額九百七十萬圓と稱し産物も各種を數へ居られ候、鰯あり、明鮑あり鰻あり珊瑚も有名に候、是等は水産館中の重なる部分に候が、是より北海道の分を見て東北地方の分に及ぶべく、そは後報に譲るべく候

大正三年四月二十六日

●大博と東北（六） ▲水産館と教育及學藝館

北陸に於ける水産は新潟縣は重なる部のやうに見受けしが同縣の陳列品は

漁獲 柔魚六十三萬圓、鮭三十二萬圓、鱈三十三萬圓、スケトウ二十萬圓、鯛三十六萬圓、天草五萬圓△製造 二番鰯五十二萬圓、塩乾鮭四萬圓、田作參萬圓、披鱈三萬圓、鰻^メ粕十三萬圓

等に候、石川縣にては海參と塩鱈は其の重なるものゝ如く他には格別の出品を見受け不申候
○東北六縣の水産物 は館の後方部に在り、本縣の如きは宮城縣に隣りて右方出口の處に有之候、此の附近は他の諸縣の分も陳列され居り候、福島縣は主として鯉節のみ出陳し宮城縣は灰鮑、田作、鰯、鯉節、鮪節、海參、魚粕、魚油等六縣にては比較的多種多數に出陳し居られ候、之に次ぐは岩手縣にて鯉節（産額五十萬圓）、灰鮑（三拾萬圓）、鰯（十六萬圓）等にして秋田縣は水産額四拾九萬六千圓と掲示したるのみにて産物は何ものも出陳せず只釣道具のみが見え申候、次ぎに本縣の出品はと見るに貝柱、灰鮑、明鮑、海參、鰯の五種に有之候が、其の出品の点数は少なきも何れも他には餘り負を取るとは思はれず、海參と云ひ干鮑と云ひ、貝柱と云ひ、將た鰯と云ひ他府縣にも出陳多きことには候へ共其の道の人々は特に注意を拂ひ居るものゝ如くに候、何れにせよ三面海を巡らし居る本縣のことにあれば水産丈は多少氣を吐くに足るものゝ如く、本縣の事務員も水産なればと頗る意を強ふし居るものゝ如くに候、油川の津幡文長氏のや下北郡南徳次郎氏の出品などは出来よき方なりと申し居り候、實は慾を云へば、今少しく場所を廣ふして、今少しく多數の出品を見たかりしことに候、而して本縣の重なる水産は決して以上の數種に限らざるべく候、先づ東北諸縣を通じては節、乾鮑、鰯、海參、貝柱等は其の重なるものに候が、節は福島、岩手、宮城といふ順序なるべく乾鮑は本縣と岩手、宮城、海參は本縣と宮城、貝柱は本縣の獨占、鰯は本縣と岩手、宮城といふことになるべしとは某水産家の談に候が如何にや、獨り山形縣の水産物は記者の見落としか知らざれども遂に出陳を見受け不申候、水産館の右手の方には東京地方の飲食品の陳列所あり罐詰、ビール、清涼水などに見ゆ、生魚も亦茲に飾り居るを見受け候、水産館を出づれば（後略）

大正三年四月二十八日

●樺太の鯨漁

樺太西海岸一帶の鯨漁は日を追ふて盛期に向かひつゝあり初漁以來去る二十一日迄に野田寒出張所管内に於て漁獲せられたるは總數量五千二百石にして内本縣漁業者川村茂資氏の漁場は

埼越三百五十石、知登三百石、二十二日夜來眞岡管内本泊より藻白附近に掛けて一帯に群來あり沿岸各漁場の漁獲中本縣漁業者の分は富内岸堀谷八太郎百石、床丹赤坂市三郎百石又た泊管内初漁以來十九日までの漁獲高計七千石にて内有戸の赤坂市三郎三十石なりしと

大正三年四月二十九日

●大博と本縣水産 △古川技師の談

農商務省内に開かれし全國水産試験場長會議に列席の爲め過般來上京中の處此程歸廳したる古川技師の語る處に依れば東京大正博覽會に出品せられたる今回の水産物並びに水産製品等について一瞥するに概して從來各地に開かれし博覽會若しくは共進會出陳の夫れに比し別に進歩の跡歴々たりとは稱するを得ず只粧飾に於て大いに勝れるものあるを覺ゆるも斯の如きは素人の眼目を一時悦ばしむるのみにして玄人は寧ろ之を採らざるものあり他府縣と比して著しく頭角を現はせるは東北地方の出品に係る鰹節にして僅々數年間に斯の如き進歩と改良を見たるは殆ど觀者に一驚を喫せしむるに足るべし本縣の出品に係る鰹節又之等の間に斬然名聲を擅にし更に鯛に於ても到底各縣の比肩を難ずるものありとす要するに本縣の出品物は何処迄も眞面目の態度を失はず粧飾の如きは第二として品質其物を主眼としたる結果玄人連の賞賛を博せるものゝ如しと

抜け T. 3. 4. 30-7. 08

大正三年七月九日

東京電報

▲大日本水産會（八日）

本日大日本水産會第五回總會を開く伏見總裁宮殿下は優渥なる令旨を賜ひ農相代理の訓示あり功績者二十二名に金牌の授與式あり後午餐を共にし三時散會せり

●農相一行來縣 △本日午後五時五十分着

大浦農相一行は屢々所報の如く愈々本日午後五時五十分奥羽線着列車にて來青の筈なるが右につき縣廳よりは小濱知事、市川警察部長、石塚保安課長本日午前八時三十分發大館驛まで出迎へに趣き一行に附隨して歸青すべし着青後の一行は豫定の如く同夜七時より開催さるべき公會堂の招待會に臨み鍵屋旅館一泊尚明日は午前八時縣廳に至り主として縣産業上の事柄を聴取し同九時縣會議事堂に於ける

▲實業功勞者表彰式 に臨まるべし而して同式場に於て當日功勞者として表彰せらるゝの光榮に浴する人は明治四十三年の推舉に係る農漁業家等總て三名にして縣下多數實業家及各官衙長等列席の中に賞状其他の授與あるべく終りに農相より實業家一同に對し現政府の實業方針に關する訓示ある筈なるが一行中の道家農務局長にも其際何等か演述するやも知れず次いで十時よ

り舉行の武徳會

▲演武場上棟式 に臨み大日本武徳會長として祝辭の朗讀をなし同所に止まる事約四十五分其れより

▲市中の巡視 に移り先づ新棧橋に至りて港灣状態を一見し尚青森築港に關する大体の説明を聞き七戸町種馬育成所より取寄せたる輕車を驅つて大林區署に赴き署長其他の案内にて署内及製材所を一巡し十二時歸館晝食を喫したる上午後一時十五分發列車にて八戸に向かふべし

▲八戸に於ける一行 は五時十三分着驛するや否や直ちに同地産馬事務所に至り既掲優良馬匹二十六頭を觀覽する事三十分自動車に乘じ鮫石田家に投じ即夜一行の爲め催さるゝ招待會に列し一泊翌十一日午前七時四十六分湊驛より乘車本縣を去りて

▲盛岡に向ふ 筈なるが八戸町にては八戸驛より乘車されたしとの希望を有する由なれば或は後者に變更さるゝやも計られず見送には前記知事警察部長等以外更に佐藤大林區署長も加はり三戸驛若しくは福岡驛まで同行する筈

大正三年七月十日

●農相一行來青

豫報の如く大浦農相は道家農務局長福嶋鑛務署長坂田秘書官を随伴し昨日午後一時四十五分秋田發列車にて來縣せるが途中大館驛まで出迎ひの小濱知事、佐藤大林區署長、川井運輸事務所長、市川警察部長其他鴨志田郵船社長外實業有志と同車し午後六時五十五分青森驛に着するや歩廊に出迎ひの官民百數十名に會積し直ちに鍵屋旅館に入り小憩の後七時より開催の公會堂官民合同歡迎會に臨めり

●實業家表彰式 △本縣功勞者三名

既報實業家功勞者表彰式は本日午前九時より縣廳内縣會議事堂に於て舉行せられ大浦農相臨場各官衙長及多數實業家を參列せしめ過ぐる明治四十三年の調査に係り其の後期を得ずして未だ表彰するに至らざりし本縣實業家三名即ち（農業）工藤善太郎、（漁業）河野榮藏、（畜産）野村治三郎の三名を表彰し賞品の授與をなすべしといふが賞品は曩に縣廳到着當時一見せるに箱の模様と重量より推察すれば銀杯なるらし終りて農相の實業家一同に對する訓示並びに道化農務局長の演説あるは所報の如くなるが尚他に往年表彰されたる實業家中の生存者工藤徹郎、長谷川藤次郎兩氏へ招待狀を發したるも中工藤氏は病氣中なれば出席せざるべく長谷川氏一名の出席を見るべしと

●鱈收穫高調

本年當灣内に於ける鱈漁は近年稀なる大豐漁にてありしが當地に於ける關野商店にて之が收穫高の調査を爲したる概略左の如くなりしと

大羽鱈粕平館五千石、野内二百五十石、今津百石、舟岡二百石、二ツ谷百石、深泊石濱中師百五十石、蟹田千石、蟹田油川間三百石、油川千八百五十石、青森千五百五十石、原別百石、久栗坂野内百五十石、土屋百石、土屋野邊地間千石、横濱より下北郡内海三千石、合計一萬石外に鮮魚塩魚にて賣行たる分約三千石の見當

●各地の漁況

五日の報告に係る下北郡下風呂及三戸郡郡内の漁況左の如し

▲下風呂 六月二十六日西南の和風小波晴れ二十七日東の疾風白波晴れ二十八日全上二十九日東南の和風小雨午後晴れ七月一日南西の強風晴れ二日南西の強風小雨三日南西強風晴れ柔魚二三百漁あり四日北東の和風雨午前晴れ柔魚の好漁あり五日柔魚大漁にて一人五六百宛の漁獲あり

▲鮫 六月二十六日鰈鱒そえ鯷鮑二十七日全上二十八日鰈柔魚鯷鱒あぶらめ二十九日全上外にそえ三十日鰈鯷あぶらめ、たなご、鮑かながしら柔魚七月一日鰈鯷鮑かながしら、あぶらめ鮪鮫二日鰈かながしら柔魚かじきの各少漁四日鰈柔魚大漁にて舟一隻につき八百より千位まで漁獲せり五日柔魚少漁あり

大正三年七月十一日

東京電報（十日）山田特派員特電

●大正博覧會本縣受賞者

金 牌（五点）

林 檜（紅玉）	南郡竹館	相 馬 貞 一
同 （國光）	南郡蔵館	菊 地 權左衛門
同 （同）	南郡石川	工 藤 東 吉
海 産 物（海參）	下北郡田名部	河 野 榮 蔵
同（海參、灰鮑、明鮑）	東郡油川	津 幡 文 長

銀 牌（二十一点）

林 檜（國光）	南郡町居	今 井 忠 吉
同 （紅玉）	北郡小阿彌	安 田 常 三
同 （同）	南郡蔵館	水 木 惣左衛門
同 （同）	中郡清水	阿 部 龜 吉
同 （同）	南郡	竹館林檜組合
同 （國光）	南郡竹館	山 口 福次郎
同 （同）	同	阿 部 市太郎
同 （柳玉）	南郡柏木町	赤 平 龜次郎
繭 （又昔）	上北郡七戸町	石 田 清次郎
同 （同）	同野邊地	若 山 竹次郎
海産物（貝柱）	同	中 立 商 會
同 （海參）	下北郡川内	田 澤 吉太郎
同 （鰯）	風間浦	川 島 福之助
同 （同）	同	能 渡 富 吉
同 （同）	大畑	濱 田 作太郎

同	(乾鮑)	大奥	南	徳次郎
同	(貝柱)	上北郡野邊地	山 根	吉三郎
木通蔓細工	(洋器、手提、花生、洋服入)	中郡大浦	古 川	喜太郎
同	(椅子、棚、菓子、ソーファ、花籠)	弘前市	弘盛株式會社	
同	(食器入)	青森市	加賀定助商店	
鑛物	(型銅、黒黄白鑛銅 牌 (二十六点))	下北郡川内	阿部城鑛山	
林	檜 (紅玉)	中郡岩木	三 上 除 進	
同	(同)	同清水	楠 美 冬次郎	
同	(紅玉)	同	工 藤 銀次郎	
同	(國光)	南郡竹館	田 中 利 作	
同	(國光)	同	相 馬 藤太郎	
同	(紅玉)	同柏木町	木 村 甚 吉	
同	(同)	同蔵館	藤 田 守 静	
同	(柳玉)	同尾崎	古 川 七兵衛	
繭	(又昔)	上北郡七戸町	石 田 幸次郎	
同	(同)	三本木	中 村 寛一郎	
同	(同)	同	土 屋 寛	
同	(同)	野邊地	濱 中 ト メ	
同	(同)	八戸	下斗米 謹 八	
海産物	(海參)	東郡蓬田	坂 本 義 徹	
同	(同)	田名部	中 島 清 助	
同	(同)	上北横濱	柏 谷 運次郎	
同	(貝柱)	下北川内	伊 藤 鶴太郎	
同	(鰯)	同 東通	西 山 元 吉	
同	(同)	同風間浦	能 登 嘉代吉	
同	(干鮑)	同 大奥	米 澤 善 吉	
同	(同)	同	小 林 孫 八	
同	(貝柱)	野邊地	杉 山 次 男	
漆器	(茶棚)	弘前市	三 上 平次郎	
同	(書棚)	同	齋 藤 熊五郎	
木通蔓細工	(鞆、手提、籠、テーラン)	中郡大浦	工 藤 太 郎	
同	(洋器入、菓子入、鞆、テ)	中郡大浦	熊 島 組 合	

ーラン、鰐、脇下、椅子)

林檎 (國光) 南郡蔵館 福田泰吉
陳列棚裝飾振 青森縣

外に褒状五十五点の内林檎十四、繭二十二、海産物十二、鑛物一、漆器二、木通蔓細工三總計百九点なり

●車中の大浦農相

記者は大浦農相一行を迎ふべく一昨日午後二時十分青森發の列車に投じた、車中には農相の旅館たる「かぎや」の主人三浦氏も居った、矢張出迎の為めだといって居る、大鰐に着いたのは四時五分で一行の乗られた下りには未だ一時間半ばかりある、煤煙の為め黒ずんだ顔や手を洗ふべく一浴のため「加賀助」に休む、少し早いが入浴の後夕食をしたゝめる、とやがて時間となる▲停車場に赴く松森縣議が見へられて居る、政友會大會後東京に滞京中なりしが此の日歸青の途だという、列車は五分遅れて着した農相一行のは最後尾に特に連結せられた一二等車である、大浦氏は車窓から顔を出して村長以下出迎はれた人々に會積しつゝあつた▲兎に角二等車に飛び込むと

市川警察部長、川井運輸事務所長、鴨志田郵船社長、近森部長、石塚保安課長等がヤアヤアと聲かけられたが他に知らぬ警察部長と背広やらモーニングやらの若い人が居る、後で聞けば警察部長は秋田の川上さんで若い人達は大臣隨行の属なさうな▲汽笛一聲汽車は發車した、と若い一人の属官に記者の名刺を通じて大浦氏に會見を求めた、坂田秘書官をして直ちに會見を快諾せられたから直ぐ一等室に赴くと大浦大臣には白っぽい霜降りのモーニングを着けゆるやかに座し何やら書き物を見て居られたるが記者が此の前に面接した時よりは肥大し如何にも壮健さうに見受けらるゝ、秋田の新聞で見ると胃腸を害せられたとあつたが如何ですと慰問するに「何アに大丈夫です」と微笑せらるゝ、室には小濱知事、佐藤大林區署長、道家農務局長、坂田秘書官の外に肥大した紳士が居た、これなん小坂鑛山所長木村陽二氏であつた、坂本秋田縣知事は大鰐まで送られた、△大浦農相は先づ記者の出迎を謝する旨述べられ次いで現今に於ける青森縣の大問題は何であるかと問はるゝ、記者は第一青森の築港、第二岩木川の治水、第三鐵道の速成である、鐵道は大湊鐵道、津輕鐵道及南部鐵道であると答へ小濱知事、佐藤大林區署長又熱心に其の必要を地理的關係、海陸連絡、物資集散等の關係より説明する、農相亦熱心に聴取せしがそれに對する意見がましきことはいはぬ、鑛山、林業、漁業等に就ても質問せられたが昨年の凶作より本年の作柄には特に注意を拂ふて聞かれてあつた、斯かる間に弘前に着く△弘前驛には佐田助役(長尾市長は出青不在)初め市の名譽職、各官衙長等出迎はれ名刺を出して引取る、川部にて近森部長が下車し浪岡にては阿部前代議士村の有志十數人を引連れて歡迎してあつた、小濱知事は昨年の凶作の中心点は此の附近なりと説明するや車窓より顔を出されて青々たる田の面を見られ本年は豊作疑ひなかるべしと又も微笑さるゝ△大釈迦よりは例の中島武兵、岸太、長内某其他同志會連中ドヤドヤ這いつて來たが此の時阿部城鑛山の龍野周一郎氏一抱の書類を持込み阿部城鑛山を説明する處熱心、農相小濱知事等鳩首して繪圖面を觀て居るに依り只だ名刺を出したるまゝに引込む、新城よりは工藤市長門田署長も共に全車す

る△斯くて青森に着いたのは午後六時五十五分（一記者）

東京電報（十日）

●大正博授與式

本日大正博覽會褒賞授與式を行ふ閑院總裁宮殿下御臨場出品人來賓一萬餘名名譽大賞牌以下金銀銅牌等數千に授與し終つて首相農相文相の祝辭代讀府縣總代西久保北海道長官坂谷東京市長其他の祝辭出品人總代の答辭ありて式後盛んなる立食饗應ありし（本縣の受賞者は第一面に掲ぐ）

●來青せる大浦農相

▲縣廳に於ける農相 昨日午前八時旅館を立出でたる大浦農相一行は豫定の如く直ちに縣廳に赴き長官室に小懇の上高等官並びに判任官一同を集め大体一昨夜公會堂に於て述べたと同様の事を約三十分に涉り説述し且つ今後の産業方針について訓示を與へ其より豫てしつらひ置ける諸種統計を一覽知事及内務部長の説明を聴取し室内に陳列せる縣立工業學校生徒の作品（漆器、織物、蔓細工、木工其他）一見の上第二鈴の鳴り響くを相圖に縣會議事堂に舉行さるべき縣實業功勞者表彰式に臨めり

▲實業功勞者表彰式 は午前九時より縣會議事堂に開かれたるが市内各官衙長縣立各學校長及縣下多數實業家の參列あり大浦農相小濱知事に導かれて入場するや岩井内務部長は舉式の旨を具申し次いで小濱知事は本縣に於て既に表彰せられ藍綬章若しくは綠綬章を授與せらるゝの光榮に浴したるは

工藤轍郎、津田永佐久、長谷川藤次郎、横濱正蔵、菊地彌左衛門、田島勘七の六氏なるが中三名は曩に物故し今現に生存せるは工藤、津田、長谷川の三氏のみなり而して今回農商務省大臣閣下の巡視せらるゝを機とし表彰すべきは野村、工藤、河野の三氏なりとて三氏表彰の理由大略別項の如く述べられたり其より大浦農相は三氏に對し賞狀に添へ銀盃を授與して將來の努力を望み左の如き告示を述べ

本日此の光榮ある式場に於て縣實業家の歴々たる多數諸君と一同に會するを得たるは本官の極めて欣幸とする處なり諸君は各數百千の民衆を指導する力を有するのものなるを信ずるが故に諸君に切望す縣産業上の問題については諸君宜しく知事と一致の力を以て其の發達改良に努力し縣の爲め將又國家の爲め世界列強國の間に介在して一等國たるに恥じざるべき國富の基を開かれんことを尚本官の産業上に對する意見は昨夜公會堂に於て述べたる如くなるが本日會同の諸君中同席にて愚廳を煩らはしたる向も尠なからざる模様なれば茲には煩を避け其の詳細を盡さず一言以て告辭に代へたるのみ

終りて小濱知事は左記祝辭を工藤善太郎氏は答辭を交々朗讀し閉會したるは十時三十分頃なりし

祝 辭

農商務省大臣大浦子爵閣下國務忙匆の身を以て遠く本縣に臨まれ茲に親しく實業功勞者諸子を表彰せらる諸子の光榮何ものか之に加へん是當に諸子の光榮なるのみならず亦本縣實業界の榮譽として誠に感激に堪へざる處なり

惟ふに殖産興業の事たる國運消長の繫する處今や宇内の大勢は國力の充實を要する極めて切實なるものあり政府に於て特に實業家を薦奨し以て斯業を奨勵し其の進歩發達を要望する處以て蓋し之が為ならずんば諸子は永く本日の榮譽を記念とし益々奮勵努力範を示し衆を率ひ本縣産業の振興を圖り以て國家の期待に答ふるは當に其の責務なりと信ず

聊か蕪辭を陳べ以て祝辭に代ふ

大正三年七月十日

青森縣知事正五位勳四等 小濱松次郎

答 辭

本日實業功勞者を表彰せられ大臣閣下親しく銀杯授與の式を舉行せらるゝに當り不肖等僉つて其の選を受け且懇篤なる訓示を賜はる光榮何ものか之に如かんや不肖等素より實業界に寸効のあるなく唯僅かに行ふべきを行ひたるに過ぎず今や此の光榮を荷ふ慚愧に堪へず將來益々業務に精勵し誠意誠心斯業の爲めに盡瘁し以て本日の光榮を傷けざらんことを期す茲に恭しく答辭を陳ぶ

大正三年七月十日

受賞者惣代 工藤善太郎

▲實業家の農相招待會 過般代表的實業家として大浦農相の招待を受けたる本縣實業代表家河野鳴海芹川田中廣澤の諸氏は昨日大浦農相の市内巡視を終たる後金森に招待し午餐を饗したるが主賓大浦農相以下一行と陪賓として小濱知事岩井内務部長市川警察部長大賀理事官等参列し三十分餘談話を交換して停車場に赴かれたり

▲旅館に於ける農相 大浦農相は昨朝七時より鍵屋旅館に於て有志の訪問に接したるが寺井前代議士等亦前日來頻りに勧誘斡旋に努めつゝありしが如し大浦農相には訪問の人々に對しては宜しくとの簡單なる一語ありしのみありと

▲八戸に向ふ 金森樓に於ける午餐會を済ましたる後農相一行は直ちに停車場に趣き午後一時十五分發の列車にて八戸に赴けり農相は白のヘルメット帽子にオーバーコートを着し坂田秘書官と共に特に連繫せる一等車に乗り小濱知事市川警察部長は八戸まで随伴し工藤市長も同車して途中まで見送り別室には工藤代議士奈須川八戸町長中嶋縣會議員大芦梧樓氏等同車して八戸迄赴く停車場迄見送りは寺井前代議士廣谷河野の兩縣會議員等の民間側及岩井内務部長大賀三浦兩理事官を始め縣廳高等官一同佐藤署長始め大林區署高等官一同にして約五十名の人數なりき

●農相歡迎會

豫報の如く九日午後八時本市公會堂に於て大浦農相一行の歡迎會開催されたり當日の來會者は市内の官公衙長高等官代議士縣市會議員郡部の政客實業家重立有志等二百餘名にして二列に於ける食卓を囲みたるが大浦農相は工藤市長の先導にて入場正面の食卓に就き道家農務局長を左に宇野貴族院議員工藤代議士金子檢事正佐々木帝室林野管理支廳長又た坂田秘書官を右に佐藤大林區署長岩井内務部長百島地方裁判所長工藤市長北山縣會議長等何れも主賓席に居並びたり廳て工藤市長は場の中央に進み左の如く歡迎演説を試みたり

農商務省大臣閣下には常に東北各縣の振興につき御高配せらるゝは感謝措く能はざる處此の度は炎天の候をも嫌はせられず東北諸縣實業視察として御巡回の途次來縣せられ今夕御着匆々定めし御疲労なるべきに拘らず臨場せられたるは一同の衷心感佩する處也 申すまでもなく國家の隆盛國力の充實を期せんには實業の發展に俟つことを要すと確信す政府に於ては もちろん特に閣下にはこのことに留意され過般全國實業家招待の席上懇篤なる訓示を賜はり今回は又本縣御視察に際し地方實業家を引見優待せらるゝと聞く處寔に感激の至りに堪えず由來本縣の實業家は閣下御承知の如く何分土地の東北に僻在し交通の不便なる為めと申さんか他の府縣に比し其の發展の度遅々として進まざるは寔に憾みとする處特に工業の如きにありては最も然りとす昨年は數十年來に見る處の凶作にして是等實業の發達を阻害すること實に夥しかりき右に就きては政府は特に憐察を垂れ諸般の救濟的施設ありしは茲に更めて感謝の義務ありと信ず而して凶作の影響は今後に於て寒心すべきもあるや必せり本縣の實業進まざるは其れだけ進歩の餘地ありと觀ずべきが如く凶作に依る打撃の大なりしだけ其れだけ實業の進歩を阻害せしや大なるとせざる可からず未だ開拓せられざる材料は豊富にして而かも人口は年々繁殖しつゝあり今後適當の勸奨を加ふるに於ては後日の大成期して俟つべく強ち悲觀すべき程度に非ずと信ず即ち縣民の自彊自奮を要すべきは勿論なるも又政府の指導誘掖を必要とせずばあらず特に閣下の高配あらんことを懇願する處なり、今夕の催しに臨場せられたるは一同の感謝措かざる處而して場合柄にもあり且つは閣下平生の御趣旨に基き席上としては何等の設けなきも吾等の微衷を諒とせられ緩々御高見を披瀝せられんことを終りに臨み閣下の御健康を祈る一言を以て歡迎の辭となす

次に大浦農相は場の中央に起立し大要左の如く演述したり

満堂の諸君、今夕は當縣四方の有力なる方々に斯くも大多數來集せられたるは感謝する處なり私は此の度實は秋田縣の黒川に石油坑の發見されたるに依り其の場所に就き見聞せんとし序でを以て奥羽の實業視察の途中今夕到着計らずも懇篤なる招待を受け感佩とする處なり茲に幸ひ諸君と御目にかゝりしを機とし産業上に於ける愚見を陳し参考とせんとす、凡そ物には一定の方針を必要とす特に産業上には就中一定の方針なきに於ては恰も大海に舟を浮ぶるが如くにして政變ある毎に地方長官の更迭を見其の度毎に産業上の方針變るあらば其の歸向する處を知らず縣民の不幸之より甚だしきはなからん帝國と雖も又一定の方針を必要とす帝國の産業方針は素より充分に研究するを要するは其れだけ大なる關係あるが故なり四十年の議會に於ては衆議院は生産調査會の設置を政府に建議し四十一年予は農商務省に職に就きて四十三年に其の設立を見たりそは實業家學者貴衆兩院議員八十名を網羅して事を行ひ之を以て全國の生産方針を定め議會に諮り着々實施せるもの少からず外國貿易等にも實施したる事二三に止まらず然るに昨年政府が行財政整理の際に此の會を廢止したるを以て甚だ遺憾なるも仕方なし而して其の他の方法を考究せざるべからず又地方地方の方針は如何といふに十四年の十月地方官會議に際して各縣に之が設置方を府縣長官に協議したるが追々縣下の有力者とも諮りて現今之が設置を見たるは二十八九縣に達せり今將に研究中の府縣もあり本年の會議にも此の事を論じ夫々調査中なるあり而して國論定まるに於ては其の方針を遂行し得ん

如何となれば有力の人々の協議の上に定めたる方針なれば之を容易に變更すを得ざればなり今青森縣に於て一縣の不慮の災害に遭ふと雖も其の生産力は約三千四百萬圓其の内最も大なるは米なり而かも十年前の出來方は七十六萬石今日は八十六七萬十年前に比せば十萬石の増加なり其他或は水産に或は工産に種々増加し前述の三千四百餘萬の力となり居れるなり此後十年を期とし今より主要物産の増加に向けて官民共同一致の力を以て進まば十年先には六千萬圓にするには其の方法を定めて進まんには必ず目的を達し得んなり帝國の生産力は十年前に於て十四億なりしが今日は三十四億而して外國貿易も十三億に達せり之一見大なるが如きも決して然らず之を歐米各國に比せば到底談ずるに足らず今や日露戦捷餘威を以て世界の伴に位し一等国となり甚だ立派なるに似たるも之全く腕力を以て一等国となりしなり即一に陛下の御稜威を以て武力にて之を口ち得たるのみ而して富の低きは尚大いに考ふべし例へば軍艦にしる今日は四萬噸の軍艦を浮ぶる潜航艇の如きも一千噸以上の者は等はいづれも大金を費やさざる可からず今吾國に於ても彼は大なる軍艦を持てるに我は小にして當るに足らず生産力の如きも彼の大きなるに及ばず彼と對抗せんには尚未だ數十歩の後にあり伊太利の如き世界の貧乏國も尚二十六億其他英佛米獨に比せば英の如きは百五十億是故に世界の一等国の仲間には未だ未だ追ひ付く能はず之を暫く措くとするも三等國位と比肩せざるを得ざるは心外なり予は嘗て欧州巡遊の途匈加利國に赴きて農事上の視察を遂げたり其の農具の改良を見んとし田舎の水呑百姓の最も小なるを尋ね廻りしが青森縣は馬の名産地なりと聞くも彼の國は人口は二千萬にして馬は六百萬頭牛は四千萬頭にして人口の二倍なり此の小農國にして斯の如し日本は馬が百五十萬牛は百三十萬實は日本の牛馬數を問れんことを私かに憂ひたりしが實に遺憾に堪えず以上叙述する處の如く如何にもして發展を計らざれば前途憂ふべきものありと信ず而して獨國等の農業或は自治制の仕事の状況を聞くに自治体は一村又は一縣に於ては各政黨派の外に立ち一村一縣の富力を増進するに協力す而して中央に出でては大勢に就きて論議す日本はこの点に於て大に變り凡て政黨上の争いを為す主義政見を以て争はんか一村一縣の自治の發達は不可能なり衆議院に於て感心するは實業上には決して政黨派の争なきことなり例へば耕地整理の法律其他實業の問題は争議がない夫れが地方に來ては小なることも實業上の事を争ふ或は個人の感情に對する争ひ是は百弊ありて一利なきものなり或る縣の例なるが縣債を起して天然港に輕便鐵道を引き何百萬圓かの金を以て築港し電車を引けるが一向乗客なく結局共倒れとなれり之甚だしき悪弊ならずや斯の如く政黨派の争が此の間に立ち入るは國家の為め憂慮すべきこと、信ず而して一般の事に官民一致して國家の富力を増進するに努力せんには必ずしも彼の歐米と富力を以て對抗出來ずといふことなし明治二十四年の頃露國皇太子の遭難事變のありし際露國が長州に軍艦を派して兵員を送り軍容堂々今にも京都に攻め入るとの巷説は當時盛んに流布されしことあり予も其時京都に赴きしに其の評判は露國は強大にして日本なぞ一潰しになるべしなど大騒ぎなりしが其後日清戦争の結果三國干涉となり其儘骨髓に徹し舉國發奮して桔据經營の結果遂に日本海戦に於て彼の艦隊を全滅し陸戦に於てもクロパトキン將軍の大敗となりさしもに往時敵し難しと恐怖せる大敵に捷ち得たるに非ずや此心を以て國民一致發奮激勵産業新興に努力するに於ては彼の富力に

勝つは最と易しと信ず即ち一縣一村其の方針を定め富國の道を計らざる可からず方針無くして進むも彼に打ち勝つは不可能なり諸君今日は議論の世にあらずして實行の世なり空理空論は不可也道德を尊重し堅固に進まざれば不可也諸君が國民を堅實に發達せしむるに公衆を誘掖せば必ずや成功せん願くば充分に邦家の為め努力あらんことを望む

斯くて食堂を開き献酬暫し織るが如く重なる人々には席を立ちて農相に接見交談するも見わたりしが臆て一行の退場に次いで會衆思々に退場全く散會したるは十時なりき

●實業三功勞者 ▲昨日表彰されたる

下北郡田名部町大字田名部二百四番戸 平民 海産商

河野榮藏（慶応三年生）

一、幼より海産業の志あり二十才にして海産商となり漁獲物販路擴張に盡す處ありて衆に囑望せらる明治四十年合名會社安野崎商店を創設して海産製造物を諸國上海、香港等に輸出し其の額年々三十萬圓以上に及べり而して其の主なるものは昆布、石花菜、海參、干鮑、鯛、貝柱、魚粕等にして其の改良に盡瘁したる結果厚く諸國商人の信用を博するに至れり

一、今より十數年前に在りては本縣沿岸の漁業家にして鮪大謀網なるものを使用するものなかりしが氏は二十九年中下北郡東通村大字尻勞に此網を敷設したるを嚆矢とする處なるが不幸にして大時化に遭遇し折角の起業も全く水泡に歸したり然れども氏は百折不撓翌三十年再び大畑村大字大畑佐助川と前記尻勞との二カ所に該網を敷設したるに果然良結果を得て一漁期に五千餘圓を利するに至れり之より以降鮪大謀網を使用するもの陸續として東北全沿岸に勃興せり

一、氏は又冷蔵船の必要を認め同志者を糾合して會社を組織し（資本金五萬圓）之が所要の船舶を構造方平野工場に契約せり

一、明治三十三年陸奥灣汽船株式會社の創立に際しては進んで株式の募集に應じ極力之が成立に盡力したるも爾來社業甚だ振はず頽勢に傾きたるの時之が挽恢の為め其の社長に擧げられたり氏亦窃に心算あり五萬圓の増資を斷行し同時に福榮丸（六〇噸）を廃し新に陸奥灣丸（一四四噸）東北丸（五六噸）の二船を設備し進んで南部丸（八九噸）を増設せり果然氏の心算に適し今や三汽船を以て青森大湊間及大湊野邊地間を毎日定期に航海し且津輕海峡沿岸の最も交通不便なる地方に對しては特に便宜を計らんが為め一隻の汽船をして該地の航海を劃策し遂に海運交通に至大の便宜を與へつゝあるのみならず内灣航路に就ては通信省の命を奉じて郵便物を搭載し通信速達の便を奉じつゝあり

一、下北郡に於て金融機關の欠如せるを憾みとし二十九年有志の志を會して銀行創設の計劃を計り且自ら奔走して株式の募集に努め以て株式會社下北郡貯蓄銀行（資本金五萬圓）を創設するに至れり又同郡には植林の有望なるを認むるや進んで其の事業に着し三十一年以來佐井、田名部、川内の各地に凡そ五十町歩の地積を求めて年々殖栽を為し其の數今や十萬本に達せり然して氏の殖林に志する急激の施設を避け漸く進んで其の數を増加せるを以て能く失敗の難を免れ地方の模範となりて大に殖林思想を啓發せり

之を要するに氏は幼より實業家に志し二十年の長年月赤誠以て事に當たり能く衆を勵まし事業の發達を計り公益に資し衆庶の模範となりて地方の信望を担ふるに至る其の功勞尠しとせず

上北郡野邊地町大字野邊地百二十三番地 平民 商

野 村 治三郎（明治十年十月二十八日生）

（省略）

南津軽郡大杉村大字長沼 平民 農

工 藤 善太郎（万延元年度生）

（省略）

大正三年七月十四日

●来たれ下北半島へ（上） 夏季旅行の最適地

○避暑と稱へて俗悪なる温泉地などに汗の臭ひを嗅ぎに行くとか、修學旅行と唱へて繁華を都市に出没し淫靡な風に染まるなどは、餘り結構なことではない否大いに擯斥すべきことである

○振衣千仞岡・大丈夫不可無此氣節、又いふ讀萬卷之書・行萬里之道と今や此の意気を養ひ將た之を實驗すべきの時期である、而してそれに最も好適地がある

○マア一寸地図を展いて見よ、本州の盡頭恰も雌鹿が首を伸ばしたやうな北奥の半島即ち此處、その外形が頗る奇妙に出來てる如く又その内容も尋常一様ではない

○鐵道が通ふてないからイケない、船に乗るのが嫌だなどいふ意気地なしはドダイお話にならないが、剛健有為の人士・・・少なくとも青森縣の學生諸君・・・には是非此の半島に足を入れんことを勧誘する

○世の中に喰はず嫌ひといふのがある、來て見もしないで、ヤレ辺鄙である、未開である、見る處も何もなからうで蔑視されてはこまる、實際來て見るとそれはそれは意外によい處なのに驚くだらう

○といて世間でいう繁華であるとか壯麗であるとかハイカラであるとかいふ意味ではない、此の地にある天然の勝景、無二の奇蹟、特殊の施設、大規模の産業等他の地方で容易に觀られないものは澤山あるからだ

○先づ北門鎖鑰の要港部にして將來の開港場たるべき大湊港曰く恐山曰く尻屋の燈臺、岩屋の洞窟、大間の辯天嶋、仏ヶ崎の絶景、九艘泊、脇野澤の景勝、下風呂、薬研、湯ノ川の温泉それから産業では阿部城の鑛山、大畑以北の漁業、近川、宿野部、角遼、大口の開墾地等十指を屈するも尚ほ餘りある

○半島の旅行には馬車とか人力とかいふ贅はいはれない七寸の草鞋、親譲りの自動車でなくてはならぬ、此の非現代的なのは取柄なので海に山に野に原に其の自然美に接觸するところ實に多大の感興がある

○或は太平洋の潮流に足を濯ひ或は恐山全中に仏法僧の聲を聞き或は耶馬溪に勝るてふ仏ヶ崎の勝景を探り或は薬研の仙境に入り靈泉に浴するときは何人も身は塵寰の外にあるを覚ゆるであらう

○又阿部城鑛山に行きてはその壮大なる斯業を見、北海岸に出でゝは漁火天に連なる柔魚釣の夜景を見、大畑、川内若しくは中野澤に於て蒨藨たる山林を見る時は如何に半島富源の豊饒なるに驚くであらう（塩子）

大正三年七月十五日

●來たれ下北半島へ（下） 夏季旅行の最適地

○半島の旅行は單調ではない、平凡でない、歩一步目先が変わつて境遇の移るに随ひ景趣を異にしてゐる、行路難なるだけそれだけ又興味が深い、而かも耳目を喜ばするばかりでなく皆研究的觀察の價値がある従つて多方面の智識を得らるゝ

○故に學生は勿論、農、漁、鑛、商或は文人墨客各々それ専門の職業の上に必ずや得る處大なるものあるを保證する

○半島は至る處結構なる旅館が在る、生きた魚に飽かれる上に其の宿料は低廉い、加ふるに人情質朴で人を遇すること極めて親切である、會うもの觸れるもの、盡く耳目口鼻を驚かすに足るのである、マア騙されたと思つて來て見たまへ

○而して遍く半島の旅行を遂げんと欲せば日數約十日、費用概ね十金を要する但し其の一部若しくは半ばを見るのは固より随意にして又陸奥汽船會社は此の時期に於ける半島の視察觀光客に對し特別待遇の舉あるべきを以て多少の費用を軽減し得らるゝであらう

○終わりに半島の旅館と里程を紹介しやう

△大湊 菊池、佐渡屋 △田名部 山理、鍵本 △恐山 寺院 △尻屋 青柳、三餘會俱樂部 △小田野澤 福島 △大畑 槇、中西 △葉研 隣仙閣 △下風呂 丸本、角長 △大間 佐々木、阿部 △佐井 三上、樋口 △湯ノ川 岡本 △川内 西堀、大場 △脇野澤 松屋

是等は其のおもなるもので通常宿料は金五十錢乃至八十錢お茶代を置かないからとて無愛想はしない

△自田名部至尻屋△自尻屋至小田野澤△自小田野澤至田名部△自田名部至下風呂△自下風呂至佐井△自佐井至川内△自川内至九艘泊

以上大抵五里乃至八里で一日の路程としては樂に歩ける

○一寸下北の三福對を紹介しやう 人物では河野榮藏、永井菊藏、若山季藏下北郡の三藏といつて幕末の三藏に擬へたもの、次に尻屋、大間、脇野澤は三方の極點に在つて景勝の地を占めておるのは下北郡の三景といつてよい、それから港灣では大湊、大間、佐井、鑛山では阿部城、大正、大瀧、學校では田名部、川内、奥戸、海産物では鰯、鮑、鮪・・・マアこんなものである

○一高等官曰く下北郡には四ツの病が在る、鑛山の煙毒と海藻の磯焼にそれからうるさがる病に姑息病である、前の二つは局部の外科治療を要し後の二つは殆ど慢性的で之が為めに副業も興らず萬事改良進歩といふことが無い之には内科療法を施さねばならぬ此の四病は實際半島の死活に關するものだから冗談じゃない

大正三年七月二十二日

●大畑たより

○水産試験分場

今回大畑村字湯坂下に建設されたる青森縣水産試験場は去る五月十日工を起こし約二カ月に落成せり本校舎及附属舎の二棟にして總建坪九十六坪なり本校舎は矩形にして教場實習室及當直室に分かる附属舎は船具の置場及水夫の起臥所にして外に釜場あり規模小なるも用材の優良にして堅牢なる稀に見る建物なり二十三日午前十時より落成式舉行の筈にして小濱知事縣參事其他要港部司令官等多數の來賓ある由

大正三年七月二十八日

●名譽の金牌 東津輕郡油川 津 幡 文 長 安政二年十月生

大正博覽會にて海産物にて金牌を授與されし全氏は祖先より海産物商を營み來たりしが明治十年より専ら外國貿易に従事し傍ら専用漁業定置漁業を兼ね且北海道松前郡並びに本縣下北郡、西津輕郡及東津輕郡等に水産物製造所を設置し就中貿易品たる海參、灰鮑、明鮑、海扇貝柱等の製造は從來甚だ粗造品なりしを漸次改良を加へ今や自ら各博覽會又は共進會等に出品して毎に一二等の優賞を受くるに至れり殊に本縣西津輕沿海に於て採取する鮑は元來生きて販賣するのみなりしを氏が製造開始以來全沿海産は今や悉く製造せられて輸出品となれり又東郡三厩村並に下北郡等に於て漁撈する槍烏賊の如きも氏が最初乾鰯に製造したる以來大いに多額の産出を見るに至れり殊に下北郡に於て冬期漁獲する鱈頭の如きは從來悉く投棄したる物なるを氏之を乾燥して肥料となすの利益あるを論したるより是亦多額の肥料を製造するに至れり尚本縣沿海に産する恵胡草の如きも從來三厩村近傍のみにて採取するのみなりしも氏率先して西津輕郡沿海に採取の勧誘したる以來現今の産額は約十萬圓餘となり又沖石花菜も元は販路狭小なりしを之を各地に紹介したる結果數萬圓の産出を見るに至れり

一、明治二十一年五月二十日石巻聯合共進會にて乾鮑に對し四等賞金五圓授與

一、二十一年十月二十七日東郡共進會に於て乾鮑に對し三等賞

一、二十二年十一月十日日本縣共進會に於て海盤車滓に對し四等賞

一、二十九年十一月一日東郡品評會にて海參海扇貝柱に對し一等賞

一、三十年五月二十日岩手縣主催奥羽六縣聯合共進會に於て灰鮑に對し二等賞銀牌

一、三十年十一月十二日神戸市開催第二回水産博覽會に於て海參に對し有功二等賞銀牌

一、三十二年五月十日日本縣主催奥羽六縣共進會にて海參に對し二等賞銀牌

一、三十四年五月十日山形縣主催奥羽六縣共進會にて海參に對し一等賞金牌

一、三十六年七月一日大阪市開催第五回内國勸業博覽會に於て明鮑灰鮑に對し二等賞銀牌、海參に對し二等賞、海扇貝柱に對し二等賞、鱧鰭に對し三等賞

一、三十六年十一月十日第二十回津輕物産品評會にて灰鮑に對し一等賞

一、三十九年五月二十九日秋田縣主催奥羽五縣共進會にて海參、灰鮑、明鮑に對し二等賞銀牌

- 一、三十九年三月二十八日本縣郡市聯合品評會にて明鮑、灰鮑に對し二等賞
- 一、三十九年一月十四日横浜市開催大日本記念水産共進會にて灰鮑に對し名譽賞金牌
- 一、四十年七月六日東京勸業博覽會に於て灰鮑、海參に對し記念一等賞銀牌
- 一、四十一年五月十日福島縣主催六縣聯合共進會にて明鮑、海參に對し一等賞金牌
- 一、四十一年十一月十日名古屋市主催第五回内國物産品評會にて明鮑、海參に對し進歩銅牌
- 一、四十一年十一月十四日第三回東郡物産批評會にて海産物特等賞木杯一組
- 一、四十二年十一月第四回東郡批評會にて乾鮑、海參に對し功勞一等賞
- 一、四十三年十一月十日群馬縣主催一府十四縣聯合共進會にて農商務大臣より意を水産物の製造に注ぎ製法を改良して之が販路の擴張を圖り斯業に盡瘁したる功績稱揚すべしとの表彰並に銀牌を授與せらる

大正三年七月三十日

●下北漁民憂色 △海産の凶作漸く甚だし △中村本縣技師の調査

下北郡北通諸村は魚介海藻を以て主産物とし就中海蘿石花菜及び鮑の如きは海外輸出品として重要な地位を占つゝあるが右諸村のうち下風呂易國間蛇浦の沿海數里に亘り沖合約二十町乃至三十町に及びて海底の岩石に異状を呈し下風呂の如きは數年以前より此の状を現出しあり漸次西進して蛇浦に於ては昨年初めて之を見るに至りし由なるが右の異常といふは海藻及び介類の附着すべき唯一の住家とも云ひ得る岩石は漸次淡紅色を増し海藻の附着を不能に歸せしむるに至るものなれば為めに是等の産額減少し漁民は大恐慌を來たしつゝあり

▲原因と善後策 右に就き今回小濱知事に隨行視察中の中村水産技師は武士郡長廣谷縣會議員其他漁業者より一應の状況を聴取し下風呂より漁船を艤して沿海の海底を調査したるに實に意想外の被害なるを認めたる由にして其の原因に就きては未だ調査を要するものあるが故に言明し能はざるも主として潮流の影響と水源林亂伐の為めに生ずる激度の出水に依るものゝ如く被害程度は下風呂を以て最とし漸次西方に進むに従ひて其の程度薄きも尚ほ蔓延の虞なきにあらざる頗る寒心に堪へざるが目下の處には之が救濟策なき次第なれば何れ歸廳の上慎重に調査を重ね海中の凶作を除き漁民の憂を絶つべしといふが小濱知事にも漁民の歎願を聴取して大いに顧慮され善後策を講ずべしといへり

●知事一行歸廳 △阿部城鑛山の視察

既報の如く小濱知事の一行は至る處の歓迎を受け二十六日佐井村の視察を遂げ下風呂に道行一泊翌日再び馬車を驅り大湊に赴きて非公式に上村司令官を訪問一泊翌二十八日全地出發武士郡長河野縣會議員及び出迎ひの阿部城鑛山龍野周一郎氏等先道し正午川内村長以下の出迎ひを受けて全村季富館に入り少憩全地有志の催しにかゝる歓迎午餐會に臨みたるが谷山村長の試みたる歓迎演說に對し小濱知事謝辞を述べる所あり午後二時阿部城鑛山より出迎ひのトロ馬車にて同山倉庫を出起し全三時着山少憩中高橋工學士（採鑛係長技師）も説明せる全山概況を聴取し夫れより直ちに龍野氏及び保田所長代理先道坑道にて採掘、土工、ボーリング、又は爆發の状況を視察し次に選鉱場熔鑛爐、通風動力及び各作業の實況を巡視分析所又は工夫雜夫等の住

家に臨む等約一時間半に亘りて全く巡察を遂げ午後六時より同山の催しにかゝる慰労をかねたる歓迎会に臨みしが山海の珍味を盛れる配膳終はるや龍野氏は同山の沿革より説き其の執り來れる方針經營振りより川内村との關係煙害に關すること等に付詳密を極めたる演術を為したり全山三百五十餘戸軒々國旗球燈を掲げ緑門を飾り宴會場なる貴賓館附近には篝火を揚げ男女老幼は出盛りて賑々しさを加へたり斯くて一行は翌二十八日午前八時同山幹部の見送りを受けてトロ馬車に乗し下山直ちに出迎ひの大湊丸にて海路青森に向け出發したり（二十九日川内發）

大正三年八月二日

●漁民の恐慌 下北郡水産界の一問題

○下北郡に於ては、近年魚介海藻類の漸次薄漁に赴き、地方漁民の恐慌一方ならざること、曾つて本紙上に既報したる所なるが、今回小濱知事の同郡巡視に際して、此の事亦問題となり、一行中の中村技師は、親しく調査する所ありしといふ、而して其の原因として傳ふる所の、潮流の關係と森林荒廢の影響にありといふは事實なるべく、中にも森林の荒廢と大なる關係あること疑ふべからざるが如し

○魚介海藻と森林と密接の關係あることは、更めて言ふまでもなき所なるが、由來森林國として有名なる下北郡が、同時に本縣の水産地として、縣内に重きを置かれ、現に今回水産試験場分場の新設を見るに至りたるにも知らるゝ次第なるが、斯く縣の寶庫ともいふべき下北郡の水産は、近年に至りて薄漁凶荒の状を呈し、漁民をして憂愁措く能はざるに至らしめつゝあるもの、近年全郡の森林が、如何に荒廢に傾きつゝあるかを知るに於ては、何人も首肯せざるを得ざるべし、而して、若しも現時の情勢より推すときは、森林は益々荒廢一方に傾くべく、従つて水産の凶荒は益激甚を加ふるに至るべし

○海産物の薄漁凶荒を救濟するには、何れ森林の荒廢を防ぎ、其の増殖を計ること必要なるべきが、知らず如何の方法を以て、之を所期し得べきか、森林の荒廢は、無論亂伐に基因すべしと雖も、予輩の聞知する處によれば、亂伐以外に近年鉦業の勃興と共に、其の毒害の爲めに、自然に森林の荒廢を招致しつゝあるが如く、從來に於ては、未だ現著ならざるも、年と共に瀰蔓し、將來に於ては、恐るべき影響を及ぼすに至るべく、今日の水産恐慌地方に關係ある森林の荒廢は、果たして直接に鉦業の影響を受けつゝあるや否やは予輩の知らざる處、よし關係なしとするも今後に於て、鉦毒の影響は、其の被害區域を更に益々増大せしめ、愈々水産業を荒廢せしめずんば止まざるべきなり

○予輩は、縣當局者調査の結果、如何なる方法によりて、之が救濟に關する最善の方法を盡くすべきかを知らず、然とも全郡鉦業の勃興に伴ひて、更に森林の荒廢は、避くべからずとせんには、全郡の水産に對して、其れ丈の打撃を餘儀なくするを覺悟せざるべからざることならんか、予輩は當局者、地方の有志者、特に此の點に留意して、適當の方法に出でんことを望まざんばあらず（孤杖）

●鮫沖合の捕鯨

東洋捕鯨會社の三戸郡鮫沖合に於ける捕鯨數は七月中三十三頭にて昨年より六頭を減じ居る

が四月以來の累計は八十頭にて是亦昨年比し十二頭を減じ居るのみならず本年捕鯨の最長は七十一尺にて昨年より二尺短く全平均本年五十五尺八寸にて昨年より四尺三寸短く一体に小柄なりと

●斗南半嶋

杠子

一、郡勢の大観

盛夏の山水に親しむべく、記者は斗南半嶋を撰んだ、此行大正三年七月二十一日午前八時に發し、八月一日午後二時に終りを告げた。青波あり鳥道あり苔石あり、或は馬車に或は船に、靴行印跡七十有餘里、半嶋の面積一百九方里の□□、遺し見ざる處多しといへども、また其富源を探り景勝を究め、而して人情の美に接したるを喜ばざるを得ない

□記者は此の一遍を録するに當りて、先づ下北郡の大勢を説かねばならぬ。郡は地圖に示すが如く本縣の東北部に於て恰も鉤状を為し、三面海を還らして僅かに南方の地峡に依り、上北郡と相接してゐるに過ぎない、即ち海岸線は縣全体の約三分の一を占め、其長きに於て冠たるものである。國有の山野十萬一千二百餘町御料地一萬四千五百餘町、而して民有土地二萬四千四百六十三町のうち、其の大部は森林である。

□其住民四萬二千二百八十九人、戸數五千九百七十五戸のうち、漁業二千三百三十九、農業千六百六十の割合を保つ。半嶋は其名の如く一種の嶋嶼である以上、外界との來往交易は船舶の便に依らねばならぬ。即ち陸奥内海沿岸の大湊川内脇野澤方面にては、陸奥灣汽船の便に依りて野邊地青森と、津輕海峡に面せる大畑下風呂易國間大間佐井は、數隻の發動機船の便にて函館青森と、及び尻屋方面は帆船に依り北陸地方と交易してゐる。

□半嶋の氣候は、海峡一帶は降雪が少なく春が早い、陸奥内海に面した沿線は雪量最も多い、夏期は九十度に昇ること稀に、冬期は零下以下に降ることが往々にして之ある、十月初旬初霜を見十一月に入りて初雪が降る、常に西風が多いが六七月の候は東風が多く海霧天を鎖すを例とするといふ。記者の旅中蚊聲を聞かなかつたのは恐山の靈地と而して尻屋の燈臺下であつた。

□一町八村の住民が生産する物産としては、海産物六十五萬圓全製造物四十五萬圓鑛産は近時阿部城鑛山の發展と共に激増して、約百五十萬圓内外である、農産が二十七萬圓林産十四萬九千圓牛馬三萬七千圓で、別に港灣の輸出入總額三百五十餘萬圓、數年前までは年々輸入超過の傾きがあつたが昨年に入りて、約七十萬圓の輸出超過で輸入の主なるものは穀物の八十一萬六千圓酒の九萬八千圓及び織物の十五萬圓である。

□更に納税の一斑を調べて見ると、國税六萬三千七百七圓のうち鑛業税一萬三千四百十六圓酒税二萬五千九百十六圓で營業税の如き五千二百十圓に過ぎぬ。又縣が四萬八千餘圓町村税の賦課額六萬三千八百餘圓町村税の賦課額六萬三千八百餘圓、之が一戸當りの國税十一圓十六錢四厘、縣税八圓十錢六厘及び町村税十圓六十八錢八厘にして町村税一人當り一圓五十一錢である。

大正三年八月五日

●斗南半嶋

杠子

二、海路三十六哩

□記者は今舊棧橋の尖端に立つてる、紺地の背廣服に巴奈馬帽、新式の洋傘に鞆一つといふ輕装。空は硝子の側面を見るが如く晴れて、潮たく煙のやうにも九艘泊と平館の岬は淡く對峙してゐる。見かへれば甲田の嶺々谿々は、さながら噴火のおそろしさでも豫告するかのやうもりもりと堆かき夏雲を背にして、ギラギラと射る日光を浴びて鮮やかに見ゆる。恰も鷄群の一鶴の如く、第一大湊丸は海軍旗を艦部に翻して、棧橋の沖半段ばかりに投錨していた。

□松堂知縣は、大湊要港部に上村司令官を公式に訪問し、斗南半嶋の行政視察を為すべく出發せんとする。一行は風堂秘書大脇農林子中村水産子で、要港部から差遣の第一大湊丸に搭乘した、記者は前夜社命を帯びていたので、計らずも此の船に便乗の機會を得たのである。甲板の上に設けられた天幕下の椅子に、暫く出港の準備を待ちて、青森の市街を見渡すと、青森も案外大きな町ではあるが、今更ながら高廈と煙突が少ないに興がさめた。

□海路三十六哩、今し大湊丸は東の微風に軽く逆らひ、護謨仕掛けのアスヴァルト道でも行くかの如く適度に揺れ、船の舳は夏泊岬の先端と一線をひいて潮の面を掠めつ徐々と趨る。白砂青松の渚にうつる合浦公園、黒き森影に日に燦めく野内タンク、怪氣のたつばかりに見ゆる湯の島をかたどりて、深き磯邊に薨を列べたる浅虫の里、さては笑はゞ崩れんと覺ゆる夏雲を、重たげもなく載せたる東嶽の裾に、波の如くうねめきたる名もなき浦々に繞れる山の端を、指呼の間に展望しつゝ船脚はゆく。

□夏泊の岬近くしてポゝと汽笛の響けるに眸を凝らせば、舳を遮りて風なきまゝに櫂を操る小廻船が三隻、驚きて行きに悩める態したる舟子は、漕ぐ手を止めて我が船を見てる大きやかな口のあたりに、双眼鏡の焦点をあつめて吾等は興じるのであつた。大湊丸は巧みに舵機を操りて行くに、早や彼の小舟は數丁の後にありて木の葉の浮けるにも似てる。此のあたりから松堂氏は船室の中に床上の人となつた。

□椿山あたりの浦を右手にして帆影が一點波に浮いてゐる。夏泊岬の原には野馬の群れが双眼鏡にうつる、馬好きの記者は目も瞬かす顧みるのであつた。汽機は響きも静かに船は野邊地灣にさしかゝる、十符か浦は峯うち絶えて煙にかすんでゐる。暫くして吾等は四面山に圍繞された鏡面の如き山湖に船を浮かべていた、然り全く空も波も死して四周に山の峙つて見えた、山湖の氣分を感じざるを得なかつた。

□會々卓上の「農學士種蒔權兵衛著〇〇〇」を讀みて獨り笑を傾けてると、阿部城の煤煙が見ゆると農林士は告げる、目を舉げると、なるほど凹レンズにもそれと見ゆるもうもうたる煙は、遠く遠く山の端を掠め谷に籠めてゐるらしい、行く手遙かに釜伏山は雲低う垂れて聳え、斗南半嶋の重鎮の如く、吾等の胸に一種の深刻な感じを與へる。船は今浦傳へに徐々と大湊に入った、公家大尉武士郡長上田函每子等に迎へられ、一行は要港部の埠頭に上陸する。

大正三年八月六日

●斗南半嶋

杠子

三、恐山靈場行(一)

□既にして小蒸気船の用意が出来たと云ふ、吾等は一步先に大湊に行きて、恐山行きの支度をせねばならぬので、農林士を促して相共に乗船した。敷島を一本燻らす間に舟は早や小棧橋に就く、直ちに菊池旅館に投じて、山行に着替え鞆の始末をしてると、河野縣會議員や西山前郡長が見える。兎に角にも腹拵へのために食膳に對して元気を振起すべく麥酒を呼ぶ。と思ひ浮かんだは、先に船中での風堂君の□じさみである。

走る船路に夢をば乗せて、迎る竜宮の舞樂殿

□午後二時恐山行の一隊は編成された、頭官あり紳商あり、記者も一行十八人の一員であった。此行蓋し松堂知縣が、半嶋巡察の第一歩として先づ此の靈地に登攀し親しく、縣利民福を禱るの誠悃と觀するが至當である。大平村にて馬車を棄てたる一行は、叢茂き小逕暫くは一列縦隊で進むと、臆て廣漠たる原野に出ずる、此處あたりからは路傍に土や小石を盛りて、そこに觀音の石造が型の如く建てられてる。

草の根に躓き逕の小石を避けて進む、一行中靴行は記者と外の二三を除く外、悉く脚胼甲掛鞋穿きの素破らしき旅装束である。記者は洋傘一本と小さき信玄袋の全財産を運びつゝ、或は一行に離れ或は平行し、三步にして灣内の風光を顧み、五歩にして御料地の防火線に圍まれたる植林を眺めて進む。蒲子花やみそ萩などの野花が疎らに咲き亂て、一しほ旅情を慰めるのであった。

□半里ばかりにして、真紅の脚胼をかけ頬冠した旅の女が三人お山に行つて來たのだとにぎやかに行き過ぎる。野牛の如く生ひ蔓れる叢を分けて一群の人が頭はれる、傍人に訊くと植林の為草刈をする女共と知れた、頭から風呂敷やうの布を巻いて目だけ出してる妙な風態に驚かされた、訊けば脚長き蛇虫を防ぐ工夫だと云ふ、何やらゲラゲラと嗤ひ合つてる、恐れ入つたことではある。

□小さき坂を上り詰めると、其處に小高き丘に一樹の影がある、そして十四番の觀音様が八方を睨んでるが如く置かれてある。此の丘にて一行は汗を拭ひ風を容れた、河野氏は頻りにシートロンを振舞ってくれる。記者は肩にせる双眼鏡を採りて、遙かに外海の波に燻る間に、尻屋の燈臺の白く日に輝きて屹立するを眺めた。斯くして再び逕を辿るに、さして難儀ではないが、右に田名部に行く追分がある、此處にも暫しは息をついだ。

□今し恰も恐山のお盛りで、老若婦女の信心者が多く登山するを當て込み、此處の上屋の下休憩處に蓆など敷き、中婆が二三の若い女を相手に出店を張つてる、棚には麥酒サイダーあり、折には駄菓子手打蕎麥などが並べてある、此處からは道は漸く幽處に入る。

大正三年八月七日

●斗南半嶋 杠子

四、恐山靈場行(二)

□地圖の示す所に依れば、大湊より恐山靈場までは三里十八町であると云ふ、此の邊りは最早道程の半ば以上を經過したらしい。道の兩側に生ひ茂れる木々の枝は自ら日光を遮るので、

恰も隧道を行くの心地がする、それに木の葉を反れて落ちる露が、夜となく晝となく路面を湿すので、さなきだに山道のさながら熟せる如き泥濘である、此の踏まば脚を没っさん危険から免れしめるために、幾本かの丸木を縦横に並べて、更に新に行くに悩まねばならぬのである。

□船には弱き松堂氏は、草履に身を任せては雲渡る鳥道もものかは常に一行の真先にありて、屢々後なるわれらを見返へるのであった。曲徑幾度か吾等を送迎して、道は愈々幽處に通ふの思ひがする。靈場までは四十五丁と示せる石標のありて、行き交う信心者の渴きを癒し旅の疲れを忘れしめる、何はとまれ吾等は此處に一憩を強いられるのであった。

□清冽腸を剔るの泉水を一掬、暫くは懷をくつろげつ谿間を渡り来る涼風を入れて、神気更に爽快なるを覚えた。道は一上一下さして峻嶮にはあらねども、敷き並べたる木石を落ちなく踏みしめ行くに、石を歩むは石階を昇降する如く、木を渡るは即ち栈道である。此のわたりて何處からともなく藪鶯の聲を聞く。十三丁の石標からは湯坂といへるにかゝる、例の横に列べた丸木をだらだら下るに、靴底の破れんばかりに痛むを覺ゆる。

□少時にして空か水かが木の間がくれに目睫に展開する。「海！海？」と後方から大きな聲が叫んだ、恐山湖である、何處ともなく異臭がする、傍人は硫黄の気だといった。硫黄！恐山！靈地！と聯想してる間に、豁然と開けた一區劃に出た、其處が恐山靈場に入る第一歩である。此處に人々が出迎ひに來てる。中に如鳩君も見えてた、青森からの書面が今朝着いたので、直ちに結束して田名部から出たのだと云ふ。

□左手には鏡の如き恐山湖が、岸に峙つ翠巒を倒にうつした妙なる景色を眺めつゝ綿を踏むかの如き砂原を歩を運ぶに、十數歩を隔てたる右手にあたりて、廣さ百坪ほどもあらんと覺ゆる凹地には、沸々と湯気立ちて湧く硫黄泉がある、八萬地獄と名付けられ畜生道の一つだと云ふ、咽かへる如き硫黄の気が横溢して、今日のあたり思ひ浮ぶるだに眉を顰めざるを得ない。行く手には渡れさうもない太鼓橋が架けられてる、之が三途の川であると云ふ。

□前世の因縁がよかったかして、落伍することもなしに危うく爪先登りに橋を越へた。此のあたりの樹といふ樹は悉く枝うち枯れて、青葉若葉のかたわいもなく荒れ果てゝる、時折瓦斯の突發によりて、此のやうな態になるさうな、禪房花木深しの裏を行って、枯木多しの感を深うせざるを得なかつた。此の靈場は、遠く貞觀四年慈覺圓仁大師の開基にかゝるといふ、地藏本尊を安置せる菩提寺がある。

大正三年八月八日

●斗南半嶋 杠子

五、恐山靈場行(三)

□歩を移して小丘に登れば、其處には林崎護持如來といふがある、堂の前には一株の松樹奇想を凝らせるが、將に昇天の松とも稱すべきか。此處からは靈場の全景を展望し得る、山湖を隔てゝ、岸に起れるは大つくし小つくしの山、僅かに其の間に藍色の絶巔を顕してるは奥の院釜臥山である。本尊地藏堂の背負へるは加羅陀山で、其の左肩なるは鶏頭山と呼ぶ。

□案内者に導かれて、所謂地獄極樂の數々を巡禮する。先つ慈覺大師供養塔といふを眞先に

して、御影石で刻んだ五智如來、白沙金沙の踏むも勿体なき極楽の濱、さては海鼠の地獄賭博師の地獄といふ如き八百八地獄の、勃々焉として熱泉の湧き出でつあるに膽を冷やし、血の池や賽の河原や劍の山舍利の濱など、數限りなき説明にさながら生きて地獄にあるの心地がした。此のあたり一帯はサクラギと異なツツジが多い。

□日も早や暮れて、加羅陀山のかなた空は鉛色に移っていく。先づ庫裏に旅装を解いて、温泉に一浴を試むると疲労拭ふが如し、まことに靈湯と喜んだは獨り吾輩のみじゃない。所謂禁制で生臭はいけぬとありて、惣菜料理の馳走が出る、庖厨は仲々凝ったもので素人の手とは思へない、以て般若湯の向ふを張るに足れりであった。此の夜一行の為に祈祷があるといふ、仏参して國家安康を奉請した。

□有難い御経もきいて、此の名刹の寶物を拝見する。地藏本尊は慈學大師の御直作で、千躰佛は恵心定朝二子が、大師の徳を慕ひ此の山に來りて彫刻されたとか、何しろ千年の太古のことであるから、今は失せて残り少なくなつたのださうな。堂中の廣間には紙一枚の隙間もなく、信女善婆の折り重なりてお夜伽をしてる、將に汗婆充堂とも云ひつべしである、之ばかりは何とかなりさうなものと思はれた。

□歸りて函每子と一室に夜着をかつぐ、蚊聲を聞かぬので心地よげに眠られると思ひきや、隣近所は悉く信心者が宿泊してる、そして四方山話が耳にたまるので却々寝附かれさうもない、例年なら一日二三千人は入山するのだが、今日は四五百人も居ろうか、などの話は絶え絶えに聞ゆる、下駄や草履を山の如く積んだ夜店からは、尺八の澄んだ音が響いた。

□翌くれば日輪影を没さざれど、釜臥の山巔から之に連なる青巒奇峰は、白雲相呼應して藹然模糊としてる。三竿の日光を浴びて一行は下山した。昨日は下る湯坂も今日は上り十三丁である、其れでも温泉の効が未ださめぬかして、總身がすっきりして足の運びが早い。此の山は全國に名のある靈地ではあるが、憾むらくは交通の便を缺いてる、唯此の山道の改修と信者の誘致に一段の意を用いることが、せめて靈場の為めに地方の為めとなるであらう。

□二十三番の冷水觀音に憩うと、浅虫の汽車坊と云ふに遭ふ、清冷を掬しつゝ坊の戯れる汽車の真似や、鶴の巢籠の神韻縹渺たるを聴き、昨日悩みし栈道も歸路と思へば足の運びも、いつしか追分に着きて白玉氷に咽喉を潤し、途を田名部にとりてひた下りに下る。今日は海上うち畑て展望がきかない。山より七十八丁のあたりにて座頭轉ばしの橋がある、深き谿間には潤葉針葉樹枝さながら懸橋の如しだ、九十丁近くして一群の松林からは蟬聲夕立のやうに降りかゝる。此處よりは漸く田圃開け林檎園などが見ゆる、百十丁の下り道 を正午近く田名部に着く。

大正三年八月九日

●斗南半嶋 杠子

六、田名部と大畑(四)

□田名部は意外に整うた街であった、おっとりとした懐かしい街であった。人の故も知れぬ、柔和な温かみのある人の故かも知れぬ。すばしこい華洒な明らさまな節はない代わりに、静か

な古雅な何かしらはにかむ如き気分が漂ふてた。うち見たる處物鬻ぐ店舗なく宿屋となく、其れに似通うた標徴のほの見えていた、少なくとも記者の凹レンズには 斯く映るのであった。全くさうではないかも知れない。

□警察署や新築中なる河野氏の邸宅や、郡役所や病院や記念館や税務署や、それに名産の優等牛馬や乾鮑の貯蔵庫や、さては弦音會の矢場に源平の試合や、これらを細雨しとゞ降る間にかん參觀した。傍人は大弓の旺かんことやなにかを話して聞かせた、都都逸はと聞くと其の人はにやりと微笑して答へなかった。其の夜圓通寺の招待會は盛大であつた。陪賓なる記者の魂消たことも數々ある。繪車にも女の作家にも逢ふた、繪車といふ男は四角に三角を嵌めたよな気がしてならない。

□翌くれば大畑の水産分場落成式日である。七時に目覺めた、宿の女中は可笑しさを耐へて會釋した、記者は全く朝寝坊の達人であることを茲に自白する、風堂君に急き立てられて兎も角八時には出發した。知事司令官の一行、縣會議員の一行と田名部中の頭官紳士一行と、確か馬車は五台かであつた。街を出ると田圃が拓け稗が伸び伸びと植わつてゐる。向坂と他の一つの坂道は改修中であつた、切取った土はトロで人足共が運搬してた、此處で一行は徒ち歩きた。

□此のあたりは広野際涯なき一帯の牧場である。樺山の澤には稗田がひらけてゐる。随分幌馬車が揺れる、陳腐ながらガタ馬車と稱せざるを得ない。奈古平の牧馬嬉々として遊ぶを遠望しゆくに、出戸といへる部落にさしかゝる、此處は其の名の示す如く津輕海峡の外海に出る口である、右手には遙かに尻屋岬の淡靄にかすめるを眺むべく、恵山は空に畫けるが如くに絶巔を頭はして、水や空なると歌人の題材にでもなりさうな景色である。

□正津川といへるを過ぎる、此處には俗に正津川の婆様と呼ぶ佛堂がある。川は源を恐山の三途の川に發し、硫黄の気で魚が住まぬさうな、數百年前に大水に一躰の佛像が流れに押されて來て、此の庵に安置されたので、慈學大師の御直作にかゝるといふ、一行は馬車より降りて參拝した。波打ち際を馬車は直走りにはしる、三里二十九丁の道程はさまで遠しとも思はで大畑に着く。

□大畑は河港である。街の体裁の整ふてゐるが此處にも見られる。餘裕のありさうな象徴と見るべきだらう、而かも昔の殷賑を偲ばしむる気分が充ち充ちていた。分場落成式は大畑草創以來の盛況であつた、かなりの大きな橋の向ふに、一帯の山麓を型どつた分場の建物は村民一致の熱誠の魂化であるといふ、如何に地方民の水産開發に心を寄せてゐるかゞ窺われる。式場での歓待と別宴の優遇、至れり盡せりであつた。

大正三年八月十一日

●斗南半嶋 杠子

七、下風呂温泉

□三輛の馬車は大畑から下風呂温泉に向ふた、下風呂は今日の旅装を解くべき豫定の處であつた。大畑の川口には材木の積取船が數艘停泊してた、川港としては格別の設備とてないが、それでもかなり船舶の出入りが多いといふ、柔魚の漁期中ださうで、藁繩を恰も棚の如くにし

つらへて、隙間なく柔魚を乾燥してる、之が外國貿易品として有数の位置にある鰯となるのだ。

□行けども果てなきが如く、唯海岸に沿ふた一筋道を馬車は趨。磯を迎へ磯を送り岬を迎へ岬を送る、海岸線の曲折に任せ蜿蜒たる山脈を型どりて、辛くも開かれたる一條の縣道は、此の地方で陸上交通の唯一機關である。雑多な話に華を咲かせ、數多たび馬車の支柱に後頭部を打ちつけつゝも誰に小言をいはん敵もなければ、窃かに眉を顰めながら二里二十七丁の道程を下風呂に着く。此處は屋並の揃ふた部落である。

□宿は温泉浴場のすぐ近所であった。先つ旅装を解きて涼しげな浴衣に着替へ、シートロンに湯を癒して汗を流すべく一浴を試みた。恐山の温泉に比して湯の香の酷くないだけ、すっきりして吾等には親しみがあつた。飽くまで滑らかな湯の香を嗅いだ後食膳に對する、あつさり芳醇數陶を傾けて、おっとりした気分になる、燈火がつく頃沛然として驟雨を催した。

□雨の霽れ間を庭下駄引っかけて背面の丘に登る、四邊咫尺を辯ぜざるに手探りで石階を拾ふ。天然の力の奇しき入江には、星の落ちて浮けるにも似たる海人の漁火は、三點五點明滅してる、月も出でなば水天の一線に雲かとまがう嶋影の見ゆべからんを、詮無き望みも天の運命と諦めて丘を下る、風堂君は早や蚊帳に緑の波をうたせつ軒をかいてるのであつた。

□朝まだ起き出づれば細雨頻りに催してた、松堂氏と連れ立ちて新湯といふに一浴を試みる、丘ひとつ越えて谿間に湧く温泉である。そゝりたつ山々谿々は白雲の往來が繁く、海上は霧が籠めて水の青さが鮮やかである、水難救護所の標旗が岸高く翻つてた。浴場の女湯では、婆さん達が頻りと呪文を唱へて湯を掛けてる、聞けば數を算へてるのだといふ異なことに感じた。

□細雨を侵して馬車は出發した。雲に覆われたる焼山の崎を越えて、山の窪みの至る處となく半畝一步の圃が拓けてる、そして作物の間には型の如くに十數の桐樹が亭々と植わつてる、此のわたりは佐久間平と名付けられて、渚には巨巖怪石が絶えず波に洗われている。蓬や虎杖や空木などが無造作に道端に生ひ蔓つてるに、山葡萄が其の間からみついたりなぞして、粗放なうちにも一種の風趣がある。

□日影山の雲に囁やけるを仰ぎ、鷗の釣舟に戯るゝを眺め、巖の影に釣を垂るゝ海士の子の異様な態に打ち興じて、易國間といふに着く。此處は往昔から由緒に富んでる處らしい、初めイコンクマと呼び中頃異國間と稱した、前者はアイヌ語で後者は黒船の出入りした關係でもあらうか、其の後舊藩公の巡察の砌今の名に改めたと傳へられてる。

大正三年八月十二日

●斗南半嶋 杠子

八、海産物の前途

□下風呂から大間に至る一帶の三六二は山桑が豊富である。けれども此の海岸地方では養蚕は行はれていない、僅かに桑畑といへる部落に一戸ある、そして繭がかなりの出來榮であるといふ、此の天與の遺利が何故に顧られずに居るかを傍人に訊くと、養蚕をやると海が不漁になるといつてやらぬさうさうな、奇怪な迷信もあつたものであると感じた、然し早晩は此の迷信も逆轉する時機に到達するであらう。

□此の記者の断定には一つの根據がある、恰も下風呂から小船を艀し、雨を侵して沿海の調査を遂げた中村水産子は、一行が易國間に休憩してると驚くべき報告を齎した、即ち磯焼と稱する海中の凶作である、水産子は豫想以上の被害で實に寒心に堪えない、而も追々蔓延してらしいと云つて頗る憂色をなして、又も調査を為すべく沿岸に引き返した。其の原因の如何に拘らず、水産といへる郡の大本に一大影響があるといふ杞憂が所信の根據である。

□此の機會に於て記者は、從來半嶋唯一の富源たりし水産業に就きて、特に外海沿線における状況の一斑を紹介して、魚介海藻の生棲發育を妨げ、漸を逐ふて不毛の悲しむべき状態に導きつゝある、磯焼といへる海中の凶作の影響すべき範圍を解明することが、強ち途爾のこともあるまい、讀者暫く半嶋の漁民の爲めに記事の煩冗を忍ばんことを望む。先づ水産物及其の製造物に就きて、種類別の産額を掲ぐる。

種 別	四十三年	四十四年	大正元年
魚 粕	四、四四〇圓	二七、一〇〇	一八、六八〇
乾 鮑	七二、八七二	一〇九、八五〇	一〇八、七三七
鯛	八三、一四七	八五、六七七	一九一、一二〇
海 參	一、三七二	七七七	一、二九五
かすぺ	一、八一四	一、九〇四	二、三〇八
田 作	三〇三	二六	五三三
昆 布	二九、三四四	三一、五〇〇	三二、三五五
石花菜	一七、五〇〇	一六、〇〇〇	二一、九〇〇
海 髮	二六、七〇〇	三一、一〇〇	四二、〇〇〇
海 蘿	一一、八五〇	一八、七八〇	一七、〇七〇
若 布	一、七七六	一、九二〇	二、〇八八
鮪	一九三、六二六	二〇三、七四九	九〇、一七五
鯉	六九、一九一	一二、八二五	七、〇〇〇
鰯	八七五	七五〇	八八〇
鱈	二、九〇七	二、七六七	二、〇三五
鱻	七、九二四	三、七七〇	二、五六四
子 鮫	四、八七〇	四、九二一	四、五八八
鯛	一、一三四	一、二八八	六四〇
鰈	八、九五六	五、五五〇	一二、五四七
鮭	七〇〇	一、一七三	九一六
鱒	三、二八四	五、五一五	一、〇二六
タナゴ	二、七三二	一、六〇四	一、七八五
蛸	五二、四〇〇	四、四四二	三、〇一八
其 他	九、五〇〇	八、〇〇〇	九、一〇〇
計	六〇八、二一七	五八〇、九八八	五七四、四六二

□此の産額は東北外海水産組合の調査に基くものであるが、磯焼被害の範囲は主として尻屋崎と大間崎の一線、直接津軽海峡に面せる五ヶ村十二部落に亘り、目下其の場所に依りて被害程度及其の種類に等差あるも、差し向き昆布若布等の海藻類と鮑の如きもので、追々は沿岸に遊泳する魚族にも、間接の影響あるものと観ることが出来る。之は大にしては國家問題ともなるから、識者研究の参考資料として特に本欄を割いたのである。

●下北郡たより

▲模範的改良漁船

東通村岩屋漁業組合が曩に低利資金を借入れ三戸郡湊に於て製造せし改良漁船は二ヶ月を以て竣工し六月居村へ廻はし爾來漁業に使用され居る同船の構造は長三十五尺巾八尺二本檣にて三角帆三枚付艫は九挺なり此の製造費一隻約三百圓づゝにて外にロップ代七十圓を要し内一隻は支村袋部の持ちとし三隻を岩屋有とせり即ち總戸數を三分して一隻を八戸に當て八人づゝ乗りて目下柔魚漁を試みつゝあるが過日二里半餘の沖に出で随分激しき時化及び濃霧に襲はれしも難なく歸還し波浪に堪えうる實驗を為し又從來の船に比し高いが為め釣りも如何がやと懸念せしが一隻にて二千尾以上の漁獲もありしとて段々使ひ慣れるに従ひ充分好結果を収め得るべしと漸く理想的漁船の成れる上は少なくとも一カ年一隻にて一千圓以上の漁利を揚げざるべからずと組合員一同奮勵し居れり

大正三年八月十三日

●斗南半嶋 杠子

九、大間浦の記(一)

□蛇浦といふに近くして鱈の大漁と見え、漁船には幟や日章旗を樹て、老も若きも裸体で汗みづくとなりて、運搬するやら釜に煮るやら粕を干すやら、其れは其れは大騒ぎをやとる。此のあたりは一帶に景地に富んで、**「象ヶ鼻」**といふあり、まことに巨象の首をさしのべ、大きな耳を垂れて愛嬌に富める彼の鼻を蠢めかしてに似てる。**「獅子の頭」**といふあり、頂ける磯馴松は自ら獅子の髯の如くに長い、兩つながら水成岩である。

□石礫の多き路を揺籃の如き馬車を進むるに、行く手には汐風に馴れた玫瑰は、淡紅色の花を誇りげに吾等を迎へ、過ぎ來し方には松柏のおのがじし奇状をなして見送ってる。だしぬけに額を掠めてそゝり立つ絶壁がある、驚き見返へれば巨巖を割りて其處に一條の途が開かれ、冷たき岩に危くも身を寄せつ、名も知らぬ黄花がなよなよしく吾等を招いてる。辯天嶋が見ゆると菊池氏の指す方を見れば、行く手遙かに朝鮮帽の如きは其れである。

□濛々たる細雨は名残なく霽れて、際限なき曠野は草となく木となく翠鮮やかである、俗にいふ五月女花は紫のゆかりの色も愛らしく、蕙を敷けるが如く咲き亂れてる。此處は大間平で其の絶端辯天嶋までは、數十町の間牛馬群をなして相親しんでる。大間岬なぞといふと地圖の上では大森林があつて、波寄する岸邊は懸崖攀ずべからざる如く思はれたが、今日のあたり過ぎ見るに、其の展望豁達たるには、一驚を喫せざるを得ぬのであつた。

□大間は佐井と並びて此のあたりの古い開港場であつた、即ち北海道の津軽海峡沿岸の諸港

と、及び北陸地方との交易が行はれ、特に函館との海峡の連絡としては、今も尚ほ至便の地位を占めてる。其草創は幾百年前であらうか、記録の徴すべきものがないから、殊更らしき牽強附會の説を避くるが、弘化四年龍鐘齋茸叟といへる人の書いた、「大間浦の記」や古老の談を綜合して、大間の往古を追憶してみやう。

□、大間浦の記にも、「其曆數濫觴を知らず」とあるくらいであるが、凡そ一邑あれば必ず一祠ありて、考古の事は神社仏閣の來歴より始むるを捷徑とする。此處のは村社稻荷神社で別に辯天嶋には一字がある、前者は寛政九年神輿渡り初むと記録にはあるが、凡そ参百年前の開基であるさうな、後者は記録に残って居らぬけれど、神前に設けたる鰐口には年號が彫刻されて、千百有餘年の星霜を経たものであるといふ。

□寺院としては浄土庵阿彌陀院といふがある、其の本尊佛阿彌陀如来は、恵心の作と傳へられるからは、貞觀年間のものであらふか。茲に二つの秘れたる逸品のあるを忘れてはならない、其の一つは大間村の中島佐氏所有にかゝるもので、其の如何に手に入れたかを聞かぬけれど、今より四十六年前即ち明治維新當時、露國長司祭ニコライより津輕藩侯に宛てた露文書簡で、果して真筆ならんには再び得難き珍重なものであらう、其の譯文を左に掲ぐる。

津輕公閣下執事各位

露西亜語及陸海軍學研究の為役人田中嘉四郎及寺井純司を函館に御遣はし相成候處露語は當地に於て緩々研究することを不得候へ共最も會話の熟練を要する儀に付露人少なき當地に於ては速成の研究は至極困難に有之候又軍學研究に關しては函館には教師無之絶対的不可可能の儀に有之候故田中及寺井氏を露西亜に遣はし語學を研究し且學校に於て専門の教師に就き研究科學の智識を習得する様被致度御勸申上候

長司祭　ニコライ

千八百六十八年十月十四日　　函館

(注。明治元年に相當)

●下北郡たより

下北郡半嶋は小さいながらも其の經濟は欧亜の大陸と關係を持っている、即ち重なる生産が鰯、鮑、貝柱といふものだから支那に何かことがあるとじき是等の値が下がる、本年も彼の革命騒ぎの為海産商が不尠痛手を負ふたさうだ○處が今度欧州の大騒乱となった、高見の見物は面白いやうだが貿易市場には多大の損害を及ぼすやうで、而かも銅の價がズンズン下落するといふに至っては心痛に堪へぬ○といふのは折角進展し來たつた安部城鑛山の事業に影響しまいか、其他やうやう芽を吹き出した鑛山も或は為めに躓くことがなからうか、獨り營業者のみならず、地方人一般に懸念するところである○安部城鑛山では煙管の賠償は勿論、川内村の神社の修繕、學校の建築、道路の修理、河口の改修曰く何曰く何と苟も公共公益の為となれば多少に不拘金を寄付して全村の便宜を計てる、今度も栗木の枯損に對して一萬三千圓といふ巨額を賠償したのは、基本財産を作らしむるためだといつてある○又川内の住民には出来る限りナニカニ仕事を與へてる特に鰥寡孤独を面倒し此頃も前小學校長某氏の未亡人に何か適当な職業をと心配したが差当たりない、で未亡人が魚賣りになったといふから鑛山事務所で大いに同情

を寄せ他の魚賣りから買はなくも未亡人から買取れといふ風にして居るさうな○田名部人の娯楽は俳諧、囲碁、大弓、都々逸といふやうなもので高尚なのは感服である但し讀書趣味は乏しい本屋の如きも一軒もないから新刊の雑誌も容易に手に入ることが出来ない○小學校には先生方が十人許り組合ひ毎月三十錢宛て醵金して新刊書を購読する會がある、又兒童には兒童文庫といふがあつて土曜日には備付の本を貸してやり月曜日に返納することにして居る○此の文庫は河野榮一郎氏(注：榮蔵)の令息といふ東京に修業中なる學生から篤志を以て寄贈さるゝ圖書が基本となつて出來たもので其の後續々全氏より贈つて寄越し、又醫院長丸山氏も寄付してある、どうか他にも多數の篤志者が出て之を大成せしめたいものである○目下此の地にも歸着して居る學生は澤山あるが是等學生に提供して慰藉となり娯楽となるべきもの乏しいのは氣の毒である、だが徒に寝轉んで居らず半嶋を遊歴して各自の心身修養を圖ると同時に半嶋の啓發に努めて貰いたい。

大正三年八月十四日

●斗南半嶋 杠子

十、大間浦の記(二)

□更に一つの珍寶は佃竹松氏所有で、畏くも明治天皇陛下御使用の御茶碗と御皿である。明治二十四年十一月時の侍従が千島択捉に差遣され、越年して二十五年九月視察を遂げ歸京したことがある、當時佃氏は船長か何かしていたので、右の尊い二品と別に文晁筆山水一軸を全侍従から拝領したさうである。半嶋の絶端一漁村と是等珍重の逸品、一種いふべからざる奇すしき情趣を、其の間に味わふことの出來た吾等は亦多幸といはねばならぬ。

□大間は本來有數の漁港である。今吾等は大奥村長の案内で防波堤を視察して居る、本漁港の築設は縣の經營事業で、向ふ一二年を待ちて完成の筈である、堤は北に趨り西風を防ぐ目的で、現に竣工した部分は延長百五十間幅八尺法高五尺、船の出入りする水道の幅は六十間、内港の深さ約二十尺であるさうな、暗礁に抱擁されたる天然の良港は、波平にして數艘の帆前船が碇泊して居る、辯天島に近くして一隻の廢船が繋がれて居る、去年此の沖で座礁した汽船だといふ。

□雨は霽れたが雲は水に連なりて山影を蔽ふてる、僅かに日輪は浮雲を漏れて射る處、其處は矢越岬とよまれるほど淡く海原に突き出てる、恰も汽船は函館と覺しき方向を指して走つてる、風堂君は先づ輕便双眼鏡を取り出して展望するのであつた、岸に近く釣を垂れて居る若者が二人、岩に蹲んでガラスと稱するもので海底を透かし見つ、忽ちにして糸を引き上げると、何とかいった頭の馬鹿に大きな魚が淫刺と鉤にかゝる。

□恰も函館との連絡發動汽船が爆々たる音を立てゝ入港した。遙かに陸上を眺むれば一旆の旗が見ゆる。此の旗は山止め海止めの合圖で、山海何れに出るにも村民一致の行動をし敢えて怪しまない、今日は地藏堂のお祭で海も山も休むで居るさうな、氣のきいた施設である、更に驚いた一事はある、此の部落は夜戸を鎖さずで盗みの虞はない、で村端や畑の中に板倉なぞがあつて、貴重品を入れて居るといふ。

□とにかく一般の風紀のいゝことが其の因をなすもので、警察事故なぞ無類少ないさうであ

る。防波堤から歸る途すがら、鮑を獲る鉾の使ひ方など説明がある、鉾の長さ六十尺くらいが普通ださうな、役場に小憩して稻荷神社に參拜する。石の階段や堂宇の立派さには驚いた。此の境内には乃木將軍の皇威宣揚と染筆した記念碑がある、戦捷と故將軍の遺風を追憶して、いふべからざる感慨にうたれた。

大正三年八月十五日

●斗南半嶋 杠子

十一、大間浦の記(三)

□この夜懇篤な歓迎會が催された、食膳が悉く愛國婦人會員の手に成ったものさうで、一品一汁却々入念な凝ったものゝみであった。量二合と稱する記者は、一行中での飲ける方だといふので、村で酒豪と聞いた須藤國手と竹内區長とが、交々戰略を替へて我輩を攻撃する、已む無く守勢をとらねばならなくなって、遂に宴酣にして玉山頹れざるを得なかつた、恐山の禁制を破つた譯でもないが、佛勘を被りたるものと觀念するより他はない。

□翌くれば濃霧が海面を籠めて、さながら湯気のたち昇れる風情である。日和山と稱ふる丘に登つたが、函館山は指呼すべきもない。風堂君と連れ立ち宿の主人の案内で磯舟を浮べて港外に出た、辯天島へとは思はぬでもなかつたが、霧が深くて展望がきかぬからよした、主人は鮑獲りの鉾を操縦して説明をする。霧は隙間もなく四邊に迫り來て、朝の肌には滑らかな感觸であるが、借着の浴衣を濡らすも本意なくて歸宿した。

□食事を終へると農林氏は畑を視るといふ、十數の婦人たちは程遠からぬ丘の畑に案内した。朝霧を含んだ妍を競ふいろんな草花や、馬鈴薯や甘藍や限りなき蔬菜を見巡つた、婦人たちは多く函館言葉で種々な質問をする、之に對する農林氏の應答振りは詭へ向きだけに懇切を極めたものだ。記者もまんざらの素人ではないつもりで、問はず語りをやる、婦人たちは芋の教師と間違えたかも知れない。

□大間は純然たる漁港—漁村であることが争はれぬほど、其の生産の大部は海産漁獲物で占めてる。鮑の五萬圓海藻類の五萬三千圓及び魚類の一萬五千圓等、十五年來倍加したる現戸數二百の住民が、生活資元の大部分は漁獲物であるけれど、牛馬の生産や稗粟の農作物が少なからぬ額である。是等の生産が豊富であるだけ、其れだけ一般に餘裕のあるは、一見したのみで感得さるゝのである。うるはしい部落である。

□馬車の用意が出来たので、一行は函館間の海底電線の起點たる佐井へ志した。途は少時海を離れて、牧場のあたりから再び海岸に近く趨つて、海霧は薄帛を脱がす如く漸次うすれてゆく、此の分ならば對岸の山影が見え出すかも知れないと語ろふてると、行く手の海岸に一群の馬が、海水に脚を浸して動かうともしない、虻蚊がせわしいので納涼と洒落てるのだといふ。途は至て樂なので、程なく金沙きらめく白砂の濱も過ぎて、奥戸に入る。

□先つ馬車を降りて津幡文長氏の鮑製造場を見る、乾鮑を作るのにも並大抵な手數ではなささうだ、無數の鮑を日光に曝している態は、氣味のいゝものである。柳谷氏の宅で小憩を試むる、金屏風や床の間の珊瑚や種々の珍奇な品々を見てると、恰も鮑の漁舟が歸り來たといふ、

一行は隙間なく張られてある鮑網を避けて行って見ると多きさ二間程の小船の人の頭で埋まっていた。

□不断から見慣れてるだらうに、寄って群ってる女子供の風態も興がある、奥戸と佐井では鮑を獲るのに網を使ふ、此のあたりの海底は鉾で獲る場所が少ないので、古い以前に某といへる鍛錬者は、工夫を凝らして此の網を造さへたといふ、地方の為めには恩人である。大きな網の目に林檎や何かでも附いてる如くに、無数の鮑はかゝっている様は、一種の奇跡である。

□柳谷久君といへる可愛い児供は居た、十二歳の五年生であるといふ、佐井に行かぬかと聞くと、行きますといつて大ニコニコで馬車に乗る、濃霧は全く霽れて、矢越の岬から津軽半島が淡く烟の如く見ゆる波の上に半空には白神岬からつゞく北海の連山も手に取る如しだ。材木岩のある材木といへる小さい部落を過ぎて、日脚の高き四時頃佐井村に入る。

●下北煙害調査

△白澤林學博士の出張

下北郡安部城鑛山附近に於ける煙害調査の爲め白澤林學博士は昨日午後五時〇五分着列車にて來縣したるが當地に於て諸般打合せの上縣廳より遠藤技師案内として付添ひ本下方下北郡に赴くべしと

大正三年八月十六日

●斗南半島 杠子

十二、佐井の一夜

□佐井は町らしい港らしいよいところである、何とはなしに親しみのある所であった。緩やかな流れを見て板橋を渡り、右手の逕から丘を登ると、今シ夕陽は海原を射て宛然金を溶かしたかのやう、沖に従って濃ゆく萬波は揺らぐ。此の海岸には河野氏の鮑製造所がある、恰も人々は生貝を捕へ妙な金物で頻りに肉を剥がしてる、其のまた手捌きの全く機械的な技巧には驚いた。此處で小憩しサイダーの馳走を受け、若山氏の山林を見るべく出掛けた。

□叢を分け行くこと少時にして桐園に行き着く、園といはんより寧ろ桐林である、太さ七八寸より一尺以上の桐は、亭々として林立するもの一萬近しと聞くに至りて、林業の知識に乏しい吾等には、全く目を瞠り頬を膨らまさざるを得ぬのであった。廣谷縣會議員等は山衣装で案内されるから、幾里ほど山に入るのかと傍人に聞くと、何五六町でさーと答へる、吾等は靴穿きのまゝで長袖者流をきめこんでるので、聊か不安であったのである。

□杉の仕立て山を見るべく更に進むと、川を渡らにやならぬといふ、叢を分け茨を避けていくと小さい流れはある、だが頗る急流であった、とても飛び越せさうもないので、記者はまづ靴を脱ぎて久君を背負し、ザブザブと危く渡ったが、あまり浅くもなかったので、人々は上流の短距離な方に巡る、二三の人は川に下りて雲助の役をつとめ、辛くも渡りて山道に出る。此の道は川内に通るのだといふ、五六町といはれた道程は大分遠い。

□ものゝ十五六町も來たりと覺ゆる頃に、漸く左手の山に入った、小さい澤を登り行くに直々たる杉の大木は、天日を覆ふが如く枝葉繁りて、足下の定まらぬこと夥しい、枝より枝に傳は

る風は自ら汗を拭ふ心地がした。雨模様がして來たので、農林子を残して吾等は歸宿した。宿は記者の中學時代の同窓であつて、現に縣立病院に奉職してゐる三上君の生家であつた、此のことは歸青の後同君に逢ふて初めて知つたのである。

□先づ落ちて着いて浴衣を借り、一杯のサイダーに胸をほどいて、初めて甦へれるかの思ひがした。縁に出て涼風を入れてると、空が愈々怪しくなつてポチリポチリと雨が降り出した。農林子はフロックコートで山に出かけたに、氣を揉んでることじゃらうと意地の悪い雨ではあると思ひつゝ、風呂を使つてると漸く歸つたといふ。折角の一張羅もベト濡れになつたと悄氣るを強いて、村の好意の歡迎會に連立ちて行く、宴の始まる頃ほひより、篠を突く豪雨が銀の箭の如く窓を打つ。

□佐井は大間と並びて古い開港場であり、津輕や函館の交通は便利である、其の位置は半嶋の僻陋にあるが、其の文化に於ては意想の外であつた。村民の生活資元は恵胡と鮑が綱である、其の恵胡が今年は皆無に近いさうな、何の事由か聞かぬけれど、米櫃の鳴る始末であらうと同情に堪えない、鮑が參萬圓を超え海藻が四萬二三千が並だといふ。戸数が三百で山林原野が豊富である、畑も近年は拓けて來たさうな。由緒のある箭の根神社や、佛が歌の絶勝を探らなかつたのは、返す返すも残念である。

●上磯定期開始

東郡一本木村大字袈月小倉十兵衛方所有石油發動機船海安丸を以て上磯地方に於ける貨物の運搬を為し當港を基点に平館村奥平邊、袈月、今別、三厩、蟹田間を運行する計畫にて當地は堀谷回漕店は取扱ひ此の程より航海を開始せしが同船は本日午前七時出帆各地寄港明日午後二時當港着の由。

大正三年八月十七日

●斗南半嶋 杠子

十三、恵山の吐く煙

□佐井よりは甚だしく困難ならざる山道九里を越え、湯の川温泉や阿部城鑛山を経て、川内に出づることも可能なのだけれど、森林視察か何か特殊な目的でもない以上、同じ道を往來する一種の不經濟を忍びて、温泉の香漂ふ下風呂に静かなる一夜を親しむことが、また格別の情趣であらねばならぬ。況や大畑以來社用を済ませせての放れ鳥、半官從旅行ともいへる真面目なやうでも不真面目な、首の向いた方に行くにも生來の放縱から脱却せぬ気分である。

□今朝は思ひ切つたる日本晴、此分ならば北海の連山を指呼の間に眺めて、例の揺籃にも似たる馬車を進めつ、放吟縦談を逞しうしていけると思ふと、兒供の如く胸躍る始末に我から可笑しくもあつた。昨日から血を分けた兄弟でもあるかの如く親しみ順れた久君は、流石に慈母を離れてるので少しは妙な顔でもするかと思ひきや嬉々として記者の側を去りやうともせぬ、宅へ歸るんだよといつて聞かしても、格別喜ぶ気色もなかつた。

□和氣藹々たる佐井の人々とは、たとへ親しき交わりはせぬにしても、別離の情の悲しからずやは。三上君の北堂には、恰も自が子息の遠き旅立ちでも送るかの如く、いそいそと立ち出

でて見えられてあった、青森に在る同君の消息も聞きたかったであらうに、知らぬことゝはいひ乍ら今に残り惜しい気がしてならない。暑さ勝るかと思はれたるに、汐をわたり来る風は面を拂ふて、いふばかりなき涼しさであった。波も静かな佐井の湊は早や山影に隠れて見も及ばない。

□馬車の幌を可能るだけ巻くと、臥牛の名の如く黒き海に浮いても動く気色だになき函館山は、屏風のやうにも連れる翠淡き諸山を左右にして、隠然覇を唱ふる王者の觀をなして。岸に遠ざかりて漁船でもあらう一點二點、帆影危うげに漂ふてる態は、一幅の水彩畫たるを失はぬ。久君の為に水産子は「猫の名付け」や「餅」などの訓話をして呉れる、話の抑揚が面白いので久君、大喜びであった。

□奥戸に着いたので久君とは別れねばならぬ、相共に青森へ行かぬかと訊くと、微笑して答へやうとはしない、良船長にならねば海軍士官になるのだといふ、可愛いこと限りない。大間の村端に立派な小学校がある。此處に愛國婦人會の婦人達は麥湯を沸かして待ちまうけていた、少時憩ふて其の好意を受け、雄大なる大間岬の風物に名残を惜しみ、右には潤葉樹下に牧馬の遊ぶを見、左には松木立の彼方に函館山の隠見するを眺めて、ひたすらに馬を急がする。

□このわたりよりは漸く恵山の絶巔を望み得た、そして左手に連なる山々から僅かに山影とまがう水空を隔てゝ、津輕半嶋は淡靄にかすみ海峽は恰も盆に藍水を湛へたるに似てる。

大正三年八月十九日

●斗南半嶋 杠子

十四、温泉の香と酒と

□風雨炎天朝々暮々、刹那刹那に移りゆく鮮麗なる風趣に、旅人の感觸を新たにし其の錦腸を衝動することの、奇しき微妙なる靈力は、海によりて初めて見る事が可能る、記者は海が好きだ、そしてこの得ならぬ景勝に憧れつゝ、鰯漁に賑へる蛇浦も過ぎ、奇状をなせる樹々の間より、恵山の吐く薄雲の如き煙をうちながめ易國間にて廣谷氏らの歡待を受け、珍重なる名画の數々を賞で、再び車上の人となりて、黄昏近く下風呂につく。

□此の半嶋から陸奥内海の定期船の便を除き、津輕海峽面の諸港と青函各地の聯絡を絶つと、其は全くの孤嶋になってしまう。この至便至利の交通機關があつてすら、記者の如き世間見ずは初めて足を入れた半嶋の全部に就いて、數多たび驚異の目を瞠らねばならなかつた。部落としては整はざるはなく人として親しみ易からざるはなし、大間岬が森林で斷巖絶壁と思ふてた記者は、また實に下風呂温泉を草を蔽へる湯壺に、湯浴みするものとばかり思ふて居たのであつた。

□何が豫想外といつても、斯ほどに意外な事が多くあるまい、などゝ風堂君に談しかけながら、丘に登り街の麓を眺めつ新湯に行く。今日は丑の日であるといふので、遠近の老若男女が宵のうちから集ひ來て丑湯をつかつた故か、湯槽が浅く濁つて暴風の跡のやうに殺風景である。試みに浴かつて見ると生温いこと夥しい、風堂君は別壺から柄杓もてドンドン流し込んだが、大早に雲霓くらの實量で、とんと湯が殖へさうにもない。

□しみじみと温泉の香に親しむことも可能ぬので、匆々にして歸宿すると直ちに食膳が出る。寄りも寄ったり下戸黨揃ひだが、まあ明日はお別れだから心ばかり一杯酌まうと提議すると、農林氏は杯を執ったばかり、いつもは進む水産子も記者を棄てさっさと飯にしてしまう、興がないこと夥しいけれど尚も獨り殿軍を承はりて、李白を真似て酒中の仙を気取らぬまでも、例の放縱性で芳醇に浸るのであった。

□少しく樂屋落ちの嫌ひがあるが、茲に本欄の讀者に限りて秘密の一件を紹介せう。實は其の一端を大間浦の記で開陳した如く、大間の歡迎會で酒豪連の為めに背負投げを喰った記者は、大畑の眞晝から佐井の一夜まで、鮑の旅行と風堂君の言った如く、此の佳肴と芳醇には親しんだ報ひが觀面に、全くのところ佐井の朝は粥にして貰ふたのである、此のことが何處から露見に及んだか、松堂氏は車上で記者に戲弄して曰く、

酒毒が粥で苦しむ佐井の宿

□戲弄はれていゝ心地もせぬが實情だから仕方がない、これは此の行の秘中の秘である。此の夜宿の嬢さんが、吾輩獨舞臺の宴に興を添へるために、蓄音機の數曲を奏で呉れた。武士氏は烏鷺合戦で此の一夜を松堂氏に大敗した。翌朝は薄曇のした日であった、例の幌馬車に再び粥にせねばならぬらしい身軀を任せて田名部に發った、下風呂の焼山の崎あたりから一片の浮雲が恵山をかけて飛ぶ、津輕海峽の白波にさらばを告げた。

大正三年八月二十日

●斗南半嶋 杠子

十五、内海に沿ふ一路

□上帝の偶意か半嶋に遊ぶこと旬日に近きも、日中に雨らしき雨に遭はなかつた吾等は、兎にも角にも多倖であった。此の日も屋根の鬼瓦が焼けさうな絶好の日和、下北郡での特等級の道路ともいふべき、田名部大湊間の一里十八町、影日向なく旅人の眼を娛しましむる田名部川口の風光、それが朝暉を名残なく受て、何となくはしゃぎを感じる如く吾等の気をそゝる。馬車は司令官々舎の前通りに着いた、吾等は此處で松堂氏を待ち合はするのである。

□案内を請ふて應接室に通ると、上村氏は紋服の瀟洒たる姿で、莞爾として吾等を迎ふるのであった。松堂氏は既に例の詰襟の背広服に着替へていらるゝ、阿部城鑛山から出迎はれた龍野氏は、フロック着用で其の辨腹を揺ぶらせつゝ談笑の中心になつてゐる。上村氏は農林氏等を東道して、其の手だれの小農園に導かれる、記者は獨り進められたる茗に胸をほどきつ、上村氏の丹精になる庭園に一木一草の奇なるを賞し、眸を轉じて橋立にも似たる樂園の風物に自ら魂魄を浮動せしむるのであった。

□冥夢の彷徨から甦れるかの如く見回すと、上村氏は頻りと噴水を圍める人々に説明を與へてゐる、そして徐ろ記者を顧みて微笑まれる、「天與の公園ですね」と記者は嘆美すると、「景色はいゝ」と遙かに水天を遠望さるゝのであった、少時にして氏は部屋に入れ「僕の居間は彼室だ、あそこで獨り簡易生活を營みつゝ静かに世界の勢を觀てる…」と呵々哄笑される。とかうして參謀長も見えた、馬車の用意を待ちて吾等は上村氏に別れを告げ、四里半の郡道を川

内に向ふ。

□城ヶ澤といふを過ぐる頃ほひ、木立を透して畑の中に栗の一樹が新芽を吐いてる如きが見ゆる、農林氏は目鋭くも之を發見して記者を顧みる、阿部城の煙害らしいのである。他事とも思はれず話し合ひつゝ馬車を進むる、一上一下恰も波に翻弄さるゝ小舟にも似たる動揺に眉を顰むると、性が善くても口の悪い農林氏、「人の歩める跡之を路といふ」など、嫌味たつぷりな洒落をいったりして車中を賑す、武士氏でも聞いたら腹虫を驚かすのであらう。

□内海に添へる一筋道は、それでも吾等の旅情を慰むることが多い。烟れる空にも似たる穏やかな海面を滑らかに視線を趨らせいくに、恰も池中の築山の如く夏泊岬一帶の山々嶺々は、遠く近く青黛を凝らして吾等に媚ぶる、魚附林でもあらう一群の松木立から、活動寫眞の映畫を見る如く汽艇が隱見する。森林がうち絶えると其處が一圓の稗田である、谿間からおろす羽毛を飛ばすほどの風が渡る毎に、ゆらゆらと青々しい稗の葉裏が翻へる。

□こゝのわたりからは蜿蜒たる山から山にかけて、濛々漠々たる噴煙の漲るが見ゆる、阿部城である、阿部城の煤煙である。幾つかの部落も過ぎ行くに、山間に相應しからぬほど華洒な外観の學校がある、稀らしゝことゝ語らひ合ふた。時に帆立貝を乾燥してゐるも見受けた、外海の鮑の對照として、内海の帆立は山間の學校に對する気分と、正反對な感觸を吾等に與へた。

大正三年八月二十一日

●斗南半嶋 杠子

十六、川内の半面

□平原が盡きると突出の鋭くない崎がある、遠浅と見えて牛の一群が海水に脚を浸している。忽ち風塵を揚げて行く手を遮る一騎がある、近づき見れば其は川内からの偵察であつた。稍急な勾配の坂を登ると眼界遽に展らけて、川内宿野部の部落から、遠く脇野澤の鯛島が浮城の如く沖に屹立してゐる、津輕半嶋の山々は僅にそれかと思ふ迄に淡くかすみ、夏泊岬のあたり白帆の走るが手にとる如しだ。

□川内に近くして漸く煙害の跡が見られる。杉は割合強さうだが栗は感覺が鋭敏らしい、あれ見たまへと農林氏の指す方を見やれば、一群立ちの落葉松樹林が、恰も包圍攻撃を受たるが如く、火に焼けたのではないかしらと思はれるほど、周圍から追々赤枯れて生気を失つてゐるが見える、聞けばこれは學校の基本財産林であるさうな。川内は由來植林の盛んな處と聞いたが、この分なら打撃も少ないものではなからうかと想像されるのであつた。

□そこで川内の半面を覗いてみやう。此の村は總面積三萬一千四百餘町歩、其のうちから國有林野の二萬六千七百餘町歩を除くと、千六百町の御料地と三千町の民有地が残る、就中山林千七百町歩で田が百八十町畑が四百町といふ割合である。其の山林の中で造林を行つてゐる區有林が約八十町立木大約五十萬本であるが、林産物の總産額は十萬餘圓で、檜丸太の七萬六千圓を最とし、薪炭の各四千餘圓杉桐丸太の三千四五百圓が之に亞ぐ。

□農作物は千餘戸のうち三百個の農家に依りて生産され、而も其の従業者は三千二百餘人の婦女子の大半があり、男の其に匹敵してゐる、而して其の産額は五萬六千圓、五穀蔬菜果樹何

でもないものがないくらいだが、多く地方の消費となりて輸出向けにはまだ前途がある。水産物は海岸線の長からざるに正比例し、従業者二百五十戸産額七萬八千餘圓、其のうち海扇が四十二萬斤六萬九千圓を占め、代表的輸出品である。

□此の外畜産も盛んであるが、過去に於ける川内村は其の村歳出の三分の一を、財産収入を以て支出し全国異數の稱があつたと記憶してゐる、然し之は森林村であることの證左にはならぬけれど、部落有林の収入が其の多きに居つたと聞いてゐる、其れだけ川内は以前に於て森林が代表的に感じていた。處が現在の川内は大なる推移をなしてゐる、其れは鑛山の勃興である、鑛山は代表的位置を占めたからだ。

□同地内の鑛山は、阿部城、大正、西又を最とし、砥石川、北振、中川、下北等數指を屈する、而かも大正二年に於ける産額は百七十五萬圓、就中阿部城は百二十六萬圓を占めてゐる、川内住民のうち三百十八戸、男七百七十人女四百四十五人は、是等鑛山に依りて糊口をしてゐるものだ、而かも此の鑛山の發展につれて該地方生業の状態に一變移の起こるは想像される。

●下北小澤便り

○大正漁場 敏腕家山本榮藏氏の經營するところにして既に二千四百餘圓の水揚げをなし本年も漁打ち續き昨今炎熱灼くが如きも厭いなく二三名の若者は盛んに粕製造中なり

○外ヶ崎漁場 剛毅果斷英傑的色彩を帯べる而かも少壯議員として蜀望高き山本龜吉氏の所有にして新場所なれども大漁打ち續きて其の成績甚だ宜しと

○松ヶ崎漁場 潜撈の豊富と風景の幽遠なるとに於て第一位なる當場所は蛸田村杉浦龜太郎氏の所有權のあるところにして毎年三百石以上の大漁をなし本年も毎日平均三十玉以上に上り既に六十石水揚げせりと

○廣澤漁場 本村建網の元祖と稱せらる東郡油川村小山内福太郎氏の經營するところにして昨年は二千六七百圓餘の漁獲をなし本年も漁豊富なりと

●東海岸の鯉漁準備

八戸沿岸の鯉漁は昨年は陸の凶作同様慘憺たる大失敗に終り為めに破産の止むなきに至れる漁業家さへありしが本年は流石にこの影響を受け昨年の出漁船九十二艘は減じて殆どその半數位なるべき模様なるも水産試験場のみさご丸は既に出漁し十八日は宮古沖にて約七十の初漁ありし由の入電もあり準備全く整ひ居れば全地市場に初鯉の上る遠きにあらざるべし

大正三年八月二十二日

●斗南半嶋 杠子

十七、煤煙の町の夕

□川内の人々の好意を謝して阿部城鑛山の視察に向ふた。椅子を備へ上屋をしつらひ簾を垂れたる、記者の眼には新案のトロ馬車が四五輛、吾等の為めに特に急造したらしい、鑛山の用意周到には取りあへず一驚した。軌道に軋る鐵輪の響と馬蹄の音は、耳にまたりて遽かに順れぬけれど、動揺極りなき馬車に腹中を攪亂した吾等は、暈の上に居る心地で四周を展望するのであつた。

□一里半の道は徒ち歩きでも至つて容易な道である。銀杏木といへる川内の支村に近くすると、田畑はともかく遠近の樹木がぼちぼち煙害にやられてる、此處から鑛山に近く従つて其の程度が追々激しい、之は素人眼にもそれと見られるのであつた。愈々鑛山の圈内に入ると、大煙筒の絶端からは黄白色の煤煙が、恰も一種の異臭の放てるが如く、気味悪きまで濛々と噴出して、其れが山々澤々に充満してゐる。

□此の煙の中にトロ馬車は突入するのと思ふと、氣の弱き記者などは竦々ものであつたが、愈々阿部城町？に行き付くと、それが唯の杞憂にすぎなかつたのである。町は鑛山一新開地によくある氣分に満ち満ちている、球燈を吊して日章旗を掲げた軒々からは、男も女も物珍しげに吾等を見てゐる、大緑門をしつらったり萬國旗を蜘蛛手に張ったり、其れは其れは大賑やかな歡迎振りであつた。

□トロを下り貴賓館に入りて少憩する。高橋工學士は地圖の上で鑛山の大觀を説明し、龍野氏の先導で圏内を巡覽した。初めての眼には何もかも驚くことばかりだが、先づ千五百坪以上も掘られてる鑛坑に行つてみる、此處は山の中腹といった具合の處で、其れから先き絶巔までは七八つの段階を造るが如く、追々と山は崩づされ其の段毎に輕便軌條を敷き、絶間なくトロが往來してゐる。

□數百の鑛工夫が入り乱れて働いてる鑛坑を、一種の不安に驅られつゝ見巡はつて丘に上ると、蟻の這ひ出る如く人々は退散した、須臾にして地軸も揺るがんばかりの大爆音が續けざまに轟きて、黒煙の下から岩盤の崩壊する態に膽を冷やした。焦熱地獄も斯くやと思はれるほど、物凄じき熱鑛の流れをなす熔鑛爐や、大仕掛な通風動力機や、女達の眞黒くなりて働いてる選鑛場も見た。

□此處を出ると高百十尺上口徑八尺下徑十一尺の大煙筒の傍には、五十尺の豫備煙筒があつて、其の下の禿山の頂きには一祠がある。此のあたりは鑛工夫の長屋が幾十棟も建てられ、共同浴場の喚きが騒々しい。一夜の宿を頼るべく定められた處について一風呂浴び、一日の汗を洗ふて縁に立つと、煙を込めた山野に漸く暗冥の幕が下りて、行雲は脚をとどめて動かうともしない。

大正三年八月二十四日

●斗南半嶋 杠子

十八、阿部城の印象

□此の夜貴賓館に盛なる一行の歡迎會が催された。門外の木立の間には篝火を点じ、蜘蛛手に張られたる球燈は恰も銀河の降れるにも似て、全山の闇を奪ふが如くである。各工場の電燈は赫々と輝いてゐるに、暗黒の夜にもしきりに噴出する煤煙は、其の底唸るが如き相錯綜した音響と共に、阿部城鑛山の隆興を語る唯一の表徴であらう。鑛山の支配人たる前代議士龍野周一郎氏の歡迎の辭は壯麗にして暢達たるものであつた。

□其の説く所に依ると、此の山に大同、姫と稱する舊坑道があつて、今を距つること二十八年前該山の探鑛者が命名したものださうな、そして古い以前に此の地方で鑛業した者があつて

退山する時に全山守護の神体として祀れる、金眼を入れた玉姫様と大同二年と彫刻した鰐口とを、銀杏木村社へ合祀したとの傳説によりて此の名があるといふ、大同二年は今より遡る一千八百八年前の往昔である、此の事は少なからず記者の興趣を牽いた。

□下りて南北朝の世、此の半嶋より南朝へ奉呈したる、護良親王の皇子を半嶋に迎へ奉りたしとの奏文中にも「三面海を廻らして水産に富み山には鬱々蒼々たる森林あり、一葦帯水を隔て、外國（蝦夷地を指す）に接し、殊には金銀銅の鉱物が饒多である」との意味が書かれてあり、津輕藩公が當時の技術者ともいふべき者に命じて調べさせた舊記にも、此の半嶋と八甲田山附近には礦物の潜在しとることが書いてあるといふ、以上の如く古く知られて居た礦山らしい。

□現在の經營者田中氏は、明治三十九年に礦業權を取得し、四十二年に試掘の結果稍有望なる曙光が見えたので、遂に大正元年七月末から營業に着手し全二年十一月田中礦業株式會社に於て事業を繼承したのである。礦區六十九萬九千二百四十四坪で露天掘、坑道掘進、試錐探礦其の他選礦から運礦精練工作に至るまで現實に見ぬ人の為めには完全な説明が可能ぬほど、素破らしい目覺ましき活動である。

□此の礦山の經營振りは、其の現況の隆興進運の域に向かひつゝあるだけ、總てに對して放膽なと思はるゝほど、公明正大と見るべき節が多い、で其の龍野支配人の言明するが如く、多くの地方の利益に着眼し起算点を定むる半面に於て、公益を無視し妄りに私利を營まんとする者に對しては、峻烈に正邪を斷隔し其の依るべき處を枉げないといふ、其の立証として表れたる事實も少なくない。

□而も地方との重大關係ある煙害問題に就きては、地方の調査委員と協力して精査を加ふると共に實害を認めたるものに對しては漸を追ふて相當の保証を為してゐる。其他道路を修繕するにしても地方人の使役にしても、乃至は地方の物資を需要することや、或は學校建築電話架設川口改修鄉村社の修理或は凶作見舞や農事改良等の補助金寄附金より、畜産組合の事業資金提供に至るまで、細心を極めたる地方産業の助長施設見るべきものがある。

□礦山内部の施設としては、業務の發展と共に尚幾多改良さるゝものあらうけれど、衛生娛樂の設備より消防風紀に至るまで、最も注意深く行はれてゐる。本年五月までの採礦高は金十二貫九百八十二匁銀七百三十三貫餘及び銅百二十三萬四千斤に達し、縣下第一の銅山たるのみならず今や全國有數の礦山たる氣運に趨きつゝある。

(十九 缺)

大正三年八月二十八日

●斗南半嶋 杠子

二十、白蠟の如き長影

□斗南半嶋の東端、突兀として太平洋に望み、津輕海峽を抱擁するもの、之を尻屋岬となす、其の尖端には全國有數の燈臺がある、此の燈臺を中心として兩洋の雄勁なる風物に對し、大自

然の洗禮を受けることが少なからず記者の好奇心をそゝった、天も記者の鄙衷を憐れみてか、起き出づれば朝暉輝々として絶好の徒歩日和である、河野氏の好意で東通村役場から特に小池氏が東道される。如鳩君も同行するといふので一層元気づいた。

□武士氏に暇を告げ、野外服に烏打帽を冠り、小さき信玄袋と双眼鏡と及び洋傘を携へたるのみの軽装、稗の葉末の露まだ干ぬに、はや埃た□□□□□□□□□□格別である、小池氏と如鳩君は替る替る歴史を説いてくれる、十數町にして小坂を上ると、斗南か丘とて眼に際限なき高原がある、遠くかすむ内海には小松原かくれに奔帆の影をうち眺むる、此の丘は明治二年會津公封を移し、三百戸の民をして農牧を専らにせしめたといふ。

□一里二十二町にして目名といへるに着く、石階を攀じて神社に參拝し、直々たる杉木立を渡り来る涼風に汗を拂ふて更に進む、一里にして石持と呼ぶ部落がある、農牧と山樵と漁といふ却々忙しい雑業の村である、小學校を訪へば森閑として人の気配がない、聞くと兒供等は磯に鯛漁の手傳いにいってるので、先生は濱の苫屋で授業してるのだといふ、海には一里數町の距離、さりながら殊勝な教職者であると感じた。

□蚊群の襲来する林中、草いきれに湧きかへるほど流汗のする廣野原も、海！海！と唯一縷の光明を力に、靴底の痛みも感ぜずに歩をうつす、此のわたりは幾群の牛馬が嬉々として戯れ遊んでる、津輕地方の稲田に囲まれたる部落などには見られぬ圖である、極めて緩勾配の坂を歩き詰めると、海が見えた、それは芝生の山の端から僅かに雲と見紛うばかり、一筋の白布を置いた如くである。

□入口といへるは漁村である、其の名に示す如く尻屋一の入口である、區長の宅で少憩し、一碗の苦茗に聊かの疲勞を醫して、途を海濱の砂漠にとった、空は雲翳を見ぬけれど、憾むらくは海上煙の如き紫暗色の濃霧がたち籠めて、恵山はおろか北海の山影か見わかぬ、唯一つ今日の楽しみなる尻屋燈臺も、白蠟の如き長影を怪しげに双眼鏡に映すのみであった、數十人の漁夫はエイエイ聲して今し地引網をひいてた。

□磯風の香の奇しく柔らかき感觸、布くが如き磯順松や防風草の棄て難き風情、淡紅色に咲き残れる花紅き果實をつけたる玫瑰に、此の上なき親しみを感じても、踏むには辛き砂濱の足の運びも思ひに任せざれば、本道といふも此のわたりは荒風に吹き堆さみたる細砂に埋もれたるを、降る雪を踏むが如く先なる人の足跡を辿りて行く、野牛沼といへる瀧水を右に眺め、二里十八町の道を岩屋に着く。

大正三年八月三十一日

●斗南半嶋 杠子

二一、太平洋の白波

□岩屋は尻勞と共に尻屋の姉妹村である。海岸に行くに砂鐵が多い、改良漁船が出漁の準備に忙しい、縣の低利資金で新造したのださうな。村端に近く水成岩の山が海に突出して、約そ十間ほどは天然の墜道をなしている、岩屋の名がある所以だといふ、此處を抜け出づると、僅かに一條の道を遮りて牛の一群が來た、モーモーと唸りだしたので気味悪くも危うく通った。

正午は過ぎたが道程は近い、何はさておき汗を拂ふべく一憩することにした。

□繪車の紹介があったので、文人にして青年畫家なる泉山竹華君と會ふた、相識ること初めにして而も相見ること恐らく終りなるべき小一餉時を、恰も十年の舊知の如く迫らず隠さず語り合ふた。竹華君は本來が紀行文家で古く東奥文壇の權威であつたさうな、句作に興味をもつてゐるらしいが、今では専心に彩筆に親しみ荒木寛友氏に師事したといふ。田名部に出でんから五年にもなるほどの此の隠れたる青年畫家が、大自然の訓化多き孤嶋にも似たる尻屋燈臺下に、其の靈腕を研磨してゐるのだ。

□二十年前から濱の面積の波のため追々狭まることや、野牛沼に鰻の釣れることや、葱や桔梗女郎花の多いことや、漁のことや石灰岩の無盡蔵なことなど朴直な區長の語るを下物にして、泡多き麥酒を甜りつゝ都人士の觸れ得ざる一種の気分を味ふた。郊外まで見送つて呉れた竹華君と盡きぬ名残を惜しみて歩を急ぎ進めた、犢が二頭馴々しく短き尾を振りながら、モーモーと母牛を呼んで吾等の行く手に走り行く。坂を上ると高原である、漸く傾きかけた西日を背にして野道を急ぐと、燈臺は恰も巨人の白衣を纏える如く、其の半身を顕した。

□此のわたりは下の平といひ、全山石灰岩より成れる螺螄の如き八峠山の、裾を繞りて太平洋から吹き送る風は、唸りをたてゝ此の高原を津輕海峽に突入する。風に逆らひ危うく足を踏みしめて行くに、行く手にあたりて鏗々たる太鼓の響きが聞こゆる、と思ふ間もなく澎湃たる太平洋の白波が、天に連なれるかの如く吾等の目睫に迫る覺えず快哉を叫んだ。濃霧であらう海面遠くうち曇りて、此の兩洋の眞唯中に鵬翼の襲ふが如く突出してゐる尻屋岬頭の、壮大雄勁なる風物を擅にせしめざりしが憾多い。

□叢の中に逕を索り、牛の幾群を左右にして燈臺に着いた。燈臺は明治九年十月の創設にかゝり、高さ九十三尺水線を抜くこと實に百五十尺である、晴郎の夜一千三百萬燭光暝濛の夜は之に倍加する折射器二個を備へ、電動力で毎五秒時に發つする閃光は青白き稲妻を見る如くださうな、光達距離は十八湮半とあるけれども、襟裳岬の沖合で一船長が見たさうだから六十湮は見へるといふ、別に毎三十秒時を隔てゝ四秒時間吹鳴する霧笛がある。

□刺を通して富田燈臺長に面接し、諾を得て隅なく案内してもらつた、じめじめした石階を螺旋上に登りつめると小水晶宮の如き折射器がある、富田氏は一々説明を加へられつゝ各室を案内された。廊を隔てた官舎に入ると、富田氏は手づから麥酒を進める、そして所謂燈臺守の小説にも似たる痛切なる感想を物語られた。此間中水攻めに逢うたといふ、聞くと井戸が旱天のために枯れて新たに岩盤三尺五寸を掘削したら、氷の如き透冽なる水が出たと喜こばしげにうち笑ふ。同氏の好意を謝し強ゆるを辞して歸る。

抜け T3. 9. 1—T3. 12. 12

大正三年十二月十三日

●下北郡たより

○沖合漁業に従事す

大間は人も知る鮑、海藻類の漁獲豊富なるに拘らず沖合漁業の進歩を圖り已に川崎船二十三隻を新造し石油發動機船を利用して遠く恵山沖に游弋し柔魚及鯉漁に従事し居れりと同出漁は函館を根據とし獲物は直ちに同地にて賣捌きを為すといふ

○鮑刺網の視察

大奥村大字奥石に於ける鮑の刺網漁は我國に於ける唯一の漁獲法ともいふべきものなるが今回廣島縣安藝郡の人津村龜次郎氏は特に右漁業實地見學の爲め態々來郡され九日同村へ赴けり津村氏は十七才の頃より二十年間豪州に在りて實業に従事し居るものゝ由にて此の度同地にて鮑の生産地を發見し之が漁獲法を研究のため歸朝し各府縣へ照會の結果本郡大奥村の鮑漁獲盛んなるを聞き出身地郡役所の紹介に依り來れるものなりと同氏は豪州鮑の貝殻を携へありしが少しく其の外形を異にせり同氏の談には鮑貝殻一噸一千圓にて英国へ賣買ある由なり

○出稼人の雇入れ

樺太各場所出稼人雇入のため漁場主及支配人等には續々來郡しそれぞれ船頭を紹介して雇入に従事し居れり本年は一二圓かた安値の模様なるも本郡の出稼人は大抵從來の縁故ある者なれば概して差なかるべしと

●安部城の煙害

▲會社方と村方との會見

▲賠償金二萬八千圓要求

本年川内の田畑作物に對する煙害に關し本月八日會社方と村方との第一回の會見せる其狀況を聞くに鑛山より田中鑛業株式會社重役龍野周一郎調査係宇治清三郎の兩氏出席し村方より谷山村長岡田委員外二十一人列席し村長先づ本交渉の仲介者として本會を開始する旨を述べ續いて菊池大山福田等の委員より交々田畑作物に及ぼせる被害の狀態を論じて二萬八千餘圓を要求し數回問答ありしが龍野氏は靜かに肥大した身を起こして

時局のため海外輸出の銅取引は全く杜絶せしめたゝめ會社にては倉敷を拂ふて空しく積み置く現況にて會社の苦境は實に慘憺たるものにして田畑に及ぼしたる多少の被害に對してはまことにお氣の毒な次第なるも本年は七千九百圓にてご辛抱願いたいのである昨年はお村方の凶作でありましたが本年は鑛山の凶作につき何卒多大の御同情を給はってこれにて解決ありたし

と頗る沈着の態度にて辯解する處ありしに菊池今泉等の委員と宇治氏の調査したる反別歩合等に付數回質問応答し稍進行したる後谷山村長突如立って

私は今回農會長の資格を以て本交渉に立ちさはることゝて云はば五百の農民の代表的に意見を陳ぶる爲め多少お聞き苦しい處あるかも知れませんが事件は解決さへすれば元の春風和氣の天地に還へるのであるから豫めご容赦を願ひたいと前提を置いて

一、年期を定めて補償を契約するの時季には未だ到着せざる事由

二、煙突を五十尺高めたる鑛山當時の理想は現實より見れば一の空想に過ぎざる實例

三、大凶作たりし前年と大豊作たりし本年との生産被害の比較研究
四、自作小作者の自ら勞苦して得たる作物に對する觀念と補償金との關係
五、會社の製銅輸出の杜絶したる困憊と被害農民の死活問題との輕重
六、山林田畑に及ぼせる煙害の荒涼と他年鑛業休止後の處分
七、立木に對する補償に一定の標準あるべきは當然たるに被害者の如何に依りて其の補償に厚薄あるやに認めらる果たして然らば田畑の補償上少なからざる關係あるにあらずや
叙上の七カ条を擧げ來たり千萬言に渉れる辯論を試み黄昏に至りて散會し細目にわたりて討議し双方とも頑として動かず龍野氏癘聲一番して曰く

川内村には農業家もあり商業者もあり漁業もあれば工業もあり我々の如き鑛業に従事して居る者もある業こそ各異なれるも同じく谷山村長の自治政下の民として安んじて業務に服しているものであるのに其の信賴している谷山村長は農業會長の資格を以て昨日來煙害問題に對し我が鑛山を殆ど敵視して辯難攻撃を試みられたるが谷山村長の苦衷慘憺こそ實に同情に堪へぬ次第である我々は資格を異にせる谷山村長に對して毫も惡感情を持たぬが願くは將來農會長を別に立て谷山村長は村長として専ら其の職責を盡され度きものである云々
谷山村長より之に對し辯疏する處あり尚委員會にて都合に依り五六日間延期を申込みて散會せりと

大正三年十二月二十九日

●大畑だより

○入漁者と商況

柔魚釣のため來港する入漁者は川崎船一隻に付平均十二人の乗込みあり然るに本年の如きは約百隻の入漁ゆえ一千二百人の人は七月上旬より十一月下旬まで逗留し是等は孰れも小屋若しくは間借れを為して一時寄留を為すものなれば其の借家賃のみにても大凡三千圓に上りそれに約四ヶ月間の衣食費は皆此の地に落ちることなれば其の額尠少にあらず本年は柔魚の價非常に低廉なりしも一人大概ね二百圓の漁獲あり内百五六十圓は此の地にて消費するゆえ入漁者八百名の消費高は實に多大のものなりとす殊に本年は切揚げ案外に長引きたれば随つて地方商況にも多少の潤澤を及ぼせるものゝ如し

大正三年十二月三十日

●大畑だより

○改良船落成す

大畑水産試験分場に於て新造中の改良漁船は今回愈々落成せるを以て八木教師指導の下に實地の漁撈に従事する筈なりと同船は長九間にして湊邊のものとも少しく形を異にし此の地方の潮流を斟酌して製造せるものなるが實際の運用尚ほ其の適否長短を確かめ然る後に一般に模範的漁船を指示する積りなりと

○漁業組合の篤志

大畑漁業組合にては費用五百圓を以て改良漁船一隻を造り水産試験分場に貸附し其の實習の便に供することとせりと尤も今回同分場にて製造せる改良船の實用成績を考査して後に製作する由

○莫大の入漁料

本年柔魚釣の爲め來村せる川崎船は約百隻入漁者は七百六十七名にして昨年に比し二百九十八名を増し外に新加入組合員五十二名あり入漁者は一名一圓八十錢づゝの入漁料を納め新組合員は入漁料一圓八十錢の外に本年度負擔金二十錢を納むるわけなれば是等の収入合計一千四百七十二圓四十錢に上り明治四十三年以來未曾有の巨額なりと

○漁業組合活動

大畑漁業組合員は現在五百一名なるが其の負擔金は一名二十錢にして其他活業權貸付等の雜収入凡そ四十圓あるも主もなる収入は實に川崎船入漁料なりとす而して年々經常費支辨の剰余金は百分の三十を基金に積立て百分の二十を組合員の遭難救濟費に充て其外水産傳習所在學生徒二名に學資を補助し或は試験分場設立費の内へ三百圓の寄附する等公共事業に貢獻する處少なからず尚ほ今後益々同組合は主導者となりて水産業の發達を圖るべく漁舎漁船の改良より産物の販路擴張製産の改良等に意を注ぎ地方の福利を増進せんとて柳澤組合長森理事池田書記等熱心に努力し居れり

大正四年一月二十一日

●帆船の難破

下北郡佐井村大字長後當時市内櫻町百六十一番地平民船乘業水原林蔵（六〇）及び下北郡川内村大字蠣崎四十六番戸平民船乘業濱中三太郎（三九）の兩名川崎船五十石積長壽丸にて鱈九百餘本を積込み青森に向ふ途中十七日午後八時頃川内村大字檜川沖合にて投錨碇泊中暴風の爲め錨綱を切斷せられ沖合半里位の處を漂流中翌十八日午前十一時頃に通行せる陸奥灣定期船南部丸に救助せらる

大正四年一月二十二日

●上磯たより

▲漁業 數日來の暴風雪に昨今は全く休業の状態なり鱈は昨冬より多大の望みを囑しありし所謂沖鱈網（對岸の焼山岸近きに投網するもの）が大々不漁に終れり金頭漁も前年に比し甚だしく薄漁なれども値段は時節柄にも似合わず何時も破格の高價を持續し居れば當業者の収入比較的良好小舟一艘（三人乗込）にて大抵百圓位の漁獲高に達せり而して米價安のことなれば漁家の得意思ふべし今後一漁あらば來たるべき舊正も活氣の裡に迎へらるべし因に本日金頭値段一貫目六十錢に釣鱈一本九錢に出來せり（十九日）

大正四年二月十日

●下北郡宿野部便り

▲鱈漁 當地は毎年の如く鱈の大漁を見るなれど當年は連日の荒海にて頓に其の漁なく一日二三百の薄漁にて何れも嘆息を漏らしつゝあり今一兩日にて其の漁なかるべし

大正四年二月十四日

●漁船遭難救助

東郡三厩村大字宇鐵字龍飛平澤子之作（二六）は己が持船に同村三浦子之助（三八）山本定吉（三六）の二人と共に乗組み去月二十一日同村沖合に於て底建網漁業中突然激浪の為めアナヤといふもあらせず漁船轉覆何れも船底に縋りて救助を求めたるがそれぞれ認めざる左の十二名は早速救助に迎へ人は勿論船具とも救助せりと

牧野兼松、柳谷慶次郎、柳谷直次郎、柳谷喜一郎、三浦岩五郎、三浦市三郎、三浦留吉、柳谷富五郎、三浦長助、成田留吉、大石松太郎、川村島太郎

大正四年二月十七日

●各郡豫算解剖

△勸業（抄録） 三戸郡にては鯉節製造所に百圓發動機据付補助九百七十五圓を支出するは注目すべく下北郡は水産品評會に百五十圓を補助するは異彩といふべし

●鹹水産漁獲物

本市における鹹水産漁獲物の市役所調査に依る數量左の如し

種類	數量(貫)	價格(圓)
眞 鰯	三四四、〇〇〇	四四、七二〇
背黒鰯	三六、三七〇	四、〇〇〇
小 鯖	三三、三三五	五、〇〇〇
鱈	二一、四三〇	三、〇〇〇
小 鮫	八、〇〇〇	一、二〇〇
鯛	一、七〇〇	一、〇二〇
鯉	五、〇〇〇	三、〇〇〇
鰈	一二、〇〇〇	三〇、〇〇〇
鰯	四〇〇	二〇〇
油 目	五、〇〇〇	三、〇〇〇
そ い	一、〇〇〇	三、〇〇〇
鮫 鱈	二、五〇〇	五〇〇
火 魚	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇
公 魚	一、二五〇	五〇〇
玉筋魚	三〇〇	二一〇
鮑	四、〇〇〇	三、〇〇〇
烏 介	四、〇〇〇	一、五〇〇

海 扇	三〇、〇〇〇	四、五〇〇
西施舌	一〇〇	一〇〇
海 栗	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇
石脚卒	一〇、〇〇〇	三〇〇
烏 賊	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇
蛸	---	一、〇〇〇
海 鼠	五、〇〇〇	二、〇〇〇
蟹	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計		一二一、七五〇

●凶作誌編纂に就て

嶋 川 觀 水

余は昨年本縣の囑託を受け大正二年に於ける本縣凶作誌編纂に従事し爾來縣下の大部分を踏査して材料を収集し今や資料整備に近づき將に稿を了へんとするの運びに至れるは廳内各課の援助と縣下各位の御同情の賜物と感佩に堪へざる處なり、余素より菲才不文斯かる大著編纂の任にあらざるを以て其の囑託せられんとするに際して幾度か固辞せるも大賀理事官、岩井内務部長の再三の勧誘黙し難く遂に此の大任を負ふに至れり、想へば盲馬の河渉に等しきの愚を自ら招けるを自嘲するのみなり、惰性余の如きもの到底其任を完うする能はざるも前兩氏の篤き同情と松堂知縣の勵聲と三浦理事官の訓練と大脇技師の擁護とに依り今や豫定の行程を進行するに至れり、此の書一度世に出づるも必ずや惰性の觀水が勞力にあらずして縣下各位の同情と前期諸星が心勞の結晶なり、觀水なるもの唯夫れ見世物の看板に過ぎざるなり、遮莫今將に近づけるに際し更に縣下各位に乞はんとするは、本誌編纂に就き余は縣下の大部分を巡業し且つは各官衙の調査調書を参考として起稿とせるも限りあるの日數と旅程は「旅から旅へ」巡り盡きず將亦見聞の狭少は各地に在散しある好資料を逸したるなるべきを信ずるものなり依之縣下各位に於ては此の際一層の同情を以て凶作救濟美談の後世に傳ふべきものあらば速やかに「青森縣廳内小生宛」詳報せられん事を希ふ

富者の萬燈より貧者の一燈、余は斯る救濟記事の多からん事を望むものなり、世に時めく富豪某は凶作時尚ほ小作人の膏血を絞りにて而して僅かに百圓の寄贈を窮民に致せると、一賤婦の白銅一個を貧民の爲めに恵みたと若し夫れ事實ありせば其の心情の差幾何ぞや、聞説、青森藝妓見番に於て或る費用を節約して市内窮民に施米をなせりと云ふ、余は其の心情の如何に麗しく如何に優しきかを知るに難からず、酒宴席上紳士と名乗り借金織の羽織を着流して「コラ藝者ツ」なぞと威張る者一厘半の同情するなく寧ろ却って此の「コラ藝者」なるものに此の美舉あるは余は救濟誌上特筆するに足るものと信ず、余は凶作誌の將に脱稿せられんとするに方り縣下各位は斯る貧者の一燈的事實あらば余が爲めに將た凶作誌の爲めに便宜を與へられたし、而も必ずしも斯る事實をのみにあらず知人として利益問題を離れて窮民の便宜を計れる等の事實往々にしてこれあるが信ず、歸する處善良なる個人の救濟施設の事實なり、斯かる報道を得

るに於ては是を精査し以て凶作誌上に華を添ふるに吝ならざるべし各位幸いに余の微意を諒し速やかに報道の榮を賜はらんことを希ふ

大正四年二月二十三日

●漁船改良講話會

二十一日午前十時より中村技師は三戸郡湊村白銀小學校に於て漁船改良並に漁獲物共同販賣に關する講話を試みたるが出席者漁業組合及水産關係者等多數なりしと

●三戸郡水産講話

縣水産試験場の辻技手は三月一日階上村小舟渡に全二日鮫村に全三日市川村に於て毎日午後一時より漁業講話會を開催する筈

大正四年二月二十七日

●本縣に於ける水産の現況と將來の希望（上）

野邊地通俗教育會講談會に於ける中村水産技師の講話の要領

予は豫てより當業者に對し卑見を述ぶるの機あらんを望みしも是が為めに當業者一日の漁獲を失はんを憂ひ未だ之を果たすに至らざりき偶々本會の開催に遇ひ其の時を得たるを喜ぶも聴者の内には當業者の外小學校兒童等を交ふるを以て或は一般に對し適切なる講話を為す能はざるを悲しむ予がこゝに説かんとするは水産當業者は他職業に較べ社會より如何に遇されつゝありや而して本縣水産業の現状如何及之を進めるの方法につき述ぶる處あらんとす

予は昨年七月九州の南隅宮崎縣より赴任せり同縣の水産業は甚だ不振にして之を全國に較ぶれば殆ど之の存在を認められざるが如き状況にあり然るに本縣は百六十餘里に亘る海岸を有しながら尚宮崎縣に及ばざるの感なき能はず予は赴任以來調ぶる處に徴するに縣當局者は充分の注意を拂ふを見るも各郡市何れも當時未だ水産施設經營費の皆無なりしは不思議なりし本縣は東に太平洋西に日本海の暖流あると此の海よりの寒流を受け従つて寒暖流の魚族を集め剩へ陸奥灣を有す其の魚族の豊富なる敢て喋々を要せず為めに本縣は斯業奨励の趣旨よりして試験場を設け試験指導の便を計り或は傳習部を設け水産教育を施設せるに拘らず各郡市は是等試験所普及或は教育は何等當業者に奨励指導し或は補助する等の施設なきのみならず漁業税を他の産業に用いるが如き状態にあり故を以て予は出張の都度各郡長に對し之の處思を開陳する處ありしに幸に明年度より三戸郡に於ては發動機船一馬力に對し十五圓を補助し又は水産學校入學者に學費補助するの議を決し東及西郡にありては水産技手を置くの運びに至れる等誠に喜ぶべし試みに海岸線百六十餘里を有する本縣の水産額は縣の統計に見るに僅かに百七十萬餘圓にして海岸線一里に付一萬圓漁業者一人平均は三十餘圓に過ぎざるに七十八里の海岸線を有する宮崎縣は百五十萬餘圓にして一里に付二萬圓餘一人平均に見るに實に百五十餘圓の多きを算す劣れるも亦甚しからずや要するに本縣漁業の一般は魚を漁するにあらずして寧ろ拾ふの如き状態にありとも謂ふべきか

抑も漁業には沿岸漁業と沖合漁業の別あり沿岸漁業とは海岸を去る僅かに數町の間にて漁

するものにして介藻を採り又は角網を以て鰯を漁し大謀網を以て鮪を漁る如き類皆之に属す沿岸漁業は陸上を耕耘する如く而も漁獲の量を予想し得るの便ありと雖も濫獲に陥り易く久しきに亘れば遂に介藻及回遊魚族の跡を絶つべきを以て常に漁獲の傍ら魚介の蕃殖に留意せざるべからず回遊魚族沿岸近く産卵食を求むるが為めに近づくものなり此の魚族を目的とし彼の角網又は大謀網類の如きは天然の地勢を利用し居ながら漁獲する趣向にして俗に跋漁業と云ふ然るに魚族の智は人と共進むを以て常に同一の網を同一の場所に用い漁るが如きはやがて漁なきに至る基なり彼の森林伐採の如きは河川出水の變動を來たし濃度を激變し為めに魚族の來集に及ぼす處少なからず是等も濫獲と共に注意すべきことゝなす大謀の如きも宮崎縣にありては鰯のみにして濫獲を憂ひ七十餘里の海岸線に對し僅かに六カ處の漁場に過ぎず本縣鮪大謀網は本邦中有名なりと雖も濫設の感あり

要するに本縣は沿海漁業稍發達し設備も亦至れりと雖も漁具中場梁網又は巾着網の如きは僅かに三戸郡のみにして他に見るべきもの殆どなし

大正四年二月二十八日

●本縣に於ける水産の現況と將來の希望（下）

沖合漁業とは沿岸漁業に對する稱呼にして沖合遠く漁するを云ふ従つて其の漁場區域に制限なく沖合に至る處漁場を求め沿岸漁業の如く面積により漁獲の豫想をなす能はざるも漁業の種類に依りては漁獲の豫想亦難からず而して漁具の改良は沿岸漁業と雖も怠るべからざる者なるも沖合漁業者にありては殊に必要とす彼の滿州朝鮮等に出漁成功するが如きは偶々彼の地の漁獲方法吾に劣れるが故にして之とて久しきに亘れば改良の必要あるは云ふ迄もなし最近五カ年に於ける漁獲統計に見るに當業者増加せしに拘らず産額少なきを示すは抑も魚族の漸次減ずるを証せずや由來本縣は冬期北風の強きに至りては出漁を止め蟄居の状態にありと雖も試みに思へ福嶋の當業者は此の北風に乗じ風雪怒濤と闘ひ打瀬網を以て冬期三カ月の間に一艘約八百圓を得ると云ふに至りては青年漁業者の將に奮起すべき事ならずや今や此の打瀬網は全國至る處用ひざるはなきに拘らず獨り本縣に之を見るを得ざるは誠に遺憾と云ふべし海岸線僅かに三十里を有する愛知縣にして猶水産のために巨費を投じ明治三十三年以來五カ年間毎年數艘の改良船を作り之を當業者に利用せしめ以て斯業の發達に努力す宮崎縣當業者の如きも水産試験場所屬の船に尾して沖合遙かに出で偶々風波に遭ひ覆没の厄に罹れる者ある等稀に悲惨の事實を惹起すと雖も而も當業者の奮勵益加はり沖合遠く出漁し頭を巡らせば波天に接するの境遇に至り終に歸途につく能はず英國船に曳かれ横濱にて手渡され或は米國船に曳かれ長崎にて手渡さる等の奇談少なからず然れども決して之がために斯業の衰頽を認めず

以上述べたるが如く魚族保護漁具の改良漁業者の奮起等何れも怠るべからざるものあるも之を遂行するには其の目的を定め其の方法を講ぜざるべからず凡そ人は何業にまれ家運を進め國運を盛んならしむる目的を以て正道を踐み祖業の増進に力めざるべからず故を以て彼の凡々として啻に其の産を守るが如きは誤れるの甚だしき者況や其の家を失ふ者をや予輩は一部人士の富有たらんより一般人民の富を望むや切なる故を以て漁業の進歩を計り當業者の富有たらしめん

とする捷徑は漁業組合基礎を強固にするを急務と認む本縣下一市三ヶ町三十六ヶ村に於て百有餘の組合を存すと雖も設置以來十餘ヶ年の今日に於て未だ基礎の強固なるものを見ざるのみならず何等共同施設事業を為さず組合として建造物すらなきもの多し況や組合財産をや之何等目的方法を定めざるに依れる結果にして誠に思はざるの甚だしき者なり漁業組合の為すべき事業頗る多し最も適切なるは（一）漁獲物共同販賣事業にして之を經營すべし前任地宮崎縣の如きは縣令を以て之を勵行せり為めに部落の門川漁業組合の如きは之に依りて巨多の資金を貯へ漁業組合病院さへ經營するの盛運に達せり又組合にては（二）共同製造場乾燥場の如きを附設するを要す蓋し之に依りて肥料、ホッキ貝、寒天の如き直ちに乾燥するを得るを以て生産額を増すのみならず市價を高むるを得べし組合員貯金奨励法の如きも（一）共同販賣強制貯蓄（二）共同購買強制貯蓄（三）生産強制貯蓄（四）随意自由貯蓄等悉く組合として施設せば其の効果頗る大なるべし但し必ずしも全部を置くを要せず其の内につき便宜撰擇して一つ二つにても施設すべし今や本縣にありても斯業の奨励に努め現在の發動船の如きも漸次七十艘に達せしめんとす内二十艘は已に有り今又八艘計劃中なるも何れも三戸郡のみに属す殊に農商務省にありても本縣の水産を奨めんとし法の許す最高の補助を下附するにあらずや當業者たるもの須く堅實なる組合を組織し依て金融の圓滿を計り斯業の進展を劃すべし如斯して怠るなくば畜に各自家運を啓くのみならず實に國運の隆盛期して待つべし之を要するに諸氏の奮勵に依り危険視せらるゝ漁業も亦度外視せらるゝ漁師仲間の勉強の如何に依り他事業者に寧ろ囑望せられ自然に地位を高むるを得べし而して此彼岸に達せしむるは漁業組合の基礎強固にするを捷徑と認め今や之を革新して斯業の振興を策せんとす希くは各位本職の意を了し上下共に補助あらんことを

大正四年三月二日

●浦潮航路殷賑 △未曾有の盛況

例年冬期に於ける浦潮港は結氷の爲め航海甚だ不便にして沈衰しつゝあること常なるが本年は戦争の影響に依り露國に於ける軍需品の要求痛切なる爲め航海の困難なるにも拘らず數多の砕氷船に依りて航路を開き近來同港は著しく殷賑を究め居れり

△貨物輻湊 目下同港に向かつて輸送されつゝある貨物は日本よりする雜貨新嘉坡方面よりするゴム製品米國よりする織物、綿絲、麻類等なるが茲に甚だ不思議なるは英國に於ける製品は浦潮を迂回して同じく欧州なる露國に輸送されつゝある事なり是は露國に於て要求さるゝ英國の製品が結氷の爲め北海は勿論バルチック及びダーダネルズを通過する能はざる爲め已むなく東洋を迂廻するものにて元より其額は多大ならざれど兎に角奇異な現象と云はざる可からず

△每船満載 斯の如く目下同港は英國の製品さへ通過する程にて此處に集まる貨物の量は例年に比して夥しく増加し従つて同航路に従事する日本郵船大阪商船及び露國義勇艦隊の各船は每航満載の盛況を呈し運賃の如きも次第に騰貴しつゝあり尚日本郵船にては來月より更に一隻の定期船を増加する由なるが一方大連方面が結氷の爲め航海困難なるに反して例年航海困難なる浦潮航路が仮令多數の砕氷船の活動に依るとは云へ斯の如く盛況を示しつゝあるは未曾有の事なりと云ふ

●甲辰丸の漂流

過般來大阪小野造船所に於て工事中なりし函館區藤山要吉氏所有汽船甲辰丸七百五十七噸は二十一日午後十時讚岐坂出港を出帆函館に向け航行の途次二十六日尻矢岬を距る約十里の箇處にて時化の爲めシャフトを折損し漂流中大湊要港部より駆逐艦隴出動し曳船の上函館に向へるに二十七日午前一時曳綱切斷したれば到底救助の見込みなく隴艦は一旦函館に引き返せりとその後聞く處に依れば郵船小倉丸が二十七日午前三時下風呂沖合にて甲辰丸を認め救助せんとするも風浪に妨げられて接近するを得ざりしと云ふされど未だ浸水の模様なき故救助船長幸丸の到着する迄無事なるを得んかと

大正四年三月四日

●發動機船の難破

北海道函館區たなご町三番地山本今吉所有の日本形發動機船三十石積佐久羅丸は去月二十一日船長東郡三厩村大字字鐵二十八番地田中力太郎外船員三名乗組みて青森港へ向け航行中の處天候險惡にして遂に航海の危険なる爲め前記字鐵の沖合へ假泊し風波の静まるを待つことゝし萬一を慮りて積荷全部を揚陸し船員も上陸したる午後五時激浪に打たれて船体大破を生じ損害百三十圓を負へりと

●漁夫積取船の入港

磯野扱の泰山丸は鬼鹿行漁夫積取の爲め昨日小樽より入港△全扱の樺太丸は初山別焼尻行漁夫積取の爲め昨日小樽より入港△全扱の蛟龍丸は禮文利尻行全扱第八盛運丸は積丹漁夫積取の爲め何れも昨日小樽より入港せり

●輸出入貨物

淡谷扱の第五日高丸は市内金井賣炭場揚石炭百二十五噸を積み昨日岩内より入港白米積取の爲め全夜土崎行△磯野扱の北辰丸は生魚千八百個を積み昨日小樽より入港米荒物千二百個を積み全夜小樽行

大正四年三月十四日

●帆船の轉覆

去る五日午後五時頃岩手縣下閉井郡田老村大字二都觀音崎を去る北東約一里の沖合に於て九戸郡中野大宮吉松及び同郡種市村大字八木第一地割十七番地土井清壽共有の日本形帆船百石積は當日八戸港出帆し宮古港に向け航海中前記箇所に於て突然暴風雨に遭ひ遂に轉覆したるが同船乗組員たる九戸郡種市村大字八木番戸不詳眞角萬太郎（一六）と原籍茨城縣市村番戸不詳國井慶蔵（三〇）及荷主なる三戸郡小中野村大字南横町十九番地柳谷歌吉（三二）は同船備附の小船に轉乘し激浪に翻弄されながら辛うじて同村大字撰待字ニトイに漕附け生命のみは助かりたるも同船には粃糠一石二斗入り二百六十俵價格九十圓白米四斗入り四俵同二十三圓味噌二斗入り二樽同十圓繩五十束同十圓を積込ありたるも全部引上ぐる能はず尚ほ同船の錨五挺檣三挺帆四枚等を合すれば損害價格約一千圓以上なりと

大正四年三月十七日

●發動機船の遭難

函館區たなご町山本今吉（三十八年）所有日本形發動機船長八間櫻丸（七十石）は四名乗込み二月二十四日商業の目的を以て東津輕郡三厩村大字宇鐵より青森灣へ航海せんとせしに天候遽に不穩となり釜野澤前沖へ碇泊せり然るに午後二時頃より激浪益々加はり同四時三十分頃に至り錨綱切斷せられ遂に怒濤の爲め海濱に漂着したるも激浪にて岩石に打たれ船舶として存在を認め能はざるまでに至れり此の時早くも重立柳谷倉吉青年會長大宮專治郎の兩人目撃し會員を招集して遭難現場に駆付け各自に救助具を持たせて乗組員及船体を救助に盡力せしに乗込員をば九死の内に救助したるも船体は終に破損せり救助を終りしは午後五時

●出稼漁夫輸送

桂井扱の高松丸は漁夫五百名米雜貨取合二千三百五十個を積み昨日禮文利尻行△共同回漕店扱の高運丸は漁夫百名米雜貨取合七百個を積み昨日樺太各所行△桂井扱の幸成丸は漁夫百名米雜貨三百五十個を積み昨日樺太各所行△磯野扱の大辰丸は宗谷行漁夫積取の爲め昨日入港△桂井扱の伊勢丸は禮文行漁夫積取の爲め本日入港の筈

大正四年三月二十二日

●尻屋地方布海苔の近況

中村本縣技師視察報告にもある如く昨年度下北郡北通（風間浦大字下風呂沖合より大間沖に至る海岸線）一圓俗に磯焼と稱する即ち潮流の具合にて海草成長せず且つ魚介の棲息を妨げ漁業界の凶歉を來せるが該磯焼は單に北通り各部落のみに限らず東通村大字大和利地方より岩屋、尻屋の海岸も其の影響を蒙り同地方主要産物なる昆布布海苔の發生甚だ稀薄にして延て鮑の生息上にも不少影響を來たし居るを以て尻屋漁業組合にては憂慮措く能はず専門家の實査を仰ぎ是が善後策を講究し他方面に漁業の發展方法を研究せるが本年に入り幸にして布海苔の發生幾分回復の情況あり昨年度に比較すれば多少の増収を豫想し得らるゝより同漁業組合當路者も少しく愁眉を開き居れり但し尚ほ遺憾なるは同地方産出の布海苔は數十年來新潟庄内方面の仲買商二三人の獨占到委し他に相當の供給地を求むることを得ざるに在り元來尻屋は同郡の邊陲に在り交通の不便なる實に想像以上なるを以て新潟地方商人の奸黠なる同地方の不便不利にして他に顧客を求むるの困難なるを奇貨とし同盟して牽制的に價格を下降せしめ以て奇利を貪りつゝあるを以て同漁業組合にては弘く江湖の需用に應じ販路の發展を企畫しつゝあり同地方産出の布海苔は其の事實に於て同郡各地方産は勿論他縣産出のものに比較して一種の特長を含有し居ることなれば先づ優逸なる資質を普く江湖に紹介せんことを努めつゝありとされば製造業者には親しく同地方を訪ひ布海苔の特質を確認し購買さらるゝに於ては單に尻屋地方の幸福のみにあらざるべしと一水産業者は語れり

大正四年三月二十六日

●西海岸便り

▲鯨漁

二十年來皆無なりし西海岸一帯の鯨漁は鯨ヶ沢港に於て本月十三日百尾十五日及十七日各百尾を漁獲し海模様を知る漁民の觀察に依れば本春は必定鯨の豊漁を見るならんと寄々喜び合へり

●鯨の入荷と値段

本品は岩内各方面に於て好漁の報ありしが一昨日は富士丸にて神恵内より沖五商店揚二十二萬尾入荷あり値段は走りのことゝて一丸付五圓に出来せり又昨日午前は國引丸にて岩内より若由商店三十五萬尾第三大龜丸にて岩内より千葉傳商店揚三十萬尾入荷せしが何れも値段は一丸に付三圓五十錢に出来せり而して全夜は第五善知鳥丸にて岩内より沖五商店揚十萬尾五十七丸にて全地より三圓商店揚二十萬尾入荷の筈なりしが跡引續き入荷の模様なり従つて値段の如きも入船毎に下落の商勢にて現品は水揚次第荷造りの上奥羽線其他各驛に向け續々輸送し居れり

●樺太行漁夫輸送

北海道行漁夫輸送は最早一段落を告げ此程より樺太行漁夫輸送中なるが昨日も桂井扱の高松丸は漁夫二百八十名米雜貨取合一千個を積み樺太西海岸に向け出帆又堀谷扱の東成丸も漁夫二百八十名米雜貨取合千三百九十五個を積み本日未明樺太西海岸各漁場に向け出帆せり

●生魚輸入

磯野扱の禮文丸にて昨日小樽より生魚千二百箇輸入せり

大正四年三月二十八日

●余市の大惨事 △漁夫三十九名溺死

後志國余市沿岸一帯は本月中旬一齊に鯨の投網せるが二十三日夜半より東北の強風となりたれば漁業家は何れも警戒を加へ居りしに二十四日に至り風力益々加はり怒濤澎湃として刻々危険迫り陸上にては桢船を救助せんと騒ぎしも及ばず見る見る錨綱を切斷され岩石に打上げられ蘭島にては十五名の死亡者を出したるが同時刻余市町警察分署前にも桢船轉覆し漁夫十一名行衛不明となり三名溺死を遂げたり午後に至るも尚ほ風波止まず署員を始め多數漁業家總出となりて極力死体搜索中なるが余市水上署に於ても救助の為め直ちに活動開始せりと

●生鯨輸入

前報の如く一昨日午後は岩内より岸商店に神龍丸にて四十萬尾輸入せしが値段は二圓十錢に又た同日各店に同地より東運丸にて多數入荷せしが値段は二圓十錢より一圓九十錢に出来せり尚ほ昨日は古平より三圓商店に大刀丸にて二十萬尾神恵内より千葉傳商店に第五日高丸にて三十五萬尾古平より同店に第一善知鳥丸にて十六萬尾岩内より沖五商店に富士丸にて三十萬尾及五十浦丸にて四十萬尾入着せしが値段は何れも二圓内外の見當にて本日は又た若由商店の第一大龜丸其他數艘入船の筈

大正四年三月三十日

●鯨輸送状況 △青森驛に於ける

青森驛に於ける三月二十三日以降の初鯨輸送状況を聞くに左の如し青森發は本市にて荷作りし發送されたるもの連絡上り中繼は北海道發連絡船積みの分とす

青 森 發

日附	東 北 線		奥 羽 線	
	車數	噸數	車數	噸數
二三	—	八	—	—
二四	二	三三	—	—
二五	二	三三	六	七五
二六	一八	一九九	一五	一九二
二七	二〇	一八五	二四	二一五
二八	三九	三二五	二九	二三八

上 り 中 繼

日附	東 北 線		奥 羽 線	
	車數	噸數	車數	噸數
二三	—	—	—	—
二四	—	—	—	—
二五	—	—	—	—
二六	六	四三	五	三七
二七	五	三一	一〇	七二
二八	一	七	四	一九

●生鯨の輸入

既報の如く一昨日午後岩内泊其他各所より錦龍丸にて佐末揚三十萬尾浦島丸にて三圓揚四十萬尾國引丸にて若由揚四十萬尾海城丸にて岸揚四十萬尾善知鳥丸にて千葉揚二十萬尾一二丸にて沖五揚十二萬尾入荷せしが昨日午後又た東光丸にて古平より沖五揚四十五萬尾入荷あり何れも相場は一丸一圓六十錢の成行きなるも本日は神天丸にて岩内より沖五揚四十萬尾入荷の筈なるも尚ほ他店にも引續き入船の様相なり

抜け T4. 3. 31-T4. 11. 25

大正四年十一月二十六日

●發動機船の遭難 △危く轉覆を免る

十九日午後零時半下北郡風間浦村大字易國間能渡嘉代吉所有八馬力長六間發動機船鷗丸は船長同村今巳之吉外三名乗組みて米、柿、味噌、酒等の食料品、檣板、縄、屏風其他雜貨五十六個百六十餘圓を積載して青森灣を出帆居村に向け航行中午後六時頃脇野澤字九艘泊より北方約一里半大崎海岸を二百間の沖合に差しかゝるや

▲烈風激浪 の為船は恰も木の葉を浮かべたる如く動揺し數度續けざまの大波に危く轉覆せんとした際ロープは機關部の推進機にからみ付て進航の自由を失ひしより船員懸命となつて六反帆を巻き揚げ風を孕みて帆航せんとせしが不幸にもマストは暴風の為無理無理折損し此處に全く航行の望みを絶たれ船員一同唯

▲運を天に 任せ狂風怒濤に翻弄されること三時間に及しが此の時漸く陸岸を距ること百間ばかりにして風勢稍殺がれし模様なりしかは船員協力して先づ錨を下ろし積荷を海中に投棄し少しく船足を軽くして船員の一人は

▲海に入り 推進機にからみしロープを切斷し辛うじて航行の自由を得たれば一同ホッと息を吐き馬力を加へて午後十時半頃九艘泊に逆行避難し無事上陸したりといふが投棄せる積荷の内酒樽屏風などは附近海岸に漂着したる由

大正四年十一月二十九日

●上磯定期開始

東郡上磯地方に於ける定期航海船は從來小倉氏の發動機船海安丸七尾氏の發動機船上磯丸を隔日定航しつゝあるが此の程より元淡谷回漕店に勤務の渡邊氏は汽船卯の花丸の代理店を引受け大正回漕店と名付け事務所は税関向棧橋前に新設し昨日より運行を開始せしが寄港地は

蟹田、平館、宇田、奥平邊、褰月、今別、三厩、釜野澤、元宇鐵、上宇鐵、檳榔、龍飛等にて汽船の噸數は五十五噸速力八哩なれば當港より三厩迄往復六時間を要する由

●網から鱈を盗む

市内蜆貝町鈴木多次郎（四八）石井寅太郎（二〇）同仁三郎（一八）田名部金之助（一八）の四人は共謀の上去る二十二日未明東郡瀧内村大字沖館海岸より約十町の處に掛けられある同村前田三次郎の鰯網の中より鰯約四十八貫八圓八十錢代窃取し甘い事もあつたものと喜び居る内因果は觀面四人共其筋の網に罹り檢事局に送らる

大正四年十二月一日

●扇が浦より ▲地の利を得たる勝地

○我いまだ扇が浦を見ず候ほどに思ひ立日を吉日に今朝未明の一番汽車にて飄然此地へ参り候先づ湊驛に降車し此地の活氣充溢せるに驚き申候

○湊村は一つの漁村と思ひの外人宅櫛比して車馬の往來頗る頻繁堂々たる市街に候如斯繁華の土地に未だ町制の布かれぬのも疑問の一に候

○長谷川藤次郎氏を本店に訪へば氏は帳場にありて今や漁業の指圖と商戦の應接に車輪の如き活動中に候得しも予の至れるを喜ばれ夫れより色々縣の發展上のことや水産の事などをよく談ぜられ候

○氏の案内にて彼の往年西澤知事時代に於ける當時の懸案たる湊漁港修築の現状を實地に視察致候馬淵川と新井田川の合流の處天然の築港形をなし灣頭の川口幾十の漁船を入れるよく實に商港としても地の利を得たる勝地と見受けられ候併し河口處々突兀たる巖石露出し漁舟の出入危険言ふ計りなく候

○湊橋下輻湊せる幾十の漁船商船の中其半ばは巖手縣より入港せるものとは此地の彌々放任すべからざる漁港と見受けられ候

○茫々たる太平洋を擁せる巖手沿岸一帶陸上の運輸機関欠如せるに依り漁獲物を載せたる數十の船は悉く此地に來り其の貨物を荷捌致居候

○地勢上此地の避難港の必要は何人も一見感ずべき處に候予今眼前に此地の光景を見て其の利用法に依りて此地の青森發展上重視すべき場所たるを痛切に感じ申候金華山以北の海産物を吸収して東北の覇たるべき此地を何故に本縣人は捨て置くか局に當るもの須く地方振興策として大いに開發して天與の福德を計らざるべからず候長谷川氏も此の事に就き大いに慷慨悲憤せられ候

○薄暮長谷川氏の邸内を逍遙し同氏の舊宅たる萱葺屋根の家を見舞たるに明治四十四年の暴動事件の名残りなる破壊せられたる金庫は當時の慘状を止めて破壊器の如何に鋭かりしかを忍ばしめ併せて警察力の如何に無能なりしかを思はしめ候

○長谷川氏當時の損害實に八萬餘に及びしよしなれども世人は何等同情の實を擧げざりしは此の地方開發の先覺者たる恩人に對して如何にも氣の毒の次第に候

○長谷川氏は予の爲めに特に地曳網を曳いて鰯の漁を致され候百二三十人の老若男女は一生懸命にて網を躰し大篝火を焚いて懸聲勇ましく網綱を手繰るさま實に壯なるものに候暫くにして千三百間の地曳網は胴桶持船と共に陸上に引揚げられ袋に入れる鰯の澁刺たる魚介は金鱗箆に映じて何とも言へぬ愉絶快絶有之候

○湊に於ける予の所感は委敷可申述候得共此の地の本縣に於ける重要地たることは輕々に看過すべきものにあらず候

○湊の視察を終へて只今鮫の石田に突撃し疲れたる身軀を汐湯に復活せしめ候が鮫に來たる以上大に發展を試みざるべからず候忽ちにして會席膳と共に侍り來たるもの榮吉、仲吉の吉盡しの尤物彼等の努力は青森否津輕に於て見るべからざるものに候

○兩妓とも糸も喉も侮るべからざるもの有之候即ちお初の御目見へとして鮫の名所盡しを唄ふ
鮫浦の名所聞かしやんせ沖に蕪島辨才天半崎に恵比壽濱大崎杯にて小湊もの見石にて一杯樂しねば遙向こふに見ゆる船はアレは松前あきあじか但シア津輕の雇船來る船は帆足揃えて満々と島をかわして碇卸せば鮫浦一村繁昌する

嫋々たる歌韻打寄する波の鼓に和して又一段の興を添ふ

漣や扇が浦の小春虹（二十七日夜鮫石田屋にて柯芳生）

●堤川尻の惨事 △鯖釣漁夫四名溺死

前夜來の降雨は昨日に入り猶止まざりしも午前四時頃は風凪ぎたる為め蜷貝町新蜷貝町の漁舟數隻雨を冒して鯖釣りに出かけ沖合遙に漕ぎ出でしが午前八時頃に至り突如として風起こり今迄小波なりし海上は見る見る狂ひ初め物凄きばかりの波浪山の崩るゝ如く漁舟に押寄せしかば逃遅れたる四隻の漁舟は木の葉の如く翻弄され今は鯖釣處の話に非ず一同命限り力限り堤川尻目指して漕ぎ歸らんとせしも崩れては寄する波浪餘りに高くして船の操縦意に任せず追ひ來る波は船よりも早く

△漁船を一呑　みにせんと襲ひアナヤと思ふ間もあらず七隻の漁船は波に巻かれて轉覆せり轉覆せるは

新蜷貝町番外地松谷長之助（三七）蜷貝町番外地和嶋三次郎（三五）新蜷貝町番外地楠美鐵五郎（三九）の三人組一隻と下堤町齋藤副次郎（四一）浪打番外地田中幸太郎（一六）の二人組一隻と

二隻外五隻にて場所は川尻西方海岸田名部副次郎方沖合二百間の事とて幸太郎の外は何れも悲惨なる溺死を遂げたり幸太郎は轉覆後も一心に繋ぎ繩に取縋りし為め船と共に海岸に寄せられ田名部福次郎組の救助船に救はれたり轉覆せし船は總計七隻なりしも他は幸に海岸近かりし事とて難なく助かりしが前記溺死せる四名は轉覆場所遠きと何れも綿入れを着込み居りし為め轉覆後泳がんとせしも身体意の如くならず行衛不明となりたれば漸くのこと岸に漕ぎ着ける他船の漁夫連や歸りを待てる家人の周章一方ならざれども如何にせん小山の如き大波寄せては返し助けの船を乗出す事も叶はず空しく沖合を見詰むるのみなりしが約二時間を経て午前十一時頃新濱町桂井回漕店船揚場の岸を去る僅か数間の磯邊に小山の如き波浪の中より生死は分かぬど身体チラと認めしが

△夫れも一瞬　にて忽ち沖へ引き去られたるよりさては此の附近に打ち上げらるゝ事もあらんかと漁夫の一隊は堀谷回漕店の裏手に見張り居たり然るにやがて漁船の船材又は鯖釣の漁具等岸に打ち上げらるゝと共に正午少し過ぎ兩個の死体殆ど同時に岸を距る四五間の浪間に現はれたりソレと云ふよりシャツ一枚となり血氣の若者數名丈餘の大波恰も小山の如く崩れかゝるにも屈せず忽ち海へ躍り込み一人は堀谷の船揚場一人は田村の船揚場に引上げたり兩人共最早や息切れて

△惨鼻の屍体　は見る人の目を蔽はしめたり堀谷裏手に引上げられしは松谷長之助にて田村裏手に引上げられしは和嶋三次郎なり屍体は直ちに葎を蔽ひ掛けられて醫師の檢案を待てりやがて浪漸く収まりたれば漁夫等は救助船を躡して死体の詮議に漕ぎ出したり

△罟網に罹る　午後二時に至り蜷貝町田村善治氏裏手なる木永の海岸に引きたる罟網に引罹りし齋藤福次郎の死体引き上げられたり

△他船の損害　轉覆船七隻の内二隻は前記の如くなるが猶田名部由之助外二名一組の一隻は船体破損して二十八圓の損害又野倉藤助の三人乗は六七圓の損害を負ひたりと

△低気圧の中心　同朝は低気圧西郡深浦附近に在りし為め一時海上静穏となりしが之將に荒れんとして先づ静まれる危険性の天候なるを知らず鯖釣りに出掛けしは全く不運と云ふ外なし

△遭難に同情　　右遭難に同情して北山一郎氏より金二圓を本社救恤部より金八圓を溺死者四名の遺族に惠與し弔慰せり

●發動機船を救助

市内安方町坂上五郎兵衛所有神鷹丸（六〇二噸）は去月三十日鮮魚を積み北海道厚岸港を發锚當港に向け航海中全日午後零時五十分釧路郡知人岬約五哩に差しかゝるや船首左舷一海哩に救助信號を認めたるより折柄の強風激浪を突て難破船に近付き午後一時十分船員必死の覺悟にて救助をなし々船を牽き釧路港に避難せしめたり該船は妙見丸といふ石油發動機船にて為めに乗組員一同も無事なるを得たりと

大正四年十二月六日

●海の悲劇　陸の悲劇

△漁舟遭難者遺族訪問

前世何等の惡劫にや鯖釣の折柄端無も海若の怒に觸れて海上俄に荒れ狂ひ命を乗する漁舟見る間に轉覆し今が今迄健かなりし四名の漁師が目前に妻子住む懐かしき我が家を見ながら四日の午前十時底の藻屑と成果てし事は取敢へず昨紙に記載せしが此の四名は何れも他郡よりの養子なれど幼より濱辺に育ち漁舟を事として海の中に在りては波の底を搔い潜りても死ぬまじと迄云はれ居る界限切ての

△名うての漁師　　なりと聞くも今更只涙の種なり記者は全日灯燈頃本社救恤部の弔慰料及北山一郎氏委託の同情金を分たんとて折からの時雨を冒し泥濘を分けて四家の遺族を訪問せしが絞れども絞れども盡きる術なき家内の袖時雨には慰むべく趣し記者の袂も何時しか濡らされたり

▲和島三次郎

同じ市内に住み乍ら此の邊は通ることも無かりし記者の目には之も青森の内かと驚くばかりなる破家續きの管々しき小路よりに分け入りて先づ探し當たるは和島三次郎（三五）の永久留守宅なり門邊の新しき喪標に先づ胸を冷やして家に入れば

△屍体は逆屏風　　に隠され其の前に装置したる祭壇には咽ぶが如き線香の煙絶々に上れるが絶ゆる間もなき涙の雨に妻さわ（三一）は袖も思も朽果てしかとばかり力無く項垂れ記者の間に言ふも涙聞くも涙に語出づる様、常々泳ぎの上手と人も許し吾も許したる身が最後の浪一枚の為めに浚れたりとは如何して諦めらるべき母子四人が今日より糊口に迷ふも只其の波一枚の為めなるが其れと思へば譬

△火の波焰の波　　なりとも泳抜かねばならぬ筈の其の波一枚が如何して泳がれざりし事かと跡は涙に泣伏したり子供はさだ（一〇）三十郎（七つ）貞雄（五つ）の三人にてサダは橋本校の二年生なりと聞けばサワは目下妊娠中なりとか折りも折とて一家中只一つの米櫃に行かれし遺族の歎き思遣だに哀れなり

▲松谷長之助

次に新蜷貝町の松谷長之助（三七）方を訪ひしが親戚近隣の人々の出入りに何も知らずに喜

廻る幼女を抱き妻なか（三七）は新たに涌返る涙を押へて語る様同じ日同じ海に同じく鯖釣に出掛け同じ時化に遭乍ら運良ければ六十何歳とかの老人迄で生きたるも有と云ふに之は又如何なる前世の悪因にや生の親其日其日の命と只頼る

△子供六人に妻　　を残して死んで仕舞ふとは譬へ身体は死んでも無念は死に切れぬ事なるべく打明くるも恥かしき事乍ら一家一月の飯米は二俵二斗なれば夫の存命中とても其日暮も容易ならず分けて今年是不漁なれば殊更生活難に追はれ自分も魚の行商して家計の一助を勤め來りしが夫は昨日（三日）も鯖釣に出で僅か三十位より釣らざりしも

△只休むよりは　　とて今朝も五時頃出掛けしが此世の別となって仕舞へりと跡は涙に吃りしが吃らぬものは只涙なりけり子供はみえ（一六）長吉（一五）源七（一一）由雄（六つ）とし（三つ）の五人に養子に呉し光雄（九つ）と六人にて源七は橋本校の五年生なりと

▲楠美鐵五郎

楠美鐵五郎（三九）方は新蜷貝町の海岸に近きさる小路の奥なるが妻しな（三五）は去る一月より腹に膿持つ悪病に罹り二三度醫師の手術を受けしも未だ快方に向はず就床中此度の變事にて殊に四人の内只獨り死体の揚がらぬ事としてシナは近所の人々寄合ひて慰め呉るも迎も諦め切らず次の室に打伏して泣居たるが記者の訪問に漸く起出て語る様夫は蜷貝一と人にも言はれし樽方にて先年漁師中にて競争のありし時

△一等賞を貰ひ　　し程なるが今日は頼み切たる樽網切れて吾と吾が力に海に跳ね飛ばされ自慢の樽故に命を損すも之も前世の約束事なるべし子供は多次郎（一三）ゆき（七つ）の二人なるが其の二人の子供を残して私に死なれてはならぬと人が夏より掛りて未だ仕上げぬ鱈網を永らく夜業して此程漸く造上げ此鱈網で一稼して是非今一度手術を受けさせ何が何でも癒さずに置かぬと云ひし其人が病身の私を残し自分で死ぬとは如何して諦めらるべき今日からは此薬も△誰が為めに　　飲む事ぞと人目も恥じずワツとばかりに泣伏したるが漸く涙を押へて何時も私の就床中一人にて出行く例なるが今日に限りて三度立戻り漸く出掛けしも何かの知せなりしならんを露知らざりし身の悔しさよと又も歎きに咽びしが子供二人も誘はれて共に泣沈みし哀れさには並居る人々も露持つ臉を屢叩けり

▲齋藤福次郎

記者は夫れより菘町なる齋藤福次郎（四一）方を訪ひしが福次郎は何時も柳原の田口親子と三人連れにて漁に出るを此の日は田口勇太郎は鱈網に忙はしとて行かず福次郎も身体具合悪しき為め餘程中止せんかとせしも鯖釣り餌の鯛を腐らすが惜しとて田口の子供幸五郎（一六）と二人にて出掛けしが激浪に打たれて舵床の儘海に落ち幸五郎の投げ與へし板子に掴まる暇もなく逆巻く浪に巻込まれ遂に

△返へらぬ屍　　となり果て同行の幸五郎は危き一命を取止めし事なれば遺族の涙の殊に熱きも道理なり老母ゆか（六九）は老の涙に目を泣き腫らして云ふ様、二十三年前長男を同じく海にて殺したれば未來永劫漁師はせぬと思ひしも斯くては一家に生計の道無ければ福次郎を娘の養子に貰ひ再び馴れし家業の漁師を活計とせしに

△又此の凶事　　に出逢ふとは返しがえしも神佛に見放されし事かと果しなき歎きに打沈めり

家族は老母ユカ妻たか（四一）子供とせ（一九）友一（一七）福太郎（一三）貞一（一〇）みよ（七つ）みつえ（四つ）の八人にて友一は博勞町の伊香鐵業屋に奉公中なりと斯く訪ひ廻り見れば四軒が四軒とも揃ふて貧しき中より只一人の働きてを失ひし事とて一時的なりし海の悲劇よりも今後永引くべき陸の悲劇こそ中々に哀れなれ（四日夜秋蝶記）

●鯖釣遭難後聞

△残り死体發見 四日午前溺死せる四名の内新濱町楠美鐵五郎（三九）の死体のみ發見に至らざりしかば昨日は漁業組合にて沖止めして搜索に従事せしが佐藤虎吉外四名乗組の一隻は午前七時頃より手繰網にて搜索中午前八時半頃新蜷貝町沖合百五六十間の處にて發見引揚げ妻に引渡したりと死体は只一夜の内に顔を鹽虫に食はれて識別し難き迄に變りたるも着衣にて夫と知れたりと云ふ

△漁夫組合の助力 遭難者四名の葬式は明日執行の由なるが漁業組合にては積立金の内より應分の弔慰料を支出し且葬式萬端に助力すべしと云ふ因に松森全組合長は遭難當夜各遺族を歴訪慰問せり

●郵船合資の同情

青森郵船合資會社にては一昨日當地堤川尻に於ける惨事に同情し遭難漁夫四名に對する弔慰金として金八圓を本社に寄せられたり本社は直ちに遭難者の遺族に寄贈の手續をなせり

●遭難遺族に同情 漁夫遭難惨事を聞きたる大湊木材株式會社支配人ト部五六氏は親しく遭難遺族を訪問金幾千宛を見舞はれたりと

大正四年十二月十七日

●水産試験分場意見

昨日七戸氏外二十三名より知事宛に左の意見書提出せらる

西郡海岸地方に本縣水産試験場分場設置の件

本縣の海岸線百七十里暖流寒潮交々沿岸を周流し各種魚族の豊富なるに拘はらず漁獲物の割合他に比し多からざるは吾人縣民の常に遺憾とする處也今東北六縣に付海岸線一里に對する漁獲高を比較すれば福島之三萬五百七十圓山形二萬三千三百二十圓岩手一萬七千三百七十八圓秋田九千二百三十圓宮城七千二百二十五圓にして本縣は九千六百九十圓なるを以て宮城の上位秋田とは凡そ伯仲の間にあり之れ三面を抱擁する本縣の位地實に口嘆に堪へず而して其の不振の原因は種々有ると雖も我西海岸地方の東海岸其他の方面に比して漁業の進歩發達せざるも亦重なる理由の一つなりと信ず今該地方の漁民の實況を見るに漁船漁具並に漁勞製造の方法に至る迄尚舊慣舊習に囚はれ毫も進歩改善の跡を認むる能はざるの状態にあり是れ當に地方漁民の不幸なるのみならず亦實に本縣産業上の一大恨事なり而して之が改善の方法に於いて多々有るべしと雖も本縣水産分場を設置し一面に於いて漁民の子弟を教養し以て將來發展の素地を造ると共に他面に於ては直接當業者を督励指導して漁具漁船の改善並びに漁撈製造其他漁業に關する一般の情態を改善進捗せしむるより急且善なるなしと信ず希くは本縣會の意の存する處に鑑み速やかに分場設置の御提案あらんことを切に希望す

大正四年十二月二十日

●西海岸漁業施設問題 島川觀水

縣會に於ける當局者の答辨は果たして責任あるものなるや否や果たして責任あるものとするれば余は本月十四日則ち第九日目に於ける縣參與員の答辨に對し尠なからず驚奇と落膽せざるべからざるに至れり、余は茲に於て日本海沿岸の漁民に向かつて警告せざるべからず

我西郡選出の縣議七戸葛西兩君に依りて質問せられたる日本海方面に於ける水産施設及西海岸の水産子弟教養に對する當局者の答辨は實に散漫極まりなきものと謂ふべし、當局者は如何に辨明すると雖も日本海方面に於ける本縣としての水産施設は緩慢の甚だしきもの強いて之を掩はんと欲すれば寧ろ詭辨の甚だしきものたるは事實の證明する處なり、余は今具体的に太平洋と日本海沿岸を比較對照して論ぜんとするものにあらず而かも太平洋沿岸の水産施設を過重なりとするものにあらず又これにて足れりとするものにあらず、唯だ太平洋沿岸の施設に比し日本海沿岸の施設は極めて薄弱たるを免れずと云ふものなり、唯だ往年縣水産試験場の漁船みさご丸は近海漁業に従事し地方漁民の邪魔をせると云ふ外何等具体的施設あるを聞かず、又西海岸水産子弟教養に關しては縣は或る時期に於て西海岸に水産試験場分場設置の方針を確立せるものなりと閃聞せり、余は茲に此の言議を公けにするを好まざるも夫れを一層的確に云はんと欲すれば本縣の西海岸に一分場の設置は既定の方針にして要は唯だ時期の問題たるやに確聞せり然るに今や「縣にては分場設置の意なし」と言明せるに於ては從來本縣に於て確立せる水産方針を現任當局者に依りて變更せられたるや明らかなり、縣政の全てが現任者の意志に依りて執行せらるゝものなりとせば又不得止事なるも縣の方針を屢々變更せらるゝは余は縣政の爲めにも遺憾なりと謂はざるべからず

地方長官の更迭する毎に水産方針漁業政策を變更するに於ては縣下幾多の漁民は如何に漁業に従事すべきか一日も意を安んじて漁業に従事し漁業組合を維持すること能はざるにあらずや、余は日本海沿岸＝西海岸＝に試験場分場設置を必ずしも縣の既定方針なりと斷言するものにあらざるも少なくとも豫定の問題なりしは事實なりしならんそを何等の調査もなく机上理論より測斷して既定方針を改むるとは甚だ不誠意にも價するにあらざるなきか、余は長官の更る毎に變更せらるゝが如き薄弱たる方針は將來に向かつて確立せられざらん事を望むものなり、本縣の産業は役人の玩弄物にあらざればなり

茲に於て余は當局者の言明せる太平洋及日本海に於ける相當の施設を刮目して監視すると同時に我が沿岸漁民が將來到底當局者の方針が當てにならざるものなりとの念を深うせざるべからず、聊か一言を述べて沿岸漁民に警告せんとするもの論議体をなさざるは忙裡深思の餘暇なきに依る幸に諒せられん事を乞ふ（十二月十六日稿）

大正四年十二月二十五日

●小廻船の轉覆 二名は行衛不明

北津輕郡小泊村柏崎米吉所有小廻船は米六十俵を積載して二十一日午前十時頃北海道松前郡

福山大字泊川沖合の海上を通過せんとする際突如大風浪起こりたるため轉覆して乗組員三名は海上に浮きつ沈みつ漂ひ居たるを逸早くも斯くと認めたる全地青年會の壯者は漁夫數十名と協力して小舟を下ろし激浪を冒して救助に向かひ辛ふじて現場に接近せる頃哀れ二名の船員は激浪に吞まれて行衛不明となり残る一人は轉覆せる船に攀登り打寄する高波の為に屢々浚はれんとしては僅かに支え手を舉げて救いを求め居れば一同は勇を鼓して一名を救助するを得たるも残りの二名は遂に無残や海底の藻屑となりたれば其儘陸岸に引返へせり救助されたるは下前柏崎與三郎（二五）とて目下寅向町権名力松外三名の手にて保護中因に行衛不明者は船頭奈良萬之助（三四）外一名（年齢は二三）は今年の除隊兵にて姓名不詳なりと

大正四年十二月二十七日

●知事の演説（三） ▼二十四日縣會に於て 第三水産

本縣は御承知の如く三面海を環らし且世界有數の漁場目睫の間に在りて水産上重要な位置を占むるに拘らず生産の状況甚だ振はず利用の方法も亦完からず總額二百五六十萬圓に止まり漁業者一人の收穫年額僅かに三十八圓に過ぎず全國の平均一人當り五十五圓に比すれば及ばざる事甚だ遠く遺憾に堪えざる状態にして斯業の改善發展の法を講ずるは當業者の福利を増進すると共に本縣産業上の急務たるを信ず本官着任以來此の地勢と現況とに鑑み斯業の忽諸に付すべからざるを認め從來經營し來れる斯業諸般の施設に付益々研究試験の歩を進むると共に漁法、漁具の改良指導養殖の事製造の法等の改善奨励其他に關し當業者及漁業組合等を善導督勵して斯業の振興を圖らんことを期せり而して之が実績を擧ぐるが為めには素より多様の施設方法を要すと雖も大要左の諸項は最も適切にして且緊要なりと信ずるものなり

（一）漁撈方法の改善

一、漁船漁具の改造 漁撈改善の方法多々あるべしと雖も就中漁船漁具を改造すること最も急務にして曩に漁業資金の貸附を為し改良川崎船の製造を勸奨したるは全く之が為め也今や其の成績稍々見るべきものありと雖も將來益々奨励の必要を認む今縣内漁船約一萬隻の内假りに其の半數を川崎船に改造するものとする一隻平均約二百圓の増収ありとすれば即ち一百万圓を増加するの理にして極めて内輪に之を見積もるも尚其の五分の一即ち二十萬圓を下らざるは明らかなるが如し

二、沖合漁業の奨励 元來近海漁業は其の自然の趨勢に放任せば漸を追ひて減収の傾向を生ずべきは蓋し止むことを得ざるなり是を以て漁船の改良省力的漁具の奨励等集約的發達を促すと共に一面沖合漁業の奨励せざるべからずや論を俟たず故に近似漸く勃興せんとする石油發動機付漁船の如きは本縣に於ては特に適切なるのみにして遠洋漁業奨励法と共に其の資金の補助又は貸附を為すに至るを得ば其の普及發達迅速なるのみならず効果も亦多かるべく將來縣内約七十隻の西洋型漁船を得るとせば之に依る増収約七十萬圓を見るに至るは必ずしも難事にあらざるべきか

三、沿海漁法の改良 御承知の如く鮪、鰻、鰈等に對しては臺網類建網頗る多しと雖も隣網との關係は勿論魚道と漁場との關係等に關し深き注意を拂はざるのみならず其の操業方法も極め

て幼稚にして亦經濟的方面をも考量せざるが為め収支相償はずして休業とするもの少しとせず故に將來鱈臺網類建網及鮪大謀網等の改善を奨め鱈揚繰網の普及に努め焚込八田網の指導を為すと共に篝火器利用漁業の改良等を計らず漁具及勞力を省き經費を節減し所謂集約的發達を為すに庶幾なからんや之明年度に於て落網類小臺網の試験を遂行せんとする所以にして縣下沿海に於て約四百の臺網を改良するに至らば其の利蓋し鮮少なからざるを信ず

(二) 製造法の改善

水産物製造に關しては或は實地に就き指導を試み或は範を示して之に倣はしめ各方面より其の改善發達に力めつゝあり其の結果と云はんは如何あらんも鯛の如き近時漸くその市價を騰めつゝあるものゝ如し然れども之に就いても亦前途尚指導改善すべきもの極めて多きを遺憾とす即ち將來に於ては一面共同製造所の設置を奨励し以て製品の統一を圖ると同時に一方漁村の副業として家庭的製品の普及を計り漁業組合の堅實なる發達と共に其の生産價格を増進せしめんことを期せり更に具体的に之を説示すれば即ち乾燥器の普及、鰹、鯛等の素乾、煮乾、焼乾、鹽乾品の製造を督勵すると共に加工品の奨励及廢物利用に依り蒲鉾、刻鯛、刻昆布品の精製、貝殻、魚皮、魚鱗等の加工製造等を益々奨励せんことを念へり明年度より蒲鉾製造に熟練なる職工を増員し實地に之を指導啓發せんと欲する所以全く茲にあり概善に過ぎずと雖もこの水産製造の改善發達に依り將來十年の後に於ては生産額約一百万圓の増収を見込むも多く誤りなけん

(三) 養殖の普及

魚族の蕃殖保護のこと亦縣下漁政上閑却すべからざる事項たり即ち積極的には鹹水に於て磯付魚族たる海鼠、鮑及海藻等の蕃殖を計り淡水にありては從來經營し來れる鮭鱒孵化場を擴張して年々三十萬粒以上の採卵孵化を實行するの外將來餘力あらば鰻鯉等の蕃殖をも計劃せんことを期す元來本縣には河川湖沼極めて多く或は奥入瀬川の如き或は十和田湖の如き之が利用完全なるに至らば養殖の利をして今日に比し數倍ならしむるは多く難事に非ざるを信ず今東北六縣の養殖生産額を比較するに左の如し

宮 城	八一、八七七圓
秋 田	二三、六〇四圓
山 形	二〇、三七一圓
福 島	一二、二二二圓
岩 手	一一、六二一圓
青 森	五五六圓

以上は漁政の大綱につき將來施設の大要を申述たるに過ぎざるが漁政向上の實績を擧ぐるが為めには右の外尚改善指導を要すべきもの多くあり或は漁業組合の組織を改善し共同施設事業即ち共同販賣、共同購買及生産事業を經營せしめ當業者共同の利益を増進せしむると共に縣内各郡市に水産組合を置き更に併合水産組合を設けしめ以て漁業組合の指導製品の改良販路の擴張等改良指導の機關設置を奨励するが如き或は明年度より水産試験場に技手一名及熟練なる漁夫並びに職工を増員し海洋其他の基本調査を為し其の結果を當業者に周知せしむる方法の如く

若しくは希望なる事業の新企計劃に對して資金の補助又は無利息貸附の道を開くが如き或は漁場住民の子弟に漁業に關する教育の普及を圖り取締の周到を期するが如き又は郡市に水産に關する諸般の施設を為すべきことを奨勵するが如き一として必要にして且つ緊切ならざるものなし地方に於て縣水産試験場の擴張を為し從來施行し行れる各種の研究試験及傳習部の事業の外當業者及組合等の指導に對し充分之を活動せしめんことを期す近き將來に於て縣財政の緩急を量り更に積極的方法を設け諸君の協議を煩はすの機會あるべきを信ず

此の如くにして幸に指導奨勵宜しきを得ば今後十年の後に於ては縣下漁業者一人の平均高を百五十圓總生産額を約五百萬圓に達せしめんこと敢て不能に非るを確信するものなり

第四 養蠶以下省略

大正四年十二月二十九日

●漁村としての泊港

今回開會の縣會が満場一致を以て泊港改築を採択せしは吾人漁業に従事するもの、最も意を強ふするに足るものなり

抑も泊港が如何なる位置にあるか、而してその現状は如何、また如何なる生産額を有するかを茲に開陳し識者並に縣當局者の参考に資せんとす泊港は上北郡の北端にあり戸數二百六十、人口二千、二ケの小港灣を有し鮫港より尻屋に至る三十餘里の東海岸中唯一の漁港にして且又唯一の避難港なり、而してその生産額を示せば烏賊鯉の各二萬圓を最とし目抜の壹萬四千圓鮑の九千圓之に次ぎ總價格八萬圓を越え實に東海岸に於ける第一位の生産額を有せり、見よ八戸湊停車場が現今の如き貨物の運輸を見るに至れるは泊港との取引その大部分を占むると云ふに非ずや、單に此の一事を以てしてその全般を推すに難からざるべし

然るに近年に至り此の天然の良港が潮流の關係か將亦河川の影響にや二十何尋かありし港口が今や年々土砂堆積し稍もすれば避難を不可能ならしめ出漁の度を減ぜしむ、而して港口既に斯かる有様なれば年々避難せんとて人名を失ふもの數名を下らず、無盡蔵なる海中の富は唯々拱手してこれを收穫する能はず、従つて生産額の年々減退せんとする傾向あるは實に掩ふべからざる事實なり、噫々之單に泊港一村の問題のみならんや、否實に人道問題にして且縣經濟上の重大問題たらざるばあらざるなり縣當局者よ水産事業は實に本縣の生命たり、庶幾はくは賢明なる縣議諸氏の意を入れ速やかに最善の方法を講じ一は以て漁民の生命の安固を保ち一は以て本縣經濟界の發展に資せよ是吾等漁民の希望に堪えざる處なり（嶽東浪人）

大正五年一月一日

●本縣と水産 中村技師談

本縣の勸業を論ずる者一言水産に及ぶときは三面海に瀕し海岸線の長き百七十餘里以て興すべく以て為すべしと眞に然り然れども本縣の水産の重要なる所以豈徒に是のみならんや由來本縣は北海に偏し北海魚族の漁業に便なるのみならず世界有數の漁場目睫の間に在り是れ實に水産經營上他に卓越したる所以にして本縣の水産に重要なる所以亦實に茲に存す然るに今本縣の

現況を考査するに漁業者一人の漁獲高僅かに一ケ年平均三十八圓にして之を宮崎縣の百七十二圓或は北海道の百六十四圓福嶋縣の九十圓に比するも其の差額大なるのみならず全國平均數五十五圓にも達せざるなり亦更に沿岸線一里に付其の收穫高を比較するも僅かに九千圓にして前記各縣に及ばざるは勿論全國平均數一萬三千八百餘圓に及ばざること頗る遠し漁村の萎靡困憊して振るはざること斯の如し

之れ一に本縣當業者の精勵努力の足らざる結果なりと雖も之が指導奨勵に力を用ふること他の産業に比し頗る遺憾なしとせず為政者の責も亦少なからざりしなり北海の有望なる所以魚介藻類の性行上一般に南海に出産するものは其の種類多種多様にして頗る多きも其の量少なくして而も裝飾的或は局部的需要に過ぎざるなり之に反し北海に産するものは其の種類僅かに五指を屈するに過ぎざるべしと雖も其の量頗る饒多豊富にして而も必需的或は世界的需要のもの多し彼の南海魚族に於ける鰹の如く或は鮪の如く何れも風味頗る佳なりと雖も其の需要の範囲に至りては内地的にして未だ世界的にあらざるなり然れども北海魚族の鮭鱒又は鯡鱈の如きは其の風味前者に及ばざること遠しと雖も其の需要の點に至りては洋の東西を問はず世界各國殆ど之を用ひざるの地なし従て其の豊凶は勢ひ國家經濟に重大なる關係を有するに至るや言を俟たざるなり他の魚介藻類比々皆然り是れ北海に偏する本縣の如きは時に水産を重要視せざるべからざる所以の一なり

世界有數漁場

米の「ニューホンド」英の「ノーシー」及び我が北海の鱈漁場は世界三大漁場と稱し各國の羨望して垂涎さるゝ處なり而して英米共に業に既に蒸氣漁業旺盛にして今や殆ど昔日の觀なきに至る彼の日露戰役當時「ノーシー」漁場に於て英の漁船は我が水雷駆逐艦なりと誤認せられ砲撃せられしは當時新紙に喧傳せり讀者諸氏の記憶に新なる處ならん而して此の漁船は「ハル」と稱する漁港を根據としたる漁業隊なりしなり實に盛んなりと謂ふべし何れの時にか本邦殊に本縣漁船の如き斯る誤認を受くるの域に達するを得んや翻つて我が北海の漁場を觀れば恰も閉鎖したる金庫の如く之を開拓し世界市場に輸贏を決せむとする者なし歎ずべきならずや本縣は地勢上此の有望なる漁場目睫の間にあり我が青森市の如きは之を利用し一大漁港として發達せざるべからざるなり是れ本縣の特に水産の重要な所以の二なり

本縣の地勢斯の如し水産を重要視せざるべからず所以實に茲に存す況や海岸線百七十里加之暖流の沿岸を包圍する如きに至りては此の北海に偏する位置にして天の妙技とは云へ實に厚き恩恵に浴したるものと云ふべし是れ本縣の水産を重視する所以の三なり

斯くの如く天恵を受けながら却て天恵の薄きを嘆説する者あり之實に地勢を顧みずして事業を企圖せむとする輩にして勞多く効少なきは言を俟たざるなり希くは七十有餘萬の縣民此の地勢に鑑み徒に海岸線の長きが如き套語又は警句を口にするばかりでなく進んで其の旨趣に基づき一縣舉て之を實踐し上下協力して北海の漁場開拓に奮闘あらんことを然る上は富力の増進する瞭然たるべし當業者諸氏奮勵努力せよ

●大正に於ける鰹に就きて 青森縣水産試験場技師 小岩井 治世

△元旦早々鰹の話は何か縁遠い様に思はれますけれども、鰹は皆様も御承知の通り鰹節(勝武士)とて日本では縁起ものとして冠婚際の祝物に贈答するは申す迄もなく貴賤都鄙に至る迄之に由りて以て其の味を美にし之に依て以て肉味を口にするを得るものにして其の用單に調味にのみ留まらず含室素物食料として平日肉食せざるものに至りては更に其の効用大いにして年末年始には贈答品として殊に正月の御雑煮用其の他欠くべからざるものでありますから鰹の由來を述べて御祝の辭と致します

然かも本年は曠古未曾有の御大典後第一年の初まりで又新聞紙にて拝見する處に依ると皇太子殿下の立太子式を行はせらるゝと云ふ誠に目出度い年で、十二干支で云へば辰年で所謂繪畫等にある如く能く雲を興し雨を呼び神靈測り難しと云ふ年でありますから本年殖産興業の發達は勿論總ての點に於て隆々として勃興するは火を見るより明らかな事であります、我水産業も回顧すれば近年の發達は驚くべきものが多いのであります但就中鰹漁業並に鰹節製造業の進歩發達は他のものより數等の進歩であります此の漁業丈は何處まで發達するか恐らくは數年ならずして明治時代の何層倍にも進むことは斷言して憚らざる處であります、如何となれば他の漁業では仮令分布區域が廣くても捕獲することが困難であつたり又捕獲して製造しても割合價値の騰らないものがあり又大資本を要しなければ捕獲の出來ざるものであり澤山の捕獲あるも分布區域の狭きもの等不都合のもの澤山ありますが獨り鰹のみは分布區域も廣く之を捕獲するにも大仕掛で捕獲するも可、小資本で行ふことも出來又捕獲さへすれば製造して非常なる利益もあり貯蔵も出來日常の副食物として前述べし如く欠くべからざるもので斯く數多き水産物中でも之れ程需要の多いものはないと思ひます、故に近年即ち明治より大正の御代に至る今日まで之程急激なる進歩發達をした漁業はないと思ひます、抑々該漁業並に製造の由來を調べて見ると随分古い事で即ち今より千四百五十五年前即ち雄略天皇の時堅魚を上げて舍屋を作るとあり賦役令には堅魚貢獻の事が載せてある、其の今日の鰹節なるや否や疑はしきも兎に角此の時既に堅魚ありしことを知るべく延いて元和慶長の頃には薩摩紀伊志摩等の國々にて其の製造起こりたるものゝ如く延寶貳年には紀伊の漁業者甚太郎と云ふもの土佐近海に出漁し己が釣たる鰹を以て土佐國佐浦にて鰹節に製造したりと云ふ然れども當時は未だ今日の如き乾固したるものにあらずして乾燥不十分なりとの批判が當時の書に見えてあります、其の後播磨屋佐兵衛と云ふもの其の法を傳習し爾來幾多の改良を加へて遂に世の嗜好に遇し土佐節の名を得るに至りしと云ふ正徳年間に至りては大阪及江戸に於て既に鰹節の賣買を營業とするものあるに至り爾後次第に發達して今日に至れるを見れば古來より何百年となく重要なるものとして研究せられたるものゝ如く又前に鰹節を上げて舍屋を造る家とあるは鰹木を堅魚木と書き社殿の屋上に丸木を横に並べて取付けたるもの其の大小長短は神社に依り同じからず延暦の皇大神宮儀式帳には大宮一院堅木十枚(各長七尺徑七尺一寸)木材別端以金飾と見え、又貞觀儀式には「大嘗宮五間正殿一字夢比置五尺堅木八枚着搏風」と見え其他種々古事記にあります蓋し其の初めは一般民屋の草葺の屋根の風に損するを防ぐために他の棟の押へに設けたるものにして今世の茅屋に烏踊りと云ひて棟の上に茅を束ね結びたるものあり之を堅木魚木の起源なるべしと云ふ然して之を鰹木と云ふは古より常食せし鰹の乾たる鰹節の形に似たればなりと云ふ説より初まりた

るものゝ如く又話は餘談に渉るも鯉賣踊りと云ひて富本浄瑠璃に合せて演ずる舞踏本外題は「四季詠寄三大字」十二個月所作事其の内四月にて初鯉いさみ商人江戸子を代表したる踊りにして文化十年三月中村座にて初めて演じ鯉賣三代目坂東三津五郎詞章は瀬川如臯作典二代目富本前大夫鳥羽屋置長振付は市山七十郎等演ぜられたる事等を見ても鯉と云ふ事は最も古より人のよく注意する處で又其の作業も快なるが故に歌舞に迄せられたるものにして以て其の一般を知るを得如斯上古より注意し來たるものなるに近來迄の進歩發達の比較的遅々たるに驚かざるを得ざる次第であります假に昔は扱て置き明治二十年前の状況を見ましても頗る不進歩なりと云ふ事は想像せられます、今其の例證として明治二十三年頃の製造高（漁獲高不明）を見れば

明治二十二年	二、〇三一、一三九圓
全 二十三年	一、二三九、三一四
全 二十四年	一、一二九、九四八

又明治二十七八年頃でも

全 二十七年	一、五五二、五八二
全 二十八年	一、九二〇、七〇一
全 二十九年	一、七九六、一三七

又十年後明治三十八九年に於て

	漁獲高	製造高
全 三十八年	五、一六八、七〇七	六、四七三、八九〇
全 三十九年	五、〇三〇、三〇二	五、〇九五、〇四四
全 四十年	五、九一一、四二五	五、九四九、五四二

又明治四十三年に於て

全 四十三年	六、一九三、八一二	五、九三五、三五九
全 四十四年	七、五二六、四八四	七、三三一、〇〇四

以上の統計によりて見ても明治に於て急激なる進歩發達を來たしたること明白でありますが此の進歩は大正に至りて愈々大にして大正元年度には製造高に於て

大正元年	一〇、二四一、〇〇〇
全 二年	八、五四一、〇〇〇

にして元年度に比較すれば約百七十萬圓の減少なれども十年前に比すれば三百八十萬圓即ち八割余の著しき増加を示し又之を數量より比較するも尚ほ約五割の増進を示して居ります、又本縣のみの状態に依り見ましても斯業の進歩驚くべき程で明治三十五年漁獲二百五十六圓、三十六年には一躍して三カ年平均額水揚高二千五百三十七圓製造高二千六百五十二圓これより五カ年後即ち四十一年より四十四年までの平均水揚高六萬二千五百八十三圓、製造高七萬七千七百六十七圓であります、尚ほ大正元年度より四年迄の平均高今の處不明なるも優に十萬圓を越ゆることゝ思ふて居ります、斯く漁業製造共に發達し來たる原因を按ずるに漁業經營着々として其の宜しきを得たるは勿論なれども就中石油發動機船の御蔭であると云ふことを憚りません如何となれば是迄普通漁船の兎角及ばざる遠海に餘程の風波をも顧みず出漁することが出來又随

時に何れの縣にも適當の漁場を探して出漁し相當の収益を収めたから各縣共是迄余り重きを置かざりし地方も吾も吾もと盛んに出漁したる結果長足の進歩を來たしたる所以にして従つて鯉節の如きも益々産額を高め同時に需要の増加に伴ひ價格も騰貴して參りました、左に参考の爲め明治二十六年より二十九年までの相場を示します

鯉節一貫匁の價

明治二十六年	〇圓八八〇厘
全 二十七年	一圓〇二〇厘
全 二十八年	一圓一四〇厘
全 二十九年	一圓六四〇厘

然るに今日の相場を見るに年に依りて多少の相違がありますが土佐伊豆地方のもの一貫匁六圓五六十錢三陸地方のものにても二圓五十錢乃至三圓七八十錢の相場を見ましても世人の嗜好益々増大し水産製造物中重要な位置を占め生産區域も亦甚だ廣く南は台灣沖繩より北は青森北海道に至るまで年々の増加驚くべき程で殊に大正に至りてより各地の膨張率頗る著しく此の状態にて推移せば數年ならずして現在の倍額を収むるは敢て難からざることゝ思ひます當業者諸氏能く時世の状況に鑑み益々奮勵努力して御大典に下し賜ひし勅語の聖旨を奉體し奉公に一助たらんことを聊か無辭を述べて元旦の祝詞と致します

●東郡の各村へ 交洋社 小宮山利三郎

▲三厩より (上)

○漁夫の意気

初航海なりと云ふ發動機船の人となりて三厩に向ふ、船中龍飛の漁夫數名を同乗し海上生活の壯快談を聞いて彼等に度膽を抜かる、船津輕海峽に出で一本木沖に進むや潮流の底力と怒濤の爲め船の動揺甚だしく釜轉び茶碗鳴りだしシクリュウは空轉し船は一步も進まず船員顔色變じ意気少しも揚がらず狼狽の気味見ゆ、龍飛の漁夫等呵々大笑して曰く「コンナ波ヲサクレナケレバ今後は荷物を頼まぬよ餘りメグサイ角力を取るな」と。山なす激浪と常に戦いて心膽を練りつゝある彼等の意気痛快壯快なり復我々現今青年の學ぶべき好例ならずや然して此れ三厩以西の漁夫の心事なりとす。さても羨望に堪へざるかな

○村況と産物

三厩は久しき以前よりの歴史を有し源義経此の地より北海道に渡りたりとの傳説あり義経寺と稱する寺迄ある程なれば舊村たるは疑ひなし而して義経が海岸の三個の空洞を有する岩石に馬を繋ぎたるを以て三厩と名稱したりと傳へらる又近くは吉田松陰先生十九歳にして當村に來たり現清原村長の祖父に漢學など教へたる由にて松陰先生の書きたる書は郵便局長の家にあり又嶺田楓江氏其他の有名なる志士名士の書少なからず即ち往昔は旅人皆此の地より北海道に渡りたるものなりと云ふ

本村は漁村なれば海産物甚だ多く鯛の三萬斤鮑の二千五百斤石花菜の五百貫昆布の五百貫恵胡の一千貫等は主なるものなり、大字宇鐵村にては區民一致して組合を組織しモグリを雇用して採鮑せしめつゝあるが一人一日にて四五寸位のもの一千個以上を採取し諸雜費差引くも大正

三年度にて三萬二千三十四圓五十五錢と云ふ額高となり現今は銀行に貯蓄しあるとのことなるが年々二千三百圓餘の利益にて今少しの年月にして宇鐵全村の税金を利息を以て拂ふ豫定なりとのことなるが縣下に類例少なき注目に價する行為と云ふべし

大正五年二月九日

●鱈釣船難破

東郡平館村大字磯石濱小川三太郎所有長三間の漁船に全村小川金次郎外四名乗組み七日午前五時より全村海岸五十間の沖合に鱈釣に従事中風浪激しく船体轉覆せしが五名は逆巻く波の唯中に一時行衛不明となりしが他の四名は幸に助かりしも小川金次郎（三五）は凍死したりと

大正五年二月十八日

●縣水産會評議員會

昨日午前十時縣參事會室に於て縣水産會評議員會を開く集會者左の如し

田中金兵衛（東一本木）島川觀水（西深浦）伊藤廣太郎（北小泊）河野榮藏（下北田名部）齋藤與太郎（上北野邊地）種市忠七（上北泊）神田重雄（三戸湊）吉田喜三郎（上北三澤）逢坂龜吉（東西平内）幹事松森豊、今泉秀雄（青森）

武士幹事長議長席に就き開會を告げ議事に先立ちて就職の挨拶を為す時に名尾副會長出席議長席に就き大正四年度追加豫算を議し中村幹事豫算の大体を説明し今泉、河野、島川、神田、松森諸氏の質問ありて原案を可決し更らに大正五年度の豫算審議に移る武士幹事長、中村幹事の説明あり暫時休憩全員の協議を為し更めて原案可決せり終つて海事水産博覽會出品に關する件に就き協議し原案を可決し次いで中村技師より大日本水産會總會へ出席の顛末の報告あり終つて海事水産に關する種々の談話を交換し大會期日等の打合をなし午後一時閉會せり

●水産博覽會と本縣

來る三月二十日より五月二十日まで東京上野公園内勸業協會陳列館に開かるべき帝國海事協會及大日本水産會主催の海事水産博覽會には本縣に於ても相當出品し大いに本縣の水産界を紹介すると共に斯業者の覚醒をうながすべしとなし本縣水産界にては先に縣補助五百圓の交付ありたるを機とし之を出品一切の費に充つべく別項の如く決議をなしたるが出品豫想は鰯、節、乾鮑、海參、昆布、貝柱、鐘詰、佃煮、煮干鱈、田作等約三百點、陳列小間十小間申込むに決し三月十日までに博覽會事務所に運送する事とせる由にて其費額内譯は如左

△陳列小間使用料百六十圓△小間裝飾費六十圓△容器費七十圓△通信運搬費五十圓△備品消耗品費二十圓△雜給十圓△旅費百十四圓八十錢△雜費十五圓二十錢△計五百圓

大正五年二月十九日

●東郡平館村石崎より

▲夜學 石崎尋常小學校にては客年十一月より夜學を開始し居るが生徒は石崎濱、元宇田の兩青年團員四十餘名毎夜二時間の授業學科は終身國語算術外に漢文及水産の特科あり教授には

齋藤校長一人にて之を擔任し生徒は非常の熱心にて殆ど休日なく來る三月までにて一先終了するはず

▲漁況 昨年春來烏賊の不漁につゞいて鱈鱈等非常の不漁にて地方の不景氣甚だしく従つて北海道へ出稼ぎするもの例年に比し五割以上の増加を見るに至り夫々出立の途につけり

大正五年二月二十四日

●郵船運賃値上

郵船會社にては貸船料暴騰の結果今日の運賃率を以てしては到底耐ゆる能はず損失を招く一方なるを以て愈々來る三月一日より東廻運賃約一割方値上げすることに決定せるが其の結果メ粕百石五十二圓雜穀類八十八圓見當なるべしと尚ほ現在東廻航路に使用する船舶の備船期日は四五月頃なれば其後に至りチャーターするには更に現在以上の貸船料を支拂はざるべからざる事情あるを以て新粕出廻期に至らば更に運賃の値上げをなすに至るべしと

●漁船奨励金配當 ▼本縣は六隻に限定

遠洋漁業奨励法に依り大正五年度に於て漁船奨励金を下附すべき船數は本縣下六隻の限定配當ある由但し漁獲物處理運搬船は右奨励金下附する限りにあらずと出願者は左記要項を心得縣廳に宛て來る九月末日までに提出すべし

一、漁船一隻の總噸數は十八噸之に据付くる機關は純馬力二十五馬力のものとして假定せり△二、奨励金率は總噸數每一噸に付金十九圓以内純馬力每一馬力に付金十一圓以内の見込△三、漁船は大正六年二月末日迄に必ず竣工すべきものとす

抜け T. 5. 2. 25-T. 5. 4. 14

大正五年四月十五日

●青森にも蛎が漁れる ▼蕃殖を奨励せよ

蛎は鐘詰となり或は塩漬けとなつて近來盛んに海外に輸出されて居る、東京府では昨年來品川灣にその蕃殖場を設けこれが蕃殖を奨励すると共に昨今では前田技師を主任として研究調査をなさしめこれが北米輸出を試みんとして居ることは近信の傳ふる處である。青森灣は由來此の蛎に縁故がなく全く獲れぬものとして漁師共の念頭にもなく又た移植せんともしなかつた、處が大いに然らずで當港附近が潮流の關係の適當なるとに依りて蛎介には最も適して居り現に相馬町附近と鐵道構内石垣附近からとれてることを發見し前途有望の一事業として問題となつた、發見者は相馬町の今村漁業組合長である、然るに今調査して見ると先覺者があつて今より十八年前に宮城縣松嶋から移植したものと知れた

△移植費は縣補助 青森に東北漁業組合本部といふのがあつた當時書記として奉職した濱町村林重次郎といふ人は漁業の篤志家で職にある間は種々な漁具や漁船の改良に就て發明もし漁撈法なども改善したことが屢々だったので縣廳でも見る處あり縣費を以て水産傳習所の留學生と

して學修せしめたことがあった、各方面の状況を研究の結果去る明治三十二年青森灣に牡蛎移植の有望なる事業たるを認め當時青森灣に於ける海扇調査の爲め出張中なりし農商務省技師岸上理學博士に懇願指導を得て縣廳より何程かの補助をもらへ多數の牡蛎介を松嶋灣から取り寄せ東郡浅所と浅虫の二箇所に移植した、時の本縣水産技手小川彦六氏などはこれに就て随分骨を折ってくれたし亦た激勵もしてくれた

△濫獲の結果絶滅 然るに其後七八年即ち明治四十年頃までは蛎の産卵も認められ浅虫邊では時に旅客の食膳にもこの美味が現れたが當時縣當局者の頭脳には全く此の牡蛎なるものが没却せられ従つて其の保護取締の方法も講ぜられなかつた當然の結果として密獵濫獲の末殆ど絶滅の有様となり蛎なる語さへ耳にすることが不可能であつた、然るに兩三年前今村相馬町漁業組合長が自宅附近の海岸より此の珍らしき蛎を獲られ時々食膳には上ぼせ獨り悦に入つたが前記の如き關係あるものとは知る由もなく且それ程有望のものとも思はずにいた處最近東京新聞に東京府の蛎蕃殖奨励の記事を見て大いに悟る處あり最初の移植なる村林氏と共に縣廳に現物を持参して該介の保護及蕃殖奨励を陳情するに至り茲に始めて問題となつたのである

△今後の保護奨励 然して今村組合長の語る處を聞くに相馬町附近には随分多數の貝が石や杭に附着してあるが其の杭や石が不足なると不完全な爲めに砂に埋没して死すもの多ければ何程かの費用を投じて杭を打ち石を投じて以て蕃殖場となし或る期間の漁獲禁止をなして蕃殖を多からしめて欲しいといふのである、尤も至極のことで縣廳でも早速現場を調査の上一日も早く適當な施設を爲し此の有望なる事業を幫助することが最初縣費補助で移植せしめたことゝ相關連して適切なることであるまいか（局外水産子）

大正五年四月十六日

●漁業家と輕油

各種の石油暴騰し殊に漁業家に必要な石油發動機用の輕油も大奔騰をなせしより此頃の漁業季節に向ひ漁業家の苦痛一方ならず爲めに各地の漁業組合より農商務省に救濟方法を申請するもの少なからざりしより主務省にては先頃日本實田兩社に向かつて漁業船用の輕油値下に關し交渉する處ありしが兩者も漁業船使用の輕油に就ては特別方法を以て供給する事となり即ち各地漁業家に於て相團結し直接兩社に對し輕油賣却を希望し擔保を提供するものに對しては四月中は輕油一函の價格を三圓八十錢とし又擔保を提供し能はざる薄資者に對しては兩社より各府縣に於ける各販賣店を指定し該店より一函に付四圓見當にて賣渡す事とし尚硫酸洗淨を用ひざる輕油を使用する場合には更に前記價格より二十錢宛値下げする事に協定纏まり既に静岡、神奈川、高知、鹿兒島、新潟、茨城、鳥取各縣の漁業組合とは夫々契約し供給を開始しつゝあり而して漁船用の輕油は洗淨せざるものにて宜しき由なれば漁業家は實際輕油一函に付三圓六十錢にて使用し得る事となりたる譯なり

●石油製造高の激増 ▲秋田の石油益々好望

過般秋田縣黒川地方に石油田の發見せられて東北天産物界に一異彩を添へたるが同大正二年中製造せられたる石油は九千七百石同三年一萬六千石なり然るに昨年は一躍激増して四萬六千

石に達したるがこれ噴出量に於て大差なきも秋田市へ製造所の新設せられたる結果従来工場不完全のため原油の儘にて他に輸出したるものが石油に製造せらるゝに至れるためにして今後製造高は益々増加して一方價格漸次昂上の有様なれば頗る好況を呈し居るといふ

大正五年四月十八日

●一期鯨漁減収 △昨年に比し五萬石減

北海道第一期鯨収獲高は二十六萬千五百石にして昨年同期三十一萬三千七百石に比し五萬二百石の減収なり本年は漁期に入りて以來氣候兎角險惡の爲め歌棄、磯谷、岩内、高嶋、祝津方面は漁獲物を投棄せるのみならず漁夫の死傷者を出だせる程にて漁撈意の如くならざりしに基因すべしと右は小樽新聞の調査なり

●第三善知鳥丸沈没 ▲北海道沖合にて衝突

青森冷蔵會社所有汽船第三善知鳥丸（七五噸）及第五善知鳥丸（八一噸）の兩船は北海道漁場主に貸附枠引きに着手し居たりしが一昨日午前五時四十分北海道美國郡幌無伊附近にて第五善知鳥丸は圖らずも第三善知鳥丸の左舷に衝突し爲め第三善知鳥丸は浸水して沈没せり積荷は無かりしも乗組員の油差千葉県香取郡守山村菅谷八之助（二五）は溺死して行衛不明となり他乗組員は生命を助かりたり第五善知鳥丸は船体乗組員とも損害なし沈没せる第三は直ちに引揚工事に着手すべしと

大正五年四月二十五日

●大羽鯿改良網（下） 當港漁業界の幼稚

○御當地従來の網は巾約七間位長さは適宜でアバと足（土焼又は小石）を付けたるものを用ひ漁獲方法としては單に網を海中に投じて船は風のまにまに流され適宜に時間を見計らひよいと思ふ時分に網を船中に引き上げ其の網に引っ掛かったものを獲得すると云ふ順序になつて居ます私の改良網は巾約十七間長さは適宜ですけれども普通三百間であります而して水底に沈む方へは足としてロープを用ひ上の方へはアバの代わりに處々に浮樽に長さ拾間位の繩を付けたものを使用します漁獲方法は網を海中に投じてから船に引きあげる迄は御當地の行り方と少しも違いありません

○たゞ異なる点は船は流れている間に船頭は絶えず試験網（巾適宜、長さ適宜、下部に錘をつけ、上部に竹を付ける、竹の兩端に繩を結びつけ中央部に於て一本となし、繩の長さは水の深さだけ）を以て鯿の往來する水深に注意する、鯿によらず魚類は天候や潮流の加減で海底を往來したり、或は水面に浮游するものであります若しも二十間以上の深さを往來することを確かめると直ちに浮樽の繩を伸ばして往來を遮りて網に引っかけると云ふことである、御當地ではこの方法をやつて居らぬから幸ひに張つてある網に引っ掛かれば獲得することが出来るけれども天候潮流の加減で張つてある網の上下を往來するときは一尾も獲ることが出来ぬのである

○要するに私の所謂改良網なるものは鯿の往來を遮断し飽く迄も鯿を引っ掛けねば止まぬといふやり方でありますし御當地のやり方は一定の場所に網を張つて鯿の引っ掛かるのを待つ

と云ふことに帰着する、前記の大意に依って見ましたならば私の所謂改良網は遙かに合理的に出来て居ることを感ずるであらうと思ひます併しこれとても未だ以て完全無欠と斷言することは出得ませぬから研究の度を重ね不備の点は着々と改良するつもりであります但し兎に角只今のところでは私の改良網なるものは御當地のものより勝つて居りますから御参考迄に發表し併せて識者の教を乞はんとするものであります

○前述の通り私は本年この改良網を使用して青森灣内で漁獲するつもりでありますその結果は後日發表し様と思ひます改良網に就て不明の点がありましたならば喜んで説明をいたします。
(市内蜆貝町梅田武太郎氏談)

●北海鯨の豊漁

北海道各漁場に於ける鯨漁は一時時化の爲め不漁の様相なりしが三期終漁間際に於て大漁ありし爲め昨年の當時に比し殆ど五千石程も増獲となりたる由にて小樽久々津商店にて去二十日迄調査せし收穫高を市内關準商店に報道し來りたるが其の内譯は左の如し

檜山外六郡一萬三千石 島牧一萬五千石 壽都三萬石 歌棄五千石 磯谷一萬石 岩内二萬八千石 古宇二萬三千石 積丹四萬五千石 美國四萬石 古平四萬二千石 余市三萬二千石 忍路一萬六千石 高嶋二萬石 小樽一萬四千石 厚田三千五百石 濱益二萬三千石 増毛五千石 留萌二千石 鬼鹿三千石 天賣二萬石 焼尻二萬三千石 利尻二萬四千石 禮文三萬五千石 海馬嶋二百石 合計四十七萬一千五百石 昨年四十六萬七千五百石 樺太四千石

●鯨初漁

過日來より出漁中なりし鯨事業場所属捕鯨船曙丸は金華山沖に於て長鬚鯨一頭四十三尺を捕獲し二十三日午前四時半頃鯨事業場に引き上げ解剖に附したりと

大正五年五月一日

●北海一期鯨漁

本年の北海道鯨漁は最初天候兎角に時化勝ちのため抄々しき漁獲なく薄漁に終わるなきやと悲觀せられたり然るに第一期漁は二十二萬五千石にして前年同期に比し五萬千八百九十四石の減少を示せり

△檜山、爾志、久遠、太櫓、瀬棚本年六千五百三十石 昨年八千九百七十石

△忍路、余市、古平、美國、積丹、小樽、百島、岩内、古宇、壽都、島牧歌棄、磯谷、本年十六萬一千九百九十七石 昨年十萬九千三百七十九石

△留萌、増毛、苫前、本年三萬二石 昨年二萬六千一百一石

△厚田、濱益本年二千二百石 昨年一萬四千九百六十五石

△利尻、禮文本年二萬五百七十石 昨年一萬六千五百石

△函館區本年三石

△昨年二十七萬六千八百九十四石 本年三十三萬五千石 差引五萬千八百九十四石減

然るに最近に至りて天候恢復の爲め漁況を見直し好漁を得たる爲め第一期漁は合計四十四萬五千石に達し昨年同期に比し八百石を増加せり

檜山五郡九千百石、壽都三千石、島牧一萬四千石、歌棄五千石、磯谷一萬石、岩内二萬四千石、古宇一萬三千石、積丹四萬五千石、美國四千石、余市三萬五千石、小樽、高嶋三萬五千石、濱益一萬五百石、留萌二千石、天賣、焼尻四萬三千石、禮文四萬石、古平四萬石、忍路一萬六千石、厚田三千石、増毛五千石、鬼鹿三千石、利尻二萬二千石計四十四萬五千一百石
昨年との比較増減は左の如し

茅部より檜山五郡四千七百石減△壽都一部七千石減△岩内、小樽間二萬九千石△厚田以北奥地四千五百石減△島口一萬二千石減差引八百石増収

大正五年五月二日

●魚附林の奨励 ▲新植林の計畫

我國に於ける水産事業の設備は既に完成に近き迄進捗したるも唯魚附林に於ては今後大いに發達の餘地あり去れば當局は之が奨励の方法を定め各河川嶋嶼等に於て新植林をなさしむべしと

●大仕掛の鯨盗人

市内新安方町平民日雇山本丑五郎（三八）全町漁師野口三次郎（五六）全木村富作（十九）全町日雇秋田屋勘四郎（三三）柳町菓子職今三次郎（五六）蜷貝町日雇菊地萬左工門（四八）の六名は共謀の上一昨日午後二時頃當港碇泊汽船海上丸より坂上問屋の鯨を陸揚中二組に別れ空舡と鯨積込舡と途中に拘替へ二回に鯨四千百九十八尾三十三圓五十八錢代窃取し野口三次郎方に隠匿し居たるを上杉齋藤二巡查に探知され検事局に送らる

大正五年五月四日

●水産化學研究

農商務省は水産試験場長會議に於て協定せる水産製造物に化學的研究を要する種類及其の實行方法に關し各府縣に通報せり其の要項左の如し

△蝦罐詰の軟化に關する研究△鱈油漬罐詰の製造後に於ける熟成の状態及用油の變化に關する研究△鯉節製造に普通法と濕乾法と其製造に及ぼす變化の有無△調味材料たる魚油醬油砂糖味醂等に關する研究△魚油及海豚皮に關する研究△沃度加里及臭素の新原料に關する研究△廢物を利用し有用品に化製する研究

●鯨漁場の船歌

北海道の鯨場で唄ふ歌には三種ある第一には木遣り音頭であつて鯨が乗った網を起こす時船頭が勇んで唄ひ漁夫が一齊に應じて囃すもので爽快無比陸上無心の道行く人でも之を聞けば心自然に勇み立つもので況して漁場主は之を聞く度び嬉れしさうに譯もなく涕のこぼれる事がある終年榮々辛苦してもアノ木遣りを聞く愉快の爲めに此稼業が止められぬと云ふ人さへある位だ第二は沖上げ歌で杵から大ダモにて汲む船に汲み取る時の聲のよい一人の若者が案配棒で小邊りを叩いて調子面白く唄ふもの第三は船歌であつて晩春海上油の如き時漁夫の大勢が櫂拍子を揃へて悠長に漕ぎ廻る時今は忙はしき漁も濟んで気も心も春の長閑さにゆっくりとした調子

で囃す歌云はば鯨漁場の凱歌である

▲大木遣節の二三

船頭 急がず忙はてずヤーハンエ、急がず忙はてず大事な物よー

漁夫一齊、アーリヤーリヤー、アリリヤドッコイ、ヨオイトコ、ヨオーイトコヤー

以下此調子で其尤も多く唄ふ文句を記すると

扇と云ふたらヤーハンエー扇と云ふたら要の事だよー

ドット耐へたヤーハンエー耐へたも理じゃ千兩萬兩の金じゃもの

白山白雪朝日でとける娘島田は寝てとける

しはく七島讃岐で屋島阿波で徳島二十五島

▲沖上歌の十數

音頭取り ヤアーレイソウランソウラン咲いた櫻に何故駒つなぐ傘は落ちずに鼻落ちたチョイ

囃し ソーリャンサードッコイショウ

以下此調子でよく用ゆる文句を上げると

雇々と馬鹿にはするな家へ歸れば若旦那

津輕雇と鹿部の鳥はいつも春來て秋もどる

稻荷さん拝むより雇を拝め雇ヤ神様福の神

親の代から雇はしない馬鹿にしやんすな嬢もある

津輕手長に秋田は火つけ雇ア南部に止めさす

私ア雇でお前はガの字共につとめで苦勞する

雇したとて麥飯や喰はぬ三度々々の米のめし

昆布で屋根ふいて細目でめて雨の降るたびだしが出る

沖の鷗に汐時間けばわたしや飛ぶ鳥波に聞け

●鮭稚魚標本頒布 本縣水産試験場にては相坂川岩木川等に鮭の放流を実施しつゝあるが今回小學校に於ける學術參考用として右稚魚の標本を有價配付するに決せる由該標本は鮭の受精時より孵化遊泳時を經過し放流時に至るまでの實物を標本に造れるものにして水産教授上有用のみならず前記の如く本縣にて實行しあるものなれば旁々良効果あるべく實費一圓五十錢の外荷造送料若干を要す希望の小學校は縣廳内全場に申込むべし

大正五年五月五日

●陳列場所の配置

奥羽聯合共進會六縣主任官會議第一日の協議事項中の配置左の如く決定したりと

▲第一會場（第一號館）正面右の陳列館入口より農業、林業、諸工業中藁工品及木工品の順序に陳列す（第二號館）全左の陳列館入口より水産業、飲食品、蚕糸業、染織業の陳列、順位は宮城岩手青森秋田福島山形

▲第二會場（前記品を除く）順位は山形青森福島秋田岩手宮城

▲第三會場 陳列順序は秋田福島宮城山形岩手青森苗木は第一會場陳列館に沿ふて設け場所は之を配當せず

▲陳列棚 各部は縣名の旗を以て表示並に裝飾として各縣の裝飾を為さざることにし其の結果旗色を左の如く協定せり

▲宮城桃色▲岩手赤色▲青森綠色▲秋田紫色▲山形樺色

●臺灣共進會延期 去月十日より開かれたる臺灣勸業共進會は來たる九日を以て閉會の筈なりしが内地人の視察團體續々渡臺する有様なればそれ等の便宜を圖り十五日まで延期の旨發表せりと

●海軍記念日と軍人會

本月二十七日は彼の日本海の大東戰爭當日にて本邦に於ける海軍記念日となし居れるが青森市軍人會にては近く役員會を開き當日の祝賀會に就き協議すべしと

大正五年五月十日

●第二期練漁高

其後北海道に於ける第二期漁も昨年に比し三萬四千石の増収にて昨日小樽岩井出商店より當地關準商店に宛てたる調査報告は左の如し

	本年度	昨年度
檜山五郡	九千百石	一萬四千九百石
島 牧	一萬二千石	二萬石
壽 都	三萬石	一萬五千石
歌 棄	九千石	二萬千五百石
磯 谷	一萬五千五百石	一萬八千五百石
岩 内	三萬石	四萬石
古 宇	四萬三千石	四萬五千石
積 丹	四萬三千石	一萬九千石
古 平	四萬石	一萬九千石
余 市	三萬六千石	三萬石
忍 路	一萬九千石	二萬四千石
小樽高嶋	三萬九千石	二萬四千石
厚 田	一萬二千石	二萬石
濱 益	三萬七千石	三萬五千石
増 毛	二萬四千石	三萬八千石
留 萌	一萬三千石	一萬八千石
鬼 鹿	一萬石	二萬三千石
力 晝	六千石	七千石

苦	前	七千五百石	四千石
羽	幌	八千五百石	九千石
初山別		三千八百石	三千石
天	賣	二萬六千石	
焼	尻	三萬石	三萬五千石
禮	文	八萬石	六萬三千石
利	尻	十萬五千石	十一萬五千石
宗	谷	五千五百石	一萬二千石
合	計	七十四萬千九百石	七十萬七千八百石

大正五年五月十一日

●外船の遭難 △津輕海峽にて

上海エベレフト汽船會社の所有汽船ゼーオーダブリューフワイツカ號（二千九噸）は浦塩より布哇へ向かふ途中津輕海峽に於て八日猛り狂ふ大時化に遭遇し山為す激浪怒濤の為に船體木の葉の如く翻弄せられ遂に甲板の石炭四十噸を浚はれ漸く航行を續けて九日朝室蘭港に避難入港したるが幸ひに船體には異状なきを以て同港にて石炭の補給をしたる上布哇に向かふべしと

大正五年五月十二日

●北郡脇元海岸の難破船

朝來の暴風雨益々激烈を極むる去る八日午後十一時北郡脇元村大字磯松藤田彌八氏の軒端近くの海岸に乗り上りたる一隻の船あり同船は石川縣珠洲郡三崎村船木長七氏の所有にして噸數八十六噸昨年製の製造に係り今回船長坂口永作氏外六名搭乗し玄白米百八十三俵、瓦四百石外多數の縄蓆等を積載し北海道函館方向に向かひ去る五日郷里出帆航行中圖らずもこの災難に罹りたる次第なりしも乗組員一同無事なるを得たるは不幸中の幸なりし而して船體の様子如何は目下怒濤猛烈の為に詳細に探知すること能はざるも陸上より之を見る時は甲板は既に大方荒浪に攫はれ船底は深く砂中に埋没し到底この分にては歸港覺束なく村全体其の救濟策に奔走中なるも若し解體の暁には優に八九千圓の損害となるべしと

●禁漁の海鼠採取

市内新町八十九番戸人力車夫工藤嘉七（二四）蜆貝町全高寺喜市（四三）の兩人は客を乗せて連絡待合所に行きたる序でに全所石垣附近にて目下禁漁中の海鼠を見付け兩人にて之を採取せしを見付けられ青警に呼び出されてお目玉を頂戴

●食塩搭載船の出入

淡谷扱の武野丸は前報の如く食塩二萬千八百九十噸陸揚げ中の處十一日函館に向け出帆全扱の嘉辰丸は食塩搭載全日三田尻より入港

大正五年五月十三日

●中甸輸送貨物

青森運輸事務所管内五月中旬輸送貨物は上り連絡貨物優勢にして木材類多數を占め管内發送も又木材多く且上り連絡貨物優勢なれば動もすれば停滯を生ずる恐れあり持込み豫想噸數左の如し

内外米	八八六	薪炭	三、六六一
木材	一一、五三一	石炭	三、〇〇〇
肥料	八二二	其他	一〇、七七二
合計	三〇、六一二		

●太田善助氏の名譽

市内榮町太田善助氏は全町委員長たること連續十ヶ年に及びたれば町會の決議を以て全氏の功蹟を永遠に記念する為め純銀製大盃を贈呈する事となり先日全町の鎮守社なる公園入口稻荷神社の記念祭の折り神前にて之を贈呈したり

●帆船全榮丸遭難 △九死に一生を得て入港

山口縣都濃郡大華村橋本文六所有帆船全榮丸は去る三日三田尻の小田港に於て青森揚の五等塩を八十斤三千三百四十五呎を積取り當港に向け出帆せるが八日午前三時頃越前三國沖に於て暴風怒濤に遭ひ帆は二段も切破され傳馬船は流失舵は折られ沈没もせまずき慘狀を極めしが船長本岡徳一初め船員死力を盡して應急手當をなし終日漂流したるが全日午後六時頃となりて漸く天候恢復したるを以て舵を急造の上十一日午前二時當港に着せりと

●新安方沖の難破 △一名溺死し一名蘇生

十二日朝七時半頃青森停車場構内鐵道防波堤の中央より沖合僅か五六間の處にて舢一隻轉覆し一名溺死し一名は蘇生せるが右は東郡油川村大字大濱三十五番地平民船乗中村勘之丞(四一)及全人長男勝雄(一六)の二名にて早暁より通船に鑛石を積み込み舊ドックより新ドックに運搬中なりしが朝來風強く浪高かりしを以て防波堤外に出ずるや忽ち翻弄されて舢は急激なる北風の為めに打ち付けられ轉覆せしかば乗組居たる勘之丞及勝雄は力限りに岸に泳ぎ付かんとしたるも生憎勘之丞は水泳を知らず僅か岸より數間のみなれども岸に泳ぎ付くことも叶はず苦し紛れに勝雄の足にしがり付きたれば勝雄は海中に引き込まれしたゝか海水を呑み之も自由を失して人事不省となりたるも折しも水上巡邏船隼丸は此の慘狀を發見して直ちに傍らに近付き乗組員一同手を盡して辛くも兩名を救ひ出し水上署派出巡查と共に看護の結果勝雄は幸にして蘇生せるも勘之丞は其の儘返らぬ旅に赴きたれば死体は家族に引き渡せり

大正五年五月十四日

●花も團子も ▲合浦公園は丁度見頃

十三日は土曜日に加へて朝來の晴天であつたから合浦公園は近來の人出であつた△國道を北に折れて松並木にさし掛れば馴れた目には眞正面に招魂堂の無いのが如何にも物淋しい△氣も

袂も軽々と春風に吹かれて園内に入れば先づ不老亭下の八重櫻が目につく咲けるあり蕾めるありだが先づ六七分と云ふ頃で今が丁度見頃である△トラック傍や西門附近の一重は盛りを過ぎて白ばんで居るがあるか無きかの風にもひらひらと散る様又棄て難い趣があつて咲くばかりのみ花かと云ひたくなる△正門左側の大蒲焼の旗が頻に食欲をそゝる海岸に出づれば八百善の釜飯菊水の都團子等夫々人を呼んでる花より團子と菊水に腰を降ろせばラジューム温泉が湧いて居ますと云ふ一風呂浴びて汗ばんだ身体を寛げ乍らながむる花には又一入の風情がある△此の日田舎の學校か二つ三つ遠足に来てあつたが海珍しい子供等が膝まで水に浸りながら小波に騒いで居るのも春の畫面に調和して見えた其他老人あり丸髻あり娘あり子供ありで合浦公園は花がなくとも充分面白かつたに違いない程の賑はひであつた

●商船の遭難

十二日午後二時半頃下北郡大間字下手濱沖合にて帆船富榮丸百四十六噸は暗礁に衝突し船底破損せるも其の儘航行を續け當港に入れり該船は愛知縣常滑町竹村仁兵衛所有船にして船長中野徳次郎以下九名乗組み四月十二日午後八時千葉縣館山港より房州砂三千四個陶器八貫匁入り百七十個を積み當港へ向け航行中前記の遭難ありしにて其際積荷なる砂千個を海中に投じ船足を軽くせるため其の損害五十圓なりと△下北郡大畑村字湊西正勘蔵外三名が小廻船九寶丸に乗組み檣材二十石を積載して十二日午前五時大畑を出帆し青森へ向け航行中九時頃西風殊の外激しく高波の爲め下風呂海岸沖合二十間の岩石に突當り船底を損せしも航行に堪え其儘當港に入港す

●帆船遭難に就て

去る十二日食塩を搭載し入港したる帆船全榮丸の遭難せることは既報の如くなるが尚ほ汽船竹の丸乗組員の談なりといふを聞くに去る八日の暴風雨にて羽前國入道崎附近に於て二本と三本檣の帆船二艘遭難せるを見たるも時化の爲め救助すること能はざりしが食塩搭載の帆船金比羅丸より早く入港すべき豫定なるも今に入港なければ或は同船にあらざるかと目下當地の扱店淡谷方より三田尻に於ける同船の扱店に照會中の由

●勘察加出漁夫 ▼約二割方減少

本年は勘察加漁場一割方減少せるに加へて漁場料及備船料騰貴の爲め一般に縮小せらるゝは等しく豫想する處なりしが今其の状況を聞くに昨年出漁々夫數は約一萬二千人なりしも十二日迄旅券下附手續きを願出でたるものは極めて少数にて此の□□□は餘名なるべしと昨年に比し二割方減少せ□□□

大正五年五月十八日

●東北漁業組合講習會 ▼農商務省主催

來たる八月月上旬農商務省主催にて東北六縣漁業組合講習會を仙臺市に開催せらるゝことに決定せしが其の目的は漁業組合の機關たる理事養成にあるも同時に組合事務を擔當する吏員をして聴講せしめ必要知識を授くるを主眼とするものにして講習科目は漁業法、漁業組合令、漁業組合經營論、簿記法等なるが之と共に知名の士を招聘し人格修養上に資する精神的講話等をも

加ふる筈なるが之に参列する講習員は旅費宿泊の費用及聴講に必要な筆紙墨費を負担するの外講習料は徴収せられざるものとす此の開催は今回初めての企なれば特に講師として農商務省より数名の吏員を派遣せらるゝことに内定し居れり而れば漁業組合の理事監事は勿論吏員等競ふて之が聴講を為し縣下漁業組合制度の發展の動機たらしむるの覺悟あるを望むと縣當局は語れり

大正五年五月十九日

●海事水産博覽會

所謂海の博覽會である、何とかの模型が澤山あって海事思想を發達せしむると云ふ點に於て有難い程有益であるが今少し大人気のある博覽會で欲しい、忌憚無く云へば兎戯に類した子供騙しのやうなカラグリに過ぎない、陳列法も比較的拙劣である、青森縣の出品陳列は真面目な點に於て優秀なるものであると謂ふべきである、之は決して視察費を貰つたお世辞ではない、某縣の陳列などは干魚？か何か赤いリボンをつけて居るのも見受けたこれはこれは赤恥を公衆の前に晒すと謂ふ符號であらうが馬鹿も休み休みにせなければならぬ、一覽熟視海事博覽會に何者かが足らぬやうな気がしてならぬ、海博の大入り叶ふは海事水産の其のものゝ為めにあらざして新橋柳橋は申すに及ばず東都粹界の粹を抜いた藝者の手踊所作事が當るのではあるまいか？

▲水産博受賞者

本日水産博覽會受賞者發表せらる青森縣の分左の如し

▲金 牌 (四人)

鯛	大畑	扇谷	兼太郎
同	同	角本	伊太郎
鮑	田名部	河野	榮藏
海參	青森	近藤	善吉

▲銀 牌 (十三人)

乾製塩蔵物其他

相馬七右衛門	傳法	安五郎
大畑漁業組合	橋本	由松
野邊地町組合	長谷	丸松
加賀 富太郎	佐久間	要一
津幡 文長	中島	清助
石橋 要助		

罐詰瓶詰漬物食料品	吉田	直次
肥料	石橋	要吉 (助?)

▲銅牌 (二十七人)

乾製塩蔵物其他

加賀 直吉	森谷 浅次郎
西山 助十郎	柳澤伊左衛門
宮野 政太郎	能登 佐次郎
平田 善太郎	石戸 仁太郎
吉澤 要作	久保田 周蔵
築館 紋蔵	大山 富助
大下 常吉	花田 善吉
富岡 新太郎	奥寺 金五郎
田中 元吉	秋谷 清次郎
永末 源次郎	近藤 善吉
鯉節 (銅牌)	長谷 丸松
同 (同)	木山 富助
同 (同)	神田 重蔵
肥料	
富田 新太郎	粗川 徳松
扇谷 兼太郎	扇谷 兼蔵

▲褒状 (六十九人)

乾製塩蔵物其外

橋本 三郎	阿部 勇次郎
松本 市太郎	二本柳 竹松
白濱 八太郎	相馬 伊之松
川岸 宗一郎	川岸 勇五郎
濱中 重治郎	秋谷 清次郎
柏谷 運次郎	浪岡 竹次郎
吉田 徳蔵	田端 直吉
気仙 吉次	田中 利吉
清水 喜七郎	小島 力蔵
久保田 周蔵	橋本 忠雄
佐藤 又吉	橋本 定雄
龜岡 定雄	伊藤 文一
鯉節	山根 守三
同	半川 徳松
同	澤田 嘉蔵
同	大下 常吉
肥料	

清水 喜四郎	工藤 平吉
田附 慶一郎	
魚 油	
龜田 龜吉	高橋 重之助
山本 萬之丞	佐々木 勇三
嶋山 直一郎	島谷 米吉
烏賊取網の發明	
松井 竹三郎	
海藻類	
深浦水産補修學校	橋本 小次郎
山本 與吉	山崎 長五郎
七戸 市太郎	新田 市之助
若山 常太郎	七戸 初太郎
竹内 梅吉	吉田 直次
黒澤 常松	池田 武蔵
竹内 周吉	菊池 金七
青山 吉平	宇山 林次
黒澤 常蔵	槇生 三郎
榎谷 虎造	杉本 菊松
三國 菊蔵	鐵砲 金蔵
石谷 石松	田中 金四郎
北川 和吉	坂谷 巳之松
老部 ムラ	白崎 藤四郎

大正五年五月二十日

●海博褒賞授與式

上野不忍池畔に開催中の海事水産博覧會にては十八日午前同會本館に於て褒賞授與式を舉行したり先づ午前九時半總裁東伏見宮依仁親王殿下の御臺臨あり優渥なる令旨を賜ひ次で牧副會長より褒賞を授與し終つて來賓大隈首相箕浦逋相加藤海相河野農相の祝辞及受賞人惣代近藤廉平男の答辞あり正午式を終り午後一時より餘興に入れり本縣の受賞者は昨紙電報の如くなるが東北方面の受賞數は左の如し

- ▲青森縣 金牌四、銀牌十三、銅牌二十七、褒狀六十九
- ▲福島縣 金牌一、銀牌五、銅牌九、褒狀八
- ▲宮城縣 金牌二、銀牌八、銅牌二十七、褒狀四十二
- ▲岩手縣 銀牌二、銅牌五、褒狀十五
- ▲山形縣 褒狀三

▲秋田縣 銅牌五、褒状十二

●漁夫浪に呑まる

三戸郡豊崎村大字豊間内村丑松の次男若松寛次郎（一八）同郡田部村森口長太郎四男一澤倉吉（一九）は北海道原田郡原田村佐藤東吉鯨漁場三十間沖合に繋ぎ置きたる三平船を洗滌中風浪烈しく漁船轉覆溺死を遂げ十六日死体漂着假埋葬せり

大正五年五月二十三日

●奥羽共進會彙報

今秋の山形市に開かるゝ、奥羽六縣共進會の出品に關しては各般の方面に於て本縣物産の紹介となるべきを以て當業者は夫々非常の發奮を以て出品物精撰中なるべきが右に關する申込書は本月中各郡市に於て取纏め縣廳に送達の取運中なりといふ

▲水産物に關しても水産製造物の第二十五類及第二十七海藻類の解説書は調査書を以て之に代ふる事を得るに變更し當業者の煩冗なる手數を除く事としたれば出品者は注意して可ならん

▲賣店設備の一斑を揚ぐれば本縣にては間口十二間の設備をなし此所に棚、電燈（イルミネーション共）、電話等の裝飾を施して縣産物の紹介に努むべく賣店に陳列すべき種類は 漆器、蔓細工品、履物、果物、海産物、酒類、菓子、罐詰類等にして合同販賣すべく而して漆器は當業者四名蔓細工は弘盛合資會社、果物は販路擴張會、海産物は齋藤實郎出張すべく他は出張者に委託販賣し其の價格は出品物と同様にして賣上の一割を受託者に交付の定めなりと

●鮮魚輸送改正

農商務省水産局にては鮮魚の荷造り及輸送方法を改良し左の通り之を實行する事に決定したり

ヘンダーソン鮮魚輸送法（施行府縣長崎、青森）△バクレー鮮魚輸送法（施行府縣青森、山口、石川、長崎、富山、宮城）△竹館荷造輸送（施行府縣山口、滋賀）

右の内一二の實行方法に就ては本省より五月中に通知する事尚試験用貨車の回送は農商務省より鐵道院に交渉し又運賃等に就ても廉價貸附方を交渉する事とせり

●産業功勞者表彰 ▼山形共進會の際

農商務省にては今秋の奥羽六縣聯合共進會に際し全會出品物及全種類の生産に關係ある功勞者を表彰すべく目下關係六縣をして當該功勞者の調査中なるが被表彰者は單に現在の從業者に拘らず場合により過去に遡りて表彰することあるべしと云へり

大正五年五月二十四日

●野内川の白魚狩 △度量衡器修覆所の催し

○市内鍛冶町の青森度量衡器修覆所で工場員一同の慰勞として年中行事の一つなる野内川の白魚狩を催した西所長に工場員其他總勢二十四名に藝妓數名

○此の日南東の風が稍烈しかつたけれどもどりぢり照付けの晴天で、裾を捲くって吹く川風

も却って嬉しかった程の暑さであった。白魚網を肩に掛け、磧に立てば初夏の川風涼しく鷗鳴く、焚火につける酒の爛、嬉しい風情ぢやないかいな。立所に我が物の替へ歌が出来る。

○野内川は由來白魚の名産地だが、川原が廣々として水明らかに小石清く、川は幾筋にも別れて渡れば渉られる浅瀬續きに網を立て、上り下りする心地よき。陽は照付けても流れるべき汗が無く、風は吹き荒んでも飛ぶべき埃が無い。

○立代り入代り網を引く内に何時しか行李の生簀に一杯になる。初冬の氷柱の様な白魚を網から集めて手に取る時は、消えやしまいかと怪ぶまれる。稀には五六寸も大きい岩魚が我から飛び込んで引かゝる等筆にも口にも盡せぬ愉快さがある。そんな時は同勢總立ちとなつての喚呼、正に畫中の物たるを失はない。

○得物の嵩むにつけ、炊事係は小石を集めて川原に竈を作り枯木の焚火に白魚汁を煮る。野内川の白魚野内川の水で煮られるも前世の因縁であらう。汁が煮えれば一同網を納めて宴會に移る。鐵橋の蔭に莫座を敷いて野天のお座敷を造り、折を開き政宗を抜いて白魚汁に舌鼓を打つゝたつた今自分で取った白魚汁、何と甘いではないか。

○汁の盛替へも烈しかったが盃の献酬は更に烈しくて同勢忽ち陶然となる。酔ふて熱てつた顔を涼しい風が撫でる様に過ぎてゆく。川口を見れば鷗が舞い上がり舞い降り川原には名も知れぬ鳥が囀つり合つて歸りともない眺めであった（秋蝶）

●漁夫歸還

北海道に於ける出稼漁夫は昨今ボチボチ歸還し來れり此等は何れも近場に於ける出稼ぎなるが來月上旬より追々歸還し來たる為るべし

●輸出入貨物

淡谷扱の東運丸は身欠鯨千四百個を積み二十三日岩内より入港白米三百石を積み全夜函館行

大正五年五月三十日

●椿山遊覽記 杠 花

(一)

曇り小雨の天気豫報に嚇されて、日曜日の半日を書齋に閉ち籠らうと思つても見たが、目覺めて見れば雨戸の隙から強烈な日光が差し込んで居るので、寢衣を洋服に着替へ、朝食も軽くすまして、漸くのことに六時半の汽車に間に合ふた。浦町驛で七八人、鬮を廢して入り來たる一行がある。土工監督体のあり、巡回活動寫眞隊員体のあり、思ひ思ひの旅装ひが口々に、「居た居た」。朝寝坊といふ綽名は嫌な思のするものである。

宿醉未だ覺めざる態の泉子辻子、瀟洒たる和装の函子、脚胖鞋の堂々たる旅装束に身を堅めたる肖袁春來魯羊、それに藤子崎子を加へて、話が轆轤たる車輪の響きと混線する。山も海も水も梢も無我の話中に送迎し、待つともなしに汽車は海から遠ざかりて、今し雑木林と柴原と耕した田と嘶く駒と、眸の及ぶ限りの沃野を横切りて駛り走る。高森の裾野低く濃霧が立ち込めて、湿っぽい東の風が疾い。一山隔てゝこの空模様、天気豫報の虚ならざるを今更らしく思ひ知つた。

(二)

小湊驛に着いたら原子が加はり、辻子を棄て、一足先に田舎路を辿る。降る降らぬの問題ではない、風の肌に冷たいのを気にしながら、「雷電宮」の鳥居をくぐる。直々たる杉木立を足に任せて往くと數町、之を過ぎれば雑木林になり、忽ち眼界一變して一筋の川となって、遠く小波のする海に注ぐ。

踏めば音ある板橋をわたれば、正面が天を摩する神杉を型どりて雷電宮、右手の川口には浮島のありて翠滴る老松が生えてる。得ならぬ眺望に暫し杖をとどめ、由緒の深き神靈に禮拜國家隆昌を祈願して、更に海に沿ふた一筋路を辿る。浅所といへる部落がある。此處で或る家に憩ふて、辻子を暫し待ち合はしたが、却々遽に追ひつきさうもない、若き美しき主婦に謝して出立つ。

大正五年五月三十一日

●椿山遊覽記

杠 花

(三)

川口の浮島は「松島」と稱し、神社より此のわたり一帯の景勝を保護照會する為めに、保勝柵が設けられてあり、島の周圍に柵を巡らすなど手を入れてある。林風知縣が嘗て此處に遊び、雄大にして明媚なる風光を讚美し、保勝費の内へ若干の金を寄贈されたといふ話し。鰯漁の話、帆立貝の話、是等種んな話を交換しながら、足の達者な肖函魯春の諸氏に數十歩を輸して、二上り三下りの歩調をとりどりに、左手に樹茂る山の翠色、右手にはいさゝか波柔らかにひた寄する磯の香を、奇しく妙なる神のみ手の賜と感じつ行く。

泉子に心して辻子を待つべく、白砂布く磯邊に降りて、暫しがほど砂の上にまるびつゝ貝を拾ふた。隼のやうな東風が少し風いだけれど、狩場澤あたり一帯の岸が波に煙りて、さながらに水が天に接しとるかのやう。斗南半島の巒々は、勿論見るべくもあらぬに唯一刷毛の濃ゆい煤烟が野邊地あたりをさして急ぐが見ゆる。暫くして辻子が數氏を携へて來合はせる。舟夫等が沖の船出の目標にするといふ崎の樹立を右に見て、うねり上るいさゝかの坂路となる、改修の必要があるなとうち語らうて更に進む。

(四)

渚を走る一筋道ではあるけれども、脚早い先頭の諸氏の影が樹立に遮られて呼べども應へがない。迷いたくも路がないから安心なものゝ、何だか気にかゝるやうな、さうでもないやうな気持ちで、翠深い梢の露の滴る小砂利路を、靴の踵にきびきびと踏み行くと、行く手を遮る突兀たる岩山がある。高さは七八十尺もあらうか、海に臨んで動かぬ雄々しさ、近付き見るに天斧の巧み妙を極めてるのに、中腹に一つの洞窟があり、其の上に扁柏の若樹が亭々と茂り立っている。

訝しげに洞窟に入れば、暗さは闇いが却々に廣い、先なる辻子燐寸を磨って説明を試みる。往昔一匹の犬が、此の海岸から一葉の扁魚を啣へて此の窟に入った、そして數日かの後南津輕郡の王餘魚澤に出たといふ、真偽の程は保證の限りではないと聲高らかに笑ふ。名を「立石」

といひ此の附近の名所である、そして此の訝しき窟が訝しき俚話を持つてることが、如何に吾等に興じさせたであらう。泉辻二子と岩上に攀じ上り、恰も同行してた須藤寫眞師の手に依つて、雄勁なる背景と共にカメラに収められた。

大正五年六月一日

●西海の鮪初漁 ▲大鰯の豊漁

本年は鮪の漁期稍遅れたる感あり五月二十日過ぎより一般に投網漁場共初鮪を焦慮しつゝありたる處二十八日午後五時頃鯨ヶ澤辯天沖菊谷榮七氏の經營に係る大謀網にて大鮪七十尾漁獲せり此の日は靄景色にて暖く東の微風海面を撫で水上小波を漂はし漁魚には屈強の好日和なりき果せる哉番船より知らせの幟を掲ぐ夫れ占めたりと起こし船の若者勇みに勇み漕ぎ出し待つ間程なく三十の漁夫櫂を逆さまに船板を叩き調子を取りながら囃しを添へ漕ぎ來る陽気さ加減自ら人気を浮きたしむる觀ありき船着き場所は町の中央にして尤も好位置なるを以て見物人の往來夥しく一時雑沓を極めたり此の日は海岸一般の漁獲にて長谷川義氏等の經營に係る籠島二十七とど島五十關村の大謀網五十七柳田（寺澤榮氏の經營）百三十尾の漁獲ありと傳ふ本年は鯨大の鰯豊漁にして流し網の漁獲一艘に付毎日一萬乃至二萬尾にて漁師の喜び一方ならず畢竟するに流し網を奨勵したる前郡水産技手南部寛氏の置き土産なりと

●白鷗丸の初漁

本縣水産試験場の遠洋漁船白鷗丸は既報の通り竣工式を擧げしが三十日夜鰯流し網の染料試験旁青森灣内安方海岸より七湍沖にて網卸を為せりに大鰯一萬三千尾の漁獲ありし由

●龍飛境界訴訟事件

東郡三厩村と北郡小泊村とは豫ねてより漁場關係にて領域境界を争ひ曩に縣參事の裁決もありたるがその後行政訴訟提起中評定官清水博士の實地検証も經たるが未だ結審に至らず三十日開廷原被告の對審ありし由

●十年間胡桃ばかり ▲果食主義今香取丸船長

日本郵船會社では欧州航路船の船長一人に對するに一月百圓餘の食費を見込んであるので随分贅沢な御馳走を常食とする事が出来るのであるがたゞ一人香取丸船長今武平氏（弘前市出身）だけは斷じて洋食もとらなければ和食も口にせない十年一日の如く胡桃を常食として居るので日本郵船の胡桃キャプテンと云つて内地人よりも却つて英佛人間には有名になつて居る、今回來朝した外務省顧問のベーチャー博士の如きも熱心な菜食實行家であるので殊更クルミ船長の船に乗つて赴任したいとの希望で香取丸で來朝したと云ふ事である氏は語る私が胡桃を常食とする最初の動機は十餘年前印度航路の船長をして印度に通つて居る中釈迦に就て種々研究を積んでみた處佛教の菜食を奉ずるのは崇高なる靈的に生きん為め的手段である事を悟つたので若し普通の人間にも智識的に又は道德的に其のオーソリチーを究めんとするには

▲菜食に限る と思つたのであるが更に私の郷里青森縣地方には胡桃が澤山産出すると云ふ事と胡桃が所謂果物、野菜類の中で一番人体に必要な滋養を有して居ると云ふ二個の理由は愈々私を果食に導いた譯である、胡桃には糖分も塩分も適度に含有して居るので其れ意外に取るの

はよくないと思って塩と砂糖を一切飲食せない事にして居る、私が果食をとって居ると云ふので内外人から種々問い合わせが来て

▲試みた人も 少なくはないが大抵永續がせぬらしい、私は釈迦なり耶蘇なりプラトーンなりが大宗教、大哲學を生んで居るのは全く菜食實行の賜物であると深く信じて居たので最初から挫折せずにモウ十年餘も胡桃ばかりを食って茶も飲まず、水も飲まず、ただ時々野菜を一皿位と極少量のパンをとる外一切何者も飲食せない事にして居るが一回十銭位の胡桃を一日三食すると

▲精神は爽快 で持病の腸患もソレ以來全治し風邪もひかぬと云ふわけで全く息災になったので私は大隈伯の百二十五歳以上更に長生が出来るものと確信して居る今度欧州からの歸りには菜食主義の外務省顧問のベーチー博士が乗船したので會食を共にして来たが博士は所謂英國流の菜食より菜の外に卵やチーズをとって居たが私の

▲胡桃一點張り に感心していた倫敦から新嘉坡迄便乗せられたサラワク王国の皇太子同妃兩殿下は六十日間あなたの胡桃だけ食べて居るのを見せられて慄然したと云って笑はれた

大正五年六月二日

●椿山遊覽記 枉 花

(五)

道は尚遠く、午に間がある。足に任せて進むほどに、行手にあたりて異様の物音が響く、果たして石灰岩採掘の為めの爆音であった。此處は弁慶内と云って、阿部城鑛山經營にかゝる石灰岩、山の持主は小湊の素封家竹内氏ださうだが、夏泊半島の絶端に斯んな大仕掛の事業があるとは全く知らなんだ。先づ事務所に入ると、先發の魯羊原子崎子等が憩ふて居る。一椀の苦茗に渴を醫し、主に厚意を謝して辞去した。

恰も東田澤から帆かけ船が迎えに来てるといふ、村人の厚意を受けぬも本意ない事だから、一行七八名、板子の上に蓆座を布きつめ、東海道中渡し船といた風に、安坐を組んで無上に笑ひこける。泉子など腹が減ったと云ひ出して焼飯を頬張る、其圖がまた頗る奇抜なので、皆の笑いに輪がかゝる。他愛もなく笑ひ興じてる間に、船はいつしか纜を解いて沖に出てる。

(六)

辻子は頻りに双眼鏡で陸の山を眺め、感慨深く山火事の話をする。焼枯れの山の腹から爆音が反響して聞ゆる。風は疾いが太陽は雲を破って照りつけて来たので、四周の風物が活々しく見ゆる。白砂といへる部落がある、戸数が九戸で煉瓦造りの倉庫などがある、一級の選舉有権者が五人で二級が四人だといふ、非常に働く部民ださうで貯蓄なども大分あるといふから、不思議なこともないが、此の九戸の渺たる一部落から、堂々と一人の村會議員を選出してると聞いて驚いた。

灣曲した浦伝ひに、白布を引いたかのやうな砂原が見え、松の茂った處は慥かに天の橋立そのまゝを移して来たのかと怪しまれる、この晴々しい景色に思はず快哉を叫んだ。暫くにして船は東田澤の村端に着いた。一行は船を棄てゝ朴訥な村人の出迎を謝し、半里程の椿山へと志

す。川尻が砂に埋もれて、小廻船が數艘繋がれてる、一寸した水彩畫の材料になりさうな景色である。程なく椿山に着いた、花は盛りを早や過ぎたけれど、山を覆ふ老椿が幾千株、緑葉の隙間から燃ゆるが如き落椿が花時を語るかのやう。先づ椿神社に參拜して、先着の諸氏と笑を交換する。

大正五年六月四日

●大戸瀬遊記

(二) 飛鳥淡水

□朝は六時までぐっすり眠った。眼を覺ましたら、深は床の上につきと立ち、夕べは濱に残して來た新妻の夢でも見たか、綿々たる離愁の色深く柄にもなく萎れ込んで居た。手水を使つてから打連れて濱邊へ出た。岸を訪るゝ女波男波は甘い夢から覺めて、ひそひそ私やかな戀を囁く。朝の海の静かさよ。遠い水平線の彼方は煙ってしまつて判きり分からない、ざあつ、ざあつ、静かに碎ける波の音のみ、寂しく胸に徹へるばかり、黙つて空を見つめて居ると遠い西の雲は次第に奔騰して、深碧の空が見る見る領分を擴げてゆくとうす鼠色の雲は消えて其の代り雪の様に白く輝くむくむくとした雲が、其の深碧の空の地と對して際やかに立つて居る。「美しいなあ」思ひ入つた様に皆が眩やいて恍つたりした。

□晚酌なら朝っぱらから、熱いところを聞こし召してホロリとした気分になって、廳で來たるべく約した公ちゃんの一行を待ち受けた。が仲々來ない。と言つたつてそんなに待たない訳ではないが、廳で待ち焦るゝ一行の馬車は來たり。そら！來たツとバネ仕掛の尻を跳らして、とんとんと型の如くに飛び乗った。深を筆頭に、荒波、柁次郎、淡水に、貴族的なる風姿の省さんと、君のゆかりの藤の花なる若婦人と、逝く春の誇りと匂ふ閨秀作家の公ちゃんと三橋さん、それに未だ蕾も固き信ちゃんと、紫紅とりどり、同勢こゝに九人。五月晴れの空高く嘶く駒の一聲と共に快馬一鞭！宙をゆすつて疾走した。

□グリーンの新装凝らした青葉若葉の中に赤い桃の花や白い梨の花もあしらつて、あまり強くない色で櫻の花の咲き臭ふのも其處此處と見受けらるゝ。道に沿ふた何處かの生垣に燃え立つやうな椿の紅も見えた。そつと音するばかり新緑の梢を揺がして吹いて來る生温かい微風は心持ち面を撫でゝ快い感觸を覺える。朝酒の熱いところが奏功著しく轆轤たる轍の音は轟然として柁次郎又もや爆發した。轟雷鳴君でもあるまいに彼は一種のダイナマイトだ。一盞の美酒にほんのり耳朶を赤う染めた淡水も二方ならぬの御機嫌であつた。飛行家模型的の省さんに大黒様の荒波、「入らっしゃいッ」を連發して恐悦がる深、浮世座をよそに底ぬけ騒ぎの連中が躁ぎの一动一揺に、對座した閨秀作家が其の都度々々莞っこり美しい齒並を見せることを忘れない。

□金ヶ澤を過ぎて、潮の花散る渚街道に出ると眼界くわつと展ける。微白く閃く水波の美しさと、奇巖奇礁の大戸瀬が目の前に横はる嬉しさとに、一行の胸は譯もなく躍つた。日の光りは直射して、藍綻の波間に突き出る岬の姿は判つきり隻眸に入る。快なる哉。

斯くして大戸瀬海岸の旗亭に着いたのは晝未だ早き十時半。直ちに千疊敷に走り出る。

●西海岸の鮪漁

▼大鰯漁の好況

西海岸に於て鮪大謀網は休漁の漁場六ヶ所を除き經營したるもの十六ヶ所なるが海潮の關係上建網は例年に比し十日以上も後れたり従つて初漁は五月二十七日の籠島の四尾を以て開始し二十八日に至り一帯に漁獲ありたり即ち五月三十一日迄に

赤平八十五尾、柳田百二十尾、關八十九尾、籠島百三十二尾、鎧島百五尾、轟木七尾、入前二十尾、横磯二十一尾、月屋三十五尾

にして孰れも同形のものにて一尾平均二十二貫なるが大正二年以來なき好漁なり又大鰯は一帯に大漁にて漁船一艘に付毎夜四千尾一尾二厘半に取引し居れり。

●椿山遊覽記 枉 花

(七)

海岸の小松原をさすらひ、祠の周圍の落椿を賞しつゝいる間に、村の婦人たちが四五人來て其處に焚き火をする、追々村の人々も來て記念の撮影をする。とかくするうちに松蔭に莫座が布かれて、一同が短冊型に座った處を見ると、村中の老若が集まったのかしらと思ふばかりの大衆。まさかさうでもないが、兎に角多數の人々が一行歓迎の爲めに、半日の業を休んで參つたと思へば、涙の滲み出る程嬉しかった。

須臾にしてお晝の馳走が出る。田澤名物の蛸の味噌汁や、海丹の生なの焼いたのやら、例の流れ子（鮑の一種）のお料理など數々列らべられる。麥酒に米酒イヤ大した歡待振りに一行は目を廻した。先づ畑井村會議員が過褒の歡迎辭があり、泉子の謝辭があつて皆は杯と箸に取り付く。天火に照り付けられて酒や麥酒の精が腸に深み入るほど、お腹に耐へる顔が火照る、半下戸吾輩の如きは大した恐縮さであつた。酒中畑井氏は座間を頻りに幹旋して、村勢一斑の印刷物を配るやら、應對頗る努める。戸數百五十餘戸といへば中平内での大部落、田畑が陸と海にあって、陸の田畑からは千人近くの村人が、充分に一年間を凌ぎ得る程の穀菽蔬菜、海の田畑からはお馳走に出てる海膽やら帆立やら、鰯に海藻例の油目ガサ蛸の類に至る迄頗る豊富であるから年中の雑用を拂つても貯金ぐらい樂に可能さうなもの... さうばかりもいくまいが何しろ懐が温かさうである。

(八)

椿山の稱は其の創始の年代を詳らかにしない。舊記には元禄十一年四月三日黒石藩主の勸請と見ゆるけれども、椿が之れ以前に植はつたものか將又天地創造以來の天然物かゞ全く分明つて居ない。畑井氏の示された椿神社の寶物の一つなる鰐口（鳴器）の銘によると、「奉寄進椿崎大明神 元禄九年五月、上総國小糸城主里見・・・」とあるから、果たして此の鰐口が椿神社創建以來のものとするれば愈々以て前叙の關係との聯絡が混線して來る。然し何しろ元禄年代であらうといふ事位は略推想がつく。是等の談から武田知事時代に、保勝の必要があるとて保安林に編入された事、椿のない山の腹に櫻樹五百本を植えた事、海の神様である明神様を崇尊すると共に、此の勝景を天下に紹介せねばならぬ事などが話題になる。斯くするうちに顔の火照が益々烈しくなる、村一流の舞踏やら唄やらが、さながらに神樂を奏して明神様を喜ばすが如く一同は歡喜した。時針が大分廻つた、歸途は船であるのに風は疾い、いざとばかり東田澤

の萬歳を高唱して別れを告ぐる。

●田名部便り

▲名士去來

大日本水難救濟會下風呂救難所長佐賀清太郎氏には來たる六日二橋畔國技館に開催する總會に臨席の爲め四日の野邊地定期にて、上京△下北郡立工業徒弟學校開校式に臨場せられし小濱知事市川警部長其他各學校長郡議各町村長等何れも四日歸途に就かる

▲知事一行大畑行

二日午前八時小濱知事市川警察部長渡邊淺石属門田郡長信田郡書記河野縣參等の一行には馬車にて大畑村に赴かれ同水産分場等を視察し全地有志の開催に係る午餐の饗應ありて全日四時頃田名部町に歸られたり

▲河野縣參の設宴

二日の薄暮より河野氏自邸樓上に小濱知事市川警察部長門田郡長山本(八)縣議森郡會議長佐賀組長等を招待し河野主人より知事閣下には斯る御多忙の折柄遠路殊に横濱の陸路を御臨郡海に陸に各方面を視察されたるは御職掌柄とは云へ感激に堪へず茅屋而も田舎の自調料理の晚餐を進め聊か御旅情を慰めたしとの意を演べて献酬數巡小濱知事より懇懃なる挨拶あり酒間如才なき花助八重吉の斡旋主客怪談に時を移し徹宴せしは二更に垂れんとする頃なりし

●下北郡の鮪漁

蛇浦の鈴木、澤の畦初漁は五月二十七日にて大三十三本六月一日大二十本あり大間の中網初漁は五月二十七日全十一本佐助川は三十日初漁にて大六本六月一日全二十二本全二日三本あり本年の初漁は昨年より早く漁模様好良なれば豊漁たるべしと

●不便なる馬車

西郡木造町鮭ヶ澤間の唯一の交通機關たる乗合馬車に關して馬車屋の不都合なることを訴へたる投書は折り折りあるが昨日も又大要次の如き投書ありたり「木鮭間の乗合馬車は賃金の高きのみならず出發時間一向不定にて殊に木造町の帳場に居るものは鮭ヶ澤馬車より折合と稱し無用の苦情を起して金銭を貪るなどの噂もあり之が爲め迷惑を被る者は旅客にてさらぬだに急用の際は困却する旅路を時には空しく馬車内に數時間も止め置かるゝこともあり不都合千萬なり木造警察署の監督を望む」云々事實果たして然らば旅客の迷惑思ふべし

大正五年六月六日

●三期鯉收穫高

▲七萬石の減収

本年第三期鯉收穫高は六萬九千八百八十二石にして昨年全期十四萬三千二百四石に比し七萬三千三百二十二石の減収となり一期來の累計五十三萬七千七百二石にして昨年全上五十八萬二千四百三十四石に比し四萬四千七百二十二石の減収となりたりと

●六縣漁業組合講習會

▼來る八月仙臺に於いて

農商務省水産局主催にかゝる東北六縣漁業組合講習會は來たる八月一日より一週間仙臺に於て開催の事に決定したるが同講習會は東北六縣に於ける漁業組合理事の養成を主眼とし同時に

漁業組合事務に鞅掌せる吏員をして聴講せしむるものなりと尚ほ六縣以外のものにて希望に依りては出席随意なりと講習科目及時間割り如左

漁業法講義（六時間）△漁業組合講義（六時間）△漁業組合經營論（六時間）△簿記の原理（六時間）精神講話（二時間）△漁業に関する事項（四時間）

尚ほ講習員の資格は地方廳の推薦にかゝる漁業組合の理事監事又は水産組合の職員及縣郡市に於て漁業組合事務に鞅掌する吏員なりという

大正五年六月八日

●椿山遊覽記 杠 花

(九)

船は今し萬斛の風を孕んで大島にさしかゝる吾等は村人に送られて十數町の芝原を、大島の根を横切つて小さな浦に出た。此の浦に來て見ると波は全く死んで、唯山の端を白雲の飛ぶが見ゆるのみ。貝を拾つたり宿借（貝の寄生虫）を生け捕つたりしてゐる間に、大小二隻の帆かけ舟が渚近く着いた。此處で各自各様の態をカメラに収めて、愈々酒や折詰も積み込み二隻に分乗する。

最後の萬歳が沖の舟と陸の人々の間に交換されて、追ひ捲られるかのやう舟が趨る。風の疾さと波の激しさと舟の小さなために、舷に砕くる海水がザワザワと舟中に入る、海國男児といふ招牌の手前、それにもめげずに一同は、或は放談に或は酒杯に各舟を飲み眼中風波なき猛威・・・とはいふものゝ中には随分一生懸命な人もあつたらしい。吾等の舟より小さく船脚の遅い後續船は双子島の浦にさしかゝる頃はいより帆影を失ふた

(十)

此處らで一吋待合さうと皆が上陸して、奇岩を賞で怪石を稱へつ暫しがほど待ったが、一向に續く心配もないので再び進むことにした。此邊の浦は斷崖にして深く入り込んでいて、何ともいへぬ壯烈な風物である。茂浦の入江を煙波の間に眺めて、島の鼻から疾風を船腹に受け、矢を射る如く趨らする爽快さ。鷗島の蔭にさしかゝれば逆風となりて船脚は淀む、我が老練なる好舵手はかばかりの天魔に狼狽もせず、静々と船首を進むるのであつた。

妻戀へる神話もありさうな裸島は、夕照に映つて鐵を天に立てたかのやう、湯の島は振られ男の拗ねて寝そべつてゐるが如き、浅虫獨特の風光に眼を喜ばして、我が強き勇ましき彼女（小船）は、眞正面に仙波館の假設棧橋に横付けになる。一行は新しき木の香まとひつく座敷に上がつて、旅装をとくや何はさて湯槽に飛び込む、温泉を思ふ様浴びつゝ遅れた船の肖袁函子崎子等が、今頃きつと嶮阻に難儀しとるだらう、誰か迎へに出ずばなるまいぞ、我が身にひきくらべて話し合ひつゝ、丸腰のまゝ陶然と酔へるが如く海に面した椽に立つと、ドカドカと物音がして三人は恙なく着く。

果たして浦田より程遠からぬ海岸に揚陸し、徒歩嶮阻を跋涉して來たのだといふ、底の藻屑にならぬが延壽の兆しだなどと、人の難苦に出鱈目をいふ心置きない連中、先づは椿山の勝も探り、夏泊半嶋を一周して愉快だとあつて、女中どもを急きたて送り來た舟子等を犒ひ、皆も

酒盃に思ふさま親しんで終列車に投ずる。足底の痛さは翌朝のいゝ土産、泉子の厚意で貝細工の玩具を得、僅かに手々の足袋の駄々を撃退したは勿怪の幸いであつた。

(了)

大正五年六月十日

●蜆貝方面の鰯漁 ▲一網で五六十圓

鰯漁の時節となつてから本市の海岸では水産試験場の白鷗丸が毎日毎夜沖合遙かに出漁している外に蜆貝相馬町又は新濱の漁夫は毎朝未明より岸に近い處で鰯網を引いて居る先月の中旬頃に大鰯の大漁があつたのを手始めに▼今年は鰯の豊漁と見えて此頃は三四寸から四五寸の小鰯が盛んに取れて居る肥料も今迄に大分出来上がったさうである朝に早く三四隻宛の船を漕ぎ出して海岸間近に網を張って約二時間許りで引き上げるが平均一網に此頃の値段の安い時で五六十圓平均は取れる▼多い時は三百圓位に上る一日に四五回引ける今迄の大鰯は食料としては左程上等ではなかつたが此頃取れる小鰯は非常に旨い其れに大鰯は脂が多いので焼干にするのは困難だが此頃の小鰯は焼干にも適當だ相である。

●鮮魚輸送試験 △大阪青森間冷蔵貨車運轉

過般全國水産試験場長會に際し協議會に於て協定せる鮮魚荷造及輸送法改良に關し農商務省水産局にて夫々計劃中の處鐵道院との交渉も進捗し東京大阪と青森との間に冷蔵貨車運轉六月二十日東京發に決せる由にて輸送魚類は樺太産鱒及鮭本県産鮭とし試験車両は構造を異にせる七噸冷蔵貨車三兩に客車一兩を連結するものにして搭載鮮魚の運賃は無賃とすべく又荷受人は東京は帝國冷蔵株式會社大阪は雜喉場阪又商店に決し本縣水産試験場擔當員を右輸送車に乗組ましむるに至るべしと

大正五年六月十三日

●白鷗丸の漁況

既報の如く本縣水産試験場遠洋漁船白鷗丸は水産傳習部生徒實習及染料試験の爲め青森灣内に於て流網漁撈中なりしが昨今日までの鰯漁獲高十萬尾百八十餘圓に達し十一日夜の如きは一時に三萬三千尾の漁獲ありたりと

●輸出入貨物

堀谷扱の振洋丸は、粕九百個を積み十一日函館より入港米三百石繩苧二百個を積み全夜函館行△全扱の東福丸は、粕千五百個武力板二百個下駄材三百個を積み十一日廣尾函館より入港米千石味噌二百五十個繩蓆三百個を積み全夜廣尾大津行△淡谷扱の新古宇丸は大豆六百個を積み十一日瀬棚より入港直ちに函館行△全扱の船帆丸は大豆七百七十俵を積み十一日函館より入港直ちに函館行△全扱の第三福山丸は身欠百八十個胴鯨七十個漁夫五十七名を積み十一日禮文より入港直ちに函館行△桂井扱の勝山丸は火薬百個、粕十個塩鱒三百個身欠二百二十個を積み函館より入港セメント樽材料七百個米五十石を積み全夜直ちに函館行

大正五年六月十四日

●小舟渡漁業組合の施設 △海産物の共同販賣

三戸郡下小舟渡漁業組合は組合員數七十八名にして積立金百五十圓の外大典記念として三十圓の積立金あり三年度に於ける決算額二十三圓九十五錢四年度は三十圓五十錢にして負債なく組合員の協同心の堅きこと他に多く例を見ずといふ曩に縣水産當局は管下漁業組合の共同販賣施設を勸奨しあるに拘らず未だ其の有利なる事業たるを解せざるにや施設せるものなかりしに小舟渡組合にては大正四年七月より率先共同販賣施設を為し而して將來は海産物全部に之を行ふ豫定なるも毎日漁獲する鮮魚を取扱ふは其の設備及使用人等相當の費用を要し經營困難なるべきに依り差向き比較的産額多く一時に販賣し得るものに就き着手せり而して既に販賣に付せるものは昆布鮑及海蘿にして昆布三百六十一圓鮑三百九十四圓海蘿一千四十四圓の賣上げなるが之を従來の販賣方法に比するに優に三割方の高價に賣却するを得たり尚本年よりは煮干、田作、搾粕をも加ふる計劃ある由本年の昆布は欧州戦亂の影響を受け薬品製造原料として暴騰せし際従來の如く共同販賣施設なき時は仕込み融通方法に依り甚だしき廉価を以て授受せざる可からざりしに此の施設ありし為めに未だ採藻せざる今日既に四五割の高價となり今尚引續き騰貴せんとしあるは共同施設の力に依るものなりといへり

●西海岸の鮪漁 ▼稀有の好況

西海岸鮪漁は明治四十三年鳥居崎の大謀網を嚆矢とし四十四年より入前籠島關漁場等を開始したるが四十四年大正元年度大正三年は大漁にして各漁場共少漁の場所にて七千圓豐漁の場所は二萬を算するものあるに至り鮪漁にあらざれば金を利すること能はざる程に思はれたるが大正三年四年の二ヶ年不漁にして漁場三分の二は損失を招くに至り鮪漁の不安を感ずるに至れり然るに本年は潮流の關係か大正二年以前と同様に好漁の模様を呈し柳田漁場（寺澤榮經營）の如きは大鮪本月十二日迄に九百七十本餘量目二萬貫金額九千圓を漁獲するに至れり之に次ぐ籠島關等の漁場も一萬五千貫内外を漁獲したるを以て本年は二萬圓以上の漁獲高を見る漁場を生ずるは明らかなり柳田漁場は之まで三位の漁場として郡内に重きを置かれざりしが本年の大漁なる理由は中村技師の意見に依り建場の位置を變更したるに依るものと謂はざるべからず五月二十七日の初漁以來六月十二日に至る各漁場の漁獲本數は大略左記の如く量目は一本平均に二十二貫なり

赤石五百八十本△柳田九百七十本△關六百八十本△籠島八百九十本△鎧島三百五本△魚場百五十本△轟木三十本△追良瀬九十本△廣戸一本入前五百五十本△横磯六百本△月屋七十本
其他岩崎村地内菊池文八氏の經營四カ所は不明なるも多少の漁獲ありたるものと思はる

大正五年六月十八日

●水産會大會（第一日）

十七日午前九時より赤十字支部に於て縣水産大會を開く本會開設前に別室に於て評議員會を開く重信幹事長新任挨拶をなし開議を宣しそれより中村（技師）幹事の海博概要説明あり指示事項に依り協議せるが更に建議案及協議事項の審議に移り正午休憩午後一時より續行し同二時

閉鎖し本會を開き十八日議決すべく四時散會當日指示すべき事項左の如し

(一) 海藻保護の件 近來沃度製造原料等の為め海藻の需要漸く多きを加ふるの状況なるが本縣は海藻類に関する保護取締規則なく又需要者と協約し之が採捕を為さしむるを以て自然濫採に陥るもの多し右は獨り魚介類の成育を妨ぐるのみならず沿岸漁業の不振を來すに至るを以て或は輪裁法を講ずるか又は採取時期を定め相當の保護策を講ずる様各位の注意を望む

(二) 遠洋漁船改良の件 漁業の發達を圖らんとせば勢ひ漁船の改善を期せざるべからず而して漁業の利は遠洋漁業より大なるはなし是れ農商務省に於て夙に遠洋漁業奨勵法を發布し国庫補助法の制度を設け漁船の改良を計りつゝある所以なり然るに漸近本省は各府縣に於て国庫補助を受くべき普通遠洋漁業の船數に制限を設け信用ある漁業家と確實なる資本家を保護し完全なる發達を期せむとするに至り本年度本縣に指定せられたる船數は六隻にして内二隻は既に決定し手續終了す各位は此際進んで是等漁業を計劃し遠洋漁業奨勵法の恩典に浴せられんことを望む

(三) 漁業組合の活動に関する件 漁業組合は漁業權を共有行使するのみならず漁村に於ける生産販賣信用等適切なる事業を經營劃策し漁村の共同利益の増進を企圖すべく是等に關しては曩に指示せし處なるも未だ其の成績の視るべきものなきは頗る遺憾とする處なり組合の理事者たるもの之に留意し同一町村にして其の數多きに過ぐるものは漸次併合し又豫算決算等に就ても特別の注意を払ひ以て組合の内容を改善すると共に十分なる發達と活動に努力あらんことを望む

●西海岸の大鯛

西海岸は大鯛の大漁と共に鮪の大漁は屢々報ぜる通りなるが本月十日頃より鯛五十貫内外の漁ありしが十三日より俄然大漁を見白戸大謀網に於て全日より十六日迄一萬三千貫を漁獲し柳田大謀網に於て同期間中に六千貫の大漁あり津輕中至る處大鯛は魚商の店頭に金色を放つに至る以て西海岸の漁業の有望なるを證するに足るべしと

大正五年六月十九日

●縣水産大會（第二日）

十八日午前九時赤十字支部に於て水産會開設せり出席員六十餘名重信幹事長開會を宣し小濱知事は大要左の如き告辭をなせり

本日茲に本縣水産會第三回總會の開催に際し一言諸氏に告ぐる處あらんとす惟ふに本縣産業中水産の業は未だ幼稚の域を脱せず而かも前途發展の餘地頗る多きものゝ一たり職に本業に従事する者進んで之が開拓に努めざるべからず特に近時の縣勢に鑑み國民富力の増進上一層其切實なるを感ず現下我が水産業者は時局の影響を蒙り經營上多少の困難に遭遇せし者あるべしと雖も銳意其の漁法を改善し精勵以て其の經費を節約し漁獲の増進を圖り進んで漁獲物の販賣及鮮魚輸送の方法を改め以て漁獲の利を完ふすると共に製品を改善し益々海外輸出の發展を期し大いに貿易を伸暢するの策を樹てざるべからず而して本縣水産製品の重要販路たる隣邦支那の秩序恢復し且歐州戰亂の平和克服の暁に於ては列國の經濟競争上海外貿易の振

興を來たし水産製品の需要増加するや瞭然たり希くは諸氏今より心を一にし力を協せ益々本會を活動せしめ以て斯業の發展を期し國家の進運に資せんことを

次に名尾副會長より海事博覽會の概要報告を述べそれより評議員一名の補缺選挙に移る島川氏發議に依り議長指名に一致し三戸郡小中野村中村榮吉氏當選せり次いで指示事項

△海藻保護の件、遠洋漁船改良の件、漁業組合活動の件

に移る中村（技師）幹事各項に就き詳細熱心に説明せり長谷川、嶋川兩氏より漁業組合の活動に就いて質問と希望あり中村幹事之に答へ終つて協議事項を附議す

▲協議事項

▲第一、水産指導の爲め本會に技術員を設置の方法を講ずること（説明）本會に農會其他の如く技術員を設置し水産保護蕃殖の方法漁具漁法の改善或は漁業組合の指導等は勿論試験事業の成績を普及せしむる爲め之を設置し斯業の發達を圖らんとす

▲第二、沿岸各都市に本會支部を設置するの可否（説明）本會を各郡と聯絡し階級的組織と爲し本會の活動を完からしめんとす

▲第三、本縣並びに隣接縣の海流水温等觀測調査事項を隨時當業者に周知せしむる方法を當局に交渉する事（説明）重要漁業に對する海洋と漁業の關係を調査し隣接漁場との聯絡を明らかにして之を組合員に迅速周知せしめ漁業の機を逸せざらしめんとす

第一は今泉氏の賛成演説ありて原案可決し第二項島川氏の賛成演説あり今泉、神田、松森諸氏の賛成あり設置方法の萬端を會長副會長幹事長に委任する事に決議し第三項神田氏の賛成演説及中村幹事の説明に依りて決せらるこれにて正午休憩

午後一時開會名尾副會長議長席に就き開議建議案に移る

一、本縣に遠洋漁業補助法を制定せられんこと知事及縣會議長に建議すること（提出者神田重雄）△二、本縣内の沿岸に避難港を設置すること前全上（神田重雄）△三、西海岸に水産試験場分場を設置すること前全上（島川久一郎）△四、大間辯天島及鮫沿岸に燈臺設置の件主務大臣及前全上（神田重雄）△五、本縣より二千圓の補助を縣會に請願すること（長谷川義、種市忠七、神田重雄、逢坂龜松）△六、各漁村に於ける魚附林の保護及設置の奨励を地方長官に建議すること（島川久一郎）△七、縣内適當の河川に鮭鱒孵化場を設置し放流することを前全上（神田重雄）△八、鮮魚種類により等級を分ち其等差に依り運賃の低廉方鐵道院に請願すること（今泉英雄）

右に就き提出者各自詳細なる説明をなし満場の賛成を得て建議成立可決しそれより今泉英雄氏は上北郡三澤村沖合に於ける沈銅に就て述ぶる處あり松森豐氏本縣漁民の政治的地位とも謂ふべき講話あり次ぎに島川久一郎氏は海事博覽會視察者七名を代表して視察報告ありて閉會更に席を更めて冷蔵會社寄贈の鮪にて懇親會開催午後六時散會せり

大正五年六月二十日

●鮮魚の輸送試験 ▲農商務省と鐵道院の研究

農商務省にて鐵道院と協議の結果鮮魚荷造及輸送上の完全を圖る爲め青森大阪間、塩釜東京

間に左記の日割を以て試験輸送をなす筈なるが其の試験冷蔵車は氷槽無きもの一輛、氷槽あるもの三輛にて第一回青森發の分は二十日、第二回塩釜發の分は八月十二日午前十一時塩釜發海岸線經由上野に向ふ豫定にて農商務省試験監督員及鐵道院運輸局貨物課員等同列車に便乗詳細なる試験をなすべしと

▲第一回 六月二十日青森發大阪まで(哩數八一三哩)、輸送魚類樺太産鱒、鮭、青森産鮪等)

▲第二回 八月十二日塩釜發汐留(東京)まで(哩數二三六哩、輸送魚類三陸産鮮魚)

大正五年六月二十五日

二十四日夕刊

●共進會の視察

○青森商業會議所は、二十三日の臨時役員會に於て、來たる九、十の兩月に互りて、山形市に開かるべき奥羽六縣聯合共進會の視察團を組織することに關して協議する處ありし由、同様の議は弘前商業會議所にも之あるが如し予輩は兩會議所の同計畫を歓迎するものなるが、而も斯かる計畫は、□に此の兩地方のみに限らず、之を縣下一般に及ぼし、成るべく各方面に互りて、多數の有志が此の機會を利用せんことを勸告せざるを得ず

○奥羽六縣聯合物産共進會は、從來各縣交代に開會し來たりしも、六縣一周したる後、福島縣を最後として、更らに關東東北聯合會を群馬縣に開きたる後は、或は仙臺市に於てすべしと云ひ、否な山形市に於てすべしと云ひ、一時兩縣に於て互に相拮抗し、遂に決着を見ざる内に、東北地方の大水害となり、大凶作となりて、自然に中絶の姿を呈するに至れり、爾來數年の久しき、遂に此の種の計劃に接せず、偶々東京に於て、大正博覽會のありしも、是は全國一般的にして、而かも或る一方に偏するの嫌ひなきにあらず、大いに東北の物産を出陳して、各地方の面目を發揮すべく遺憾の點尠からざりし也、今回の六縣聯合共進會は、此の缺漏を補ひ、東北産業の進歩發達の程度を紹介し、六縣の面目を知らしむるに於て、極めて適切なる舉といはざるべからず、六縣の共進會を福嶋縣に開らきてより既に八年を經過せり、六縣の産業は此間に於て、如何に發達し、如何に其の面目を進めつゝあるか、各地方の有志者、之を視察するに於ては、地方の産業を施設經營する上に於いて、確かに餘師あるを發見すべき也

○百聞は一見に如かず、予輩は縣下の心あるものが、此の機會を逸せず、其の個人たるを問はず、若しくは團體たるを問はず、進んで視察せられんことを勸告するは之が為也、中にも直接共進會に關係する出品者の如きは、親しく現場に臨みて、其の実況を視察するの必要を認めずんばあらず、採長補短、以て事業の發展に資するを得んには、地方産業の為めに、幸慶にあらずや、由來本縣人は引込主義也、只だ出品したりとて、他の振合を對照せざるに於ては、自己の出品の面目如何を知るべからざるにあらずや、本縣の産業の振るはざるも、一は之が為め也、今夫れ聯合各縣に於ても、頻りに視察團の計劃あるが如し、若し本縣に於ても、大いに此の機會を利用するを得んには、共進會に参加したる目的を、最も克く徹底せしむるものと云ふべし

大正五年六月二十九日

●鮮魚遠距離輸送 ▼青森より東京大阪へ

鐵道院東部管理局にては農商務省の申込に依り鮮魚荷造り及輸送上の試験施行の爲め青森塩釜兩驛より冷蔵車を運轉することとなり二十六日午後二時〇〇〇〇技師中村平八氏農商務省水産講習所員鈴木政三氏、運輸局貨物課員、荷主等添乗の上青森驛を發せる冷蔵車は三輛なるが中村技師は曰く「冷蔵車三輛の内二輛は氷槽あり一輛は貨車其物を冷却の上鮪も冷却して積込めるが從來の経験に徴し中間驛にて開扉検温其他の試験をなすときは車内は外氣の影響を受けて完全なる試験施行不可能となるより今回は車内に自働検温器を装置し自動的に車内気温の變化を記録する様設備しある爲め上野到着検査後ならでは成績不明なれば結果の如何を斷言し得ざるも成功すべく豫想す尚ほ上野驛到着試験の上成績良好ならば中二輛を大阪迄回送し更に長距離の試験をなす筈なり云々

大正五年七月三日

●下北郡便り

▲北通の漁況

北通り各地概して金融乏しき傾向なるも易國間は磯焼の罹災にて數年來海藻の收穫皆無の状態なりしが本年は石花菜昆布成育稍上向の様になりたるを樂しみ居るが奥戸佐井は鮑の不漁を啣ち居れりと

大正五年七月五日

●遠洋漁業奨励金

農商務省遠洋漁業奨励金交付方申請のもの三戸郡八戸町長谷春松に對し漁船十九噸一噸に付十九圓機關二十五馬力一馬力に付十一圓△全町米川篤松に對し漁船十七噸機關二十馬力交付率前同様何れも奨励金下附許可されたり因に本縣への割當は既報の如く六隻にして明年二月までに竣工を要すべく尚四隻の餘裕を存せりと

大正五年七月十四日

●下北郡東通村より

▲建網の困難

當海岸建網は一般例年になき薄漁なれば建網連中は大いにコボして居れり漁獲物なければ随つて其の仕込み先より飯米等の供給なく再三再四の哀願懇請愁訴も何の効なく頗る憫然なる者也

▲夏烏賊

下風呂大畑方面なれば一人にて毎夜百五六十も釣れる由なるも當地沿岸五六十内外なりと聞く今年も却々有望の有様なれば同業漁夫は皆支度に着手し居れり

●海藻蕃殖法施行 △三戸郡沿岸全線に

三戸郡役所に於ては本月五日より全郡各漁業組合を督励し小岩井技師出張指導の下に沿岸全線に亙りて海藻蕃殖法として

△磯掃除 石入れ等を施行しつゝあり各組合にては組合員多きには五日間に亙り延人員五百人少なきも二百人出動し孰れも熱心に施行せり本縣に於ては明治元年度頃より下北郡下風呂地方に於ては海藻蕃殖法として

△石入れをなし好成績を挙げつゝありしも未だ磯掃除の如きは施行せることなし殊に斯く全郡舉つて施行せし如きは全く始めての事なり磯掃除は他縣に於ては已に早くより施行し居り殊に静岡、三重、佐賀等に於ては成績極めて顯著にして

△潜水夫及び磯掃除器等を使用して深く海底の掃除をもなしつゝあり今回の舉は頗る機宜を得たるものにして縣下各沿岸に於て一般に施行するに到らば其の効果頗る偉大なるものある可し

●遭難船救助

北郡小泊村野宮榮太郎所有の日本形小廻船幸運丸（長五間六拾石）は同人及び今石太郎（十七）及び野宮伊八郎（二十六）乗組みヒバ丸太材六拾石位を積み小泊村より青森に向かふ途中宇鐵部内即ち龍飛帶島を去る約三里の處にて東風の為め船倉口より數時間前より海水の侵入しあるに気付かず遂に水船となり船員は必至となり船内の浸水を排除に努めたるも將に積み材を海中に投出さざれば全く沈没せざるべからざる悲境に至りしより救助を求めしを救助合圖を遙かに認めたる釜の澤青年會長柳谷治三郎氏は一刻も躊躇すべきにあらずと兄倉吉氏の發動船榮寶丸へ船長柳谷與三郎、機關士三國國松外船員四名を指揮して乗込み又龍飛救難所よりは龍飛青年會員伊藤榮は田邊看守長の命により全發動船に乗り加はり出帆し共に救助すべき箇所を目指して進航したるが全日は沖出するに従ひ東北風強く船の活動自由ならず指揮者柳谷治三郎自ら危険を冒し風浪と戦ひ乗組員及び船長等も極力救助曳船として沈没せざる中に午後四時半釜の澤に無事入港し之を見たる重立柳谷倉吉氏は直ちに釜の澤青年會員を招集して該遭難船をして引續き航海すべき手配を為すべきことに手助けを為さしめたる由

大正五年七月十五日

●中郡孵化場と虹鱒

▽一寸二三分に成長した

本縣水産試験場で本年新設した中郡駒越大字兼平の孵化場では去る一月鮭を孵化し三月下旬二十八萬二千尾を岩木川に放流したが其の後虹鱒を孵化し目下育成中である

▽孵化場の位置 兼平の村から同村の特産たる兼平石を石山から運ぶ荷馬車道は山手に通じている之を上りつ下りつ進むこと約十町道の右手石山の東に當って新しい小さっぱりした和洋折衷式の家屋は見へている之は擔當者の住宅である場は稍々底地となり周圍は松林と林檎園で廻らされ清泉湧出し水温は年中摂氏の十一度（華氏五十二度）内外であると

▽孵化育成の状況 住宅に接近して二間半に三間の孵化室は建てられ泉から湧出した水が樋に依つて室内に通じ室内に配置してある一尺五寸に一間位の長方形の數個の孵化槽に落ちている此の槽を通つた水は流れて小池に落ち更に接續している稍大なる二つの池に落ちているそして

槽の内には一寸三分位に成長した無数の虹鱒の子は快活に游泳していた全部で二萬二千尾は
あると云ふ濃青色の美しい斑點のある有様は石斑魚の子に能く似ている擔當者斗賀藤松氏の談
に依れば受精後鮭鱒共に四十五六日で孵化し最初は卵は腹部に付着して居るから食物を與へる
必要はないが之が無くなると鶏卵の黄身を揉み潰して四五日與へ其の後は魚少と稱して魚粕の
一種を粉末にしたものに麥粉を混じ之を蒸したものを再び挽き碎いて與へる斯くして孵化後八
九十日を経れば河に放流するのである

▽虹鱒は淡水魚 目下飼育中の虹鱒は米國産で去る大正二年農商務省から種卵の配付を受け上
北郡相坂川の孵化場で飼育し本年四月産卵したものから三萬粒を取寄せたものであるが之が成
長は約一年間で七八寸となり約三年間には一尺二三寸から二尺まで成長するそして之は淡水魚
で水温に餘り變化のない處では如何なる池沼でも成育する當場では此處の池に飼育し成長を待
って販賣する積もりであるとの事であった

▽鮭の漁獲を増す 尚同孵化場では年々鮭を孵化し岩木河に放流する筈であるが鮭は廻歸性を
有し一旦海へ下っても五六年を経ると再び放流した河に上ってくるものであるから五六年後か
らは漸次漁獲を増し我々の食膳を賑す事であらう

●青浦貿易の將來

△株式會社計畫

青森浦塩間貿易は比年隆盛に赴きつゝあるも昨年露國に於て輸入果物に對し課税することゝ
なりたると露貨下落の趨向甚しき為め目先一頓挫を來たし當市青浦商會に於て過日總會を開き
三分八厘の配當を為すに止まりたるが如き有様なれども而かも同商會は現在二萬圓の資本を以
て二十五萬圓の輸出入を為したる實況にて尚欧州大亂も漸く結末に近づかんとしつゝありて
露貨の如き何時までも現今の日貨一圓に對し一圓七十二錢と云ふ程の對比を以て終るべきに
あらず又果物に對する課税の如きも平和克復と共に撤廢せられて茲に青浦貿易の活躍を見るべき
時機遠からざるべきのみならず露貨下落が當分現状の儘推移とするも之を日本に送金するこ
となく浦汐地方に於て露國生産品を買入れ貨物として日本に輸入せば充分算盤に合ふ次第なれ
ば此の際合資會社たる青浦商會の組織を變更して三萬圓以上の株式會社と為し將來日露貿易の
活況を呈すべき時機に備へんとし合資者に於て協議中なりと

●東郡宇鐵だより

▲出稼人の歸郷と漁況 北海道方面出稼漁夫は今月上旬全部歸郷せるが何れの漁場も豊漁に
てありし由村内為めに一段の活況を呈し歡喜満々たるものあり漁は去る十二日より五日間六條
間龍飛間に於ててん草採取を為し居れるが競争採取の状壯觀なり烏賊つけも既に始まり夕陽西
の没っせんとする頃各漁村より款乃櫓聲聞こえ初む近々各戸の軒は鯛干場となるべし

▲青年團の美舉 今月上旬北郡小泊村某氏の小廻船は材木を積みて青森に向けたるが龍飛沖
合にて難船し將に沈没せんとするを釜の澤柳谷氏の石油發動機船の見知する處となり救助し來
たるが當村青年團員大いに此の難船者に同情を寄せ船を岸に揚げ排水をなし炊き出しを配る等
盡力せり因に難船者及全家内より厚意謝するに餘りある旨來狀ありたると云ふ

大正五年七月十九日

●双子島鯛網曳き

△浅虫發展會の主催

△申込は本月末日限

灣内夏泊半島の勝景は今更駄筆を弄する必要がないが中にも勝れてるのは双子島である。浅虫から海上二里の處にあつて其の名の如く並んだ二つの岩から出来てるが遠くから望めば常に其の形を變へるので俗に之を化け島とも稱へてる。茂浦灣口に位し斷岸絶壁の下奇岩怪石の累々たる荒磯から暗礁續きになつて汐の引いた時は徒歩でも通ふ事が出来る。然し双子島の風光は單に夫ればかりで無く此處から見る眺望の得難い程絶佳な事に依つて一層其の名を高めてるのである。只惜しい事には青森からも浅虫からも遠すぎるので個人としては漁舟遊びも多少億劫であり且つ陸路は懸崖極めて危険なので滅多に探る人が無く此の

▲隠れたる奇景 も徒に風流を解せぬ漁夫の目に見流され居るのである。試みに此處に立てば北の方は椿山の先の大島を通して斗南半島の山々が夢の様に潮煙の中に列なり南の方は鷗島裸島湯の島の諸島が一眸の中に納まり善知鳥前の險は書割の如く美しい背景となり東は茂浦の灣壁が掬へば手も色づかんばかりの碧水を抱き西には思はぬ空に岩木の秀嶺聳え立って此處青森灣内に斯程の勝景があらうとは迎も地圖を手にした計りでは思ひも寄らぬ事である。此の天下の絶景の空しく僻地の一隅に埋もれてるのを遺憾とし恰も名産鯛鱸の好期節なのを期として茲に浅虫青年有志から成立つてゐる浅虫發展會で双子島鯛網曳きの快遊を計畫した。未だ朝霧の霽れ切らぬ七時半頃解で浅虫を出發し

▲點々たる島嶼 の間を縫ふて汐路に眠むる鷗を驚かし乍ら此の大自然の油繪の中を漕ぎ分けて双子島に上陸し直ちに用意の鯛網を曳き其場に晝食の膳に上ぼせ残魚は土産とし十分酒に酔ひ汐の香に酔ふて荒磯の氣分を味わつた後再び艇に乗つて夕日が波を彩る頃浅虫で解散し様と云ふ計畫で會費は一人一圓二十錢期日は八月七日日曜日（舊七月八日）と定めた。普段双子島迄は舟賃だけでも二圓はかゝると云ふ程だから此の快舉は直ちに浅虫の人の満足を得て即日十數名の申込者を得たさうだ。但し人員は五十名に限る豫定ださうだから希望者は何處の誰を問はず至急口頭なり葉書なりで申込まれたいとの事である。申込期限は七月末日迄申込所は浅虫永和商店である。因に双子島の遠見の形の變はるのは水蒸氣其他の關係で空氣の密度に濃薄の差が出る結果であると云ふ事である。

大正五年七月二十二日

●東郡今別より

▲漁況 烏賊は上磯沿岸一般に豐漁にして當村に於ても相當漁獲あり鱈鯛又續々漁獲ある事とて昨年來不漁の爲疲弊せる漁民も稍々愁眉を開くに至る土用間近の今日とて昆布採取の準備中にして大字濱名なる二ツ石沿岸には他村より寄り集まれる採藻者苦小屋建設に忙殺し居るなど上磯海岸も亦一段繁華を呈しつゝあり

●津輕伯逸事

今回薨去せる津輕承昭伯の事に就き舊藩當時より御一家に奉仕し維新後家從として明治五六年頃より全二十年頃に至るまで東京の御屋敷に奉仕せる弘前の某老藩士は「私の御仕へ申したのは早い事ですから近年の事は存じて居りません」と前提し語る

△寛大の人 人に依って好き嫌いの念の起こるのは人情の止むを得ざる所で殊に數多い人を御使ひになって居る殿様の事であるから總ての事に氣随で少しの過失でも容赦無く御咎になる事と一般からは想像せられますが我が殿様に限っては頗る寛大で人に依って決して區別を設けざるのみか過失に對しても御怒りや御不快の色を見せなかった事には恐縮の外はありませんでした或る冬の日佐竹侯の處へ暮を打ちに御出になられた際私は御供を承りましたが寒い日でありましたから私は一旦歸って來て御召のマントを持って再び迎へに参りました處夜の事でしたから佐竹の邸内に下水の穴があったのに気が付かずマントを持ったまゝ墜落しマントに泥が付着して御召になるわけには行かぬ處から私は恐れ入って黙って居りました處車へ御乗りになってから寒いからマントが無いかとの事でしたから事の次第を申上げると何とも御言ひにならず又御不快の色をも御見せにならずに御歸りになったことがありました其他幾度も過失を生じた事はありませんが何時でもこんな有様ですから御使れ申す人々はどんなに幸福であったか知れません

△多趣味の人 至って多趣味の御方で一時は鳥部屋を設け、鶯、駒鳥其他色々な小鳥を御飼ひになったことはありましたが之は私の歸る頃には御止めになりましたそれから最も御好きなのは魚釣で方々へ御出掛けになり夏の頃は中川へキス（魚の名）釣によく御出掛けになったものです此のキスと云ふのは餘程面倒なものださうですが殿様には大層御上手で澤山御釣りになつて御歸りの事は多ふ御座いましたそれから暮は樋口建良、藤田喜三郎などを御相手にし謡曲は喜多權左エ門、野添喜和、和歌は公卿の三条西知季などに就て稽古遊ばせられ又盆栽などに趣味を持たれた様でしたが自身に培養さるゝ事は無かつた様に記憶して居ります云々

●津輕伯の葬儀

故津輕老伯の御葬儀は二十五日午前八時自邸出棺に決す（二十一日東京特電）

●黒石町の弔電 黒石町にては津輕伯薨去に就き山田町長より二十二日左記弔電を發し謹慎の意を表し居れり

一位様薨去遊ばされたるを承り哀悼に堪へず

尚當日黒石高等小學校にても生徒一同を集合の上一場の訓示をなし左の弔詞を發せり

一位様の薨去を承り慎みて悼み奉る

●弘前市長等の上京 津輕伯爵の葬儀決定に付長尾市長及菊地楯衛氏は二十二日午後十一時半青森發急行にて上京に決す

●漁夫輸送船擱座

△百五十名命拾ひ

船体も辛うじて無事

宮城縣桃生郡齋藤宇右衛門所有汽船五十浦丸（百九十一噸）は十七日午後四時半船長安西孝助以下船員十六名乗組の外多數の漁夫を搭載して樺太西海岸なる

▲海馬島を出帆 下北郡大畑及下風呂に向け航行し二十日午後七時無事大畑に入港直ちに下風呂に廻航各漁夫若干名を揚陸して百四十四名の漁夫を乗せ當港に向け出帆せるが二十一日午前零時十分大間岬字敷石沖合百五十間なる暗礁に擱座せり全日は北東の風に濃霧咫尺を辨ぜず且潮流激しかりしかは五十浦丸は之を避け安全に航行を續けんとし陸岸に接近して航行せるは抑も運の盡にて遂に全所附近にて

▲進路を誤れる にて船首は西に向かひ中央及船尾は暗礁に乗り上げ船体全く運轉の自由を失ひたるなり大間水難救護所及び辨天島に作業中なりし英船ラ號引揚工事長谷川事務所より人夫八十名出動して救助に努め二十一日午前四時五十分に至り全く引下ろすことを得たるが人命には異状なく船体亦無事なるを得たりと

●捕鯨船遭難 大阪市西區東洋捕鯨株式會社所有捕鯨船第二東郷丸（百十五噸）は室蘭港を出港し航行中二十日午前四時頃尻矢崎の大根暗礁に座礁したるが恰も全所に作業中の笠間丸引揚工事々務所小蒸氣船鹿島丸は發見し直ちに救助に向かひ四時半頃無事引下したるも船底破損を生じ損害二百圓なりしと

大正五年七月三十日

●全國市長會議 今秋仙臺市の主催にて開會する全國市長會議及小學校聯合協議會は恰も山形市にて開會の六縣市長會議とその季節を同ふしたる為め同市と交渉の結果期日の衝突を避け來る十月六日より十日まで五日間と決定し四日間を會議に費し最終の一日を松島に招待して出席者の一同の慰勞會を催ほす筈なるが會議問題は二三市の未提出あるのみ殆ど纏まりたりと云ふ

●座礁艦の現状

過日津輕海峡に座礁せる軍艦笠置の引卸工事に就いては座礁當時に於ては其の程度も甚だしく大ならざりしを以て容易に救助し得べしと豫期せられたるが其後潮流重力等の關係により艦体は著しく傾斜しつゝ海底深く砂中に割込み又徐々に海岸に接近し來たるが如き有様にて之が離礁工事頗る容易ならず先づ搭載せる彈藥石炭等の積卸を了したる後愈々引卸に従事せんとする計劃にて目下、津輕、最上の兩艦並びに工作船栗橋丸第二大港丸等を以て晝夜兼行の有様にて工事を急ぎつゝありと

●東郡宇鐵だより

▲漁況 天草、恵胡は賣れ仕舞いとなり目下日中は昆布採取及乾燥に繁忙し日没より烏賊釣りをなし居れり海濱は為めに汀より道路に至るまで昆布、あらめの干場と埋まりて足を踏む隙もなく村内は遠地よりの仲買人等の為一大市場と變じ熱鬧し居れり

▲夏期の風光 當地を起点として龍飛を中心とせる夏期の風光は曾つて俳人河東碧梧堂氏によりて日本一の絶景なるを紹介せられたるが單衣不要の當地は避暑地としても日本唯一ならん前武田林風知事一度當地に來遊「本縣に十和田湖以上の此處があるとは知らなんだ」とげに鬼鑿神工名状すべからざる奇巖怪石巨靈斧鑿の痕鮮やかなる大巖塀と、露氣肅々たる青葉と、白き練絹の囁きと、一灣の澄光とを一眸に集め、かゝる幻奇の景を百變する龍飛岬を一周せば松

島も十和田も凡景ならん男性的なる當地の探勝は最早好期に入れり

●久邇宮御見學

△合浦公園御成

久邇若宮朝融王殿下には二十九日午前九時御旅館中嶋屋御出門縣廳より差廻されたる御馬車に召され市内御見學の上合浦公園に御成り山水の風光を愛でさせられたり

△御旅館御出門 殿下には午前七時御朝食を召されたる後御召替あらせられ御案内の爲め伺候せる小濱知事、市川警察部長に謁を賜ひ正九時縣廳より差廻されたる御馬車に御乗車東事務官、北原宮内属御陪乗申上げたり、林青警署長先驅し小濱知事、市川警察部長等腕車にて扈從し奉り御旅館中嶋屋御出門遊ばさる

△市内の御見學 御旅館前新安方町より縣廳通りを安方町に出て大町、塩町、萁町を経て堤町を通り榮町を合浦公園に御成りあらせられたるが途中にて東事務官より青森銀行前にて市役所、裁判所等の位置を言上し堤橋上にては第五聯隊に通する國街路を御示し五聯隊兵營の位置及び八甲田山を仰いで凍死軍隊のありしことどもの御物語聞し召され榮町公園前にては師範、中學、商業學校等を指され御下問あらせられたり途中にて停止敬禮に對しては徐に御會釋を賜へり

△公園内御散策 合浦公園に御着あらせられるゝや先發して御待ち受奉れる工藤市長渡部保安課長等正門に御奉迎申上げ工藤市長の御案内にて先づ今上東宮にましませる折り行啓休憩所に充てさせられたる小丘の傍に設けられたる天幕内に御休憩、進め參らせたる銘茶を召させられ双眼鏡を御手にせられて遠く下北郡半嶋より浅虫海岸扱ては物珍し氣に種々御下問あり小濱知事、工藤市長等より午後に御成らせらるべき浅虫温泉なりとか野内タンクの事どもを聞き召され「北海道は向ふか、見ゆるときないか」など御下問あり厭かぬ眺めに至極満足の御様子なりしがやがてツト御立ち遊ばされ小丘を下り立たせられて海岸の御散策ありそれより今上陛下御手植の松及び故津輕伯の御手植松などを御覽ぜられて合浦公園に約四十五分間御清遊の上歸途に就かせらる

△青森驛御出發 御帰還の道は榮町より國道筋を女師範、浦町驛、縣立病院、香取神社等を御覽ぜられながら知事官邸前を右折し本社前を通られ新棧橋通りを新安方に出て午前十時四十分無事御旅館に入らせらる晝食時には早けれど汽車時間の御都合上十一時二十分御食事を召され午後零時十分は御旅館御出門青森驛に成らせ全十五分にて浅虫温泉に向はせられたり小濱知事、市川警察部長、酒井郡長御陪乗扈從し奉る

▲御旅館の殿下

二十八日御旅館中嶋屋に御着後の若宮殿下後動静を拝承し奉るに殿下に於かせられては御入浴御召替の後小濱知事市川警察部長福永理事官其他に拝謁を賜ひ其際小濱知事より大演習記念写真帳及び縣の統計書、繪葉書等を奉呈せるを御夕食後東事務官相手に御覽あり種々御下問のことあり御旅行の御疲勞を意とあらせられず至極御機嫌麗しく御覽遊ばされたりと

▲浅虫温泉御成

殿下には別項の如く市中御見學の上合浦公園の風光を賞せられ御旅館に御帰着あらせ御晝食

後午後零時十五分の列車にて浅虫温泉に御出発あらせられたるが停車場には市川警察部長、工藤市長、佐久間運輸所長、茂又技師等の御送迎あり小濱知事、酒井東郡長、林所長以下扈從し奉りたり列車の進みて野内附近に至るや窓外の風光を眺望あらせられつゝ野内タンク藤田組の鐵索築港用の石工所等に就て

▽御下問 あらせ小濱知事の奉答あり廳て浅虫驛に着し先發の福永理事官、赤松警察醫以下の御迎ひを受させつゝ御下車あらせ御旅館東奥館に入らせらる同館主平田氏は御旅館に指定されたるを光榮とし海に面したる

▽西洋間 二間を時節から最も瀟洒に裝飾して御迎へ奉りたり殿下には暫く海上の風光を賞せられて御入浴あらせられ夫れより本市より差廻されたる隼丸にて島廻りの御清遊をあそばさるべく午後二時二十分頃ランチに御乗船先づ湯の島を指して進み同島を一周して更に茂浦の方面に進みて島々の風光を御眺望あらせ尚ほ御覽に供したる

▽鯛網 引きの御覽あらせ網の目より鯛鱸など閃々と鱗光輝くを興せられ斯くて御豫定の時刻となりて船を返へし四時三十分頃御喜色麗しく御歸館あらせられたり

▲秋田縣御見學 盛岡に於かせられて御豫定より二泊當地にて泊延期遊ばされて御所勞の御模様に拝され御付の人々協議の上秋田縣御見學の上直ちに御歸京のことに御治定あらせられたるやに拝承せるが秋田縣の御日程は小坂鑛山御見學一泊秋田市御見學御一泊の由因に本縣より小濱知事、渡部保安課長、小山田主事の三氏大館まで途中御案内を兼ね御見送りを申上ぐる筈

●東北振興策調査

政府の囑託により親しく東北六縣を視察し歸來其意見書を起草しつゝある小林丑三郎博士語つて曰く東北振興策に關し内務省より各縣に諮問せる所謂救濟諮問案の答申書未だ到達せざるものある為め尚之を發表するの時期に達せざるも東北が他地方に比し極めて悪しき状態の下にありと見るべき者約十三件あり是東北が由來天の恵みに浴せず人々の發達は他より後れたる所以なるが其人為によりて之を除去し得べしと認むべきもの二三にして留まらず但し其の施設中には法令の改廢を要すべきものあり多額の經費を投ぜざる可からざるものもあり従て此の案を實現するには尚多少の歳月を要すべしと尚聞く處に依れば當局にては小林博士の調査結了するを待つて其の方針を決定し更に各項目に涉つて調査の歩を進むる筈なるが目下審議しつゝあるは左の五項也

- 一、東北六縣に對し特別地價修正若しくは特別輕減を行ふの必要ありや若しありとせば其の程度如何其の基準を何縣に求むべきか
- 一、地勢上東北は良港に乏し是れ貨物の停滯金融の逼迫を來せし一原因なるが如し故に港灣調査會の調査を待つて一二の築港をなすこと
- 一、東北に飢饉多きには交通機關の發達幼稚なること其の一原因なり故に官民戮力して速やかに其の建設を圖ること
- 一、實業教育の普及發達を圖ること
- 一、農事試験場を増設し官營の理化学試験所を置くこと

大正五年八月一日

●浅虫鯛網曳増員 來たる六日日曜日浅虫發展會主催の双子島鯛網曳き計劃の事は既報せしが最初會員を五十名と限りしも申込者既に豫定數を超過したる為め愈々會員増加する事と決したる由なれば希望者は五日朝までに浅虫温泉永和商店に申込まれたしと因に會費は舁賃晝飯弁当酒肴付にて一圓二十錢にて當日漁獲の魚類も食膳にのぼるものなりと

大正五年八月四日

●漁業講習會開會

▼講習員は十四縣より

東北六縣漁業會の為に農商務省に於て大日本水産組合に委嘱し開設せる漁業組合講習會は一日午前九時半宮城縣會議事堂に於て開講式を舉行せしが劈頭牧水産理事の本會開催の目的は諸氏の既に知諒せらるゝ如く

△漁村の經營開發 に存するものなるが漁村の開發上現今最も急務とする處のものは漁船の改良漁獲物の保護養成漁獲物の製法改良並びに共同販賣其他輸出に關する諸般の取扱上に付ての改善なるが我が邦は環海國なるたけ漁業の利は至る處として豊饒ならざるは無く之を克く収むると否とは繋りて國富の源泉に關はれり近時は朝野に叫ばるゝ農村振興問題の考究は正に喫緊の問題たると共に漁村の振興問題も亦大いに此の必要を認むる處なり漁村に於ける事業たるや△國家經濟の上 より打算するも國民の生活上副食物榮養料として一日も缺くべからざる必需品をして之を供給する使命を荷ひしめあるものなれば農工商業と並び立たしむべき必要あり其の經濟上の維持向上を企圖するは國家として當然努むべき一大任務を帯べるものなり而して漁村の經營と維持とは之を現行制度の趣旨に顧みて各漁村に設置せらるゝ漁業組合の機關たる人々の努力に俟たざるべからざるもの多き處なるに諸氏は一村の名望を負ふて擧げられて組合の理事幹事若しくは之が監督機關たり其の責任を自覺するに於ては一層且大なるものあるべく漁村開發向上の為め

△眞に精神的 貴き犠牲を拂はるゝを惜しまれざらんことを望んで止まざるものなりとの意味に於て數十分の挨拶あり次に柿沼内務部長知事代理として本縣に斯會の開催せらるゝに至りし迄の沿革に次いで漁村の改良は刻下天下に呼號せらるゝ農村の振興策と相俟って之が攻究の要あると共に其の實果を擧ぐるに務むるの切要あるものあるを説き各地既に水産組合の設置せる數甚だ衆きも其の眞の意義ある活動をしつゝあるものに至りては聊々晨星の如き觀なき能はざるは憾むべきことにして是等は畢竟するに其の理事幹事其他之に従事する役員の人を得ざるに起因するを主なる原因として數え是等の缺陷を補ふべき為めに本會を特に農商務省が大日本水産會に託して我が東北各地漁村の為に開講せられたるものなれば諸氏は此の期を尤も完全に活用するの覺悟なかるべからずとの大意を約數十分に互りて舒説し次に講師惣代川嶋理事の挨拶あり十時半式を終へたるが暫時の休憩を為せし後講習に移れり尚各縣講習員は

岩手 二六人 秋田 一人 福島 三人 新潟 二人

山形	一人	北海道	一人	茨城	三人	石川	二人
神奈川	一人	兵庫	一人	山口	一人	佐賀	一人
青森	一人	宮城	六五人				計百十八人

大正五年八月八日

●双子島と鯛網

△順風に帆上げた四艘

△青森縣灣内第一の眺望

■浅虫發展會主催の双子島鯛網曳きは豫報の通り六日に舉行された。此日一天拭ふが如く晴れ渡り東風弱からず強からず理想的の舟日和であった。帆を掛けた四艘の舟に分乘された五十餘名の會員は午前八時頃の朝風に相續いて浅虫を出帆し、染めた様な紺碧の海を滑る様に走った。見え透く海の底は石も草も貝殻も皆藍色を含んで物として美しからざるは無く、針魚が群れを為して舟傍を横切り先頭の一匹が向きを變へれば皆が言合はした様に向きを變へる等海馴れぬ目には只々面白く珍しい景色ばかりであった。

■湯の島の緑、裸島の褐を左右に見て灣外に出づれば、掛け渡した帆は唸りを起こして舟は矢を射る様に走り、土屋浪打の漁村を指摘する間に何時しか茂浦島に近づいた。顧みれば鷗島はピラミッドの様に峙ち湯の島裸島を通して浅虫善知鳥前は繪の様に霞み、岩木山は西の空に雄姿を現じ、廣い青森灣は只だ湖の様に穏やかに、船体が見えぬ帆掛船は夢の中から生まれた様に帆ばかり白く淡く浮いて、舳に立って受ける涼風は現乍ら眺める景色は皆恍惚と夢見心地であった。

■茂浦の灣口走りの絶壁の下で第一回の鯛網を曳いた。唯見る二隻の漁舟が網を下ろし乍ら電の如く漕ぎ進み見る間に直径五十間位の圓を畫き次の瞬間には早や下ろした網を掛聲勇ましく引上げて居る。其の早いこと正に目にも止まらぬばかりで懸て袋に近づけば入った魚は弾丸の様に逃げようと身をもがく。中には網を越え様と飛上がるものもある。斯くて一同環視の内喝采裡に大漁を終わった。

■第二の網は茂浦灣内に掛けたが一同は走りから真直に双子嶋に向かった。島にならんとしなれば小島、懸崖相續く長崎の磯々、飛鳥風の如く飛去る隼崎等の勝景を越ゆれば風俄に死して愈々双子島に着いた。沿岸の絶壁は岩屏風を立て渡して海は岸から底知れぬ深さとなる。舟を荒磯に乗り捨てて、千疊敷に上れば先發隊は既に莫座を敷いて一行を待ってる。北東の方は浦田稻生の磯村の彼方に大島は手にも取るべく近く。斗南半嶋は九艘泊から川内の一帶鮮やかに阿部城の煙は雲無い空に雲を起こして。茲から眺める灣内の眺望は正に灣内第一であらねばならぬ。

■辨當は運ばれた。上戸下戸に應じて正宗サイダーが配られ今取った魚迄吸物となって食膳に上り一行は飽くまで食ひ且つ飲んだ。食後或は游泳する者磯間に糸を垂れる者寫生帖を繰る者日蔭に午睡を貪る者思ひ思ひに半日の快を擅まゝにして午後二時歸途に就いた。歸途は一瀉千里順風に帆を上げて二里の波路を瞬く暇に浅虫に着き發展會の萬歳を三唱して解散した（秋

蝶)

大正五年八月九日

●白鷗丸歓迎會

八戸魚市場八戸肥料組合、日本石油株式會社八戸代理店、寶田石油株式會社八戸代理店、新潟鐵工場東京出張所、明石木下鐵工場東京販賣部神田重夫、中村榮吉、小西源三郎諸氏發起の縣水産試験場白鷗丸歓迎會は七日午後五時より鮫石田屋に於て開催されたり來賓

小濱知事、中村水産試験場長、松下郡長、小岩井湊水産傳習所長、遠山、北村兩縣會議員、小山田官房主事、石田縣屬、辻、鈴木技手、小山田郡會議長、前田、大島、宇都宮各郡書記、奈須川、八戸、山浦、小中野、橋本、鮫各町村長、長谷川、清水、佐々木、上田、田中、鮫、白銀、湊各漁業組合員、白鷗丸乗組員、新聞記者等賛成者發起人等にて八十餘名

席定まるや一發の狼烟を合圖に萬国旗にて裝飾せられたる白鷗丸は發動機の音勇ましく濃霧を突破し來たり堅牢なる船体を會場前十數間の波上に現はしたれば魚族を追ふて萬里の波濤を航せんとする其の勇姿に何れも萬歳を唱へたり夫れより神田重雄氏の開演の挨拶あり小濱知事 中村水産試験場長には謝辭を兼ねて漁業奨勵白鷗丸の任務將來の希望等を述べられ次いで宴に移り酒間發起人諸氏並びに鮫湊の校書によりて斡旋せられ餘興あり稀なる盛會にて午後十時奈須川町長の發聲にて白鷗丸の萬歳を唱へ前途を祝福して散會したり

大正五年八月十二日

●漁村の救濟

前水産講習所長下啓助氏語って曰く農村の疲弊と相並んで當然これが救濟策を講ぜざるべからざるにも拘らず農村救濟の聲大なるに比してその事の極めて尠なきは遺憾なり尤も▲漁村中に於ても 各種設備の充分に行はるゝ處に於てはこれが必要なしと雖も多くは之が救濟を必要とすべく如斯きは畢竟するに漁村生活の収入不足に農民よりも貯蓄の念慮乏しき故にして一旦▲不漁の時期襲來 せんが彼等の困難は實に名状すべからざるものあり之を以て先づ漁民救濟に對し相當の設備を講じこれが實行を奨勵するは今日の最大急務に属することなりとす勿論從來農商務省に於ては是等の點に就て充分の注意を怠らざりしが時として技術方面に偏するの傾向あるを免れざりき即ち▲漁獲の方法魚貝養殖法 等に就ては大いにこれが奨勵の結果其の發達頗る見るべきものありしが金融上の問題或は共同販賣等のことに就ては其の發達遅々として振はざりしを以て近時此點に着目し各所に於て講習會等を開催しこれが發達助長に就て意を用ひたる結果漸次順調に向ひつゝあるものゝ如し漁村に於ても亦農村に於けるが如く▲信用組合を興し て金融上に利便を得せしめ或は貯蓄を奨勵するが如き最も必要な事なるにも拘らず在來漁業組合に於てこれが施設を許さざりし所以のものは畢竟人を得るの困難なりしが為めに於てこれが施行の圓滑に行はるゝ曉に於ては漁村救濟に就て一段の効果あるべしと信ぜらるこれと同時に▲共同販賣の組合 を各地に起こすは最も必要なことに於てこれによりて漁民は仲介者によりて壟斷せられたる利益を自家に収むることを得べきを以て其の得る處は實に尠なか

らざるべし▲漁民に共同一致の精神なきの結果彼等が當然得らるべき利益も動もすれば他に之を奪ひさらるゝが如き状態に陥るものなるを以て彼等に共同事業に就て尠なからざる効果あるべしと信ず

●實業教科書

文部省は教科書の國定主義を中學程度の諸學校にも及ぼさんとし専ら研究中なるが此の内最も急施を要するものは實業學校用のものにして實業學校長會議に於ても屢々其の編纂方に就き建議せられたる位なれば具体的方法に關し近く招集すべき全國中學校大會の意見を徴する筈なり同省は之に先立ち準國定教科書として水産學校用のものを編纂することゝし既に第一卷製造編を脱稿上梓し第二卷養殖第三卷漁撈の兩編立案中なりと

大正五年八月十五日

●漁船遭難

△三名の溺死

七日夜下北郡大間村柔魚釣川崎磯舟等數十隻沖出せしが磯舟三人乗伊藤桑太郎二男（二十）外十七と十三の兩少年は濃霧の爲め針路を誤り行衛不明となり村内大騒ぎの末朝死体が一名発見したるも他の二名は未だ見當らず

大正五年八月十六日

●柔魚釣船の轉覆

十日の夜下北郡正津川大畑下風呂の柔魚釣船は一艘にて三四千尾磯舟は一二千尾づゝを積み夜半前後何れも歸港中追々東風高波のため各地とも一二艘の轉覆せし内不幸にも正津川一人行衛不明あり其他は幸ひに救助せられたりと

●船中の衝心

東津輕郡一本木村字奥平部漁夫田中金三郎（二五）は去る十二日午前十二時發の小樽丸にて釧路を發し函館に向け航行中同日午後十時頃より脚氣病の發作を覺える苦痛を訴ふるより船員等は種々手當を施したるも遂に重態に陥り翌午前二時に至り死亡せる由同船入港と共に水上署に届出たり

大正五年八月十七日

●下北の漁況

▲柔魚漁 前夜來の暴雨は十日朝に至りて歇む下風呂の柔魚漁は川崎船一隻（七八人乗）にて漁獲高七八千乃至一萬尾に達し其の以西なる易國間蛇浦の漁獲は遠く下風呂に及ばざりし▲海草と鮑 目下大間に於ては石花菜乾上がり兩三日中取引の筈價格は百石に付七千八百圓内外の由又た地方重要産物たる鮑は例年になき薄漁なりしは海草繁茂によるといふ昆布は成育頗る良好也▲鯛漁 佐井村の鯛漁は相應の收穫にて其の都度函館に回漕し價格一貫目一圓五六十錢の由此の沿岸海髪は稀有の薄生なりと

大正五年八月二十二日

●泊漁港築設問題

▽地元村民の陳情

上北郡六カ所村大字泊は戸數二百三十戸人口二千人あり同郡太平洋岸有數の漁港にして同港灣の勢力範圍内に於ける鰹柔魚等の海産物産額十八萬圓を超過し一カ年出入り船舶は發動機船、川崎船、改良船、カッコ船、天當船、磯舟等を合算して四萬六千七百艘の多きに達し移出入貨物八千四百個及び乗降客人員二千四百人を示し近海航路船及び漁船の避難港として最も重要な港灣なるが近來港口を距てる約四町の南方にある明神川の流砂次第に夥しくなりて周圍約三百間ある港内に沖積し加ふるに潮流は常に南方より北に向かひ流動しつゝあるを以て一度東南風の吹く時は明神川の水と相合して灣内に砂礫を押し込め打寄するの作用を為し漁業組合に於て年々人夫數百人を以て砂防工事を施すも其の效果著しからず為めに港内は漸次狹隘になり行きつゝありて獨り泊村民の死活問題として看過すべからざるのみならず一時に避難漁船百艘内外に及ぶ時は其の危険名状すべからざるものあり同漁港改修若くは築設に就ては曩に名尾内務部長金澤土木課長等の視察ありたるも最も急施を要するが故に至急着手方に付笠尾六カ所村長及び漁業組合理事種市忠七兩氏は昨日來青前松森縣議と共に縣廳に出頭し親しく陳情する處ありたるとのことなるが當時金澤課長及び名尾部長には泊港の事に關しては同情に堪えざるも縣經濟の困難なる今日村費に對し補助するならば格別縣費一途にて改修するが如きは不可能なるべし現に漁港として最も必要なる鮫港さへ放任し置く有様なりとのことなりし由にて尚小濱知事にも面會し陳情する處ありしといふ

大正五年八月二十四日

●東海岸の漁港

△泊港と白糖港

上北郡泊港は近年砂州のため漁船の碇泊に不便なる為め改修を加ふるの必要を認め種々計劃しつゝあるも何分一村の力の能くすべきにあらざるより同村長及び漁業組合理事には二十一日來青縣廳に陳情する處ありしこと既報の如くなるが縣當局者に於ても鮫港以北に於て漁港を置くことの必要を認め居るも經濟の關係もあれば容易に實行不可能なるべく若しも之を實行する場合に到達するに於ては泊港を取るべきか將た白糖港を以てすべきかといふに當局者に於ては泊よりは白糖を適當と認め居る由にて泊村の陳情委員にも其の意味の事を語りたりといふ

大正五年八月二十五日

●築港の工況

○浦島山の工事

野内工場設置以來浦島山に於ける石材採取工事は着々進捗し計劃中なりし大爆發準備も多量の火薬を填充する為め三尺四方に奥行四十尺程岩盤を掘鑿する豫定にて目下盛に工を急ぎつゝ

あるも岩盤は非常に堅質にして一日の工程四五寸に過ぎず昨今漸く三十尺に達したれば來月早々愈々爆破作業に着手するに至るべきが右に就き築港事務所にては該作業従事員物色中にして希望としては砲術學校出身の豫備砲兵にして火薬の取扱及び爆破作業に熟練なるものたるを要すとの事なれば希望者は履歴書携帯全事務所又は野内工場に交渉然るべし△尚該大爆發に際しては成るべく海岸に向け岩石破片の飛散する様仕掛くる由なれば附近航行の船舶漁船に對しては豫告あるべきも相當注意を要すべく又目下民間請負にて野内附近の海岸に面せる山の爆破を行ひつゝあるなれば出漁者等充分警戒を要すと

○北防波堤工事

既報の如く阿部外二氏の請負にて安方海岸沖北防波堤築設豫定地海底深く捨石作業をなしつゝあるが契約期間は九月中なるも契約高千五百立坪に對し本月二十日までに既に千百十五立坪六合八勺の投棄を完了し其の進捗の程度速やかなればこの分にては來月早々に全部の成功を見るべく引續き西防波堤其他の投石作業を契約するに至るべきかと

●鮑海鼠取締規則

▼九月一日實施

本月九日付農商務省令第二十五号を以て鮑及海鼠製品取締規則を發布せしが其内乾鮑罐詰鮑は九月一日より實施せらるゝものにして乾鮑明鮑一箇一匁五分灰鮑（臟腑付）二匁全上臟腑抜一匁六分罐詰鮑一箇三匁以上のものに非ざれば之を販賣することを得ず若し之に違背したるものは百圓以下の罰金に處し其所有し又所持する製品は之を没収され尚其の未遂罪も罰せらるべし而して販賣するものは其の容器又は包装に品名及原産地名を表示すべく此の規定に違反し又は虚偽の表示をなしたるものは五十圓以下の罰金又は科料に處せらるべしと但し海鼠は大正六年六月三十日迄は實施せられずと

●連絡貨物依然

▲臨時列車は半永久

青森連絡貨物は上り中継貨物の優勢なる事依然たるものあり昨今も一日平均七八百個の上り中継貨物にて主として肥料塩干魚木材なるが新穀の出廻りに近づき雜穀類の増加を見つゝあり今日にては本市發陸上設備整頓して輸送力は優に一日一千噸以上に堪えべきを以て従前の如き停滯を來たする事殆ど無からんも此の頃は日増し増加の趨勢なり従つて本市發臨時特發列車は當分持續さるべし

大正五年九月三日

●龍飛救難所員の運動

八月二十四日此頃打ち續く炎熱を物ともせず當所備付けの救助船（七十石）龍飛丸をして龍飛岬より増川まで船体試験の爲め航海を爲さしめたるが全船は去る大正三年五月中旬村内の青年等大島小島へ近海漁業に使用せしめたる程のものなれば何時又村の爲め漁業船に用ゆることなくを保し難く又當然救助船なる以上幸ひ今日まで快晴打續き海上眠りて浪起こらず風立たずして鏡の如く四方の山々青く白帆の諸方に點在し汽船は微かに黒煙棚引きて白雲の中を縫ひ行

く様實に活畫の如く水難の何たるを忘れたる心地す而かも平時にありて亂を忘れずとは是即ち海國男兒が怒濤狂亂を躊躇せず蹶起して之に當り海上の危難に對しては我が國特有の美風たる義侠の精神を發揮する為めなりとの田邊監守長の趣旨にて救助夫長牧野市五郎外三十名の青年會員在郷軍人會員其の他老年よりなる救難所救助夫等は牧野救助夫長の指揮の下に元氣克く漕ぎ出し航行中遺憾なく船体を調査し且つ同船の道具の充非船の走り具合帆の掛け具合等細密なる点まで研究しつゝ午前十一時三十分増川小林區署棧橋前に碇泊し乗組員上陸し各自中飯をすまし直ちに午後一時五分該船置場建築に要する材料を全部積載し出帆歸途に就く本日は都合よく午後よりは龍飛方面への航海は東北への順風に帆孕みて早きこと矢の如く海上浪を蹴散ちらして雪の如く僅か一時間餘にして龍飛源兵衛の澗に入り一同上陸し慰勞會を催し午後七時解散せり

●白糠の鰹初漁

下北郡東海岸は之まで鰹漁は八月中旬の初漁なりしが本年は岩手縣海岸を初め未だ初漁なく各地當業者も大いに心痛の處白糠石油發動機船宮島丸は漁撈準備を為し北端尻矢崎沖合より鮫沖合間を搜索中八月三十一日午後四時四五百目廻りの鰹八百餘尾の初漁あり満艦旗を翻し入港せり漁撈長の話しに依れば沖合一面鰹群集しある由潮流も昨年と同様なれば今後好漁あらんと云へり漁船一般活気を呈し出漁準備に忙殺され居る由

大正五年九月五日

●六縣共進會

逸すべからざる好機

○奥羽六縣聯合共進會も來たる二十二日と接近し來れり、主催地たる山形縣の準備は云ふまでもなし聯合各縣に於ても、其の期日の到来を待侘びて、種々の計畫をなしつゝあるが如し、蓋し主催縣の準備と聯合縣の意気込みより察すれば、共進會の盛況は豫じめ想見するに足るものあるに似たり、山形縣が共進會開催の希望あるや久し、而して今や時期到來して、漸く其の目的を達したるなり、主催者として恐らくは、其の準備に於て缺くる處なかるべきか、聯合縣に於ても、聯合共進會の開催を見ざるや久し、而して其の開催を希望するもの尠なからざりし也、即ち今回の開催の如きは、實に其の時機を得たるものなるを以て、聯合縣の人氣に投じ、歡迎する處となりつゝあるも偶然にあらざる也

○東北振興の聲や高く、聯合共進會の、正に此の時に於て、開催せられんとするは、予輩特に意義あるを感得せずんばあらざるなり、共進會に出陳の物品は、聯合縣に於ける産業の振否を判ずべき好個の標準たるや云ふまでもなし、此の機會を以て、開かるべき各種の會合は殆ど連日に互りて寧日なく、此の間に於て、種々の案件は研究せられ、各方面の有志をして、自得せしめ、發奮せしむるものを見出さしむべし、斯くして此の共進會の開催によりて主催縣は云ふまでもなし、各聯合縣に於ても得る處のもの、實に輕微にあらざるべきを信ず、頃者山形縣を視察し來れる一實業家は、同縣が今回の共進會に對する意気込みの盛んなることを説き、尚ほ同縣が全体に於て人氣の旺盛なること、産業の發展振りなどの、兎角本縣の如き比較すべく

もあらざるを語りて、共進會以外、各種の會合以外に於ても、同縣の事情を査察することの、時節柄大なる参考たるべきを以てし居たりしが、同縣が他の諸縣に先んじて、多年聯合共進會を主催せんとし、朝野一致して、種々畫策し來れるに徴するも、同縣が六縣中に於ても、比較的其の態度の積極的なること、而して産業の之に準じて發展しつゝあるを察するに足るものあるに似たり、山形は確かに東北に於ける産業地なり、新進地というべき也

○今其れ本縣地に於ても、此の機會を利用して、視察團は計畫せられ、便利なる旅行は實行せられんとす、特別なる希望目的を有するものは論なしと雖も、然らざるものにおいて、セメテ此の便利なる方法の下に、視察を實行せられんことを勧告す、六縣の産業は一場の下に展開して、諸君の批判を待ちつゝある也、切に此の好機を逸せざらんことを

大正五年九月八日

●艦隊來航 第二艦隊入港

▲帝國海軍の精銳

▲大小艦艇十餘隻

八代中将の統率せる第二艦隊の各艦は七日午前六時軸艫相啣んで尻屋岬沖合を通過せりとの報ありしが一時半に至るや遙かに平館角の東方に煤烟數條立ち迷へり正しく第二艦隊に相違なければ市中俄に活気立ち待ち構えたる市民は夫れと許り新舊棧橋又は海岸一帶人山を築けるが漸く近づき來たり午後二時に至るや各艦は堂々たる勇姿は肉眼にて明らかに認め得るに至れり△單縦陣にて入港 最先頭は旗艦霧島（二八、二〇〇噸）にして榛名（二八、二〇〇噸）、比叡（二七、五〇〇噸）の兩巡洋戰艦之に次ぎ筑摩（四、九五〇噸）、矢矧の兩巡洋艦一列單縦陣にて威風堂々港内に入り來たり艦隊の左方には旗艦出雲を先頭に第二水雷戰隊の駆逐隊之に随ひ午後三時となるや回轉して一列横隊となり各艦一齊投錨せり

△知事市長の訪問 投錨と共に小濱知事、市川警察部長等隼丸に座乗して旗艦霧島に八代司令長官を訪問し工藤市長は舢にて霧島を始め各艦を歴訪せり

△未曾有の壯觀 碇泊せる各艦は既報せる如く二萬七千噸の超弩級巡洋戰艦三隻に加ふるに新式巡洋艦二隻装甲巡洋艦一隻其他駆逐艦八隻にて霧島、榛名、比叡の三艦が小山の如き勇姿を灣内に横たへたる壯觀云ふ計なく弩級戰艦の來航は開港以來未曾有とする處なり

△半舷上陸 午後四時半より各艦の半舷上陸を許され將校士卒の多數上陸散歩し街上の白衣一奇觀を呈し市内の賑合言はん方なかりし

△糧食搭載 第二艦隊は愈々七日午後三時半入港せしが同艦隊は當港より野菜四千貫牛肉二千貫魚一千貫を搭載する由

▲第一艦隊は本日

函館港碇泊中の第一艦隊は八日全港より直ちに大湊に向かふ豫定の處全日午後一先づ青森に立寄り夫れより大湊に向かふ筈なるが全艦隊は當港にては糧食を積まずと

▲第二艦隊出港期 第二艦隊は來たる十日迄當港に碇泊し一般の觀覽をも許す筈なるが十一日を以て大湊に向かふ筈

▲第三艦隊入港期 目下舞鶴に集合碇泊中なる第五戦艦及第三水雷隊は音羽を旗艦として駆逐艦九隻は大湊へ向け來航する筈にて來たる十一日入港の豫定なりと

▲連合艦隊の組織 斯くて艦隊集合の上にて茲に聯合艦隊を組織し陸奥灣を中心として演習を行ひ飛行機母艦も參加して飛行偵察等をなすべしと

▲特命檢閲の施行 本月下旬横須賀に於て施行する豫定なりしも虎疫流行の爲め避難し來たれることゝて演習後陸奥灣内に於て施行する筈なりと

▲海軍特命檢閲使 左の如く仰付けらる

海軍大將男爵 出 羽 重 遠

特命檢閲使被仰付

海軍 大 將 竹 下 勇

同 千 坂 智次郎

同機關少 將 船 橋 善 彌

(以下省略)

大正五年九月九日

●白鷗の群の如くに

△艦隊半舷の上陸

△陸上宿泊千余人

□幾年ぶりぞ

艦隊が來る來るとの聲は忽ちにして隅から隅まで傳へられ、氣早いものは十一時から棧橋へと歩を運んだ、刻一刻と人影殖え、恰も新舊兩棧橋には一種の魔力あるかの如く人を引き寄せて、一時半頃には兩棧橋を中心にして、海岸は人の塀を作った。

やがて二時近くなると、地平線に一抹の黒烟は微かに流れた、見えた見えた煙が見えた、何處だ何の方面だなどゝ、橋上は動揺めいた、動揺めきのまだ鎮まらぬうちに、艦影は見えたと呼んだものがあつた、どれどれと動揺めきは一層大きくなった、今度は見えた見えたの聲は諸方から涌くが如く起こつた。

帝國の第二艦隊は其の勇姿を動揺めく群衆の前に現はした、舳艫相啣みて進みつゝある、橋上を壓する人の波は益々烈しくなつた、艦隊來たる！艦隊來たる！！艦隊來たる！！異口同音、其の度毎に其の響きを大にする、艦隊は歡呼の裡に投錨した。

お極まり文句ながら、灣頭の壯觀とか、偉觀とかいはざれば、こゝの納まりが付かないといふ光景である、市民は此の壯大なる光景を迎ふることそも幾年ぶりなりとするぞ、其の歡喜容易に測ることは出來ない。

□市中の白晝

各艦の半舷の上陸は許され、陸に憧るゝ海の人を載せたる小蒸汽は先を争ふて棧橋をさして來た、上陸をさせては歸り歸りする小蒸汽の來往忙はしく、棧橋は群衆の波と海の人との波と渦を卷いて、常には見られぬ奇觀を呈した。

正確には知らぬが、約三千人も上陸したものらしく、而して其の半數は陸上宿泊を許可されたといふことである、流行病の爲めに各地とも上陸を許されずにいたのが、こゝ青森に於て漸く自由に揺るぎなき地を踏むのだから、海の人々の嬉しさは、我々の如き陸にばかり居る者の想像を許さぬところであらう。

三千の海の人々は憧れの情を恣にせんが爲めに、巢を立ちたる鳥の如く四方八方に飛んだ、盡く白衣を着け居るものだから、市中随所に白鷗の群れが押し寄せたやうな美觀を現はした、蜆貝方面の如きは来るは来るは、一時は市内を白盡した。

□草あれば露

常に動揺する艦上を調子を取りつゝ歩いてるので、其の習慣は陸上を歩く時にも一種のやわらかさがある、其の服装も又陸軍の如く武張っていない、何となく瀟洒な趣がある、加ふるに其の言語も角が取れて自ら一種の調を為して居る、此の全ての點に於て陸の人と趣致を異にして居る海の人が、波濤の擴がれる如く市中に横溢したのである、其の活気と殷賑は思ひやらるゝではないか。

忽ちにして旭町の一郭は白鷗の群來するところとなり、忽ちにして濱街の各旗亭は海の若い人々の占領するところとなった、北も南も溢るゝ客に謝絶する言葉も盡きたる光景は、大火以來の新青森となってから初めて見るところである。

其の夜の光景は別項に出て居るからこゝに屋上屋を築くの煩を避くるが苟くも酒あり果物あり女あれば、こゝに海の人々は立ち寄りて歡呼して居る、濱街其他殆ど徹夜の賑さであった。

來たれ白鷗の如き若き人々毎年來たりて單調なる此の街を生かしてもらひたい。

(鷗 生)

大正五年九月十一日

●艦隊歓迎

▼未曾有の盛況

既報の如く九日午後五時より濱町公會堂に於て第二艦隊將校招待會を開催したり此の日會場なる公會堂正門には大日章旗を交叉し紅白幔幕をめぐらし場内に入れば最近天井を張替へ四壁を塗替へたる新装の樓上大廣間には各國旗を蜘蛛手に張渡し盆栽及八甲田山麓より採取せる「ひかげかつら」を以て裝飾せる卓子を四列に置きならべ北側を來賓席南側を接待側の席に充て別に東側に一席を設け茲には八代司令長官を初め第二水雷艇總司令官高木七太郎參謀長少將永田泰次郎、霧島艦長大佐志摩猛、宮田大佐松本大佐、矢矧艦長大佐内田彦三郎、筑摩艦長大佐田尻唯一、榛名艦長大佐布目満造、比叡艦長大佐加藤寛治、平野軍医大監森本少佐、小林主計大監

等の正賓と差向ひに

小濱知事、工藤市長、百島裁判所長、守津檢事正、藤瀬判事、香取檢事、佐藤大林區署長、市川警察部長、樋口商業會議所會頭、各新聞社長
着席したり而して當日出席の來賓は百九十九名の豫定なりしも出雲艦長河内大佐外二十三名の

欠席ありし為め結局百六十四名となりしが接待側は右の外

佐久間運輸事務所長、松田検事、櫻庭、和氣、宮脇、小澤各判事、福永、土屋兩縣理事官、井出郵便局長、原稅務署長、杉本青森驛長、島田典獄、林青警署長、山田軍人分會長及市内郡部に於ける縣郡市會議員、村長、實業家、醫師、弁護士、教員、銀行家在郷陸海軍將校其他

二百五十餘名主客合計四百二十餘名の大宴會となりしが直ちに開演濱街校書數十名此の間を幹旋し酒數行に及ぶや工藤市長立って左の如く歡迎の挨拶を述べ帝國海軍及第二艦隊の為めに乾杯せり

司令長官閣下、司令官並びに參謀長閣下、其他の諸君、當地は御覽の通りの極めて平凡なる處でありまして何ら特色がないのであります強て之を求めますれば海のあるのは他のなき處に比して幾分か特色と云へば云へることもあらうかと思はるゝのであります従つて地方人は海を愛すると云ふ思想を懷いて居る譯であります海を愛するの結果自ら船をも愛すると云ふことになるのであります、而して其の船の中に於きましても帝國々防の大任を荷ふて帝國の國威を發揚し吾人の名聲と幸福とを増進せしむるに努むる處の帝國艦隊に向ひましては至大の敬意を拂ふて居るものであります、然るに先年までは帝國艦隊も時々當地に入港下されまして非常に喜んで居りましたる處、其後大湊要港部の整頓せらるゝに従ひ大抵同港に入港せられまして當地には容易に參らんようになりまして非常に遺憾に存じて居る次第であります、然るに今回は久方振りにて御入港あらせられ而かも帝國艦隊の精華たる第二艦隊の勇姿堂々として入港せられたるは當地空前の盛事でありまして且其の拝艦を許されたるは教育上、一般精神上、無限の感化を蒙りましたる次第でありて無上の光榮と多大の幸福と存する次第であります此の點に對しましては厚く御禮を申し上げます就ては聊か歡迎の微意を表したいと存じまして御案内を申し上げたる處、快く御容れ下されまして今夕斯る多數の御光來下されましたる事は我々の極めて光榮となる處でありて重ねて御禮を申上ぐる處であります。

申す迄もなき處でありまするが今や熟ら帝國の現状を見まするのに國威は赫々として中外に輝き國運は隆々として日に上りつゝありて特に今回の日獨戰爭に於て一層光輝を放ち所謂列強俱に瞻、萬邦等しく仰ぐとは正しく帝國今日の狀況であらうと思はるゝのであります、斯くの如き所以のものは何ぞと云ふことになりまして固より叡聖文武なる天皇陛下の御稜威に因り奉ることは申すまでもなきことでありまするが、抑亦帝國海軍の力與りて多しと云はなければならんと信じます、若しも往年の日本海々戰に於て彼が如き大勝がなかつたならば又今回の日獨戰爭に於て海軍の力がなかつたならば果たして能く今日の隆盛を見ることが出來ようかと思ふと云ふと我々は帝國海軍に對しまして深厚なる敬意を表し滿腔の感謝を拂ふべきは我々の一大義務なりと感ずるものであります、此は既往の海軍に對する感想でありまするが將來は如何と云ひますれば更に一層の信頼を繋がざるを得ないのであります、其れは申すまでもなく帝國は四面環海でありて國防の第一線としては是非とも海軍に依らざるを得んと思ひます、而して今や世界の大勢を見まする時は何れも制海權を握るを以て優勝の地位を占むるものと為し争ふて其の計劃に汲々たるものゝ如きであります曾て某氏の說に二十世紀

の優勝者は太平洋の制海權を握る者の手に歸すべしと云はれたることがありましたが我々は之を以て至言と思ひます我々は實に米國海軍擴張の報を聞く毎に太平洋を聯想し太平洋を聯想する毎に帝國海軍を聯想し帝國海軍を聯想する毎に之に信賴するの情、轉た痛切を感ずるのであります、然るに今や我々が斯く信賴する處の艦隊を目前に迎て堂々たる勇姿に接することを得たるのみならず今夕は猶其の本尊とも仰ぐ處の武勲赫々たる司令長官閣下並に閣下の率いらるゝ處の閣下並びに諸君の颯爽たる英姿、凜々たる風口に接することを得ましたのは我々大に意を強ふする次第でありて光榮、歡喜兩つながら情に堪へざる次第であります。扱て盛んなる式を口へて歡迎の意を表したいと存じますが何分田舎の事でありて百事意の如くならず斯る不体裁なる席へ御案内申し上げたるは恐縮の外ありませんけれども其の足らざる處を寛容し唯、一片赤心のある處をお認め下されまして緩々歡を御盡し下されますれば誠に光榮の至りと存じます。

終りに臨みまして帝國海軍の爲め第二艦隊の爲め閣下並びに諸君の御健康を祝するが爲めに一同と共に乾杯致します。

一同之に和して乾杯し海軍の奏樂終はるや八代司令長官立って大要左の如く述べらる

閣下並に諸君、今回第二艦隊の入港に付官民各位の御招待を蒙りしが初め工藤市長の御話には極めて簡單なる御催しなりと承はり居りしに豫想外の御盛宴を開かれ斯くまで御配慮を仰ぐこと洵に恐縮の外ありません殊に工藤市長には我々海軍軍人に對して現在及將來のことに關して縷々御話ありしが此の点は一同の常に服膺して苟も忘れざらんことを期する覺悟であります、今回入港したる艦隊の内其の一二を除けば他は殆んど新造にかゝるもので閣下並に諸君と初めてお目にかゝるのであります、自分は是迄大湊には數回來たことがあります但し御當地は其際に通過したのみで親しく足を留めたことは實に今回は初めてあります今や我が艦隊の入港に際して御當地の風物に接し自ら種々の感想に打たるゝのであります、只今工藤市長には御當地の特色は只だ

▽港灣のみで其の他には何者もないように申されましたが口は甚だ當を得ないことゝ思はれます、自分は昨日縣廳に至りて親しく御當地の産業状態を尋ねて決して然らざることを確かめたのであります、現に育馬事業は如何、海産事業は如何、林檎の如き年額百萬圓を生産すといふではありませんか海産物の如きも鮑や鯛の如き網を以て澤山漁獲さるゝといふことでもあります是等は重要な貿易品であります此の他工藝品の如きも實に豫想外に達し居るやう見受けられます、殊に

▽青森市の如き水道の設備ありて其の水量は綽々として餘裕があります下水配水の如きも能く行届き鐵管を以て地下を疎通するが如き確かに稀なる設備といはねばなりません、想ふに御當地の如きは三面巡らすに海を以し交通の要衝に當たつて居ります、斯くの如きは東洋に於て實に比類なき處で一たび築港にして完成するの暁には恐らくは本邦有數の良港となるであります、殊に露領沿海州若しくは北韓地方は漸次發展すると此の方面に對する航路は開かるゝことになるのであります即ち

▽米國のポートランドや加奈陀のバンクーバーより此の方面に對する航海は必ず御當地を通

過することになるのであります、左様な場合には御當地は東洋に於ける重要港になるのであります、抑も當灣には帝國艦隊は屢々來航するを例として居るので初めは餘に灣形は廣大に過ぐるの感あらしめたのであります其の後軍艦の形も漸次大きいものを採用することになり又た艦艇の増加すると共に當灣は決して廣大に失せず洵に適當なるもので、帝國艦隊の全部を收容するも毫も狹隘を感じず充分の餘裕を存するので帝國海軍の爲めには他に

▽比類なき良灣たるに至ったのであります斯くの如き良港灣を有することは帝國の爲めに洵に喜ぶべきことであります、聞く處によれば御當地には馬鹿塗といふものがあるさうであります其れは仕上ぐるまでには四十八回も塗りをかけ一回毎に磨出すといふことであります、是は偶々地方人の意志の健實なることを證明するものであります今や

▽東北發展といふ聲は頻りに聞いて居ります、此の健實なる思想を以て事に當るに於ては地方の振興は期して待つべきであります、殊に此の枢要なる特色ある地位にありて築港成り新航路開くるに於ては青森港の前途は實に多望といはねばなりません、我等一同は青森港將來の大發展を祝福すると共に閣下並び諸君の御健康を祈ります

と述べ司令長官の音頭にて萬歳を三唱し一同之に向口して乾杯するや海軍軍樂隊は嚟たる音樂を奏し歡興を添へ宴酣なるに至るや海軍將校一同起立して「守るも攻むるも鐵の」海軍マーチを高唱し全員唱和し堂も震撼せんばかりに壯絶快絶を極む斯くて小濱知事の音頭にて第二艦隊の萬歳を三唱し司令長官等は午後七時辞去せられしも青年士官は尚ほ居残り十分に交歡し全く閉會せるは午後八時頃にて近來稀有の盛會也き

●共進會聯合由來

奥羽の地に初めて聯合共進會の起こったのは明治二十七年四月である東北六縣はまづ仙臺市を振出しとして此處に宮城、岩手、青森の三縣聯合物産共進會と云ふのを開催した。

▲二回は盛岡 明治三十年四月其の第二回共進會を盛岡市に開催し規模を大きく愈々奥羽六縣聯合物産共進會と銘打って出たのである次いで明治三十二年四月青森市に於て三十日間第三回共進會を開催し同三十四年四月は

▲山形の順番 で第四回共進會を開催した、期間は三十日でも恰度其年奥羽南線が初めて山形市迄開通した時である規模は本年の約四分の一位であった次の會期たる三十七年は日露戦役の爲め延期となり三十九年五月秋田市に第五回を開催したが其年恰も宮城縣は

▲前年凶作 の結果豫算を否決され遂に加入するを得ずして奥羽五縣聯合で開催した次いで四十一年四月福嶋市に四十日間、此時から「物産」の二字を削って奥羽六縣聯合共進會と稱す各縣を一巡し了ったのである其の後四十三年九月群馬縣前橋市で一府十四縣の聯合共進會があつて此に加はり四十五年

▲仙臺市に開催 の筈なりしも之れ亦凶作其他の關係上無期延期の姿となり居れるに際し山形縣が縣廳落成の記念として此を主催し前記の聯合とは其趣を異にし全く産業發展東北振興に資せんが爲め先んじて此の舉に出でたのである。

大正五年九月十二日

●笠置艦の拂下

津輕海峽に於て遭難せる艦隊兩斷引卸作業絶望となれる二等巡洋艦笠置は過般副長以下乗組員の轉任を行ふと共に第三豫備艦に編入し大砲其他兵器貴重品等の取卸作業中なりしが其後同方面の海上も割合に静穏に歸せしため作業頗る進捗し目下大砲二門を餘すのみなれるを以て遠からず全部の作業終了次第廢艦手續きをなし拂下に付する事となるべしと

大正五年九月十三日

●鯉不漁と柔魚薄漁

▽但し、鰯は相應に取れる

本縣東海岸漁村の死活を決する鯉は最早漁期半ばに達したるも殆ど漁報なく漁民は全く絶望し引揚げたる者もあり其の原因は不明なるも本年の不漁は静岡以北全般の事柄にて獨り本縣のみに限らず而して鯉は小形なれども折々群來する事ありて全く居らざる譯にあらず唯だ餌に食ひ付かざるものなれば或は気温の關係上海中に食事となるべきものを生じたる結果常に満腹にて餌を見向きもせざるものならんかと元來鯉は漁獲に非常に豊凶の差ある魚族なれば一年毎の統計に依る能はざれども去る四十三年本縣水産試験場にて發動機船を作りし以來大正三年迄五カ年間の漁獲四十八萬貫價格二十萬七千圓に達し之を其の以前の三十八年より四十二年迄五カ年間の四十二萬三千貫價格九萬九千圓に比し五萬七千貫の増加を示し居るが兎に角一カ年五萬圓内外の産額にて其の豊凶の同地方經濟上に及ぼす影響多大なるものあり然るに柔魚の産額は大正二年三十三萬九千貫大正三年二十七萬五千貫大正四年十六萬九千貫となり近年次第に減量の傾向なりしに本年は尚ほ一層薄漁の模様にて東海岸漁民は恐慌を起し居れるが鰯のみは相應に漁事あるを以て纔に息を吐き居れりと同方面より來青せる人は語れり

●鰯建網改良試験

本縣水産試験場にては鰯建網改善の爲め落し網類に属する小臺網と稱するものを用ふる事とし去る八月より準備に着手せしが去る八日を以て愈々準備仕上りたれば全日午後之を東郡西平内村大字茂浦沖に仕込み翌朝初漁を為せるが全日は他の網に漁なかりし爲め大に地方漁民の注意を喚起したりと元來この小臺網は本縣に於ても類似のものあれども漁夫十三四人の多數を以て扱ひ且つ網糸をば松柏科の樹渋を以て染むるため漁期中數回引揚げ塗替へざるべからず然るに今回試験場にて使用のものは四五人にて扱ひ得るのみならず網糸をコールタール染めとするが故に數回塗替の必要なく頗る經濟にして且つ便利と

●漁船奨勵下附許可

三戸郡小中野村大字南横町大下末吉氏は發動機漁船常福丸を所有し農商務大臣へ奨勵金下附出願中の處今回發動機純馬力一馬力毎に十一圓下附の許可を受くる事となりたれば辻技手は船体検査の爲め不日出張の筈因に本年に入りて奨勵金を下附せられたるは之にて五隻にて全部三戸郡内の人々なりと云ふ

大正五年九月十七日

●河野縣參の光榮

▽目録の下賜と鞍馬訪問

伏見少將宮殿下には去る十二日大湊より田名部へ御微行の際河野縣參事會員方に御少憩あらせられ地方の状況を御下問あり河野氏は大正博に於て一等賞を得たる乾鮑の献納を申出でしに特別に御奨励の御思召を以て御嘉納あらせられしことは既報の如くなるが十四日付を以て御附武官なる松平子爵より御挨拶状に若干の目録を添えて御下賜あらせられたる由にて河野氏は御立寄りの光榮を御禮の爲め御伺ひせんとしつゝありし際此の御沙汰を拝したりとの電話田名部より來りたるを以て來青中なる同氏は十五日午前鞍馬に御附武官を訪問してお立寄りの光榮と御下賜の目録に對する御禮を申し上げ尚ほ鞍馬を拝觀して退出したりと因に殿下の河野氏方に御少憩あらせられしは眞に偶然の思召に出でさせられしものなる由にて河野氏は一層面目とし居れるが御少憩中御茶とサイダーを御所望あらせられしとのことにて御出發の際河野氏は謹んで御見送り申し上げしに殿下には「何うも御世話になりました」と御慰懃なる御挨拶を賜はりしにはやんごとなき御身を以て斯くまで平民的に互らせ賜ふ忝なき洵に有難き極みなりと感涙に咽びしとのことなり御附武官の語る處によれば殿下には御帰還後厨方に命じて献納の乾鮑を料理させ御賞味あらせられしとのことにて河野氏は非常の面目を施し種々調理法を武官に申上げて退出せりとのことなるが河野氏は今回の光榮を永久に記念せざるべからずと感激し居れり

大正五年九月十九日

●泊と白糠（上）

▼東海岸漁港問題

本縣東海岸に漁港の必要あるは云ふ迄もなく而して其の重なる候補港として三戸郡鮫港あるは何人も等しく認むる處早晚相當の施設を要するは我人共に首肯する處なるが全港を除き更に其の北方にも尚ほ一の避難港を要するよりして關係地方に於ても其の筋に陳情あるあり近時漸く識者の注意を惹くに至りつゝあることなるが今其候補地とも稱されつゝある上北郡泊港と下北郡白糠港に關して兩港關係者側の所見を左に掲げて参考に資すべし

▲泊港の地位 鮫港より尻屋岬に至る三十里の海岸に於て避難港築設の必要なるは識者の夙に認むる處にして過ぎる懸念が満場一致を以て泊港築設の速成を建議せるが如き近くは内務部長、土木課長等の親しく實地視察せられたるが如き實に其の必要と急施を要するものたるを語るものにして吾人漁業に従事するものゝ實に悦ぶ處なり然るに余は不幸にして茲に一大杞憂を抱かずんばあらず其は去る八月下旬東奥日報子の傳ふる處なり日報子は内務部長及び土木課長の談なりとして傳へて曰く泊港の事に關しては實に同情に堪へざるも縣經濟立たんの今日容易に實行不可能なるべしと又曰く白糠港を以て寧ろ泊港より可なりとすと是れ余が懷抱する處の一端を陳述せんとする所以也▲縣經濟の多端 なる余の之を知らざるにあらず余は此の点に對しては縣當局者の經營に對して深甚なる敬意を表するものなり然れども余は水産國なる本縣に於て聊か此の方面の經營に對して冷淡なるに非ざるかの懸念を抱く者なり即ち今回の東海岸に於ける漁港問題の如き其一日報子の傳ふる處によれば泊港のみに於ける一カ年の海産物拾八萬圓を

超過し出入船舶四萬七千七百艘の多きに達し東海岸に於ける唯一の漁港たるのみならずなり本縣下有數の漁港なり然るに潮流の關係にて灣内に砂礫を押し込め港内は漸次狹隘となり年々其産額を減じ避難漁船の危険又名状すべからずと云ふにあらざり或は單に泊一村の問題のみに非ずして實に本縣水産界の重大問題たらずんばあらざるなり如何となれば拾八萬圓の水産物を失ふが如きは本縣水産界の大打撃にして縣經營の任に當たるもの正に三省せざるべからざる處單に經濟多端の故

を以て黙過するが如きは斷じて不可なりと云はざるべからず次に▲漁港の位置 に就いて一言せんと欲す縣當局者は何が故に泊港を捨てて白糠港を優れりとするか是れ余が其の眞意の何邊にあるかを知るに苦しむものなり如何となれば漁港の第一要点は漁場と最も接近するを要するものなるを以てなり東海岸に於ける漁場が其の何邊にあるかは賢明なる我が當局者に於て既に承知の事なるべしと雖も一言を以て之を云へば鮫港より泊港に至る拾八里の海丘にして泊鮫兩港は常に▲其の中心漁港 たるなり是れ泊港が白糠港に比して數倍の水産額を有し拾數倍の船舶の常に輻輳する所以なり然るに縣當局者は此の自然の理に相反して敢へて北方なる白糠を採らんとす其の誤れるや瞭々たる理なり是れ余が不敏をも顧みず敢て當局者に對して慎重なる研究を希望する所以なり（泊生）

大正五年九月二十日

●泊と白糠（下）

▼東海岸漁港問題

△白糠港 は南は湊川及鮫港より海上二十里の北端尻矢崎より八里の位置にして天然の漁港形をなし灣口深くして海上暴風高波の際は各地よりの漁船避難するの好適地なり殊に明治二十七年郡司大尉北海道千島の開發の目的にて小型帆走船數隻に便乗し東京灣より太平洋沿岸を渡航の途次宮古灣に寄港同所出帆の途中暴風波に遭遇し中途にして難破の災害に遭ひしこともありしに幸にも郡司大尉の旗艦座乗の奉公丸は白糠港に恙なく入港し無事上陸せられたるも開鑿必要の場所悪しきが為めに陸岸にて船体破損の運命に掛りしも大破なく修理を加へ海上平穩となるを待ち目的地へ出帆されたるは皆人の知る處也是其の一例のみ度々各地殊に八戸方面の漁船避難し大小破を成すこと擧げて數ふるに違あらず過る大正元年度の如きは地方漁業者より出願により縣當局者出張親しく測量せられ時の縣議にも上らんとしたりしも恰も其年の秋大凶作となり中絶の止むなき運命となりしも漁港設置の必要は世の發展に従ひ黙視し難く今日となり東海岸の良漁港と着眼せらるゝに至れるは實に水産業發展のため喜ぶべきことなり△白糠港の漁況 を報ぜんに今を去る十年前迄土着の漁士は磯附及近岸漁業に従事し居るが範圍の狭き漁業殊に人口の増殖に従ひ漁獲品累年不足を生じ又大資本の漁業家は大謀網と云ふ漁業に従事し更に遠洋漁業を顧みるものなく各漁業共益々衰頽に傾きつゝありしが此の近海は寒暖兩潮に生殖する魚族多くして此の遠洋漁業に當局者は着眼し鰹鮪鱸カツキ（注：カジキ）満鯛（注：アカマンボウ）其他沖釣漁業を奨励のため房州形改良船と云ふ漁船へ關東方面の漁夫を乗込ませ差遣せられ斯漁を奨励せられ又陸上には鰹節製造試験場を設置して伊豆方面の教師を派遣し近郊の成

年者へ親しく示導し其効果空しからず去る三十九年より一擧の勞を以て同漁撈製造共發達し漁業に従事するもの白糖及泊村より各漁船六七十隻近郊人又は關東人漁業して皆相當の漁獲を得成功しつゝあり又陸上には鰹節製造所兩村にて三十餘ヶ所ありと△各製造場には男女工の數人入込み晝夜の別なく製造に従事せり夜業の如きは無數の瓦斯を点火し女工の如きは土地名物の盆歌を歌ひつゝ切放し煮込み等勇ましき狀況なり製品は魚道近き故岩手縣及本縣八戸方面よりの出品よりは品位上等にして重に關東關西地方へ輸出せられあるに最近に至り世の進歩に伴ひ漁具に益々改良を加へ従て魚族も亦遠く沖合に退群し舊來の和船形にてはなかなか魚道に達せられず今や進歩せる石油發動船となり斯業者續々増船し動機を据付け廻航するの勢なるが港内不完全のため漁期中屢々大破の災害を免れず遂に事業の半途にして終るもの往々あり是れ情けなき次第なり如何に魚族群來するも屢次の災厄には敵しがたく遂に根拠地として住馴れたる土地を放棄して他の湊川とか鮫とかへ移轉するの止むなきに至り今や漁船製造所共衰頽し四五年前の繁榮も見えざるは又止むなき次第なり偏に當局者の奨励も水泡に歸せんとするは誠に遺憾の至りといはざるべからず然るに引揚げに自由なる改良川崎船は累年進歩發達し鰹烏賊釣漁業だけは盛んなり此の地方にては十月より始まる遠洋漁業鱸カツキ釣發動船は毎年各地より數十隻碇繫し豐漁しあるは此の良港を頼りて今や各沿岸沖合漁業に志して彼岸につかんとするに△此の良港の修築 出來たらんには南北の漁船沖合漁業も安心して従事するを得べし北に白糖港あり南に鮫港ありとせんか如何に氣強く大漁獲を以て歸港し得べき今迄の例を見るに沖合にて高波のため船体の轉覆するは遭難者の十分の一に達す南は鮫沖より北海道恵山岬との間遠洋漁業者は續々發展し白糖港は中央なるが故に何れもこゝに入港せざるなし今や大湊鐵道の布設も目睫に迫り鐵道線路へは馬車便三里半の好位置にあり其日の漁獲品は翌朝近くは田名部町及大湊遠くは青森仙臺の市場へ登らしむるを得べし東北開發我水産業のため此の港を一日も早く相當の修築を加へ水産業の發展本縣の振興を期されたきものなり

大正五年九月二十三日

●野内の郷土誌

東郡野内村にては豫て郷土誌編纂の計劃ありしが今回愈々同村の熊谷勘兵衛氏に囑託することとなり氏は目下資料蒐集中なるが此の間も酒井郡長の紹介にて縣廳に藤原法學士を訪ひたる由にて同村は野内、久栗坂、浅虫の三大字よりなり古來注意すべき資料も尠なからざるが如く編纂の際には地方のため参考とすべきもの尠なからざるべし

●大風と遭難船

▽津輕海峽面に頻々

青森市蜷貝町中村兼吉所有百六十六石積帆船幸長丸は船長西郡十三村湯淺寅太郎外四名乗組み北海道手塩國苫米郡蘭毛尻村禮太中島友作所有百石積帆船安全丸は船長東郡平館村島岡勝太郎外三名乗組み市内蜷貝町福井長次郎所有帆船長福丸百七十石積は乗組員四人にて共に二十一日午前一時下北郡大畑より木材多數積み込みて青森港へ向け航行中折柄の

○暴風荒れ狂ひ て怒濤山為す始末に前二船は午前六時頃大奥村大字大間字中磯海岸より引返

し十時頃辨天島附近に避難せるに浅瀬に乗上げ船底裂けたれば海水侵入して船体自由を失ひたるも積荷乗組員に別状なかりしが長福丸は奥戸沖合に激浪と揉み合える間に船員福井長吉といへる十一歳の少年は

○波に浚はれて 遂に行衛不明となり後にて溺死せるを発見し積荷全部は之を流失し非常の不幸を見たるは気の毒なり尚二十一日午前六時半三厩村長より烏賊釣船三人乗り一艘行衛不明に付救難方其筋へ打電依頼せる由なり

大正五年九月二十七日

●小臺網の好況

本縣水産試験場に於て本月初旬東津輕郡茂浦沖合に試験の爲め敷設せる小臺網は頗る簡易にして漁夫僅か四五名にて操業する事を得至極便利の漁網にして創設日浅きにも拘はらず成績甚だ良好なりと云ふ油川及野内漁業組合は何れも實地見聞の爲め親敷出張し將來各地方に漸次増設せらるべき見込なり而して漁期は鱸、鯖、烏賊、鱈其他總ての漁業に共通し得べきものなれば各地にて敷設方勵行せられたきものなりと云ふ

●宮城縣の鯉漁

其筋への通報に依れば宮城縣塩釜石巻附近にて鯉大漁にて毎日三四十隻の漁船出漁三四萬尾宛の漁事と云ふ

大正五年十月三日

●萬洋丸進水式

▲船主は當市岸桑三郎氏

既報の如く當市新安方町海産商岸桑三郎氏の萬洋丸の進水式は一日午後二時から函館真砂町の小杉造船所で行はれた萬洋丸は六月から起工して總噸數が二百噸で公稱馬力が九十八馬力氣壓は百磅で速力は十海哩積量は二百三十噸で米ならば千二百石積めると云ふ譯だ黒塗の二本マストで長さは百二十四尺深さ十二尺五寸幅が最も廣い處で十八尺五寸當日は朝の内から例の杉ッ葉で船体を包んだ夫れに黄菊白菊を配らって萬國旗がヒラヒラと風にそよめく造船所でも今日を晴と飾り立て定刻になるともう餅撒きがあるというので海岸の方には女や子供が犇々と詰め掛けて追へども動かばこそである廳て元町の船魂神社の社掌に依って祭辞があげられ續いて淨めの式があり夫れから岸氏の令嬢で當年八歳大振袖の澤榮子が斧を執って綱を切るのを合圖にして船はゆらゆらと海上を浮び出る甲板に列を爲した百餘の來賓の萬歳の聲は静かな灣の水を渡って驚かした別嬪組では巴見の小濱が音頭取で小さい處まで二三十それに町見と東と函見から美しい處が一緒になって此處真砂町の濱には時ならぬ春の賑やかさを呈した式場のバラックの紅白の幔幕が漸々遠くなると汽船の間に割り込んで居る駆逐艇の勇ましい姿が近づく同じ造船所で修繕中の何とかいふ小さい船がお附合に萬船飾をして居たのはお愛敬だった

大正五年十月十三日

▲産業功勞表彰

農商務省は來たる二十六日山形の奥羽六縣共進會褒賞授與式當日産業振興功勞者十九名に對し農相より表彰するに決す内青森縣は三名にて銀盃一個づつ授與すべし

●産業調査報告

十一日付にて今泉縣會副議長、遠山、河野、葛西の三縣參事會員より縣知事への報告書左の如し

本月四日附を以て予等四名は山形市に於ける産業調査を囑託せられたるを以て全日午後六時三十分當地出發翌五日午前六時五十二分山形市到着全日より七日迄三日間に互り視察したるを以て其の概要を簡単に報告せんとす

(一) 山形市は戸數八千二百餘人口四萬六千餘を有し商業本位の市街にして山形の産業盛大なる結果全市の商業頗る盛んなりとす全市の物産としては綿織物を主たるものとし絹織物交織物清酒の産額も又尠からず何れも同業組合ありて其の改良發達を圖れり青銅器、銅器、鐵瓶、漆器、薄荷、熨斗の梅、甘露、梅、櫻桃等は特産物なり

(二) 山形縣民は質朴敦厚勤勉節儉の美德に富み思想堅實にして數理的觀念發達し毫も輕佻浮薄の風なく孜々として業務に努力し他を顧みざるは敬服に價するものあり全縣は別に天惠の厚きものなきに係らず産業大いに發達し殊に工業の如き年産額二千萬圓の多きを算するに到れるは皆之れ縣民奮勵努力の結果なりとす同縣は縣内に於て多額の絹織物を産せるに係らず共進會見物に出づる多數縣民の服装を見るに何れも極めて質素にして絹布を纏へる者極めて少なく妙齡の處女にして黒色の「ダッケ」を需用し平然人衆の間を往來するを見ては誰か其の質素なるに感ぜざるものあらんやされば山形市は人口殆ど五萬に近き大市街なるに係らず平素藝妓の數四十名内外に過ぎずして我青森市の半ばにも達せざるは山形縣民が勤儉質素を尚ぶの結果藝妓の需用少なきためなるを知るべく全地商人は徒に客に對して諛辭を呈するが如きことをせず而して商業振りは極めて堅實にして殊に地方産物の紹介に全力を注ぎ一面又縣民は可成縣産物を需用し他縣産物は已むを得ざるもの、外之を用いざるの方針に出で些細の事にも注意を拂ひて縣の福利増進を圖かれり

(三) 物産共進會を見るに出品物は山形縣最も多し之主催縣たるに依るべしと雖も一面又同縣産業の發達せると縣民が競ふて其の産物を天下に紹介せんとする熱心を証するに足る之に反して本縣は出品物極めて少なく加ふるに裝飾の粗なる人目を引くに足るものなし之れ我縣民が産業に對して冷淡なるを証すべく賣店の如き他縣は競ふて多くの店を開き産物を陳列せるに反し本縣は僅かに一隅に少許の賣店を開くに過ぎざるは他縣に對して恥ぢるの外なく本縣民の冷淡なる慨嘆に堪へざるものあり大いに指導奨勵せざるべからず

(四) 要するに山形縣民は勤儉質素を旨とし孜々汲々一意専心産業の發達を圖り従て其の産額年と共に増加し今や總産額實に六千萬圓に垂んとす縣産業斯くの如く盛んなるため中心地たる山形市も之に伴ふて相當に殷榮を來たし市中活気を呈せるを見る斯くの如く産業盛んなるに係らず同縣民は毫も奢侈に流るゝが如きことなく益々奮勵努力して只々産業の發達を企圖せるは洵に感ずるの外なく本縣民は宜しく之に學ばんことを望みて已まず

大正五年十月二十一日

●共進會一等賞

奥羽六縣聯合共進會に於ける一等賞は左の如し

大豆	上北郡三本木	中村 寛一郎
林檎	南郡町居	今井 忠吉
挽材	青森	淡谷 文作
鮑	田名部	河野 榮蔵
鯛	大畑	扇谷 兼太郎
海參	油川	津幡 文長
塗物	弘前	漆器授産會社
蔓細工	弘前	弘盛合資會社
清酒	八戸	駒井 庄三郎
成績	南郡竹館生産購買販賣組合	

大正五年十月二十二日

●六縣共進會受賞者

▽六縣の一等賞受賞者

山形市に開會中なる奥羽六縣聯合共進會審査長以下各審査官は極めて慎重に各縣出品審査中の處前號處報の如く十九日を以て終了を告げ二十日其結果を發表したり一等賞品目及人名左の如く本縣のは既報せるも便宜のために掲ぐ

△一等賞（金牌）百〇七点

△第一部（農産品）以下省略

△第四部二十五類

乾鮑	青森	河野 榮蔵
鯛	岩手	阿部 小六
同	青森	扇谷 兼太郎
海參	青森	津幡 文長

△第四部二十六類

鯉節	福島	中田 房五郎
鮪節	宮城	野村 林之助
鯉節	同	末永 孫太郎

大正五年十月二十三日

●共進會受賞者

▽本縣の二等と三等

奥羽六縣共進會に於ける本縣の一等賞は昨紙に報せるが二等及三等は左の如し

(水産關係のみ抜粋す)

△貳 等

鱈搾粕	三戸郡八戸	石橋	要吉
乾鮑	下北郡田名部	中島	清助
鰯	同大畑	森	菊太郎
海參	上北郡野邊地	濱中	重次郎
貝柱	青森市	近藤	善吉
煮乾鱈、田作	三戸郡八戸	石橋	要吉
晒石花菜	東郡	福井	豊作

△參 等

鱈 ^ノ 粕	三戸郡小中野	岩見	良七
全	上北郡三澤	佐久	起
乾鮑	下北郡奥戸	興村	正太郎
全	全 佐井	加賀	富太郎
全	全 大奥	伊勢	佐市
鰯	全 田名部	西口	辰之助
海參	上北郡野邊地	長末	源次郎
貝柱	東郡東平内	龜田	治三郎
全	上北郡横濱	柏谷	運次郎
焼乾鱈	青森市	花田	善吉
田作	三戸郡八戸	長谷	春松
全	全	米川	篤松
鰹節	全	岩岡	覺三
鰹龜節	全	大里	徳藏
石花菜	下北郡風間浦	山本	與吉
晒恵胡	北郡小泊	今	三郎
鮫油、鱈油	三戸郡八戸	石橋	要吉

●海洋觀測協議

▽東北四縣連絡策

東北四縣連絡海洋觀測協議會は去る十四十五日の兩日福嶋県水産試験場に於て開會各縣水産試験場長及主任技手の外農商務省水産講習所技師柳直勝氏列席 (一) 海洋觀測方法及連絡の調製 (二) 觀測に要する器具機械の統一 (三) 現在の横斷觀測を加ふること (四) 海洋觀測と魚群來遊關係の調査其他數件を附議し尚來年度に於て第三回協議會を青森縣に開催すべく決議せるが出席者は左の如し

△青森縣水産試験場長中村平八△同主任技手島村瀧彦△岩手縣水産試験場長塚本道遠△同主任技手谷本坂恵△宮城縣水産試験場長佐々木伸太郎△同技師黒木圓太郎△農商務水産講習所技師柳直勝△福嶋縣水産試験場長中村貞次郎△同技手三輪源造△同阿部圭△同阿部兵三助手山本正

●東北の水産業

東北六縣は悉く海岸に面せるが故其地形上よりすれば水産業盛んならざる可からざるものあり其上北海より來たる寒流と南海より來たる暖流との交叉する處にして魚族は潮流に従て繁殖し我國に於ても魚族の豊富なる地区たるを失はず即ち沿岸漁業の福と見る可き

▼海岸線の延長 は青森縣の百七十里最長とし宮城縣の百五十八里岩手縣の八十里秋田縣の六十里福嶋縣三十六里山形縣の二十三里合計五百二十七里に達せり右の如き天恵を有しながら其漁業は他の産業と共に頗る幼稚にして何れも小規模なる漁獲を為し遠洋漁業の如きは近年岩手宮城の兩縣漁業者が捕鯨及ふか、鰹、鮪、鱈獵の為め多少企てある位にして多くは豊富なる沖合及北海の漁業等を顧みざるの状あるは甚だ遺憾とす可き點なりとす斯く現在の狀態に於て

▼六縣中漁獲物 の最も多きは岩手、青森、宮城、福嶋の四縣にして何れも年額百二三十萬圓に達し日本海岸の秋田、山形は僅かに四五十萬圓に過ぎざる哀れなる現状を示せり又漁獲物中にて鰹、鮪、鰯、鮭、鯡、鰈、秋刀魚等を主とする魚類は福嶋、宮城、青森、岩手、秋田、山形の順序に在り貝類は帆立貝の名産地青森を第一位の産額地となし岩手、宮城之に亞げり鯨、蛸、柔魚等水産動物は岩手縣を第一とし青森縣之に亞げり海藻類も亦

▼岩手縣を第一 とし宮城青森之に亞げるありて六縣の漁獲物合計は最近年額六百六十萬圓に達せり而して漁戸一戸の年額収入は福嶋の二百五十餘圓を第一とし岩手の百六十餘圓青森の百四十餘圓宮城山形の百二十餘圓の順序に在りて秋田の八十餘圓を最少額とす其他海岸線一里の年額収入は福嶋の三萬一千圓山形の二萬三千圓岩手一萬七千圓青森の一萬圓秋田の九千圓宮城の七千圓等の計算となれるを見る漁業と共に水産製造は水産業中重きを為すものなり然れ共東北に於ては本事業も未だ

▼不振の現状に 在り即ち鰹鮪節は岩手宮城福嶋の三縣に於て其本場たる土佐薩摩等に覇を競ふ可く近來頻りに産出しつゝあれど製造法に於て品質に於て尚ほ遠く及ばざるものあるが故將來益々改良を試むるの要あり鰻は岩手青森に多く鱈は秋田に貝類は青森に塩鯨は宮城に多きを示せるが總じて水産食料製造の第一位は岩手の年産額百萬圓にして宮城の九十八萬圓青森の九十萬圓福嶋の四十萬圓等稍々注目す可きものなり水産肥料は東北の如き農産地にして且其の

▼肥料の大部分 を縣外に需めつゝある現在より見來たれば頗る有望にして而かも必要のものなるに拘はず事實微々として振るはざるは甚だ痛恨事なり即ち其産額は青森縣の二十二萬圓を第一とし宮城の十二萬圓山形の十一萬圓等なるに見るも明らかに其不振の實を裏書せり上述の如く東北の水産業未だ幼稚の境を脱却せず隨て漁村も概して不振を致せるが

▼之は資金關係 あり保護奨励の關係あり漁村の經營不完全なるあり漁獲法製造方法の未發達等ありと雖も更に深く考慮を要するは將來海洋に對する基本調査を行ひ魚族の種類蕃殖狀態を明らかにすると共に漁船の碇繋す可き漁港を築設完備を期するにあり希くは六縣の當局者並に

當業者が今後是等の諸點に留意せざるべからず

大正五年十月二十四日

●共進會の成績

○奥羽六縣共進會は、去る十九日を以て審査を結了し二十日を以て其の成績を發表したり、就て之を見るに、出品に對する受賞の割合は

宮城二割〇八、福嶋二割五四、巖手二割〇八、青森二割一四、秋田二割五三、山形二割五八、平均二割三五

なりとす、即ち山形の二、五八を首位に、宮城、巖手の二、〇八を下位として本縣は其の四位にあれども、六縣の平均二、三五よりは尚ほ二分一厘の低位にあり、山形縣の首位を占めしは、流石に主催縣たるの關係上、特別の奮發にもよるべけれども、其の出品の極めて多き割合に、斯く受賞者の多かりしは、以て山形縣に於ける産業の發展をトするに足るべく、其の他福嶋縣と云ひ、秋田縣と云ひ、東北地方に於ては兎に角山形縣と共に、産業上注意すべきもの尠なからざるを知るべき也、

○更らに受賞中の重なる一等賞に就て之を見るに

宮城一二、福嶋三〇、巖手六、青森一〇、秋田一二、山形三七

なるが、本縣は漸く巖手の上にあるのみ、遠に山形、福島なり、而して本縣と巖手とが、如何に産業上貧弱の地位にあるかを語るものといふべし、尚ほ其の内容を觀察するに、本縣の一等賞は、海産物三點と農産物は苹果及其の成績、大豆、工業品は漆器、木通蔓細工、清酒並に林業の挽材一點なるが、流石に三面海を繞らせる海國とも稱せらるゝ處丈けに、海産物のみは、六縣中の何れにも超出せるを見る、先つ海産物を以て稍々面目を維くに足るものといふべし、其れにしても本縣にては、今後一層海面に發展の方法を講し、益々海國たるの面目を發揮するに努めざるべからず、農産物は何れにせよ六縣の重要物産たらざるべからず、而して本縣に於ては、只南部地方の大豆一點あるのみ、米に至りては他の四縣皆數點つゝ其の選に入らざるなきに、本縣は巖手と共に、一點も優等選に加はるを得ず、而して山形縣の如きは六點の多きに優等賞を博しつゝあり本縣たるもの宜しく山形縣に學ぶ處なかるべからず、苹果と云へは先つ本縣に指を屈せざるべからず、而かも福島縣と共に僅かに一點の一等賞ありたるのみ、苹果國たる本縣の名に恥ぢざるなきか、蠶糸業は山形、福嶋に指を屈せざるべからず、殊に山形県の發展は最も注目するに足るを覺ゆるなり、而して繭の如きは兎に角五縣の何れも優等賞を見ざるなきに、本縣のみは一點もあるなし、想ふに本縣も養蠶に對しては、天與の地なりと稱せらる、予輩は切に山形縣に學ひて、今後大に發展の道を講せられんことを望ますんはあらず（未完）

大正五年十月二十五日

●共進會の成績（承前）

○工藝品に至りては一体に六縣は振はざるも、本縣と巖手は最も振はず、本縣は漸く巖手の

上に位するのみ、本縣の工藝品としては、例ながら木通蔓細工と漆器とのみ、只た茲に稍々注意を惹くに足るは、清酒の一等賞を見たることは是れ、以て近時本縣に於ても酒造業の進歩しつゝある證とも見るべきか、予輩は一層の改良を加へて、將來縣下一般の需要を充たさしめ、縣外の輸入を防止するまでに至らしめんことを望ますんはあらず、六縣の工業は振はさるには相違なきも、福嶋山形の染織工藝品に至りては、頗る意を強ふすべきものあるに似たり、殊に山形縣に至りては、一等賞は通して九點の多數を占むるを見ては、以て同縣に於ける斯業の進歩發達の程度を察知するに足るといはさるべからず、其れにしても想ひ出さるゝは、宮城縣に於ける染織工藝品なりとす、往年にありては、福嶋、山形と拮抗し、否な寧ろ之を凌駕するの勢ひなりし時代もありしに、今や綿織物に於て、僅かに一点の優等賞を贏ちえたるのみ、蓋し同縣の同工藝は退歩しつゝあるによるか、抑亦必ずしも退歩せずとも、他の地方に於て、より以上に進歩しつゝあるが為めにあらさるか、兎に角注意すべき価價なくんばあらず

○一般の出品物に對する成績は大體斯くの如しとして、序てに彼の馬匹の成績をも觀察するに、其の結果は、恰も一般の出品物の其れと正反對なるぞ奇異といふべけれ、即ち一般の出品物に於ては、山形を首位として福嶋、秋田の順序にて、巖手縣は最低位にあることなるが、馬匹に於ては即ち巖手縣を首位として本縣之に次ぎ、秋田其の次ぎにあり、山形縣は最低位にありて福嶋は之に次ぎ宮城縣は其の上位にあるなり、其れにしても本縣の立場よりして、尚ほ一言の必要な能はず、即ち巖手との關係是也、今回の馬匹の成績は兩縣は殆ど兄たり弟たり難しといふものあるも、矢張り巖手の成績は本縣の上にあるを否定すべからず、其の實質に於て如何にしてなるべきか、審査の當否は別として、兎に角斯く見ることは、其の受賞成績の上より穩當なりとす、而して斯くの如きは獨り今回のみならず、毎回の共進會に於て然るの状にあるは、本縣當業者の猛省努力すべき點たらずんはあらず

○惟ふに今回の成績のみを以て、直ちに六縣産業の振否を斷定すること或は妥当ならさるものあるべけれとも、亦以て各地産業の趨勢を察知するに足るものなくんはあらさるべし、予輩は本縣の當業者及び有志の士が、茲に留意して、地方産業の發展に資せられんことを望む

大正五年十月二十六日

●産業調査會

△委員長以下委員決定

本縣産業調査會準備委員會は今春來縣廳内に設置され各般の調査資料收集中なりし處愈々右完了したるを以て調査委員會組織に決し來たる十一月七八兩日を以て縣會議事堂に第一回の總會開催さるべきが右委員は二十四日附を以て名尾内務部長を委員長に福長、重信兩理事官、大脇、菅沼、中村、松下、横田、米山、遠藤、西村、稻澤各縣技師を委員に夫々任命ありし外縣會議員縣下の實業界の主なる人々を各専門に分ちて囑託され廳外委員には囑託辭令書に調査資料を添へ昨日發送したり

▲普通農事の部 阿部武智雄、竹内寅次郎、幸田健作、鳴海長左衛門、佐々木磐根（以上縣會議員）外崎嘉七、蝦名美一、前田榮之進、中川原貞機、沖田永太郎（以上一般選定）

- ▲養蠶の部 三橋忠造、山本八三郎、北村益、田島祐博、田中實（以上縣議）、土屋寛、岸太、野村富五郎、小原第吉、藤島萬、船越香織
- ▲林業の部 櫻田文吉、笹森榮、藤田重太郎、北畠徳本、奈良七五郎（以上縣議）、一戸虎三郎、古川市三郎、平山浪三郎、鈴木武登馬、川崎七五郎
- ▲水産の部 小泉辰之助、七戸綾七郎、河野榮藏、關春茂、今泉秀雄（以上縣議）、松森豊、田中金兵衛、長谷川義、柏谷運次郎、森又四郎、大里徳藏
- ▲畜産の部 畜産の部 澁谷水穂、奥崎甚吉、宇野勇作、濱中末吉、江渡種助（以上縣議）徳差藤兵衛、鳴海廉之助、野村治三郎、盛田徳太郎、奈須川光寶
- ▲商工業の部 北山一郎、佐藤要一、三上直吉、葛西政五郎、小笠原耕一、遠山景三（以上縣議）三橋三吾、樋口喜輔、藤林源右衛門、丸瀬正果、安田健彌、芹川得一、近藤東助、篠村祐善、櫻庭駒五郎、宮越太助、長谷川與助、工藤善太郎、鳴海文四郎、橋本八右衛門
- ▲各部属に通ずる委員 東奥武田邦雄、陸奥西田源藏、青日藤澤本次郎、大正報成田彦太郎、弘每小山勝次郎、弘新斎藤徳三郎

●青森築港近況

△海岸土地収用 安方町海岸の宅地雑種地等三十餘筆六百九坪九合七勺の土地は築港用地として土地収用認定の旨内閣の公布あり十三日附を以て其趣縣より告示されたるが右は道路敷地若くは鐵道敷設等築港に伴ふ陸上設備に必要なものにして今後所有者との間に授受交渉開始さるへし

△浚渫機の組立 既報の如く大藏省より購買せるプリシトマン式浚渫機は愈々着荷したるを以て本日より築港事務所直營青森驛構内船入場にて組立に着手の筈にして非常の重量を有するため民間に引受者なく事務所にては諸般の設備を完整せるものゝ由なるが浚渫機臺船も既に竣工進水したるを以て來月二十日頃迄には組立を完成し直に野内工場浦島山麓なる石材運搬舩入場に回航し全所の浚渫に従事する手筈になり居るといふ

△鶴見丸の修繕 舩引船用汽艇鶴見丸は定期並に特別検査を機とし大修繕の爲め豫て函館船渠に回航中の處此程右修理を了り下檢分の結果九湮半の高速にて成績頗る良好なりし由にて今日中に北漕官憲の正式検査を受け直に帰航石材運搬に従事すべく今回の修理は買入先なる大分縣にて築港竣成の儘修理を加へさりし處僅に應急修繕に止め當港に回航せるものなれば今後は小破修繕のみにて築港完成まで使用に耐ふるものなりと

△由布丸の活動 民間請負の捨石作業は豫程以上の好成績にて進捗中なるは屢々處報の如くなるが浦島山より採取の石材も過般來由布丸引船の下に舩四隻にて直營運搬しつゝあり二十日までの成績は既に三百二十七立坪の捨石を爲し尚昨今日二十四立坪内外の運搬と捨石作業に従事しありと

△葛西元市技師 既報の如く青森市技師を辞せる葛西吉郎氏は昨日附築港工手兼書記拝命月俸四十圓を給與され庶務係兼工務係に勤務となれり

●本縣の四等賞（下）

▼奥羽六縣共進會に於て

(水産部門のみ収録)

乾鮑	下北郡佐井	竹本	周吉
同	同 大奥	七島	豊太郎
同	同	小林	孫八
同	東郡三厩	牧野	巳之丞
鰯	下北郡大奥	新田	市之助
同	同 大畑	柳澤	伊左衛門
同	同 風間浦	渡谷	權之助
同	同 大畑	西山	石五郎
同	同	濱田	半次郎
同	同 風間浦	嘉賀	直吉
同	同 大畑	傳法	安五郎
同	同 風間浦	柴垣	半藏
煮干鰯	三戸郡八戸	槻館	門藏
同	同	富岡	新太郎
同	同 湊村	神田	重雄
海參	東郡油川	窪田	周藏
同	同東平内	船橋	馬之助
貝柱	同中平内	飯田	長兵衛
同	下北郡大湊	渥味	久之助
焼干鰯	青森市造道	龜岡	汀
田作	東郡油川	伊藤	文一
鰹節	三戸郡八戸町	大下	常吉
同	同	大山	富助
晒石花菜	下北郡大奥	新田	一之助
晒恵胡	東郡油川	秋谷	清次郎
恵胡	同 三厩	牧野	貞吉
花折昆布	下北郡東通	三國	吉藏
同	同	住吉	與太
同	東郡三厩	牧野	市五郎
鰯油	東郡油川	三上	龜太郎
鯨皮油	三戸郡鮫	東洋捕鯨株式會社事業部	
津輕錦	弘前市土手町	後藤	新吉
罐詰帆立貝 柱ボイル	上北郡野邊地	吉田	直治

大正五年十月二十七日

山形電報（二十六日）

▲共進會授與式（本社特派員發電）

本日奥羽六縣聯合共進會褒賞授與式を行ふ朝來小雨ありて風寒し午前十一時より式を舉行す仲小路農商務大臣を初め福嶋、宮城、秋田の三縣知事以下千五百名參列し青森縣よりは警察部長、土屋、重信兩理事官、武士、幸田、門田、石黒の各郡長を初め出品人総代津幡文長他九名及び一等賞を受けしもの數名も參列したり

▽功勞表彰 されたるは左の三名なり

下北郡大奥村（鮑差網發明者）

小林 唯 八

南津輕郡竹館村

（林檎） 相 馬 貞 一

西津輕郡館岡村

（養蠶） 三 橋 忠 造

大正五年十月二十八日

●本縣の功勞者

二十六日奥羽六縣聯合共進會褒賞授與式に於て農商務大臣より産業上の功勞を表彰せられ各銀杯一個を授與せられしもの本縣より三名を出せるが其功勞表彰狀寫左の如し因に小林孫八、相馬貞一兩氏は事故又は病氣の爲め當日缺席したりしが三橋氏は親しく大臣より表彰狀を受くるの光榮に浴し多大の面目を施したり

下北郡大奥村

小林孫八祖父 故 小林 唯 八

資性温厚公共の志に厚く夙に漁業に熱心し具に艱難を嘗め遂に鮑刺網を創製し其普及を圖り公益に供し又乾鮑製造の改善に努め今日大間鮑の名を爲さしむるに至る其遺績永く芳し仍て茲に之を追賞す

南郡竹館村 相 馬 貞 一

資性篤實夙に心を苹果の栽培に注ぎ自ら試植研究し之が植栽を勸奨し以て斯業の振興を圖り更に組合を組織して之が經營の任に鞅り専ら斯業の改良と販路開拓とに努力し産業の發達に裨益する所多し其功績稱揚すへし仍て茲に之を賞す

西郡館岡村 三 橋 忠 造

資性温厚濶達夙に地方産業の發達に意を注ぎ殊に縣下産業の不振を憂ひ率先實地研究を爲し以て地方民を指導し爾來拮据經營三十年斯業の開發普及に努め蠶糸會を組織し斯業發達の基礎を固む其功績稱揚すへし仍て茲に之を賞す

大湊電燈開業記念號

事業創始と利用

寫眞 大湊電燈社長 河野 榮 藏

凡そ事業の企劃は非常の苦心と努力の萌芽にして、而も其の經營は誠意と堅忍の結實ならざる可らず、事を劃す細心の注意と熱烈の努力缺かは事遂に成らず、事成りて而して經營に至誠を効さず、堅忍持久の覺悟なくんは克く大成の實を擧ぐるを得へけんや、予の大湊電燈を創意するや實に

▲滿州戰亂の刺戟 にして、當時油價昂騰し地方經濟に影響する所甚大なるものあり、地方日常必需品にして斯くの如くんは、將來疲弊の一禍因を胎すへきは數の賭易き所なるを以て、予は事を有志と計り電燈事業を起こして地方經濟界の急を救ひ、進んで地方利源の開發に貢獻する所あらんとし、初め大畑川の水力を利用して起業を劃したるも、創業費多額に上り容易に地方資本家の堪ふる所にあらざるを知り、或は専門家に聞き或は先進の士に尋ね南船北馬

▲百方苦心の結果 遂に瓦斯發動の有利なるを確認し茲にサクシヨン瓦斯エンジンの装置に決し諸般の困難障害を排して遂に今日の運を見るに到れり、是れ素より余一個の努力に依るに非すと雖も亦多少の微力を効せるものあり、機械は最新英國製に係り點火優に三千燈に堪ゆ、若し夫れ經營其の緒に就くに及ばば今後の計劃更に革新を要するものあらむも、現下地方の狀勢に順應するの施設たるを失はすと信ず

▲今や文明の利器 は我が釜臥山下に其の光りを普ねからしむ、而して之を利用すると否とは實に地方開發の成敗に關すると云ふも、蓋し強辭に非ざるを信せんとす、予は既に事業の創始を了せしと雖も、次て經營の重任に衝る、素より菲才他の重役株主の後援に俟つものなるも、亦一般需要者が能く事業の本質に稽へ、所謂

▲利器を善用する にあらざれば相濟ましく文明の惠澤に浴するの途に非らず、電力供給は素より獨專事業なりと雖も、一面に於ては國家公共的の事業たり、會社は此の本來の精神に基き、努めて地方の利便に專念するは言を要せざるも、目下事業創始の時代にして克く一般の望に添ふの實を擧ぐるは、尚遠き將來に期せざるを得ず、即ち一意至誠堅忍の氣を抱持して、以て經營に任せんとす、翻つて案するに

▲大湊鐵道の完成 は近き將來にあり、地方物資は今より漸く夥多なるを見るは勿論、東西の物貨は一所に集散吞吐し、地方の將來今や正しく多事ならんとするに當り、我が電燈事業今日の創始は、決して偶然の事に非ず、地方の利源寶庫は今より其の鍵を披かんとす、而して此の鍵を握るの途は、一に機械力の利用にあり、茲に於てか我が電氣事業の創始亦決して徒爾ならざるを信するものなり、地方の覺醒奮起は正に此の秋に存す、希は歐州戰亂の刺戟に依りて生れたる該事業をして、適度の發育助長を加へられん事を。(文責在記者)

(以下略)

大正五年十月三十日

●東郡宇鉄村便り

▲烏賊釣教師來村

+郡より派遣の烏賊釣教師來村部内漁師に對し熱心に傳法し居れり

▲海の供養 十月二十四日部内龍飛に於て全村の海魚供養を行へり

▲漁況 一時豊漁なりし烏賊漁も近來中絶其他一般不漁の状態なり

大正五年十一月七日

産業調査會

○本縣に於て、産業調査會なるものを設置すべしとは、昨年の通常縣會に於て、當局者の言明したる處にして、現に若干の經費を要求したりしが、爾來其の豫算は他の方面に流用せられつゝ、而かも容易に其の實現を見るに至らざりしが、今回愈々追加豫算として、其の費用は更らに決議せられ、而して其の準備も整ひたるやにて、愈々本日より二日間に亙りて、第一回總會を開くことになりたるか如し

○本會の目的は如何、讀んで字の如くなるべしと雖も、本會の開會に依りて、何を得んとするか、本縣の産業は、本會の如き特設の機關の發動の下に、如何の影響を見るに至るべきか、予輩は開會と同時に、當局者の方針、抱負を聞くを得べく、而して同會は、茲に如何の發動をなすべきかを注意せんと欲す

○惟ふに本縣の産業が、之を他に比して振るはざるものあるは事實なり、本會の目的は蓋し其の振興策にあるべく、又あらざるべからず、即ち如何にして、何によりて産業を振興せしむべきかにあらざるべからず、打ち見たる處、本會に列すべき委員なるものは、當局の人にある首脳部の人々、縣政に直接參與しつゝある縣會議員、その他地方有数の當業者等百餘名を以て數へられ、あらゆる方面を網羅するに努めたるか如く、實に盛んなりといはざるべからず、若しも是等の諸賢にして、平素抱藏し居れる所見をは、忌憚なく吐露し、熱心討究して、一致之か實行を期するに努むるに於ては、恐らくは地方産業政策の上に、貢獻すべきもの尠なからざるべきを信するものなれとも、世間往々にして、一種の形式に過ぎず、遂にお祭騒きに等しき結果に終はることなきにあらず、現に大隈内閣の如きは、種々の調査委員會を設けながら、何れとして思はしき効果の現はれたるはなく、殆んど悉く有名無實の譏を受けたるは、世間の認むる處なるべし、彼と是とは、固より同日を以て論すべきにあらざるべく、縣當局者の抱負と、各委員の、地方に對する熱誠とは、必らずや予輩をして首肯せしむるに足るものあるべきは、固く信して疑はざる處なれとも、地方の産業振興策は、決して輕易の事にあらず、實に重大問題なること更めて云ふまでもなき以上は、予輩は當局者も委員も其の心して、特に本會を設置するに至れる意義を没却せしめざらんことに努め、縣民をして失望せしむるか如きことなからん様、豫しめ注意を望ますんはあらず

●産業調査會

△本日縣會議事堂にて

本日午前九時より縣會議事堂に招集さるべき本縣産業調査會の豫定は開會劈頭小濱知事の挨拶ありて後直ちに部會を開き議事進行上部長理事の互選をなして豫め配布の調査資料を原案とし討議を重ね大体の意嚮定め赤十字支部に於て晚餐の饗あり翌八日調査總會を開き各部の意見を開陳し次回の總會期を定めて散會の筈なるか要するに該會は地方施政官たる知事の諮問機關

と見るを妥當とすへく従て調査會の決議事項は縣の原案に對し擧ぐべきものは之を擧げ否らさるものに對してのみ具體的の成案を提示して當局をして倚る所あらしむる如く措置するを要すへしと

●六縣共進會審査概評（九）

▼第四部 水産業

△乾せき類 本類の出品は五百七十餘にして最多數を占むるを鰯とす而して輸出向二番鰯の出品割合に少なかりしは岩手縣産於多福鰯の多數なるに反し青森縣の出品振るはさりしによるものなれとも山形縣より意外に多數の出品を見且其の製品か殆ど皆克く改良統一せられたるは大いに多とせざるをえず然れどもその把束方法區々にして統一を缺きたるは遺憾とする所なり青森、岩手の出品に至りては特産地の名に背かず優良のもの少なからされども乾燥に於て尚充分ならざるものあるは注意を要す乾鮑は鰯に次ぎ多數の出品あり殊に今回の出品には全國中屈指の生産地たる青森縣より比較的多數の出陳ありし為品質の優秀なるもの少なしとせず然れども他縣の出品中には焙乾の度を過こし外觀を著しく損したるものあり又煮熟の際手入れの不充分なる為め形態を醜惡ならしめたるものあるは大いに遺憾とする所なり

海參は主として青森縣の出品に係り原料及形態の點に於て殆ど間然とする所なしと雖色澤に於て着色度を越へ黒きに失したるものあるを惜しむ又宮城縣出品の如き吐砂及脱腸の方法概して賞を得ざるものあり注意を要す

貝柱は青森縣の獨占出品にして優良と認むべきもの少なしとせされとも乾燥不良のもの又は殊更に着色したるものあり田作及煮乾鱈の出品か又本類中多數を占めたるは本共進會の聯合區域か本品の主要生産地たることを察知するに足るものにして其出品中には品質の優良と認むべきもの少なしとせず然れども尚原料の選択及乾燥の點に於て當を得ざるものあり注意を要す此の外青森縣より焼乾鱈十九點の出品を見たるは近年に至り本品の需要か急に増加したる徴証にして鱈の利用方法として時機に適するものと謂へし要するに本縣の出品中輸出向製品に於ては青森縣をして獨歩の感あらしめたり他の聯合各縣は今後益此の方面に對して奮勵努力することを要す

△節類 第四部の出品中最多數を占たるものは本類に属するものにして總點數六百六十餘點なり之を福嶋縣主催の奥羽六縣聯合共進會に比較すれば實に其の約二倍に相當す斯くの如く著しき増加を來したる近年節類の需要激増に伴ひ鰹漁業の發達したる結果にして殊に今回宮城縣より最多數の出品を為せるは該縣が近年鰹の漁業及其製造に關し大に奨勵を行ひたるに由るものと認め得へし而して今回の鰹節の出品を精査するに品質概して良好にして其の削りの技工に於ても巧妙なるもの少なからざるのみならず原料及氣候の關係上本會聯合縣の困難とする徴肌の點に於ても本場産に比し遜色なきもの多かりしは確かに技能の進歩を証明するものにして宮城縣の從來福嶋縣産に一等を輸したるに拘はらず今回は却つて之を凌駕せむとし且其の品質の能く統一せるを見る是れ同縣か近年銳意其の改良に努めたる効果に外ならず而して青森岩手二縣の出品甚だ振るはさりしは原料不漁に基因するものゝ如し又其の製造に於て油脂脱却の如き特に攻究を要するものあり

鮪節は宮城縣の特産にして優良のもの多かりしと雖焙乾當を得ざる為形状をして劣悪ならしめたるものあるを遺憾とす（つゞく）

●東郡生産品評會

東郡生産品評會は豫報の如く昨日より筒井尋常小學校に於て開催せり出品點數千八百餘點にして郡内各地より所謂優良品を出陳したれば一度は參觀の価價あるべし▲第一室 は水産にて流石に三厩の昆布鮑を初め鱈の煮干焼干など優秀のもの多く鰯にも例に依りて逸品を見受けられたり其他海草等も出陳物皆揃えり（後段略）

●筒井協賛會設宴 東郡生産品評會は目下筒井小學校に於て開催中なるが筒井村長徳差氏外發企し協賛會を組織し村内の飾り付け其他斡旋し居れるが來る九日午後三時より第五聯隊將校集會所に於て審査官外主なる來賓並に第五聯隊將校を招待し懇談すべしと

大正五年十一月八日

●産業調査會

▽第一日

豫報の如く昨日午後一時四十分より縣會議事堂にて本縣産業調査會開會さる振鈴の合圖に依りて各調査委員は議事堂樓上に参集着席す出席員は曩に所報の如く百四名の内左の如し

△縣官吏名尾内務部長、福永、重信兩理事官、大脇、菅沼、中村、中原、松下、横田、米山、遠藤、西村、稻澤、各技師△郡市長、酒井東郡、幸田西郡、石黒中郡、尾上南部、武士北郡、松下三戸、平澤上北、門田下北各郡長、長尾弘前市長▲新聞社長武田東奥、西田陸奥、藤澤青日、成田大正報代理、小山弘每代、斎藤弘新▲普通農事 阿部、竹内、幸田、鳴海、佐々木各縣會議員、外崎、蝦名、佐々木、田澤、今井、前田、中川、原、沖田諸氏▲養蠶 三橋、山本、北村、田島、田中各縣議、土屋、岸、野村、小原、藤島、船越▲林業 櫻田、笹森、藤田、北島、奈良各縣議、古川、平山、鈴木諸氏▲水産 小泉、七戸、河野、關各縣議、松森、田中、長谷川、柏谷、森、大里諸氏▲畜産 奥崎、宇野、江渡各縣議、徳差、鳴海、野村、盛田、奈須川諸氏▲商工業 北山、佐藤、三上、葛西、小笠原、遠山各縣議、藤林、丸瀬、安田、芹川、近藤、篠村、櫻庭、宮越、長谷川、工藤、鳴海諸氏

福永委員開會の旨を告げ劈頭小濱知事は左の如く挨拶を述べたり

本日は縣下の産業界を代表せらるゝ諸君と共にかく一堂の下に相會しまして親しく本縣に於ける各種産業の實際に就きて研究の調査を致し、將來施設の指針たるべき産業方針を確立する上に於て互いに胸襟を開きて相考究致しまする機會を得ましたのは、私の衷心より深く欣快に存する所であります

申し上ぐる迄もなく、諸君は縣下各方面に於て最も有力なる方々であると同時に又最も御多忙なる方々であります然るにも拘はらず先般失禮なから私よりこの産業調査の委員を御囑託申上たる所、幸にも御願ひ致したる諸君に於ては洩れなく且快く御承諾下さいましたのみならず、本日は又將來縣治上記念すべき日と相成るべき産業調査會の第一回を開くにつきましてこゝに御参集を御願ひ致しましたる所、縣治上最も重要な事柄とは申しなから遠路且

御繁用の折柄殆ど洩れなくかく多數御會同を得ましたる段は、先つ以て私の厚く感謝致す所
であります、又此の如きは實に諸君か如何にして縣下産業のことに御熱心であるかといふこ
とを證明するものでありまして深き敬意を表しますると同時に、私の御願を御快承下さいま
したることに就いては重ねて厚く御礼を申上くるのであります

備、本縣産業の状態に就いては今更事新しく私より申上くる迄もなく諸君に於て夙に十分御
賢察の事とは存知ますが、一言にして之を申せば残念なから「萎微として振るはず」と云
はさるを得ませぬ、本縣の生産額は昨年調に依りますれば大約三千萬圓内外であります
が、之を全國生産額の比較に就て云ひますれば、實に一道四十六縣中の第四十五位に位し縣
民一人當り生産額より見ますれば第四十六番となり僅かに沖縄の上に在るといふ現況であり
ます

八百七十方里の面積と七十五萬の人口とを有しながら此の如き産業の状態に在るのは、諸君
と共に甚た遺憾に堪へざる所でありまして、其の關係する所口に一縣一郡の得失に止まらず、
之を大にして申せば實に一國生産の振否にも關する重大なる問題であります

元來本縣は諸君御承知の如く、地勢、氣候、風土等の關係上東北地方の中にも交通最も遅
く開け文化最も遅れたるが為めに、各種生産の事業も亦随つて其の發達比較的遅かつたと
云ふのは亦止むことを得ない自然の教であるやも知れませぬ、且近年に於ては彼の大正二年
に於て起こりました大凶作並に水害の影響を被りましたことは東北六縣中に於ても本縣
殊に著しく、由來民度比較的低下本縣と致しましては其の打撃一層甚しきものあり疲弊殆ど
其の極に達したと申して可なるのみならず、縣民の大部分は農業をもつて唯一の生産と致し
ておりまするが為めに凶荒水害に引續き一昨年来の米價の異常なる下落は、この凶作水害等
の影響を回復する上に於きまして大なる障害を為したることは申す迄もありませぬ然しなが
ら幸に諸君の御盡力によりまして瘡痕全く癒えたりとは云ひ得ませぬが、昨今に於ては諸般
の方面に亘りまして漸く平年に立ち回り大体に於て常調に復したと申しても差支なき様に考
ふるのであります

そこで一面に於きましては、部下と共に特に産業に關する行政事務の刷新振興を圖ります
と共に、一面に於きましては縣下産業の改良發達を圖らんが為めに縣の經濟財政の緩急を圖
りまして、將來に於て多少積極的意義を有する施設を計劃したいといふ考を抱いたのであり
ます

然しながら云ふ迄もありませぬが、確實なる方針が立たなければ百般の施設も竟に沙上樓閣
と一斑でありまして、當提訴の聲價を歸しがたきわけでありますから、先つ以て諸般の産業に
突きまして現在の状態を精密に調査し、これを既往に鑑みて其の因由する所を明にし又之を
將來に察しまして其の向ふ所を稽へ以て前途の方針を定めたいと考へたのであります、随つ
て曩に昨年度の通常縣會に於て宣明致しましたる通り、廣く縣下に於て多年の御經驗ある有
識の方々の意見を徴したいが為めに先つ以て産業調査會を組織するの計劃を立てたのであり
ます、即ち再言致しますればこの調査會に依りまして縣産業の過去および現在の情勢を詳ら
かに調査しますると共に諸君の御意見の程をも詳細に拝聽致しまして、依りて以て將來の方

針を確立し、當事者の行政施設の羅針たらしむるのみならず何人か局に當りましても先づ動かぬ所の一應の産業政策をしかと定めたいと存するのであり升

是に就きまして本年一月先づ其の下準備の爲めに準備委員を縣廳内に置きまして、爾來數次の準備委員會を終へ先月初め漸く諸般の準備的調査を終了し、一應の調査参考書を御手元に差し上ぐるの運びに到りました爲め、過日諸君に對し調査委員會を御囑託致し本日茲に第一回調査會の開會を見るに到りましたる次第であります、實は今少しく早く之を開きたい考でありましたる所何分聽務多端なる上先頃は内閣更迭の爲めに地方長官會議等もありまして昨朝漸く歸廳致した様の次第でありまして彼是遷延今日に到りました様な譯でありますか、願くは諸君に於かれましては私の意圖の存する所を篤と御酌取りの上縣國の爲めに此の機會に於て十分胸襟を開きて意見を交換せられ協力一致以て本縣産業の發展に就て深く御考究あらんことを切望致します

以上を以て御挨拶と致します、終わりに臨みまして今回御參集下さいました御苦勞の段に對しては重ねて厚く感謝の意を表します

次いで名尾委員長は大要左の通りの如く調査準備委員會に關する經過を報告せり

私は本縣産業調査會設立の經過に關し其の大体を御報告せんとす、昨年大演習後に於て産業調査會を起し縣産業に關する大方針を確立せんの希望を知事より指示せられ本官に於ても夫々心支度致し居りたる所恰も昨年通常縣會に於て知事の産業に關する言明あり而も調査會を設くるの意を明らかにされしを以て本年一月先づ準備委員會の組織に付協議する所あり月の十日理事官技師十二名に對し準備委員會任命あり茲に於て調査の大綱を定め總論、農業、蠶糸、林業、商業、工業、水産、鑛業及び雜の十項目に別ち各調査主任を配し更に各項に付きて細目を設けたり本細目は調査の根本を爲すものにして數項に涉りて協定し三月二十日を以て各委員會提出の原案を纏め之を謄写に附して各委員に配布し以て熟考を促す所あり越えて五月一日第一回の準備委員會を招集せり而して全委員會は細目を討議將來の施設のみを重視し總して各事項に就き過去現在將來に涉りて調査する事に方針を立て之に基き五月末日迄に再調査せしめたり斯くして六月初旬調査細目確定せるを以て各委員に命し直に實地調査に着手せしめ又郡市町村をして資料を調査せしむる等銳意進行を計り其結果十月中旬全部の資料提出されしを以て本官に於て一應の審査を爲し同月末準備委員會を招集して其議に附し漸く各種産業に付一應の参考書を脱稿印刷に附し諸君に配布するの機に及へり唯茲に一言述べたきは該案は過去現在の状態を述べたる外尚將來の計畫に就ても記載する所ありしが斯は單純なる計畫にして縣の方針若しくは確定的計畫に非らず經濟並財政等を考量して定めたる確定的のものに非ずして諸君の参考の爲め記述したるに過ぎず茲に於て十一月五日を以て諸君に對する知事よりの産業調査委員の囑託あり普く諸君の御意見を拝聽するの運に到達せるなり而して調査委員は百四名内在廳官吏十三名、郡市長十名、縣會議員三十一名、新聞社長六名及各種産業に精通せる有力者篤志者五十名なり之を普通農事、養蠶、林業、商工、水産及び畜産の六部に分ち郡市長並新聞社長除きては夫々部属を定め御考究を請ふ事とせり

報告終るや阿部委員（武智雄）は調査は今回を以て是非とも之を終結せしむべきか如何と問ひ

名尾委員長今回は第一回の會合にて更に會を重ね審議すへしと答ふ阿部氏更に調査上に關し問ふ所あり今泉委員も委員の權限に付問ひ名尾委員長夫々答ふる所ありて後福永委員より部會に移る旨を告げ各部の委員は夫々部署に着き直ちに部會長理事の互選に移れり時に二時十分

▲各部會の論戦 普通農事は參事會室に商工業は議員控室に及び他の水産、養蠶、畜産、林業は階上の四隅に夫々陣取りて開議し各主任たる縣の委員は臨時に座長となりて部會長理事の互選をなし其結果左の通りの如く當選したり又各主任技師一名は選舉を用いす各部の理事たる事に決せり

△普通農事 部會長阿部武智雄、理事今井仁右衛門△商工業 部長北山一郎、理事丸瀬正果、藤林源右衛門△林業 部長平山浪三郎、理事藤田重太郎△畜産 部長奈須川光寶、理事徳差藤兵衛、奥崎甚吉△養蠶 部長三橋忠造、理事船越香織△水産 部長河野榮藏、理事長谷川義

斯くして各議事に入り大体に就ての各員の質問に對する主任技師の應答あり養蠶商工部會にては午後三時頃縣廳案を原案として逐項質問をなせるが他の諸部にては午後四時頃に至るまでも調査方法に關する討議中なりしあり大体質問に華を咲かすありて議容易に纏るの模様なかりし

●漂流者を救助 下北郡東通村大字尻屋にて鰻漁をなさんとて海岸に居合せたる漁師等十月二十九日午後一時頃は棹前沖合遙かに小舟らしきもの漂流しあるを發見し水難救済會員數名三羽船にて漕ぎ出せるに果たして小舟に人あり救助せしに左の三名

△北海道龜田郡尻岸内郵便局員吉田讓治（二十二）小學校教員樋渡道一（二十）同校生徒榎木茂（十四）

にして二名は殆ど人事不省榎木少年獨り稍生氣あるも衰弱甚しく言語を發し得ざる状態なりしが取敢えず一同海岸に漕きり應急手當を施し一方隣村岩屋醫院に人を走らして來療を請ひたるが右三名は今より三晝夜前（或は二十六日の夜ならんか）小舟に棹さし居村前濱に距離遠からぬ海面にて柔魚釣りを慰みしに相應の漁獲ありて帰航せしに櫓操縦し得るは吉田局員一人なるに潮流激しく而も海面暗黒何處とも知れぬ海岸に着きたるが断崖絶壁取り付くべくもあらず止むなく茲に錨を下ろして三人とも眠りに就きたり而して數時の後目覺めたるに錨は垂れあるも用をなさず海深き處洋中に漂流し居たるが方向不明身体は疲勞し如何とも詮術もなく只風波に任せ漂流し居たるものなりと介抱にて漸く生氣付きて郷里を知るや否や取り敢えず尻岸内へ打電通知に接し親族等到着し被難者疲勞元氣回復して十一月四日尻屋を發程帰途に上れりと

大正五年十一月九日

●産業調査會

▽第二日目

△各部會の決議

（中略）

△水産業 の部會も諸般の質問應答ありしが討議の結果結局急施の要あるものと必ずしも然らざるものと二大別し急施を要するべきもの左の通りの如く提案に決せり

- 一、遠洋及沿海漁船改良の奨励規程を定め二千圓以上の補助及貸付方法を設けること
- 二、沿岸町村の適種漁業を縣に於て調査すること
- 三、打瀬網漁業を縣試験場に於て經營すること
- 四、縣外水産業視察員を縣費派遣すること
- 五、樞要の地方に漁港及避難港を速かに修築すること
- 六、重要水産製品の縣検査方法を設定し統一を計ること
- 七、養殖業を奨励すること
- 八、漁業組合地區町村行政區劃に準拠せしむる方法を講ずること
- 九、縣水産行政部を四に別ち（灣内、日本海、太平洋、養殖部）主任者を定め擴張を計ること
- 十、漁業組合監督に關する規程或は水産漁獲、製造物販賣の保護法制定のこと
- 十一、沿岸森林を禁伐林とし水源涵養林を保護し及新規の漁法を講ずること

大正五年十一月十日

●産業調査會の今後

本縣産業調査會第一回の總會は八日を以て終了し其經過は既報の如くなるか今後の措置に關しては名尾委員長の言明せるに徴するも明年四月乃至五月の候を以て招集さるべく而も其以前二月下旬頃までには各委員の意見を徴し是を輯録して一の原案となすか又縣に於て此等総括補遺する等適當に按配して原案を作るか何れとするも兎に角之を各委員に配布して更に熟考査覈を求め然る後陽春の好機を見て總會を招集し茲に於て一先つ大体の纏まりたる成案を得る事となり或は其際尚多少の調査を要するものあらは更に遅くも八九月までには三度總會を招集して最後の鐵案を作る事となるべく觀測さる

大正五年十一月十七日

●産業調査と財政

▽名尾調査委員長の通牒

過般第一問の總集會を開きたる本縣産業調査會今後の舉措に關しては本紙既報する所ありしが今回名尾委員長より各委員に對し明年二月末日迄に縣準備委員會の調査せる資料を斟酌して各自の意見を提出されたき旨の委嘱状を發せる由なり右の内意は大体次回總會を明年四月乃至五月と豫定し之に提出する原案となるべき各部會の成案を得る為めに外ならずして全期日までに各員の意見一先つ委員長の手元に到達の上は委員長は各部理事たる主任技師をして一應其の意見を基礎とせる案を作成せしむるか將又他の方法に依るかは未詳なるも何れとしても縣は産業調査會の結果に期待する事切にして其の決定の最も速やかなるを待てるものゝ如く従て産業方針確立せば縣民は多大の興趣を以て縣の施設を注目するに至るべく縣は又産業と財政の均衡を失せさらんか為め更に進て財政方針の確立をも企劃するの要あるべきは自明の理なるか如く觀測さる

大正五年十一月十九日

●四日三晩漂流

▽教員生徒遭難詳報

去る十月二十九日南東風激しき正午頃尻屋崎を距つる南方約一里の海岸に寄せ来る激浪に翻弄せられつゝ一艘の磯舟らしき小舟の漂へるを見たるを以て折柄鱈漁の為め海岸にありたる三餘會員水難救済會員等は早速救助船を出し山の如き波浪を冒して同船に近付き見れば中には二人の青年と一人の少年の瀕死の状態にあり言語を發するを得ざるを發見したりより早速救助船に遷し磯舟を捨て海岸に來たり先づ應急手當として氣付を與へ相擁して村に來たり早速人遣して隣村岩屋なる松本醫師の來診を乞ひて手當を施せしかば午後五時頃に至り漸く言語を發するに至りたり遭難者の一行は北海道渡島國龜田郡尻岸内小學校代用教員樋渡道一(二十)同(六年生)榎木繁(十四)及郵便局員吉田健次(二十三)にて十月二十六日夜同沖合に烏賊釣に出掛けたるに慣れぬ事にてもあり殊に暗夜の事とて方向を失し遂に波のまにまに沖へ押し流され汐首沖より尻屋崎以内まで漂ふ事四日三晩始めの間は食るに物なく或は生烏賊を食ひ或は海水を飲みつゝ津輕海峡の激浪と奮闘したれと遂に精疲れ根盡き既に危うかりし所を救はれしなり村民の手厚き看護と暖かき慰謝によりて危かりしを助かりしを感謝しつゝ静かに療養したるを以て十月三十一日の頃には全く元氣を恢復し電報により迎ひの來る間或は燈臺望樓を見物し立太子禮の裝飾に手傳へなどしつゝありしが兒等の無事なりしを知り迎へに來りたる三人の骨肉に擁されつゝ心からの感謝を捧げつゝ五日帰途につけり一葉の扁舟に乘じ四日三晩有名の難所に漂流しつゝ無事なるを得しは真に奇蹟といふべし

●柔魚釣少年の變事

下北郡大畑村前濱十三日夜柔魚漁に沖出の川崎船八人中少年二人ありて同夜は大漁満載夜半過ぎ歸岸の海上櫓を流し帆を上げんとする内風浪高く帆の操縦意の如くならず其の内激浪船中に入り込みたるも櫓は確かなるだけ全体の沈没には至らざるも水舟となり乗組員皆頭のみ水上に出し居るも身体水中にあること數時曉天に至り當時同港に停泊中の汽船英丸遭難の場所に到り其の人々を救助し川崎船は救ふに由なく急ぎて遭難者をは上陸せしめたるが當時其の内なる山道某(十四才)は虫の息なるを醫師は手を盡したるも其の甲斐なく間も無く絶命したりと數時水中にありしたため凍へたると今一人の少年石塚某(十三四才)は幸に健全とにはあらざるも昨今村内を散歩し居ると而もまたフラフラ足元確かならずといふ又た下風呂字馬下場村田徳十郎(二二)は十二才の少年と磯舟に乗込み沖出し柔魚釣中風潮の為転覆し二人とも其の船体にスガミ付き居る内少年(十二才)は激浪に浚はれ村田は幸に他の船の救助をうけ現今醫療中なるが負傷の痕跡とて非ざるも時々發熱且心神朦朧として確かならずと

大正五年十一月二十一日

●漁船難破

下北郡東通村大字野牛上田榮助所有漁船に養子榮太郎外二名乗組み十三日午前十時頃小田野

澤海岸を出發し白糖沖合にて烏賊漁に出掛けし途中尻屋燈臺より遙か沖合なる尻勞沿岸にかゝるや暴風激浪のため轉覆浮流中幸にも航行中の一汽船に救助され十五日午後四時函館區に上陸し一命を助かりしと▲同郡風間浦村大字下風呂田村徳次郎は自分船に池戸健次郎（一五）と共に乗組みて十三日午後四時村の沖合に烏賊釣りに従事中十一時頃に至り非常の時化となりて引上げんとせるも遂に轉覆し自分はあわよく通行中の川崎船に助けられしも少年健次郎は今に行衛不明なり

大正五年十一月二十二日

●下北郡北通の柔魚漁

北通此頃の柔魚は好漁にて十八日朝來東風雨を交へスボリ柔魚の賣買等ありて乾燥上如何と氣遣ひ居たりしに午後より雨止み十九日は朝來の好天氣にて斯業家何れも喜色満面乾燥手入れに従事し居たり隣海函館附近大漁との打電にて價格稍々下向きの趨勢なるも未だ甚だしき暴落とにはあらざる如し

●尻屋の遭難船救助

下北郡東通村字石持杉本菊松所有の川崎船頭字入口上田榮太郎（三十四）漁夫石持杉本卯之吉（二十）字上田代吉田金作（二十）の三名乗組み柔魚漁のため十一月十三日午前十時半頃石持出帆白糖港へ航行の途暴風吹募り激浪に翻弄せられ船員は必死となりて働くも船体の操縦意の如くならずして尻屋岬沖合漂流しつゝあるを十三日横濱港を抜錨函館へ向け航行しある汽船駿河丸船長山田次吉が遙かに難船の信號を認め直ちに轉針遭難船に接近せしは十四日午前十時四十分右三名を本船に移乗救助せしが川崎船は高浪にて曳航不能の止むなく本船より日本錨一挺の貸與を受け沖合に浮置し本船は函館に着岸救助者三名上陸し直ちに郷里に打電し被救助者一行十八日を以て無事に歸郷し得たりと深く駿河丸に對し感謝し居たりといふ

大正五年十一月三十日

●縣水産會近況

○鮭の採卵 本月一日より例年通本縣水産試験場相坂孵化場に於て親鮭捕獲の上採卵孵化事業に従事となりしか本年何處も鮭漁不漁に拘らず同所にては相當の漁獲ありて二百餘萬粒を採卵せりと云ふ右の中三十萬粒は不日岩木川孵化場に送付し孵化飼育せしむる由△上北郡奥入瀬川に於て斯かる不漁の際にも拘らず猶平年に準じ相當の漁獲あるは全く相坂孵化場に於て鮭兒放流の結果なるべし

○蒲鉾講習 本縣水産試験場に於て過日來西津輕郡岩崎村に第一回蒲鉾講習を開催せしが從來殆ど廢物同様に輕視せられたる星鮫又は磯魚を利用し蒲鉾製造を講習せんことゝて講習生の熱心と同地方有志の援助により十四名の多きに達し二週間内晝夜兼行し第一期の講習を終了し三十日終了証書授與式舉行のはずなるか試験場よりは場長代理として小岩井技師出張せりと因に同地終了の後は深浦に二週間鮎ヶ沢に十日間の講習を為し他部落の希望は明年度に延期し引續き他郡に於て開催の豫定なり

○秋刀魚漁業 該魚族は北海より本縣の沿海を経て遠く四國九州に廻遊するものなるが本縣沿岸通過は頗る沖合にして其期間短かりしため漁業する者も無く又從來地方人は殆ど食用に供せざりしため未だ勃興せざりしが今回水産試験場に於て鱈漁業の傍に流網を以て之を試漁せるに僅々の間に三百餘の漁獲あり今後主要漁業の一たるに至るべしと云ふ

大正五年十二月一日

●物産陳列場陳情

青森商業會議所は物産陳列場を縣費設置に關し昨日左の通りの陳情書を北山議長に送れり

物産陳列場縣費設置に關する陳情書

本縣産業を世上に紹介し其生産品に對し販路擴張を圖るの方法は素より一にして足らずと雖も物産陳列場を設置して以て自他の生産品を出陳し比較研究の上に之れか開發利導を圖るは極めて有力なる方法の一なりと信す蓋し物産陳列場若くは商品陳列館の如きは近來最も進歩したる施設として一般的に認められ随つて全國競ふて之れが設立に重きを置く所以なり本縣は曩に縣立物産陳列場を青森市に有したりしも明治四十三年本市大火災の影響として一時其經營を休止せり而して其位置構造の改善を要すべきもの多々ありしを以て近く新設すべき理由の下に一旦之を廢止したるも決して永久に其方針を放棄したるものにあらざるなり

青森市は樺太、北海道及本道の連絡要衝にして日々往復するの旅客は千を以て數ふへし是等旅客は勿論特に本縣産業の視察を遂げんと欲するものも陳列場の設備なき為め悉く失望するのみならず之れか為め却て本縣産業に對する地方人の自覺を疑はしむるものにして近く奥羽各縣に徴するも一として陳列機關の設置あらざるなり銳意之れか經營に當りつゝあるに拘らず獨り我縣に於て其設備を見ざるか如きは益々以て本縣人か産業増殖に對し積極的意氣なきを表白するの嫌ひあるは寔に遺憾に堪へざる處なり今や本縣に於ては夙に産業の開發を希圖し這般有力なる産業調査會を開催し本縣會の各位又悉く其委員に擧げられ遠大なる縣産業是を確立せんとするの舉ありしと聞く然れば縣産業奨励の先驅たるべきものは一に本縣會の双肩に拘はるものと云ふを得へし

物産陳列場の如きは産業奨励の先驅たるべき施設の一にして其設置をして遠く數年の後を待つか如きは弊所の深く遺憾とする處なり今や時局の影響は我國産業の勃興に甚大なる刺戟を與へ各般の盛況人をして轉々興奮に絶へざらしむるものあり而も亦過般奥羽六縣聯合共進會に次ぎ大正七年を以て北海道物産博覽會開催の舉ありと云ふ冀くは其以前に於て本縣物産陳列場を本市に設置し内外通過の客をして視察に遺憾なからしむるは又以て其機を□□□ものと信宜しく其施設の時期を早められ青森縣物産陳列場を我青森市に設置せられんことを望む

大正五年十二月六日

●下北漁業組合協議會

十二月一日午前九時より議事に入り正午過ぎ晝餐に凡そ五十分午後一時より議事を續け鮑の種類「マダカ」「クロ」「メガイ」「エゾガイ」此の鑑別法に就ては終に點燈後に涉り結局委員を

擧げ其筋へ請願する事とし廣谷大間、長谷下風呂、坂本尻勞の三名に会長より指名せられ其手續順序の大体を協定し爰に会長は閉會に臨み統計に關して縷々訓諭する處あり其の他水産に關する希望を演し閉會せしは午後七時なりき因に十二月二日朝本山農商務省屬、島村、一戸の兩縣屬には野邊地定期の南船、江副水産局員と一ノ瀬分教場には大間方面に北馬し何れも多數の見送りを受け出發の途に就けり尚ほ郡長の漁業組合役員協議員會に與へたる訓示は左の如し

茲に本郡漁業組合役員會を開催し諸氏の參集を求め親しく斯業に關し意見を陳べ諸氏と共に協議を遂ぐべき機會を得たるは本職の最も欣喜措かざる處なり今や國家社会の機運は富力増進を以て急務と為し諸般事業の改善進歩を促進しつゝあるは大に喜ぶべき現象なり而して本郡は水産地を以て名あり既に水産組合漁業組合等の設立あり漁撈製造乃至販賣に關し改良統一の機關あるに拘はらず他縣に比較し斯業發展の遅々として振はさる所以のもの之が原因一にして足らずと雖も當業者の奮励努力の足らざると改善統一の機關にして尚ほ堅實なる活動の足らざるは蓋し一の原因たらずんばあらざるが如し世の進運は斯くの如き現状を許さるべし要は當業者は勿論漁業組合として斯業の發展上必要なる點に於て着々改善向上を期せんことを切望して止まざるに在り若し夫れ指示協議の細目に至りては示す處あるべし希くは諸氏今回の參集を機とし充分協議し本郡水産事業上裨益する處あらんことを

●下北郡會奉贊會

下北郡献金は去る十一月三十日を以て一先つ終了したるが配當額一千圓に對し献金申込は一千八百二十圓の巨額に達せり其の申込内澤左の如し

△四百七十九圓八十六錢田名部△百二十三圓六十二錢大湊△六百十三圓五十二錢川内△二十三圓三十九錢脇野澤△三十四圓三十九錢東通△八十七圓三錢大畑△三百七圓二十錢風間浦△七十七圓十八錢大奥△七十三圓八十一錢佐井

計一千八百二十圓

右の内二百圓以上の申込は風間浦村大字下風呂佐賀清太郎氏の二百圓と川内村安部城、西又兩鉾山の連帶の五百圓なりと云ふ

大正五年十二月八日

●築港委員の調査

開會中の築港委員會並に豫算委員會の一行は六日午後一時築港用汽艇鶴見丸にて平井技師案内し野内工場に赴き石材採取及び運搬狀況浚渫船の作業及び其他の工事を視察し平井技師の説明を求め事務所に休憩の後午後四時頃歸青したり

●下北の漁業

其の後尻屋、岩屋、石持の沿岸兩三日前鱸可なりの漁獲あり北通り関根濱より大畑、下風呂、大間までの各沿海柔魚漁は十二月二日より四日に至る磯舟さへ一千内外八人乗川崎船八九千より一萬以上の好漁にて字二枚橋一小部落のみにても水揚げ一萬斤乾製品以上は慥かなりとの確報あり尚風さへあれば好漁の見込充分なりと例年十月より遅くも十一月中旬にて入漁船は尻屋岬以北白糠泊方面へ大体移漁するものとして現に本年も南の泊白糠に轉したるもの過半なるに

白糠泊の方面は寧ろ思はしき好漁なき由尻屋岬以北の景気の好き事夥しと本秋こそ陸の萬作海
の好漁鰯の値段近來は漸く下向き気味に赴くもまた昨年倍額前後而も鰯粕にも鰯製造にも最大
要件たる天候連日の快晴恰も春光の如く穴粕圍と覺悟してありしは杞憂となれり

大正五年十二月十一日

●秋田漁夫會社

秋田縣由利、河邊、南秋、山本、北秋五郡より農閑期の時期を利用して北海道樺太露領沿海
州に漁夫として出稼するもの年々二萬五千餘人に上り之が賃金八十萬圓以上に及べるが從來之
に對する當局の保護と民間の設備と共に見るべきものなく従って漁夫募集に際し雇主は無益の
費用と意外の損失を蒙り一方被雇人たる漁夫等も救済保護を受くる機關なきため不安災禍を受
たる例少なからざれば之が改善を圖らんが為め今回秋田市茶町に資本金十萬圓の秋田漁夫株式
會社なるものを設立し北海道及關係地方の漁業家に設立の趣旨を披陳し漁夫雇入方法の改善を
期せんとて今回同社常務取締役秋田縣參事官會員佐々木久之助募集部長梅内市太郎の二氏渡道
漁業家を訪問して意見を交換しつゝありと要するに同社の目的は漁夫側に取っては不慮を被り
たる疾病其の他の災禍に對し之が救済保護の道確立すること輸送危険を防止すること及漁場
に於ける悪習に感染して歸郷後郷里の風習を害することを防ぐと雇主側に取っては前借金の賠
償に任ずること逃走故障にて欠員したる漁夫補充の責任、募集費用を軽減せしむるにありて双
方の為め頗る有益なる計劃と謂ふべし

●東郡宇鐵便り

▲入營兵 當村本年の入營兵は左の五名にて第七師団志願入營兵一名、弘前砲兵隊一名他は
青森第五聯隊入營兵なり遠きは去る二十五日近きは二十八日何れも青年團員、在郷軍人、小學
校生徒其他村内有志多數に見送られ活氣満々にて出立せり

牧野豊三郎(弘前砲兵隊) 三浦石松(七師團) 牧野定吉(第五聯隊) 柳谷兼松、柏谷桃作(全)

▲入營兵歡送會 當村部内四枚橋藤島青年團にては團員中より三浦石松、柳谷兼松、柏谷桃
作三人の入營者を出したるを光榮とし是が歡送會を去る二十四日正午より大宮團長宅に於て開
催す來賓として鳴海校長村内重立數名定刻團長の開會辭に次いで鳴海校長の祝辭入營兵の謝辭
ありて祝宴に移る獻酬數刻思々の隱藝を演じ談笑の間に充分の快を盡くし解散せしは午後七時
頃

▲乾鮑入札 去月二十日元宇鐵村にて乾鮑貳百斤入札上等一斤一圓七十五錢中等一圓四十五
錢下一圓十五錢にて田中豊作氏落札せり

▲潜水器漁業相談會 去月二十八日漁業組合事務所に於て組合役員部内各村總代集會し明春
の潜水器漁業問題につき相談會を開催せり

大正五年十二月十三日

●三澤村の漁況

△沈銅引揚作業の障害

上北郡三澤村は本縣屈指の重要漁業地にして村落は漁業を主とし田畑の耕作牧畜の収入副産にて家事を助け居る為め數年來の不漁にて困窮見るに忍ひざる者ありしが本年は夏漁相應にあり少々愁眉を開きたるに秋漁の増獲何れの村落に至るも豊漁を歌はしめ今や晩秋の漁季と雖も本年は潮流域に變動を生せる漁民の僥倖となり意外の鱸群來あり去月下旬の如きは午後五時過ぎ天ヶ森塩窯間二里に涉り凄しき波響を起し鱸群來は古老にも曾て知らざる程なれば是を見逃したる漁民澤山あり塩窯漁場附近には日没して漸く人影を認め得る頃一網千金の収漁あり天ヶ森は群來最も多き漁場なるに此の豊漁平均せさりしが是れと北濱漁業組合員の米内山某が昨年九月十六日沈銅の存在を地引網の支障によりて發見し之が引揚の許可を願ひ手續の不備より許可せられずしも盛岡地方の行商人某は南部家の銅板を積みたる野村治三郎の神通丸の難破の事を聞付けて一儲せんと南部家扶に伺ひ出ても記録不明の如何としかたなかりしが兎角する内に盛岡市高野某に此の權利を二百圓に賣渡し公正書を作成したるを證據として水面使用の後願に許可は與へられ二萬圓餘の費を投じて引揚げに着手したるも沈銅は一個も發見せられず僅かに錨四挺を引揚げて該作業は休止中の杭打沖出し數十間の附近は鱸群來の中心なるため地引網漁業に支障を受け網の破損數回に及び又秋冬の潮流激しく網を流され支障を受けたる漁業家も多く其損害亦多大なり故に漁業組合員は此の慘事を受け苦痛に堪え兼ね水面使用許可の取消工作物取り除きを請願せるより十二月三日青森縣より中村技師上北郡郡役所より小笠原郡吏出張し三澤村役場員北濱漁業組合長立會検査をなせる由なるが縣廳にて此の障害物を取除くるに於ては晩秋の漁季なれとも本年は冬至の時季迄は充分の豊漁あらんと古老の話なるが一村の漁獲三十萬圓には下らざるへしと村内沿岸の人気旺盛なりと

●深浦の漁況

師走と云ふに本年の暖気は格別にて海上静穩日々漁獲するを得▲本秋鼠鮫漁 は各船共僅かに一日の漁獲に於て切揚勘定に甚だしき甲乙ありしも總体の上より昨年と大差なし鰯イカ近年になき豊漁にして引續き出漁二三百尾宛の漁獲あるも漁場の沖合なると時化早き時期に際し磯舟を用ふるより充分なる漁業を為す能はず早晩川崎船の運用を急務とする運命を有するは勿論なり配縄漁業には星鮫鯛等相當の漁獲あるも建網に至りては目的物の鮫極めて薄く纔にガサ油目鯛鯉の雑魚を捕獲するに過ぎず磯ものとしては小蛸近年珍しき好漁鮑雑魚風に任せ出漁しつゝあり岩崎を終了したる▲蒲鉾講習 は去る三日より水産補修學校實習場を充用し講習生十四名を收容終日熱心に練習の結果進歩著しく製品は弘前方面に試賣の計畫なりと而して右原料は主に星鮫ガサ油目其他にて價格廉ならざる今日尚ほ相當収益あるを示せしかば大いに當業者の注目を引けりと

大正五年十二月十四日

●鮑製品に關し陳情

△下北郡水産組合より

去る八日農商務省令第二十五號にて鮑、海鼠の取締規則發布されたるが爾來研究を重ねたるも其の鑑別方法不可能なるやにて去る十一日下北郡水産組合長佐賀清太郎氏より農相宛にて左

の如き陳情書を提出せりと

鮑製品取締方の義に付陳情

我國重要輸出品たる鮑海鼠に關し本年八月省令第二十五號を以て製品取締規則の御發令相成候は産地たる我が下北郡が痛く感激措く能はざる所にして是れ濫獲を防遏し保護あらせらるゝ御趣旨に外ならずと深く服膺切に肝銘せる次第に候以て我か製品の信用と聲價とを維持すると共に取引者に累を及ぼすなからしめんとするの誠意よりして先づ産地検査を精覈厳密に勵行するを最も得策なりと確信し夫々經營罷在候然而して鮑は本郡重要海産物中の尤も重要品なるを以て常に主として繁殖保護を念頭に置き之が漁獲に就ては漁業法及本縣取締規則等堅く遵守して苟も不正不法の行為なきを期し又其製法の改良統一を圖らんか為めには本組合に於て常に斯業に關し相當の智識技能と經驗とに富める者を選定して検査員を配置し絶えず検査を施行致居候然るに該省令の發布以來如上の検査員は勿論當業者に於て如何にして研鑽を重ね候も其種類の判別方法に就ては之を技術者に質すも殆ど首肯するに足るの辨明を與へられず全く不可能の實況に有之候由來郡下沿岸棲息の鮑は其の種類に關して専門の學者間尚其の意見を異にし未だ的確たる鑑別方法無之に仄聞罷在候只學者及技術者間に於てして本郡種類の最大多数は「クロ」にして其の他の種類に至りては寥々にして之を區別するに足らざるべしとは各人の意見一致しあるやと承知致候只殆ど鑑別方法を知らざる當業者をして其の種類の「クロ」一種に限れるが如き本郡産地に對し強て之が種別をなさしむるとせば獨り當業者のみならず検査員間各其の見る処を異にし大に輕重の適用上區々に涉りて種々の紛議を醸し或は故意に其の何種なるを主張し或は無意に或は故意に法令違反者を出して遂に本郡重要生産の品位と聲價と信用とを失墜し法令保護奨励の渥き御趣旨は却て反對の結果を生ずる事なき哉と危惧して寒心に耐えざる次第に候此の如きに至りては萬遺憾の極み一國經論上決して輕視すべきにあらざるを信し候然りとせば本郡産地に於て殆どあるやなきやの「マダカ」「エゾガイ」の如きは言ふに足らずと存られ候に付本郡産は總て「クロ」の一種と見做され罐詰一個の重量五匁五分以上乾製品一個重量を三匁以上として特別の御規定相成度目下鑑別方法の辨知乏しき本郡産の大多数の種類は「クロ」種なるとの専門技術者の意見を基礎として此の標準に依り當業者を鞭撻し以て該省令の本旨を徹底せしめ本郡製品の価價をして益向上致させ度熱望の余り茲に愚衷の存する処深く御憫察在せられ目下漁期に立入候に付枉けて何分差急き特別の御詮議を仰き度謹みて具す

大正五年十二月十五日

●虹鱒の配附

△昨年のは好成績

本縣水産試験場飼育に係はる虹鱒は昨年一萬尾二十圓にて約十萬尾を管内に配附したりしが成績頗る良好にて其の一例としては下北恐山の宇曾利湖の如き前年孵化に失敗せし箇所にて一萬尾を養育せしが非常の好成績なりしを以て今年は約五千萬尾の注文ありしと云へる程なるも今年度の配附し得可き總數は五六萬尾にして既に一人にて十萬尾の注文ありしもあり二月採卵期なるを以て希望者は急き廳内試験場宛申込むべし

大正五年十二月二十三日

●鱈好漁と鹽藏

△鹽賣行の好況

近海鱈好漁の爲め專賣局青森出張所より本月に入りて去る二十日迄に賣渡したる鹽藏鹽は頗る多量に達したる見込にして鹽藏鹽は鱈百尾に付五等鹽八十斤一箇を要し昨年十二月の統計に依れば十二月二十日迄に五等八十斤一箇三十萬二千斤を賣渡し此の内十八萬斤は鹽藏に使用したるものなりしが本年は既に五等鹽八十斤一箇六十六萬七千四百四十斤賣行あれば此の内少なくとも約四十萬斤は鱈鹽藏に使用されしものと見るべく營業者は油川七人青森十人ありて請求により出張所より吏員を派遣検査を爲しつゝあるが本月十日以降最も多忙を極めたりとのことに假に右の如く四十萬斤の鹽藏鹽を使用したるものとせば鹽鱈五十萬尾に達する次第なりと因に二十日迄に於ける全部の鹽賣行を記せば左の如し

三等四十斤一箇八、七六〇斤△五等八十斤一箇六六七、四四〇斤△五等四十斤一箇八二、八〇〇斤計七五九、〇〇〇斤

大正五年十二月二十八日

●相坂孵化場成績

相坂孵化場に於ては十一月二十三日捕獲所を設置し鮭親魚捕獲採卵を開始來月二十二日終了二十三日捕獲止を撤去せり今其成績を聞くに本年は海水温度の著しく高かりし爲めか鮭の遡上前年に比して少なく従て捕獲數に於て前年より三百尾少なく魚体亦小なるもの多かりし爲め採卵數に於て六萬四千五百粒を減ぜり即ち捕獲總數三千八百九尾の内採卵に適する親魚八百九十一尾雌七百六十八尾を得二百二十五萬二千五百粒を採卵し内三十萬粒は岩木川孵化場に残余は相坂孵化場に收容養育しつゝあるが目下孵出期にして早きものは既に孵化を始めつゝありと

●東郡宇鐵村便り

△森林保護組合總會

藤島森林保護會にては去る十二月十日宇鐵小學校に於て總會及び講話會を開催す來會者約四十名當日の重なる來賓には伊藤増川小林區署長、平澤蟹田分署長、斎藤屬、千葉菅原兩主事、大澤廉、清原村長、鳴海校長、澤山訓導等にて午前十一時副組合長田中直太郎氏開會を陳告し會務會計の報告あり次いで來賓諸氏交々登壇森林及び火災豫防に關する有益なる講話を爲し閉會せしは午後三時過ぎにて夫より青年團長柳谷治三郎宅にて慰勞の盛宴を開き獻酬數刻十分の快を盡くし散解せしは十時過ぎなりき

△實地授業批評會

去る十二月九日當村小學校にて尋常三四年の綴方の實地批評會を開催す教材は尋四（火事見舞の文）尋三（日記）にて教授者は澤山訓導なりと

△交換教授

當村小學校にては薪炭の經濟、兒童出席の便宜上より來る冬期休業を嚴寒の時期と交換教授

を行ふ筈なりと

△復習會

當村小學校にては今回児童向學心の上進及び教授力の徹底を圖らんが為め家庭不備にして復習に便ならざる尋常三年以上の児童を招集し毎週一回土曜日の晚二時間各受持教員出席學科の復習會を開催し居れりと

△漁況

鮫鱈漁は近年稀なる豐漁にて村民一般喜び居れり

大正六年一月五日

●發動機船取扱方針

發動機検査及び職員に關し逋信省管理局長より各府縣に通牒せる所に依れば總噸数五噸以上二十噸未滿の船舶にして發動機及び帆走を有するものは（一）旅客運送營業に使用する場合に於ては主として帆を以て運行する装置を有せざるものと認め之を汽船と見做し検査を執行すべく尚其船舶職員に付ては船舶職員法施行細則第五条に依り認可を得たる場合に限り機關長を乗組ましむる事を要せず又其認可は管海官廳限り処理して差支えなし（二）旅客運送營業に使用せざる場合に於ては之を帆船と見做し検査を要せず且船舶職員を乗組ましむる事を要せずとの事なり

●時化と遭難

押し詰まった二十五六日頃から時化出し新年三日まで打ち續きたるが其間本市にて左の通りの海難を蒙れり

△二十六日午後四時汽船小樽丸より大豆並びに魚類荷役中舢舨に高波打ち込み濡害せる丸共の分大豆九百九十二俵の内四百八十五俵魚類取合五百五十二個△淡谷回漕店にて倉庫に保管中の豆類亦八十四個怒涛にて損害△亦堀谷回漕店にても海岸に亘る木造の倉庫を破られ大豆五十三俵を濡損せり△郵船の舢舨第十一號他七艘は二十六日貨物滿載して陸岸に航進中烈風の為め遂に□堀割に□□三十一日まで陸揚は出来ず且濡損せり△二日入港の弘濟丸より貨物陸揚作業中なりし郵船の二十九號舢舨は三日激浪の為ロープ切斷せられ陸岸に吹寄せられ荷物五百九十一個を流失若しくは濡損せり

●小廻船の難破

下北郡脇野澤村六十三番地坂井由藏は長さ五間半の小廻船に乗り外二名と共に二日後七時全村小澤を出帆せしが途中にて激浪の為めに右舷前部を破損し一行三名生死の境を漂ひしが幸にも大事に至らず三日晝頃市内相馬町海岸に漂着せり

●深浦だより

▽救難船と能代道の問題

島 川 觀 水

□客蠟二十七日夜より吹き起れる暴風は折からの曇を交へて物凄く荒れに荒れ狂ひに狂ふて狂瀾怒涛山の如き黒潮は港内に崩れて三日三晩に續ける大時化は二十年來曾て有らざる暴威を逞

う致候

□本縣救難船金比羅丸は海邊に擱座して晝夜怒濤の爲めに叩かれ候得共流石は救助船丈けに解船もせず岩の如くに打ち寄せし浪を返して悠々たるものあるに於ては只管敬服致候間船は鱒積取鮎ヶ澤へ向け出帆準備中此の災禍に遭ひたる事故積荷計りの損害も尠なからざるべく尚且之が修繕には多額の費を要すべく借受人には誠にお気の毒に不堪候過日小泉縣會議員より該船に關する質問發せられ世間の視聽多少新たなる折柄同船の處決は亦多少の問題たるを免れざるべく候

□今回の時化に依りて多大の損害を受けたるは能代道深浦地内に御座候全線に互りて多少の損害個所有之候得共最も甚だしきは本村大字追良瀬廣戸深浦の三個所に候追良瀬は巾七尺を残して延長四十四五間欠崩流失致候廣戸は同様巾七尺位を残して四十二三間欠崩申候深浦郵便局前は巾一尺位を残して約六間欠崩中澤橋畔は約十間欠け其他浪打際は悉く破損致候郵便局前は直ちに假普請致候得共其他は其儘に相成居り追良瀬廣戸地内は今一尺崩壊せば車馬往來杜絶すべく交通上懸念に不堪候能代道の險惡は今に初めぬ事ながら今回破損個所を十分に修繕するにあらざれば將來又も大なる破損は免れざるべく由來能代道は海岸道にして一面山を負ひ他方海に瀕しあるを以て海岸は欠け山は崩れ自然道路狹隘を來し随つて修繕費等多額を要する次第に候陸丘地方の如く季節的破損にあらざれば年々多額の修繕費を要求せざるべからず候茲に於て余等は積極的に大改善を要望する事多年なりしも遂ひに其目的を達する能はず加之年々多額の修繕費を要する所以のものは啻に路面の事のみならず根本的政策の迂遠なるに外ならずと存候然し縣經濟に限りあれば猥に之を云為する能はざるも敢えて縣當局の熟考を要する次第に御座候（一、二）

大正六年一月十日

東郡漁船補助規程

開會中の東郡會に提出されたる改良漁船補助規程左の如し

第一条 本郡に本籍を有し現に居住し漁業を營む者又は漁業組合水産組合に於て改良漁船又は石油發動機据付漁船を新造する時は本規程により補助金を下附す

第二条 補助すべき新造漁船は左の二種とす、第一種肩幅七尺以上にして左の構造を具備するものに限る

(一) 船長の三分の二以上水密甲板を設くる事但し漁業上之を不便とするものは艙口を作り必要の際水密と為し得る構造と為すことを要す

(二) 船内必要の個所に肋骨又は仕切板を設くること

(三) 船首に堅固なる肘材を取付くる事

(四) 敷き棚戸立軸は可成心材を用ゆること、第二種漁船にして發動機を据付くるもの

第三条 補助金額は改良漁船肩幅一尺に付金十圓以内發動機据付漁船の西洋形は船体一噸に付拾五圓以内發動機は1順馬力に突き二十圓以内とす

第四条 補助金は出願の順序により豫算の範囲内に於て之を下附す但し競願ありたる場合は一

漁業組合、二水産組合、三個人の順序により之を定む前項出願の期日は願書本廳に到達したる日を以て之を定む

第五條 補助金の下附を受けんとする者は前年九月三十日迄に左の事項を具し所轄村役場を経由し郡長に出願すべし

- (一) 船の構造設計書及圖面並びに發動機の名稱馬力價格
- (二) 漁業の種類漁期漁場
- (三) 造船所の名稱所在地及船匠の住所氏名並びに發動機の製造所
- (四) 起工豫定期日
- (五) 造船費豫算書

第六條 補助の指令を受たる者は六カ月以内に竣工し其旨届出つべし

第七條 補助金は竣工を検査し完全と認めたる時之を下附す

第八條 補助金下附を受たる者は三ヶ年間其漁船を漁業に使用する義務あるものとす但し郡長の承認を受たる場合は此限りにあらず

第九條

(以下判読不能)

●海に飛び込み救助

△相馬町の決死隊

去る三日早朝下北郡脇野澤村坂井由蔵所有汽船榮丸が當市相馬町沖合に難破したる際同町民一同之が救助に盡力したることは既報せしが尚ほ聞く所に依れば

▲榮丸の乗組員 船主坂井由蔵同人三男由太郎(一五)及川村勝蔵の三名にして生鱈三千二百四十一尾薪炭三十三を積載し居りしが同町泉平助なるもの先づ同船が相馬町前浅瀬に乗上げをるを発見し急を町民に告げたれば帝國水難救済会青森救護組合救助夫たる町民三十三名總出となり救助に盡さんとしたるも激浪怒濤の爲め手段なく其の内に榮丸は錨綱を切斷し公園方面に漂流したれば救助夫は

▲決死隊を作り 第一回柳谷平吉、上野清吉兩名率先して救助繩を腰に結び激浪に飛び込み遭難船に泳ぎ付きて榮丸に救助繩を與へしが次いで第二回到柳谷平太郎、泉平助、大谷定吉、柳谷源太郎、太田源吉、柳谷万太郎の六名も海中に飛び込み榮丸に救助繩を投げ付け此の二条の繩にて漸く救助し得たるものなるが遭難者三名は前日來の酷寒と風雪に疲労甚だしく最早生心地なかりしを大谷榮助宅に運び焚火して救護介抱したりしなりと何時もながら相馬町民の義氣感ずるに余りあり

大正六年一月十一日

●鮑及海參請願

▲漁民の死活問題

客臘初旬下北郡水産組合より同郡各漁業組合理事の連署にて彼の一大問題なる鮑及海參の請願書を農商務大臣に提出せりと

本年八月九日農商務省令第二十五号を以て鮑及海鼠製品取締規則發布せられ同年九月一日より施行せらるゝことゝ相成候處該規則の遂行上輸出港に於て検査せらる趣頗る適切なる施設なりと深く感銘の至りに不堪候抑下北郡の各漁村に於ける乾鮑海參たるや共に重要水産製造品にして而も鮑専用漁業中最も主要なるものに属し殊に鮑漁の豊凶は實に漁民の死活を左右する處なりと稱するも敢えて過言にあらざる義に付き特に鮑に就いては留意致し製造は勿論生鮑と雖も検査を励行し又は各漁業組合に於て鮑採捕に關する規約を設け極力漁業法及本縣漁業取締規則を遵奉せしめ以て違反者なきを期すると共に獨り蕃殖保護上のみならず永遠の利益を圖らんが為めに亂獲酷捕の弊に陥らしめざる様力め來りたる次第にして爾來下北郡に於ては不正行為者無之と自信致居候然る處今般鮑に關する製品の取締規則發布の結果官報検査は標準に準據し「まだか」と其他の種類とを區別せざるべからざることゝ相成候由を以て過般當局より該製品鑑別方法に就て御指示相成候に付同方法を経とし當業者多年の研鑽を緯とし研究仕候處製品としての鑑別は稍々簡易なるが如きも頗る不分明のもの多く有之勢い製品を鑑別するに當りては先づ原料（生鮑）の種類を區別せざるべからざるの必要に相迫り申候然る處當業者積年の実験に徴するに生鮑にありては潮流の關係其他の原因に依り各漁村とも其貝殻形態成育度等格差あるのみならず採捕の時期漁場漁法等に依りて製品の歩留を異にして殆んど一定せざる所に有之鮑の如きは斯貝に就いて蘊奥を極めたる専門學者に非ざる限りはこれが生鮑の區別を為すは極めて至難事にして到底漁業者の不可能とする所に有之為に不知不識の裡に違反者を續出するの恐れあり従つて該規則の御主旨及び目的を没却せんかの虞も之有實に苦慮措く能はざる所なり依て特別の御詮議を以て該規則別表中「まだか」の項に「青森縣を除く」の特例を設けられ度衷心實状を陳じ謹て奉請願候

白糠小田の澤漁業組合理事二本柳金作、猿ヶ森川向與志美、尻勞坂本豊治、尻屋住吉與太、岩屋角本伊太郎、野中下川辰蔵、石持吉田丑蔵、大利奥島稻蔵、関根濱杉山小助、大畑村柳澤伊左衛門、下風呂長谷川榮太郎、易國間越膳庄太郎、蛇浦鈴木浅治郎、大間廣谷六郎、奥戸高松市之助、佐井村太田長太郎、脇野沢柴田常吉、川内谷山成章、大湊太田直蔵、奥内中の澤山本榮太郎

農商務大臣仲小路廉殿

大正六年一月二十四日

●水産會提出問題

來る二月七日東京赤坂三會堂に於て開催せらるべき第二回水産大会本會水産會代表者として松森豊氏出席に決定せるが宇鐵興業組合長大宮長太郎氏も個人として出席の筈尚本縣提出問題左の如し

一鮮魚輸送に關する件

鮮魚は其種類により等級を付し併て輸送方法にも緩急の別を設け鮮魚の等級と緩急の差別により運賃を制定するは水産業者の最も便宜とする所なり依つて本件に關し特別の制度を設けられん事を其筋に建議すること

二專賣塩特別定價賣渡及交付金下付規則第一条第一項第六號に鰯を追加の件

鰯の如き一時に漁獲高まりこれを精製する食用品として品位上らず其價格低きものに在りては勢ひ手数を要せざるつづ鰯として之を処理す然るに近時食塩及び運賃の價額上り當業者の困難少なからざるを以て速かに之を追加せしめられん事を其筋に建議すること

大正六年一月二十五日

●賞状賞牌發送済

既報の如く奥羽六県聯合共進會賞状及賞牌は一昨日を以て全部發送済となれるか之が交付の方針は郡市に於て未だ決定し居らざる模様なれとも青森市に於ては傳達式を舉行し東郡に於ては町村長會開催の場合に於て交付すべしと云ふ

大正六年一月二十七日

●本縣の鰹漁

▽東海岸夏期の主漁場

▲鰹漁の初期本縣太平洋沿岸における鰹漁は近年になき不結果に移りたるが其初漁は七月中旬岩手縣下の石油發動機船數隻金華山沖合に出漁して相當の水揚ありしを聞知せる本縣當業者は俄かに出漁の準備を為し遠く岩手縣久慈沖合に出動せるに始まる然るに此等出漁船は不幸にして一物の漁獲なくして歸港以來再度全方面に出動せるも思はしき成績なくして七月を終れり

▲石油暴騰の影響 近年の鰹船の七歩は石油發動機船を使用する事とて數年前盛んに使用せる所謂改良船なるものは最早陳腐の漁具として顧みられざるに至れり然るに欧州戰亂勃發以來石油の暴騰著しく為に一般漁業界に及ぼす影響少なからざるが就中鰹業者の鋭峰を殺ぎ遠く出漁する者稀なるのみならず小資本者にして止むなく休業せしむるに至れりその結果はかえつて不漁より生ずる失敗者を少なからしめる利益在りしは一つの僥倖とも見るべきか

▲當業者の困憊 八月下旬に入り宮古港十數哩の沖合に若干の漁獲あり斯界稍々活気を帯びたるも天候激變して遂に其の囑望は水泡に歸し空しく八月を終れり初漁以來不振の状態に在りし斯界は一般に秋漁を期待する事少なかりしか漁況依然として振るはず南風徒に吹き荒み波浪激しく魚群探索に不便にして出漁船は空しく歸港するに過ぎざりし同中旬に至り多少漁獲なきに非ざりしもこれらは殆ど云ふに足らずかくて漸次終了期に近くも漁況は依然として振はされば一般當業者の困憊甚だしく鰹を以て夏期の主漁とする東海岸一帶の經濟界は益々不況の状態に陥れり

▲遂に長蛇を逸す 不漁の原因は多く潮流の關係にあれば人力の及ばざる事とは知りつゝも萬一の僥倖を頼りに日々出動して十數哩の沖合を東西探索したれとも殆ど思はしき漁獲なくして十月に入れり其中旬鮫海岸二十哩の沖合に於て數百尾を漁獲せる船ありとの報傳るや各漁船競ふて出漁せしが天候變して險惡となり何等得る所なくして歸港せり其後天候不良續きにて出漁の機會なく遂に昨年の鰹釣漁業は終りを告たり

▲白鷗丸の活動 此間に於て湊水産傳習部所属白鷗丸は當業者の期待に背かざらん事に努め専

ら漁場調査に従事し其傍ら横斷海洋觀測を兼ね常に活動を怠らざりし八月中旬鮫海岸を去る四十哩の沖合に於て漁獲せる魚体より稍々成熟に近き卵を得たるがこは當地方に於て從來見ざる所の現象なれば以て如何に近海の潮流が變調を來し居れるかを知るに足らん

▲本年の成績如何 昨年の如きは實に十數年來嘗て見ざる不漁にして其原因に關しては速斷を許さざるも前述の如く潮の影響を蒙れるは其主因なり本縣東海岸を洗ふ寒暖二流は七月初旬頃より一方寒流の勢漸く衰へ暖流漸次勢力を増し九月に入つて寒流其の鋒銛を修め暖流代わつて沿岸を洗ふに至る茲に於て鰹群之に乗じて陸岸近く迫り來るを常とす然るに昨年は遂にこの事無く従つて鰹は例年に無き不漁に終り然らば本年は如何今日の所之を予想すべからず少なくとも六月中旬に至らざれば俄かに斷すべからざるも十月以降の觀測に依れば潮流も状態に復したりと見るべきものありと云えは此の状態を變化するなく順調なる経過を續くるに於ては昨年の甚しき不漁に反し本年は豊漁を見るならんか

大正六年二月三日

●公魚人工孵化

▽上北郡小河原沼に放流

本縣水産試験場にては上北郡小河原湖に公魚人工孵化放流を計劃し目下着々準備進捗にあり
▽半鹹性の魚類 公魚は鹹或は沙魚と同様近海半鹹性魚にして本縣近海に多く産し五月頃体長約四糎となれば夜間河川を遡上し翌年一月乃至三月、十糎及び三十三糎となりて深さ約五六尺の水中にある藻類に産卵する魚類にして卵は其径約一耗あり分離粘着性を有し其の數一尾につき約二千粒程なり産後凡そ三週間にして孵化す稚魚は六耗あり十日間にして臍囊を吸了の後暫時にして海に下り満一年にして成熟するものなるが近海の漁夫夜間曳網を以て之を捕獲するを例とす

▽有望の事業 公魚人工孵化は頗る有望の事業と認められ近來盛んに行はれ居るが就中茨城縣下霞ヶ浦の孵化場は最も盛大にして年々多大の漁獲を挙げつゝあり之に次は島根縣下の宍道湖にして之又霞ヶ浦に劣らざる好成绩なり近江の琵琶湖に於て大正三年四月霞ヶ浦と宍道湖の親魚より六百八十萬の卵を採卵移殖せるが日尚浅き為未だ著しき成績をみず元來同魚は半鹹魚なる為め霞ヶ浦の如き一部海水と連絡ある湖水は最も適す此点より見る時は小河原湖は最も理想的なりと云ふ

▽昨今の状況 小河原湖公魚産卵状況は目下鶴ヶ崎以南は全部氷結しあるも薄氷なる為氷下採捕不可能の状態にあり船ヶ澤漁業組合地先に於ては日々若干の漁獲あるが魚体は一般に大形なれども未だ肥満し居らず孕卵粒も小形にして稀に成熟期に近きものを見るも卵粒分離の域に達し居らざれば産卵期は三月十五六日の頃ならん毎年の例に依るも彼岸中日（三月廿一、二日）以後四月上旬の間は最も旺盛なれば本年も其頃盛期となるべし故に縣に於ては三月十四五日頃より採卵を開始する豫定にてすでに着手せり

大正六年二月四日

●東郡石崎たより

◎鱈其他豊漁 本年は一般に魚族の群來多く中にも鱈の如き數年來稀有の豊漁にて石崎澤，彌藏釜，元宇田の三部落を通して壹萬圓以上の漁獲ありたれば多少の活氣を表し來れるが如し目下鱈其他の漁期に入りしことゝて何れも繁忙を極め居れり

◎納税の成績 石崎澤，彌藏釜，元宇田の三部落とも去る大正四年以來納税組合を組織し各役員及組合員の熱心によりて國縣税は申すに及ばず村税に至るまで一の滞納者なく昨年度に於て既に成績優良の廉を以て表彰せられたる程にて本年度も三組合とも既に村税全部を何れも納期限數日前に完納し成績頗る良好なりと由来納税の不成績を以て有名なりし平館村も近き將來に於て模範村を以て稱せらるゝに至るべく地方の為將國家の為に大いに喜ぶべき現象なり

◎補習教育 學校と青年團と協力して之を実施し居れるが本年も又石崎澤及び石崎小學校の二ヶ所に於て夜學を開始し石崎は全地青年團事務所を教室にし生徒は主として全所の青年團員講師は石崎小學校訓導最上竹太郎氏學科は修身國語珠算とし何れも熱心に勉強しつゝあり又一方石崎小學校には主として元宇田青年團員及全所少年團員生徒となり講師は齋藤校長之が任に當たり最上團長及び最上（三太郎）副團長の兩氏熱心に生徒及び教室取締の任に當たり学科は修身國語算術及び水産とし他に毎週水土の兩日演説の練習及び全校長の課外講演あり何れも熱心にして成績頗る良好なる由にて來る三月上旬終了すべく尚修了者には證明書を優良者には賞品を授与すべき豫定なりと

◎立太子禮紀念 昨秋を以て行はせ給ひし立太子の大禮を永遠に紀念すべく石崎澤，彌藏釜，元宇田の三部落にては石崎小學校へ夫々紀念品を寄贈する筈にて昨年十二月東京三越呉服店へ注文中なりしが今回愈出來送付し來たりたる由なれば近く寄贈式を舉行する由

◎元宇田青年團 既報の如く全團にては今回新たに事務所を建築したれば從來の面目を一新し本年舊正月の如き團員は申に及ばず在郷軍人其他中年輩に至る迄元旦早々事務所に集まり演説の練習奨励其他の娛樂新聞雜誌の縦覽に余念なく最も有益に休日を送りし由左なきだに尚一部落を擧げての日蓮宗にて最上武藏氏初め中年輩は勿論少年少女に至るまで信心深きことゝて風紀最もよろしく真に模範とすべき所なりと尚同團にては娛樂遊戲運動用具文庫の設備等本年度は非常の活動を為す筈にて團長最上清兵衛氏及副團長最上三太郎理事柳谷松藏最上松之助其他の役員諸氏には熱心に盡力しつゝありと

◎同心會 元宇田に於ける在郷軍人柳谷常藏最上紋二郎最上定二郎濱田兼吉特別團員最上武藏其他の中年諸氏には表題の如き團體を組織し主として地方産業の發展及地方の改良を計るべく尚ほ郷土の研究を為し一は以て青年團の指導者となり一つは以て各自の修養と為し大いに地方發展に資する筈にて近く發表するに至るべきも政治及村治等に絶對無關係なれば戸主は勿論戸主の任務に當たるものは何人と雖加入を許さざる由

大正六年二月六日

●發動汽船奨励

遠洋漁業奨励の必要は政府に於ても之を認め數年以前より漁獲物処理運搬業，漁船奨励金及

び漁業奨励金を下付して其の發達を図り來たれる結果漸次斯界の向上發展を促し本縣の如きも該奨励金を受くるもの年々多きを加へ明治四十四年青森冷蔵汽船株式會社の善知鳥丸の建造資金を筆頭とし八戸、湊、鮫の當業者は何れも發動汽船を建造して建造資金の交付を受けたる者殆と三十艘に及ぶ他府縣に於ても同様な趨勢を示し來たるに農商務省に於ては年々同額の予算を計上し來たれる為自然割當額減少し其結果自然補助奨励の範圍を縮小するの止む無きに至り一昨年よりは漁獲物処理運搬業及び打瀬網漁業奨励を廢し更に割當金額を一層減額することゝなれり故に折角進展の機運を示せる本縣發動機船建造も昨年の如きは僅かに四隻前年度の半数に止まるに至れり茲に於て縣水産會にては縣當局に陳情し當局も又其の必要を認めて明年度豫算に奨励金六百圓を計上せるが其の下付の方法は如何にすべきか或は交付規程を設くるか單に内規に止め置く方針なるやも今の所不明なり何分にも切締めたる予算なれば當業者をして徒に競争せしむる弊を醸す恐れあれば内規に止置く事とならん何れにせよ多少に拘らず奨励金の計上せられたるは漁業會の為に慶すべき事なり

●川村知事下北訪問

二月二日午前十時青森解纜の北洋丸に便乗の川村知事には、小山田主事を随ひ門田郡長の案内にて午後二時要港部着直ちに土屋司令官を本部に訪問し同三時同部を辞し人櫓にて鈴木警察署長の前駆にて主事郡長等を随へられ四時半田名部鍵本旅館に入れり入浴休憩の上六時松や亭の歓迎會に臨まる會する者郡役所員を初め各官公衙長縣郡町村田名部大湊各議員及び市内の重なる有志にて大湊よりは野村郵便局木山郡議以下七名森郡會議長大畑より馳せ参じたり配膳了るや菊池田名部町長は主人側を代表して

川村知事閣下御赴任勿々の折柄大湊要港部御訪問より茲に當町下に御宿泊あらせたるは我が町の光榮として深く敬意を表する処也親しく閣下の警咳に接すること実に今夕を以て初めとするも令聞は夙に拝承して深く欽仰に堪えざる処也閣下當地方は親しく御覽の通り地勢上他と隔絶し交通便を欠きて世間日新の空氣に觸るゝ事遅くして何事も一步を他に□するものあるは常に遺憾とする処勿論地方の進展は其の土地人民の發奮努力の遺憾に存すべきを以て吾人努力の足らざるものたるは勿論なるべしと雖今後何卒閣下の御指導と御鞭撻とを切に希望する次第也我が地方の産業としては主要なるは水産次に林業牧畜農業等にして又近来著しく發展せる鉱山事業は勿論殊に地方の二大問題として數年以前より懸案たる大湊鐵道と大湊開港とは實に大いに地方の浮沈に関するもの幸いにして鐵道は政府が客歲より起工せられ近く數年間に竣工せらるべきも開港は之が準備の完成までには幾多の歳月を借すを要すべく自今之が準備に汲々しあるを以て特に閣下の御高慮を煩し御尽瘁を希ふ次第也今夕は御着否や御疲労も厭はせられず吾々一同の懇請を許容せられ茲に御光臨を辱ふしたるは洵に感謝に堪へざる処にして甚だ粗宴何等の設けなきも一同の誠意を諒とせられ緩々御過ごしあらん事を冀ふ終わりに臨み累ねて閣下に敬意を表し御健康を祝す云々

川村知事は之に対し丁寧なる挨拶あり其の土地の發展如何は先づ地方民の發奮努力を要すべきは勿論にして當局者又援助を與ふるに吝ならずとて自力と他力とに就きての必要に就きて述べ開港の如き事重大なるを以て非常なる努力を希望すとて夫れより獻蓋數巡鐵道開港等意見の

交換あり松屋亭新築開業以來の大盛宴にして遠かの大広間も実に狹隘を感じたり翌三日前九時過ぎ知事には警察署郡役所を巡視し十時半北洋丸に便乗帰青し河野県議も有志者を代表して青森まで見送られたり

大正六年二月九日

●漁業奨励金下付

政府は遠洋漁業奨励のため遠洋漁業の目的を持って建造せる發動機船に奨励金を交付しつゝある事は既報の如くなるが左記五艘の發動汽船は何れも漁業奨励法により建造資金を下付せられたるものなるが今回更に同法に拠る鱻延縄及び刺網漁業奨励金を下付せらる事となれり同船は何れも鮫鼻より金華山沖合いに於て漁業に従事せるものにして奨励金額は一噸に就き金八円の割合なり

度運丸（十三噸）大下福太郎△光栄丸（十四噸）米川篤松△大禮丸（十七噸）長谷春松△第三幸運丸（十六噸）長谷春松△常福丸（全）大下末吉

大正六年二月十日

●帝國水産聯合大會

（第一日目）

朝鮮、樺太、台湾、関東州各府県水産に関する団体になる水産聯合第二回大會は二月七日より東京市赤坂溜地町三會堂樓上に於て開會せり午前十時半牧理事長登壇して開會を告げ昨年第一回に於て選挙せられたる愛媛県委員より各提出となりたる数多の問題に就き主務省を始め貴衆兩院其他各關係官庁に向て取運びを為したる経過より収支決算等漏れなく詳述す午後よりは今回各府県聯合會又は組合より提出せし各提出議題に就き先づ千葉県安房郡水産組合正木正一郎氏より順次提出題の説明をなせり午後二時仲小路農商務大臣臨場一場の口演あり夫より再び各提出の説明を了りて牧理事長より一通り提題の説明を終はりたるを以て各府県より一人つゝの委員を選出して調査し九日報告する事に満場異議なく決す茲に鶴見水産（新）局長登壇して一場の所感希望を演せられ午後四時廿分第一日の會を了はる出席者八十六名

青森県よりの出席者中村試験場長（技師）松森水産會幹事、東郡野内村熊谷勘兵衛、菊池下北郡水産組合書記等

又青森県水産會提出議題は

一、鮮魚輸送に関する件（以下理由説明略す）

一、専売塩特別定価売渡及び交付金下付規則第一条第一項第六号に鰯を追加の件

下北郡水産組合提出題は

一、水産教育の普及を図る為師範學校に水産科を特設する事

一、水産銀行設立に関する件

青森県調査委員に松森氏挙げらる

大正六年二月十九日

●東郡宇鐵たより

□夜学閉会式 宇鐵青年団にては昨年十月十六日より約四ヶ月間漁期の閑散を機として夜學會を開催せるが二月五日閉会式を挙行せり当夜は講師鳴海校長澤山訓導始め田中村會議員柳谷団長柏谷幹事の有益なる演説ありて会員には煎餅の馳走をなし無事閉会式を挙げらる尚左の会員七名は最も熱心に通学勉強せる廉にて受賞の榮を担へり

田中駒太郎 田中重五郎 三浦口臧 田中伊一郎 笹谷清一郎 水島石太郎 大宮石太郎

□青年俱樂部 元宇鐵青年団にては青年會員の集会所なき為多年其の建築に意を悩まし居りしが今回広壯なる二階建ての建築物を建つることになり近々落成を見るべく工事を急がせつゝあり落成後は青年の集会所と為す他倉庫にも利用することゝなるべし

□校旗及オルガンの寄付 大正五年度は当地未曾有の豊漁なりし為今回

柳谷慶作、柳谷文蔵、柳谷石松、柳谷倉吉、三浦清太郎

の諸氏及び他村内有志者の芳情にて宇鐵小学校へオルガンを寄付することになり近々到着すべく校旗は柳谷慶治氏の寄贈にて三越呉服店へ注文に内定しそれぞれ其運びに至り居れり

□潜水機 鮑漁潜水機はいよいよ許可になり今春早々着手すべく役員は

主任牧野巳之丈、沖監督牧野貞吉、木村柁吉、製造監督大宮長太郎

の諸氏に当選せりと今春は之が為各村落共に一層活気を呈せん

□父兄会学芸会 宇鐵小学校にては去る二月六日父兄会兼学芸会を開催せるが当日は所謂小正月なりし為夫人等の来会する者多数にて二百余名の来会者あり職員一同は大いに満足し居れり尚近々新オルガン披露の為唱歌會を開催すべき模様なり

大正六年二月二十七日

東北銘産出品予選

會議所に見本陳列

三越呉服店楼上に於て開催せらるべき東北振興會主催東北銘産品陳列會出品物選定打合せの為三越呉服店参事豊泉益三氏三月七日來県の筈なれば其際出品豫定品の見本を取纏め同氏の意見を徴する事となれり

△會議所に陳列 見本は三月六日迄に青森及び弘前両商業會議所に収集する筈なるが青森に収集すべきは南部三戸郡及び東郡と青森市の分にして弘前市及び其他の津軽四郡は弘前商業會議所に取纏むる事となれり出品物には何れも陳列會見本と表記を要す尚見本品には出品者住所氏名物品名称売価等を区別し飲食品中一定の容器包装なきものは何れも今後陳列會出品の場合と同一に調整する筈なり

△批評聴取 見本出品者其他の當業者は三月七日可成立会の上出品物に就き説明し且豊泉参事の批評を親しく聴取し将来の参考たらしむるは今回の陳列會に裨益する処あるのみならず今後の改良上に資する処大なるべし為に県庁に於ては当日出品者の立会の促す方針なり尚又見本は風味用に供し或は県庁内物産陳列棚に收容する事となるべきを以て返送を要するものは特に其

旨明記を要すべしと

△出品種目 出品種目見本品の送料は出品者の負担にして其出品種目は左の如し

△織物類（編、組物を含む）綿織物、麻織物、交織物、靴下△漆器△蔓細工△金物△木工品
△玩具（遊戯具を含む）△洋酒△清酒△醤油△菓子（八戸の南部煎餅五戸の俵飴を含む）△
罐詰△水産製造物（貝柱、鰯、干鮑、海參、鱈焼干、鱈煮干、海丹、塩辛、昆布）△澱粉△
麵類△干菊△林檎

●表彰助成金下付

去る十一日の紀元節を機として内務省は教育、慈善、産業其他各般の事業に関し成績優
良者を表彰せるが其内本縣にありては在八戸私立東奥盲人會及び在弘前東北育児院も左記の如
く表彰せらるゝと共に育児院は百三十円教訓會は五十円の助成金を下付せらる

救済の事に関し従来尽力する処から今後尚一層の効果を収めんことを望む依つて茲に助
成金を下付す

大正六年二月二十八日

●遠洋漁船奨励金

遠洋漁業奨励法に依り大正六年度に於て漁船奨励金を下付すべき本縣下出願船の合計は噸数
三十噸馬力四十馬力に限定配当されたる由なれば左の要項に依り出願すべし但し漁獲物処理運
搬船は右奨励金下付にならず

△奨励金は一噸に就き十九円以内馬力一馬力に就き十一円以内△漁船は大正七年二月末日迄
に必ず竣工すべきものに限る三日以降の竣工期限の延期は一切之を許可せず△出願は遅くも
六月三十日までに郡市役所より報告を了するを要す

因に出願者は成るべく早く左の項目を申立つべし

住所氏名△船主及船名△総噸数△総馬力△起工並びに竣工年月日△船体並びに機関製造者氏
名又は名称

●漁業組合資金供給 大正六年度に於て漁業組合に対し低利資金の供給をなす由なれば希望
組合は郡市役所に申し出つべく郡市役所にて三月十五日を以て締切り以後は絶対に許可せざる
由なれば注意すべし因に資金借受けに関し県の認可を受くるも組合員中にて債務を保証せざる
限りは農工銀行に於て容易に貸付せざる趣なり

●北海博覧会と出品 来年八月を期し北海道に於て開かるべき開道五十年記念博覧会に対す
る参考品勧誘方に就いては内務部長より各郡市長に移牒せるが由来北海道は本縣物産の最高華
客たるの關係を有するを以て此の機会を逸せず多数出品紹介に努むべく販路拡張上最も適切なる
措置なるべし

●舢人夫と簡易保険 去月二十四日市内淡谷回送店の大舢に乗りて難破し海中に転落したる
まゝ行方不明となりたる舢人夫勝野五三郎は元郵船合資會社の人夫にて簡易保険に加入し居り
しが死亡後調査したるに五三郎とは通称にて戸籍面の名と異なる為保険金二十九円を受け取
る能はず遺族は困惑し居るよしなるが加入者たるに相違なきを以て青森郵便局にては目下本局

と打合中なりと

大正六年三月一日

●昨日の勸業主任会

昨日も引続き県参事会室に於て各郡市勸業主任会開催せられたるが午前は林野に関する指示事項を協議午後は再び東北銘産品評会に関する協議を為し午後四時豫定の事項協議終了し閉会せり指示事項左の如し

△東北銘産品陳列会に関する件

- 一、出品願書出品目録用紙は当庁より交付す
- 二、出品物の陳列販売は三越店之を取扱ふ
- 三、出品物の容器包装は体裁の如何に依て売行に影響する事尠からざるに就き十分研究を要す
- 四、出品物は小売を主とするものなれば其の販売を容易ならしむるを例えば鱈焼干、全煮干、貝柱の如きものは百匁或は一斤の袋入とするが如き又林檎は十斤廿斤の箱入其他籠入網入等とするが如く夫々考案を要すへし
- 五、従来取引紹介すへき資格ある商工業者調べは慎重なる調査を要すへし
- 六、開会中一枚刷の出品説明及小冊子の出品案内を印刷して観覧者其他に配布する筈
- 七、當業者の視察には一名二十円以内の手当を給すと雖も十人内外に過ぎざるを以て夫れ以外にも手当なくも上京して売行状況批評等を観察するは頗る有益なるへきを以て可成状況視察する様勧誘せられたし
- 八、規程中の期日其他諸照会の期日は厳守せらるゝこと

△染織伝習に関する件 省略

△馬産に供用せむとする国有林野に関する件 省略

△馬匹去勢実施に関する件 省略

△北海道博覧会に関する件

北海道開道五十年記念博覧会は大正七年八月一日より五十日間開催に決し参考品出品勧誘の依頼に接したり同道は本縣物産最大顧客にして而も全国各府県共茲に販路を拡張すべく競ふの時にして殊に此の博覧会を利用し一層之に努べきは推測に難からざるなり本縣に於ては更に輸出量を増加し且新たに供給し得べき物資尠からざるべきを以て此の好機を逸せず當業者当局者一致協力して多数出品を為或は相当施設を以て本縣物産の紹介広告の副策を立て最良の方法を講じ苟も人後に落ちざらんことを期せざるへからざるを以て機会ある毎に當業者を督励せられたし尚紹介中の出品物点数人員は種々計画の資料と為すへきものなれば十分調査研究の上回報せられたし

△漁業組合低利資金に関する件

本資金は大正三年以来配当を受け居るも縣下漁業組合の成績見るへきものなく又信用確實ならず未た之が貸付を受けたるもの無かりしか本年度に於て初めて金五千元配当を受けたる中二千五百円は東津軽郡宇鐵漁業組合共同販売事業資金貸付し残り二千五百円は北津軽郡小泊村漁

業組合に貸付せんとし目下農工銀行と協議中なり然るに本資金は従来主に共同販売事業資金としてのみ貸付せるの有様なりしが今回遠洋漁船建造資金に対しても又貸付することを得るに至りたるを以て県は本年度に於て更に壹万円の増額配当を受け目下下北郡大間漁業組合に対し遠洋漁船三隻建造資金として貸付の交渉中なり右は漁船改良と共に漁業組合の発展に資し尠からざる効果あるを以て一層組合の整理改善を図り本資金の恩典に浴せしめられんことを望む

△遠洋漁船建造費補助に関する件

遠洋漁業の発展を図る為県は大正六年度予算に於て金六百円を計上し該漁船の建造資金に補助せむとす然るに其の金額僅少にして一般の希望に應ずること能はざるは甚た遺憾とする処なるも今後尚引続き計上し漸次其の額を増加せむとす而して本資金は斯業の奨励発達を図る上に最も適當と認めたるものを選定し一隻貳百円つゝ三隻分を補助せむとするものにして其の選定に就いては別に規程を設けざるも追って各都市に照会し其の意見を求めむとす各位此の意を諒し一層の奨励を加へられんことを望む

●青森湾内の諸調査

▽白鷗丸の活動

本縣水産試験場所属白鷗丸は青森湾内打瀬網試験海底状態調査及び海洋観測等重要任務に服する為去る二十二日午前三戸郡湊港を出帆尻屋崎を迂回して二十四日夜着港せり同船は天候回復次第今日にも出動し得るやう準備完成し居るか先づ以て平館方面の打瀬網試験に従事する筈にして同網に老練なる秋田県人宮崎菊蔵を雇入れ居れり船長は平岡福次郎にして機関長以下乗組員七名辻水産技手監督として乗船の筈なり

●臘朧四頭拾得

△十五年間の禁漁獣

大正五年中本縣下に於て臘朧を拾得せるは西郡大戸瀬村箱田船吉他左記三名なるが同獣は近來乱獲の結果漁獲数年々減少し其俟に放任する時は遂に資源を幻滅するの恐れあるを以て繁殖保護のため日英米露四か国聯合協議の上明治四十四年十二月より十五か年間禁漁せるものなり為に故意に捕獲すること能はされとも何等かの原因により死して漂流しつゝあるものに限り拾得差支なき事となり居るなり爾來数年間全く拾得なかりしが一昨年に至り西海岸に於て四頭の拾得ありと言へば漸次繁殖し居るものと見て差支なからむ

西郡十三村日雇業豊島勘太郎△同本庄安五郎△同豊島口太郎

大正六年三月三日

●白鷗丸の試漁

▽風波激しく遂に失敗

水産試験場所属石油発動機船白鷗丸は既報の如く打瀬網及び海洋調査海底調査等の重要任務に服すべく当湾内に回航し新棧橋沖合に投錨し居るが一昨日第一回打瀬網試験を為せり同日は朝來風強くして作業困難なる上波浪激しくして出漁に適せざりしも折角準備を整えたる事なれば漁不漁に関係なく出漁せり

△見事に失敗 午前九時出動蟹田方面に進路を定め進行したれども風波益々激しくして同方面は全く絶望なるを確かめたれば引き返して大島付近に航行し絶好の投網個所を撰索せるも何分夏泊崎以北なりしを以て波高くして投網不可能なる為野内沖合に退却せり午後一時風浪の風たる機会を見計らひ漸く投網し第一回の魚漁を試みたるに鰈数枚火魚数尾を得たるのみにて全く失敗に終れり此場合も普通ならば投網し得ざる程風雨は烈しく然も投網の場所は最初より思はしからざる地点なりしも網を濡らさずに帰港するは遺憾なるより失敗を予期せるなりと

△打瀬網の構造 打瀬網はもと手繰網より進化せるものにして大体の形状手繰網と異ならされども網を海底に投入し引曳するものなれば海底に潜在する魚は種類を擇はす漁し得るものにしてトロールの規模小にして設備の極めて簡短なるものと見て可なり漁場は固より定まりなしと雖海底平坦なる処を擇び海藻茂生せる処をよしとす漁期は一定し居らす殆ど年中不可なきも青森湾内に於ては春より秋にかけて最も適し魚族は鱧、烏賊、鰈、火魚を多とし網を引曳すること里餘にして左右の曳網を手繰り網を挙げ入れる魚を捕獲するものなり

大正六年三月四日

●海産物保護

△海鼠禁漁期に入る

海鼠は本月一日より六月三十日迄四カ月間禁漁となり居れば此の期間に於ては絶対に採捕する事を許さざるのみならず禁漁を犯して採捕したる海鼠及び其製品は之を所持又は販売することを得ず若し以上の事実が発覚する場合は漁業取締規則違犯として五十円以上の罰金に処せらるゝ訳也

▲市場に散見 海鼠は鮑と共に本縣の重要海産物にして或る意味に於て代表的海産物なるに拘らず乱獲の弊風は今尚矯正されず往々市場に散見する事あるが此等は如何に弁解するも禁漁を犯せるものなるは明らかなり之或は禁漁の意義徹底せず又禁漁を犯すものゝ被る制裁の如何に気付かざるに因る者あらむも中には然らざる者あり漁業取締規則に触るゝ事を知り乍ら巧みに法網を潜りて採捕する者無きに非ず此らは実に目前の小利に幻惑するの結果共同永遠の利益を無視せる者にして最も排斥すべき行為なり

▲魚族の保護 謂ふ迄もなく禁漁は魚族の繁殖を保護する為に制定せられたるものにして北寄介は五月一日より十一月二十日迄帆立貝は二月一日より四月三十日迄また鮑は八月一日より十一月三十日までと夫々規程され居るが之を犯す者は取りも直さず其繁殖を妨害し延いて魚族の減滅を誘致するに至るものなれば當業者は相戒めて禁漁を犯さざる様注意するは廳て永久的の利益を保護する所以なり鮑海鼠は独り本縣の重要海産物なるのみならずまた本邦の海外輸出品なれば禁漁を犯すは畜に産業に影響を及ぼすのみならず広き意味に於て国産の発達を阻害するものなれば此点より見るも心得違ひ無き様注意すべきなり

●共進会褒賞伝達式

山形市に開かれたる奥羽六県共進会受賞者に対する褒賞伝達式は予報の如く昨日午後二時三十分より市会議事堂に於て挙行せり来賓は熊澤市会議員及新聞記者の臨席ありしのみ受賞者又

淡谷文作氏他八名にて阿部市長より左の如く褒賞を伝達せり

一等淡谷文作△二等近藤善吉、小館善兵衛、高松藤吉△三等千歳新吉、田村治郎兵衛、花田善吉△四等十五名

阿部市長より一場の希望ありて淡谷文作氏受賞者を代表して答辞を朗読し別室に於て茶菓饗応あり四時解散

大正六年三月十日

●港内漁場発見

過般来暴風雪を冒し打瀬網漁場及び海底調査に従事し居れる水産試験場所属石油発動機船白鷗丸は一昨日遂に有望なる漁場を発見せり同船は去る七日午前八時出動港内を彼方此方と漁場の探索中同日夜中より翌日午前十時の間に比目魚、はうぼう、火魚の漁場を発見直ちに打瀬網を投入し三種を合して約六十貫を捕獲して引上げ同日午後市内水産業者に払下げを為せりと尤も比目魚は一貫目四十銭ハウバウ火魚は六十銭程度の相場なりと云ふ

大正六年三月十一日

●艇遭難と取締

△県令発布の必要

当地の艇業者は郵船、田村、磯野、鈴木、淡谷其の他等にして各自協定して艇賃を定め警察署の許可を受けあるも、競争上動もすれば此の協定艇賃を破毀蹂躪して顧みざる如き事あり為に賃率動揺して入港船舶に不安の念を興ふることなきにしもあらず斯の如き次第なれば往々當業者相互間の一致融和を欠き業務の発展向上等は思ひも寄らず殊に港内の設備不完全なるに加へ多数の艇船の中には殆ど用に堪へざる古船もありて勢ひ難破の危険に遭遇する度数甚だ多き訳なるが斯かる場合に艇を保護すべき小蒸汽船を有せざるを以て青函青室用航路は格別として所謂社外船にありては、当港に来るも荷役に不便を感ずる事少なからず従って本港を一種の危険地なりとして寄港を好まざる風あり青森全体より見るも將た當業者個人より言ふも不利益少なからざるのみならず之が為各自業務の発展、艇の保護は元より延ひて貴重なる人名の安全を期する能はざるが如きは遺憾至極なれば此の際県令を発して艇業取締法を制定し相当の艇数を有せざる者若しくは小蒸汽船を有せざる者には艇業を許可せざることとし以て徒爾なる競争を防止して確固たる當業者の発展を促し港湾交通の用具たる艇業の完備を図り荷役の安全敏活を期せざるべからずと某當業者は語れり

●本市の海産

△製造品共九萬圓

本市は内湾を控へ棲息する魚介の種類も少なからず現に水産試験場の白鷗丸の活動もあるが漁業者に於ても相馬町蜆貝町を通して漸次増加の傾向あり昨年中の漁獲物は

真鯛	一〇、〇一〇圓	背黒鰻	五、〇〇五圓
鯖	五、〇一七	鱈	五、一〇〇

小鮫	三〇〇	鯛	三二〇
鯉	二、一〇〇	鰈	四、〇〇五
鱧	五〇	あぶらめ	二〇二
そい	二二七	鮫鱈	一一〇
火魚	五〇〇	公魚	一五〇
大羽鰻	五、〇〇〇	ぐづ	二五〇
鳥貝	五、〇〇〇	赤皿	二〇〇
ほや	三五〇	一番柔魚	一〇〇
蛸	一〇〇	海鼠	三三〇
蟹	二二五		

総額四萬四千六百五十一圓に達し決して少なからざる産額なりとす而して製造品に於ても近來斯業に着目するもの漸く多く其の製出額も従て増加し優良品も見つゝあるが昨年中に於ては水産額と畧同額に達し四萬四千二百五十九圓を算せり内訳左の如し

(活字不判読の為省略)

●官鹽漸く入荷

△醸造業者に福音

青森出張所にて官鹽払底を告げ目下醬油味噌醸造期なれば仕込み用三等鹽の払底は當業者に与ふる打撃少なからず為に同出張所にて暫々出荷先と打合せの結果香川県坂出専売支局を出帆せし太平丸は去る四日

△出雲沖にて遭難 積荷全部海水に配解し了れり同船は元來ならば八日青森着の筈なりしも遭難の結果三等鹽八十斤呎二十一萬六千四百斤五等鹽八十斤呎二十八萬斤を失ひたるが一方二月十七日三田尻を出帆せる補助機関付帆船高松丸は東廻りにて一昨日午後十一時四十分漸く青森港に着し昨日中に荷役終了したれば之にて縣下の當業者はホット一息せるならん

△高松丸の積荷 は青森揚三等鹽八十斤呎二千三百俵八戸揚三等鹽八十斤呎七百八十俵三等鹽四十斤八十俵五等鹽八十斤呎百四十俵にして未だ需要に対し不足なれ共近く弦越丸三田尻鹽を掲載して本市に向け出発せる由なり

大正六年三月二十日

●鰺大敷網布設交渉

本縣西海岸は鰺漁甚だ有望なれとも従來僅かに鰺大謀網を使用して群鰺の一小部分より捕漁出来ざる状態なれば県に於ては事業を根本的に改善拡張する方針を採り中村水産技師出張して調査せるか其結果専門大敷網布設個所二三ヶ所を選定し貴族院議員日高栄三郎氏に対し布設方の交渉を開始せり

●東海岸の漁況

昨年七月より十月に至る遠洋漁業奨励法による補助漁船の鰹漁は潮流の関係上未曾有の大失敗に了わり従業者は殆ど資金の入損に終わりたる有様なりしが其後十一月に至り鱸延縄に着手

以来幸ひにして豊漁を続け鯉漁に於て被れる損害の七八分まで挽回し得たる程の好成績を収めたり続いて一月以降目抜鯛延縄を開始せるが之又豊漁にして現在一航海一艘に付き二百圓内外の成績を挙げ居れる為其漁獲高は八戸町地方の需要を満たしたる上多額の移出をなし居る状況なるを以て之が為東海岸一帯の漁村経済状態は聊か緩和され得たりと言ふ

●蒲鉾講習状況

湊水産伝習部生徒に対する蒲鉾伝習は去る十一日を以て終了せる為翌十二日より一般業者に対する講習を開催せるに十名の募集に対し十八名の応募者ありしを以て全部を收容し原料に目抜鯛を使用して講習中なり

大正六年三月二十三日

●水産協議会

来る四月十三日より二十日迄農商務に於て地方水産事務に関し協議会開催せらるべきを以て本縣よりは中村水産試験場長出席の予定なるが協議事項左の如し

△各県に於て水産業発展上不便又は障碍と認むべき事項及び之を矯正又は除去する方法若しくは新たに施設を要すべき事項に関する件△水産試験場又は水産講習所に於て大正五年度に施行せる試験調査事項中主要なるものに付き其の経過及び成績を報告する件△大正六年度に於ける漁業連絡試験に関する件△沖合漁船五噸以上二十噸未満程度の漁船の構造及び艤装に関し一般に検査を施行するの要否及び必要ありとせば其实行方法に関する件△欧米向輸出水産製品を増加する方法に関する件△□鮭連絡調査に関する件△漁業組合の共有する漁業権の利用及其の監督に関する件△副業の奨励実行に関する件△□知枿の統一に関する件

大正六年三月二十五日

●本縣の鮭漁況

昨年の鮭漁況は各地一般不振なりし為め農商務省水産局にては鮭漁業実況並びに不振の原因調査を命じたる程なるが本縣もその例に漏れざれども他県の如く甚だしき不漁を見ず

△河川漁獲高 昨年の縣下各河川漁獲高は九千八十六貫此の価格七千六百七十六圓にして太平洋方面は平年に比し約二割方乃至三割減なれども上北郡相坂川其の他の河川は殆ど増減なし日本海方面は平年に比し約三割程を減し海峡並びに湾内方面も同様な結果に終れり

河川別	漁獲高	価格
新井田川	四〇七貫	三一三圓
馬渕川	二、七八六	二、三七六
奥入瀬川	四、七八六	三、九二四
岩木川	五〇三	四七六
赤石川	二〇	二〇
笹内川	四三	四〇
追入瀬川	三〇	二四

中村川	五	一〇
十三湖	七五	五六
大川	二〇五	二三三
大畑川	二五	一八
荒川	二〇	二五
清水川	一五	一五
浅瀬石川	一〇	一六
平川	四〇	三五

△沿海漁村漁獲 沿海漁村に於ける漁獲高は四萬三千三百六十五貫三萬九千二百八十二圓にして太平洋方面は一昨年比し大豊漁なれども平年に比する時は稍々劣り日本海方面は一昨年比し一割七分平年に比し二割半餘を減じたり

郡別	漁獲高	価額
三戸沿岸	三四、四五〇貫	三二、九六〇圓
上北郡全	三、八〇〇	二、八五〇
西郡全	一、七五〇	一、二四四
下北郡全	三、三六五	二、二二八
計	四二、三六五	三九、二八二

△増減の原因 昨年は一般降雨少なきを以て鮭の遡上を困難ならしめ却って沿岸に於ける地曳網建網等に漁獲せらるゝの傾向ありたり太平洋沿岸が比較的良好の成績を得たるは水産試験場相坂孵化場の効果に因るもの多きが如し産額の逐年減少の傾向あるは魚付林及び水源涵養林の觀念に乏しき為山林伐採を猥にせるにより河川の氾濫涸濁及び涸渴等を來し遡上魚の遡上を減少せしめたるに因る殊に下北郡川内付近は近年銅及び硫黄鉱山の發展と共に鮭の遡上皆無となれる為なり

大正六年三月二十八日

●漁業低利資金額

農商務省水産局より大正六年度に於て本縣下漁業組合に対し調査を命じたる各漁業組合に就き調査の上夫々需要額を査定左記の如く申請せり

三戸郡階上村小舟渡漁業組合共同販売資金五千圓△東郡蟹田村蟹田漁業組合鱸卷網新調費一千圓△同郡奥内村奥内漁業組合同六百圓△同郡東平内村清水川漁業組合鱸流網新調費三百圓△同口広漁業組合同二百圓△同狩場沢漁業組合同三百圓

右金額は更に水産局に於て調査し予算との関係をも斟酌して供給するものなれば申請額全額を供給せらるゝや否やは不明なり

●蟹田沖難破船

▽小廻船五艘

東郡蟹田村大字蟹田一番戸山内勝三所有小廻船和合丸百十石は去る二十日蟹田より約八十間

沖合に停泊中暴風雨激浪の為に船体破損△同村大字同百六番戸山内友彌所有小廻船稻荷丸百二十石は同村沖合約七十間の個所に停泊中激浪の為に船体損壊損害百圓△同村大字同五十四番地吉田駒五郎所有小廻船宝久丸五十石は同村沖合約八十間の個所に於て同日激浪の為に船体破損△同村大字同八十五番戸越田清助所有小廻船栄徳丸百二十石は同日同村沖合約七十間の個所に停泊中同様暴風の為に船体破損修理の見込みなし△青森市大字舘貝番戸不詳中村兼吉所有小廻船壽長丸百三十石は蟹田百五十間の沖合に於て激浪の為に船体全く破壊せられ修繕使用の見込みなし損害八百五十圓

●鹽鯨輸送準備

▽運送組合の請願

昨今北海鯨の輸送期に際し青森運輸事務所にて夫々準備中なるが従来当地方より東京方面へ輸送する鹽鯨及び身欠鯨は多く上野駅へ送り三四月合計にて大抵三四百噸に達するを例とせるが昨年より上野駅に於ては二級品たる鹽鯨の到着取扱を為さざることに改正したるも若し之を秋葉原へ送ることゝせば同駅は毎日門限ありて夜間到着の際は荷主に於て翌日迄受取を延期せざるべからずして商機を失する恐れあるを以て青森運送業者一同は三月二十五日より五月まで鹽鯨及び身欠に対し上野着貸切特約運賃を設定せんことを請願したるが現に鹽鯨に対しては同様の特約あるを以て本請願も多分聴許せらるゝならんと

●出稼漁夫輸送田村扱の第一高運丸は米雜貨五百個漁夫二百名を積み一昨日海馬島に向け出帆△同扱の第二勢至丸は米雜貨取合三百個漁夫百八十名を積み昨日樺太西海岸行△同扱の留萌丸は米雜貨六百個漁夫百五十名を積み本日樺太西海岸各漁場行

●輸出入貨物堀谷扱の振洋丸はメ粕雜穀取合九百個を積み昨日函館より入港米千七百俵を積み全夜函館行△全扱の笠井丸はメ粕雜穀取合八百五十俵を積み昨日函館より入港米味噌取合九百五十個積み全夜函館行

大正六年三月二十九日

●湊伝習部卒業式

水産試験場湊伝習部第七回卒業証書授与式並びに同所に於て開催の第六回蒲鉾製造修得証書授与式は二十七日午前十時より同所に於て挙行来賓は南部子爵首め

玉井八戸徒弟学校校長広瀬巡查部長榎本鮫山浦湊村小中野両村長湊村助役今湊山口小中野両小学校長長谷川慶治郎神田重雄和田清吉石橋安吉米川松口駒井庄三郎橋本重三郎浪打石丸岩岡寛三大下常吉槻館門蔵其他卒業生父兄新聞記者

三拾餘名にして中村水産試験場長は嶋村技手小川書記を従えて来場し定刻中村場長式挙行の旨を宣し卒業生左記七名及左記蒲鉾製造伝習生に対して卒業証書並びに修了證書及び賞状賞品を授与し後告辞として卒業後の覚悟等につきいと懇親なる訓辞を為し夫より来賓南部子爵の祝辞演説在校生と総代鎌田子南祝辞朗読卒業生総代大島兼吾の答辞卒業生父兄を代表して浪打石丸氏の謝辞ありて午前十一時二十分式を了り暫時休憩後茶話会を催し生徒製作に斯かる諸製品の饗あり午後十二時半閉会せり

(卒業生) 大島謙吉、永井末雄、細越歳尾、丸山口、三浦徳蔵、加藤和喜蔵、中村政之輔、
(蒲鋒伝習終了生) 長谷正三、長谷川竹四郎、小泉徳次郎、中村壽恵三、平戸秀松、石橋利
喜蔵、檜館兼吉、蔦林専太郎、木村賢次郎、渡伝三郎、田中松三郎、八代良三、中村友三郎、
森信、梅村三太郎 (以上)

因に卒業生七名中二名は樺太蟹罐詰製造會社へ五名は近く縣下に開始さるゝ鱈油漬製造工場へ
働くべしと

大正六年四月一日

●上北郡横浜村より

▲東海夫人貝大漁 当村あざ浜より上北下北境界境川沖合にかけてシユリ貝密棲し目下引網に
て収漁中なるが三人乗和船にて普通四五圓多きは十二三圓代の収穫を得るものあり製造者は生
貝石油箱一個十六錢煮離身は一貫目三十錢に買込み居たり

大正六年四月二日

●漁業人口調節

△最も必要の問題

本邦漁業振興策として最も重要なるは漁業人口調節なるが我農務當局が頻に推奨しつゝある
副業の如きは漁家当面の生活難を救済する方法としては相当価値あるも水産大局上よりして良
好なる結果を生ずるものならず即ち副業奨励の結果は半漁半農民を増加し現在專業八十萬人に
対し兼業九十三萬人に達し逐年増加の傾向あれば之が漁業上の保護も亦甚だ緊切なるが半漁民
の零細なる漁利を保護せんとせば勢ひ最新漁法の奨励に抵触せざるを得ず汽船トロール漁業汽
船流網漁業汽船の延縄漁業等の優越なる漁法は之を如何にして振興せしむべきか要するに當局
は第一に漁夫累加の重なる事実問題に対して根本の政策を樹立せざる為斯の如き矛盾を來たさ
しむるものなれば産業調査局に於てこの際須らく該問題の解決調査に努むるを要すと某漁業家
は語れり

大正六年四月七日

●潜水夫の養成

田名部町(潜水工業)坪久吉氏は加藤海軍、田逋信、仲小路農相の三大臣に対し潜水夫養成
の議に付左の如き請願書奉呈せり

謹而一書を呈す私儀明治二十八年以来引続き潜水工業に従事罷在候者に有之大正三年十一月
少しく感ずる所有り海軍大臣官房宛欧米各国に於ける潜水工業の調査参考資料御下付を仰き
当時懇篤なる御恩命に接し又同年十一月青島の沈没艦船の引上げ及掃海事業の請負方を出願
せるものに有之候今回斯業が国家経綸上多大の関係あるを信じ左に閣下の御高慮を奉仰候
欧州の大戦乱は既に四歳を閲して尚ほ未だ熄ます其間各国艦船の犠牲に供せられたるもの実
に数千艘此船材価額数十億圓を算すべく莫大なる損失と存せられ候過般新聞紙上に散見すれ

ば米国企業家には一大潜水會社設立の計画あり又我国に於ても中央二三の有力家か海軍工業の画策あり二者共に前掲沈没艦体及貨物の引揚を目的とし進みて海底未発の宝庫を開かんとするに外ならずして実に時勢に適応せる国家的事業と思料仕候

然り而して欧米各国が潜水事業を旺盛ならしむるとせば現今は勿論戦後益々吾国潜水夫を需要すべきは最も容易き事實に候

吾が國人の尤大口なる操作は実に吾國人の特長として常に欧米人の讚嘆する所にして斯業の必要且有望にして将来益々斯業の増大すべきは業已に御高鑑あらせらるゝ義と奉存候只現時の潜水夫の徒多くは無学無能にして思慮の分別を欠き漫然事に当たるを以て水中の操作拙劣にして予期の成果を十分に収め得ざるのみならず往々危害に遭遇して施すに術なく瀕死失命するもの其の例に乏しからず斯業の發展上萬遺憾に堪へざる所に有之候之教養の素地なき最大原因なるを以て今日の場合潜水夫教習所の設立は時勢の要求する最大急務たるを信じ候、永年の経験より來たる抱負に至りては決して人後に落ちずと雖差向き設立費用の出途に困り茲に特別の御補助を蒙り度誠に惓顧に堪へざる次第に候幸に御恩典に浴するを得は乃ち全国潜水業夫は勿論義務教育修了程度の志望者に就き第一潜水機械の構造及び其の使用法第二信号第三沈没船体浮揚離礁爆発並びに河川架橋及び築堤解体の諸工事亦水産動植物の採取繁殖法、定置漁場海底掃整法等適切なる学理と実務とを教習して数ヶ月後、得業證書を授与することゝし尚ほ全国同業者の統一を保ち技術の進歩を図り風紀を維持せん為東京山科礼三並に松田助六の諸氏と図り潜水同業組合を設け亦広く海外の依頼に依じて吾国の精華を發揚し大に國利民福を図ると共に尚ほ進みては海底探鉱の術を研究して益々海国の実を挙げ度夙夜熱望に堪へざる次第に御座候

仰ぎ冀くは閣下前陳海国重要の事業に対し特別補助の御詮議を賜り国家の保護奨励の御恩典に浴し度赤誠の餘僭越を顧みず茲に奉請願候

●本市漁業者増税 青森市にては従来県税雑種税たる漁業税に増加税を賦課せざりしが大正六年度より本税一圓に付七十錢の市税を付加し賦課することゝなりたれば本市の漁業者は新年度より七割増税されたるなりと

大正六年四月十一日

●本縣内の漁船

本縣は海岸線の長さ割合に漁業振るはさるは何人も認むる所なるが其の原因の一つとしては漁船の改良せられざるに依るものと見るべき理由あり而して今最近の調査に基き觀察するに全管を通して動力を備へざる漁船の総数は九千七十六隻にして前年末現在に於ては九千九十七隻なりしを九百八隻の新造買入等あり九百二十九隻の廃用売却等あり差引二十一隻の減少を見たるが右新造船の内には所謂改良船の多くも含有しありと雖五噸若しくは五十石未満の小舟多くして右以上の大型船は新造二隻を合わせ二十九隻に過ぎず而して動力を備ふるものにおいて陸奥内海東郡に属する一隻は蒸気機関設備ある二十噸以下のものにして他は発動機を備ふるもの三戸郡に於て二十噸未満九隻なりしを新造九隻廃用四隻を差引現在十四隻あるのみなり斯の如

く動力を有する改良漁船の少なきは斯業者の資力に乏しきに依るへきも一面よりいへは進取向上の念に薄きにも基くへし而して三戸郡に於ては数年来補助金を与えて之が建造を勸奨したる結果如上の発動機漁船を有するものなるが明年度よりは東郡に於ても奨励金交付の計画ある等各郡か漸く漁船改良に着目し県當局亦改良漁船建造を奨励し近時當業者の奮起心を醸成しつゝあるを見るは喜ぶへき現象といふへし左に各沿海別に漁船の配置を示さん

▽陸奥東海

	前年	新造	廃用	本年
	現在	其他	其他	現在
上北（無動力	六〇七	三七	二二〇	五二四
下北（同	五九三	七〇	一九	六四四
三戸（無動力	八三一	八四	六三	八五
有動力	九	九	四	一四
計	四四一	九三	六七	八六七

▽津軽海峡

下北（無動力	二、六六四	一九〇	一五一	二、六八〇
東郡（同	九三四	一一六	一一〇	九四〇

▽陸奥内海

上北（同	一九三	二〇	三四	一七九
下北（同	五九四	三一	七七	五四八
東郡（無動力	一、一八六	一一二	一五六	一、一四二
有動力	一			一
計	一、一八七	一一二	一五六	一、一四三
青森（無動力	一一三	二	二一	九四

▽陸奥西海

西郡（同	五一四	一〇九	七四	五四九
北郡（同	四八五	三一	五二	四六四

▽其他の河川湖沼

〇（同	四〇二	一〇六	五二	四五六
-----	-----	-----	----	-----

大正六年四月十六日

●本縣の遠洋漁業

本縣漁業の不振なる其の漁船の状況に徴しても明らかなるは曩に本紙の記載せる處の如し而して昨年中遠洋漁業の成績を査察するに鰹釣りを主とするもの三戸郡に於て発動汽船十四隻百七十噸乗組員二百十八人動力なきもの三隻三十六噸従業員二十八人及び青森市に根市氏の発動汽船扇海丸十五噸従業員十人が延縄を主とし漁業するに過ぎず是等は七月より十月に亘りて鰹釣をなし十一十二の両月は鮫沿海より尻屋岬にかけて沖合数里乃至十数里に鰹釣を試み一月よ

り四月頃にかけて目抜鯛漁獲に従事するものにして昨年には三戸郡の遠洋漁業者の総漁獲高鰹五萬三百貫一萬二千八百七十一圓及び鱧五萬二千三百三十三貫一萬六千圓其他目抜鯛等四千貫計三萬二千八百餘圓にして青森市の扇海丸は鱧八百三十六貫三百九十八圓の漁獲なりしといふ斯の如く本縣の遠洋漁業振はさること夥しきが最近農商務省が頻に之が勸奨を為し奨励金を交付して其の發展に資しあるも本縣の漁業家は徒に旧夢より脱却せずして依然として其地元沿海に□□しつゝあるは返す返すも腑甲斐無きことゝいふへし因に農商務省の奨励法は遠洋漁業に適する漁船に対しては船体一噸に付三十圓機関一馬力に付き二十圓以内の規定にして最近交付を受けしものは九隻船体一噸十八圓乃至二十二圓機関一馬力十一圓乃至十四圓の率なり又漁業奨励金は漁期間帆船一噸に対し十八圓以内の規定にして従来交付を受けしものなきも今回指令となりしもの五隻なりと

●八戸の東北銘産出品三越呉服店内東北銘産品陳列會へ三戸郡よりの出品は左記の如くにして大島同郡勸業主任各町村に出張発送方取急きつゝありと

北寄ボイル鰹油漬菊の花まるめろ各罐詰菊のり（乾物）干鰯鰹煮干鰹節引昆布鰹焼菊羊羹南部煎餅醬油泉山（以上八戸町）清酒千歳正宗（湊村）特別煎餅葡萄飴（以上三戸町）漆器醬油洋傘柄洋杖（以上五戸町）木工品包皮用経木（以上戸来村）

大正六年四月十八日

●鰯大敷網調査

日露漁業株式會社技師稻見彌一郎氏は昨日午前県庁を訪問して鰯大敷網に関する調査を為し當局の意見を徴せり全會社は函館に本社を置き二百萬圓の資本を有し露領沿海州其他に於て相當の成績を収め居る大會社なるが本縣沿岸に於ける鰯大敷網の有望なるを認め着手の準備中だと云ふ

大正六年四月二十三日

●本年の捕鯨

△来二十五六日より着手

三戸郡鮫に本拠を有する東洋捕鯨會社の捕鯨業は例年四月より八月迄に行はれつゝあるが本年は鮫の事業場修繕の為着手期遅れて来る二十五六日頃より漸く開始さるべき模様なるが前年度は頗る薄漁にて七十二頭を算したるのみなりしも會社にては本年度は少なくとも去る大正三年度の百十三頭大正四年度に於ける百四十四頭位の頭数は是非とも漁獲せんとの意気込なるが如し因に右の如くなれば鯨肉塩蔵の為使用せし塩は大正四年度に十一萬五百八十六斤此の交付金二千四百五十三圓なりしに五年度には僅かに八萬一千六百七十七斤此の交付金九百五十五圓に減したる有様なりしと

●北海鯨漁報

小樽久々津商店に於て去る二十一日調査に係る北海漁報は昨日関準商店に到着せしが収穫高如左

檜山他六郡千石、島牧八千石、寿都一萬五千石、磯谷二萬五千石、岩内三萬二千石古宇四萬五千石、積丹二萬五千石、美國三萬石、古平三萬石、余市二萬五千石、忍路六百石、高嶋百石、厚田四百石、濱益一萬石、増毛三千五百石、留萌千石、鬼鹿三百石、天売一萬六千石、焼尻九萬五千石、礼文三萬五千石、海馬島五千石、樺太一萬五千石、△本年北海道四十一萬二千九百石、樺太一萬五千石△昨年北海道四十七萬四千二百石、樺太二百石

●潮干狩りと浅虫

△近年珍しい賑ひ

今日は陰曆三月三日に当たるので浅虫温泉では宝拾ひ其他に大いに汐干狩の客を呼んでいるが本日は日曜に当たりそれに天気も良かったので午前九時の上り列車を始めとして汽車毎に多数の降客を見た△之等の人の内には日曜一日だけで帰へる人もあるが中には泊まりがてら今日の汐干を見様と云ふ人も多いうだ△今日は本当の潮干狩りで天気も悪くない様だから近郷近在からの人出も多いことであらう何でも昨日からの前景気によれば近年にない賑はひを呈するだらうと云ふてる

●今日の汐干は曇 昨日午前六時日本海中部に現はれし低気圧は東北東の進行なれば若し発達するに於ては多少荒さるゝ虞あれど今の所未に危険性も見えねば本日の汐干は南西の風曇なるべしと云ふ

廣 告

浅虫潮干狩 汽車賃割引

来る二十二（日曜）廿三日の両日青森浦町両駅より

浅虫行二、三等往復二割引

通用期限三日間

大正六年四月 鉄 道 院

大正六年四月二十九日

●伊国人の罐詰製造

△東郡油川に於て

伊太利人ファブリー氏は東郡油川に於て鰯油漬罐詰を製造し居るが将来益々有望なるを認むると共に鮭油漬罐詰をも製造する事となりたる為従来の仮工場を本工場に変更し土地を買収して大規模の工場を建築する事となれるが昨日午前県庁を訪ひ更に知事官舎を訪問して挨拶を為せり製品は主として伊太利に輸送する方針なりと云ふ

大正六年五月一日

●下北郡水産組合会

二十八日午前十時開会出席前日の如く佐藤議長より評議員任期満了に因る改選選挙会を開く旨を告げて投票用紙を配付し其結果左の如し

畑中寅藏、林嘉藏、杉本源藏、白濱西松、高松市之助、若山常太郎

議長は今回提案に対し全部結了を以て閉会を宣し懇懃なる挨拶ありて退散せしは午前十一時半なりし▲設宴 二十七日薄暮より谷地新喜樓に設宴左の諸氏を招待せり

一戸、一ノ瀬両県官、河野県議、森副組長、柳沢、竹本、白浜、坂本、林、藤林、杉本、伊勢田、杉山、畑中、住吉の各議員、菊池事務員等

佐賀組合長は起って一場の挨拶を述べ開宴に移り来賓を代表して河野県議は謝辞を述べ尚此の好機を以て茲に所感と希望を述べんとて

不肖過般関西各地廻視の途次本郡産出する処の海産物中干鮑、鯛、海参及び長切昆布外国貿易品は勿論内地向海髪石花菜亦海蘿の如きは糊用たると食用（汁の実）たるとを問わず要するに乾燥の不十分最も留意せざるべからざる点少なからず故に殊更今日の産額増加せざるとして改良向上に進むとせば価格上三割或は五割の増加を見るを得べきを信ず冀くは直接局に当たる諸彦にして今一層努力して検査励行せられたしと産額と価格販路需要地等数字的に詳述したり献酬数次にして六助妓の弾線に大湊に名ある「ゞ子」の妙舞小桜小梅松島とは子かね子等の紅裙坐間の幹旋に如才なく各自持出しの十八番を演じ主客陶然歎笑裡に徹宴せしは十一時に近く近来稀有の盛宴なりしと

大正六年五月二日

●白鷗丸の西航

▽西海岸流網試験

今年一月以来青森湾内に於て打瀬網試験海底状況及び海洋調査等の重要任務に従事しつゝありし水産試験場所属発動機船白鷗丸は西海岸に於て鰯流網試験に従事する為去る二十三日夜当港出帆二十七日西郡深浦に着港せり尤も青森湾内における諸種の調査は未だ完成せられざるも同事業は昨年度に属せしため経費の関係上打切りと為し西航せるものなるが漁獲物は専ら秋田県能代町に供給する予定なりと同船の任務は単に鰯流網試験のみならず海洋調査も為す筈にて島村技手乗込み昨日より調査を開始せる筈なり尚同船には試験場伝習生六名も乗組み居れり

大正六年五月七日

●帆立貝豊漁

本縣の帆立貝は二月より四月迄禁漁となり居り五月一日より禁漁明けとなりたる為昨今下北郡川内地方は稀有の豊漁を見つゝあり同田野澤城ヶ澤間の沖合には日々百数十艘の漁船出動し採捕に従事しつゝあるが大なるものに至っては八十個を以て石油箱一箱となり中型のものは百二十個小なるものも百五十個内外にて一箱となる而も其価格は未曾有にして一箱八十錢程度を上下し居れり従來の最高価は一箱六十錢に止まりたるに斯くの如く騰貴せるは横浜市における貿易市場の騰貴せる結果なるが各船とも日に十箱平均の捕獲を為し同海岸に於て貝柱に製造し横浜に輸送しつゝあり之等製品の殆どは同港より支那方面に輸出せらるゝ為地方人の食料に供せらるゝは僅かに其一小部分に過ぎず

大正六年五月八日

●宇鐵鮑漁狀況

▲理想的の組合事業

東郡宇鐵漁業組合は鮑専用漁業権を許可せられ居るが其行使法に対し本年四月より二カ月間潜水機使用を許可せられたる為従来網又は鉾突き及び潜水夫にて漁獲し得ざる深さ二十丈内外の個所よりも漁撈し居る為目下非常なる好成績を挙げ居れり

▲一日二千個余 昨今の漁獲高は一日凡そ二千個内外に及び居るが其大なるものに至りては四個乃至五個を以て干鮑一斤を製造し得る程の優良品少なからず大小取り混ぜ平均八個位にて一斤となる程なれば本年は漁撈の費用及び雑費機械購入に要せる費用と一切引くも大正三年に採集せる際と同額若しくはより以上の収益を挙げ得る見込み充分なる為宇鐵部落は近来稀有の好景気を呈し居れり

▲共有財産積立 大正三年には同部落の純益は三万八千圓に及びたれば部落の共有財産として積立利殖を図り居れるが本年の利益も全部積立五万円となる迄利殖し之より生ずる利子を以て共同販売の資金を造る方針なりというが斯くの如き計画は他組合の企図し難き処にして之同組合鮑繁殖保護の厳格に行はれ居る結果なり

▲他組合の模範 漁撈開始以来今日迄の処既に七万個に達し居れば平均八個を以て干鮑一斤とする時は八千七百五十斤の漁獲となる訳なり本縣の鮑は大間宇鐵は西東の兩大関にして共に産額少なからざれども大間は濫獲の弊ある為宇鐵の如き収益を収め難く其他の地に於ても大間同様濫獲の嫌ある為年々産額を減少する傾向を示し居るが之等の組合も宇鐵の今回の成績に鑑み繁殖保護の方針を採るべしという

大正六年五月十九日

●青中の修学旅行

△五年北海道四年松島

青森中学校にては五年級四十四名に秋沢、秋谷両教諭付添ひ北海道を往復六日間又は四年級四十八名沖垣、樋口両教諭付添ひ松島仙台に往復四日間修学旅行する事となりしが其日程は左の如し

▲五年級五月二十一日青森発△二十二日室蘭着製鋼所を見て全夜札幌着札幌泊り△二十三日札幌滞在△二十四日札幌発小樽着小樽泊り△二十五日小樽発函館着函館泊り△二十六日夜函館発青森着

▲四年級五月二十三日朝浦町発盛岡下車盛岡泊り△二十四日朝盛岡発平泉にて中尊寺を見午後二時仙台着△二十五日午後一時仙台発塩釜着海路松島着一泊△二十六日松島発午後九時十九分浦町着

●鰯豊漁 秋田能代を中心として西郡深浦方面の鰯流網試験に従事し居る本縣水産試験場所属白鷗丸は十四日には千百七十余、十六日には二萬四千九百尾の漁獲あるが水温十二度五分に

して今後尚豊漁続きの見込み港内に於ても野辺地船出漁し一隻に付き一萬四五千尾程の漁獲あるが天候継続次第今後一層豊漁ある見込なりと

大正六年五月二十一日

●西郡岩崎たより

▲虹鱒人工孵化 去月一日より岩崎村大字板神出前川上破池に経営せる岩崎村虹鱒養殖人工孵化場にては去る四月三日より孵化し始め全月十四日にして全く終わり去る五月十二日より之に投餌し居れりこれまでの死卵死魚は二萬に対し五百四十位にして本月二十八日頃放流する由

▲孵化場欠場 去る五月十三日岩崎村長始め役場員一同村會議員、學校教員、村有志者、養蚕教師、蒲鉾製造実習教師一同孵化場見物旁ら岩崎村大字板神出前川日暮池名勝に於て懇親會を開きたり

▲蒲鉾講習會 岩崎村第二回蒲鉾講習會は去る五月十四日製造実習教師藤井佐一氏来たり十七日より講習せり生徒は大間越村よりも二三人来たり全部で十五六名ありて鰯を以て製造すと

大正六年五月二十二日

●下北郡便り

▲気温 摂氏十度内外の気候が十七日から遽に十五度と昇る夫れかあらぬか湾内鰯漁大湊三百函奥内五六十函の漁獲あり亦搾粕製造する程の多漁にあらざる為悉く生売りせりと

▲鮪大謀網 北通り各鮪大謀網は五七日前に何れも建込を終り初漁を期待しつゝありと

▲磯焼回復 北通り沿岸前年来磯焼の災厄に罹り大正三年度は尤も極度なりしが本年の模様によれば傷痕稍回復に向かひたるものゝ如く海蘿殊に昆布の如き著しく生立ちよし採取時期に於て天候の好からんことを祈念し居るといふ

▲修業式 本縣水産試験場大畑分場は来る二十五日頃同場別科生に対し修業式の挙行ありと

大正六年五月二十四日

●北海博懇談晚餐會

既報の如く開道五十年記念北海道博覽會の事務に関し来青中の内務部勸業課長大西理事官佐藤廳属は博覽會に就き懇談する為一昨日午後六時より縣廳内関係者及び在青新聞記者を金森樓に招待して晚餐會を開きたるが士客定めの席に着き配膳終れば大西理事官は立ちて

先刻縣廳に於て一応御懇談申し上げたる如く北海道は明治二年開拓使を置き蝦夷を改めて北海道と稱してより明年を以て五十年に相当するを以て開道五十年記念博覽會を開設し親しく多数の方々に過去に於ける北海道發達の状態及び現在の産業状態並びに将来如何なる方面に対し發展の歩を進むべきかを实地御覽の上御指導御援助を願う事となり広く各府県を訪問し参考品の出品売店の設置等を懇請せり御縣は僅かに海を離れて隣し經濟上其の他に於て最も親密なる關係を有する為他縣より一層深厚なる御同情を賜りたく懇願に堪へず御縣に於せられても此點は諒とせられ充分の御指導御援助下さる事は全道の期待し居る処なれば願わくは

此點を御賢察の上相当効果を収めしむるよう特別の御配慮に預かりたし今席は何の設備もなく殊に御縣の事情に暗き為万事不行届ならむも不肖参上せる印までに御來臨を仰ぎたる次第なり

云々と挨拶したるに対し阿部市長は來賓を代表して北海道の長足の進歩を称揚し本縣と北海道との取引關係を説き記念博覽会の壮舉を称してその成功を祝し十分の便宜を与えらるゝやう希望する旨を付言して謝辞を述べ献酬に移り全九時散会せるが臨席者左の如し

名尾内務部長、阿部市長、酒井、重信兩理事官、松下、稲澤兩技師、齋藤商業會議所書記、渡辺縣屬、澤口縣技手、笹澤陸奥、中田弘新、三上弘前大正、柴田青新、宮川本社員
因に大西理事官佐藤屬は昨日午後五時發連絡船にて帰廳の途に就けり

●浅虫沖の難破 本市新蜷貝町百二十六番地塩谷與七（四七）金田太郎（二九）の兩名は一昨日午前九時浅虫沖に出漁中南西の強風起り引返さんとせるも激浪の為転覆して海中に陥り浮きつ沈みつ危険に瀕死居るを折柄航行中の帆船第二大野丸が認め浅虫を距る西北四里の沖合なる現場に船を進め船長は直ちに端艇を下ろし一等運転士以下水夫九名をして高浪の中を救助せしめたり勇敢なる船員は直ちに本船に兩名を救い上げて手当てを加えて蘇生せしめ十一時半当港に入港し兩名を上陸せしめたりと此の救難船は函館区富岡町大野藤の持船にして船長大根嘉七以下十二名乗組過般房州館山を發し当港に寄港の途にありしものなりと

●茂浦沖の遭難船 一昨日午前八時東郡後瀧村大字六枚橋十五番戸工藤六三郎（三七）全村上百郎（六三）全相馬久米吉（三九）全佐藤藤太郎（三五）の四名同村沖合にて鰯漁に従事中十時頃西暴風の為遭難し網四把を投げ捨て茂浦海岸に流されしを午後三時半同村民發見し二十名にて救助せるが船体には異状なしと

大正六年五月二十七日

●重要水産物保護

▽本縣訓令甲第十九号

鮑及海鼠は共に本縣重要水産物にして其製品は本邦海外重要輸出品の一なり故に其種族の蕃殖を保護し生産の増進を図るは水産經營上の要務たり然るに之が採捕に当たり其發育の程度及産卵の期節を顧みず酷捕濫獲に放任せんが其蕃殖を害し種族を絶滅し重要な水産物を失ふ虞あるのみならず製品の信用を毀損し声値を失墜するに至るや計り知るべからず曩に農商務省は明治四十四年四月訓令第六号を以て殻長体長及び重量に一定の制限を設け其採捕を警め製品に対し検査の実行を促し蕃殖保護の目的を達すると共に商品信用の維持に努めしめ本縣も亦明治四十四年五月縣令第三十号を以て漁業取締規則を發布し漁具漁獲物に制限を付し禁漁期を設け専ら蕃殖を保護し生産の増進に努めたり而して農商務省は客年八月曩の訓令を廢止し更に省令第二十五号を以て鮑及海鼠製品取締規則を發布し製品にして一定の重量以上のものに非れば其販売を禁止したり當業者は之を遵守し其蕃殖保護と製品の改善に努めつゝあるを信ずと雖も往々過って法規に触るゝもの無きを保し難し其任に衝たる者克く此の趣旨を体し監督を厳にし永遠の利益を挙ぐることを期すべし

大正六年五月二十八日

●大畑水産分場授与式

既報の如く伝習部別科生修得証書授与式を五月二十五日同場内に於て挙行せり正門には大国旗を交叉し玄関を昇りて休憩所窗外は今を盛りに咲き誇る桃杏居ながら恣に眺められ殊に朝來近頃に珍しき快晴にて斯業家の最も心地良き風日和なりき式場は紅白の幔膜を張繞らし南面の一段高き演壇上に翠滴るばかりの老松の盆栽をあしらうなど内外装飾型の如く

左側は門田郡長、森郡会議長、南部技手、宮浦村長、柳澤大畑村漁業組合長、小学校職員、村区会議員、生徒の父兄及び菊池水産組合又右側は一ノ瀬、八木両教官、小川、松田、山口の諸員

北面して生徒並列を為し午前十時五分中村試験場長より挙式を告げて各生徒に修得書授与を行ふ後更に中村場長より懇篤なる一場の訓示口演あり次に門田郡長は祝辞に所感と希望を演じ生徒総代保田慶造答辞を朗読し了て竹山父兄惣代進んで慇懃なる謝辞あり茲に於て中村場長より式の終了を告げて席を移せり一ノ瀬分場長の挨拶にて丁重なる茶菓の饗応あり門田郡長は来賓を代表して謝辞を述べらるこの間山口、東二氏の手になりし貝細工の種々南光貝の釦、姫貝の彫刻の如き地方にはまだ眼新らしく分場の乾鮑海參検査標準の実物等好標本たるを感せり主客漁撈に製造に応答交々特に中村場長の学理的談実験話には満座興味を深からしめ時を移して正午を過ぐる十五分辞場せりと修得生は

保田慶治、土佐善治、竹山徳二、上田礼蔵、内海清、山本幸太郎、堺清次郎
因に遠来の諸氏には旅館に小憩午後一時半自転車に馬車に随意帰途に就けり

大正六年五月三十日

●恐山湖の虹鱒

下北郡恐山湖に於ける虹鱒放養事業は開始以来日未だ浅きに拘らず予期以上の成績を示し状況視察に出張せる島村技手は将来の成功を保障し経営者の努力を称揚し居れり

△屈強の場所 恐山湖は恐山の絶頂にあり最も深き個所も水深十尋に止まり水温また適順なれば虹鱒放養湖としては十和田湖以上にして新に理想的の個所なるが只温泉地近く従って硫黄を含有する水流れ込む欠点あれども左程意とするに足らず周囲二里に及ぶを以て硫黄含有水にして害ならざる以上相当の産額を挙げ得べし虹鱒は十和田湖放養の姫鱒より一段優良種にして本縣水産試験所に於て卵を亜米利加より輸入し相坂孵化場に於て孵化せるものなり

△放養六萬五千 数年以前に於て既に同湖利用の有望なるを認め水産試験場に交渉して虹鱒飼育を企てたることありしも其の際は調査に欠ける処ありたる為硫黄害の激烈なる個所に仔魚を放流せる為成績見るべきものなく遂に失敗に終れるが今回東郡野内村横内義幹氏種々調査を重ねたる結果愈々独立経営するに決し第一回一萬尾の飼育を為し続いて今春五萬五千尾の放流を為したりと尤も第二回目には十萬尾の豫定にて水産試験場へ仔魚の供給方を出願したるも天候不調の為五萬五千尾より交付を受け難かりしと

●下北東岸漁況

▽鮪大謀網 下北郡海岸に於ける鮪大謀網は昨年は三カ所に過ぎざりしに本年は野古呂、関根、佐助川、折戸、中野網、菅の尻、釜石の七カ所に敷設されたるが其内佐助川は三月三十日人夫揃ひとなり四月二日に網曳込み五月二十二日初漁ありたるが本年は前年に比し一般に活気あり各網とも豊漁を期待しつゝ準備を急ぎ居れり

▽海蘿採集 東海岸は磯焼現象未だ癒えざる為年々産額を減少し居るが幸ひにして海深五尋以上の個所より回復の兆候を示し来れり去る二十二日より二十五日迄口開け海蘿採集を為したるが其の採集高は風間、大畑の両村にて約八千圓に上れり尤も本年は昨年より採集額に於ては少なきも価格騰貴し居れば金額に於て遙かに多額ならむ

▽柔魚漁準備 下北郡の柔魚は漁村の経済に多大の影響を及ぼすものなるが本年も豊漁の見込みにて納屋の修繕飲食店開業等準備怠りなきが鮪大謀網に小鳥賊のかゝる処より見れば豊況疑ひなからむと漁民は一般に樂觀しつゝあり

大正六年五月三十一日

●遠洋漁業状況

▲本年は十隻建造

遠洋漁業奨励金を受くべき漁船は幅十尺以上にして肋骨の心距は機関室に於て十七寸其の他の個所に於て二十寸を越ゆることを許さず活魚槽内の肋骨は縦通隔壁迄にて止むることを得れども肋骨を止たる処に於て二十平方寸以上の截面を有する縦通材を付し槽の前後に肋骨以上延長せしむる等種々の点に於て夫々規定せられ居るに拘らず奨励金下付を出願する者にして往々船舶の設計仕様其の他に不備ある為屢々照会を重ねるものあるが之畢竟遠洋漁船検査規定の意味が徹底せざる為か若しくは農商務省の取扱方針のある処を熟知せざる結果ならむが政府に於ては広く當業者に対し周知の道を講じ居れり

△本縣の出願船 本縣の漁業者にして該奨励金下付を受けたる者大正四年度に於て八艘、大正五年度に於て五艘に及び居るが本年度に於て既に出願し縣廳を經由して書類が農商務省に進達されあるもの五隻尚今年度に於て出願の方針にて目下設計中のもの五隻程ある模様なるが年度未迄には尚一二隻の増加を来すやも知れず下付を受くる順序は設計書を認め建造認可を農商務省に申請し認可を受けて後建造し竣工後更に実物に付き検査を受け規定の奨励金を受くるものなり今年状況にて進めば本年度に於ては少なくとも十数隻の建造を見るに至らむ

△建造者の注意 設計の内容については種々注意すべき要項あれば之等に関しては郡衙または縣廳に付き詳細取り調べを要すべきも船体の強力充分にして且用途に対し必要ありと認むる以外には補助機関の馬力数は総噸数の一・五倍を越ゆるを許さずまた総馬力四十以下の外国製発動機を据付くる漁船に対しては其の機関に対する漁船奨励金は之を受くることを得ず尚発動機は当分の内左記八工場の製作に係るものなるを要す

株式会社池貝鐵工所、発動機製造株式会社、株式会社新潟鐵工所、木下鑛工所、日本鐵工株式会社、清水鐵工所、合資會社神戸発動機製造所、石橋鐵工所

尤も右八工場以外の工場製作に係る漁船も其の機関の馬力が総噸数の一、五倍未滿のものに限り船体に対する漁船奨励金のみは下付せらるゝことゝなり居れり

△漁業奨励船 本縣内に於て既に同奨励法に據る漁船建造者如左

扇海丸青森市根市兼次郎△福栄丸鮫村小西源三郎△第一天徳丸全松橋喜平治△盛栄丸全宮崎助五郎△常福丸小中野大下末吉△精神丸八戸町米川篤松△石大丸小中野村大久保清八△大禮丸八戸町長谷春松（以上大正四年度）光栄丸八戸町米川篤松△大三幸運丸全長谷春松△慶運丸全大下福太郎△常福丸小中野村大下末吉△大吉丸八戸田吉次郎

全奨励法に據る漁業奨励船如左

善知鳥丸、第三善知鳥丸、第五善知鳥丸、青森市冷蔵汽船株式會社△鳳州丸、七鳥丸、二見丸青森市森喜次郎△神鷹丸全坂上久蔵△第二静丸、第二田鶴丸全坂上五郎兵衛△慶運丸八戸町大下福太郎△光栄丸全米川篤松△大禮丸、第三幸運丸全長谷春松△常福丸小中野村大下末吉

大正六年六月一日

●西海岸漁況

▲初鮪 二十八日入前漁場大鮪一本二十九日大鮪三本漁獲潮流の関係上例年より後れたり

▲鱒漁 五月二十五日まで薄漁なりし各建網は一般に二十六日より豊漁一艘に付き平均四十本内外日々漁獲しゝつあり

▲大鰯 五月十五日より西海岸一帯に漁獲あり二十六日より豊漁一艘に付き少なきは一萬尾多きは四萬尾一尾二厘半より三厘二毛までの相場粕製造盛んなり

▲鰯粕 初荷として二十九日函館へ鱈ヶ沢町山太印より十五石出荷

●下北の漁業界

▲鮪 下北漁業株式會社所有の大畑字野古呂鮪大謀網今年は佐藤五郎松氏管理しあり此の二十七日の初漁十七尾なるが二十五貫目以上の揃いの大物売先三十文以上の見当なりと

▲鱈 大湊より奥内中野澤の内湾にて生売りの手にあまり搾粕に製造しあり此の先好況の様相なりと聞く

▲鮑 大間佐井方面の網取鮑現下一萬斤以上はあるべし然るにまた具体的の商ひ取引なきものゝ畢竟高値の先物に支那人損害少なからざりしにより買方不振なり海參も同様

●西郡漁況便り

▲鯨に栄え鯨に亡びし本郡沿岸の漁村は本春突然の群來に腐網迄持出し建網刺網にて約二百駄（八萬尾）の漁獲を収めたり古老の言に依れば昔三十年前の厚群來の鯨と其の軌を一にせるより本年好漁あるべきを期待し漁網を準備するもの多し

▲鱈流網の隆盛に連れ本年は北海道樺太に出稼ぎする者多少手控えたりしが因に当たり鯨終了と同時に愈好況にて今日迄の漁獲高は五百石約二百五十萬尾に達せり本年は昨年比し一層厚來遊にして沖合三百間にある小建網にさへ乗網するもの多く昨今は最も盛況にて一舟よく二萬乃至三萬を漁獲する易々たるものにして夕方一二里沖合に到り投網を了わり一二時間にして揚

網寄港するに満船の状況なるも本年は昨今の盛漁期に際し風力の強きと潮流の急激なるとは漁撈上遺憾の点にして舟を一地に停めて網に鰯を罹らしむる窮策も演ぜられ居れり之等漁獲物は今日迄多く生売輸送を為せるも魚価下落と気候の温暖となるに従い寧ろ鰯粕製造となすを有利とし一尾三厘に売買行は尚茲に一週間出漁可能なる限りは目覚ましき大漁保険付きとすれ居れり

▲沿岸 十七ヶ統経営されつゝある鮪大謀網は昨年より一般に一兩日立遅れて建込みを了すべく既に敷込める漁場三四ヶ統にては大鯖鯛等の漁獲あり深浦入前漁場にては二十八九兩日にて四本の漁獲あり本郡中の先鞭初漁となす昨年より後るゝ二日間海況順調なれど早晚好漁を看るを得べく何れも扼腕の態本年鰯の来遊は殆ど皆無と称すべきものなりしが二三日前より弗々相当の漁況を報せり

大正六年六月五日

●西海岸の漁況

△十二湖の養鰯 本縣水産試験場にて西津軽郡岩崎村十二湖に対し鰯卵二萬を送り孵化飼育の上今回仔魚一萬八千尾を放流せり尤も同湖は水質鰯の飼養に適する為早くより養鰯事業の有望なるを認め孵化飼育を計画し数年前後二回に亘りて放流せるも孵化せる仔魚を長距離の間運搬放流せる為不成績に終れる実例あれば今回はよく調査の上失敗原因を確かめれば湖畔に於て孵化飼育の上放流せる為成績頗る良く發育至って旺盛なりと放流に際しては中村試験場長堀内同村助役及び区長有志十数名立合せりと

△鮪漁未だし 鮪大謀網は澤邊、臚作、椿山、松山其他深浦大戸瀬等に夫々敷設されたれど鰯は未だ漁期に達せず従って準備は左程進捗し居らず敷設されたる大謀網中深浦入前漁場に於て初漁ありたるのみにて漁獲渺々しからず有名なる澤邊菊池漁場の如きも大鯖鯛及び鰯等拾五六日間にて約二千円の水揚げを為したれど目的とする鮪は未だ漁獲を見ず、敢えて潮流に変化を生じ鮪漁に悪影響を及ぼす等兆候もなければ只一般に時期の後れたるに原因すべく従って各網共近来稀に見る活気を呈し海岸一帯緊張し居れり

△鰯漁好漁 西海岸に於ける鰯漁は遅々として振るわず昨年の如きは深浦に七艘、鰯ヶ沢に二十余艘を算するものなりしが本年に入りて俄かに増加し両港を合して六十余艘となり一艘に付き平均二萬乃至三萬尾の漁獲あり然も近年になき市価を示し一尾三厘程なれば地方漁村の経済状態を緩和するのみならず一般漁業の発達を促すことゝなるべし漁獲物の多くはメ粕に製造移出し居るが之又物価騰貴の影響を受け未曾有の高値に販売され居れり

△白鷗丸回航 秋田県能代を根拠地として鰯漁に従事し居れる水産試験場所属白鷗丸は出漁毎に好成績を収め漁獲物は主として津幡製造所に販売し居れり同船には実習生徒乗込居るを以て実習日程の関係上昨今は鰯ヶ沢に廻りなるべく同海岸の漁を済ませ不日青森港に回航し来たり湾内に於ける種々の調査試験に従事すべしと

大正六年六月六日

●大鯉初漁

去る二日宮城縣金華山沖合百八十哩の地点に於て漁船一隻にて大鯉百五十尾を漁獲せる船あり潮流方向南東にして速力遅く水色良好にして水温二十三度半今年の漁況良好の見込みなる旨宮城縣水産試験場より本縣水産試験場に宛て電報を以て漁況報告ありたるが右により本縣の漁況を想像するに甚だ有望にて或は近年の失敗を回復し得るやも知れずと中村試験場長は語れり

●大湊の惨事

△漁船の遭難

△父子の溺死

二日湾内沖鰯出漁午前七時頃満船にて帰岸漁獲物陸揚後再び出漁せしに当時風浪追々加わる模様より他の漁船は出船せざりしに独り左記の一艘出港せしに沖合に於て漁船転覆せしならんと空船は小蒸汽船に曳かれ来たり而して同船乗組人所持の煙草入れ飯具類大曲海岸付近に漂着し大騒ぎせしは昼頃なり夕方に至も発見せず生死また不明家族の悲嘆目も当てられず界限の騒ぎ夥しきはさもありなん行衛不明の乗組員は如左

大湊村宇田飛内兼吉（六十）、長男兼太郎（三十）、三男松蔵（十五）、別家飛内留次郎（四十前後）兼松の実弟他に雇い人△大畑村野古呂の一人計五人

大正六年六月十日

●鱒ヶ沢便り

▲漁況 鱒ヶ沢付近の大謀網は一尾の鮪も見得ず経営者全部顔色なかりしが六日午後八時大戸瀬地先鎧島漁場にて大鮪一本を漁獲したる為今度こそは群來疑いなしと各漁場共昼夜注意し居れり大鰯は鱒ヶ沢及び舞戸のみにて六日より七日にかけて三百五十萬尾即ち粕にして六百石の大漁あり斯業開始以来の豊漁一尾二厘八毛より三厘迄従って人夫及び筵に不足を生じ肥料製造人は困難しつゝあり轟木大謀網漁場にて大鯖五千尾漁獲鱒ヶ沢一石魚商に一尾十錢に仕切りたり

大正六年六月十一日

●下北郡海産界

▲鮪は大間、中網十九尾、蛇浦石積十尾、異国間、菅の尻三十一尾何れも大物なり▲大鯖千尾、海豚八十尾は蛇浦▲海蘿は蛇浦七十石、下風呂五六十石、尻屋二百七八十石▲鰯搾粕蛇浦三十石余、大湊、奥内、中野澤其の後累計約二千石以上魚粕値段百石価格千九百圓位なりと聞く

大正六年六月十二日

●海洋調査協議

▽明日赤十字支部にて

既報の如く明日午前九時より赤十字支部に於て北海道及び東北五県第三回連絡海洋調査協議会開会の筈なるが出席予定者は

△農商務省水産講習所技師浅野彦太郎△北海道水産試験場技師梶山英二、全小樽測候所長技師豊臈参吾△岩手県水産試験場長技師塚本道遠、全宮古測候所長技師福井規矩三△宮城県水産試験場技師佐々木沖太郎、全技手竹本正文、全石巻測候所長技師高木建△秋田県水産試験場技師菟田芝芽男、全技手赤根金太郎、全技手鎌田文之助△福島県水産試験場長技師中平勇治郎、全技手三輪源造、全測候所長小松謙治

にして本縣よりは中村水産試験場長以下水産資源係員全部参加する筈なるが協議問題左如し

△水産局及び水産講習所所属船の連絡県沖合通過に際し左記の海岸調査を遂げ連絡県に通報方希望申出の件

(位置畧) 調査要項気圧、風向、風力、水色透明度、潮流の方向速度並びに表面十尋、二十五尋、五十尋、百尋、百五十尋の水温比重其の他海面の模様魚群の状況等

△海流の状況漁況等を毎月一回連絡各県に通報方主務商に希望申出の件

△沖合潮流の方向速度を観測事項より削除する件

△風力測定器一定の件

△気温測定時刻一定の件

△同温線、全比重線の作図法は内挿法に依ること

△左記熟語の意味範囲、徴候等未だ一定せざるがより之等を協定して使用せんとす

暖流水、寒流水、沿岸水、素潮、沿岸漁業、沿海漁業、沖合漁業、遠洋漁業

△鯉釣餌料鱸に関し観測其の他の調査を施行する件 (以上青森県提案)

△漁況通信電報畧符号協定の件 (宮城県提案)

△第二回協議事項第七第一項寒暖計を回転式寒暖計に改め注意事項第四項を削除するの可否

△表面下半尋水温及び比重の測定を加ふること

△雲の種類を記入すること

△水色の記載語を一定し之により記載すること

△天候其の他の都合上中途より引返せし時は更に天候後百哩迄観測を続行すること但し六十哩に達したる場合は之を為さざるも可とす

△縦断観測施行の帰途沿岸の重要点毎に各層の観測を施行すること

△沿岸海水温度調査に関する件 (以上岩手県提案)

△河川湖沼に対する鉍毒被害調査の件 (秋田県提案)

△比重換算に関する件

△五十六入れを四十五入れに改正する件

△一定原簿採用の件

△百五十尋に深観測点を減少する件

△沿岸に於ける水底観測の件

△海流測定の件

△漁業日誌調補の件

△観測報告相互通報の件

△付図調整に関する件

△水温速報に対する件（以上福島県提案）

●水産會報の発刊

本縣水産試験場にては水産に関する論説研究雜報等殊に県報に登載せる水産関係事項等全部、網羅し以て斯業の發達に資すべく毎月一回青森縣水産會報を發刊する筈なるが第一號は本日發行せらるべし購読希望者は印刷実費五錢に郵税二錢を添付縣廳構内水産會事務所へ申込むべしと

大正六年六月十三日

●水産主任會議

▽昨日県参事會室にて

既報の如く昨日午前九時より縣参事會室に於て遠洋漁業奨励漁業組合低利資金漁況連絡調査並に海洋観測遭難漁船調査及び浅海湖沼利用等に関する事項協議の爲各郡市水産主任官會議を開く參會者は

重信産業課長、中村水産試験場長、小岩井技師、島村、田中、辻、松田の各技手一戸属、東郡田代水産技手、西郡中西水産技手、北郡山内郡書記、上北小笠原水産技手、下北南部水産技手、三戸入田水産技手、青森福井市書記

名尾内務部長事故ある爲重信参事官代わつて議長席に着き開會を宣し協議に移り午後三時終了閉會せり協議事項左の如し

△遠洋漁業奨励に関する件

本縣統計に依り漁業の趨勢を通覽するに逐年本縣沿岸に於ける漁獲高は減少するの傾向あり於是県は漁船を改良し之を救済せんと欲し川崎船建造費として凶作救済資金中より其の建造費に貸付し或は遠洋漁業奨励の趣旨により大正六年度より其の建造資金に補助し以て斯業の發展を期せむとす各郡市に於ても或は石油發動機付或は川崎船に対し補助奨励の方法を設け之を奨励する處あるも未だ普からざる也今後之を奨励普及し其の漁獲高を増進せしめむとする方法に関し各位の意見如何

△漁業組合低利資金に関する件

本資金は大正三年度以來主に少数の組合に於て或は共同販売事業資金として貸付を受け或は遠洋漁船建造資金の爲貸付を受けむとするも常に漁業組合の基礎強固ならず信用乏しくして農工銀行と協定円満に進行し難く然れども本縣の如き資金欠乏して金利高き地方に在りては之等資金を利用するは斯業振興策として最も必要なりと認む各位の意見如何

△漁況連絡調査並びに海洋観測に関する件

(一) 漁況連絡調査に関する件

各郡に於ける重要魚族の漁況に就ては夫々調査せられつゝあるべしと雖更に他郡に於ける漁況を正確迅速に知るを得は漁業上裨益する所尠少なからざるべしと信ず依て其の方法を協定し相連絡互報しては如何

(二) 海洋観測に関する件

海洋観測の重要なるは論を俟たず之が必要を認め已に之を実施せられ居るもあるが如し然れども各自単独断片的に実行しては其の効果著しからざるべし依て其の方法等を一定し互に相連絡して之が調査を施行しては如何

方 法

一、

定置観測點を一ヶ所以上とすること

二、観測事項水温、比重、水色、透明度、水深、潮向、潮速、気温、風向、風速、天候、その他参考事項並びに付近の漁況

三、中層採水機を用ふるを得は表層、中層、下層の水温比重を測定すること

四、回数は一カ月三回可成は五日、十五日、二十五日とすること

五、機械器具類は水産試験場にて使用のものに一定すること

以上の報告は同時に水産試験場へ之を報告し水産試験場にては同場の調査と合せて取纏め各郡に報告す

△水産事務の改善に関する件

(一) 免許漁業の出願及期間更新に関する件

漁業組合の共有する専用漁場内に於ける免許漁業の出願は明治四十四年四月内訓第三号に依り可成漁業組合をして出願し権利を享有せしむべき筈なるに拘らず自由に個人をして出願せしめ時々紛議を醸するに至る今後出願は申す迄もなく期間更新の如きも本訓令の趣旨に基づき取扱はれんことを望む

(二) 定置漁業出願注意の件

定置漁業の出願に際し漁場を実測せずして免許後底質岩礁の為位置変更を出願し隣網との関係上紛議を醸し或は資本又は経営方法を顧慮せずして免許出願し免許後只権利を保持し之を経営せむとする意志なく却て他人の出願を困難ならしめ漁業の発達を妨害するものあり今後免許漁業の出願に就ては篤く注意し斯業の弊を除去せられむことを望む

(三) 漁場連絡に関する件

各郡より進達する定置漁業免許願書に添付せる漁場図のみにては既設の隣接漁場との距離関係明確ならず為に事務取扱上不便少なからず依て各郡に於て縣廳備付のものに同一の漁場連絡図を調整せられむことを望む

(四) 免許漁業出願添付漁場図に関する件

漁業免許出願書に添付せる漁場図は往々表示せる方位と図と一致せざることあり一漁図にして縮尺一様ならざることあり不動点の選定に注意せざるもの或は基点と測点を軽視し或は全く測点を設けざる等不備のもの頗る多し今後充分漁場図調整心得を指示し注意あらむことを望む

△浅海湖沼利用に関する件

各郡沿海山間に於て養殖上利用し得可き水面にして未だ顧みられざるもの多きが如し沿岸海藻繁殖法に関しては已に夫々適當の方法を講ぜられつゝありと雖も湖沼の利用に関しては未だ

顕著なる発展を見ず之等は組合其の他団体或は個人の事業として適種魚族を擇び放養飼育せば其の利すること少なからざるべし故に特に之等に関し指導奨励せられんことを望む

●本年の鯉漁如何

本年の鯉漁の厚薄は未だ其の準備期節にも入らざるを以て猥に断ずべからずと雖聯合海洋観測に據る福島県水産試験場よりの報に依る時は俄かに樂觀を許さざるものあり

▲水温低し 同試験場塩屋崎正東百哩横断海洋観測並びに新たに協定したる最終観測点より大吹崎に至る縦断観測施行の為試験船を派し観測せしめたるに水温著しく低く塩屋崎正東八十哩に至る迄は十三度七分を最高とし十一度八分の間を昇降し九十哩に至りて漸く十八度の水温を認むるも百哩に至りて再び十七度に低下せり又水色も従って不良にして海洋状態の激変なき限り当分鯉群の来遊なかるべしと

▲一時の変態 同試験船は近海の漁況を調査中去る四日勝浦沖合十五哩の海区に於て鯉群に遭ひ僅かに生残りたる餌料を以て五百匁内外の鯉六十三尾を漁獲し又既報せる宮城県金華山南東百八十哩の点に於ける百五十尾の漁獲は一時の変態に依るものと観測されつゝあり尤も遠く千葉県の沖合に於ては水温十九度五分水色良好にして有望なれども北進するに従って甚だ面白からずと

●三戸郡水産會總會

三戸郡水産會總會は既報の如く十一日午後一時より三戸郡衙樓上に於て開会出席者長谷春松代理大里徳藏、長谷川権之助、高橋勝太郎、富岡新太郎、中田時次郎、平戸午之助、島守浪雄、深川與吉、丹波岩吉、野口幸吉、荒谷千太郎、関口春松の各代議員、木口副会長、大島、宇都宮両幹事、入田郡産技手等にして木口副会長席に就き会則の改正案を付議し二三の修正ありて会則を左の如く改正し夫より新たに会長となりたる尾上同郡長就任の挨拶をなして後会長席に就き大正四年度經費歳入出決算報告をなし承認を得次いで大正六年度經費歳入出予算案に移り歳入歳出予算高二百六十六円を付議し異議なく可決し之にて總會を了り入田水産技手の希望演説ありて午後四時十分散会せり

●鯿ヶ沢便り

△鯿ヶ沢町に於て区裁判所復活同盟会を昨春組織し昨年は大々の活動したるが大隈内閣倒れ議會解散したる為復活は面倒の様に見えるが本年は特別議會又本問題提出せらるゝ様なるに少しも活動して居らぬ為隣村のものは心配して同盟会の大活動を希望し居ると云ふ

△鮪漁は第一期を經過したるに一漁場に就き二三尾つゝの漁獲にて第二期は例年の三倍も獲らざれば豊漁の域に達するを得ぬ従って経営者は顔色なし併しながら大鯖は沢辺一萬尾入前二千尾鎧島七千尾関八千尾柳田一萬五千尾を漁したる為之等の漁場丈は愁眉を開きし感ありと

●人命救助賞与 左記二組十三名は人命救助の件にて知事より賞与せられたるが救助状況を記さんに山口組は昨年十月三十日居村山口富吉他七名の乗組漁船が同村小橋沖合にて激浪に苦しめられ殆ど瀕死の際辰五郎指揮の下に危険を冒して辛うじて救助し又西山組は昨年九月二十二日下北郡佐井村沖合にて出漁中暴風に遭ひて船体転覆し海中に漂流せし東郡今別村大澤與作

外一名及び全所にて遭難せる栄徳丸乗組員梅田佐治郎外五名の漂流せるを救助せるものなりと
▲山口組（一円五十銭）東郡後潟村山口辰五郎（一円宛）島本岩吉、山口岩一、竹本由太郎、
山口萬之丈、山口米次郎、佐藤福次郎▲西山組（木杯一個）蛟龍丸船長西山善太夫（一円宛）
船員齋藤種吉、小坂新之助、北野松太郎、三輪丹藏、苫谷萬次郎

大正六年六月十四日

●上北郡泊村漁況

△六ヶ所村大字泊明神川尻鮪建網漁場昨年迄岩手県下閉伊郡普代村大村惣三郎氏五カ年間の契約をなし事業を經營したるも遂に失敗に帰す本年は三戸郡八戸魚町槻木氏引き続き向こう二カ年間の契約期限を譲受けしが同氏は是迄高磯漁場を經營したるも失敗したる為恢復せんと企て例年の網よりも一層改良を加へ八十八夜後網入れしたるも季節の関係か將又潮流の温度の関係か九日の午前迄鮪の話もなかりしに突然暮れ起こすに四十五貫目餘の大鮪一本の漁獲を得たり昨年より三日程早く値段は多分初漁のことなれば一貫目三十文以上もせしならん

△鮪の他入網後本日迄漁獲の種類やり柔魚石油箱にて百五十函餘ロスケ大鱒一貫目以上二貫目内外四千本以上漁獲を得当地にて柔魚は目抜鯛釣の餌料になる為一箱五円内外に売捌き居る大鱒は全部塩切東京方面へ直接輸送し居れり初漁の先き立ちは大鮪の漁獲を得たる事なれば本年は必ず大漁あるならんと主人始め漁夫共大いに意気込み居れり

（注：やり柔魚とあるがこの時期にやり柔魚の漁獲は考えられず、多分小型のスルメイカのことであろう；
ロスケ大鱒は大型のサクラマス(イタマス)のことか？）

△尚海草類本年は至て生い立ち宜しき為相当の収穫あり値段海蘿は一円に付き二貫目仏の耳は五貫目若芽は十三貫五百目にて何れも全部商いになれり

（注：仏の耳とはツノマタを指す）

△目抜鯛釣川崎船本年三十一艘漁業に従事し居れり昨年秋柔魚釣り切上げ後は是迄水揚げ不漁の船にて一千元以上大漁せし船は二千元餘の漁獲を得今後日増し安値の為来る旧節頃には切上げになるべし右三十一艘の内当漁業組合員種市忠七田中春松西野勘之丞赤石申松の四艘のみ後二十七艘は他よりの入漁者なる為本年より本郡に於て一層奨励し新造船に対し補助金一艘に付き金五十円づつ三艘分補助する事となり居れり造船材料なき為本年は見合わせとなる模様なり然れ共種市忠市氏には是非とも今一艘新造する計画にて精々材料取り集め居れり

●連絡海洋調査

▽協議会第一日

既報の如く昨日九時より赤十字支部に於て北海道及び東北四県第三回連絡海洋調査協議会開催せらる出席者は

△農商務省水産講習所技師浅野彦太郎△北海道水産試験場技師梶山英二、全小樽測候所長技師豊臈参吾△岩手県水産試験場長技師塚本道遠、全宮古測候所長技師福井規矩三△宮城県水産試験場技師佐々木沖太郎、全技手竹本正文、全石巻測候所長技師高木健△秋田県水産試験場技師菟田芝芽男、全技手赤根金太郎、全技手鎌田文之助△福島県水産試験場長技師中平勇

治郎、水産技手三輪源造、全測候所長小松謙治△青森県理事官重信文敏、水産試験場長技師中村平八、全測候所長木村祝之助全技師小岩井治世、全技手辻志郎、全島村満彦全八木三千彦、全一ノ瀬福巳、松田技手

名尾内務部長議長席に就き重信理事官、中村技師は番外席に就く後方には田中技手一戸属及び参集中の各郡市水産主任技手及び書記着席す

△内務部長の挨拶 廳て名尾内務部長は左の挨拶を為せり

東北四県連絡海洋調査第三回協議会を本縣に於て開催するに當たり多数来会を得たるは深く感謝する所なり殊に本協議会に対して水産講習所より浅野技師の来会を得たるは本會協議上頗る裨益啓發する所多かるべく深く其勞を謝する所なり尚御承認を得たきは本縣は地勢上北海道及び秋田県と漁業並びに調査上密接の關係を有するが故に御来会を願ひ提携して連絡調査せんことを希望し又茨城県も福島県と密接の關係あるのみならず東北の関門として關係深きを以て来會御願ひ致したる所何れも賛同せられ來會を得たるは厚く感謝すると共に遠路各縣に於ても右御承認の上共に御協議致すよう切望する次第なり各縣及び本縣よりの提出問題は夫々御手元に配布し置きたれば充分熟議協定あらん事を希望に堪えず問題中海洋調査以外のものもあるが此の機会に於て關係各縣に於て協定せらるゝを便宜と信じて敢えて削除せざりし次第なれば御了知あらん事を望む海洋の變化異動が直接漁業の豊凶に影響あるのみならず農作物の豊凶の如きも海洋變化に關係を有すると云ふ事なれば各縣に於て其の調査方法を協議し可成同一方法同一器具に依り此を調査し漁業の豊凶は勿論農作の豊凶を予知することができ得れば予め之に対する準備方法を講ずる事を得て利益する所敢えて一県一地方のみにあらざるべしと信ず本縣目下の狀況に徴するも本年は大鰯大鯖の漁獲多く数年来の腐朽的の漁網も殆ど利用し尽くして尚足らざる狀況なり又其の価格も俄かに低落し尚ほ處理に苦しむの實況なり若し此の豊漁の所以大回遊のあることを数日前にても海洋調査に基き之を予報する事を得るに至らば漁業者は予め漁具を設備し製造業者は食塩其の他に付き鮮魚處理の準備を了えて之を俟ち一層の利益を増進するに至ること必然なりと信ず希くは海洋調査の方法を協定して之を漁業農業と勸業事業と連絡応用するに至らんことを切望に堪へず殊に今回は測候所よりも來會あるに依り陸上觀測との連絡応用に就いて一層攻究せられんことを望むなり

△協議開始 斯くて協議に移り先づ宮城県の提案漁況通信電報略符號協定の件より始めたるが委員付託に決し寒暖計を回轉式寒暖計に改むる件も委員付託となりて岩手県提案に移れるが是亦全部委員付託となり午餐休憩せり委員は測候所長技師漁撈の三部に分ち測候に關することは測候所長に漁撈に關することは漁撈主任よりなる委員に經費其他以上二項に屬せざる事項は技師よりなる委員会に於て決定することゝ為せり

大正六年六月十五日

●連絡海洋調査

▽協議會第二日

開會中の北海道東北四縣第三回連絡海洋調査協議會は昨日午前九時より引き続き赤十字社支

部に於て開会せるが昨日に於て提案全部委員付託となりたれば陸地測候及び海洋漁撈の二部に岐ちて委員会を開きたるが午後一時終了せるを以て午餐の為休憩し午後一時半より開会せるが委員会の報告あるに先立ち浅野水産局技師の海洋観測上の所感及び注意に関する講演あり殊に熱量の測量に就いては調査の結果を述べて参考に供せり次に梶山北海道技師は北海沿岸の漁況に就き福井岩手県宮古測候所長は海洋観測と陸上測候の關係に就き説明する所ありて委員会を開きたるが塚本岩手県水産試験場長より委員会の結果を報告せるに対し種々質問ありたるが結局委員会の決定通り決議し四時半閉会せり後暫時休憩して懇親会に移れるが川村知事名尾内務部長も出席六時半散会せり決議事項左の如し

一、水産局及び水産講習所属船の連絡県沖合通過に際し左記の海洋調査を遂げ連絡県に通報方申出の件（可決）

△青森県 尻屋崎、恵山岬線及び尻屋岬正東二十哩より鮫正東百二十五哩の点に至る二十五哩毎

△岩手県 鮫正東百二十五哩の点より宮古正東百二十五哩の点に至り宮古に入港

△宮城県 宮古より金華山正東二百哩の点を経鮎川に至る

△福島県 鮎川より塩屋崎正東百五十哩の地点を経て塩屋崎に至る

△茨城県 塩屋崎より犬吠埼正東百哩の点を経て犬吠埼に至る各二十五哩毎に観測

得撫丸は東京湾より金華山沖五十哩以上の点を経根室に至る間二十五哩以上五十哩毎に観測北海道庁に左記の調査を施行し報告せんことを希望す

一、釧路正南百二十哩の点を経て鮫に至る三十哩毎に（七月上旬十月上旬）二襟裳岬より正南五十哩の点を経て尻屋崎に至る（九月十一月）三納沙布岬より正南五十哩の点を経て釧路に至る（八月）四大間函館山間

二、海流の状況漁況等を毎月一回連絡県に通報方主務省に希望申出の件（可決）

三、沖合潮流の方向速度を観測中より削除の件（福島県提出通可決）

四、風力測定器一定の件（可決）

但し風力階級は七級とし秒米突を記入す

五、気温測定時刻一定の件（可決）

但し別欄を設け記入のこと

六、同温線同比重線作図法一定の件（可決）

但し比重に一、〇二四五を加へ温度二十五度を加へ最も普通に表る線は太くすること作図の際不明なるものは点線を用ゆ（以上青森県提出）

第二回協議事項第七条第一項寒暖計を回転式に改め注意事項第四項を削除するの可否（当分の間現今のものを使用し回転せしめ使用すること）

一、表面下半尋の水温比重の測定を加ふること（可決）

二、雲の種類を記入すること（当分試みに実行すること）

実行の前に測候方の講習を受くること米国海軍水路部発刊雲級図より区別すること

三、水色の記載語を一定しこれにより記載すること（可決）

四、天候其の他の都合により引返せし時は更に天候回復後百漕迄観測すること但し六十漕に達したる場合は之を為さざるも可とす（可決）

五、縦断測施行の帰途沿岸の主要点毎に各層の観測を施行すること（随意の行路をとり便宜の地点にて観測すること）

（以上岩手県提案）

一、比重換算に関する事（撤回）

二、五捨六入を四捨五入に改正の件（宿題）

三、一定原簿採用の件（可決様式は福島県に一任のこと）

四、百五十漕深観測点を減少する件縦断観測は原案通り（可決）但し横断観測は沿岸より二十海里ごとに測定すること

五、沿岸に於ける水底観測の件（可決）但し底より三尋を観測すること

六、海流測定の件（可決）

七、漁業日誌調製の件（可決）

但し重要魚族（鰹、鮪、秋刀魚、鮭、鱒、鼠鮫、角鮫、目抜魚、柔魚、鱈）に限り報告のこと

八、相互通報の件（可決）

九、付図調製に関する件（可決）

十、観測表改正の件（修正可決）

（以上福島県提出）

一、同一時観測の件（可決）出帆と同時に連絡県に電報にて通知すること

二、測深儀にて測深方法に関する件（可決）

三、風力階級に関する件（可決）

（以上宮城県提出）

一、河川湖沼に対する鉍毒被害調査の件

重要湖沼河川付近に存在する鉍石採掘場選鉍場精練所及び石油採取所同蒸留所の排出場に付き調査すること

排出物質の種類、排出物の数量

（秋田県提出）

●本縣水産会総会

△本日赤十字支部にて

既報の如く本日午後一時より赤十字支部に於て本縣水産総会を開き事務報告、帝國水産連合会出席報告、会則変更、役員の選挙及び指示事項協議事項ある筈なるがそれに先立ち午前八時より評議員会開催総会に提出すべき案件に付き予め協議する筈なり又明日は午前九時より開会会員提出問題協議浅野水産講習所技師の講演あり閉会となり終わって懇親会開催の豫定なるが出席者は各水産組合役員数十名なりと付議の案件如左

▲会則変更の件

一、第五条を左の通り変更す

集会は総会及び評議員会とし総会は必要の場合に之を開き評議員会は毎年一回三月之を開く
但し臨時議員会は必要に応じ随時之を開くを得

一、第十三条第一項を左の通り変更す

本会は会長に知事、副会長に内務部長を推戴す

一、第十六条を左の通り変更す

評議員の任期は二カ年とす但し満期再選することを得

▲役員推薦及び改選の件

本会会長は目下欠員中に付き之を推薦し副会長及び評議員は大正四年六月の改選にして本月を以て任期満了したるを以て本会に於て推薦及び改選せむとす

▲協議問題

△郡市水産会設置に関する件 大正五年六月本会総会に於て沿岸各郡市に本会支部設置の件を決議したるが右は事業の執行上本会支部とせず郡市独立の水産会と為し本会と相連絡して水産業の発展に努力するを適切なりと認む意見如何

△沿岸漁業の保護に関する件 沿岸漁業は漸次衰退し漁獲高年々減少の傾向あるは甚だ寒心すべきことなりとす

之が保護の方法に関し意見を求む

▲本会会報に関する件 体裁、掲載記事、会員外の購読の件、投稿寄稿に関する件其の他各位の意見を求む

▲指示事項

△鮑海鼠の繁殖保護に関する件 鮑海鼠は海外輸出品にして本縣に於ける重要水産物なるを以て本縣に於ても夙に其の繁殖保護の必要を認め之が取締を見たりと雖尚往々禁漁期を犯し又禁制の魚族を採捕する者あるは頗る遺憾とする所なり今回之等の不心得なからしむるため更に訓令の発布を見るに至れり水産業に従事する者克く訓令の趣旨を体し各自互いに相戒め永遠に其の利益を挙ぐることを期せんことを望む

△貯蓄奨励に関する件 欧州戦争の影響により産業勃興し諮いて一般経済界の活気を呈し来たれるに連れ奢侈に流れ将来の長計を忘るゝが如きことなからしめ勤儉の風を奨め質実の俗を養ひ冗費を節し餘資を積み戦後に於ける資力の充実を期すため今回貯蓄奨励に関する諭告通牒の発布を見たり従来本縣の漁業組合には組合員の共同貯金を為すもの又大典記念積立を為す等夫々計画しつゝあると雖尚一層之等の完成に努むると共に未だ実行しあらざるものは此の際速やかに貯蓄の方法を講じ以て戦後経営の資金を充実し諭告の趣旨の貫徹を期せられんことを望む

大正六年六月十六日

●縣水産会総会

▲評議員会 昨日午前九時より赤十字支部に本縣水産会評議員会を開く来会者は中村水産試験

場今泉秀雄松森豊の三幹事を首め

伊藤慶太郎、寺沢栄、木村多喜蔵、種市忠七、吉田喜三郎、平内金兵衛、逢坂亀松嶋川久一郎、津幡文長（代理津幡政雄）

の各評議員にして副会長名尾内務部長病気欠席の為幹事長重信理事官代って会議席に着き開会を宣し直ちに会則変更案より付議せるが提案は評議員会は毎年一回三月之を開くとあるを同月は恰も融雪期にあるを以て通行上頗る困難なれば適当なる時期に於て開会することとして三月を削除することとし指示事項鮑、海鼠の繁殖保護中に帆立を加ふることに決せるが其の他は提案全部を可決し十一時半閉会せり

▲総会開会 午後二時総会を開く重信幹事長中村幹事は番外席に浅野水産局技師梶山北海道技師は来賓席に着き会長欠員副会長幹事長事故の為今泉幹事議長席に着き遠路来会の労を謝して開会を宣し直ちに事務の報告に移る重信幹事長昨年度事務の概要を説明異議なく承認次に会則の変更に移れるが三件を一括して付議決定

▲評議員選挙 続いて評議員の選挙に移れるが河野栄蔵氏の発議により各郡より一名宛の詮衡委員を挙げ其の選定に一任することとなりたれば議長は左記七名を詮衡す

東郡白鳥芳三、西郡嶋川久一郎、北郡伊藤廣太郎、上北米内山與左衛門、下北太田直義、三戸長谷川権之助、青森松森豊

委員は別室に於て協議の結果左の如く決定したれば議長より報告せり

△東郡田中金兵衛、津幡文長、赤坂和一、弘戸與治左衛門△西郡寺沢栄、長谷川義、嶋川久一郎△北郡伊藤廣太郎、柏崎由太郎△上北吉田喜三郎、齋藤與太郎、種市忠七△下北河野榮蔵、太田直蔵、坂本豊吉、森又四郎△三戸郡神田重雄、中村栄吉、長谷川権之助、木村多喜蔵△青森伊藤勝太郎、荒井由太郎

▲両技師講演 浅野水産局技師は漁業界に臨むと題し水産業は国富を増進する上に於て重大なる責任あれば将来益々進歩発達に努めらるべしとの意味にて講演を為し梶山北海道技師も東北及び北海道の漁業状況より将来の発展方法に就き演説ありて指示事項に移れるが鮑、海鼠、帆立の繁殖保護に関する件貯蓄奨励に関する件は中村幹事の説明ありて協議問題に入り郡市水産会設置に関する件は重信幹事長の説明あり沿岸漁業の保護に関する件に就いては中村幹事の説明ありたるが何れも重大なる問題なるを以て一先ず休憩四時引き続き開会河野氏より協議問題委員付囑説ありたるに満場異議なく決し委員は七名とし左の如く議長より指名ありて休会せり
長谷川権之助、伊藤廣太郎、白鳥芳蔵、嶋川久一郎、米内山與左衛門、松森豊、河野栄蔵

▲出席者氏名 当日の出席者如左

△石岡才次郎、千葉慶吉、小笠原弥平、白鳥芳蔵、細川市三郎、亀田元八、鳥谷宮三郎、船橋與三郎、遠島與三郎、江渡留次郎、飯田仁太郎、濱田藤太郎、森岩太郎工藤與三郎、藤田健治、細井佐吉、△西郡又地区八△北郡柏崎由太郎、伊藤廣太郎△上北郡逸見良春、田中金兵衛、田中五郎兵衛、種市忠七、小比類巻要人、米内山與左衛門、吉田喜三郎△下北郡河野栄蔵、太田直蔵、山本郡書記△三戸平戸馬之助、田中清三郎、長谷川権之助、大島渉、木村多喜蔵

●西海岸の漁況

▲鮪漁 鮪大謀網は入梅前を第一期とし入梅後土曜迄を第二期とし土用後を第三期とし例年第一期に於て総漁獲高の三分の一を漁するを例とし居りたるに本年は潮流の関係か又は薄漁に陥りたる関係か是迄なき不成績にて各大謀網の漁獲高は

鎧島の四十一尾を最多とし籠島の二十三尾を次位に入前十六尾、赤平十一尾、柳田六尾、松神六尾、大和田四尾、関三尾、轟木三尾、追良瀬三尾、横一尾、月屋三尾等なり

▲大鯖漁 本年の如く大鯖の群來たるは前代未聞にして日本海に面したる山形県以北鱒ヶ沢に至る間は一帯に大鯛と大鯖を以て海中を占有し他魚の侵入を許さざる如き觀あり然るに大鯖を漁獲する設備なく唯鯖大謀網を以て其の小部分を漁したるに過ぎず各大謀網の漁獲高如左

赤平四萬五千尾、大和田一萬一千尾、柳田五萬四千尾、関二萬三千尾、籠島二萬六千尾、鎧島一萬尾、轟木一萬二千尾、追良瀬八百尾、入前六千尾、沢辺三萬尾、松神一萬五千尾、中間一萬二千尾

▲大羽鯛漁 例年入梅と共に退去する大羽鯛は入梅後も未だ退散せず益々豊漁漁舟一艘に付平均一萬尾以上の漁獲あり西海岸を通して是迄一千萬尾以上の漁獲あり金高にして三萬圓以上内粕に製造したるもの千石以上なりと云ふ

●練輸送の減少

▽前年より二割四分減

北海道樺太産の練輸送は漸次終了に近づかんとしつゝあるが本年は薄漁の為前年に比し甚だしく輸送数量を減じ去る三月二十九日初輸送以来六月十日迄の成績を見るに青森通過総数量一萬三千噸にして前年に比し実に二割二分の減少なり如左

今年自三月二十九日

		至六月十日	昨 年	増 減
	青森	四、二四四	五、八一四	△一、五九〇
東北線	浦町	一、一八三	六九九	四八四
	連絡	一、六三〇	四、〇九六	△二、四六六
奥羽線	青森	五、八八七	五、八八二	五
	連絡	五一〇	一、三〇五	七九五
計		一三、四五四	一七、八一六	△四、三六二

●水産試験場移転 縣廳産業課に置きたる水産試験場事務所は昨日より築港事務所会場正面に移転し同所に於て執務する事となれり

大正六年六月十七日

●縣水産会總會

△会長の挨拶 縣水産会總會は昨日午前十時半より前日に引き続き開会せるが出席者は一昨日と大差なきも新たに長谷川義、中村栄吉氏等参会せり廳て今泉幹事登壇して決議に基き川村知事を会長に推戴し其の承諾を得たる旨を述べて紹介せば新会長川村知事登壇大要別項の如き挨拶

撈を為たるが後別室に於て委員会を開きたる為本会は一時休憩せり

△委員長報告 十一時二十分今泉幹事議長席に着き河野委員長より郡市水産会設置に関する件は最も適切なる施設なれば郡市長幹事評議員協力一致して速やかに設立する事と為し又沿岸漁業の保護に関する件に就いては漁獲高の減少は潮流の変化によるやも知れざれば海洋の調査を縣當局に依頼し又濫獲に起因せざるや否や、漁場の整理、魚付林の植林等に就き縣當局に調査を依頼し其結果により意見を定むることゝ為し会報に関しては幹事に一任せる等委員会決定の次第を報告せるに異議なく委員会の決定通りとなれり

△報告と希望 次に松森幹事より帝國水産連合会第二回大會に本縣代表として参列せる概要に就いて報告あり長谷川義氏より勤儉貯蓄共同販売、郡長の組合監督等に付き一般漁業者に徹底するやう訓諭の方法を採られたしと希望あり嶋川被災地労使より水産上の根本政策前回の建築案の進捗等に就いての質問ありたるが何れも今泉議長を通じて縣當局に陳情或は照会することゝなり十二時二十分閉会せり

△懇親会開会 閉会后直ちに浜町坂井家に於て懇親午餐会を開会せるが出席者三十餘名午後二時閉会

●水産業者に望む

▽川村県知事の挨拶

水産は産業中最も重要な事業にして殊に本縣の如く三面海を以て環らす所に於ては特に力を此の方面に注ぎ改良発達を図り奨励の方法を講じ以て益々産額の増進を期せざるべからず故に今回会長に推薦されたることに就いては喜んで承諾したる次第にて微力を致し諸君と共に向上発展の途を講ぜんとす諸君に於ても余の意のある所を察し大いに斯業の為奮励せられんことを望む

△本邦水産額 は一億内外に過ぎず而して又本縣の産額は年々百五十萬圓内外に止まり居るが統計に誤りなき以上先ず以て確實なりと認めざるべからず四面環海の本邦としてはより以上発達し漁獲高を増進せざるべからず殊に本縣にありては一層然るを覚ゆるなり漁獲高を増加せしむるには如何にしてよきか此の目的を達成する手段方法は実に重大なる問題として考究され居るが先づ以て

△漁船漁具改良 は先決問題にして此に次は漁獲物を有利に処分することにあるべし斯するには自然の要求なるが資金は自己の有する資金を注入するか他よりの借入の上放資する外途なし自費は勤儉貯蓄の結果に待たざるべからず此點に就いては四大臣の訓令もあり県よりも訓諭の方法を採れる筈なり尤も漁業家の貯蓄は困難にして種々の関係上容易ならざるは認め得る所なれども此を為さざれば漁船漁具の改良は出来ず改良出来ざれば到底発達途なければ此點を一般當業者によく周知徹底せしめらるゝよう盡力ありたし

△政府県当局 に於ても低利資金等の融通をなるべく多くし以て當業者の資金を潤沢ならしむる方針をとり居るを以て此の方面に於ても将来便宜を得る所少なからざるべし尚又漁獲物販売の方法に就いても如何にせば有利有益に処分し得るやに就いて一層研究せられたし縣に於ても又考慮を怠らざるべし又漁獲物の製造は常に粗製乱造の嫌いあるが将来は特に精製するやう致

されたし本邦貿易は四億より十億に達せるが為自然水産物の輸出額も増加せるならんが一般に粗悪なりとの評を得ること稀ならず故に一度

△平和克服 の後は現状の貿易額を維持し得るや否やは甚だ不安に堪えざれば今日より製造方法の改善等に意を注ぎ以て最後の勝利を占められんことを望む総て事を為さんとするには當業者共同一致の力を以て其の成功を期せざるべからざるは云ふ迄もなければ諸君は充分此點を考えられたし要するに各方面に対し充分改良發達の方法を講ぜられんことを望む

大正六年六月二十日

●漁船奨励金下付

予て出願中の三戸郡湊村大字濱通字柳町神田重雄遠洋漁業奨励法に依る漁船奨励金は今回船体一噸毎に十九圓機関一馬力に付き十一圓の奨励金を下付する旨水産局長より指令ありたり尚上北郡野辺地町大字野辺地山根守蔵出願に係る同奨励金は一噸毎に十七圓宛を下付する旨指令ありたり

●北海発着貨物（上）

▽青森運輸事務所調査

青森運輸事務所にては今回業務上の参考に供する為青函連絡船に依る連絡中継貨物の數量を調査せる所に依れば主要品噸数如左

▽本土発北海道着主要品

	三年度	四年度	五年度
藁工品	三、四一三	三七、一六三	四七、九七六
米	八、〇〇七	一七、七七七	二一、四九九
味噌	五八〇	九三二	一、一四五
醤油	四九三	六〇〇	一、〇二一
刻菘	一、九四二	一、七四〇	一、六〇四
蜜柑	四、七四八	六、三五四	九、五五〇
林檎	一、二六二	一、四一七	二、六二〇
生柿	二、六四〇	三、四九八	三、五六七
果物	一、一六七	一、三六六	一、三二二
野菜	四二一	八三一	一、〇四二
和酒	一八三	三八九	四九九
麦酒	一二八	七八	一一一
不工木	八五四	七五二	二、一六三
綿布	三四三	三二八	一一四
鉄器	三五〇	六九一	一、四五〇
兵器	二一七	三九七	六四五
塩干魚	三二七	八四一	一、五四一

桃	---	五一八	四五一
石油	三七二	四九二	三四九
桶木	---	五七五	八四九
陶器	---	二六八	一、二〇六
足袋	---	二三八	二一七
甘藷	---	一八九	一、九四一
菓子	八三	二六五	一二三
煉瓦	二〇八	---	---
石膏	---	---	二、〇七四
其他	一七、六九四	二七、三五六	四三、八八九
合計	七二、四三二	一〇五、〇五五	一四八、九二六

大正六年六月二十三日

●本縣の水産界（上）

▽昨年海産額二百萬圓

△大正元年の調査に依ると本縣の沿岸里数は百七十里で全国中第十位に位して居るに拘らず其の沿海一里当たりの漁獲高が僅かに十五圓二十二錢四厘で第二十九位にある従て其の水産総額も第二十二位に居り二百五十八萬八千圓で本縣より海岸線の短い静岡三重新潟諸縣に比せば遙かに少ない

△即ち従来本縣の漁法は専ら暖流魚族を主とする沿海漁業にありて寒流魚族の豊富なる遠洋漁業の振はざる為と漁船漁具の改良等操業の舊套を脱せざりしが因をなして一般に水産界が不振であったので其の生産高も製造漁獲を合して常に二百五十萬圓を上下して居る即ち最近数年間の水産総額は

四一年	一、七五二、五二七	元年	二、五八八、一九九
四二年	二、一五八、八九六	二年	二、四〇九、一三六
四三年	二、八九一、二九〇	三年	二、六五八、一三六
四四年	二、七三九、七九二	四年	二、七一一、五四三

△斯様にして年に豊凶の差があり生産額の一張一弛を免れぬが近時遠洋漁業も追々發達し来たり沿海漁業と雖従来多くは定置漁業であったのが諸種の漁具を使用する様になり従て魚族の種類も漁獲高も漸く多くなり又水産製造界に於ても罐詰蒲鉾等著しく發達普及の機運が熟してきつゝあるのは斯界の為に喜ぶべき現象であらうと思ふ

△さて昨年中に於ける海産漁獲物の状況を見ると沿海の総生産額が百六十八萬二千四百九十二圓県外即ち北海樺太若しくは岩手近海に出漁して漁獲したものが三十萬八千八百五十四圓計百九十九萬千三百四十六圓で前数年に比せば大分増加して居る右の内沿海産の魚類が百十萬二千八百六十二圓貝類が八萬七千三百八十圓烏賊とか鯨とか云ふ水産動物が三十四萬四千三百九十五圓藻類十四萬七千八百五十五圓である

△更に前叙の百六十萬八千余圓の漁獲物を沿海別に観察すると三戸上北下北の三郡を抱擁する陸奥東海の総額が八十四萬五千二百二十八圓で其の総額の大部を占め次には下北東郡北郡を包括する津軽海峡面が三十六萬九千八百八十一圓青森湾内即ち上北下北東郡青森の沿岸を占むる陸奥内海が二十七萬八千四百四十七圓西北兩郡を通する陸奥西海が尤も少なく十八萬九千九百三十六圓で各沿海に於ける斯業の不振を卜するに足るべき計数を示して居る

△此を更に各種別に見ると魚介藻類の分布も略推知し得ると思ふ即ち魚類にありては東海最も多く此に比肩すべき何者もない貝類にありては海峡が第一其の次が東海之が主として柔魚の多漁にあり藻類ではやはり同様に内海の如き云ふに足らぬ即ち

	魚類	六五〇、八七一		魚類	七八、三一五
東海	貝類	二九、三九五	海峡	貝類	三七、五八八
	動物	一〇八、八三九		動物	一七七、〇二〇
	藻類	五六、一六一		藻類	七六、三五八
	魚類	一二三、〇〇一		魚類	五〇、七七五
西海	貝類	五、〇〇三	内海	貝類	一五、四三三
	動物	四六、六一二		動物	一一、九二四
	藻類	一五、三二〇		藻類	一六

大正六年七月五日

●東郡宇鐵漁業組合便り

△鮑捕獲事業 鮑捕獲の潜水器事業も既に末期に付き去る二十九日組合会に於て漁夫等への賞与金額及び不用品処分等の為會議を開きしが鮑の捕獲は先年より約一萬以上の減数なるも価格に於て予定外に上り約三萬圓以上の利益となるを以て賞与額も先年は四百圓内外なりしが今回七百五十圓に増加せり事業及要せる物品の内変更せるものを除き他は相当の保管料を付し保存する方然るべしと心あるものは其の異なるも廉価にて払い下げを乞うものもありて決定せざるより組合役員と事業部幹部と委員中より三名処分委員を選定し処分会に於て決定するに決せり
△送別の宴会 七月一日事業部雇用の人員と潜り夫人員役員外委員一同約百余名にて送別の盛演を張れり

△石花菜採取 第二回石花菜の採取は三日より七日間採取して其の後各区総代に於て該品調査の上購買入札にて販売する事に決定せり

●鯛の大漁

△野辺地馬門方面

野辺地灣は鯛漁甚だしく大当たりを占め例年十五六日と限られたる漁期が此の頃は五十余日も引続きたる為漁獲高非常に多く野辺地町は鯛粕のみにて十五六萬圓を製造し尚ほ馬門付近も豊漁なる為漁夫はもとより一般の商況も景気引き立ち居れりと

大正六年七月六日

●水産製造物

百二十六萬六千余圓

大正六年に於ける本縣水産製造物は百二十六萬五千八十七圓に上り近年稀有の生産額を示せり一昨年は僅かに七十九萬六百余圓に過ぎさりしたため當業者は頗る失望せるが昨年は一躍四十七萬五千二百四十圓を増加せり最近五カ年間に於て製造高の多きは大正三年の百十萬六千四圓に比較するも尚且十五萬九千圓を増したるを以て近年稀にみる好成績と云ふべし

△節類は減少 本縣に於ては節類を鯉と鮪の二種に分ち居るも殆ど鮪節を製造せることなく全く鯉節に限られ居る状態なり然も之とて陸奥東海岸に限定され居る有様なれど昨年は鯉至つて薄漁なりし為其の製節高も思はしからず上北郡の一萬五千貫三千圓下北郡の八百三十貫千八百二十六圓三戸郡の一萬六千六百貫三萬四千九百圓計三萬二千三百三十貫六萬六千七百二十六圓にして昨年の七萬四千百八十七圓に比し七千四百六十一圓減少せり

△素干製造高 素干は三十九萬八百六十圓に達し前年に比し十五萬六千四百十圓を増せり尤も漁獲高より見る時は左程増加せるに非ざるも製品の騰貴は価格を激増せしめたるなり

製品名	東海	海峡	湾内	西海
一番鰯	○	○	○	二、〇〇〇
二番鰯	五九、二四〇	二三八、九八六	三、一三六	二、五四四
鱧鱒	二、三〇〇	○	五、一〇〇	四九〇
田作	六二、一八四	八	四、五四五	六
鯖	○	○	二八〇	○
かすべ	○	一、〇五六	○	七五
鰈	八四	○	○	○
河豚	○	○	三〇〇	○
其他	○	○	八六四	○
計	一三三、五九二	二四〇、一三〇	一二、二三〇	五、一一五

(注：かすべは魚扁に白 一番鰯、やりいか 二番鰯、するめいか)

其他塩干は内海に於て鯖四百六十七圓鱒五百五十五圓を出せり

△煮干製造高 総計三十萬六千五十二圓にして昨年の十五萬九千六百二十五圓に比し四萬六千四百二十七圓を増せり

製品名	東海	海峡	湾内	西海
真鰯	二二、三六四	一、一七五	七、九四〇	○
背黒鰯	一一一、六五一	○	四八〇	○
海參	○	九九	二〇、八二〇	○
海扇貝柱	○	○	一六、七四七	○
赤皿貝柱	○	○	七〇〇	○
鮑	二四、三六〇	六五、四〇九	三〇、一八〇	三、〇七〇

計 一五八、七八七 六七、〇二八 七七、一六七 三、〇七〇

△焼物製造高 総計七萬五千九百五十三圓にして一昨年の六萬四百二十九圓に比し一萬五千五百二十四圓を増加せり

製品名	東海	海峡	湾内	西海
鯖	〇	〇	七、八五〇	〇
真鰯	二、四八五	〇	四六、九三一	四〇
背黒鰯	六、七五三	〇	一二、五五四	〇
鱈	〇	〇	一〇五	〇

△塩物製造高 総計七萬九千九百八十六圓にして前年の二萬八千二百九十一圓に比し五萬一千六百九十五圓を増せり

製品名	東海	海峡	湾内	西海
真鰯	五一、七六七	一八〇	九、〇〇〇	三〇
背黒鰯	四、六〇五	〇	〇	〇
鮭	六〇	〇	〇	〇
鱈	〇	〇	一、六〇〇	〇
鯨	八、〇〇〇	〇	〇	〇
海丹	四、四三八	八一	二二五	〇
計	六八、八七〇	二六一	一〇、八二五	二〇

其他澁海苔澁松藻等東海岸に二千六百圓海峡に五百十四圓を出せり

△肥料魚油製品 は三十四萬一千二十一圓にして昨年の二十萬七千三百四十三圓を増加せり

製品名	東海	海峡	湾内	西海
鰯粕	二〇、〇六〇	三四、八三八	七九、三五〇	二五
其他	〇	三一	〇	〇
干鰯	〇	〇	二五八	〇
干鯊	四、七三八	〇	〇	〇
鯨粕	八、〇七〇	〇	〇	〇
鰯油	一三、七九二	七九八	三、七八〇	〇
鯨油	一〇、一七五	〇	〇	〇
鮫油	〇	〇	四、五〇五	〇
計	一六九、三五〇	一五、六六八	八七、八八三	二五

△淡水産製造所 総額一千七百七十圓にして昨年の千三百十七圓二比し四百五十三圓の増加あるが細別せば左の如し

製品名	西郡	上北	三戸	計
塩鮭	〇	四九二	二〇〇	六九二
蛭佃煮	〇	一八	〇	一八
蜆佃煮	六五	〇	〇	六五

鯪佃煮	四〇〇	四五	〇	四四五
其他	〇	五五〇	〇	五五〇

大正六年七月九日

●有望なる虹鱒池中養殖

▽中村試験場長談

本縣の虹鱒は米国カリフォルニア州より大正元年八月本縣水産試験場相坂孵化場に移植し昨年来此の種魚より採卵して之を縣下各地に配布し孵化飼育をせしめんとするものにして既に下北郡恐山湖、西郡岩崎村十二湖又は北郡相内村溜池其他付近の湖沼等に移植するに至れり然れども其の湖沼に於ける成績は未だ日浅くして詳らかならず縣試験場に於て相坂及び岩木川孵化場に池中養殖として飼育せるものゝ成績に依れば頗る本縣の地勢風土に適し前途有望なり今本事業を經營せんとする有志者の為に予め注意すべき要点を述べ斯業の参考資料とせん

◆位置の選択 虹鱒は他の鱒類と同様に冷水を好む然れども本種族は鱒族中頑健にして割合に暖水に堪ゆるを特性とす是本邦中九州付近にも尚本養殖をなさんとする地方多き所以なりされど池水は常に交換し得る場所にして土地に高低あるを良とす元来池と湖沼の別あるは池は任意に之を潤し或は湛え得るものを稱し湖沼は之をなす能はざるものを云ふ故に池を築造せんとせば水利の便ある地にして可成高地を選ぶべし是一つに池水に異変起り養魚に病敵発生し或は商売の時期に際し之を漁獲せんとするに當たり池水を潤し捕魚を容易ならしむることは養魚經濟に關係尠からざればなり前叙の關係上虹鱒養殖池は山手又は森林溪谷より湧水する冷水を引用し得る高所にして日当たり良き場所を選択すべし△尚一つの希望は成るべく市街地に接近し鉄道其他交通上の便宜ある地を選ぶべし否ざれば餌料又は日用品の購入或は養魚商売の爲輸送に多額の経費を要し養魚經濟上の不利益尠なからざるべし是選択上注意を要する所以なり

◆池の規模 池中養殖は凡そ何種の魚族を問はず少なくとも一町歩以上を以て經營施設せざれば其の費用の割合に収入少なく目的を達し難かるべし故に本虹鱒養殖も之に依りて以て衣食せんとせば一町歩以上の計画を要すべきは云ふ迄もなし

◆設備と經營費 一町歩の地所を購入し事務所兼宿舍、倉庫、孵化室等を建設し所要の養魚池を築造して機械器具を設備するには約一萬圓の創業費を要するも經常費は助手給料、飼料、通信運搬費、種苗代及び雜給等にして千五百圓内外にて之を經營し得べし(つゞく)

●貝鈕釦の材料

▽小河原沼の淡貝

欧州諸国に於ては時局の關係上軍事關係以外のものに対しては手廻り兼ね居る爲各種日用品の物貨は非常に騰貴せるが貝鈕釦の如きも原料に不足を告げ且又生産高俄かに減少せる爲價格も従つて高騰し遠く本邦より供給を仰ぐ状態となりたる爲其の材料となるべき貝類は各府県に渉り採集されつゝあり

△本縣にては淡貝 貝鈕釦の材料となるべき貝の内本縣に於ては上北郡小河原沼より産する淡貝は最も有望なり此の貝は大いさ普通四寸内外なれども大なるものに至りては六七寸のものも

珍しからず肉は食料に供せらる尤も此の貝は独り小河原沼に限らず十三湖及び其他一二の沼よりも多少採集せらる近江の琵琶湖よりも産し又霞ヶ浦よりは年々四五萬圓の産額ありと云ふ
△相手は神阪人 大阪及び神戸の商人は小河原沼淡貝の品質優良にして産額の豊富なるを探り本縣水産試験場に対し買受方照会し来たれるもの十数人に達せるが桁網を使用するならば使用許可出願の要あれど普通熊手を以て採集するに於ては改めて手続きを要せず漁業組合の採捕自由なれば其旨を告げ直接付近の漁業組合に交渉するよう紹介の労をとれり

△共同販売か 尚水産試験場にては地方漁業組合に対し此等輸出商の希望する所を告げ副業的に採集するは頗る有望なる仕事なるが採集せるものは個人にて勝手に売買せず組合に於て収集し共同販売の方法を講じて利益を確実ならしむるやう注意せりと其後の成行きは今の所知り得ざるも多分交渉纏まることなるべし然して採捕せる貝は加工し未成品として神阪の工場に送付することゝなるべし

大正六年七月十日

● 有望なる虹鱒池中養殖

(続) 中村水産試験場長談

◆収穫高の見込み 前叙養魚池に虹鱒卵十萬粒を購入孵化し之を飼育するに八歩留りにて八萬尾を得べし之を一カ年内外飼育せば昨年来本場岩木川及び相坂孵化場の成績に考うるに一尾平均四五寸以上に達し三錢又は四錢にて購買せんと申込むもの頗る多し又之を香魚の市場に上らざる前京浜に輸送せば従来市況に考ふるも敢えて過当にあらざるべし故に一部分は地方にて隨時売り捌き一部分は東京其他市街地に輸送し商売せば平均三錢五厘に処理するを得るならん今八萬尾中一萬尾は親魚候補として引続き飼育し七萬尾を売却せば其の代金二千四百五十圓に達す而して本魚族と共に一部の池には鰻百貫内外を混養するを得べし五匁内外の鰻は一カ年にして三倍余に成長す此の鰻の副収入にて二百五十圓を得るは難からざるべし従って經常費千五百圓内外に対し千有余圓の利益と親魚候補一萬尾内外を得られ之を以て逐次創業費を償却せば豫定の目的を達するのみならず満三年せば一萬内外の親魚より五十萬以上採卵し従来種卵代を節約し得るのみならず之を商売して更に千余圓の収入を増進し今後逐年種卵販売高は其の量を増加して収益を増進するに至らん此の他公魚又は鯉金魚等一部の池を利用し養殖せば利益決して尠なからざるべし

◆経営方法 斯く虹鱒池中養殖は本縣に適し加うるに幸ひ稚鰻は小河原沼に多く産し購入し易し斯かる有望なる事業も地所購入其他建築機械器具の設備費用を多額に要し資本の固定するは止むを得ざる次第に就き少なくとも五萬圓内外の小株式又は合資會社組織として資本を充実し企業するを得ば其の目的を達するに便なるべし今地所配当及び収支概算を記述せば左の如し(以下略)

● 下北煙毒調査

下北郡下に於ける煙毒被害程度益々拡大し農作物及び森林に其の猛威を逞ふる為め被害町村よりの申請もあり又要港部よりも調査方依頼あるやにて遠藤技師被害状況調査の為一昨日出

張せり

大正六年七月十三日

●昨今の漁況

▲湾内の鰻 当湾内に於ける中羽鰻は数日前西海岸より回遊し来たれるものにして水産試験場浅虫沖合に敷設せる小台網にては六日より八日迄三日間にて四十桝価格四十五圓余りの漁獲ありしと全小台網は去る五月十九日建込みたるものなるが今後益々有望なりと尤も全小台網以外多数の漁船が相当の漁獲をなしたるため中羽イワシは数日来市中に尠なからず散見するに至れり

▲鰯の漁獲 西津軽郡沢辺大謀網にては去る四日鰯二百三十本五日に三百本を漁獲せりとの報告水産試験場に達せるが若し鰯専門の大敷網を敷設せば必ず相当の漁獲あるべし尤も地方の有力者にして鰯大敷網敷設の有望なるを認め先進地に紹介する等種々調査し居るものありと云へば遠からず実現するやも知れず

▲鰹漁況 金華山沖合より宮城県沖合の近況を聞くに鰹は群遊するも餌付き悪しく加ふるに天候不穏なるが天候恢復と共に出動の見込みなりと福島及び宮城県の漁業者が常に百数十湊沖合にて活動する状況に鑑みるときは本縣の鰹船も同程度の沖合に出漁せざれば充分の成績を挙げ得ざるべく将来は益々沿岸近くにては望みなくなるべし

▲漁港の要 沖合遠く出漁するとせば漁獲物を冷却するの装置を必要とすべくさすれば冷却材の氷塊を準備する等自ら漁船を大ならしむる必要を生ずるなり之殆ど時代の要求なるがさて又漁船を大型にするとせば定繫場たる港湾の施設を必要とすべし若し此の注文にして出来得ざれば本縣鰹漁は先づ次いでより以上の発展は面倒にて将来は年々退歩するより外なからん漁港修築の要は此の一点にても緊要なり

大正六年七月十四日

●漁業組合指導

県内の漁業組合は何れも明治三十五年漁業法發布に当たり専用漁業権取得の目的を以て火急的に設置されたるものなるが其数百五を算し居れど其の成績見るべきものなく積立金の如きも普通に属するもの一萬五千九百九十五圓余、大典記念積立金一千百九圓に止まるに見るも其の内容余りに充実され居らざるを知るに足るべし

△不統一の状態 斯粗製乱造の姿にある組合は多きは一村に八ヶ組合もあり殆ど各部落毎に設立され甚だしきに至りては一部落に二ヶの組合を設置するもあるが之に反し其の地区長きは十里に亘るものあり従って組合員の多きものありては五百余名を算すれども尠なきは僅かに六名を有するに過ぎざるものあり故に組合の活動を堅実ならしむるには此ら組合の整理統一を以て先決問題となすべし

△信用亦薄弱 故に組合員共同の利益を増進すべき施設事業等ほとんどなく多くは事務所員会議費等の支出の他生産的施設なきを以て現在の儘にては活動全く不可能なるのみとす信用等の

如きも非常に薄弱なれば活動資金を求むる点に於ても頗る不利益なり相当なる組合にして尚且一個の法人としての信用を認めざりしも一にして止まざる等世人は水産組合を以て専用漁業権取得の口実の為にのみ組織せられたるものと誤解するもの少なからざる如し

△将来の施設 尤も中には相当の成績を挙げ居るものあれど其の数至って尠なし組合の将来は組合役員の智識を向上せしめ団体の強固を図らざるべからざるが亦一方には少なくとも一郡に数名の技師者を置き監督指導せしめ常に各郡沿岸を巡回せしめ直接組合員接近して指導せしむるを要す其上漁獲物共同販売事業、強制貯金、共同購買事業、強制購買貯金、生産強制貯金の奨励は肝要なり

△県当局の方針 縣当局は組合不振の原因は其の地区狭小にして其の数多きに過ぎ適當の理事者を得難きに因るものと為し将来は漁村の実情を調査し地勢其他従業施設經營の状況を考査し組合の併合を行はしめそれと同時に優良なる理事者を得るに努め亦一方には共同販売、共同購買、共同貯金等必要適切の事業を施設せしめ以て漁業の堅実なる発展を期せしむる方針なりと

△組合郡市別 左の如し

郡市	組合数	積立金	記念積立金	負債
青森	一	〇圓	〇圓	四〇六圓
東郡	三六	一、〇九四、九〇三	一一〇、四七〇	
西郡	一八	一、七九〇、〇三六	五〇、五〇〇	
北郡	二	一、一〇〇	五〇、〇〇〇	
上北	一〇	一、一八二、三三八	九六六、二八〇	九六六
下北	二〇	七、一六〇、八六三	〇	
三戸	一八	四、三五七、三二七	〇	
計	一〇五	一五、五九五、五六七	一、一〇九、六五〇	一、三七二

●川村知事の下北巡視

既報の如く川村知事巡郡に付七月十一日朝門田郡長は熊谷郡書記を随え亦五戸競馬会の帰途河野産馬畜産組合長も共に野辺地より乗船田名部町字近川に案内し佐々木農場の視察を終へられ大湊に着港せらる是より先大湊にては町端に出迎えの官民百数十人点灯後平野警察署長を先驅に次で小山田主事門田郡長等腕車に其の他は馬車にて一行鍵本旅館に投ぜり

△歓迎会 田名部川に臨める横街の松や旗亭を会場は軒なる無数の紅灯美しき影はゆるやかに流水に映じたり知事を正賓に小山田主事

司催側門田郡長、東山税長、平野警長、佐々木農場、太田大湊、二瓶東通の両村長、山中、丸山の両医院長、杉山徒弟、石井視学、北野、宮本、川島の大湊、長尾五九、菊池（龍）銀行、山本（健）郡書記、加香、土木、高清水、電燈、工藤汽船の両支配人、山本産馬副長、村木、坂本、川島、小池、杉山の各町議、山木、石野杉山（石）、中村（寅）、立花、川島の各商、南部技手、中島徴兵保険員、菊池水産、二本柳、中島両郡議、菊池二課長、山本（八）、河野の両県議、田名部町長等

配膳となり菊池町長は

長官閣下には御赴任以来席温まる隙なく縣治に御精励曩に要港への御途次今回は更めて御巡郡我々郡民慶賀に堪へず由来本郡は氣風純朴而も地勢上世間に疎く総ての事他に後れ勝ちなれば偏へに御指導を仰ぎたく茲に田名部大湊町村有志相謀り此の好機に於て御高話の拝聴を望みたるに御疲労の所御光臨下されたるは幸甚也何等設備なき粗宴御旅情を慰するに足らざるも只々微意を諒とせられ御寛ぎを願ふ終りに閣下の御健勝を祝し謹みて敬意を表すと挨拶す献盞酬にして知事には

本郡は天然の地勢上逐年開發の機運に向かひつゝあるは欣ぶべし昨年に於て電燈も点火し又大湊鐵道の敷設も開始し之が運輸の暁には地方の状況も一変すべし兎角文明の利器利用すると否らざるは地方發展に関する所大也総ての事業は一致共同の事業に向かつて画策するは必要又本郡は指導者よく百事統一さるゝ美風あり之を持続せんを望む尚ほ寵招の謝辞す云々坐間、吉、子、六助等幹旋主客歓談數時乾杯萬堂の健康を祝し正賓の辞宴に垂ぎ三々五々歸途に就きしは十時を過ぎたり知事には恐山を越へ大畑村に下山下風呂泊の豫定にて門田郡長石田視学南部水産技手山本健郡書記伊藤土木監督員随行田名部町より菊池恭三助役案内したりと

大正六年七月十五日

●漁網標識設備

青森築港工事用石材運搬の為野内村浦島より青森市沖合に至る間は目下曳船汽船二隻を以て一日往復十二回の他請負に属する小蒸気船發動機船等の航行頗る頻繁を加えつゝあるが同汽船行路中の建網又は刺網等に思はざる損害を與ふることあるのみならず航行上支障を招くべきを以て航路内に於ける建網又は刺網漁業者は漁網の適宜の部分に一定の標識を付して相互の不便不利を予防せざるべからざる為今回縣より東郡長及び市長を通して當業者へ標識の設備を促せり

大正六年七月十七日

●行衛不明七名

△東郡野田村の慘事

本年三月二十四日北海道礼文郡船泊村小倉漁場に於て遭難行衛不明となれる十六名の内七名は野田の青年にして在郷軍人二名に團員五名なり孰れも惜しむべき青年なるが今其の生前に於ける善行を調査せしに昨年十二月三十日夜半三厩村鳴海初三郎所有小廻船二名乗りは青森揚げの焚炭を満載し当野田沖に差しかゝりし際俄然東風猛烈となり雪さへ加はりて遂に船体の自由を失ひ救助を叫びしかば前團長藤田兼吉氏團員を指揮し死力を尽くして努力せる結果人命外積載物は格別の損害なく救助の目的を達したり当時今回の遭難團員たる木村精次郎飯村豊三郎藤田甚作三名も奮闘者の一人なりと越えて一月二十四日午後十時西北の風烈しく大時化となりしが折柄石崎村の漁船三艘当沖迄避難航行中進退の自由を失ひ救助を叫びしかば團員一同出動し渚を嘔む狂瀾も身を切る如き互寒を物ともせず孰れも努力して漸く一艘は引揚しも他は其の目的を達し難かりしかば暫し沖合に停泊せしむるの止むなきに至れり然るに約一時間にして船

内燃料尽き剩へ海水の侵入に因り刻々危険に瀕したれば船具を燃料とし再び救助を求む茲において團員中より決死隊を募りしが蹶然聲に応じて出動したりしは

遭難團員木村精次郎、飯村豊三郎、二名外木村久次郎（在郷軍人）、登坂勘十郎（全上）、鷺尾石蔵、前田栄作、登坂栄作、木村泰一

なりしが遂に通船救助の目的を達したりし働きは実に拔群なりしが此の内前記三名は遭難者となりたるは惜しみても余りある事なり又木村政蔵は予備砲兵にして膂力衆に勝れ品行方正にして模範青年なりしとされば椿事突発以来漁場主小倉氏は最善の努力を尽くされ礼文利尻両島より樺太沿岸に亘り百方搜索せる其の苦心も遂に水泡に帰し数十日を経過せる今日に至り絶望となりしかば本月二十四日該漁場支配人たる安井千代吉氏宅を齋場に宛丁重なる合葬儀執行せられ同時に遭難遺族に対しては夫々弔慰金を贈呈する由

●水産界便り

▲金華山沖の鯉漁 時化後の鯉漁場海流の変化は一般に注目する所なりしが石巻には十余艘の入港あり一隻千二百尾より二千三百尾に達し餌付良好にて其の後益々好漁なり

▲鯿漁況 宮城県沿岸に於ては各大敷網に於て相当漁獲せられ其の遊泳群遊し各漁場に拡張しつゝあれば今後好漁を見るべしと

▲鮪巻網漁況 来遊漸次増加し千二百尾内外の漁獲あり今後益々好漁を見るべしと

▲湾内鱸漁況 其の後鱸漁益々盛況にして水産試験場に敷設せる浪打小台網にては十五日迄の漁獲五百八十圓に達したりと云ふ全網は五月十九日の敷設にして投網後約二カ月なり

▲堀江技師來縣 逋信技師農商務省囑託堀江氏は本縣漁船検査の為北海道を経て本日來縣明日西郡鰯ヶ沢に出張調査せらるゝ筈にして水産試験場漁撈部主任辻技手同行すべしと

大正六年七月十八日

●遠洋漁業勸奨

▲東郡の明年度新施設

本縣に於ける漁業は近時漸く發達の機運に向ひ其の遠洋漁業の如きも沿海各郡に於ける施設は漸次積極方針を執るに至りたるを以て本縣にては更に之が助長を計らんとし昨秋の県会に於て既に漁船建造費補助六百圓の支出を決議し一隻に百圓宛三隻を選抜助成するに決せる由なるも範圍狭小にして到底一般の希望に副ふ能はざる憾みあり茲において東津輕郡にては本年一月の郡会に於て縣の趣旨を徹底普及せしむることゝし

予算は財政の都合上明年度より計上する見込みなるも差し向き改良漁船補助規程を設定し大いに斯界發達の機運を醸成せるが今回の村長會議に際しても之等に関し郡長より指示する所ありたり

大正六年七月十九日

●下北ゆき（一）

◆川内港の繁榮

安部城鉦山々神祭に社長代理として参列すべく湾内通いの南部丸に乗り川内港に着したのは十四日午後二時頃であった、川内港及び安部城鉦山は大正二年余が曾遊の地であるから単に山神祭参列の使命を果たすのみならば他の編輯先輩に譲るべきであったが之より先余は他社の諸君と恐山詣での約束をしていたので一挙にして鉦山と恐山との両祭典を目的に久し振りで半島の人と物に接すべく好まぬ船路の旅に就いたのである而してこの日は幸ひ船に弱い余も恙なく第一の目的地に入るを得た

◆西村船長其他に一礼して本船から舳に乗り移らうとする途端舳の艫の方でオイ山田君ではないかと呼ぶものがある余の目が無意識にその聲の電波の震源地の跡なき跡を尋ぬる瞬間、両者の一河野金衛門君と余の視線はバツタリ合一した、君は川内第一の活動家だ而して最も友情に厚い人である大正三年余が重病に冒され臥床中君は屢々余を慰問してくれた今日の出迎へは勿論余一個の為でなく活動家として其の業務上より將た川内代表者の一人として山神祭参列者の来川に敬意を表する為であったろうが余一個としては茲に活動家として健在なる君と舊の如く友情に厚い君を併せ知り得たるを深く喜んだのである

◆河野君の身丈は遺憾ながら相変わらず低いが舳の段々海岸に近づくに随って去る大正二年頃に比し川内港の頗る非常に有望に変わったのを觀取して其の前途を祝福した七八十石積みの和船が目算百五六十艘も港口を圧して停泊し孰れも黒金色に日に灼けた頑強の男共がヒバの大丸太を積み込んでいる川内巡查部長蛭名武哉君の説明に依ると最も多き時は約二百艘の停泊を見るさうで之等は風向きを見計ひ満帆に風を孕ませ青森へ向ふと云ふ事である

◆ヒバの丸太材は所謂煙害木であつて鉦山の發展と共に煙害の為ミスミス枯れて行く一番弱いのは此のヒバである杉や雑木は煙害を蒙り枯れながらも一方に若い新芽を出す事もあるがヒバは一度煙害に襲はれたら倒れるに決まっている後で島田川内小林区署長の語るを聞くに最近は何年々十二三萬石づつ切り出し煙害木の徒に腐朽するを避くるに努めているさうだ

◆谷山村長其他に出迎はれて上陸し鉦山川内出張所長中村陸一氏の案内で川内川に臨める鉦山別荘に小憩したが和船全盛の事とて別荘の向ひ川岸に造船所が建設せられて居るなど川内の繁栄に赴く様は実に小気味のよい程である別荘を辞し北村旅館に投じ市街地を散策すれば小料理屋、床屋、洋服屋、小間物屋等軒を並べて相櫛比し即今直ちに町制を施行するも決して他よりヒケをとるやうな事があるまいと思われる迄に發展して居る（山田生）

大正六年七月二十日

●東北水産試験費

大正六年度に於ける東北六縣の水産試験に要する縣費予算は左の如く岩手縣は未詳なるも水産學校と水産試験場と合はせ貳萬四千圓なるべく山形縣は水産試験場の設立なくも僅々三十里の沿岸線ある海面に対し水産指導奨励費の下に左記の金額の予算なりと

宮城縣	二萬三千百二十四圓
福島縣	二萬九百五十六圓
青森縣	三萬二千八百七十七圓

山形縣 一萬四千二百三十圓
秋田縣 一萬二錢七百三十六圓

●下北ゆき（二）

◆現在の安部城鉦山

山神社は一千五百余名の工夫が朝な夕な始業就業のゆきゝに崇敬の念を以て身の安泰を祈る神聖の御座である、其の祭典を祝ふ祭旗の翩翩たる鉦山町に入れば右方の天際に自ずと仰がるゝ溶鉦炉の大煙突の真下に鎮座ましますのが即ちそれであって今日を晴れと新しい半纏に身構えた工夫達が早や三々五々段を上り鳥居を潜り参詣に出かけている、予等も誘はるゝが如くにヨサヨサ段を登る天辺に登りつめると考へたりや水道仕掛の手洗水がある予等の後から又役人達もゾロゾロと登って来る皆其處で手を洗って神前に拍手を打つと鉦山の給仕さんがいて土器に神酒を一々下さる

◆今迄覚えなかった涼風に送られてトントン段を降り尽くし振り返るとさても殺風景なる山神社なる哉四辺至る處往年青森大火の焼け跡を見たらんが如く見ゆる限り草一本あるでなく蜻蛉一匹飛んで居るでもない、唯所々にニョキニョキと大きな木の根株が恰も千古の恨みを呑んで枯れたらしく骨立し惨たる死相を風雨に暴露している、予等の社前を辞して鉦山病院へ向かはんとする時安部城小学校生徒四百余名は工藤校長に引率せられて参拝に来たのと行き遇うた病院へ行く途すがら駐在巡查某氏を訪問し安部城鉦山町の現在戸口を聞いたら六百六十四戸三千四百三十六人だと云ふことであつた

◆鉦山病院から倶楽部へ至るあたりは風向きの関係上煙害を蒙る事甚だ少なく相応に草木が繁茂し殊に倶楽部のあるところは一名鉦山公園の稱あり淙々たる溪流に臨み蟬の声さへ聞かれて宛然別天地をなしている、鉦山の当局者は何故此処に地を相して山神を安置しなかつたのであらうと考えられてならなかつた、此の日魯羊、柯芳の両君は下山し觀水、春來予の三人は山に留まって遠山県議の令息なる同姓景雄君の斡旋歓待に預かり安部市長大脇技師等も山で一夜を明かした

◆翌十六日朝山神社に後ろ向きに開け放たれた合宿の縁に静座して新しく荒れ行きつゝある古木山と相對す、右方に劇場娛樂座あり左方には砂漠中のオアシスたる鉦山公園の緑林だ昨夜某君が酔狂に乗じて微吟した「イヤなボーリングをさらりと止めて元の山子をしてみたい」一鉦山を呪う歌が自然に思ひ出される、對座した枯山の方から鳥が二三羽飛んできた五六羽八九羽次第に多く合宿の塵溜に群がって黙々として食を漁り始めた

◆此処に現在安部城鉦山の状況を略記すれば鉦山としての安部城の命脈はソロソロ衰えてきたが如く漸次鉦石量を減じつゝありそれで現今は主として西又鉦山、山磯鉦山、土畑（陸中）鉦山等から鉦石を鐵索や汽車汽船で輸送し来たり製鍊事業を継続して居るのである、溶鉦炉は十四尺爐三本（内一本休止中）九呎七吋一本で先月の製鍊高型銅五十萬斤（此の内斤二貫匁銀二百匁を含む）に達し一カ年四五百萬斤を算する筈、戦前は主として海外に輸出したが戦後は古川銅山へ売り金銀は大阪造幣局へ送る、大正五年中川内港の輸出型銅四百九十九萬八千五百七十二斤単価五十錢で此の金額二百四十九萬九千二百八十圓であつたが本年は銅価騰貴し一斤七

十銭余であるから仮に五百萬斤とせば三百五十萬圓に達すべし

大正七年七月二十二日

下北ゆき (三)

◆川内村の将来

いさゝか不順序のやうなれど端なくも川内村の将来に就て記述せねばならぬ機会に遭遇した夫れは安部城鉦山から降りて川内本村に入れる時谷山村長其他有力者の招待で安部市長及び記者等は泉龍寺に開かれた盛宴に列したが谷山村長の挨拶中に「治に居て乱を忘れず」の一句あり安部市長亦た之に応酬したので鉦山の命脈に伴う川内村の盛衰之に処する川内村民の覚悟と云ふやうな問題に関し暫く主客間に談話が交換せられてあったからである

◆単に川内村の将来と云ふは餘りに漠とした問題である然れども現在の川内村が如何にして出現した乎下北郡に於て如何なる地位を占めつゝある乎を点検すれば此の漠とした問題も多少明瞭なる答案を要求し得るかに思はれる試みに四十四年統計を見るに現在戸数八百四戸人口五千三百七十七人で田名部町の一七戸七千五百九十九人大湊村の八百七十五戸五千五百二十六人を兄分に三番目の格であった港湾輸出入貨物の如きも輸出の方から大湊十四万三千圓、大間七万圓、佐井五万六千圓、脇野沢三万圓を先頭に川内は第六位で僅か九千圓のみと云ふ憐れむべき一漁村に過ぎなかつた然るに現今は如何であるかと云ふに先ず本年六月現在戸数人口は左の如く合計二千四百戸一万三千四百四十七人で田名部も大湊も遠く及ばぬに至つたのである

▽川内村格部落戸数人口

部 落	人 口	戸 数	部 落	人 口	戸 数
川 内	三、四八九	五八五	井上鉦山	二〇	五
田の澤	一七五	二二	岩谷平	九八	二二
石 倉	三九	五	畑	一六八	二八
襦 川	五六	一一	湯の川	六九	七
戸 澤	二三五	二七	葛 澤	七四	八
銀杏木	四五五	九〇	檜 川	五六八	八五
銀杏平	四二七	一〇一	宿野部	八五一	一二三
安部城	三、〇〇四	五六二	蠣 埼	六四六	九五
西 又	一、六七五	三六四	下小倉平	一三三	一八
大正鉦山	九七二	二〇六	上小倉平	二九二	四二

(備考) 岩谷平は乾溜工場の設置あるところなり△本表は警察署調査に係る

◆是云ふ迄もなく大正元年以来安部城鉦山の発展に依るものである而して港湾輸出入貨物価格の如きも大正五年中の統計は左の如く川内は今や斬然頭角を抜くに至つた

	輸入価格	輸出価格
大 間	一三二、二五九圓	六六、六五四
大 畑	七九、一五八	一七六、二一四

尻屋	三、〇六〇	六、九八〇
川内	四八三、二一三	二、六九七、六〇六
脇野沢	三九、六五二	一四、一四九
大湊	四三一、九六四	五六、八一七
佐井	六三、八二二	六〇、三二九

実に驚くべき大発展ではないか去れば既往数年間に遡り川内港の累年輸出入価格を調査し鉱山の発展振りを彷彿してみたいと思ふ

	輸 入	輸 出
四十四年	一一四、九八六圓	九、二三〇圓
四十五年	一七五、四六六	四〇一、四五六
大正二年	三三一、一九九	一、五七三、二四五
全 三年	三一五、二二三	一、五二九、八一〇
全 四年	三七〇、二五四	二、〇七一、二七八
全 五年	四八三、二一三	二、六九七、六〇六

見よ入超港たりし川内が鉱山開業と共に一躍縣下に於ける最大出超港となったのである

◆斯く觀察し来たれば川内現在の所謂発展は自力の発展ではない事が分る否其の実旧来の川内村から見れば一の店子に過ぎぬ鉱山其のものゝ発展に外ならぬのであるされば此の大身代の店子が明日にも店仕舞しておさらばを極め込めば川内全村の象徴は火の気のない溶鉱炉を雨曝しにした安部城鉱山其のものである故に今日を以て治平の川内村とすれば其の後は乱世の川内村であって谷山村長の所謂治に居て乱を忘れ難きは之が為であらうと思ふ予は決して鉱業を呪ふ者でない寧ろ国民經濟の發展上益々其の隆盛に赴かんことを願ふ者であるが一方地元村民たる者は鉱業の自然的性質から来る諸般の害悪を忘れてはならぬと思ふ而して此の害悪は将来何れの時か川内村そのものゝ存在を危くするに至るかも知れぬ唯だ幸ひに現下鉱山当局者と村当局者の間に何等困難の盤屈するものなく鉱山及び川内村共存の途を講ずるに餘り大なる遺憾なきが如くなるは喜ぶべきである

大正六年七月二十三日

●川内だより

◆安部城鉱山現況 安部城鉱山事務所調査に依れば同鉱山の口許人員は事務員百十一人同家族百六十八人工夫人夫等一千三百八十七人同家族一千五百七十七人合計三千二百四十三人にして五六両月中の鉱山産額左の如し

	金	銀	銅
五 月	三、三八七匁	二三三、〇九六匁	三七一、五九三斤
六 月	三、五五二	二五二、七一八	四八三、四八八

◆川内神社協會創立 本村にては今回尊祖敬神の思想を普及し神社財産を造成し祭典の殷賑を図る目的を以て川内郷社八幡宮社務所に事務所を設置し川内神社協會を創立来る九月十四日發

会式を挙げる筈なるが役員は下北郡長を総裁に川内村長及び神社主任を顧問に推戴し更に会長一名幹事三名評議員十二名を置くこととし左記事業を実行する筈

一、基本財産を造成する事但し積立金又は不動産の購入

二、境内の植樹及び造林

三、火災予防器具装置

四、社殿の改築及び修理其他必要と認むる事業

尚ほ同会にては会員名簿を作り之を八幡宮神前に備へ置き毎朝一同の平安祈禱を行ひ会員及び其の家族にして結婚、出生、入退堂、入学、新宅、開業、旅行の場合は郷社に於て神護を祈るものなりと

大正六年七月二十四日

●下北ゆき（四）

◆大正鉾山の記（イ）

大正鉾山—此の名は予に取り決して平凡なものでない、新しいものでない、又無縁のものでもないそれだけ下北郡に入りて本鉾山を見ると云ふ事が一の希望であり懐かしみ楽しみであると共に又一の恐怖であった

◆蓋、本鉾山の位置が安部城鉾山と同じ川内村部内にありながら経営者を異にし而も其の企業の動機は大正、安部城両鉾山間に或交渉の破壊を来した結果だと聞いていたが是現代資本主義の利弊を最も白熱的に語って居るもので今や之を如実に視察し得るからである第二は予と母校を同じゅうし寄宿舎を共にした故高山学君が昨年早稲田大学理工科を卒業するや本鉾山に就職する豫定であつて高山君を呼んだ人は即ち本鉾山庶務課長石川盛君で矢張り校友であるからである第三は本縣政界の先輩たる竹内清明翁が多年一日政界の俗事を一切遠ざけて静かに其の老後を養ふべく半生の心血を注ぎ経営せる農園が將に漸く成果を齎さんとする矢先農園の中央に本鉾山製錬所を設置する事となつたが為に、無残や悉く之を荒廢に任せざるべからずして今、其の跡を弔ふと云ふことが何かしら恐怖の念を唆すのであつた

◆川内から海上約三十分で一行を乗せた船は大正鉾山の入口なる宿野部に着いた、派出所にビール樽のやうに太った男がいた、鉾山の南氏である柯芳は早速要塞司令官の尊称を奉った南要塞司令官のもとに馬子は既に山行きのトロ二台を用意していた、馬は駆けりに駆ける、道は安部城鉾山のに比べて狭いけれども両側は杉や雑木や雑草や薯畑や稲田や青々として未だ煙害らしいものが少しも見えぬ唯行く手の空に魔神の如く例の大煙突が突つ立ち朦々たる煤煙を左手に靡かせているので聊か鉾山気分がするばかり扱茲に一場の説明を要する事あり夫れは大正鉾山と西又鉾山の関係である西又鉾山は安部城鉾山の支山であつて其の鉾石は一條の鉄索を以て本山の製錬所へ空間輸送を為しているが其の鉾区は大正鉾山の鉾区と犬牙相錯綜し法律上は互いに所有権を異にするも自然的には全然同一の鉾山であると云ふ事である去ればトロ軌道の如きも大正、西又相交し十字を描いて居る處あり今、予等の走りつゝある大正トロ軌道の左右交互に両鉾山のいろいろな建物が飛び飛びに立てられて居るなど一種の奇觀である従て些細な

る事件より往々にして困難なる国際問題ならぬ山際的交渉問題を生ずる事之なきにしもあらず例へば村長や巡查部長の部内巡視に当たり鉦山の一方に立寄り一方に立寄らざれば忽ち一問題となると云ふ事である

◆トロ馬車が進み大煙突を近くするに従ひ次第に益々鉦山気分を失ひ却って悠揚たる農園気分に襲はれるのは今の大正鉦山の実況である見上ぐる大煙突の下幾十町分か的林檎園は手を入れぬままに草の生え樹の枝の伸び葉の繁るに任せたれど満枝累々たる青玉を綴り来ん秋を思はせ舊主人を忍び顔であるかゝる山間に数奇を凝らした舊主人の住宅は今や鉦山主の住家となって居るが其處に一寸立寄り初めて予は若き庶務課長石川盛君に面会したが直ちに一同打連れて現場へ向かった

◆道すがら西又鉦山の山神祭の賑ひを眺めつゝ安部城鉦山以上だナと考へた夫れは環境の気分の然らしむる所であらうと思ふ安部城の山神社には枯草一本生えて居らぬが西又の方には生々した樹が沢山ある草花も見られる耳に鳥の聲の爽けさ目に青葉を渡る山神社の旋風の涼しさ、山堀稼業から三日間も自由に放たれると自然に人の心が躍らざるを得ない相撲、芝居のドンチャン囃子、物売りを囲む鉦山娘の装ひに山の祭の興趣を初めて味わいし気持ちしながらいつしか現場へ達し採鉦課長小松氏の案内で山を見回る

大正六年七月二十五日

●下北ゆき（五）

◆大正鉦山の記（ロ）

大正鉦山は明治四十四年三月現鉦山主等の手に入ったものらしい人も知る如く合名會社組織で石川團衛、石川常右衛門、江坂由五郎三氏の共同経営に係るものであるが大正元年より採掘に着手したので扱てこそ大正鉦山と命名したのであらう、現在所有鉦区は二筆に登録され居るが合計約八十萬坪に広がっているさうである八十萬坪と云へばカナリの面積のやうであるが西又鉦山は之よりも広く安部城も又約七十萬坪はあるのだから面積から言へば威張れたものではない

◆殊に大正鉦山の不利とする所は安部城も西又も露天掘であるけれども本山は主として坑道掘を為している事である小松採鉦課長の案内で一応坑道や露天掘の現場を視察したが坑道は盛坑と大盛坑の二カ所あり後者は地下七十尺に及び更に左右に分かれ採掘する事となって居る露天掘りも出来ぬ訳ではないが此のあたり一帯に鉦脈は百尺餘に達しているので採鉦の如きも二百尺位迄及ぼす計画を立てゝ居るとの事である斯くの如くにして大正元年より採掘に着手し大正二年採鉦二十一萬八千貫此の価格一萬五千圓（同年安部城鉦山産額二千六百六十萬貫価格百二十六萬圓）大正三年採鉦八十七萬二千貫此の価格二萬三千圓（同年安部城鉦山産額二千九百四十萬貫百九萬圓）に及び準重要鉦山の部類に入ったが翌大正四年には採鉦二百萬貫を越え一躍重要鉦山と稱し得るに至ったのである然れども当時未だ尚ほ自ら進んで製鍊事業を開始するに至らず専ら売鉦に甘んじていた、其の愈々事実上の製鍊に着手したのは極めて最近のこの春の山の雪の未だ消え残る去る三月二十日であった

◆夫れで読めた、さもなければいくら小規模にもせよ苟も溶鉱炉と名の附く者の大煙突から吐き出す毒煙の真下にあの林檎樹が平然泰然として枝差し交し葉を茂らせ実を結ばれたものであるまい・・・など思ひながら山を下れば金八川を挟んで大正鉦山々神社あり其の山祭は秋九月十二日前後を以て行ふさうである再びトロ馬車に乗りて元來し軌道を走らす、山の夕日白く光りて鉦夫達の相撲も丁度はねたらしくドヤドヤと見物が四散する、芝居は尚ほ盛である西又鉦山の専属旅館關陽館の前に至れば事務員出で來たり是非ともトロを止めよと云ふので厚意に甘へて暫く休憩する事にした館は潺々たる西又川（金八川と合して宿野部川となる）の溪流糸の如く千古の処女林を縫ひ対岸鬱蒼たる樹々の深緑に酔ふ老鶯の囀り朗らかに鶯のみかは朝々暮々ほととぎすや閑古鳥さへも聞かれる心あらば秋はいざ燃ゆるやうな紅葉を見にごんせと云ふ絶好幽邃の景勝地を占めて居る其處で鈴木事務長以下の接待でビールを傾け絵端書を頂戴した特に予は約十五年振りて予の恩人で本鉦山の現庶務主任たる花田宇民氏に面会し久濶を叙したのであった

◆此處を辞し大正鉦山主石川氏の新居たる元竹内清明翁の舊處に客となり新主人の好意と舊主人の創意に依り係る山間にありながら一風呂浴びて一日の勞を醫し浴衣に着替へてノンビリ縁に身を横たへたのは既に夕やみ四方に迫り、溶鉱炉の黒煙低く空に迷い電灯の光真っ白く室に点ぜられた頃であつた飲んで酔うた此の夜の夢一鉦山の精なる一つ目の大入道があらはれた箕のやうな毒舌を舐めずり舐めずり草と云ふ草、木と云ふ木、林檎の葉を一枚毎に、実を一つ毎になめ尽くしたかと思ふと見る間に草も木も林檎も枯れた一

●造林補助金下付 上北郡六ヶ所村大字倉石字唐貝地五番の一号公有林五町歩に対し赤松二萬二千五百本を植栽し村長笠尾善太郎氏より補助金下付方申請中なりしが今回四十七圓七十錢交付の旨指令さる△下北郡脇野沢村大字脇野沢字七引二百一番の五号公有林二町五反歩に対し赤松二千五百本落葉松六千六百四十本を植栽寺山村長より補助金下付申請中の所今回二十九圓六千下付の旨今回指令さる

●渡辺回漕店新築開業 市内濱町渡辺長吉氏は過般來新濱町郵便局通り角に家屋を新築中の所此の度竣工し一昨日より回漕店を開業せるが氏は十數年來斯業に従事し磯野回漕店淡谷回漕店等に於て手腕を振ひ來れる経歴あり後單獨にて大正回漕店を經營し戦亂の機を利用して小船成金となり愈々今回業務拡張するに至れる由にて一昨夜坂井家に早田三菱出張所長、渡辺佐助氏等の荷主側を初め同業者及び關係者數十名を招待して披露の宴を催せりと

大正六年七月二十六日

●下北ゆき（六）

◆大正鉦山の記（ハ）

翌日暁起、前庭に出づれば無数の蝶や蛾誘蛾電燈の下に重なり合つて惨死を遂げていた、されども死も亦幸福なるかな何となれば安部城鉦山には最早や彼らの種族が絶滅したのか殆ど見るを得なかつたからである人生五十年達観すれば要するに亦蛾の一夜の舞踏に外ならぬではないか、そこで予は独り夢魔の大入道に誘はるゝが如く舊主人の残せる林檎樹に当分の別離を告

げ、且つ共にあらゆるものゝ永久の幸福を讃頌すべく静かに露を踏みつゝ樹下を右へ左へ逍遙し三四十分かかって園を一周し大煙突の直下に出た一林檎園の或所は樹が植えられたまゝに鉦山事務所となり、或所はカラミの捨場所となり或所は種々なる材料置場となっている、葡萄が林檎と林檎の間に植えられてある所もある、鉦山当局者の語る所に依れば何れ位煙害に堪へ得るものなりやを験すべく事業の進行に妨害なき限り舊竹内農園は成るべく其の儘に保存する積もりなさうである

▲朝食後予と春來は製鍊課長佐藤忠一氏を促して製鍊の実況を視察した、溶鉦炉は十尺炉なるもの一つのみで規模に於て安部城には迫も比べ物にならぬが何処も同じくカラミが炉の一端より赤熱の火紐となり噴出し来たり之を冷却せんとする水中を火ながらに奔流する様はげに快絶奇絶なる壯観である溶鉦炉の中は二千度の熱度を保って居ると云ふから驚く選鉦場、粉鉦製造場等は各鉦山皆同じ事である唯だ大正鉦山の鉦石は硫黄分が少ないので石灰石の分量を二割四歩内外に定めているが皮のできる割合は全体の一割六歩に当たり其他はカラミ等になるさうだ、鉦山で目につくのは婦人労働者で矢張り粉鉦製造場に工夫の妻らしいのや娘らしいのが七八人居って一生懸命に粉鉦のタドンを拵へていた出来高給料ださうだから傍目も振らずに働くのも無理がないしかし夜業は男だけで五六日間交替に行ふさうだが給料は昼稼ぎに比し全て一分増しなさうだ一カ月の製鍊高最近四十余噸と云ふので労働者の就業総数も現在数百名に過ぎぬのであるが彼らの待遇に就ては余は若き石川庶務課長の方針に信頼する者である

◆問題の煙突は溶鉦炉より地下百尺を這ひ此の間内法七尺五寸乃至八尺五寸であつて夫れから地上に出たる部分は内法七尺六寸を保って居るが其の高さは矢張り亦た百尺である此の日は東北風であつたが平常は反対の檜川の方へ煙の靡く風向きが多いさうで近時檜川は安部城と大正両鉦山に挟撃されてる形なさうである此の煙突から毒煙を吐き出す原動機たる瓦斯エンジンは百二十五馬力で毎日木炭三百貫を焚かねばならぬのだが昨今は其の三分の一の馬力を出しているのみだと云ふ

◆鉦山見学船の出帆時刻が迫つたと云ふので匆々帰り支度に取りかゝつた、鉦山主石川常右衛門氏初め娘さんや女中さんも門口迄見送つて呉れた唯石川鉦山主の夫人は最近お目出度があつたさうで遂に謝辞を述べる機会を失つたのは遺憾であつた大正鉦山では石川佐藤小松各課長初め曾て青警の蒸汽船ポンプ指揮官たりし小田桐部長は鉦山主の秘書官として亦西又鉦山では花田庶務主任が宿野部波止場迄態々一行を見送られた

大正六年七月二十七日

●下北ゆき（七）

◆擱筆に当たりて

一行中に谷山村長も加わっていたのであるが宿野部の波止場でお別れ申した、嶋川中央子も川内へ引返すさうで此処で分かれた之より先、安部城山神祭の帰りしなに西又鉦山を視察したる青森商人団の一行も同じ船＝東北丸で帰青する事になっていた浪はカナリ高かつたーツイ予自身も忘れていたが恐山詣では何人の口端にも上らず鉦山から鉦山へそれから帰省することに

なったのである

◆極めて船に弱い予は地上のあらゆる青い美しいものと小さい命あるもの絶滅せずんば止まざらんとする彼の鉦山の毒煙よりも執念深い蛇の如く全身にまっはり意地悪いありの如く群がり寄する高波のうねりを恐れたそこで予は蛇に睨まれた青蛙の如く特等室にまる寝してすくだまっていると平重翁や佐々木君や竹屋洋服店主等の商人団も入ってきて聞けば佐々木君と竹屋主人は西又鉦山へ行く途中馬荒れてトロから振り落とされカナリの負傷をせられたさうだが全く元気で居るのが羨ましい、其處へ安部城青森出張所の唐沢氏が見えられ予を上甲板の風通しの良い所へ連れて行って薄縁を敷いて枕を与へて穏やかに寝かして呉れた

◆青蛙を乗せた儘間もなく船は揺ぎ出した、生温かく強い海風は絶えず頭を掠めて吹くが胸の痞は刻一刻と甚だしくなる悸へると悸へる程いよいよ益々むかついてくる、とうとう腹の奥底の百足のやうな虫が頭を擡げ其の四十二本の脚で腹中を上下左右へ掻き廻り始めたそこへ大町の岩田さんが見えて然るべき道具を授けて呉れた四五回続けざまに吐き出したが百足は容易に出て来ぬ、其の間に予は、誤って日当たりに出た青虫が千万匹の蟻の群集に取りつかれて如何する事もならぬやうに段々疲労し始めた唐沢氏と岩田さんは交互に介抱し呉れた、いろいろの事が考えに浮かんで来た往く時に安部城行きの何とか云ふ半玉が苦しげにカナリ酔うたのを悪戯事のやうに擲ったのを今更悔いたが及ばない

◆少々落ち着いたと思った百足は知らぬ間に段々成長したらしくもう無一物になった腹のドン底をまたも一掻き足掻き出すとそこは漸く脇野沢沖で荷役中の船は恰も木の葉のやうに揺れていた半ば覚醒を失ひ居りし青虫は此の時我に返り憐れむべき自己の浅ましき姿を顧みて赧然としたが矢張り如何する事もできなかったのである「百足を征服せよ」「蟻を撃退せよ」、腹の底から我知らず叫び出した、「汝の胃を強くせざるべからず」と何者か耳底に囁くのである一も二もなく予は首伏せざるを得なかった、けれども其の場合如何する事もできぬ依然もだえ苦しみ抜いている所へ平重翁が見えられ一層手厚い親身も及ばぬ親切を尽くして呉れたので此処に流石の弱虫も漸く人心地が付いて来て初めて口もきけるやうになったのであった

◆九艘泊岬を曲ってからは寝ながら海風に顔をさらすのが何とも言へず良い気持ちになった、それと共に今迄自分の試みた消極的鉦山観察は所詮取るに足らぬ胃弱患者の世迷い事に過ぎぬではないかと考へ直したりした、あの溶鉦炉のやうな何者をも消化せずんば止まざる底の強い胃の腑を要求したりした、同時に又苟も此の国家の富強を増進せんが為にはよし百の川内村を犠牲に供するも亦た止むを得ぬではないかと思ひ見たりした、あの禿山に小学校を建て、教育に従事する教育家に対し徒に郷土を愛し国家を念とする小人物を養成するに勉めんよりも寧ろ世界を家とし金貨の後を追うて走る現代的大俗物を造るに努力せんことを願ったりした

擱筆に当たりて谷山村長初め川内村民各位、安部城、西又、大正各鑛員、蛭名巡查部長及び同行諸君の好意を深謝す（山田）

大正六年七月二十八日

●漁家副業金融

▽ 地方組合に照会中

漁家副業奨励は漁村振興上最も重要な者にして漁家の収入を潤沢且つ安定ならしめ不生産的のものとし勤勉力行の美風を興し地方の産物をして輸出増加を促す等其の効果は極めて大なるものあり故に農商務省に於ては時局以来漁家の副業奨励に付ては原料の供給容易にして価格の低廉なるもの販路の確実なるもの作業の簡単なるものゝ三項を大体の方針として漁業組合其他の団体をして奨励の遂行に必要な施設を為し又は相当の斡旋を為さしめつゝあるが本年度より新たに全国漁業組合に副業資金専用として六萬圓の低利資金を融通することに決定し目下割当額に付き地方各組合に照会中なるが組合は該資金を利用し副業発達上必要な共同設備を完備ならしむること刻下の急務なりと

●陸奥汽船総会 既報の如く七月二十六日午後一時定時株主総会を同社楼上に於て開く出席株主森又四郎氏他十余名と委任状河野栄蔵社長は議長席に就き法定数により会議を宣して先づ営業の概況につき

当期に於ては時局の影響より斯業界運賃の高騰突飛的の盛況たりしに拘はらず我が航路は縣補助の關係自由航路の延長を許さず又公共的より運賃値上げも容易しく為し得ざるが如き状態より殆ど従来の賃率なりしが故他の同業者に比すべくもあらず多少の遺憾なきにあらざりしも可能限的経営上努力の効果上半期の成績としては例年に見ざる好況なりし是は經濟界の順調と湾内鱸の豊漁等に伴ひたるものにて前期に比すれば船客運賃に数千餘圓の減収なりしも貨物に於て四千三百餘圓の増収を示せり而も当期は創立二十周年記念時に際し斯の如き稀有の成績を見たるは芽出度かりし云々

以上の他諸般の報告並諸勘定配当計算等付議せしに満場異議なく決定す次に監査役任期満了に付き改選を挙行せしに白濱重太郎野村理三郎の両氏当選重任す又大湊出張所を支店に更め(大湊支店に副支配人の能登鶴三郎氏をして之に当たらしむ)茲に河野議長は議件の結了を以て閉会を告げ茶菓の饗応裡に時事談數刻各員後刻宴席上の再会を約して退散せりと

大正六年七月二十九日

●陸奥汽船祝宴

△創立二十年記念

陸奥汽船株式會社にては其の創立二十周年を記念する為去る二十六日下北郡田名部町圓通寺に於て祝宴を催さる当日は日中の快晴蒸すが如き暑なりしも会場は森々たる寺院内のことゝて来賓は定刻前より院内の涼を追ふべく木立を縫ふて散策を試み時刻を待つもの尠なからず廳て定刻六時諸般の準備整ひ来賓悉く揃ふや一同を設けの会場に導き河野社長は進みて莊重なる態度にて左の如く一場の挨拶をなせり

諸君弊社の創立二十周年を記念せんが為茲に此の宴席を設けたるに非礼を尤められず特に御臨席を辱ふせるは実に光榮とし深く感謝に堪へざる所であります

回顧すれば弊社創立二十年前の當時を以て之を二十年後の今日に比すれば無量の感懐なきを得ませぬ乃ち明治二十七八年戦役後に於て本郡交通の不便を補はんが為計画せられたる大湊

鉄道株式會社が僅かに仮免状を得たるのみにして蹉跌してより本郡も到底其の不便を忍ぶ能はず郡内の有志奮起して湾内定期の航海を企てなほ本郡と密接の關係ある青森及び野辺地の有志諸君の賛同を得て明治三十年陸奥汽船合資會社を組織し翌三十一年六月一隻の汽船を以て大湊より隔日に青森及び野辺地の両港の間定期航海を開きたりしは弊社運漕業の創始にしてその後明治三十五年に至りて現今の株式組織に改めたるものであります当時實に本郡が縣内各地に至る實に唯一の交通機関たりしを以て弊社創立以來本縣特別保護の恩典に浴し今日尚縣費補助金の御下付を辱ふせるは弊社が深く感激に堪へざる所であります只弊社が一片の至誠心を公共に注ぎて当時本郡の情勢到底収支相償ふに由なく殆ど数年の久しき無配当の苦痛を忍べる所以は偏に本縣知事閣下の懇篤なる御奨励と地方諸君の深厚なる御同情と株主諸彦が只管公共を念とし一点營利の私心なきに因らざるばあらずして實に弊社の欣榮として亦弊社の歴史を飾るものと信ずるのであります由来交通の事たる一つの便利を加ふる毎に益々其の便利の進展せんことを要求するは人情の然らしむる所進達の赴く所亦時勢の要求する所自ずから然らざるを得ません故に年々収支の償はざるあるも之に藉口するを許さず更に社債を株主間に起こして尚一隻を新造し青森野辺地の両線を毎日の定期に改め爾來社運漸次良好に向かいて汽船の購入若しくは新造せる前後合わせて五隻遂に多年の目的たる本郡唯一の交通機関たる任務を尽くすに於て大体設備を整ふるに至りました尋て明治四十年本縣特別御保護の信用ありしと亦弊社の基礎確實にして經營の遺算なきとは郵便物搭載の御用命を拝し延いて湾内各地鉱山の發展は弊社の貢獻益々多きを加へて實に貨客の輸送のみに止まらず亦文化の輸入機関たりしを自任せざるを得ません然り而して現今時局の影響は日進月歩の趨勢を以てして益々社業の好況を呈せるの場合に際して茲に此の創立二十周年を迎ふるは時勢の進展とは申しながら亦實に弊社に与えられし篤き同情の賚といはねばなりません謹みて累ねて謝意を表する所以であります願ふに近時本郡の情勢は漸次文明機關を備ふべくして地方の進展昔日の比ではありません茲に於てか弊社今後の責任亦益々多きを加ふるを感じますので冀くは相変わらず御援助を賜はらんことを

今夕茲に聊か創立記念の心祝として此の粗野なる宴を設けたるに諸事御多忙殊に暑氣凌ぎ難きに拘はらず御臨席を辱ふするも何等供すべきものもなく甚だ恐縮に存ずる次第でありまするが何卒至誠の存するところ切に涼せられんことを不肖之を社長に享く社一同を代表して謹みて各位に対し御臨席の榮を感謝し恭しく敬意を表します終わりに付言致しますのは此の創立記念に際して弊社をして今日あらしめたる過去現在の功勞者たる元下北郡長故西山廣君、弊社重役たりし故藤田庄兵衛君、故大澤徳藏君、故廣谷源治君、故鎌田重吉君並元重役村上權兵衛君、山崎卯之助君、野村新八郎君、高谷角治君、現重役支配人各船長機關長及各回漕店主には銀杯一個宛を其の他の使用人には金品を贈呈して其の功勞を表彰致します茲に御披露申します

門田郡長は來賓を代表して汽船會社は地方唯一の交通機関として貢獻したることの至大なるを説き郡の今日あるは實に會社の功に帰さざるを得ずとて懇懃なる一場の謝辞あり献酬數巡の後東條要港部參謀長の音頭にて陸奥汽船會社の万歳を三唱し萬堂乾杯して之に和せり当日は川

内より清香、万龍、金太郎、太郎大湊より力彌メ子の諸妓を召集し田名部の六助メ吉、小蝶と共に酒間を斡旋せしめ宴酣なる頃演技場として設けられし広縁に現れ出たる青森見番の市松、小松、照代の他に菊栄、栄子の鶴亀の舞が演ぜられ満座の喝采場外数百の観衆を動揺かしむ主客入り乱れての飲飲いつ果つべしとも見えず十二分の飲を尽くして散会せしは三更に近き頃なりし当日の重なる来賓には

東條参謀長、公家参謀、岡本主計長、門田郡長、東山税務、平野警察両署長、山本県議、森郡議長、百合山林、深澤御料対馬登記所長、菊池、遠藤両課長石田視学、瀬川聯合分會長、山本田名部、野村大湊両郵便局長、菊池、上郡両部長、二瓶太田谷山、宮浦、佐々木、藤田、小島の各町村長、秋濱助役、石館青森、二本柳、北野福田、今泉、各商業正副組長、丸山、山中、岡野各医院長、長尾五九支店長、菊池貯銀、成田酒造、高清水大電、能登汽船の各支配人、村上、板橋の消防、野坂北進舎、山本産馬副長、杉山徒弟、石井尋高両校長、後藤船長、金田機関長、河野川内、松村脇野沢、大関横浜、濱野部各回漕店、菊池水産、青森実業、本社員及（司催 側）武田、山本（百）、工藤、岸本、川島、山木、村木、野村、中嶋、白濱、河野社長等

にして地方に稀なる盛会なりし

●陸奥汽船の青森祝宴

陸奥汽船會社の二十周年記念祝宴は別項の如くなるが尚ほ縣官、市長、郵便局長、駅長、縣會議員等在青の人々二十餘人を金森樓に招待し本日午後六時より開宴すといふ

大正六年八月一日

●下北の二日間

(一) 今回の行

▽七月二十五日夜、陸奥汽船は東北丸の客となる、同汽船に便乗するは是にて二回、昨年今頃、一年前の同月二十八日夜、宿野部は竹内元代議士の経営にかゝれる福民農場に招かれて数氏と行を共にしたるも此の汽船なりしと覚ゆ、今や再び而も殆ど時を同うして同じ汽船の客となる、そぞろに当時の事を想起せずんばあらず

▽今回の行は遽に思ひ立てるにて出発の間際まで決意なかりし也、実を云へば下北行は記者にとりては多年の宿望、只下北の関門とも云ふべき大湊と昨年宿野部を訪ねたる外には、全く同郡に足を入れたる事なきを以て、何時ぞや之を決行せんことを期し居たりし也、蓋し下北は本縣に於ては別天地の如く想はれ居る丈け記者の好奇心を惹く事甚だしく、殊に近年に於ける同郡の発展は実に驚くべきものあり、今や本縣の富源として重きを置かるゝのみならず、或る意味に於て、世界的に注意すべき地方となりつゝあれば也、是必ずしも誇張の言にあらず、而して今は大湊鉄道も工程漸次進捗しつゝあり、若し夫れ数年にして開通を見、汽笛の一声が郡の中心点に響鳴するの時、地方の大勢に如何の影響を與ふべきかは想像するに難からざる所、記者をして下北の巡遊を扇動するもの決して偶然にあらず

▽然れども今回の行は、記者平生の宿望を達せんとするにあらず、只陸奥汽船會社が、其の

創立二十年を記念するの挙あるを聞いて単に敬意を表せん為に外ならず、蓋し陸奥汽船が過去二十年に於て、如何の貢献を地方に提供し来たれるか、下北半島の今日あるは実に陸奥汽船の賚と云ふも過言にあらず、陸奥汽船二十年の歴史は即ち下北半島の発展史なり、半島の発展は即ち本県の発展なり、誰れか二十年前に於ける半島の交通が如何に至難にして、所謂別天地の面目遺憾なく發揮されたる當時を想起し、陸奥汽船の創立と今日の成功とを対照して感慨なきを得ん、陸奥汽船の如きは本県に於ける事業中の成功者として、確かに県史に特筆すべき価値あるを信ず、今や此の會社が創立を記念せんとす、端なくも二十年間の蹟を追憶して、遂に此の行あらしめたる所以也（一記者）

大正六年八月二日

●下北の二日間

（二）航海の繁昌

▽二十五日の夜は暑熱実に蒸すが如く殆ど釜中に居るの感あれども海上の涼味は亦格別也、記者の乗船したるは十時、出帆までには尚ほ一時間を剩せり、渺たる一小汽船殆ど身を置くに處なきを感ずるも独り最上甲板に出て涼味を探れば心身や爽やかなるを覚ゆ、濱町棧橋の如き納涼の客を以て満たされ、其の雑踏更の深けゆくも更に衰えず、恰も手に取るが如く聞ゆ、廳て出帆の時間近けるを以て室に帰れば、所謂此の船の特等室とも言ふべき中央甲板の一室には、既に数多の客あり、記者も分かれし席に横臥して静かに解纜を待てる時しも、突如記者の名を語りつゝ入り来たれる者あり、記者と同じ目的を有せる青森実業の柯芳君と記者を見送る為の同人山田君なりし、下北には離るべからざる筈の柯芳君の見えぬを訝かり居たりしに果たして来たれり、イザ旅は道伴れ記者の他にも同行の同業者ありそうと鶴首しつゝありしに、東道の主人にも等しき下北案内の柯芳君の来たりては、最早多くを望まざるも可、ヤア君なくてはと席を分たんとしたるに、女連はどうしたと忽ち室外に出て行けり、蓋し濱街の阿嬌数名今回の祝宴に召集せられたるが、恰も共に乗船したりと覚しく、或は之を茲に拉致し来たらん為かと知られけり、記者は山田君を見送りて再び室に帰れるも柯芳君の影も見えず、船員と覚しき者頗に君の所在を探り、一再となく尋ね来たりつゝありしが遂に見当たらぬに海中に墜落しての行方不明にあらざるかとおぼやき行けり、やはり男は流石に違ったものよと同船の逸名氏は私語し居たり

▽船の進み始むる頃より室外に居りし客も悉く集まりて今は記者等の一室は満員となれり、其の際多の特等室若しくは船長等の室を塞ぎて、最上甲板にまで陣取りし一団さへありしと伝へられき、是只特等の部に属する船客に付きて言へるのみ、今回の祝宴の関係もあるべければ、今夜の航海は格別ならんも、近時湾内航海の如何に繁昌しつゝあるかを察するに足るべし、湾内航海の繁昌は即ち下北半島の発展を語るものにして、陸奥汽船が如何に半島の交通上必要な機関なるかを知るべき也、聞く陸奥汽船は青森大湊間と大湊野辺地間とは毎日陸奥湾丸と東北丸の二隻を以て定期航海を為しつゝあることなるが今や一年を通じての船客は平均一日四十人を数ふべしという、而も近時鉾山の発展は一層交通の頻繁を來たし、特に南部丸を以て青森

川内間の航海用に宛てつゝありといふに徴するも陸奥汽船の現状の一斑を知るに足らん（一記者）

大正六年八月三日

●下北の二日間

（三）海霧濛々

▽船室を共にしたる者数名ありしも、孰れも未知の人々なりし、只一将校の青森連隊区副官菊池大尉にあらざるかを想像せしめしのみ、大尉は關司令官の代理として、二十七日田名部町に於て挙行せらるゝ下北郡在郷軍人分会連合会に臨席の為なりしこと後にて知る、其の他の殆ど全ては宿野部、川内に赴く客なるが如く、而も其の多くは大正、安部城両鉾山に関係ある人々なること其の口吻に徴して知るべし

▽時移るに従ひて霧漸く濃かに海上為に朦朧、船は警戒しつゝ進むものから、脇野沢に立寄りし際の如き約一時間の遅着を見たりと云へり、脇野沢にては乗降の客なかりしにや極めて静かなりしも宿野部を経て川内に寄港するや乗客の新たに加はりしもの尠なからざりしは其の物音にても察せらる、聽て頻りに柯芳君を物色するものあり、東奥の某君も乗っている筈だがと記者の名まで口にするは、名にしおふ川内の人気者河野金右衛門氏と知られけり、記者は河野氏とは能く識らず、予て社の同人によりて聞知し居れるのみ、イナ會て氏の吾社に立ち寄せられしとき一面の識ありしのみと記憶す、氏が記者等の同乗を知れるは田名部よりの電話なりしが如く、田名部にて之を知りしは或は青森にて石館回漕店より通報ありしにあらざるか

▽川内にては多数の降客ありしも更に乗客尠なからざりし為記者等の船室は満員、而して頻りに陸奥汽船の事を喃々し居るを聞けば其の多くが會社の記念宴に参列の為と察せらる、川内よりも四名の妓加はる、河野氏の采配によるや云ふ丈け野暮なり、蓋し會社の計画はお膝元の田名部は言うも更なり、大湊川内と下北全島の妓を召集し更に主たる関係地の青森は浜街よりも粹を抜くにありしが如し、下北全島といふも妓としての資格あるもの全島を通し漸く十名を算するに過ぎずといふ、川内交際界の花形と謡はるゝ河野氏今や同地の花柳界全員（僅かに四名なれども）を引っ提げて田名部に乗り込み、大いに其の手腕を振はしめんとす、或は鼻息の頗る荒らからんことを虞て、記者は礼を失するとは想ひながらも、依然假寝の儘に黙しぬ、河野氏も一寸吾等の室を覗きしのみ忽ち彼方に去りしが如し、而も記者の胸裡には恰も旧知の一人更に加はりしが如くに嬉しく感じたりし也

▽時最早五時を過ぐ、通常ならんには遅くも既に大湊に着して上陸を終わりし頃ならざるべからず、呑気なる記者も最早何時迄も假寝を貪り居るべきにあらず、室外に至れば濃霧尚ほ海を圧して船の進航極めて緩やかに、時に停止して汽笛を鳴らす事頻り也、蓋し湾の内外は今頃濃霧に悩まされ航海に苦しむといふは之なりけり、機敏なる河野氏如何で記者を見逃すべき、忽ち認められて、最上甲板に拉し去らる、立ちて左右を顧盼すれば水天濛々たれども海氣身に沁みて心気自ら爽やかなるものあり、行方不明の柯芳君は頗る元気なげに船主の一端にありて何をか為しつゝあり、海にも定めし豪のものならんと思はれし君が船には極めて軟派なりとは

意外也、最上甲板の一隅に立て籠り居りし美人団は、昨夜青森よりせし濱街の阿嬌にして市松、小松の中老を初め照代、栄子、喜久栄の五妓石館回漕店主の眼識に抜擢されしものか

▽兎角する内に濃霧の霽れるを見れば、船は大湊港外葦崎近くに進みつゝあり、舵を転じ速力を促して大湊に向へば僚船たる陸奥湾丸は本日を祝せんとて既に萬船飾をなして待ち受けつゝあり、港頭の光景何となく晴れやか也、船の投錨せしは午前七時、定刻より遅るゝこと二時間半

大正六年八月五日

●漁獲競技開催

▲漁業奨励新計画

本県にては沖合漁業奨励の目的を以て本年漁期中鰹釣漁業、柔魚釣漁業、鱮延縄漁業に対し其の漁獲方法を競技せしめ優勝旗並びに賞金を交付する事となれるが其の競技漁業種類及び競技期間左の如し

△鰹釣漁業自八月十五日至十月三十一日 △柔魚釣漁業自八月十五日至十月三十一日

△鱮延縄漁業自十月一日至十二月三十一日

漁業の種類は各一種類とし二種類を兼ねる事は得ざれども鱮延縄漁業に限り其の漁業に依りて漁獲したる他の魚族を混入する事を得る仕組みなり

▽審査法其他 漁業組合員にして漁船一艘の漁獲高優秀なるものに交付するものなるが漁獲高の調査方法は漁業組合に於て予め漁船の所有者並びに乗組員数を調査し置き調査員を設け毎日の漁獲数量及び価格を調査し競技者毎に每一ヶ月分を取纏め翌月十日までに県に報告する方法にして漁数は尾数を以て数ふべしと鱮延縄漁業にありては鱮の外漁獲物の種類毎に数量価格を調査する筈

▽優勝旗と賞金 組合は予め本競技に加わるべき漁船数及び其の船主を県に報告し置くべく競技加入者は漁業組合に属する當業者は何人に限らず加入するを得優勝旗は目下県に於て図案中なるが価格は十圓程度のもの又賞金は目下協議中なり今年の成績にして良好ならば予算を増加して引続き毎年開催する方針なりと

大正六年八月七日

●下北の二日間

(四) 田名部の一日

大湊に上陸するや先づ陸奥汽船出張所に休憩す、記者の初めて此の地点より上陸せるは既に十年の昔、大湊村の有志者が要港部員を主賓として知事を初め地方の重なる官民の為に此の地の小学校に一大招待會を開きたる当時なりしが、今や再び此の地点に上陸しては自ら当時の感想に耽らざるを得ざりし也、臆て馬車到りて田名部に向かふ吾馬車の輸送指揮官は河野氏、歡言笑語の裡に里余の道程も知らぬ間に田名部市街に入り、汽船會社に立寄りて河野社長に面し、其の筋向に当たる鍵本旅館に行李を投じぬ

▽鍵本旅館は田名部の我社名誉支局長とも云ふべき枉堂君の貞淑、記者の来田に際しても特に同君の指定旅館なりと思へば、何となく心置きなく感ぜらるゝ也、昨今は町村長会議もあり、今回の記念祝宴もあり、其他旅客頗る多きが如く、加うるに記者等新米の一行あり、青森より召集の美人団も投ずるありて、やゝ雑踏の嫌ひなきにしもあらざりしも、甲斐甲斐しき待遇振りは、先づ田名部第一宿たるに恥ざるべしなど、田名部馴染みの柯芳君我が家の如きお自慢なり、兎に角田名部には屈指の旅館なるらしく青森にては塩谷本店格とも云はんか、行李を解くや河野汽船社長、山本県会議員及び我が社の田名部支局主任菊池翁等の来訪に接す

▽昨日来々青中といふ島田川内小林区署長は恰も何れにか巡回せらるゝ由にて、記者等の為に其の室を提供せられしを以て、両室を解放して涼を納れ且つ左右の展望を恣にす、前面田園を隔てゝ遙かに斗南ヶ丘を眺むるなど以て旅中の労を慰するに足る、柯芳君は行李を解くや否や外に活動の様子見えしは流石に業務に熱心なるを感ずべし、記者は一人休養数時、午下三點の頃柯芳君の勧めにより市中を觀るべく外出す、途すがら山理旅館に川内の河野氏を訪ふ、大湊電燈の高清水支配人又座にあり記者等の来たるを待ち受けつゝありと云ふ即ち相携へて出づ、田名部川河畔に到る、一旗亭あり松屋と云ふ河に臨みて設けられし瀟洒たる一構なり、即ち茲に憩ひて涼を納るゝことゝなる、六畳四室ばかりの一小旗亭に過ぎざれども、田名部に於ては是第一イナ唯一の旗亭なる由にて現に過日来田の川村知事の招待会を茲に開かれし程なりと伝ふ、河は左岸鬱蒼たる樹木に蔽はれ夏尚涼しき光景無きに非ざるも、水量混濁して恰も池沼の趣あり、高清水氏の語る所によれば、河水の斯く濁を帶來たれるは近年のことにして、以前は清冽洵に掬すべきものあり、畢竟するに濫伐の結果なるべしとて、即ち侍妓をして俗謡を歌わしむ「田名部横町河の水飲めば、七十年寄りも若くなる」、是南部地方に於ては有名なる俗謡、如何に此の辺の水の清浄なりしかを知るべしと云ふ、時の移るを慮りて柯芳君と共に先づ辞して旅宿に帰へる、夕方の暑熱真に蒸すが如し

大正六年八月八日

●下北の二日間

(五) 陸奥汽船の記念

▽陸奥汽船株式會社二十年記念祝宴は二十六日午後七時より田名部は圓通寺に催さる、田名部は瞥見する所樹木多く何となく床しき心地す、殊に圓通寺は流石に其の境内は鬱蒼として繁り、清風徐に木の間を縫ふて来るあたり、得も言えぬ気分する也、此の日炎暑蒸すが如く、殆ど身を置くに處なきを感ずるの際、集会所としては頗る適合せるを認む、来賓の多くが定刻前より会して此の清境に逍遙する偶然にあらず、何にせよ圓通寺と云へば地方にも知らるゝ名利なり、会場には本堂の一部を、休憩所には書院其の他を以てしたるが、約七十名を収容して豪も間然する處なかりしが如し、蓋し下北に於ける寺院は到る所として其の構造の広壮ならざるはなく、以て地方人の信仰の程を知るに足るべきが、而も諸種の集会行はるゝに当たり地方に適當の場所なきが為に、今や是等寺院を利用すること例となりつゝあるが如し、今回の記念宴を該寺に開催するに至れるも此が為なるべし、只田名部の如き下北郡の首都として近く大湊鉄

道の全通せんとして将来の発展期すべきものあり而して諸種の会合亦漸く繁からんとするの時別に相当の機関を設備すること蓋し必要なるべきか

▽寺院に於ける宴会としては、諸般の設備能く行届きたるものなりしが如し、七十名の賓客は下北全島に亘り、各方面に於ける重なる人々を網羅したるものなりといへり、地方としては恐らく稀有の盛会なるべし、其の光景は当時の紙上に既報したる所なれば敢へて贅せず、兎に角半島の発展に至大の関係ある事業の記念としては左もあるべきこと也、此の日の河野社長の挨拶振りも頗る要領を得たるよう聞き受けられたり、畢竟其の成功と得意の半面を語るものといふも不可なけん、顧ふに會社が二十年前初めて呱呱の聲を挙げし當時に於ては漸く福栄丸でふ一小汽船を以て隔日の航海をなすに過ぎず、縣は特に二千五百圓の補助を給して之を保護したるも尚ほ収支を償ふに足らず、従つて一時無配当に甘んぜざるを得ざりし也、創業當時の困難の一端を想見するに足るべし、之を現時三隻の汽船を以てして現在の航海を実行して、半島と内地との交通に便利を提供し、半島唯一の交通機関として大いに重きを置かれつゝあるに徴すれば実に今昔の感なくんばあらざる也、現に今期の如きは一割利益配当の他更に二十年記念配当として四割の配当をなせるが如き確かに其の成功を語るものといはざるべからず、會社の成功は即ち半島の成功なり発展なり、河野社長の就任は十二年前即ち一昔前なりと云ふ、會社の今日ある其の理由一ならざるべきも、社長等苦心努力の結果なるは固より云ふを待たざるべし、社長を初め會社の当務者、今日を迎えて感慨に堪へざるものあるべく、記者等亦之を余所事と認むること能はざる也、七十の來客此の事業の成功、會社の貢獻に対して何れも満足し、此の記念会を衷心より祝して、時の移るをも知らざりしもの故なきにあらず、記者は會社が此の上とも一層の奮發を以てし且つ其の発展を期待するものなり、聽て帰宿の途に就けば今までの炎暑も何処へやら、涼氣身に触るゝも心地よし、蓋し田名部地方は朝夕涼しきを例とすと、斯くて一種の下北デーも終焉を告ぐ

大正六年八月九日

●下北の二日間

(六) 大畑行

▽二十七日は下北郡在郷軍人分会連合会発会式を田名部の神社境内に於て挙る由にて案内を受けたるも記者は此の日を大畑の旅行に費やすべき予定計画なりしを以て辞して午前八時發の定期馬車に身を托せり大畑行を思ひ立てるは知人を訪ふの傍ら田名部に來りし序でを以て、せめては半島北方沿岸の気分にも接し見たき好奇心に驅られたるに外ならず、四里の行程は予て聞きしと異なるはなく極めて平凡、田名部町端鬱鬱たる森を過ぎては是より一面の高原なり、聽ては関根の牧場を左に、前面津軽海峡の展開を眺むるに至りて、初めて車中の蒸暑さをも忘れて胸の開け行く心地する也、右方遙かに尻矢の岬角を指呼し、対岸の渡島を模糊の内に望むなんとする裡に愈々北通の海岸に出づ左折して進めば到る所柔魚の乾燥に忙はし、聞けば此の兩三日より初めて柔魚漁ありて斯の如くなり、今や大畑を中心として北方の海面は將に柔魚の漁季に入れるなり

▽馬車の正津川付近を通過せる際大畑は蓋し此の村か、想像よりもさびたる所なりと想ひきや更らに左折すれば一面市街は眼前を遮りて見ゆ、是ぞ目指せる大畑の本村なりし也流石に大畑は半島屈指の漁村たり、心柄にもや今は漁季に際して市街の空気は何となく晴れやかに見ゆ、馬車は市街を縫ふて進み郵便局の前に停止す、時に十時半なりしが大畑小学校の数歩の付近にありと聞きて先づ藤田（岩男）君を訪ふ、恰も授業中なりとのことにて、一先生出でて来たりて慇懃に記者を職員室に案内せらる、正面の椅子によられし温乎たる風貌の一人、正しく予て藤田君より聞くなる校長工藤正輔先生と気付きしかば、刺を出して初対面の挨拶をなせしに、先生も既に藤田君より聞き居りしとて快く応接せらる、先生には弘前の出身にして曾て五十石町に住居せられしと云ふ、五十石町と云えば記者の母校のある所、同じく下町にして記者の隣町なりと思へば懐旧の情も郷里に奔せて何となく懐かしき気分を感じる也、尤も先生と記者とは年齢に十余の差ありと云へば、郷里を出でてより二十余年を経過せる記者にとりては、固より知るべき筈もなし、先生には今や而立を越ゆること漸く二三に過ぎざる前途有望の教育者、年に比して老成に見えしは、苟も一校の長として地方教育の大任を担える苦心と経歴との関係にもやあらん

▽工藤先生と話しかけつゝある際東奥日報の方はお見えになりませぬかと尋ね来たれる一紳士あり、記者は一寸意外に打たれしが、郵便局長にして村区会議員等を兼ねつゝある榎末治氏と云へる人なること其の名刺にて知らる、恰も田名部よりの電話にて記者の來村を知れる也と、蓋し記者の大畑行は柯芳君知り、河野県議に知られ、森郡会議長亦是を聞きしと見え其の居村たる関係より特に自ら東道の主人たるべければ、二十八日を以てすべしとのことなりしも、記者は初めより微行の目的にて特に案内を煩はすが如き其の本意にあらざるを以て之を辞して予定の行動に出でしに、今突如として此の事ありしは恐らく森氏の好意に出でしなるべし

●上磯たより

▲豊作 初め殆ど安じられたる稲作も近頃の天候にて今の所にては先づ豊作なり

▲昆布 は四五年以来の豊漁にて夫々共同販売の準備中なり

▲小泊漁業組合は 数十年来龍飛近海に望を囑し種々争論の上地先を以て海権を定むることに協議し未定地の分訴願の結果小泊の不利となりしより今度は更に地界に論を置かず海面は別なりと様々の理由を述べ龍飛へ更に入会漁業登録申請に捺印し呉れなど今より宇鐵に請求せりと

▲恵胡 は未だ漁期にならざるものを去る七月中旬より龍飛地先のもの採取し剩へ昆布は未だ嘗て小泊漁業者は見る事も出来ざるものを土用前に刈り取りたりとは実に無法も亦甚だしきことなり

▲宮殿下の御微行 七月二十日宮殿下龍飛へ御微行の為郡官警察官公吏等龍飛へ前日より出張中十九日午前九時過ぎ大連丸は龍飛岬北国瀬に乗り揚げたり此の瀬は以前戊辰の乱中敵艦神風艦は沈没せる所にて雪風或は曇天の時は随分危険の所なり将来に於て灯台の必要あるが如し大連丸は些かに乗り揚げたるものに付幾分荷揚げの上引卸を終り昨日函館に引返したり二十日は宮殿下拝観及び大連丸乗揚げ見物旁一時混雑せり

●縣新漁船建造

陸奥湾内の調査船

本県にては水産試験場大畑分場所属遠洋漁船建造の必要を認め予算三千五百圓を計上し県会の協賛を経当該大臣に対し国庫補助を申請する等夫々準備せるが愈々着手するに当たり物価騰貴の為此の予算を以てしては到底建造不可能なるに依り去る六月十五日縣参事会の協賛を経て五百圓を追加したれども尚三百圓の不足を来す模様なれば此の儀を具申し農商務大臣に補助申請せるに三百圓交付の旨指令せらる同船は既に三戸郡湊川口なる造船所に於て指定請負にて目下建造中なるが噸数は十三噸にして竣工の上は主として陸奥湾内の海洋観測漁場探險其他の試験に従事する方針なりと

(注：船名 海鷗丸 総噸数十一噸六 純馬力十二馬力 (石油發動機))

起工 大正六年九月一日 進水 同年十一月二十八日

造船所 三戸郡湊村 柁谷造船所

本試験船は大正八年一月十九日、本県尻屋崎沖から北海道恵山沖の「メヌケ延縄漁場探索航海」の帰途、恵山町海岸に於て遭難、座礁、破船した (県水産史より))

大正六年八月十一日

●下北の二日間

(七) 大畑橋上

▽記者の大畑に着せしは十時半、而して大畑発の田名部行定期馬車は午後一時なり、この間僅かに二時間と半に過ぎず、槇氏は折角の來村なればセメては一泊してと懇懇せらる好意は洵に多謝、而も予定を変更すべからざるを語れば、然らば一二の有志と会して暫し相談するの機会を得さしめよと、記者は之すら辞するの礼を失するのみならず、地方の有志に依りて地方の事情を聞くを得んには、此の上の仕合わせあるべからずと感じたるを以て、好意に応ずることゝして後刻を約したり

▽槇氏の辞せる後にて工藤先生との談話は尚ほ継続せらる、本稿は尋常高等小学校にして現に五百の児童を收容し居るといへり、近年増築したるものなれども既に狹隘を告げて更に適當の処置を講ぜざるべからざるべしとて、近年就学児童の著しく増加しつつあるを語る、児童の増加は即ち人口の増殖を示すものにて人口の増加は即ち地方の發展を語るものなり、為に近頃二枚橋分教場を開始したりとの事にて、青森市役所に在勤中なりし齋藤直衛氏其の任に当たり居る事になりしと云ふ、大畑村には大字大畑の本校と大字正津川に一尋常小学校あり、外に大字大畑にのみ四分教場を有すると云ふ蓋し大字大畑のみの区域約二里半に亘り居ると云ふに徴するも、以て如何に其の広汎なるかを察すべく、多数の分教場を有するの偶然ならざるを知るべし

▽工藤先生よりは尚ほ地方の漁業の事、教育場の事種々参考となるべき事など聞くを得たれども其は後に記する事とすべし、斯くする内に休憩の時刻となりけん藤田君も來れり、記者の來訪をば全く想ひかけざりしなるべし、數月の間なれど太平洋の潮風を浴びてにや顔もくろぐるとイト強健になりしように見受けられしはうれし、工藤先生の好意に依り村内を逍遙す、槇氏

の元に立寄れば氏も亦来り加わり、続いて藤田君も来たりて一行四名は暫く大畑橋上に佇めり、大畑川の上流を望見すれば山緑に水清く炎天尚ほ気の爽やかなるを覚えしむ、大畑を距つること二里有名なる薬研の温泉あり、楨氏は大畑川の上流に当るとて其の方面を指示し其の景勝を説きて頻りに観光を勧む、薬研の精選小憩は記者も予て聞知して遊意の禁じ能はざるものあれども如何せん其の余裕なきを、藤田君も春来既に二回も探勝したりとの事にて其の絶勝に感嘆し、何とも云へぬ情趣ありとて一度は必ず行ってみるべき価値あるべし、一度行けば二度三度遊意を禁ずる事能わざらしむ、薬研の景は春の芽出時を以て最とすべしと語れば、楨氏は春の芽出し絶景ならんも秋の紅葉更に佳趣あるべしと主張す、工藤先生は一言を以てせば幽邃の境といはんかと説きて暫し薬研温泉論に余念なし

▽薬研温泉には目下二軒の浴舎あるのみ、楨氏の令兄現に同所にありて之が管理者の一人たり、近時漸く世に知られて浴客の来遊するもの多きを加へ今は一年に三千人を数ふるに至れりと、下風呂の温泉は曾て広く知られて毎時浴客を絶たざれども周囲の光景は頗る単調、之を薬研に比すれば固より同日に談ずべからず蓋し薬研の温泉は其の効能は云はずもあれ其の勝景は温泉地として恐らく天下に比なかるべしと言へば、若し夫れ大湊鉄道の全通し、沿岸交通の便亦開けて克く世間に紹介せらるゝに至らんか、前途確かに有望の地たること疑ひなかるべし、昨今道路も改修せられ殊に小林区のトロに便乗するを得るが故に、容易に往復するを得べしと云ふ、聞く安部城の煙毒は今や此の清境にまで延びつゝあるが如く、付近樹林の一端枯損の状あるが如しと、恐るべく注意すべきは煙毒なり、尚ほ鉱業熱は全半島に瀰漫しつゝあることなるが、近時大畑付近にも鉱業師来たりて頻りに探鉱しつゝあり、此の情勢に察すれば何れ遠からず採掘に着手するに至らんと

大正六年八月十三日

●下北の二日間

(八) 半島北部の生命

▽縣水産試験場大畑分場は大畑橋より数十歩の処に在り、歩を移して全場を訪へば、場長一ノ瀬福巳技手出でて懇篤に場内を案内せらる、流石に柔魚を生命とし居る地方丈けに柔魚に関する漁具の数々場の一隅に陳列されつゝあるを見る、釣鉤は分場にて隠岐式のものに改良を加へたるものを案出したりとのことにて、釣糸も従来此の地方にてはテングスを使用し来たり其の余分は投棄するを例とせしが斯くては不経済なれば人造テングスに絹を捲きて造りしものを使用することにせり使用余りのものも別に投棄するに及ばず其のまゝ保存し尚ほ必要に応じて使用し得べし結局釣具の改良は是迄一人分二圓を費やしたるものが今は其の半額即ち一圓にて事足るべしとて只に経済関係のみならず其の漁具も従来よりは優良なるを語る

▽今や柔魚の漁季に入りたることゝ湊水産傳習部より生徒来村し居る由前夜も漁獲ありしといふ場構内の処々に柔魚を乾燥し居りしはこれが為ならん、分場長には頗る見事なるものなれば折角の序でなり是非今夜一泊して漁の光景を見てはと勧めらる、柔魚は七月末方より八月に入りては其の全盛期といふべく其の最中に至れば北通一帯漁業者五千五百人の多きを算すべ

く其の内の約二千五百人は縣外より來たるものなりといふ、而して其の漁獲高は大抵地方人は一人平均六十圓、外来者は同じく二百圓なるべく是れ外来者は遠くより來る丈けに孰れも熟練を経たるものゝみなるに、地方に於ては老幼を問はず熟不熟を問はず就業する為なりと云へり

▽今は尻屋より大間に至る一帶の沿岸は柔魚を以て生命とし大間より佐井までは鮑及び昆布を以て生命とすとて分場長は更に鮑の標本を取りて語る、鮑は大間産の聲価實に全国に冠たり、今や大間鮑は一斤三圓より三圓五十錢の高価を唱へ極めて貴重なる海産物たり、大間鮑は何が故に斯く聲価を有するかといふに、乾燥も宜しく製法も宜しき為なるべく又た季節にも依るべし、大間鮑は十一月より翌年四月頃にかけて漁獲されその他は大間の漁獲後なるを例とす、大間のものはヤスにて突きて獲り、他の地方は之に反し網にて漁す、故に大間産の疵あるも尚ほ価の高きは主として季節の関係なるべく、若し疵さへなくんば一層の高価を見るならん、即ち大間産の市場に現れし後に於て他は出て來るが為なるべく、大間鮑と云へば市場の信用極めて高く悉く良品として歓迎せらるゝは本縣水産界の名誉たり權威たりといふべく、此の程岩手県の技師も調査の為特に出張したる程なり、今夫れ下北の柔魚は産額も多く重要なる産物となりつゝあるも、尚ほ市場に於ては信用充分ならず、嚴重なる検査を経ざるべからざること、大間鮑の比にあらず、大間鮑は實に貴重なりとて、分場長も本縣に此の海産物あるを誇りとするに似たり、記者も鮑と云ひ鰯と云ひ重なる對外的海産物を有するを此の半島の為に快とす

▽尤も柔魚は漁不漁ありて一度不漁の場合は沿岸一帶の死活問題となる訳にて随分危険と云ふべきが大間より佐井に至る間は鮑の不漁なる時は必ず昆布は豊漁に昆布の不漁なる時は其の反対に鮑豊漁なるを以て漁民は何時も不漁に苦しむが如きことなく大間方面の漁業は安心し得らるべしと云ふ、尚ほ全分場にては近頃貝殻を利用して頻りに諸種の細工を試作しつゝあるが如く、カフス釦の如き他の地方に於て製作したる見本數種を陳列しありしが若し斯かるものを作り得んには随分世間に珍重せられ需要も多かるべし、分場にては八戸近海に於ける姫貝の如き之を空しく放棄し置くよりは何かの利用にもと考案中なりとのことにて、宴席などに楊枝入れに代用しては如何とのことなりし、又大間方面に多く生ずる南光貝を釦の材料にするなど、分場にては着々諸種の研究を重ね居るが如くに見ゆ、時既に正午十二時を過ぎ時刻の迫れるものあるより辞去したり

大正六年八月十四日

●下北の二日間

(九) 大畑の漁業

▽水産試験場分場を辞したる後楨氏方に至る、氏は郵便局長にして旅人宿を兼業す、蓋し地方屈指の旅人宿なるらし、頗る趣味に富める人なる由、記者の導かれし一室の瀟洒たるに徴するも想見するに足る、大畑水産組合長なる柳澤伊左衛門氏亦來たりて待受けつゝあり、一座五名打寛ぎて歓談に時を移せり

▽大畑は元木材を業とし來れるにて、地方の生命は寧ろ茲にありしに、明治十八年の頃より官の手に移るに及びて人気は一変し地方の衰退年と共に加はるの形勢を來たし心あるものをし

て地方の前途を憂慮せしめたる程なりしに、三十二三年の頃より柔魚漁の好況を見るに至り爾来今日に至れり、畢竟するに是も外来者の資にして、是迄は柔魚の群來し居る場所其の時刻等に注意せざりし為今日の如く多くの漁獲をなす能はざりしにて一度県外より柔魚漁業者來たりて其の範を示してより初めて地方の漁業者も心付き爾来柔魚を以て主業とし生命とするに至りたるなりと、以前には地方の柔魚釣は大抵夜九時を以て引揚げ來たれるものなりしが今は夜の明け方まで漁獲するものにて是迄は漁業の最も適當なる時刻を逸し來たりしなりと、北部一帯の鰯の收穫は約五十萬圓とすれば大畑一村のみにて二十萬圓、その他生もの（柔魚のまゝ）にて処分するものを加ふれば二十五萬圓にも達すべきかといへり、昨今漸く柔魚釣の時期に入りしが八月最中の時に至れば百数十艘の漁船は河口を圧して輻輳する様洵に見事なりとのことなるが、多きは一人にても三千尾、一艘にて三萬尾を漁獲するを例とすと、斯くて一時衰退に傾き來たれる地方も漸次回復して今は年と共に發展し戸口も漸次増殖を見るの景氣にありと云ふ今や漁期の到來せると共に外来者漸く入込まんとしつゝありて地方も是が準備に余念なく人氣何となく引立ちつゝあるに似たり、乾燥物は近時頗る高騰しつゝあり此の際豊漁を占めんには地方の幸慶といふべし

▽大畑地方は今や柔魚を生命とす其の他の漁業は殆ど云ふに足らず元は鰻漁を主としたりしも今は漁獲なきに至れり、鰻も地引より揚繰、巾着網等諸種の計画をなせしも遂に功を奏せず、イワシは矢張り地引きならざるべからず、地引きにて成功せざるに於ては他は無効たるべし、潮流の関係にもやあるべし、決して其の魚族なきにあらざるべきも、鰻は近時全く問題たらざるに至れり、尤も本年は久々にて先般多少の漁獲を見たり、鮪も先年一時は大漁をなし地方の景氣一方ならざるものありしも近年は全く不成功に終はり本年も此の付近大謀二ヶ所を設置せしも其の甲斐なく既に撤去したりと云ふ、鮪は下北郡のみならず、本年は西海岸も全く不漁に終らんとするが如く一方は秋田県に於ても若しくは宮城、岩手方面に於ても同様の運命を見たるが如し、恐らくは同魚の絶えたるにあらずして潮流の関係上魚道の変更したるものなるべきは疑なかるべし、其の他鮮魚としては鯛、ソエ、油目の類、川には鮎、鰻の洩刺たるものあれども交通の不便は殆ど地方の食前に供するに過ぎず、大湊鐵道の全通に際せば或は内地に輸送するを得んかと

大正六年八月十七日

●下北の二日間

(十)

農事と交通

大畑の生命は云ふ迄もなく漁業なり、農事も漸次開墾せられて年と共に耕地の増加を見つゝありといふも部内を通して漸く六七十町歩もあらんかと云ふ、田地は独り大畑のみならず半島の多くは未だ稗を主とす、是れ風土の関係にも依るならんが畢竟するに稻の如くに手数を要せざる為なりと云ふ、即ち男子は常に漁業に従事し女子は主として農事に関係するが例なるを以て其の労費をば稲作の如くに傾注する能はず、稗なれば殆ど放任し置くも可なるが為なりと、門田郡長は半島を巡回して田地の依然として稗を主とし居るを見ては如何にも馬鹿々々しき心

地すと嘆じたりと云ふも理り也、畑作の如きも漸く自家用の蔬菜を獲るに過ぎず蔬菜の払底なること甚だしく若し夫れ果実の如きに至りては土地産のもの殆ど見ることなしといへり、部内に於ける穀菽は地方に対し何ほどの供給力あるべきかを聞くに、漸く三カ月位維持するに足るべきかと、其の他は悉く半島以外より輸入するものに係るなり、然れども半島には開墾すべき膏腴の土地実に広く当部内の如き亦遺棄して顧みられざるもの多しと云へば漸次開墾せらるべく亦宜しく開墾せざるべからずと思ふなり

▽大畑は対岸なる函館とは実に一衣帯水に過ぎず其の距離漸く三十七哩と稱せらる、従つて交通は主として函館との間に行はれ日用品の如きも多くは同地よりすと、近頃地方にて石油発動機船製造の計画あり、愈々進水の暁には函館は勿論青森とも交通の便を得べく地方の便宜少なからざるべしとて其の竣工の期を待ちつゝあるに似たり、斯く函館との関係極めて密接なるのみならず従来材木業の關係に於ても亦漁業の關係に於ても常に県外多方面の人と接触の機会多きが為に、地方の氣風は自ら田舎抜けして兒童の言葉使ひからして違ふものありとぞ、其の生活状態の如きも漁業地だけに一般農村と其の趣を異にするは云ふ迄もなく、現に柔魚の如き一人にて一夜の内に三千尾（価格にすれば二十圓）も漁獲することありと云ふ程なれば、金遣ひも荒く貯蓄的觀念の一体に欠如しあるは争ふべからず、教育者も此點に関しては特に其の思想の涵養を必要と認め居るが如し

大正六年八月十八日

●三厩水産だより

△宇鐵漁業組合 は共同入札販売の結果当時の鯛は一把金十二三錢の処金二十二錢となり三厩昆布も一把五十錢位の処一圓五錢となり従て其の現品も互に注意を加へ精選せるが其の内に粗製のものもありて落札者より嚴重の掛合を受け相当割引の上現品授受せるもありたり

△八月十八日は恵胡の入札あるべく本年は天候も良く且つ土用入後に採取せるもの土用入前に採取せるものに倍增せるが本年は恵胡薄漁の年なるも約八千貫位の入札あるを以て希望者は既に競争して落札せんと今より計画中に付き多分十八日には甚だしき競争を見るべし

△鮑貝殻 は未だ宇鐵に於て潜水器漁業の出願許可にならざる内遠き和歌山縣貝卸製造所より一手買入予約し宇鐵に製造所新設して永遠に事業継続する都合に付き価格は一貫目金六錢にて甚だ廉価なるも宇鐵には水産補習學校もあり卒業生の補習になるを以て代価の廉なるにも拘らず去る七月三十一日までの契約にて金二十圓を納付し先般以来屢々宇鐵に出張して現品受渡の儀照会せるも彼是故障ありて終ひ其の約定日限を經過せるを以て契約金二十圓は組合に於て没収の上前契約は無効となり既に和歌山県より再三の往復にて多少冗費となりたる上二十圓の契約金も無効となるは甚だ氣の毒なるも契約面に因れば貝殻は上り次第受渡の都合なるも永く受渡せざる為海藻干場に山をなして海藻の乾燥に不便をなしたる為組合員一同の不服にて今回の総会にて更に入札販売することとなり六錢のものは今より八錢か九錢と競争の様に付き是も多少意外の入札あるべし

△恵胡入札者 は函館及び大阪長野の商家なるも多分大阪の商家に落札せるかと想像せらる

△三厩昆布 にても一把一圓余に付き宇鐵産の棒昆布は其以上の多額なるべしと今より世評あり十二日より採取の都合なりしも従来の慣例により柳谷理事方の不幸の為十五日迄延期し十六日より旗揚げ次第午前七時より同十一時まで一日置きにて昆布採取する都合なり（十二日発）

●下北の二日間

（十一）大畑より田名部へ

▽半島の教育に関しては記者は固より門外漢なり、学校の門をくぐりしも大畑を以て初めとす、只偶々話頭に上りし処を総合するに半島に於ける校舎の設備は比較的整ひ居るが如く、教員の如きも頗る研究心に富み其の職に熱心なるを認むべしと云へり、下北半島といへば世間は往々見縊りつゝあるが如くなれども、而も事実の反対なるものがあると云ふは地方教育の為に喜ぶべき現象といはざるべからず

▽然らば大畑なる本校の設備は如何といふに、其の土地柄より云ふも、又現時の必要より云ふも、是を他の地方に比して、決して満足すべき程度にありと云ふべからざるが如く遠からざる将来に於て相当の施設をなさざるべからざるべしといへり、本村にては学校の為に曾て特に造林し來たれるものある由にて今は頗る成木を見るに至りつゝありと云ふ、學校設備の為には好財源と云ふべし

▽大畑村の経済は本年度に於て約七千圓なりとか其の大部分は教育費と衛生費とにあり衛生費は村医に関するものにして、本年度よりは特に新知識を有するものを招聘せん方針の下に予算を増加したる也と、未だ其の人は決定に至らざるも地方の希望は医学専門学校出身を以てせんとするにあるが如し、独り本村に限りたるにあらず、海岸地方に於ては一体に衛生には注意を払ひ居る為か、曾て一たびも伝染病の発生を見たることなしと云へり、畢竟するに家屋の構造と云ひ、生活状態と云ひ、比較的発達し居る為にもやあらん、半島は此點に於て別天地なり、羨むべし

▽斯くて丁重なる午餐を饗せられ主客の歓談尽きぬも時針は遠慮せず定刻の一時を過ぐること一時と又半、是も主人側の好意によりて特に記者の為に発車を延期せしめ居りしならん、二時半に近き頃榎氏方を辞して再び馬車上の人となり田名部に帰宿したるは午後五時と覺ゆ

▽宿に入れば前日船を共にせし菊池連隊区副官亦在宿、前日は恐山に登り今朝下山して在郷軍人会に臨席したるなりと、今朝登山したる小松照代一行の噂をなしつゝある間に両妓亦帰宿したるが、元気者にも似ず、疲労の態如何にも痛々しく見えけるも婦女丈也、而も両妓は待人を便りて重き足をば直ちに大湊に運ぶ、記者と柯芳君とは此の夕水入らずの清酌に前日來の疲労も一時に消えし心地せるもうれしかりし、筑前琵琶に堪能なる萬呂調陽氏亦同宿の一人たり、曩に青森市は公会堂に於て弾し爾來津輕各地を巡遊し終はりて数日前半島に渡航し來たれる由にて記者等の為特に得意の数曲を弾す、声調頗る聞くべく中に「唐前棧」の一曲は市巡遊中に北郡は北畠県参事会員の作にかゝるものなりという、北畠氏も亦趣味に富める人と見ゆ、石田郡視学亦此の宿に寓す、此の夜親しく歓談の機を得遂に夜の更け行くを知らず、下北の二日も茲に尽く

▽斯くして二十八日午前六時というに大湊を指して帰途に就けり、帰航中に於ける陸奥湾の

所見は別に記することゝして茲に擱筆するに当たり、田名部、大畑に於ける諸氏の厚意に対し衷心の謝意を表す（一記者）

大正六年八月二十一日

●下北全部漁況

▽鮑漁 当地方は網漁突漁の二種あり本年の漁況は昨年の収漁の八掛けにして佐井部内網漁生賣一萬八千貫突漁七千斤奥戸部内網漁一萬四千貫突漁八千斤大間部内網漁六千貫突漁五萬斤の収漁あり価格は佐井生賣一貫目三圓五十錢奥戸全三圓九十錢大間一ケ十二錢昨年に比し二倍の高値を示す合名會社安野崎商店佐井奥戸鮑製造所は毎年四月十二日開所し本年の閉所は八月十一日にして製造所西堀佐井主任全河野奥戸主任は去る十四日任務を終て帰店せり

▽昆布 昆布は未だ収穫を終らざるも凡その見込高大間棒昆布三千石奥戸全二千石、佐井二千石、蛇浦百五十石易國間三百石、尻屋大花折三百石、小田野澤老部白糠小花折三千石にして昨年の価格も相応なり

▽天草 大間生天草百石、奥戸五十石、佐井百石、蛇浦十石、易國間二十石、尻屋二十石の収穫にして昨年の半収に過ぎず価格は百石に付大間品は生物にして九千五百圓、奥戸品は全八千七百圓、佐井品は晒物にして九千七百圓、蛇浦易國間は全価、尻屋晒物七千五百圓昨年に比し二割高し

▽恵胡 大間千石、奥戸四百石、佐井二百石、価格は百石に付五千五百圓昨年に比し収穫は約三割減なるも三倍の価格を示せり

▽烏賊 下風呂方面には毎年九十艘の入漁舟ありしに昨年の不漁より本年は著しく減じ五十一艘の入漁舟に過ぎず又人員は昨年迄は一艘平均漁夫付屬人共十一二名なりしが本年は六名平均に過ぎず入漁舟の多くは関根、石持、古野牛川、入口、裳部、岩屋、尻屋等の親漁場に入込みたるものにして六月二十七八日頃より多少の水揚げあり目近の處一人平均一日百尾位にして価格は百斤百二十一圓五十錢位昨年に比し多少初期の漁あり価格も二割強の高値なるも何れも内地向きにして支那向けは何れ来月より製品せらるべし各所入札あり大畑森商店、田名部安野崎商店、全白濱商店、全中島商店員其の他函館商人の手先連東西に奔走し居れり

▽苔布 蛇浦三十石、下風呂六十五石、易國間六十五石の収穫昨年に比し八割増なりし価格は百石に付き三千圓昨年に比し八割高し

大正六年八月二十四日

●樺太視察所感

（下）中村縣技師談

◆水産業の現状

真岡に二泊して其の間真岡より北方一里に馬車を驅り水産試験場に至り鯨粕製造の器械を視察せるが器械も精巧所装置も大規模にして一時間の製油量四石乃至五石と云へり一方に斯く大規模なる諸装置を有し居れども樺太庁の水産業に関する諸費目僅かに二萬五千圓にして全道視

察調査の費用にも足らざるは遺憾なり庁財政の都合によるならんが何人も認めて遺憾なりとせざるもの無からん唯本斗に到り

◆鱈の製造所 を視察し且目下鱈の漁獲及び製造頗る旺盛にして在樺太の四大會社を初め個人の経営従事するもの多く、追々全盛期に向はんとするを見ては快然たらざるを得ず蓋し世界の三大漁場の内北海及びアラスカは既に全盛を過ぎ今やカムチャツカより樺太沿岸に於ての漁業漸く殷盛とならんとす本邦水産界の益々有望なるを示すものなり一行の視察期は恰も

◆東海岸の鱒 の漁獲期なりしが漁獲せる鱒は塩払底の為全て塩蔵する能はず往年本縣にて鯖を製油せる如く鱒を煮て油を製作しつゝあり思ふに本縣は此の際大いに尽力して彼岸の漁獲物をも知己たると共に米藁の輸入を盛大ならしむるに努べし

◆本縣の藁工品 は頗る令名あり樺太に於ける建網用として本縣産の網藁は高値にも拘らず名声を博し居れるが唯莖は七尾より輸入せらるゝものに圧倒せられ居れり藁工品の仕向けは益々尽力して發展せしむべき余地多々あり痛感するに樺太は目下資本労力共に払底にして就中労働者の不足は労賃頗る良く生活程度の高き事著しく内地を越え居れるが如し見すばらしき女子の労働者等が一人五六十圓位の生命保険に加入し居れるが如き比々皆是なり云々

●遠洋漁業視察 農商務省水産局勤務高山技手北陸奥羽方面に於ける遠洋漁業調査 の為九月上旬來縣の筈にて鶴見局長より予め通報ありたり

大正六年八月二十七日

産業調査會

▽第一日目

昨日午前十時より縣會議事堂に於て第二回産業調査委員會を開く來會者

△委員長名尾内務部長△委員市川警察部長、福永理事官、酒井理事官、重信理事官、藤原東、幸田西、松下南、見坊田北門田下北、尾上三戸の各郡長、長尾弘前、安部青森の両市長、西田陸奥、成田弘前、大正、小山弘每、齋藤弘新、武田本社各社長、△普通農事部 安部武智雄、今井仁右衛門、鳴海長左衛門、幸田健作、平山又三郎、原田豊次、外崎嘉七、沖田永太郎、吉田和太郎、相馬貞一、中川原貞機、前田栄之進、佐々木弘道、横田利喜一、米山弘△養蚕部 省略△林業部 省略△水産部 河野栄蔵、中村平八、長谷川義、今泉秀雄、小泉辰之助、七戸綾七郎、柏谷運 次郎、田中金兵衛、松森豊、森又四郎△畜産部 省略△商工部 省略

振鈴を合図に先づ各委員着席続いて川村知事入場名尾委員長登壇開会の旨を述べれば△知事登壇 左の挨拶をなせり

今回第二回本縣産業調査會を開會するに当たり委員諸君の御賛同を煩せるに御多用の場合御差繰の上斯く多数御出席ありたるは公共の為努力の途に出でられたる結果にして深く感謝するところなり由来本縣は他府県に比し産業微々として振るはず従つて生産額は遅々として進まず各府県を通し甚だしく劣等の位置にありつては県民一致協力して産業の振興を策し生産の増加を図るべき方途を講ずるは本縣の最も緊急とする所なり此の目的を貫徹せんには一

定の方針を定め其の目標に向かって進まざれば恰も方向を進めぬ船が太平の波間に漂ふ如く遂に帰着する所に達せざるべし爰を以て本縣は見る所あり本会を設置し昨年第一回の総会を催せり

▽本官就職後 も其の趣意に賛し爾來着々準備を急ぎ來たれるが何分事重大なる為自然延引し本日を以て茲に第二回調査会を開催するに至れり今や欧州戦争も既に末期に近く戦後の経営準備は世界を通して夫々考究せられつゝあり従て我国も種々なる方面に於て研究を開始し居るは諸君の承知せらるゝ所なりこの時この際本縣は産業上の目的を定め以て進路を確實ならしめ着々歩武を進むるは最も必要とする所なり尤も本会の権限は縣會の如く縣予算に立ち入る事能わざれども本会に於て決議なりたる事項は漸次県財政の緩急により夫々実行せらるゝことなるべきを以て今日より決定し置くは縣百年の大計として大いに必要とする所なり願くは腹藏なく御意見を吐露せられ適切にして有効なる御決議あらむことを望む

次に名尾委員長登壇

△経過報告 を為せり

本日より三日間に於て第二回産業調査会を開催する事となりましたに就いては茲に會議に先立ち昨年十一月各位の御会同を煩はし第一回産業調査会を開催したる以降に於ける本会の経過について簡単に御報告を申し上げます御承知の通り昨年十一月七日八日の二日間に亘りて第一回産業調査会総会及び各部会を開かれ其の際各位の熱心なる御討議を煩はしたが何分問題の広汎なると事柄の重要なる為之を即決するに至らず次期開催の際に至る迄に慎重なる調査を遂げられ總會の原案ともなるべき案の御提出を願ふ事として閉会となつたのであります然るに備々考ふるに右様にては一の成案を得る迄に多大の日月を要し所謂勞多くして効尠なきを感じざるを得ざりし為寧ろ各位より御意見の御提出を煩わし其の意見と縣に於て調査せる所とを練り合せて

▽採長補短 以て一の原案を作るは調査進行上の捷徑たるを思ひ不取敢斯様な取運を致す事と定め昨年十一月十四日を以て私より各位に対し御担当の調査事項に関し御意見の御提出を促したる次第であります然る所各位に於ては御繁忙なるにも拘らず御調査の上提出になりました御意見は各部を通し総計三十三通の多きに達したのであります之により私どもは多大に利益を享くる事を得たのであります此の機会に於て深く各位の勞を謝する次第であります斯様にして各位より御提出になりたる意見書は部門部毎に分類し縣廳在勤者たる委員をして夫々詳細なる調査研究を遂げしめたる後彼此参照して慎重熟議の上一の原案を作成したのであります先刻御手元に配付せる

▽調査書原案 は即ち夫れであります原案は斯様にして出来たのであるが併し茲に念の為申し上げ置きたい事は縣に於て此の原案の通り御決議を希望すると云ふ次第ではなく只各位の御調査上の便宜を慮り一の的を拵えたと云ふに過ぎないのであります故に各位に於ては充分御調査になり腹藏なく取捨選択を行なひ縣百年の大計を確立せられんことを希望する次第であります尚ほ調査書の原案と共に先に各位より御提出になりました意見書を印刷に付して御手元に配付致しました筈であります次に御断り申し上げ置くは元來本會の開催に付きも少し時期を早め

たき考えにて御承知の通り本會の第二回開催は本年四五月の頃と見込みを立て昨年の本會に於て豫め私より申し上げ置きたる筈なれば爾來鋭意調査の歩武を進めありしも調査事項の▽複雑多岐に亘れると長官の御更迭等もあつた訳でありましたから廳務多端を極めたる等の事情よりして心ならずも延引に延引を重ね茲に本會を開催するの已むを得ざるに立ち至つたのであります幸に各位の御諒承を願ひ度いのであります最後に委員の異動に付いて申し上げます新たに官公職に就かれたる等の為に長官より委員を御囑託になり之を御快諾ありたるは淡谷忠藏、盛田徳太郎、藤原喜藏、見坊田鶴雄、三好與七、阿部政太郎、平山又三郎、馬場庄介、市川口君の九氏であります又官公職を去り其他の事由により其の任を解かれたる方々は石黒熊三郎、武士忠一郎、西村實二、渋谷水穂の四氏であります以上以て経過報告と致します

△質問と希望 名尾委員長は質問の有無を問ひたるに対し三橋忠藏氏は部會の原案が出来て總會に付す場合に於て甲部の委員乙部の決議に対し意見を提出し得るや詰り一般的に論及して可なるか北山一郎氏より甲部の者が乙部に対し質問為たる場合答弁せらるゝ訳となり居るや等の質問あり名尾委員長之に答弁す鳴海廉之助氏調査事項は非常に広範に亘り且重大なる問題なれば總會に於ては種々質問或は意見も出来る事ならむ斯くては時間の関係もあるべければ今明兩日を以て部會の決議案を作成する運びと為明後日（二十八日）には朝より總會を開催するやうに致したしと諮りしに満場異議なく其の方針にて進む事とせり斯くて總會を閉じ部會に移り講究を重ねて十二時十分昼食の為休憩せり

△午後の部會 一時半頃より夫々開催せらる部會室は畜産、林業、水産、養蚕は會議室に商工部は議員詰所普通農事は参事官室に於て開會調査書案に就き不明の点は各理事及び関係技術員の説明を得て進行午後三時散會尚午後よりは船越香織、関春茂、浜中末吉、淡谷忠藏の諸氏參會せり

●東北一の船成金

◆一カ年の純益四百萬圓

土崎港野口喜平氏經營にかかるゝ船舶部は現在機船八郎丸、泰平丸、平戸丸、日勝丸の外新造船鹿山丸の五隻を有し此の総噸数今や一萬四千七百噸にして之を時価にすれば實に九百五十餘萬圓に上るべく尚ほ其の純益は来年五月より明後年五月迄四百萬圓となるべく東北一の船成金と稱しても過言ならざるべし店主喜平君は亡父直平氏の遺志を継ぎ令弟陽吉君の外青森商業學校卒業の渡辺喜代治君の兩人と共に幹部となりて海運界の為に一層の腕を扼し近く中央に雄飛せんとしつゝありと

大正六年八月二十八日

産業調査會

前日に引続き昨日午前十時より各部會開會せるが出席者は前日の外竹内寅次郎、佐々木盤藏、宇野勇作の諸氏參會し各部會は準備委員會の案を原案として討議を為たり尚委員たる郡市長の所属左の如く決定夫々參加せり

△商工部 阿部青森市長、長尾弘前市長、三好中郡長△林業部 藤原東郡長△農業部 幸田

西郡長、松下南郡長、見坊北郡長△養蚕部 尾上三戸郡長△水産部 門田下北郡長△畜産部
平澤上北郡長

(水産部會の外は省略)

△水産部會 河野部長他各員臨席し第一漁撈にありては原案中近き将来に於て四百二十萬圓に達せしめんとあるを十カ年後に於て年額八百萬圓に云々と修正し其内訳鯉北海鱒の遠洋漁船並びに沖合打瀬網漁船を各百隻漁獲を各原案の二倍に進め別に川崎船の改善八百隻漁獲高百六十萬圓に補助奨励することとし其の実行方法中漁船建造奨励し相当の補助とあるを二割を補助すと具体的に表示し漁港避難港の修築するを適當の場所を選定し十カ年を期して避難港假泊港十ヶ所を修築するに修正内容に於て其の候補地をも内定せり第二製造及び販賣の実行方法中に本縣重要支那貿易品の需要取引状況調査の必要上支那視察員派遣の一項を加へ重要製品の検査は縣に於てと修正第三養殖は其の産額近き将来に於て十萬圓とあるを三十萬圓とし内訳を各倍加する事第四漁村の経営実行方法中縣に於て魚付林及び水源涵養林に必要な沿岸森林を調査し保安林に編入せしむるの一項を加へ更に第五として水産行政制度例へば縣の水産機關拡張縣立水産學校又は講習所設置に従て試験場の傳習部を廃止し師範學校に水産科を設くる事等の事項を追加するに決せり

因に蚕糸部會は午後二時半商工部會は同四時他の部會は正午若しくは一時を告げざるに散會せるが本日は午前九時開會總會を開き各部會の決議報告あり最後の決定をなして閉會する筈

▲知事設宴 川村知事は昨日午後六時より開會中の産業調査員並びに廳内準備委員一同を赤十字支部に招じ晚餐會を開き懇談をなせり

●鮫沖鯉豊漁

鮫沖合の潮流至って良好にて一昨日出漁せる白鷗丸は鯉大中を合して一千六百二十八尾此の価格八百十四圓を漁獲し同船八月十四日以降の漁獲高を通算するときは四千三百七十四尾一千九百三十二圓餘となり近年の大漁なりと同沖合の水温水色共に良好にて今後益々有望にして近海一般に活気を呈し居れり

大正六年八月二十九日

産業調査會

最終日

最終の産業調査委員總會は昨日午前十一時五十分より開會尚委員長議長席に就き普通農事部決議案より漸次討議を開始せり

(水産部以外は省略)

△水産部 河野部長逐条説明を為し殊に水産教育の急務なるを力説して討議に入れるが漁船の改良法として川崎船及び発動機船の建造費二割を補助すと云ふ點、避難港若しくは假泊港十ヶ所を修築し十年以内に完成すとある點は他部と異なり餘りに具体的なれば数字を削除し更に製品取引調査の為支那地方へ視察員を派遣する件は希望条件に訂正すべしとの修正意見出て相馬、濱中、鳴海、岸氏等頻りに主張せるに対し河野部長今泉氏原案維持に努めたるも遂に少数にて

敗れ修正通過す他は原案可決

△知事の挨拶 此処に於て名尾委員長より議案の全部を議了せる旨を告げれば川村知事登壇左の挨拶を為せり

開會以来非常の御熱誠を以て議案の全部を議了せられ此処に本縣産業の方針の決定を見たるは御同慶の至りなり就いては縣當局に於ては決議を尊重し可成之が遂行を期する考なり然れども豫め諸君の御諒承を求め置きたきは本會は諮問機関なれば其の決議は諮問に対する答申と同様のものにて本會の決議を以て縣會及び當局を拘束すべき性質のものに非ざれば縣予算の関係直ちに実行し難きものあるは已むを得ぬ次第なり此點は誤解なからんことを望む終に臨み数日の御精励を謝す

大正六年八月三十日

産業調査（二）

▽本縣産業調査會協議決定案

△水産業

第一漁撈

適種漁業を選定し漁船漁具漁法を改善し尚漁港及び避難港を適当に設備して漁業の便を図り以て現在漁獲高二百五萬圓を十年後に於て年額八百萬圓に達せしめんとす

（一）漁船の改善

実行方法

- 一、川崎船及び発動機船の建造を奨励し造船費及び補助機関新調費に対し相当補助すること
- 二、講習会を開催し造船技術の改善及び機関取扱の技能の進歩を図ること
- 三、漁船批評及び競爐會を開催し造船技術の改善を計り及び爐の利用に熟練せしむること

（二）漁具漁法の改善

実行方法

- 一、鰯鮪等の定置漁具を改善し其の漁場を整理すること
- 二、鰯大敷網、鰯其の他の改良小台網、鱸其の他の壺網等適種定置漁具の使用を奨励普及せしむること
- 三、適種延縄漁業及び揚繰網類漁業を奨励普及すること
- 四、篝火器利用を指導奨励すること
- 五、新規適種の漁具調製に対しては補助資金貸付其の他の方法を以て奨励すること
- 六、新規適種の漁具漁法に対しては熟練漁夫を傭聘し直接當業者を指導啓発すること
- 七、鰯大敷網の如き資本と経験とを要すること大なるものは慎重調査を遂げ確實なる見込み立ちたる上其の経営に着手せしむること
- 八、鰹鱈遠洋漁業及び打瀬網類漁業を奨励指導すること
- 九、漁船は可成周年利用の方法を講ずること
- 十、遠洋漁船は本船を以て漁業するのみならず可成母船式として手船を利用し漁船の能率を大

ならしむること

十一、餌料蓄養法及び供給方法を指導啓発すること

十二、本縣水産試験場に於て漁場を採検調査し出漁者を指導すること

十三、磯付根付の魚介藻類漁業は可成漁業組合又は其の他適當の者をして操業せしめ其の利益を一般に配当し各自随意に採取せしめざること

十四、蕃殖保護の為に設けられたる禁止制限の趣旨を徹底せしめ之を励行し重要魚族の濫獲を予防すること

十五、魚付林及び水源涵養林を保護し更に枢要の場所を保安林とし漁場を保護すること

(三) 漁法及び避難港の修築

実行方法

一、適當の場所を選定し避難港若しくは假泊港を修築し近き将来に完成すること

第二製造及び販賣

製造及び販賣の方法を改善して品位並びに市価を高め加之原料豊富にして未だ未利用の完からざるものに対して新規事業を啓発誘導して現在生産額百三十萬九千圓を近き将来に於て二百八十一萬に達せしめんとす

実行方法

一、縣に於て重要製品の検査を施行し製品荷造りを統一すること

二、低廉魚の生産より寧ろ優秀品の生産を講ずること

三、水産品評會又は重要製品品評會或は共進會を開設し製品改善の趣旨並びに要點を指示徹底せしめ且個人を主眼とせず寧ろ生産部落を対照比較して改善の統一を図ること

四、試食會又は講習會或は競技會を開催し技術の進歩を計ること

五、共同製造場、共同乾燥場、共同貯氷庫等生産の利益を増進すべき方法を奨励指導すること

六、鰯油漬罐詰、欧米向け輸出鱈其の他有利なる新規事業を勃興せしめ必要に応じ相当補助すること

七、販路及び需要地の状況取引の関係調査研究すること

八、本縣重要支那貿易品に対し需要及び取引状況等調査の爲支那視察員を派遣すること(希望)

第三養殖

河川湖沼池並びに沿岸干潟漁場を利用して養殖業を興し現在産額三百三十五圓を近き将来に於て三十五萬圓に達せしめんとす

実行方法

一、適當の河川に鮭児を孵化放流すること

二、適當の湖沼並びに貯水池に虹鱒養殖場を設置すること

三、虹鱒鰻鯉等適種の池中養殖を指導すること

四、卵及稚魚の配付供給を便宜に且潤沢ならしむること

五、適當の干潟に蝦、海鼠、帆立、北寄、蛤、浅蛸、牡蠣、海蘿等適種魚介藻類の移植並びに繁殖保護を講ずること

第四漁村の経営

漁村の経営方法種々あるべしと雖要するに漁業組合を活動せしめ組合員をして之に信頼せしむるより重大にして緊要なるはなし之が為には一に理事者の選任を慎重にし共同施設事業の経営に依りて組合員の利益を増進せしむれば自ら信用を喚起すべし延て組合の基礎鞏固となり漁村の発展期して待つべきなり

実行方法

- 一、漁業組合を改善すること
- 二、漁村の教育を進むること
- 三、水産物の蕃殖保護を講ぜしむること
- 四、魚付林及び水源涵養林の造成を奨励すること
- 五、副業を指導奨励すること

第五水産行政制度

- 一、本縣水産行政機関を拡張すること
- 二、縣立水産學校若しくは水産講習所を新設すること
- 三、水産試験場を専ら試験調査事業にのみ従事することとして傳習部を廃止すること
- 四、師範學校に於て水産科を設置すること

大正六年八月三十一日

●調査會後始末

本縣産業調査會は二十八日の總會に於ける決議を以て其の目的を達成したる訳なれば調査委員は總會の終了と共に自然解職の形となりたるを以て知事より改めて解職辞令を發するや否やは今の所決定し居らぬ模様なれども正式に云へば辞令を發する方は穩当なるべきを以て何れ近日中に決することならむさて委員長たる名尾内務部長より知事に対し決定の次第を報告し之が採用となるに於て初めて青森縣産業調査書となり本縣将来の産業方針は該書の中より生るゝことゝなる訳なるが調査書は印刷の上各委員に配付せらるゝことなるべし

●三厩水産便り

▲恵胡の再入札 去る十八日入札せる以前に於て三厩の恵胡は一貫目一圓に販賣せる趣に付宇鐵は多分其以上に入札あるべく予想せるに計らざりき予定価格以下に入札せるを以て延期となれり之は畢竟するに製造元本人の直接入札するものにあらずして多分地方の仲買人等をして入札せしむる為の値段に決断もなく或は仲買口錢旁々大いに斟酌せる結果なるや去る二十一日東奥日報の記事中下北郡大間近海の恵胡は一貫目一圓三十五錢とあり全て海藻は内海のものゝと外海のものゝと比して外部は同一のものなるも実地に用ひて外海のものゝは内海のものゝより其味劣れり従て其の価格廉なるものゝなるべきに曩の入札には一圓以下の入札に付き此上尚ほ予定額以下となれば直ちに製造元と直接賣買する方可然之に成程本年は石花菜は昨年より收穫も尠なく而して其の価格も殆ど増額しあれば寒天製造するに於ては恵胡を多量に購入せざれば其利益尠なからざるべしと云ひ居れり

▲鯛第二回の入札 第一回のもは是迄は夏柔魚と云ひて甚だ価が廉なるも入札の結果一把金二十二銭に落札せるが今回第二回ものは秋柔魚の生質にして一把目方約二百二十匁もあるものに付第一回のものに比し其の価格は先づ三十銭以上に非ざれば落札にならざるべしと云ふものあり

●東郡水産組合 各村漁業組合を聯合して水産組合を組織することとなり愈々来月三日郡役所楼上に創立總會を開く筈当日は知事郡長の告示あり定款議定役員の推薦の後懇親会を催すべしと因に組合設立の理由として加入勧誘せるもの如左

本郡は陸奥湾および津輕海峡に面し海岸線の延長約三十有六里而も遠隔ならざる海洋上に豊富なる鱒漁場及び柔魚漁場等を有し水産業上極めて好適の位置にあり然るに年々の水産額は漁獲高及び製造高を合して僅かに三十萬圓乃至四十萬圓の間を往復するに過ぎざるは海岸線の延長に比し斯業の現況甚だ不振なりと謂はざるべからず而して之が發展を策せんには先づ積極的に漁獲高の増加を計ると共に消極的には之が製造の發達に意を注ぐことを要するは敢えて言を俟たざる所なり此処に於てか郡水産組合を組織し漁具漁船の改良漁法の採択並びに改良及び定置漁業の整理等により漁撈の指導奨励を為すと共に又一面に於ては製造の方法を改良して製品統一を図り販路を拡張し進みて水生動植物の蕃殖保護の途を講じ依つて以て水産業者共同の利益を増進し延いて漁村經濟の發達を助長せんとす

大正六年九月四日

東郡水産組合

創立總會

昨日午前十一時半より東郡役所に於て郡水産組合創立總會を開く参会者は郡下各村の漁業者水産製造業者の代表者及び関係村長等百二十餘名（委任状千六百有餘）にして来賓には

重信理事官、中村水産技師、一戸属、小泉郡會議長、玉熊、辻村、小笠原、長谷四郡参事員
臨席

△會議 先づ創立委員田中金兵衛氏登壇し出席者は定数に達しあるを以て開會する旨を告げ假會長の選挙に移る三上後潟村長の發議に依り田中氏を推すことに異議なく同氏議長席に就き發起經過報告となり創立委員畑井佐吉氏創立委員會開會より組合發起認可に至るまでの事務を報告する所あり△次に組合定款議定に移り村松東郡二課長定款草案を朗読し各員の質問に対しては田中座長村松氏等より応答し検査手数料等に関し二三の修正意見もありしが賛成者なく何れも消滅し定款原案を可決確定△次に創立費の議決に移り創立費百五十圓は一時借入金で之に充つるに満場一致決定し次いで△組長副組長の選挙を為す西田林八郎氏より組長は藤原郡長を推し副組長には水産功労者津幡文長氏を推すの動議を提出し満場の拍手にて両氏当選に決定し藤原組長一場の就任挨拶をなし組合員の一致奮励を望む所ありて暫時休憩の後中村技師の水産談あり

水産組合の業務要項は定款に掲げられあるが眞の活動は今後であり諸君は従来各自各別に業務に従事しつゝありしも今後は組合といへる機関に依りて統一したる活動をなし得べし斯く

して市場に於ける聲価は一新するものあると共に其の生産額も増大するに至るべきが共同一致充分奮励あらんことを

と述べ次に川村知事臨場藤原郡長の紹介にて登壇し大要左の如き

△訓示 を試みらる

此度本郡に新たに水産組合組織されしは郡縣の為慶賀の至りなり水産組合は従来下北郡にありしのみなりしが今回本郡にも之を見るに至りしは當業者諸君の奮発による本郡は海岸線三十餘里なるに年々の漁獲高僅々三十萬乃至四十萬圓に過ぎず今此の産額を高め致富を計らんには今後の組合員諸君の共同の奮発に依るべし共同の意義に就ては西哲の言もあるが人間は共同的生活を営みあるものなるを以て共同の利益は遂に個人の利益と相一致すべし故に今後の諸君の活動は共同の利益の為には区々たる個人の小利を捨て斯業の發展に努力する覚悟なかるゝ可らず今や我が産業界は世界的となれり水産取引関係の如きも今後は世界的の趨勢に伴ひて漁獲高の向上製品の統一を期し以て縣國に尽くす所あるべきなり

次いで藤原郡長登壇左の告辞を述たり

本日水産組合の創立を見るに至りしは諸君と共に欣懐に堪へざる所なり過般産馬共進會に於て本郡産馬組合の優勝を得たるは畢竟産馬組合が古き基礎の下に着実なる改善をなせる結果に外ならざるべし本郡に於ける生産額三百幾十萬圓中水産額は第二位に在るも而も海岸線の長さに比しては其額夥大なりと云ふ可らず是は一は畜産業に産馬組合あり養蚕業に蚕糸會あるが如く本郡水産會が相当機関を欠ける故ならずとせず年来私かに遺憾としたりしに今回當業者諸君の努力に依りて創立總會を挙ぐるに至りしは其の労を多とすると共に将来の奮励を望む

終わりにて閉會を宣し暫時休憩の後席を更め祝宴を張り互に水産談を交換して午後三時散會せり

●東郡水産組合業務

別項の水産組合は水産の改良發達及び水産動植物の蕃殖保護其の他組合員共同の利益を図るを目的とするにあり組合の業務は如左

(一) 漁撈及製造の調査指導及奨励に関する事項 (二) 製品の検査に関する事項 (三) 水産動植物の蕃殖保護に関する事項 (四) 販路の調査に関する事項 (五) 共進會及品評会の開設に関する事項 (六) 博覽會共進會及品評会の開設に関する事項 (七) 水産業者の功績表彰

而して検査を行ふべき製品として定められたるものは九種にして如左

魚粕、干鮑、鰯、海參、田作、昆布、石花菜、恵胡、貝柱

右は何れも結束、荷造法を制定し励行する筈

△設宴 別項の如く東郡水産組合創立したるを以て藤原郡長は知事其他の関係者を濱町坂井家に招待し同日午後五時より披露の宴を張れり

●汽船漁船衝突

△一名重傷一名行衛不明

二十八日夜福山弁天沖にて汽船が漁船と衝突し漁夫一名行衛不明となれり汽船は小樽区北濱町五丁目一番地藤川要吉所有禮文丸(三百四十八噸)で郵便物並びに船客十七名貨物五百二十

一個搭載二十八日午後七時函館出港小樽へ向航行中々十一時半頃福山町弁天島灯台海上を距る一海里沖合に差しかゝりし際其處に出漁なせし西津軽郡鰯ヶ沢対馬金太郎所有船と衝突し漁船は転覆破壊し船頭金太郎他十一名は海中に漂ひ將に溺死せんとしたるを石黒船長直ちに停船を命じ端艇を卸し救助に努めたり乗組漁夫一名重傷鰯ヶ沢伊沢三郎は行衛不明他十一名は無事救助乗船なし翌朝江差町に上陸せしめ三十一日小樽に入港せり因に禮文丸にて何等損害なしと

●柔魚釣仲間の刃傷

▽仲裁を刺す

下北郡東通村岩屋柔魚納屋内に於て近来漁の切れ間にて沖に出ぬのに旧の盆とて三十一日仲間十人程集合飲酒中北海道江差畑中貞次郎（三十四）と能登國小木大間某と根もなき問題にて口論の果て貞次郎は得物其の辺にありし櫂や棒を振回し暴れ回りしを傍らの人々此の得物を奪ひ取りしが一座酩酊しありし為貞次郎はいつの間に持ち出したるものか茲に仲裁に入り来りし能登國小木松井菊次郎（四十）の鎖骨下出刃包丁を刺し深さ五寸なる急報に接したる岩屋駐在所巡查駆付け取敢へず被害者松井は岩屋医院にて応急手当をなし加害者は田名部警察署に引致する被害者は重傷にて妻子付添ひ担架にて岩屋及び隣村入口辺に入漁しある同郷人等三十人程代わる代わる担ぎ道程六七里日没頃田名部医院に入院し丸山院長、深川医師等治療に手を尽くしあり

大正六年九月五日

●鰯油漬の會社

▽柳原の工場着業

予て東京武井島田の諸氏計画中なりし水産鉦業株式會社は愈々其の組織なり本市旧柳原に三百六十餘坪の

◆工場を建設 し昨今着業するに至りたり該會社の資本金は一株五十圓一萬株にして五十萬圓なるが地方出資者意外に尠なく為に工場の起工も予定より遅延せる傾きあるも原料たるべき鰯の漁獲最盛期は寧ろ九月以降にあるを以て鰯油漬着業必ずしも遅れしにあらざるべく目下島田氏主として準備に任し諸機械の据付を了りて

◆製罐に従事 しあり昨今の天候立直り次第鰯の好漁を期待しつつあり而してサージンの製造能率は同工場のみにては不足を感ずるを以て會社にては既に湊、野辺地及び本市に五ヶ所の連絡工場を契約し是迄工場の製品をも併せて横浜に出し米国其他に輸出すべく荷造り用の木箱は縣産のヒバを使用する見込みなるも材料としては好望ならざるが如しといふが尚ほ該工場にては

◆鰯油漬製造 精々十二月中に完了すべきも他の魚類又は果実蔬菜等の罐詰製造をもなす予定なれば年を通じて従業し得べく尙將來の利益は疑ふべくもあらずといふ

●鯉の漁況

本縣の鯉漁獲高は統計の上にては四五萬圓に過ぎざるも實際は此の倍数の漁獲あり本年の漁況も極めて好望にて

◆隣縣の漁場 には釜石及び石の巻沖合にありても連日好漁の模様にして最近宮城県水産試験場の漁報に見るも同県及び茨城福島の沿岸一帯近来になき餌付にして宮城県小名浜沖の如き水温二十二度水色極めて良く餌付け頗る好良なれば餌料たる鱈の供給にして続かば未曾有の盛況なる旨発表しあり本縣八戸方面の該漁況も縣水産練習船

◆白鷗丸の報告 に依れば隣縣の好況に連れ非常の好漁にして発動汽船も増加したれば本年の漁獲高多かるべき見込みなるが如く同船は去月十四日中鰹百九十八尾の初漁以来引続き日に五百乃至千五六百尾の漁獲にて昨日までの通計五千五百二十五尾此の価格二千三百三十六圓餘に達し今後好望なりといふ

◆鮫捕鯨場閉鎖

東洋捕鯨株式会社鮫事業場は去る八月三十一日を以て本年度の事業を了へ同所を閉鎖し第五捕鯨丸第一博運丸レックス丸第二東郷丸の四捕鯨船は直ちに他事業場へ回航し解剖人夫等も引き揚げ事業場長及び場員も近く引き揚ぐる筈なり本年の捕鯨頭数は二十九日第一博運丸の得たる長須五十四尺捕鯨丸の得たる鱈鯨四十四尺を最終として百十頭なりしと

●東郡水産組合祝宴

既報の如く創設されたる東郡水産組合にては一昨夜六時より濱町坂井家に祝宴を張れり来賓は

川村知事、重信理事官、中村技師、小山田秘書△小泉郡會議長、横内副議長、辻村、小笠原、玉熊、長谷各郡参事會員、關係十六村長、陸奥、本社記者にして創立委員全部列席すデザートコースに入るや藤原組長は「本日本水産組合の誕生に当たり聊かその前途を祝福せん為め粗宴を張りて招待せるに閣下を初め多数各位の枉車來臨を得たるは欣懷なり・・・」とて歓談を希望し之に對し知事は來賓を代表し祝意を述べ招宴を謝し「今や我か日本の諸般の事皆世界的となりしを以て吾人は之に適応して事に処せざる可からず欧州戦争は尚未た終熄せずと雖も戦後必ずや世界的の一大商戦起らん商業は尚戦争の如し古にありては一騎打の戦をなせしも今日の戦争は組織的なり独占独行の商業出来得ざるに非ざるべきも遂に最後の勝利は統一整頓せる組織の下に堂々覇を争ふに如かず今東郡水産會は諸君の努力に依りて此の一軍隊の組織を見たるなり・・・」とて各員の奮起を望み夫より献酬一頻にして雛妓の舞踊、東郡鎮台の隱藝等あり喝采を博し歓談時を移して九時撤宴せり

大正六年九月十九日

●磯焼と流材

▽下北郡水産組合の陳情書

下北郡水産組合は地区内磯焼に関し易國間川流材の件に付左の陳情書を提出せり

今般本組合地内風間浦村大字易國間に於て大正五年以來中止せられたる官行事業を再行し易國間川を利用して伐採せる木材を搬出するの御計画なるやを仄聞し今にして之が中止の恩命に浴するにあらずんば直ちに漁民の活路を遮られ去る大正四年に於けるが如き戦慄猶禁ぜざるの實歴を再びし名状すべからざる悲境に沈淪すべきは必然のことなるが故に漁民一同殆と生を聊

せざるの状態に有之候間官行事業と漁業との關係に付き深き御調査を遂げられ相当の方法を講ぜられんことを希ひ左に事情を開陳して謹みて清鑑を仰ぐ次第に有之候

抑々本郡の地勢たるや蜿蜒として海に出て南方の一路僅に陸に接し山脈南より流れて北に入り檜林一帯之を蔽へり而して其の四裔海に濱する所のものは漁村にして山麓蹙り海波浸し絲の如きの道路僅かに其の間を縫ひ蟹屋蜃舎魚串して部落をなすが故に鬱蒼たる林叢は能く砂泥の流出を防遏して以て介藻の蕃息に利し壁立せる翠嵐常に影を重溟に倒まにして遠く魚群の集来に便せり郡内漁村の磯付漁業を主として遠洋の遺利を拾ふに勉めざるものは全く之が為にして所謂天之を賜ひ人之を許す所のものなれば数百年来織らざるに衣し耕さざるに食するも比較的生活の余裕を示す所以にして本組合地内大字易國間の如き特に其の然るを見るなり然り而してさる明治四十二年頃より大正四年に渉る磯焼と稱ふる凶事にありては實に前古未曾有の災厄にして魚群形を潜め介藻跡を殄つ岩礁洗ふが如くにして海底透視するに堪へたり此の故に漁民忽ち生活の基礎を失ひ被害及ぶ所十数里就中易國間地先海面にありて頗る其の慘愴を極め天恵頓に滅びて一村流離の域に彷徨せり茲に於て岡村理学博士が本縣の囑託により實地に臨みて一を潮流の変化に帰し一を山林の濫伐と流材搬出とに原因するものなるを論断し之が善後の方法として深く人為の災害を招くを戒め山林の濫伐と河川による木材搬出とを絶対に廃止せざるべからざる理由を發表せられたり惟ふに山林の直接生活に及ぼす影響は漁業に於て殊に大なるが如きものありと雖も其の國有たるに對して漫に禁伐を請願するの專恣なるべきに顧みて單に希望の一端を陳ぶるに止め是に河川による木材搬出の方法が如何なる施設の下に行はれ如何に海洋に變化を及ぼすかを叙述して以て之か中止を請ふ所あらんとす

嚮きに當易國間に於て行はれたる流材搬出の方法は川源近くして常に直下激迅の勢ひある易國間川を堰き止め水勢盈滿一時に貯水堰を除去する時は激流雷の如く駛りて溪谷震蕩し崩相浪相打て流材紛々として下り河岸を衝動して夥しく溷濁を駭かし長さ九尺乃至十五尺に達する巨材も汎として軽きこと葉の如く窟をなすの盤渦に旋轉して直立放流するもの數十町河床決潰して土石灑くが如く滔々たる濁流は余勢を駆て遙かに五百間内外の沖合に迸出し干満の潮汐に伴ふて東方字桑畑下風呂沖合に彌慢しさらに焼山崎を拍て西方蛇浦の沿岸を廻流し数里の海水條忽として赤色に変し介藻土に塗れて魚族遠く遁逃す此れ易國間村民が数年驚異の目を以て迎ひたる所にして岡村博士が磯焼の原因なるを断せられし流材搬出の实情なり然り而して大正五年に至り官行事業の中止せらるゝに及んで岡村博士の言果たして其の驗を示して敢て海藻の養殖法を講せしに非ざるもやゝ回復の状を見るに至り本年に入りて猶一層收穫の大なるべきを期せしに今又官行事業による流材を實行せらるゝに至らば是れ由々しき一大事にして本組合漁民の恟恟として堵に安んずる能はざるは本より其の所なり只是一つの木材搬出の手段に過ぎざるのみ而も其の施設の他に方法あるべきに拘はらず流材の簡便なるを見て害毒の甚大なるものあるを顧みず為に天与の恵福を蹂躪して内活の基礎を剪滅し以て飢餓に號ふの民たらずんば犯法に衣食するの徒たらしむる是豈忍ぶべき事ならんや必ずや下情の上達せざるありて然るべきものなるを思ひ本郡の地形に稽みて人民の集合組織せる原由に及び以て漁村維持の目的を全ふせんことを望み直ちに鑑裁を仰ぐ所以なり唯恨む書辭繁委終に章となす能はざることを然りと雖も

文に即て志を求めば又以て其の肺肝を得るに足らん惓款の至りに任へず茲に謹みて陳情仕候也
下北郡水産組合組長 佐賀清太郎
農商務大臣 仲小路廉 殿

大正六年九月二十日

●田名部だより ▽原政友會總裁來青に付河野、山本の両県議は十九日朝の青森定期にて出青す▽今回田名部二歳馬市場購求者夥しく入込み四日目の如き百餘頭糶売せしに一頭平均百三圓と云ふ蓋し空前の好景氣にて旅館は満員市中一帶の雑踏稀有の賑ひなり▽二十四日は下北郡水産組合評議員會引続き五年度決算及び事業報告等に付き議員を召集せり

●戊辰殉難五十年祭 市内在住の舊會津藩人には戊辰殉難藩士の五十年弔祭を來る二十三日午前十時より寺町正覺寺に於て相営む由にてそれぞれ案内状を發送せるが詩歌等手向くる仁は二十二日まで委員總代山田中佐まで届けらるべしと

●鮫海岸に西洋型帆船 長寶丸の擱座

▲樺太より東京へ航行途中

新潟市上大川町通り十三番地田代三吉所有西洋型帆船長寶丸（總噸數百九十八噸）は船長以下船員十三名漁夫三十名乗込み塩鱒千三百噸（三十五萬八千尾）鮭四十噸（九百二十尾）筋子百三十樽網五統（價格約七萬圓）を搭載し樺太より東京灣へ向け航行中去る十七日午後九時頃鮫沖合に於て大雨風浪の爲進路を誤り鮫岬より二百間ばかりの沖合なる暗礁にて船底を破砕せるより浸水甚だしく航行を続ける能はず海岸に乗揚げたるものゝ由にて乗組員全部無事なるが船價三萬圓なりと

●清水川沖合に遭難 市内蜆貝町百二十番地平民戸主漁業松谷友七（四〇）同九十一番地平民戸主同角田嘉代作（二九）は一昨午後五時半頃小廻船に乗込み木炭百三十四俵沼貝二百圓代を積み田名部より野辺地に向け航行中昨日午前時半頃より時化となり激浪の爲め東平内村大字清水川沖合三里の処にて水船となり積載せる荷物全部を海中に投棄し避難せんとしたるも果さず進退の自由を失ひし折柄中平内村大字浅所三十三番戸宿野部要次郎外二名之を發見し自己漁船を出して遭難所に急行し兩人を救助せしも小廻船及び積荷は全部海中に放棄せり

大正六年九月二十二日

●北海の端より（上）

▽利尻島は禮文島と並び稱せらるゝ北見の寶庫で周海十有里海拔約六千尺山姿秀麗風光頗る明眉で全く仙境の感がある、全島戸數三千戸人口一萬五千人あり漁業を主として鱈鱒昆布石花菜蟹罐詰其の他の生産力本年は價格の昂進上二百萬圓以上に達して居る、少なくとも毎年百七十八萬圓を上下すると云ふに至りては實際驚かざるを得ない、農産に付いて特に言うべきものはないが

△農産物 も馬鈴薯、大根、キャベツ等を多く産し近頃未墾地の払い下げを受けて順次農産の増収を図りつゝあるが未だ住民又は漁業出稼ぎ者の副食物を充分供給するに足らぬので例年増

毛、留萌、小樽方面より供給を仰いでいるが将来は本島にて出来るので之を充用したいと云ふので大いに生産の増収を計って居る、利尻島は鬼脇、鴛泊、杓形、仙法志の四村よりなり各村に役場を置き

△各村の経済 は壹ケ年多きは二萬三千圓少なくも一萬七八千圓を管内財源は水産税割又は個別割に待つて居るが納税成績の著しく悪くない点から見れば負担能力に余裕ありと云ふべし又た、其に町村の基礎を強固にすると云ふので将来町村費の二分の一を負担し得るまで剰余金又は国庫又は地方費交付金を蓄積して居る等全く驚く、現在建網免許統數三百統鯨刺網許可放數二萬四五千放あるか着業は毎年建網二百七十統内外刺網は二萬二千内外で夫れで

△鯨の収穫 は毎年七八萬石甚だしきは十萬石以上の収穫かある先づ本年は平年漁であるか價格が非常に良いので刺網業者でも千圓以上の純益を見たものは非常に多いとの事だ、建網業者の主なるものは小樽の金子元三郎（代議士）久栗坂の赤坂市三郎、仙法志の平田豊作等は大親方で本年の収益も中々太いと云ふ話だ、各村には神社仏閣其の他あらゆる公共団体あるが尤も活動をなして居るのは水産組合で水産組合は水産業の改良發達水産動植物の蕃殖保護其の他營業上の弊害を矯正し共同の利益を図るを目的にして居るが各村組合とも競争的に製品の改善重量の均一、荷造りの堅実等に重きを置き検査員を常置又は臨時傭聘して大いに検査を励行して製品の聲価を高め價格の昂進に勉めて居る、売買取引は小樽商賈の手を経又は兵坂地方の商人に直取引を□本月中旬宗谷支庁管内□員講習会を鬼脇村に開□に須要なる学科を修習□

大正六年九月二十四日

●北海の端より（下）

△漁業組合は地先水面の専用漁業権を受得し共同の施設を目的としてあるが當業者が出役して毎年海底の整理の為に投石をなし又は海藻（昆布發生の害藻たる馬尾藻（注：ホンダワラ類）及びすがも類）を芟除する事を励行して昆布類の生産の増収を計って居る、青森湾内沿岸でも根付、磯付きものに對しては矢張り右用の施設は最も必要にして又有意義の事と思ふ殊に三四年前より天売又は増毛地方より種鮑を移植して取締を嚴重にして蕃殖保護を計って居るので之は組合に於て

△鮑保護規定 を設けて輪裁年次の如何に拘らず或年限間絶対に採捕を禁止するのであるが組合員の公德心と当局者の熱誠ある監督に依つては初志の貫徹容易ならんと思ふが近頃余程大きいのが見へて居る相である、此の種の施設は漁村の堅実なる發達を期する上に最も有用の事で各漁業組合に奨めたいものである、其の他昆布漁業に就いては信号旗の掲揚又は降下昆布石花菜類等の共同販売、天気予報の周知等中々生色のある活動をなして居る

△青年團 も各村にあり漁閑の時期を利用して夜學會の開催壮丁の予習共同勞務に服して其の売る処を貯蓄し以て共同心の發達と勤儉力行の美風を養成するに努め又は擊劍會講話會運動會等を行ない雑誌圖書の購入等をして読書の風を起こして良風の養成に努めて居る又水難火災に際しては進んで防衛の事に従ふなど中々振ったものだ、其の他在郷軍人會、衛生組合、森林火防組合其の他ありそれぞれ其の目的に向かつて進んであるが戦後の經營等の事に就いても順

次考究する事になって居る、教育産業衛生警備其他一般の民生に関する事も種々あるが何れ機会をみることにする（櫓東生）

大正六年十月一日

●水産界便り

△鯷罐詰の勃興 鯷油漬罐詰は原料豊富にして需要範囲の廣き為近来著しく発達し嚮きには伊人の油川に工場を設置して製造を開始し今回また水産興業株式会社にては元柳原跡に工場を建設し来月中旬より製造に着手する事となり更に函館堤商會にては市内蜆貝町なる弘前銀行所有地を買収分工場を設置し之又十一月より製造開始の豫定にて夫々準備中なるが之等の内水産興業は鯷油罐詰を主眼とせず一般魚介に及ぶ由なれども原料の関係上自然鯷油漬に重きを置くに至るべしと想像されつゝあり

△使用人拂底 さて以上の如く鯷を原料とする罐詰會社が多数に設立され然も之が相当の資本を投して事業を拡張するに於ては或は原料たる鯷に不足を告ぐるやうのことなきかと云ふ者あれとは考慮するに足らずして寧ろ使用人の充実に苦心を要すべしと観測されつゝあり労働者払底して高率の賃金を支給するも容易に得難く従って女人足が歓迎さるゝに至りたる為め女工が人足に鞍替えする者多くなりたるにより多数の女工を使用する罐詰事業の如きは原料の鯷より却って工女の雇入に困難すべきを見越し経営者は既に此の方面の手配に着手せる模様也

△日高氏來らず 西海岸に於ける鰺漁は非常に有望にして水産試験場に於て種々調査せる矢先き鰺大盡貴族院議員日高榮三郎氏より試験場に對し照會あり再三書面の往復を重ねたる結果愈々鰺大敷網を敷設に決し九月中に來縣万端設備する筈なりしに如何なる譯か日高氏遂に來らず其の後何等の消息なきが頗る有望なる事業なれば西海岸にては日高氏に關係なく更に具体的調査を進むべしと云ふ

大正六年十月四日

●機関士の養成

▽本縣の新施設

三戸郡と岩手縣九戸郡との間を航海しつゝある石油発動機据付西洋型帆船は其數今や三十余艘に及び居るが主として同地方主要物産たる木炭の運送に使用せらるゝものにして今後益々需要増加の趨勢を示し來れり然るに規定の免状を有する船員を得るには自然多額の給金を支出せざるべからざるが斯くては収支相償はざるは勿論在来の船員をして他府県へ出張せしめたる上正式の講習を受けしむることも又不可能なれば同地方の當業者は其欠陥を補はん為に縣に對して去る八月末短期講習會開設方を請願せり

△陸奥灣内 に於ける発動機船及び西海岸に於ても同しく其必要を認め居る次第にて縣下の情勢は短期講習會の開設を要望しつゝあるのみならず将来斯界の発達を期する上に於て丙種運転士及び三等機関士養成の為短期講習會を開催するに決し水産局長に對し適當の講師一名の派遣方を依頼せり斯くて水産局及び北海道通信局海事部と交渉を重ねたる結果更めて大日本水産會

と交渉せるが機関部講師は派遣し得るも甲板部講師は海事多忙に付き都合付かざる旨の回答を得たれば甲板部の講習は見合せ三等機関士養成の講習会を開催に決せり

△講習の内容 講習期日は来る十一月より一カ月間にして会場は水産試験場湊傳習部にして講習生の資格は成るべく當業に従事して経験のある者を欲すれども将来逋信省より三等機関士の免状を受んとする者は何人と雖も收容する筈にて縣下一般に對し通牒せるが何分昨今は鯉漁期の最中にてもあり其の他海運界多忙にして船と云ふ船は寸暇もなき場合なれば希望はあるも出席出来難き者もあるべく今回は先つ以て三十名程度ならんと云ふ

●名産陳列會視察復命 縣より囑託され東北名産陳列會を視察せる近藤海産商主此程復命せるが参考の為其感想を摘記せん

△他縣よりの出品は僅かに宮城県の鮑其の他數點に過ぎ余は本縣出品のみにして海産物は殆ど我青森縣の独り舞台たるの感あり即ち他縣出品の餘りに貧弱にして比較觀察をなし得ざりしは實に遺憾なり△昆布焼干鱈煮干鱈等の頗る売行き活況なりしは何人も意外に感じたり真に東京人士の嗜好に投して斯かる好況を呈せしや疑問なき能はず何故なれば東京方面は從來昆布は多少使用し居れるも鯉節を用ひ鱈の如きは全く其効用の如何を知らざる者多き実情なりしに拘はらず斯く好況を見るに至れるは或は三越店に於て余興其の他の手段を講じ人を集め購買心を煽りたる結果に非ざるか

大正六年十月九日

●東郡水産組合認可 豫ねて設置認可申請中の東郡水産組合は昨日付を以て認可せらる組長には藤原郡長、副組長には津幡文長氏就任に決せるが郡水産組合は曩に下北郡にあるのみなれば今回は第二番目の創立なり

大正六年十月二十二日

●復活されたる茂浦鉄道

▽聯絡滞貨の刺激か

茂浦鉄道は元本縣知事たりし佐和正氏を社長に日向輝武、近江谷栄次氏等専ら計画の衝に當たり明治四十四年六月運輸省の免許を受け

△資本四十萬圓 の株式會社を組織して起工せるものなるが今當時の計劃を尋ねるに右の内二十萬圓は東郡西平内村大字山口を東北線の分岐点とし之より茂浦海岸に至る四里三十四鎖の鐵道敷設費に充て更に八萬二千圓を以て棧橋を築設し七萬三千圓を海岸埋立等土地買収費に振り向け及び二萬圓を以て倉庫を建築し該港を北海道樺太等の吞吐港とするの大計劃なりしが或る種の關係にて蹉跌を來し爾來

△工事を延期 するの止むなき羽目に陥り或は山師仕事なるが如き悪評さへ蒙るに至りたりしが兎に角延期に延期を稟請して今日に及びしものゝ如し而して當時の工事の出来形は線路土工は四分隧道は五分五厘橋梁溝渠は全部波止工三分及び土地収用の認可済にして線路用地として七町三反餘歩の内六町五反五畝停車場敷地として二町二反餘歩の内六反五畝歩の買収を了しあ

りしものなり然るに近時

△青森聯絡貨物 は頓に激増したるに拘らず船車の供給円滑ならずして北海聯絡の物貨が頻りに滞貨を傳へられ為に當業者の打撃尠なからざる現況にあり是等の刺激によりて果然茂浦鐵道關係者は全ての材料騰貴の場合にも拘らず払込みを断行して所期の目的を貫徹すべしとなすに至りしものならん昨今來該會社工事主任は同地に出張し土工請負は鹿島組に代ふるに高尾組を以てし目下

△工事を急ぎつゝ あり而して工事は前叙の如く線路土工其の他殆ど五分通りの出来形にして隧道の如きは遠からず貫通の豫定なりと云ふ斯くして該鐵道は首尾よく完成の暁は港内水深深きを以て優に一千噸以上の船舶を棧橋に横付し得る事となり旁々荷役等の利便も青森港に比し大なるべく將來該會社の享くる利益も少なからざるべしといへり

●西海岸より

▽鱒ヶ沢 ▲知事一行十二日午前十時本町を通過し馬上より石垣防波堤を觀られしのみ▲山田野演習参加の工兵隊將校下士卒連中大勢市中に入り込み昨今は非常の賑ひなり▲約五千圓を投じて増築を断行せし小學校も工事意外に捗り來る三十一日の佳節を以て落成式を挙げ同時に小學教育品展覽會を開催すべく目下成績品収集中▲区裁判所復活されし以來町の景氣頗る盛にして一ケ年少なくも七千八百圓の金融の好影響を得べし因に開始以來の訴訟事件未だ二件のみなりと

▽赤石 東京なる大日本帝國々民教育會役員なる者二三入り込み賛助員募集に全力を挙げて奔走中専ら青年團員に對し図書購読せしめんが為なるが如し▲青森慈善院活動写真隊の一行は十日より本村に入り込み赤石、南金沢、深谷、一ツ森等の各小學校に於て開催し終了後大瀧に向へり▲秋田縣の資本家某は五十萬圓の資本を投じ一ツ森、深谷方面の深森を相手に何等か一大事業を企図せんものと噂とりどり

大正六年十一月九日

●柵榔分教場の祝宴 工費約五百圓にて東郡龍飛尋常小學校柵榔分教場校舎の模様替え及び教員住宅新築の落成式及び上棟式を三十一日天長節の佳節を卜して挙行せり氣遣われたる天候も難なく青年團の手に依りて成る菊花にて祝賀と大書せる額面を以て飾れる入口の緑門萬國旗の空高く翻る校庭を指して午前八時頃より來賓及び父兄參集午前十時

村長代理白鳥助役、藤田元区長、三浦望楼長、久保田兵曹、田邊警察、松尾主事、三浦村會議員、三浦元望楼長、阿保工匠、伊由、澤谷、伊忠、手仁各建築委員

其の他父兄三十余名着席するや君が代の合唱出間校長の勅語奉讀白鳥助役の工事報告式辞に次ぎ

出間校長、三浦望楼長、久保田兵曹、松尾主事の祝辞朗讀、田邊警察、櫻田訓導、藤田元区長、三浦村議、三浦元望楼長の祝辞演説、伊藤建築委員の感謝的演説、渋谷訓導の謝辞ありて兒童に祝菓を配与し莊嚴裡に式を終え斯くて一同は祝會場に赴き主客五十余名渋谷訓導の挨拶藤田元区長の謝辞ありて後乾杯酣なる頃茶番狂言手踊等ありて盛會裡に散會せしは午後

四時頃なりき因に同校舎の模様替え及び教員住宅の建築に關し本春雪消えと同時に五日間に亘りて村人夫及び青年團員百七十余名出揃ひ伊藤村議伊藤總代澤谷森林組合長伊藤納稅組合長等の尽力に依りて豫定の地均しをなし中にも伊藤學務委員の學校教育に対する熱心十数年前校舎の建設せられたる實に同氏の斡旋尽力による事甚大なりといふ

●發動汽船の新造 當市安方町若井由藏方にては發動汽船第一第二安方丸を所有し更に第三安方丸を釜石に於て新造中なるが同町坂上五郎兵衛氏は石巻に於て濱町三上圓次郎氏は川内に於て何れも明年二月までに當港に回航の豫定なり又安方町冷蔵汽船株式會社にて既に函館船渠會社に注文し愈々去る三十一日の天長節をトし第六善知鳥丸の新造起工式を行なひ是亦明年二月迄回航の都合なるが同町千葉傳藏氏も先日汽船寿都丸を購入し函館に於て發動汽船に改造中なりと言へば之又近く回航を見るに至るべしと

大正六年十一月十日

●鱈油漬の罐詰製造所

△又々設置されんとす

青森灣内に於ける鱈は他に比類なき良品なれば近來外國輸出品として鱈油漬の罐詰製造場は既に數ヶ所設立せられ東郡油川に於けるパッキン會社當地の水産工業會社工場二葉罐詰工場根市罐詰工場等何れも盛んに着手しつゝあるが蜷貝町に於ける堤商會分工場に於ては來月より愈々該事業を開始する由にて目下露領ニコライスクより當地を経て大豆を輸送しつゝある神戸の金辰商會にても早くより該事業の有望なるを見込み當地に一大工場を新設せんとの計劃ありて調査中なりといえは明年早々同事業に着手を見るに至るべしといへり

大正六年十一月二十二日

●南部鮭の豐漁

□孵化場の手柄

上北郡奥入瀬川に於て去月下旬より鮭の漁獲を開始せるが好漁なる際は日に一千尾餘普通一日七八百尾の大豐漁をなしつゝある為多數の魚商入り込み近隣より態々見物に出かくる等川筋一帶に未曾有の活気を呈し居れる由なり同河川は

△俗稱百石川 と呼び古來鮭を産し然も美味なるを以て名あり所謂南部鮭の産地として人口に膾炙せられたるが明治二十年頃より漸次薄漁となりたれば縣に於て増殖の目的を以て相坂に孵化場を設けたるは同三十四年なり然るに其の當時は設備不完全なる上技術上欠くる処ありたる為か豫期の成績を擧ぐるに能はず四十年より四十二年まで休止の已むなきに至れり其の當時は既に山形県を首め其の他の府県に於て孵化放流による相當の成績を挙げ居りたれば其の実績に鑑み四十三年に於て孵化し四十四年より

△再び放流を 開始せり其數は十九萬八千七百尾にして爾來左の如く年々放流し來れり

△大正元年百四十一萬六千三百四十二尾△同二年百萬五千八百十二尾△同三年百九十九萬一千八百八十一尾△同四年百九十六萬五千九百四十八尾△同五年百八十五萬九千九百二十五尾

尤も孵化放流最初の計画は毎年百万尾の豫定なりしも成魚の捕獲思ふやうに出来さりし為従つて放流も不足なりしが大正三年に至り漸く豫定の採卵を得百九十九萬殆と二百萬の放流を為したるなり而して此等放流せる鮭児は何時成魚となつて河川に登るかと云ふに學者の研究と實際者の実験に依れば生まれてより四年目乃至五年目なりと云ふ然るに尤も多量に放流せる大正三年より起算し

△今年は丁度 其の登る年に相當するを以て今回の豊漁の原因は即ち此の川に放流せる鮭児が成長し一人前の成魚となりて登るが爲にして取りも直さず孵化放流の成績が現れたるものなりとさて昨年は一日三百尾取れる事稀なりしに本年は序上の如き未曾有の豊漁なれば相坂孵化場にては少しも苦なしに既に豫定以上の成魚を得て盛んに採卵中なりと尤も鮭は近海に遊泳するも川の水量尠なく且又川口に當る沖合の潮流關係不良なれば川に登らんとするも得ざるものなるに今年は雨量相當にあり従つて水量も充分に其の上海流北方より南方に流れ御詠向きに出来居る為取り分け登り具合良好にて斯く毎日大豊漁に賑ひ居るなりと

大正六年十一月二十三日

●漁業組合調査 本縣にては農商務省の通牒に従ひ縣下優良漁業組合の調査を開始せるが同調査は其の組合十月末日現在の事實を基礎とし各方面に互りて調査する筈なるが其の内容を聞くに共同販賣購買等の共同施設事業遭難救恤上の事實組合の設立が漁村又は漁業者に及ぼしたる影響組合の設立又は経営の功勞者及び其の事蹟其他組合發達の事情を知るに足るべき事項なる由なるが縣内に於てそれに該當すへき組合もある由にて縣に於ては十二月末日までに完成農商務省に申達すべしと云ふ

●漁業資金の餘祐 本縣に於て漁業組合資金として農商務省より割當を受け夫々希望組合に對し申請方を照會せるに起債申請せるもの數組ありたる内白糠小田野澤漁業組合口廣漁業組合及び清水川漁業組合は既に起債認可となり奥戸及び奥内兩組合は目下其の手續き中なれば不日認可せらるゝ事となるべきが以上の各組合所要金額を控除するも尚且二千二百圓の剩餘を生ずる由なり尤も此の二千二百圓も最初希望組合ありて其の方に振當てたるものなるが中途にして事業經營上の事情の爲申請を撤回したるにより今の處二千二百圓丈は尚貸付餘裕を生じ居る次第なれば希望組合は此の際起債方申請して可然尤も利率は年六分一厘にして前例に依れば二ヶ年据置八カ年賦の償還なりと

●機關士講習會開會式 本縣に於て東京日本鐵工株式會社技師工學士中村一徹氏を講師に聘し機關士講習會開催の事は既報の如くなるが三十日午前十時より三戸郡小中野村消防屯所樓上に於て發會式を舉行參列者は辻湊水産傳習部技手、入田三戸郡技手、中村小中野村長、湊村助役其他小中野、湊兩村有志十數名講習生四十七名出席中村水産試験場長開會の趣旨を述べ次いで講師中村工學士の挨拶ありて午前十一時式を終りたり因に講習期間は一カ月にして毎日午前九時より七時間宛授業の由

大正六年十一月二十五日

●海藻保護方策

近來時局の影響により沃度及び塩化加里製の目的を以て搗布、荒布、馬毛藻等の海藻を採取する者頗る増加し往々濫採の弊に陥るものあるかかくては魚介類の蕃殖にも悪影響を及ぼし沿岸漁業上軽視すべからざるにより曩きに本縣に於ては水産會總會の場合知事より訓示ありたる次第なれども近來殊に注意を要する状況なる由にて農商務省水産局長よりも通牒ありたるを以て縣に於ては昨今の實況に鑑み採集の時期、器具、方法及び場所等に関し夫々適當の方策を講じ取締を周密にして以て海藻乃至魚類の蕃殖保護上遺憾なきを期する由

大正六年十一月二十七日

●川内町制祝賀

▽旗行列と祝賀會

下北郡川内村は去月二十六日を以て町と稱することを其の筋より認可せられたれば昨日の記念日を擇ひ之か祝賀會を川内尋常小學校に於て舉行したり此の日西風強かりしも夜來の雨は名残なく霽れたれば勇躍せる川内校生徒及び有志數百名手に手に小旗を打振つゝ樂隊を先頭に國旗軒燈緑門等にて裝飾せる町を練り歩き壯觀を極む此の間青森より出張の高田煙火師により絶えず花火は打ち揚げられ町民歡呼して止まず

▲祝賀會 午前十一時に及び愈々祝賀會となり來賓知事代理土屋理事官外町民高齢者遺族廢兵等四百五十餘名着席するや小川助役挙式の挨拶を述へ谷山町長式辭を朗讀し次いで左の如く祝辭朗讀若しくは祝辭演説ありたり

土屋理事官、門田郡長、阿部市長、河野山本兩縣會議員、東山稅務署長、森郡會議長、河野阿部城鑛山所長以上祝辭△島田小林區署長演説

次いで正午より祝宴に移り谷山町長の挨拶阿部市長の謝辭ありて開宴席上余興として川内藝妓の假裝行列あり斯くて門田郡長の發聲にて川内町萬歳を三唱散會せり

大正六年十一月三十日

●白鷗丸の姉妹船

本縣水産試驗場大畑分場所屬の石油發動機船は過般來小中野に於て建造中の所今回竣工し今明日中に進水式を舉行すべしと云ふ同船は主として津輕海峽下北沿岸の漁撈其他海洋觀測等に從事する筈にして所謂湊水産傳習部所屬白鷗丸の姉妹船なるを以て知事は海鷗丸と命名揮毫せる由なり知事の此名を撰ぶに至れる譯は姉船白鷗丸の鷗をとりたるは勿論なるが鷗は漁業上の指南鳥と稱せられ殊に海王の王に通するを以て頗る吉凶とせられ居る由なり

●鐵道院艇遭難

▲貨物の流出と損傷

去る二十七日午後十時入港の連絡船田村丸より二百五十六個の貨物を艇船に積み小蒸汽湯の島丸に牽引されて回送陸揚に向け航行中俄然風位西北に変し烈風怒濤起り為に牽引ロープ切断せられ極力之が救助に努めたるも怒濤凶暴を極め遂に防波堤に打寄せられ船體に大損傷を生し

且つ激浪舢内に打込み百二十五個流失し六十五個は大損傷を為せりと因に荷物は何れも塩干魚のみなりと

大正六年十二月十一日

●水産奨励予算

▽漁業組合及び漁港

鶴見水産局長は語りて曰く農商務省にては水産業並びに漁村振興の目的を以て来年度予算に漁業組合改良事業奨励費一萬一千圓、漁港築港補助費二十八萬八千圓を計上せるが右は近時我が國に於ける漁村の疲弊甚だしく欧米各国の比例を見るに一個年間に漁夫一人の漁獲高にて英國は一千百圓、米國は七百八十圓、加奈太は八百七十圓、独逸は六百五十圓に當れるに我が國は僅かに七十圓に過ぎず漁船四十万隻、漁夫二百二十餘萬人に上れるに拘らず欧米に比して著しく其の能力劣れり依って我が漁村の振興を図るは刻下の急務にして又漁業組合を改良し資金を豊富ならしめ組合理事を改善すると共に漁船具を改良せしめ尚ほ漁船避難港を修築せざるべからざるを以て当該府県をして之に当たらしめ政府は右修築の半額を補助し五ヶ年計画にて全國に亘り全部の完成をなさしむる予定なり云々

●下北郡便り（八日付）

▲製網者の来郡

檜原式製網本家なる檜原恭一氏は郡下大畑以西及内湾大湊宇田等各漁村に付き親しく試投の結果頗る好評を博し相応の注文を約し七日朝の野辺地定期陸奥湾丸に便乗して一先づ郷里たる広島県音戸町に帰向せり

大正六年十二月十三日

●漁業奨励金下付

八戸町長谷春松氏は一昨日より明年七月三十一日まで帆船大禮丸を使用して延縄刺網及び流網各漁業をなす計画にて十一月三十日農商務省に対し遠洋漁業奨励金下付方申請中なりしが十日付を以て百三十六圓下付の旨指令ありたり

●鮪汽車を遅らす

◆船川線各駅の大混雑

去る六日七日にかけて秋田県男鹿の北浦南磯とも鮪の大漁なりしが之が輸送積込の為に船川線羽立船越両駅は大混雑を来し為に貨物車はもとより各列車とも多少の遅発を免れざる状態なりしが豊漁ありし翌八日九日の如きは天気良かりしより海陸とも輸送大にはかとり為に両駅は人馬の往来甚だしくして一層雑踏し遂に船川發秋田駅終着列車は定時より二時間ほども遅れ為に延いて秋田駅午後九時終列車の如きは同發午後十二時發下り直行が出でて尚ほ發車し得ざるのみか夫より尚且つ三時間遅れて漸く發車したりという又羽立駅は南磯は云ふ迄も無く北浦方面よりも踏み込み輻輳する為従って輸送捗々しからざるより其の後遠回りとなれど北浦方面よりの鮪は船越駅迄車馬を以て運搬し同駅より輸送しつゝありと

大正六年十二月十四日

●水産界近況

▲機関士証書授与

去る十一月二十日より三戸郡水産傳習場に於て開催中の縣水産試験場主催第二回機関士講習会は予期以上の好成績にて講習を継続中なるが愈々來る二十日を以て予定の講習を終了すべきに依り同日修了証書授与式を挙げる筈なるが試験場よりは中村場長出席証書を授与すべしと

▲海鷗丸竣工式

兼ねて三戸郡小中野村造船場に於て建造中なりし大畑水産試験場分場所属遠洋漁船海鷗丸は今月初め進水し既に大畑海岸に於て出漁準備中なるが來る二十五日をトし所在地大畑村に於て竣工式を挙げる筈なるが都合によりては川村知事も臨席すべしと

▲菅藻採取調査

本縣にては海産物利用参考の為菅藻の蕃殖調査をなす筈なるが菅藻はごも、うみすげ、ゑびも、いなびかみ、くろもと稱し外海の岩盤上に蕃殖するものにして葉の幅一分五厘乃至二分長さ三尺餘りに達し「ありしも」の如く見ゆれども葉の幅広からずして内海の砂泥地に蕃殖すること無きにより區別し得るものなり調査の程度は蕃殖の概況一ケ年の産額採取時期及び水産動物蕃殖保護との關係等なりと

大正六年十二月十六日

●下北郡便り

▲樫原式漁網

本部に於ては先頃より南部水産技手が主となり広島県より特許を得たる樫原式鰻掛曳網なるものを輸入し大湊及び大畑、下風呂、易國間の各地に普及しその後大湊海面にての実験せし結果頗る好成績を挙げたり亦北通各地にても投網を試みたりしに良好なるものと認められ來る春季には漁船其の他の準備を整ひ鰻漁に従事すべしと期待しあり本網の特徴は従来本郡沿岸に使用し來れる地曳網の如き多数の漁夫を要せざるのみならず網の構成費も彼に比せば殆ど三分の一又は四分の一にても足るを以て極めて経済的なるに加へ地曳船曳兼用し得るを以て沿岸に來遊せる鰻は勿論沖合遊泳の鰻も漁獲し得べく尚ほ網具の局部の材料を多少変更せば独り鰻漁に適するばかりでなく鯖、鱈、玉筋魚等も漁獲し得らるゝを以て実験せし斯業家孰れも歓迎しありと而して本網は海深潮流等の關係により構成方法に差異あり従つて漁法の如きも魚群の状況及び潮流の緩急によりて異にするを以て外海の如き潮流烈しき地方にありては多少熟練と経験とを要するも湾内の如き漁場に在りては殊更に練習を要せず而も簡便に極めて適切なる漁具なりと

大正六年十二月十七日

●西郡岩崎便り

▲教育研究會

九日午前十時より黒崎小學校に於て開會小山内岩崎校長は過般出席の縣下小学校長會議の状況を報告し次に協議題學校医設置の件、郷土誌編纂の件は何れも提案を可決したり郷土誌は顧問四名委員五名の手に依り新春早々着手の予定也

▲例の朗會

研究會終了後當番幹事工藤森之助氏の挨拶により開宴せり山積せる肴は幹事工藤（慶）氏の苦心の得たる雉山鳥にして酒は大山なれば下戸も酒黨も大喜び酒間縦横の談論を試みるあり十八番の隠し藝を得意に演ずるものある等六時歡樂の内に散會せり

▲夜學會

青年補習夜學は岩崎小學校にて十二月一日より毎夜開會、科目は讀本、算術、作文、講話にして講師は學校職員全部出席會員三十五六名を算す青年會長七戸藤之助は毎夜の如く出席青年を指導しつゝあり尚ほ夜學讀本は國民補習讀本の中程篇高程篇の二種を採用し三ヶ年を以て修了するの程度なりと

▲鱒漁

本月初め約三百駄の漁獲あり續いて大量の兆しありしも數日來の時化の為網を下ろすの期なく木造地方より集來せる荷馬車も空しく帰路に就けり然れども今年は鱒の群來例年よりも厚しとの事なれば遠からず大漁を見るべしと漁民等何れも大景氣なり

▲夏の海水浴場 として暑さを忘れしめたる港頭（辨天島）も降り積もりたる雪に銀世界と化し岸打つ浪にいとど寒さを感じずのみ菊地館は肅條として松風のみ回顧の錆を誘ひつゝあり（十二日）

大正六年十二月二十一日

●下北郡水産組合業務

▽大正五年度に於ける事務報告

□本組合の業務として製品の信用を保つが為に之が検査を主とし年度内検査を遂げたる點數左の如し

△輸出向の部 干鮑、海參、長切昆布、鰯一萬九千九百十六點

△内地向の部 魚粕、干魚白、田作、煮干、天草、エゴ、フノリ、若布、五萬九千五百七十八點

□年度内製品の種類數量價格如左

▽輸出向の部

干鮑	四五、八〇〇斤	九六、一八〇圓
鰯	一、八一三、〇〇〇	三八九、一五〇
海參	一、四〇〇	八四〇
長切昆布	五一一石	三、一〇〇
	計	四八九、二七〇

▽内地向の部

魚粕	一、五一〇	二六、〇〇〇
昆布	三、七〇三	六一、八〇〇
若生若布	一、三二八	一〇、一〇〇
干魚白	三、〇四〇枚	五〇〇
田作、煮干	五、七〇〇	四、〇〇〇
天草、海髪、海蘿	一、〇七五	六四、九〇〇
	計	一六七、三〇〇

□製品中重なる鰯は稀有の豊漁にて前年度に比すれば數量價格共に二倍を越へ蓋し空前の事に属す乾鮑は數量に一割六分餘の減獲に拘はらず價格に於て二倍以上に魚粕は數量に二倍六割價格は殆ど三倍を増せり海藻中独り海髪の時期風浪の止むなく遂に採機を逸せしに因り數量に八割價格に六割の減少を見たるの外海蘿の六割昆布石花菜の數量價格に何れも六割乃至二倍に若生昆布の如き八倍の増収を示せり

□鰯の商況は初期の頃は各地豊漁の聲高かりしに連れ兎角取引緩慢の傾向なりしに次期より漸次昂進の趨勢に向ひたる好機に於て大体は逸早く手放したる為末期逆戻り下落に在荷の蒙りたる打撃は仲買商に帰し生産者にして著しく此の波動に伴ひたるものなきが如し如上鰯相場の一進一退の外乾鮑昆布の如きは勿論其の他にありても斯界の商況概ね向上活発に取引を結了して以て本年度を歓送せり

□組合財産左表の如し（負債なし）

積立金	一、五三七、五四〇
御大典記念積立金	一〇七、〇五〇

（定期預利息年六分乃至六分五厘）

□年度末に於ける組合員の數は二千五十八戸にして前年度千八百六戸に対比し二百五十二戸を増したるは鰯製造者の一時加入に由る

●屏風山保安林

禁伐問題に就て

西郡屏風山濫伐を防止する為該保安林を禁伐林と為し絶対に伐採を禁止せよと云ふ者あるが抑も保安林は主務大臣に於て土砂の壊崩流出の防備の為め或は飛砂の防備水害、風害、潮害の防備の為め必要なる場合乃至は積雪又は墜石に因る危険、水源涵養魚付、航行の目標公衆の衛生等の必要ある時森林を保安林に編入する旨改正森林法に因りて規定され且又従来禁伐林風致林又は伐木停止林は保安林として取扱ひ來れるが

□屏風山は 此舊森林法に因る禁伐林として国有林扱ひとされ來りたるものが後日官地民木林に編入されたるなり而して保安林に於ては地方長官の許可を得るに非ざれば牧畜の伐採は勿論傷害開墾又は土石切芝樹根草根等を採取又は採掘する事出来ざるが故に保安林を伐採するに於ては夫々地方長官に許可を出願し長官は係の者に調査を命せる上枯損木傷害木に限り伐採を許可し來れるなり国有林の場合に於ては地方長官と大林区署長協議の上一定の施業方法を定め農

商務大臣の認可を得て然る後に伐採すると云ふ如く

□頗る慎重 に取扱はれ居れるなり故に保安林の伐採を許可する場合に於ては縣に於て慎重に調査の上枯損木乃至傷害木と認められたるものに限り許可さるゝのみなるが枯損木は之を伐採せざるべからず且又傷害木は適宜伐採せざれば森林の發育を阻害する事となるべきを以て濫伐を防止せん為に絶対に此等の伐採を許可せすと云ふ事能はず斯くては却つて角を矯めんとして牛を殺す事となるべく従つて保安林保護の爲め絶対に伐採を禁止すると云ふ事は不可能なり而して亦屏風山の如き場合に於ては木竹の

□伐採を禁止 さるゝに於ては保安林の所有者又は立木竹の所有者は此に依りて生したる直接の損害に限り其の補償を求むる事を得る旨規定され居るを以て若し一部の論者が主張する如く伐採を絶対に禁止する場合は縣に於て其の補償に任せざるべからず若し補償に任ずる場合は自然此の補償金は直接森林に依りて保護さるゝ町村が其の負担に任せざるべからざることも亦規定され居るを以て要するに其の負担は木造外數カ村が当然負担を要することゝなる序上の關係より見る時は禁伐林に編入することも亦一利一害あり容易の問題に非ず要するに地元関係者が自覺して森林を愛撫するに至るか或は取締を極めて嚴格にするに非ざれば萬全なる保護は望むべからざるなり

大正六年十二月二十四日

●管内貨物近況

▲北海貨物出入 北海道連絡貨物は昨今上りメ粕、鮮塩干魚、牧草、其の他に下りは米藁、蜜柑、醤油、味噌、雜貨等なるが本月上旬に於ける実況を見るに上り（輸入）は上旬に函館經由のもの六千百九十噸室蘭經由一千二百七十六噸合計七千四百七十四噸なりしが中旬は函館經由七千二百五噸室蘭經由一千九十四噸合計八千二百九十九噸に増し其の継送數量は上旬九百八十二車七千七百噸中旬八百九十一車六千九百噸に及びたり然るに下り（輸出）は左の如く上りに比し不況なるは港灣設備の不完全なるに因るものなり

●下北蠣埼たより

▲農業補習學校閉鎖 去る十一月十日開校せられたる同校は日曜を除き毎夜七時より九時迄二時間宛読書作文數學の三科目教習中の所生徒昨今鱈釣時期となりし為め多忙となり且亦鉾山通役の者は一里餘の雪路困難の爲め欠席勝ちとなり此の際一時中止するの得策なるを認め十二月十五日一先づ閉鎖せり漁期經過後は亦々開校の運びに至るべしと十五日の閉校式には青年同和會員飛内孫吉氏及び生徒大室新丈飛内孫太郎諸氏の演説あり終了後茶菓の饗応ありて解散せり因に同校生徒人員は十七名なり

▲鱈釣漁業 當部落は舊漁村にして拾年前迄は鱈の漁獲を以て一年生計の三分の二を得つゝありしが九艘泊方面の底網津輕上磯方面の刺網漁業盛んなるに随へて魚道に變調を來し漁獲も殆ど三分の一となりぬ當部落の衰頹し來れる原因主なる原因實に鱈不漁なりしにあり然れども當部落以東の村落は如何せん底網漁業不適にして他に好適の漁撈策なし底刺網は陸奥灣口を扼し主に放卵せざる前に漁獲するものなれば魚族蕃殖上より見るも看過すべからざる事と信ず敢え

て當局者の一考を要する切なり

大正六年十二月二十五日

●東郡久栗坂より

▲鱈漁 天候不良時化續きにて前濱鱈漁甚た振るはず

●無主和船漂着 去る二十一日午後五時頃東郡西平内村大字浦田海岸約四百間の沖合に長七間帆柱二本四十石積の小廻船漂着せり積荷は炭八枚八百枚苦五枚莖七百枚繩三十束酢二樽古襦衣上下無尻上着等あり船名は不動丸とあれど乗組員なき為め所有者不明なるが或は遭難船に非すやと

大正六年十二月二十六日

●水産界近況

▽海鷗丸竣工式

◇大畑村の賑ひ 既報の如く水産試験場所属海鷗丸は其碇留所なる下北郡大畑に於て昨日午前十時より竣工式を挙行せり中村試験場長は技師を兼ねて島村試験場技手と共に出張臨席し地方よりは門田郡長を始め付近水産及び漁業組合代表者村内有志等多数参列し盛大に挙行されたり従って祝辞朗読者も多かりし由なるが中村場長は川村知事代理として左の告示を朗読せり

本縣水産試験船海鷗丸竣工式挙行に當り一言以て諸氏に告ぐ本縣は曩きに試験船白鷗丸を建造し専ら三戸郡を根拠として當業者の指導誘掖に努力し來りしが今亦其姉妹船たる本船を建造し海鷗丸と命名したり蓋し白鷗と云ひ海鷗と云ひ共に鷗の別名にして常に渺茫たる海洋に在りて魚族を探險し當業者の指導者たり而して海鷗は國音海王に通し海上の覇者たるを示す庶幾くは本船も亦白鷗丸と協力し一面に漁撈職員の養成に資すると共に漁場を探險して當業者を誘導し一面漁法を改善して之が普及を図り以て本縣漁業界の王者たらさるべからず場長以下職員一同深く之に留意し和衷協同本船の任務を完ふするに努め以て其の名に背かさらんことを期せよ

◇動力漁船調査 本縣に於てはトロール漁船及び捕鯨汽船を除く其他の發動機若しくは蒸氣機関付漁船に就き詳細なる調査を為す筈にて船名及び船主住所氏名船体機関型式漁業種類船体総噸数、重要寸法進水時の速力機関馬力及び製作所船体及び機関の建造費及び建造年月日等に就いて漏れなく調査する由なるがこれは近來痛切に感しつゝある船腹不足を緩和するに就いて必要なる為なりと云ふ

◇組合事業調査 本縣下各地に於ける漁業組合及び漁業組合聯合會状況を調査する筈なるが其大要は經費決算支出額積立金総額及び負債総額及び共同施設事業概況又は共同施設事業にして中止せるもの又は廢止したるもの等にして組合事業奨励方針に就いて参考に供する為なりと云ふ

大正六年十二月二十七日

●浅虫温泉より

□浅虫は縣下有名の温泉場で現在戸數二百有餘、人口一千三百浴場は數カ所の内最も名あるは柳の湯、椿の湯、鶴の湯、大湯、裸湯、高砂の湯其他にして就中柳の湯は元禄十一年九月十四日より二十二日まで舊藩公には上下百八十一人（内七十七人上百四人下）足輕四十五人、御鍵持仲間十二人、百人組小人十一人、御掃除小人二十一人、都合二百七十人、外町馬七十足、人足百十人を御供として逗留し其後屢次御出駕あつたので御本陣の湯の稱ある歴史ある湯もある随所に滾々たる靈泉は何れも塩類泉中の尋常弱塩類泉で其温度は華氏百三十四度乃至百六十三度で其効能は各種慢性癱瘓質斯慢性病風、諸欣衝或は劍傷後の滲出物及び肥厚、神經機亢進の諸病、神經病、麻痺其他種々慢性婦人生殖器の諸症貧血其他頑固の潰瘍性腎臟膀胱加答兒經久の梅毒等に顯著である

□浅虫温泉は昔圓光大師東國巡錫の時一頭の牡鹿か海波の中に浴せるを見始めて温泉なることを知ったとか鶴か湯に浴せるを見て里人に諭して浴場を此の地に開設せしめたとも云ふし又慈覺大師か此を発見したとも傳へられてあるか其真偽及び濫觴ともに依るべきものはないのである當時人智は未だ開けぬ為に此に浴せず唯布に織るべき麻を温泉に浸して蒸しけるか故に誰れ云ふとなく麻蒸の湯と呼ひしを後に至りて今の字に轉したものと云ふて居る然るに本村も時代の進運に伴ふて内外の浴客常に來集し日に月に殷盛を極め従つて幾多施設すべき事項中近頃問題になつてをるのは水道改修問題である

□本村は水利極めて不便にして従来僅かに二三の堀井に依つて辛ふして飲料に供し來りしも水量僅少にして住民の需用を満たすに足らず殊に夏期多數浴客來遊するに際して其欠乏を感じる一層甚だしきものある為めに本村角の大人鳴海兼吉蝦名仁三次（故人）の両氏率先して多數の篤志家に訴へて寄付金を募集して畏くも明治天皇陛下か明治九年九月行幸椿旅館蝦名伊右衛門方へ御休憩の際御飲料に供せし歴史ある清水の湧出せし水源を貯水池として木樋を以て引水せしのか本水道の濫觴で其後屢々水害其他にて破損又は流失せし為明治二十九年今上天皇陛下御行啓記念として従来の木管を鐵管に架け替へ村營事業として改築して敷設するに至つたのである當時簡易水道であるから内務大臣の認可を得ぬでも工事落成又は改築修理を終りたる時は地方官廳に届出て監査を受ければ良いとのことで総工費三千圓を投じて簡易鐵管水道が出来たのであるが市町村制の明文に依れば使用料に関する事項は町村条例を以て此を規定すべきものであるから當時同時に使用料徴収規定を村會の議決を経て此を議定認可の申請の運びをすたのであるが如何なる理由は其使用料に関する規定の認可を為さざる為に其議決の權威か蹂躪せられのみならず其方針か奈邊にあつたかを疑ひ識者は大いに顰蹙したのであるがそれは別問題としても逐年浴客の増加するに伴ふて益々用水の欠乏を訴へ衛生上は勿論火防警備上到底一村般民を満足せしむることは不可能である時季を見て根本的に此を調査して改修工事を施して時代の要求に應ずる施設せねばなるまいと先輩有志の話題に上りつゝある矢先さる十月一日幸か不幸か暴戾なる風伯雨師の見舞ふ處となり大破損を生じた（つづく）

大正六年十二月二十九日

●東郡中平内村より

□東郡随一の難村と目され村政紊乱極度に達し村吏員の入獄すらもあつた本村も現村長森田盛健氏赴任以来村治上の面目大に改まったやうた尤も赴任以来日幾許もなきを以て施政上の方針等に就ては未だに聞知するに由なきも本村不信用の的とも評されて居つた明治時代よりの商品借れ等は氏の英断的方法に依り殆ど皆済され又學校教員俸給の如きは茲十數年規定の俸給日に支払ひたる事無くそれが原因とは云はれまいか一年以上勤続の教員も珍らしかつたが森田村長赴任當月より二十一日の俸給日には必ず支払をすと云ふので教員間には實に奇異の感を以て迎へられ日誌に特筆大書するなるといふ教員もあつたとの事兎に角此の難村なるを知りつゝ殆ど火中に投するを辞せずして赴任せられた全氏には必ずや期する処あつての事と思ふか村民も此の犠牲的精神に對しても大に努力を以て村の改善に尽くさねばならぬ事と思ふ

□初等教育普及上之か徹底を計る上に於て當局者常に研究苦心せられつゝあるは吾々國民として大に慶賀すへきことと思ふか前途尚改善刷新の余地多々あるへしと思ふ本村に於ては種市現小湊小學校長赴任以来地方開發進展を図るには普通教育の普及と共にせらるへからずとし即ち學校は地方文化の中心なりとの意見を以て全夜孜々として相勤め自ら足を運びて父兄等を説き青年夜學會を開設し自ら立ちて教壇の人となり部下を督してその任に當らしめ居れりその熱誠なる精神に同化せられしならん日々の通學生四十五を下らす頗る盛會を呈し居れり科目は國民道德作文（種市校長）數學（工藤訓導）國語（古川同）農業（鈴木産米検査員）自治行政（山口役場員）等にして水曜日には地方知名の士を招聘して精神修業上の講演を依頼し居れり尚學事研究機關として本村内四校より成る中平内村學事協議會なるを設立し一年を通して三回之を開き居れりさる十六日は第六回協議會を浅所分教場に於て開催し左記問題に付討議せり

（一）文部省発行の教科書使用上の注意に付き調査研究の件（二）夜學教育上適切なる教科書選定の件（三）縣下校長會議指示事項に付き研究の件（以上白取内見小學校長提案）（四）生産消費高調査方法の件（五）納税組合理約制定の件（六）兒童の出席督励良法如何（以上小湊校提出）

●漁夫雇入開始

▽貸金は二割増

漁業策源地函館の年中行事として暮れに入ると共に上場所、樺太、勘察加方面に漁場を有する函館漁業家は例により人を青森、秋田、山形方面へ派して同地方人のお正月支度金の必要を見込み前金の貸与を為し雇入契約を結ばしめんと奔走せしめ居れるが本年は孰れも物価騰貴を楯に例年の如き低額なる契約にては容易に承諾せず各漁場とも

▽昨年の二割増 前借を要求し居れりされば勘察加行きに平漁夫一人宛て四十圓乃至五十圓の範圍ならずば雇入れさるべしと云ふされど明年度の露領勘察加の出漁は露西亜政局の変動と地方官の更迭等あり例年の如き漁業は許可さるゝとしても漁区入札その他の期日如何に変更さるゝやも知れざれば堤商會日露漁業會社デンビー商會等の大筋その他は各漁業家孰れも出漁準備を急ぎ居らされば目下の所漁夫連の大平樂を決め居るに引換へ人員は余りあり例年の如く争奪に等しき募集競争を行なはずとも必要人員を満たし得べしと

大正六年十二月三十日

●激増せる

▲北海移住民

内地の成金景気は素晴らしいものだが一皮剥いて下層農民の生活如何と顧みれば物価騰貴の影響から自ら作った米を一旦大地主へ納めて又た買って食ふ彼らほど悲惨なものはないされば本年中農業目的の為青森を通過し北海道へ移住したものは

□近年未曾有の多數で十一月末日迄に一萬八千十二戸三萬四千三百二十九人を算した

元年は二萬五千人、全國特に東北地方不作の大正二年でさへ三萬一千人、三年に一萬三千人、四年に一萬七千人、五年に二萬四千人

であった既往の事例に照らし實に驚くべき多數でないか而も而も本年の統計は十一月迄分であつて他の各年は其の年全体の統計なのである今之を

□行先別に 見るときは室蘭定期に乗ったもの一千八百八十五人函館連絡船に乗ったもの三萬二千四百十一人で残る三十三人は社外船で奥尻へ直行したが前記の内九千四百人は網走郡に落付いてゐる次は上川郡に六千四百人河西郡に四千八百人、空知郡に三千三百人と云ふ順序で其他は蜘蛛の子を散らすが如く北海道各地に散らばつてゐる而して其の出先を見ると

□奥羽六縣は 最も多い方であるから左に縣別に掲げて見よう

	戸 數	人 口
宮城縣	二、〇三〇	三、九四二
福嶋	二、五五七	四、七一〇
岩手	八七八	一、六七七
青森	五三七	一、一八七
山形	一、四五五	二、五九四
秋田	六九〇	一、二八二

六縣中最も富の程度の高い福嶋宮城山形の順序で多年住み慣れた郷里を後に移住するものゝ多きは以て益々富める土地の貧しき群れの悲惨を語るものではないか當地の移住民事務所員は□來年はもっと 多く移住者がある見込みですよと何気なく語るのも何等かの反語の如く響くのである一さもあらう本年の移住民も一昨十二月二十八日までの累計は既に三萬六千六十七人であつて三日で確かに三萬六千二百人を超えるのは明らかで全く以て未曾有の激増を示す事となる譯である

●佐井青年團總會

昨年五月二十七日両大臣の訓令に基き本村青年團の創立を見しが其の基礎鞏固ならざる為何等活動もせざりしが本年八月より本縣の訓令に依りて有志間に團規振肅の必要を感じ先づ部落七箇村の青年團の刷新に力め愈々全村の統一なり本月中旬二回の評議員會に於て團長及び副團長の選定團則修正を為し二十三日午後五時より佐井尋常高等小學校に於て本團臨時總會及び佐井分團發團式を挙行せり各員の席定まるや小島村長開會の挨拶を為し一同起立して君が代を合

唱し次いで吉川校長勅語を捧讀せり後評議員會にて選定せる佐井分團長及び両佐井班長幹事の任命披露を為し分團入團員の宣誓を行ふ小島分團長は莊重なる訓辭を為し入團員總代として坂井孝一郎氏謝辭を述べ佐井分團發團式及び入團式を終る續いて佐井青年團總會を開く小島村長の挨拶に次いで吉川校長は本團今日までの経過と團則修正の必要及び修正せる報告をなせり本團の役員及び佐井分團役員左の如し

(團長) 小嶋留彦 (副團長) 吉川勝美、(幹事) 伊勢忠次郎、小堀久三郎、金文藏、奥本武夫、山崎惣吉、山本政太郎、畠中要太郎、竹内並次郎、藤本萬作、原桂介、佐賀佐助、新田八五郎、島野常三郎、田中常次郎、高橋栗太郎、(佐井分團) 大佐井班長金谷松三郎、古佐井班長石戸仁太郎、(評議員) 三上剛太郎、小野力藏、竹内次郎吉、松谷賢治、石清水秀夫、能登繁太郎、正村佐太郎、岡本豊太郎、畠中兼吉、太田長太郎、樋口勘兵衛、石戸仁太郎、金谷松三郎、(顧問) 遠山雄喜、大堀小太郎、太田長太郎、三上剛太郎、能登繁太郎、竹内次郎吉、奥本龜吉、竹本周吉、若山季藏、奥本房吉、東出佐市、瀧本末太郎、越川藤太郎、石清水昌、吉田亮禪、佐々木諦山、岩澤寂良、紀伊光善、高谷法光

當日集会せる團員約五十九名役員の任命終るや小嶋團長は克己心の鍛錬と題して懇篤熱誠なる訓辭を與へて青年が能く己が行動に對して節制せざるべからざる事を説き三上分會長は世界戦争より青年の奮起に就いて高唱せられたり終つて吉川副團長は本團今後の方針に就いて團員に相談し毎月一回集会して修養すべく決定せり次いで團長閉會の旨を告げ午後九時散會せり

●東郡中平内村より

□青年團活動方法に就いて當局者間に於ても大いに苦心考究せられ欧州大戰後は尚一層干涉的に迄立つ入り奨励の道を講じつゝある狀況なれど何処の青年團も形式方面に走るのみにして目覚ましき活動振りも見えず本村青年團も振はざる部に属するを恥つる次第なれど泥中の花とも称すべきは小湊青年團中の中部に属する旭勢會なりとし小湊青年区域廣きを以て之が統一を計る為三部に分ち即ち團は東部、中部、西部是なり東部、西部は殆んど農家子弟を以てなり獨り中部即ち旭勢會にありては學生あり商家子弟公吏あり其の分廣きか故に所謂理屈家多くして従來の例から見ても其の統一上甚だ困難なるが如き感あれど然らずさながら春風和氣陽々として一家團欒の如し而して公共的事業には万難を排して之に當たり本村には少なくとも三回以上の軍隊行軍あれと常に同會の応援により満足に之を待遇し得る等數で挙ぐべくもあらず尚稱すべきは同會員の親睦なり偶々會員及び其の家族にして不幸あり又慶事其他人手を要する場合の如きは會長自ら會員一同と共に打ち連れて慰問又は手傳をなす所謂悲しみも樂もともに之を分つ主義にして去る二十四日も會員三名の三回忌に當れるを以て事務所に祭壇を設け僧侶を招じて仏事を執行する等村民は何れも其の美風に感じ居れり目下正會員四十余名少年部三十五名にして前會長は本村會議員辻村理兵衛氏なりしか同氏經營の開墾事業に従事の為退きて現會長は辻村濱次郎氏なり

□本村東田澤椿山は縣下有数の名勝地として称せられあると共に同村に通ずる道路は又天下の悪路として聞こえあり即ち一面海に臨み一面山を負ひ道幅狭く特に大字東滝より以北大字白砂を経て東田澤に至る間の如きは所謂崎嶇羊腸古來より牛道と称せられ車馬の交通は勿論不可能

にして僅かに徒歩通過し得るのみなれば村民は云ふに及ばず椿山遊覧者等に尠なからざる不便を感じしめ居りたるを以て村當局大いに之を遺憾とし大正四年以来之が改修工事を數回村會に諮る處ありたれとも村經濟の容るゝ能はず決定を見るに至らざりしも本年再度村會に諮り一方郡會議員辻村善雄氏に於ては郡會へ補助の認容を求め漸く機運熟し本年度より之が工事を見るに至れり工事費約一萬二千圓にして三ヶ年継続事業なる由にて本年改修したるは道路中最も不便なりしも今は岩石破壊海岸に石垣を疊み既に二間幅道路開通するに至れり二十四日北山郡吏及び辻村郡會議員の工事出來検査を為せりと

□本村醫師今野幸吉氏は熱心なるクリスチャンにして常に公共的方面には献身的奔走し村内各小學校兒童のトラホーム患者及び毎年の壮丁トラホーム患者に對しては無料施薬を為す又貧困者等にして無料施薬を受け居るものありと聴く同氏婦人も稀にみる賢夫人にして慈善心に富み夫と共にクリスチャンの本領を遺憾なく実行し愛國婦人會東津輕郡幹事として村中婦人會の中心となり婦人の修養上に務めつゝあり又今野氏に於ては自費を投じて日曜學校を開設し幾多の子弟を集めて良國民の養成に努めつゝあり二十三日同家に於て同氏司會者となりクリスマスを執行せり集會者約百六十余名五十餘回に渡り生徒の學習的余興あり最後に『サンタクロース』に扮せる山口氏の贈り物等ありて實に盛會を極め散會せるは午後九時半なりき當日主なる來會者としては佐藤、山本兩教師ウエン先生の諸氏なりき

大正七年一月八日

●上磯の不漁

東郡上磯地方は一般に不漁の有様にて待ちに待ちたる鱈漁も本年は大不漁にて漁師の落胆一方ならず従つて魚の高価なる事驚くばかり鱈一本五十錢なり

●連日の大吹雪

近頃は連日連夜の大吹雪にて交通も容易ならざる有様なるが右は高氣圧滿州にありて動かざる一方にオホツク海の低氣圧は益々下降する為め氣圧傾度急となれる影響にて裏日本は悉く降雪に悩まされ居れる外全国一般に暴風に襲はれ居れり◇但し昨日頃よりオホツク海の低氣圧漸次上昇しつゝあれば兩三日中には氣圧傾度も余程緩和されて天候も回復すべしと云へり◇年末年始にかけ冬に珍しき晴天續きなりしを三日よりは是亦珍しき程の吹雪に悩まされたる譯なり◇尚ほ昨今の最低氣温は零下六度内外にて却つて昨年末二十八日の零下十度二より高きも一日中の平均氣温低き為近頃はめっきり寒冷を感じり

●元女校教諭縊死

▲静岡縣湯ヶ島にて

▲下北郡佐井の女

静岡縣田方郡天城山麓湯ヶ島温泉旅館湯本館に昨年十一月三日より滞在の原籍下北郡佐井村士族三上剛太郎長女當時東京府下代々木富谷一四五六三上ゑみ子（三〇）は四日未明より館を抜け出て裏山の森林中にて晒し木綿の細紐を以て縊死を遂げたるを同朝九時頃樵夫が発見し直ちに原籍地に急報したるより同人妹三上かう（二七）が急行五日火葬に付し歸郷したるが當人

は曾て東京美術學校卒業後茨城縣水戸女子師範學校教諭となり間もなく身分地位あるものに嫁したるが昨年中強性ヒステリーに罹りたる為め離別となり前記湯ヶ島温泉湯本館に來たり静養中なりしものにて其の筋にては先夫が地位あるものなるより同人の變死を一大秘密と為し居れり

大正七年一月十日

●漁港修築運動

▽八戸地方有志により開始

八戸地方にては三戸郡湊港を漁港として修築の希望を有するや久しく今回政府に於ても全国の適當なる漁港を修築するの必要を認めて愈々之が補助費を計上するの議あるを以て同方面の有志は一致して之が實現を期すべく運動する事となり先づ縣当局者を訪問して声援を請ふべく重なる有志は昨日來出青中にて尚ほ議会の開會を待ちて上京し政府及び議會にも運動する事となるべしと云ふ

△委員選定 右に付き同地にては左記委員を挙げ運動する事となりしが本日當市桂井旅館に集合し協議すべく上京委員は來る五日上京すべしと

奈須川光寶、北村益、石橋萬治、大芦梧楼 以上八戸) 中村栄吉、山浦武夫 以上小中野) 関春茂、神田重雄、清水喜七郎 以上湊) 古川好寛、長谷川権之助 以上鮫)

●北海博の準備

明年五月開設せらるべき北海道記念博覽会には東北六県は競ふて売店を設置し販路の拡張を図るべく計画中なるが山形県の一万円を最高として

- ▼岩手県 八千五百圓
- ▼秋田県 六千八百二十三圓
- ▼福島県 三千五百六十圓
- ▼宮城県 二千五百三十七圓
- ▼青森県 七千七百二十四圓

●三戸郡水産講習会

三戸郡にては全郡水産組合設立趣旨の徹底を図る為來る十一日より十八日迄左記町村に於て中村水産技師の講話會を催す由

△十一日午後一時より小中野小學校△十二日午前十時より湊小學校△十三日午前十時より鮫小學校△十四日午後一時より鮫村種差小學校△十五日午前十時より階上村大蛇小學校△十七日午後一時より市川小學校△十八日午前十時より三戸郡役所

編輯余録

○八戸地方の有志は當議會を機として愈々漁港問題に関して運動を開始することになったらしい○漁港の修築は、本縣にては青森港の修築、岩木側の治水に次いで三大事業とも称せらるゝ問題で、国家としても將地方としても是非成功を期せねばならぬ處のものだ、今や政府でも漁港に関して計画する處あらんとする場合、蓋し看過すべからざる機会といはねばならぬ

大正七年一月十一日

●八戸漁港問題

▽運動委員の来青

八戸地方にては多年の懸案たる湊港を漁港として改築の目的を達すべく運動を開始することとなり昨日奈須川、関、北村、大芦、石橋、石川、中村氏等八戸、小中野、湊、鮫の両町村委員十名来青し打揃ふて県庁に川村知事を訪問して縷々陳情する處ありしが同夜坂井家に於て在青の新聞記者を招待して修築問題に関して懇談する處ありたる由

●潮流異動を生ず

▽寒氣為に強く漁亦不漁

舊臘より新春にかけての寒氣は実に三十五年来の嚴寒の為各漁業地は一般に不漁にて尠なからざる打撃を受け居る由なるがこは潮流に大なる關係を有するものゝ如く日本近海を流るゝ黒潮即ち暖流及び寒流に異動を來せる為めならんと噂さる右に就き漁業會社の談に依れば「毎年六月から九月頃迄に海洋の魚類が暑さに堪え兼ねて潮流と共に北方に遁れ十一月頃から十二月一月頃迄は逆に南方に帰るのであるが大体は魚類の通行要路が定まって居るそこで各漁業家は此の魚類の流動期を計って大漁を為さんとし其の魚類の通行要路も好漁場として莫大の金を投じて買受けるのである所が今年寒氣が例年になく早かつたのと空前の寒さの為今年漁業家の当年だと悦んで居たのに魚類の通行要路が潮流と共に各所共多少の変動を來たし北海道西北岸の如きも海洋約一哩の西方を魚類が通行するとて大金を賭けて漁場に網を張って居た漁業家が大なる打撃を受け朝鮮方面も十一月の末から十二月六七日までの十日間に明太魚其他を二十餘萬圓に上る大漁をなし居たる所も目下は潮流の変動で皆不漁となつたがこの潮流と漁業とは大なる關係があり漁業家が思わぬ打撃を受けることが多くなり昨今の不漁も全く潮流の移動關係に依るものならん云々」又農商務省三井技師の談に「從來も潮流が屢々変わる為に鰹や秋刀魚其他魚類が不漁に陥るのは事實だ今回も多分其等の關係だらうと思はれるから本省では各地の水産試験場と連絡をとって調査する積もりである」云々

大正七年一月十二日

●鮫漁港問題

に関する経過発表

八戸地方に於ては政府が近年漁港修築の急要を認めて愈々今議会で補助費を提案するの議あるを以て多年の懸案たる鮫港湾改修の實行を期すべく蹶起することになり先づ一町三カ村の一致の元に運動員を選定し第一着に委員等参廳し親しく川村知事を訪問して陳情する所あり充分の尽力を請はれし由なるが全日更に坂井家に在青各新聞、支局、通信員等十余名を招待して全問題の経過を発表し一夕の懇談をなしたり先づ奈須川八戸町長には鮫港湾の修築問題は遠く舊藩時代よりの懸案にして維新後内務省御雇独逸人の實地調査したることより今日に至るまでの経過を述べて鮫港修築問題の歴史を語り更に鮫港修築の必要なる所以に付き説述し奥羽六県中

最も広く海面を有する本縣に於て而も最も多額の水産物を漁獲しつゝある東海岸に於て適當なる避難港なく之が為に水産界の打撃損耗実に多大なるものあり殊に近年遠洋漁業奨励の結果漁船の改良を實行しつゝある今日之を收容すべき港湾なきに至りては折角の計画を阻害するものといはざるべからずとて鮫港口の近年漸次浅くなり来たりて漁船等の收容上益々不便を呈し危険尠なからざるを説き水産会の為地方發展の為に漁港修築の急務なるを論し尚ほ同港の必要は啻に水産上のみならず地方産業の開發と共に一般運輸交通の上も多大の關係あるを述べ今や縣の三大事業たる青森港の修築は現に實行されつゝあり岩木川の治水も今議會に提出さるゝ以上最早確定的のものとして不可なし獨り他の一つたる漁港の未解決の緒につかざるは遺憾とする所恰も政府に於ても漁港に関して補助費を提案することに決せりと云へは此の際天下に訴へて多年の宿題の解決を期せんとするに至れるなりと述べらる之に対して和田勝衛氏は記者側を代表して一場の謝辞的挨拶あり酒間各委員側より尚ほ同港に関連する諸般の事に関して聴取する所あり大芦氏は隣縣の岩手若しくは宮城に於て近時種々画策する所あり本縣は此の際利益を他に奪わるゝか如きなきを期せざるべからず本縣に於ては其の頭部とも云ふべき青森港の修築はならんとす而も其の手たり足たる鮫港の修築にして成らすんは円満なる發達は到底期すべからずとて八戸地方の問題とせず地方發展の為に其の實行に声援を齎まらんことを望むと述べられ斯くて九時過ぎ散會したるが当夜は奈須川、北村、石橋、大芦其他来青委員数名も參列したり

大正七年一月十三日

●漁夫輸送計画

▽北管局の新計画

例年東北各地より北海道鯨漁場に入り来たる出稼ぎ人夫は尠なからざる員數に上るか従来此の団体に対しては別に手配を定むる事なかりしも其の期に際して甚だしく混雑を極め一般旅客に対しても尠なからざる迷惑を及したるが故に北管旅客當局に於ても之を遺憾とし其の輸送方に関して種々計画中なるが其の意向としては連絡船及び之に接続する列車を一定し漁夫団体は該指定船車にあらざれば輸送せざる事とし船は目下不定期に運行しある青森發午後十一時甲便を定期に決し汽車は函館發午前六時四十分混合列車時間を繰り下げ且普通旅客列車に改正して之に接続を計り一日約五百人以上を輸送したき考へにて腹案中にして一方東管局とも打合せ中なるが何れ二月迄には確定すべしと

大正七年一月十七日

●下北郡東通村の沈没船解鐵

田名部町潜水業坪久八氏は今を去る十二年前に下北郡東通村猿ヶ森前浜僅かに數十間沖合に沈没せし汽船玄武丸當時の所有者山縣勇三郎氏より数百圓にて買受けその節解鐵幾部を取揚げしが歳月を経るに従ひ風浪に揉まれ揉まれて海砂底裡に深く埋没し爾来之が所在位置さへ不明の状態に陥り數星霜打捨て経過し來りしが如何にしけん此の頃海中に斯体の幾部出現したるを

以て潜水を試みしに果たせるかな慨量さへ推定し得殊に真鍮、銅の部分尠なからず之が解鐵の準備も大方整ひたるも兎角海上風浪荒れ続きにて従業し能はず拱手好日和を期待しあるものゝ如しと

大正七年一月十八日

●鮫港修築意見

鮫港湾修築に関し八戸、小中野、湊、鮫の一町三ヶ村は愈々活動を開始し曩に委員一同来青川村知事を訪問して親しく陳情し尚ほ在青新聞記者を招きて懇談する所ありし事は既報の如くなるが愈々一町三ヶ村の連署を以て意見書を県知事並びに内務大臣に提出の筈内務大臣宛のもの如左

意見書

鮫湊湾内漁港の修築は地方積年の希望而して之を地方或は中央の官庁に請願せしこと啻に一再ならざるなり然り而して今に及んで尚ほ其の実現を見る能はざる所以地方一般の等しく憾みとする所湾の以て漁港となすに適せざるに依るか將た地方人努力の足らざるあるか湾の漁港として將た避難港として最も適實なる所以は官民共に一致する所今多く之を云ふを須みざるなり強いて其の概要を挙げれば本縣太平洋面上北下北両郡及び岩手県九戸郡下閉伊郡一帯一つの良港湾なく其の不便不利益強いて地方の開発を阻害しつゝある事蓋し尠なしとせざるなり又常に沿岸漁業者をして不安を抱かしむ獨り沿岸漁業者をして不安を抱かしむるのみならず逐年沿海漁業不況に陥り自今遠洋漁業にあらざれば其の利を得る能はざるを悟らしむると雖も港の以て難を避くべき無く漁業者躊躇して自ら進んで遠洋漁業船を造る事をなさず漁業の前途をして寒心に耐へざらしむるものあり又漁港として必要条件自ら備はるあり即ち湾は漁場と最も接近し近海及び沖合ともに寒暖両流の交差点にして魚族の回遊周歲敢て絶ゆること無く鐵路湾頭に臨み陸海連絡し都市と交通運輸の便あり製造工場あり又縣立水産傳習部ありて當業者を指導し遺憾なからしむるあり近來又四個の銀行支店設置せるあり戸数三千を有する八戸町と境を接し經濟關係及び設備上の日用品需給の便を欠くが如き憂無きなり此等は只其れ地方利便の一端に過ぎずと雖も内地と北海道東海岸との海上里程最も近きを求むれば鮫港湾に若くはなし之を青森港との間に比し尠数里の近距離なり加之彼の危険海峡経過の憂いなし故を以て明治三十八年度は小規模の漁港を企画し設計及び図面を添へ国費の施設を当局者に稟議し以て漁業の便と東海岸との連絡を図れる亦所以無きにあらざるなり且つ八戸支線を湾頭に延長せる所以主として海産の便を図るにありと雖も其目的豈に獨り漁業上の為めのみならんや又数年前大日本水難救済會は湊救難所を湊川の湾に注ぐ所に設置せるあり湾の鮫岬角斗出の延長は風浪を防ぐに充分ならざるありと雖も宮古以北航海するもの或は漁業の船舶海上風浪に遭遇するあれば必ず船を此の湾に避く蓋し付近に割くべき良湾港なく避難は避難にあらずと雖も亦已むを得されはなり其れ此の如し而して今日尚修築の現実を見る能はざる所以のもの只其れ費途之なり□かに聞く大正七年度の予算中數萬の漁港避難港奨励費を上げらるゝありと其縣其港湾の何れなりやを知る能はずと雖も東北振興の聲天下に普し而して官民共に一致する所想ふに□青森港湾中亦其一に

加へられあるを信せんと欲するものなり且二三中央の新聞の報する所亦然り若し其れ其一に加へられあらんか亦必ずや鮫湊港湾ならんことを信せんと欲するものなり本縣海岸□く修築すべき港湾多しと雖も鮫湊湾より急且須要なるはなきなり縣は先づ觀測所を設く而して調査せるもの此の湾なり縣會數□建議或は意見書を提出せるものも亦此の湾なり内務及び農商務省技師を派し測量踏査をなせるも亦此の湾なり□に工務省は雇外国人顧問博士を派遣せられ実測設計製図せしめられ現に保存して縣廳にありと以て他に先んすべきを察知するに足る青森港は現に工事中なり而して岩木川の工事亦□年にありと之に鮫湊修築を加へ縣下三大事業なることは何人も争はざる所此の機を逸せず本年奨励費の一に加へ以て起工するあらは他日単独之をなすに比し彼我の利便亦尠なからず縣の利する所尠なからざるべきを知るに足る因りて以て漁業家安んじて而して其事に随ひ遠洋漁船新たに増し航海者亦意を強ふすることを得て救護所設置の目的に副ひ船舶出入多きを加へ従つて地方開發の大を期する事を得べきなり況や此の事業の如き最も東北振興の主旨を得たるものと云ふべきなり此の如き事業を等閑にし敢えて顧みざる如きあらば徒に其聲を大にするも其聲遂に放言壯語に了らんのみ抑も鮫港灣は水底深くして又廣からざるにあらずして容易に數隻の汽船を投錨するを得べく只其岬角の延長未だ足らざるものあり是に於て明治初年次の縣官主として築港の議を唱へ民間之に和し大いに力を之に致すありしなり明治十四年車駕北巡の日故有栖川宮殿下聖旨によりて鮫港に臺臨あり親しく築港の可否を聴き上げられ以て上聞に達せりと當時謁を賜りし人々に鮫村民は幸福なりとの令旨を賜はりたりと地方民の光榮何を以て之に如かん故に爾來一層地方は之が實現に努め敢えて怠らざるなり世態變移昔日の規模の大は望んで而して之を得べからず今や規模の大小を撰ぶの違あらざるなり寧ろ漁港可なり避難港可なり只其れ一日も速やかならん事を欲して而して止む能はざるなり之必ず遂行せずんば決して止まざるなり

右町村制第四十三條により意見書提出候也

大正七年一月十九日

●水産界便り

大間組合へ補助 下北郡大奥村大字大間大間漁業組合にては大正六年度に於て農商務省より低利資金を借り受け石油發動機船大間丸を建造し縣費補助百五十圓を交付されるが今回又遠洋漁業奨励規定に依り四百十七圓を交付さるゝことゝなれり同規定に依り補助金を交付されたるものは個人としては珍しからざれども組合としては今回を以て嚆矢とす尤も發動機を有する漁業組合も又同組合一個なりと△漁業奨励金下付 三戸郡八戸町長谷川春松氏は石油發動機船第二第禮丸を使用して一月十七日より七月三十一日まで延縄漁業流網漁業に従事するに依り今回農商務省より遠洋漁業奨励金百二十圓を交付せらる

大正七年一月二十日

●大湊興業計劃

▽愈々株式募集着手

豫て東北振興の一策として計劃せられつゝありし大湊興業會社は野辺地大湊間の鐵道工事の着々進捗し來ると共に目下我が經濟界の順調を呈し來たり殊に戦後世界經濟戦に対応する一般國民の自覚更に東北人の覚醒等四囲事情の漸く有利に運機を醸成し來たりたるを好機とし工學博士野村龍太郎氏を創立委員長とし大塗信太郎、石丸重美、門野重九郎、佐々木慎思郎、湯川元臣、鈴木誠作氏等創立委員となり愈々同會社の創立発表を見んとするに至れり蓋し同會社の創立目的は大湊を極東の大貿易場となすべく同港を解放して東西兩球の中継港とするのみならず同地を一大工業地として東北振興の一端を実現せしめんとするにあり同會社設立に對して東北六県及び北海道の有力なる実業家等多数の賛同する處となり加之ならず東京關西滿鮮方面の有力者等は多大の援助を與ふるに至れるを以て予期以上の盛況を呈するに至れり木材會社製粉製造會社の如きは既に要地を申し込み且大湊付近に於て鑛量約三億噸を有する優良なる大砂鐵鑛發見せられ近く一大製鐵所の設立せられんとするあり又政府及び有識者は歐州戦役の教訓に依り最近重大の工場は完全なる防備の出来る地点に設立すべしとの意向を有し居るを以て見るも大湊の如き内灣にして而も要塞地帯として其の防禦圏内にあれば蓋し工業地並びに世界通商貿易地として大湊の前途は實に洋々たるものあり因に本月下旬を以て興業會社は株式募集に着手する由

●東郡砂ヶ森便り

▲青年團夜學會 十一月二十日より向ふ二カ月間の予定を以て本村分教場に於て夜學會を開催の處学科は漁村青年として尤も必要なる修身綴方珠算等にして三級に分ち毎週日曜を除くの外毎晩午後六時より八時まで二時間一週二回の修身談話討論等にて殊に光陰を惜しみ如何なる暴風雪と雖も倦まず懼れず殆ど休む無く真面目の授業を受くる事學校児童に異ならず熱心に學習しつゝあり殊に團長藤卷豊太郎氏副團長藤卷定一氏専心に會員の出席を督励氏自ら率先團員を指導し若し無意味に團員の遊ぶものあるものは相当の制裁を付するまでに行へり或は修身的の講話を試み講師として本村分教場主任訓導牧野三郎氏専心勞力を厭はず其の任に当たり教養に努められつゝあり因に幹部の協議に依り今年よりは學習證書を授与して之を表彰する筈

▲鉾山の醫師 隣村上磯鉾山に於て昨年来醫師を置き鑛内人は勿論一般村民に至るまで極めて廉価を以て診察し居れり

▲漁況一般 今年是不漁にして生命と頼む鱒鮭は目下皆無只凧を見て鮑の出漁あるのみ

▲砂ヶ森鉾山 永らく問題たりし当鉾山は大正鉾山にて買入以來漸く昨秋より着手目下工夫雑夫合わせて十人内外にて盛んに採鉾中なりしが村民も其の成功を期待し居れり然れども目下其の任にあるものは余り一般村民より好かれざるは鉾山の發展上嘆かわしきことなりと

●回漕店の開業

東郡袈月村小倉十兵衛氏は石油發動機船三隻を所有し之まで堀谷回漕店に於て総て荷客の取扱をなし居りたるが今回獨立回漕店を開業する事となり事務所は今に新築するまで濱町柳川家隣渡辺方の家屋を借入れたるが愈々本日より營業事務を開始する由

大正七年一月二十一日

●東郡三厩青年團便り

◆夜學會 東郡元宇鐵、釜野澤、四枚橋藤島、六條間各青年分團にては龍飛方面へ比目魚出漁の關係の為早きは十一月上旬遅きは十二月下旬より夜學會を開催せり元宇鐵にては同村公會堂、釜野澤にては小學校、四枚橋藤島にては大宮長五郎氏宅、六條間にては分團事務所にて各分團競争的に時化の宵も吹雪の夜も知能を磨き体力を練りつゝあり◆教科と講師 教科は各分團共略同一にして矢作校長は筆算珠算、法制の通俗的解釈を澤山訓導は讀書（帝國青年讀本上巻、高等前編の二種使用）作文を各擔當し元宇鐵へは隔日釜野澤へは毎夜四枚橋藤島へは四日置きに出勤し熱心指導教授の任に当たり各團長亦臨席して青年を監督し居れり帰路は各團共講師宅まで送るを怠らず講師も其の親切に感謝し居れり▲聯合雄弁會 各分團共折々弁論の練習を為し居りたるが去る十四日夜元宇鐵、釜野澤、四枚橋藤島の三分團聯合し宇鐵小學校に於て第一回雄弁會を開催したり矢作校長の時勢と東北青年と題する開會の辞に始まり直ちに討論唾と盲が何れが良きか讀書に達せんか算術に達せんかに就いて各人弁駁一時間にわたり凜々乎したる態度にて激越亦激論尽きざりしが假議長より時間の都合ありとて會員演説に移りしが是亦時間の都合にて下記五名の各分團代表選手の達弁ぶりを聞くのみにて終りたり

三浦美吉、牧野利松、田中駒太郎、三浦録藏、牧野兼松

次に柳谷團長の励語、澤山訓導の部落根性と協同心と題する談論あり余興等もありて十時過ぎ和氣靄然たる中に次回を期して散會したり因に元宇鐵釜野澤にては各雜誌帝國青年を四枚橋藤島にては青年をして購読し劍舞、擊劍等を練習せしめ体力胆力を練磨しつゝあり

●浪館の製氷事業 青森市村田氏の經營に係る東郡浪館の製氷事業は頗る良好にして多数の人夫昼夜兼行にして排雪其他の作業に孜々として務め居れり最早九分通り結氷したればこゝ二三日にて切取り運搬に着手すべしと云ふ

大正七年一月二十二日

●日本は世界

◆三大漁場の一つ

▽近年魚類が段々減っていく

我が近海の漁獲は年々減少の傾きで之は海流と余程關係が深いとの話地学協會小林主事の談に依ると『四面海を以て環らす我が日本の近海には暖かい海流と冷たい海流とが流れている暖かい海流は南より冷たい海流は北より来たり、各々

□特有の魚類□ が棲まっているその例としてカマス、鰹の類は暖流に鯡、鮭、海獣の類は寒流の二流が突當る場所が有って日本の近海には之が多いその著しき場所は即ち房総沖、樺太、北海道、朝鮮の近海である暖寒二流の突當っている場所には魚類が頗る多く

□日本は世界□ で魚類の一番多く棲息せる三大漁場の一つに数えられて居る事は普く知る所である何故かと云へば寒暖二流に乗って来た魚類が突當たつて大洋に停滞せる大海原で行方を知らずにまごまごしているから勢ひその場所には種類の多い魚類が多いと云ふ事になる然し海流は同一の速度と温度で流るゝものに非ず例へば夏を過ぎ秋の末迄は暖流の勢を増して奔流し

従って暖国に住む魚類が北へ北へと進んで来る反対に初冬から春の末迄は寒流が勢ひを増し北國の魚類が南へ南へと来るのである何しろ

□気候の変化□ が海流に著しい影響を及ぼす事其から太陽面の黒点が気候の寒暖と関係あると云ふ学説は真実らしく東北の飢饉なども海流に関係があったと称せられて居る所で我が国では海流の調査が等閑にせられている日露戦争の際両国が敷設した水雷の浮流せる後を辿り又は空瓶を流して漸く海流の流るゝ方向を知ると云ふような有様で海流の速力温度等に至っては未だ不明である海の水深海流の方向、速力、温度に就て

□調査が未だ□ 根本的に出来ていない日本の近海には従来米人が屢々調査研究に来て先鞭を付けられたと云ふような情けない有様で海洋調査の必要は識者の間に認識せられ曾て議会で可決された事もあるが未だ実行された事が無いのは頗る遺憾に堪へない事である現に鯡の如く棲息している根拠地が不明で樺太北海道で漁獲期に目茶目茶に捕獲して勿体無くも肥料に捨てゝ了っているが海流調査を為て其の根拠地を探究し当てればそんな不始末は起こらぬのである斯くの如くにして近年樺太、北海道の

□魚類は減少□ していく一方で明治四十一年頃樺太のポロナイ河では鮭や鱒の大群が背を見せウジャウジャと蠢動し容易く手で捉へる事が出来たもので熊が笹に鮭を付けて己が住家へ行くやうな凶は満更嘘でもない事のやうに思はれたそれから樺太は申すに及ばず北海道でも氷結した海に穴を穿つと天日の明るみを慕って魚が跳ね上がったと云ふ様な事は今は見ることが出来なくなった畢竟新開地の大漁場を狙ひ人々が競ひ争って無闇に捕獲した結果に因る兎に角水産の基礎を確立する為には如何しても根本的に

□海洋調査を□ 必要とする宜しく當局の実施を望む次第である独逸皇帝は将来独逸大帝國の發展は海にありとして海洋調査に着手しモナコ国王は海に興味を持ちて研究を進め兩者合して今日の海洋学の根源を為し漸次に発達し米國なども頻りに調査の地歩を進めている

●小倉回漕店披露

東郡袈月村小倉十兵衛氏は当市にて回漕店を開業に付き一昨日午後七時より浜町坂井家に於て全披露宴を開きたるが来賓は鴨志田郵船、石館、佐藤、成田、桂井、伊東、藤林、淡谷、渡邊各回漕店主及び陸奥東奥両記者にて小倉氏は自分に於て汽船及び発動汽船を所有し居れば昨年春より回漕業を經營すべき志望を抱き居りたるも機会を得ずして今日に至りしが今回堀谷回漕店の改革に付き自分の業務上に幾多影響を及ぼすべく考慮の結果之を好機に断然海運業を經營する決心せる次第にて愈々実行する事となりたり業務に就いては何等經驗を有せざれば今後各位に於て御指導援助あらん事を希望し挨拶を述べたるが鴨志田氏は来賓を代表して小倉氏の海運業を經營するに就ては同業者として祝福すべく祝辞あり宴に移りたるか酒間濱街大小妓の斡旋にて十二分の飲を尽くし全九時頃散會せり

大正七年一月二十三日

●堀谷回漕店の拡張

市内新濱町堀谷回漕店にて業務拡張の準備として舊臘同町石館倉庫隣地に倉庫一棟を新築し

尚ほ従来の事務所は狭隘に付向側桂井回漕店の隣家を改造し本月中に移転の都合にて目下工事中なるが従来の事務所跡は融雪期を待つて倉庫に改築する計劃なりと尚ほ店務の取扱に就ても改善の必要を生じ石井、齋藤の二名を解雇し更に経験ある店員を傭聘する事になりたる由にて汽船は金森商船會社の釧路定期船及び噴火湾汽船會社の汽船外函館定期船を開始する計劃なりと

大正七年一月二十四日

●遠洋漁業奨励

△金額三十萬圓十五ヶ年継続

農商務省にては今期議会に遠洋漁業奨励法中改正案を提出したるが其の趣旨は従来の普通漁業奨励金は相当其の効果を収め将来發達の見込み充分なりと認めたるを以て之を廢止し今後は特別の条件を以て新漁場の開拓、漁法又は漁獲物処理法の改良、販路の拡張及び海外出漁の奨励をなすこととし漁船奨励金は専ら本邦漁業の中堅なる小型漁船の奨励並びに資本的漁業の模範たる大型漁船の新造等に補助を與ふるにありと尚ほ之に対する予算金額は三十萬圓迄増加し本年より向こう十五箇年間継続支出せんとするものなりと

大正七年一月二十五日

●漁業法改正案

▽今回改正の要點

今回農商務省より議会に提出せらるべき遠洋漁業奨励法中改正案の要點を略記すれば従来の普通漁業奨励金は相当効果を収め将来は發達の見込み充分と認めたるを以て之を廢止し今後は特別の条件の下に（一）新規漁場の開拓漁法又は漁獲物処理法の改良販路の拡張並びに海外の出漁を専ら奨励することとし（二）漁船奨励金は専ら本邦漁業の中堅たるべき小型漁船の奨励並びに資本的漁業の模範たるべき大型漁船の新造に力を致さんことを期し（三）海外に於ける出漁団体の改善を目的とするものに対し相当の補助を與ふること等其の主なる點なりとす而して此が為には豫算金額を三十萬圓迄増加し本年より向こう十五年間継続施行せんとするに在り

●下北郡便り

▲大間丸の竣工式 大間漁業組合発動汽船大間丸の竣工式延期の所來る二十六日午前十時挙行する由

▲大畑海運株式會社 の定時株主總會は三十一日同社内に招集す

▲畜産講習會 來る二十七日東通村尻旁に於て開催する畜産講習會出席の為郡衙よりは熊谷書記田名部産馬組合よりは佐々木獣医出席出張せりと

▲田名部町大工職組合 夜学始業式は一月二十日午後七時を以て下北郡立工業徒弟學校樓上に於て芦田竹太郎氏（組合長）以下幹部役員及び夜学生五十余名杉山校長二唐講師石井田名部小学校長其他參列の下に挙式型の如く講師の訓辭來賓の祝詞口演生徒總代の答辭ありて茲に式了はる本夜学生中を二部に分ち前年の終了生を甲部に本年新たに入りたる乙部として甲乙隔日

とするも乙部の日に甲部の出席を妨げざる事、登退の時刻教場の始末早出晩退当番其他の事項を協定し茶菓饗応ありて散會

▲大吹雪 二十一日は市日にて近在より参集の人々夥しかりしに午前九時頃遽に大吹雪咫尺を弁せず点灯頃より止みししも為に当夜田名部に宿泊せしものなり青森定期船も航行し能はず黒崎辺より遂に出戻りするの止むなかりと

大正七年一月二十七日

●鱈船の遭難

漁夫四名行衛不明

下北郡脇野沢村大字蛸田杉沢繁太郎（三七）全大字黒岩立崎金助（三五）全大字脇野沢権太養子杉沢理作（三二）東郡野内村大字久栗坂倉吉長男杉山倉造（三三）の四名は去る二十一日午前八時頃脇野沢村沖合半湮ばかりの個所に建て置ける鱈網引上の為漁船に乗して沖出しせるが當時は西南の微風にて海上至極平穩なりしが作業中全十時頃になるや突然強風となり帰航せんとするも船体自由ならず遂に転覆遭難し四名は船具と共に行衛不明となり船体のみ陸岸に漂着せる由

大正七年一月二十八日

●大間より（一）

◆水路誌云『大間港は大間岬の西側に在り、港内狭く且水浅しと言へども三四百石の和船には地方第一の良港云々』だそうだ、而して此和船こそは大間村民にとっては生活上唯一の鍵であった。三四十年前、鹿の群が所謂ブラキストン線を破って大間沖首二岬の間を往復する頃迄は本州文明の流れの行き詰りが百石のオシキリによって、大間の狭き港より吐き出されたものである。

◆誰れしも一寒漁村と考へて来る者は驚くであらう比較的大なる建物は、東風待つ間の諸国人の雑魚寝に与えられていたのである。旅人にとっては悪魔の悪日和も、村人にとってはこの上もない福の神様で、小槌ならぬ瘦せ財布漏るゝ金の光りに霧多いこの里も十分に明るかった。

◆而しかうした濡手粟的取得も函館通ひの和船の賜であったからには、洋船の為に蒙った和船の痛手は、また大間村民も必然受けねばならぬものであった。朝夕沖遙かに通ふ青函連絡船の残す煙に村民の心はいかほど泣かせられたのであらふ。

◆かくして杖を失ふた盲者の苦痛は、一時極度迄に村民の生活を虐げた。杖を失ふた村民は今や自力を以て己が眼を明けねばならぬ。而して時と共に悲痛に充たされた彼らの眼にもやうやく歓喜の光が芽ざして来た。波の下には無尽の海草が彼らが下す手を待っていた。潮波揉み騒ぐ亂岩のなかには南清の豊財を惜し気もなく散費せしむる多額の鮑が転がっていた。交通の便は大間産出の品をも直ちに中央市場に出し価格は年々騰貴した。斯くして鼻先をかく如き地方漁業によって村民は十分幸福であった。

◆反動ほど恐ろしいものはない。極度の貧困に達した彼等が一度食ふて財を余すに至るや濁

酒もて足を洗ふ的生活に浸り切った。大間には桶屋はいらぬ。俗称大阪樽、大山樽、津軽樽が逆輸出し得るほど巷に広がった。石花菜、昆布、鮑の山が築かれた。価格は益々騰がった。越後船、庄内船、秋田船は物貨を満載して盛んに入出入りした。移民は益々多く、百の戸数は忽ち三百になった。

◆かうして酔ふている間に商店大福帳には数字がたかまり、不動産は銀行の手に渡っているのを知らぬげであった。今の大間は丁度その酔醒の状態にある。この度漁業組合の遠洋漁業の計画あるを聞く。大間の運命が何方にころぶか。港を何うするか。防波堤の持ち腐れでもあるまい、敢えて聞きたい。大間青年たるの本州北海道間の連絡権を青森より剥奪する程の意気あるや否や。

◆潮波白き弁天島、革堂鞆太平洋より下波押し寄せる下手濱、夕日美しき根太無岬、あゝこの波の音に包まれたる里の上、運命の神は如何なる手を下さんとすることであらう。

◆異常は昨年の中秋に書き捨てた一文である。新しく大正七年を迎えた今日、更らに日和山上より瞰下した大間、或は根太無岬より眺めた大間と、我が渋滞する筆をひきぢって見たいと思ふ。(大間冠者)

●陸奥汽船社總會

一月二十五日午後二時同社樓上に開かる河野社長を初め各重役其他重なる株主等十五名(千六十六株)、委任状二十一名七百三十株合計三十六名千七百九十六株)出席し河野社長開議を告げ、

當期に於ける海運業の状況より本期一般の好景気沿岸の豊漁鑛業の進展各方面の向上に伴ふ船客貨物の増加に因る収益相応の成績を挙げ得たるは幸ひなり之を前期に比すれば實に九千二百四十八の増加を示せり然るに客臘十五日社船東北丸航行の途次横浜沖にて俄然不慮の遭難に罹りたるは遺憾なりしとて之が経路より善後策に就き縷述し遠からず航行し得べき見込みなりと告ぐ

當期(第四十期(純益金二萬六千七百五十一圓十九錢一厘)此の配當計算如左

一萬圓船舶保險積立金、一千三百圓賞与金、二千五百圓株主配當(年一割)、七千五百圓特別配當金、五千四百五十一圓十九錢一厘繰越

満場異議なく承認原案に決せり薄暮より新喜樓に於て祝宴を開き得意先たる大荷主を正賓として招待状を發せるを告げて散會せしは三時

●回漕店の設宴 當地磯野回漕店にては一昨夜七時より金森樓に於て創業十三周年祝宴を催せり来賓には阿部市長、吉田郵便局長、田中、藤林市會正副議長、兩新聞社其他荷主等二十余名にして店主小樽の磯野進氏は當北海道と本縣との連絡を目的とし而も連絡上當港の最も枢要の地点にして将来益有望なるを認めて回漕店を創設したることを述べ當地は屢々通過するも滞在したること稀なりしが今回はゆっくり御高話を拝聴の為此の席を設けたりとて一場の挨拶あり之に対し阿部市長の謝辞あり歡を尽くして散會したり

●貨車三輛沈没

▽津軽海峡に

未だ其筋に於て発表せざるも舊臘二十四日午前四時青森灣頭平館沖合にて鐵道院車運丸が車輛を満載せる貨物車三輛沈没したる事件あり當時

△天候險惡にして北海道に到着すべき貨車は青森に停滯したれば北管局は急遽之が搬入に努め當日車運丸に十五噸有蓋貨車三輛に解体貨車の車輛其他を満載して未明當港を解纜し平館燈臺を目掛け當港を距る約二十五哩の箇所に差し掛かりたるに怒濤は車運丸に大動揺を與へたれば忽ち中心を失して見る間に一輛の貨車は繫綱を切って海中深く沈没し其反動を受けたる貨車は二輛三輛共に約

△二十六尋の海底に墜落せり幸いに人員に異状なく車運丸は一先つ當港に帰港したり之が損害は目下判然せざるも貨車及び積載品を加ふれば八千圓乃至一萬圓となし居らざるものゝ如し

大正七年一月二十九日

●大間より（二）

海上安穩海産大漁を守護せらるゝ地藏堂の鎮座まします所雲脚怪しき中空に暴風警戒の赤標の揺るゝ長竿のたつところはるかに沖通ふ船影を眺望する物見櫓のあるところこの日和山上よりは又大間の村が足下に見下ろされる

◆高磯、横磯によって抱かるゝ掌大の港この港に沿ふて不規則に街並みの發達したのが大間村である四百近くの戸数と三千の人口を持つ村而も家々が街並みをなして密集してゐる故に村としては比較的大なる部類に数へて良からう全村殆ど漁業自治行政の機關たる村役場學校の外に警察分署青森區裁判所出張所がある漁業組合を組織し登記名簿上の役名の外に専務書記一名を置いて筆をとらしてゐる、とんだ方に筆が走ってしまったが日和山上よりの鳥瞰図としてはほぼ街の中央大間川に面した小高き丘に大間村社の社殿が毅然として立ってゐること及び雑然たる枉葺家屋の中に瓦葺の白壁土蔵がたった一つ目立って見らるゝことを書けば良いのだ殆ど同じ位な四百の家並その中にたった一つの白壁土蔵之が日和山上より見らるゝ大間の全景である「下北郡は他郡より二十年遅れてゐる」とはたびたび外来人より聞かざることである「自治行政なんて馬に小判猿の鉢巻きだ下北郡なんぞはまだまだ官僚行政でなければ治まりっこなし」とは可成責任の重い位置にある人々の時々口にする所だ下北郡なる全称に於て然り況んや所謂北通りなる大間に於てをやとは推論上當然の到達点である而して實際村政に与る現在の重なる人々も此の説を密かに是認しているらしい今一つ大間ほど世論の纏まり難い所はない特別に大なる者もない代わりに百人が百人相当の口を動かし頭を振るので誠に治め難いとは少しく上に立つ人の等しく唱える所でありその理由としては各地方人の雜居を以てその第一位に数へている僅か戸数四百近くの村而も頗る保守的な漁業を專業とする村としてこの村ほど外来人の多い村はないだらうちょっと銭湯に行つても津軽弁あり北海道弁あり能登弁あり越中弁あり仙台生れです土佐から来ましたいや岩手ですと可成方々の人々と言葉を交わすことが出来るかく思想感情方言を異にする外来人を雜居せしめたる上に之を統一すべく元來の大間村民は餘りに無能であつた騷擾するのも故あるかなである

◆現に村政を左右するものは皆外来人ばかりで純粹の大間村民はその膝下に平頭低身している

とは誠に情けない我々若い者は奮起一番彼等の椅子を奪わなければならぬとは村内少壮政客等の口にする合言葉だその言や誠に良なりしかも外部より傍観する時その智力に於て全力に於て未だ若い人々は所謂外来人若しくは老獺者（彼等の言葉そのままの直訳）の敵ではない而して此の気概ある若き人々も深く之を悟り居るは誠に良し願くはその勇氣も村内の教育の振興と村風の改善に努力せられよ口の多き可成

◆頭数の多き可成議論の沸騰する所其處には必ず正しき世論確定の可能性がある恐るべきは百人百種の議論にあらずして百人各々の無智である實に無智ほど恐るべきはない而もその無智たるや貧窮に於ては誠に温順なる奴隷と化すけれども大間の如く船一艘鉾一本あれば屁の河童でもないと云ふやうな兎に角食ふに困らぬといふ武器を持たせては濟度しがたい代物となる（大間冠者）

●上北郡百目木青年団 ▽夜學會

横浜村百目木青年団は一月十日より二月八日まで三十五日間夜學會を開催せり開場は百目木分教場には会員三十一名時化の宵も吹雪の夜も怠る者なく知能を磨き体力を練ることに努力しつゝあり▽教科と講師 教科は修身、讀書、（綴方手紙文）、算術（和算と筆算）讀書は（壮丁讀本を用）にて講師は團長福士秀剛老体にも拘らず毎夜熱心に教授せり七名の役員は七日置きに一名ずつ開場臨席して青年を監督しつゝあり

大正七年一月三十日

●大間より（三）

◆私は前に永住民と外来人との二つに分けた、而し私の今問題としやうと思ふのはそんな区々な問題ではない、一心協力すべきものである、抑々大間此後の位置に就いては大きく分けて二つの考へ方がある、大間原上なる陸軍御用地の立杭大湊要港部の注目、さては客年殿下の御來港を忝けなうしたる如き軍事上の重要位置としての見方、及び大湊鐵道の延長問題よりして生ずる函館との連絡てふ交通上商業上の重要位置としての見方が之である、而もこの二問題たるや近来の状況を見るに決して空中の樓閣ではない、まさに大間将来の切実なる問題として沈思画策を要する大問題である

◆外部よりの刺激に促されて村民も近頃一二之を口にするものの生じたのを見受ける而もその心内を忖度するに、大間にとっては無上の光榮、無上の賜物として喜んでいるやうである、光榮は如何にも光榮である、次に果たして村民への賜物として軽々に喜ぶべきであらうか

◆以上の二問題の何れかが実現する瞬間、大間は既に諸君の占有より奪われて、社会公共の競争場裡と化し去るべきことを考えねばならぬ、大間崎、弁天島を環らす海中の富は、諸君が保守的なる漁業組合の規約によって占有独占し得るであらうが、一度大間ステーションの落成するの暁、大間港頭、黒煙柱立するの時に至りては漁業組合規約は既に紙屏籬底のものである、この考へは決して閑居の空想ではない諸君、赤禪一本この時に際して潮汐の如く寄せ来る外来人に對して堂々競争するの準備完了なるや否や、何うか諸君、地価の騰貴を予想し此の土地買占的考案以上に村全体の生命如何と深く考察せられ一日も早く村是確立、能力充実に向かつて

奮励あれ

◆時に今夏を期して學舎増築の計あるとか、誠に結構なことである、一月三日には大奥青年団の發団式が挙げられ、水産補習學校の外に四日より五日間短期婦女講習会が開かれたとか、村内青年女子の教育を必要とするの自覚は誠に大間将来の為に力強く感ぜられる、そうだ大間現在の窮態を脱せしむるも一に教育の力将来に向かつての正しき準備としても教育の振興を最とすることを思ひ、やうやく発酵しかけし此の氣風を益々進展さして行きたいものである

◆海草なめらかなる根太無岬の夕方の静寂に包まれて龍飛白神二崎の間を去来する汽船の煙の繁きを何と見るか、防波堤上に立って夜々遙かに海上ほんのりと空を染むる函館港の灯りを見る時如何なる啓示を感ずるか、夕波の囁く横磯の潤一帯の青砂、アイヌの遺跡なる四十八タテの冷水今猶ほ湧出する鳥居崎、一時間数渚の潮流に洗はるゝ大島、さては三枚折り、茂平の怒り立つ波浪の叫號・・・朝な夕なの散策に於て雲を彩る尻屋の光りに向ひ、夷の山脈を赤く染めつゝ沈み行く夕日に對し、我が若き血潮は異様な慄へにうたれる

拙稿書き終へる日、港内白鷗の如く浮かべる一船を見る、之組合が新たに造りたる発動汽船大間丸なりとか（大間冠者）

●石油発動汽船

丙種船長養成

遠洋漁業奨励及び近海運搬貨物激増の爲め石油発動汽船を建造する者及び購入使用する者漸次増加せる爲此等発動汽船を操縦すべき船長及び運転士を要望すること頗る急なる者あり爲に過般三等運転士の講習会を開くこと二回続いて此等講習者の採用試験を爲したるが其結果は昨報の如く約四十幾名の中合格者三十五名を出したる好成绩を挙げたりされど

△時代の要求は之を以て満足せず更らに船長の講習を施行せられたき旨當業者は熱望したま縣に於ても其緊要なるを認め夫々調査中なりし處今回愈々來る二月中旬より三月中旬まで約一か月間の講習会を催す事となりたる由尤も此の講習会は機関士と同様丙種船長養成を目的とする者なれば終了の後には試験の上丙種船長の免状を交付する仕組みなる爲多分希望者も多かるべく講師は辻技手と内定し居る模様なり会場は湊水産傳習部にして不日講習規定の交付を見るべきが手続き等は先づ前回の機関士講習会と大差なかるべしと

●北海博と東北

▽渡道者に六縣を一週

▽せしむる計劃を照會

來る八月北海道博覧会開設に當たり觀覽者多数に上るべく就いては東京及び其以西よりの渡道者に對し往復の機会に奥羽の一週を求むるは地方の紹介及び将来の關係上極めて有利の事なるが幸ひ上野札幌間乗車券は常磐線東北本線奥羽線の三線中何れの線を通過するも差支なき由なるにつき右の意味合いを博覧会に於て發する乗車賃割引証及び開設広告等に記入を受くるときは一層効果多かるべきを以て此旨北海道長官へ申入れ取計ひ方を請ふべく依田山形縣知事より東北各縣知事に紹介する處ありといふ

大正七年一月三十一日

●西海岸地方の鱈刺網試験

本縣水産試験場に於ては西海岸深浦地方に於て鱈刺網の有望なるを認め種々調査の結果模範的に鱈刺網の試験を為し以て地方一般に普及せしめん為め昨年初冬松田技手を主任として派遣し網の新調其他の準備に着手せる處何分天候不良にて予定通り進捗せず漸次遅れて漸く十二月中に完了せる為一月初頭より

△試験を開始 の筈なりしに一日一日と出漁の機を失し來る十六日に至り漸く天候回復第一回試験を試みたり次いで二十二日には第二回二十三日には第三回の試験を為したる處毎回相当の成績を挙げ総計して鮫二百三十貫を漁獲せり鱈刺網に鱈の漁獲皆無にして鮫のみを漁獲せるは少々不思議に思はれど天候の為に準備遅れ其後又風浪の為に漁獲の機を失したるに依り其間に鱈漁の期節を経過し鮫漁の期節に入りたる為め序上の如く鱈の代わりに鮫を漁獲するに至れるなりとさて同地方の漁場は深浦の

△北西一里沖 にして頗る有望の由なり天候回復次第更に第四回の試験を行なふ筈なるが同地方に於ける刺網は今回が最初の試みにして従つて同地方の漁業家は一般に成功を危ぶみ居れるが既往三回の試験に於て其有望なるを確かめたるものゝ如し該刺網には川崎船を使用し船員漁夫を合して一艘五人を以て足る由なるが目下の處網は十四束使用し居れり一束の代価は付属品及び装置の費用を合して約十圓を要すと漁獲せる二百三十貫の鮫は一貫目平均二十五錢程の売却されたるを以て五十七圓五十錢となる訳なりと

●北海博と団体

今夏開設の北海道博覽会に際し各種団体の多数集合すべく其混雑を避くると共に内地よりの觀覽者に対し特に途中汽車汽船宿泊所の不便なき様準備すべく北海道庁にて目下其方法を講究中の由なるが右に就き觀覽者の為め団体を組織し派遣するものは団体名及び日時、人員等來る二月十五日までに各郡市に申し出づべしと

大正七年二月一日

●地方功勞表彰

内務省は例年の如く二月十一日の紀元節當日地方の功勞者を表彰すべく既に省議確定したり今回は地方改良事業に於て團體七、個人一、感化救濟事業に於て團體二十二個人七及び特殊部落改善に於て團體二なりと

大正七年二月六日

●東郡石崎便り

▲漁況 昨夏以来烏賊の不漁は近年覚えのない程だそれに鱈も大々不漁で仕入した丈不残損となった様である目下鰈火魚等は或る一部分に多少の好況を呈して居る様だが不漁續きの疲弊が容易に除去されそうもない殊に日常の食料米は全然輸入に待たなければならぬのだから米価騰貴の今日の困難つたらお話にならぬ

▲納税 石崎澤、弥蔵釜、元宇田の三部落とも納税組合ができてから一人の滞納者がなくなった今年の様な不漁続きでも既に去る三十日を村税の全部完納といふ好成绩を挙げてる位だから三組合とも大正四年度から引き続き表彰されて居る是畢竟石崎澤の最上太次兵衛氏が率先して納税成績を挙ぐることに尽瘁せられたのと元宇田の濱田、柳谷、弥蔵釜の高畑、村山、石崎澤の最上、土谷の正副組長及び役員諸氏の熱心なる尽力に依る處なるは勿論地方民一般に納税義務を高唱し来たれる結果に外ならず國家の為に誠に喜ばしき事共なり

▲積雪と交通機関 由来上磯地方は春夏秋冬とも交通不便なところである殊に本年の如き積雪夥しき年にありては殆ど交通途絶といふ有様にて郵便通送上の困難も思い知らるゝ程である交通機関の不備は地方開発に一大關係を有して居る訳でもあるから何とかして利便を得るの方法を講ぜねばなるまいとは地方民の均しく唱道して居る所だ

▲北海道出稼 昨年以來引續きの不漁は漁村の一大打撃である随つて北海道出稼者は全村百二十戸中から百五十に上ると多数の出稼者を出さなければならぬといふに至つては地方産業上に及す所の影響もまた決して尠きにあらざらう

●砂ヶ森青年團夜學閉會式 東郡砂ヶ森にては昨年十一月より漁期の閑暇を利用し向ふ二カ月間の夜學も終り一月三十日閉會式を分教場に於て舉行せり團長始め團員全部並名誉團員村有志者無慮八十名立錐の余地を午後六時團長藤卷豊太郎氏開會を宣し君が代を合唱し牧野顧問申戌詔書捧讀し續いて講師牧野訓導より左記人名に學習證書及び賞品を授与し併て團員の熱心通學せしを賞賛し今後の發奮を促し藤卷團長より一人宛證書賞品を授与し終りて訓辭あり副團長藤卷定一氏團員の熱心勉強せるを賞し怠慢を戒め有志川口倍吉氏老体を顧みず青年に望むと述べ其他名誉團員等の祝詞演説あり學習會員総代山本與五郎氏の答辭及び會員の祝詞演説多数ありて近來になき盛況なりき最後に牧野訓導青年の自覺に就て述べ副團長閉會の挨拶ありて式を終はる引續き副團長は年齢満期に就き副團長理事の改選ありしと二月十一日の總會に発表することで全く閉會せしは九時半頃なりき因に夜學會員は初め三十三名たりしがこの間に稼他出或は家事の爲に不參あり十日以上出席の者に授与したるなり

(一級) 鈴木勝太郎、山本與五郎、藤卷定五郎、小倉彌吉、藤卷福太郎、藤卷粕太郎、中村文蔵、小倉要太郎 (二級) 藤卷三次郎、藤卷喜代吉、鈴木清蔵、蝦名久三郎、米谷惣青、川口清三郎、田中久吉 (三級) 田中春次郎、山内松之助、米村永次郎、(精勤一等無欠席) 藤卷粕太郎、山本與五郎、(二等) 鈴木勝太郎、藤卷定五郎、中村文蔵 (三等) 藤卷福太郎、藤卷喜與吉、山内松之助

●下北と出稼人夫 下北郡各地より北海道樺太の漁場稼ぎ応募者未だ的確なる数字を聞かざるも雇賃金多少の増加あるに拘はらず例年に比し応募者約二割或は三割位減ずべしと蓋し地方の事業に在付く見込あるが爲なるべし

大正七年二月十一日

●功勞者表彰式

教育功績者表彰

▽功労者の表彰 本日午前十一時より縣廳内長官室に於て実業功労者左記四氏に對する表彰式を挙げるが参列者は兩部長各課長及び各郡市長にて川村知事より表彰状と木杯（大形一組）を授与する手筈なり

青森市	相馬 駿
東津軽郡	西田林八郎
西津軽郡	鳴海廉之助
下北郡	佐々木弘造

右の内相馬氏は地方開拓に志し苦心經營漁業部落相馬町を建設し鳴海氏は馬匹改良蕃殖に努め且又地方公共事業に貢献すること少なからず西田氏は地方産業の増進各種公職に尽瘁せる廉を以て表彰せらる而して又佐々木氏は原野数百町歩を開墾し併せて一部落を建築せる功勞により今日の名誉を得るに至れるなりと、式は十一時半終了暫時休憩の後内務部長室に於て茶話会を催すべしと

△教育功労者 省略

●縣廳の遥拝式

本日縣廳に於ては午前九時を期し知事兩部長以下廳員全部参廳縣立病院醫員東郡役所築港事務所員及び青警所員全部礼服用の上参廳し先づ九時半縣會議事堂に於て神武天皇の山陵に向かつて遥拝式を挙行し更に内務部長室に於て拝賀式を挙行し終わりにて長官室に集合し熊谷視学は判任官以下を代表して祝賀の詞を述べて執奏を請ふべし以上を以て閉式となり暫時休憩の後教育功労者及び実業功労者表彰式に移る筈

大正七年二月十三日

●教育及び実業功績者表彰式

既報の如く去る十一日紀元節の佳辰を卜し縣廳長官室に於て篤行者並びに教育功績者表彰式を挙行せり児玉原田兩部長各課長高等官及び

石黒青森市助役、藤原東郡長、門田下北郡長、幸田西郡長、尾上三戸郡長、奈須川八戸町長、菊池田名部町長等

着席官房属褒状及び木杯を案上に置き小山田官房主事挙式の旨を述べて一人毎に褒状文を朗読して知事に捧ぐれば川村知事は一人毎に褒状を交付し内務部長は木杯を交付せり頓て小山田主事容器を撤し知事は大要左記の如き訓示を為せり

△知事の訓示 稲葉君は教育功績者として又相馬、西田、鳴海、佐々木の四君は実業功績者として此紀元節の佳辰に當り文部省乃至縣より夫々其功績を表彰せらる之獨り受賞者諸君の榮譽のみならず又以て本縣の榮譽とする處なり稲葉君は多年小学教育に従事し教育界に對する功績顯著なるの故を以て文部大臣より其他の四君は公共の利益を増進し且又縣産業の發展の爲めに尽瘁されたるの功績多大なるの故を以て縣より表彰せられたるが将来とも此榮譽を維持するに努めると共に益々斯界の爲に貢献せられんことを望む殊に欧州戦争は我が帝國の将来に重大なる關係を及すは勿論實に我が日本の今日は重要なる場合に際会し居るものと云ふべ

し此場合に於て諸君の如く重要な位置にある人々の行動が四圍に及す関係多大なるものなれば自重自愛して縣国の為に一層貢献せられたし本職は衷心慶賀の意を表すると共に此機会に於て希望を述ぶること斯くの如し

右に對し稲葉氏は大要左の答辭を述べたり

自分は教育界にありしという事実の外功績として認むべき事更になく却つて総ての事柄は所期に反し総ての計画は水泡に歸し相顧みて轉た感慨に堪えざるものあり然るに本日斯くの如き榮譽を担ふ之取りも直さず閣下並びに各位の指導誘掖の賜物なるは云ふまでもなし不肖萬藏及はず乍ら最善の努力を尽して日々精励以て閣下並びに各位の御篤志に報ゆる處あるべし次に相馬氏は篤行者表彰者を代表して大要左の答辭を為せり

予等何等見るべき功績なきに今日此榮譽を負ふ予等の面目何者か之に加へん事茲に至れる所以のものは全く以て閣下並びに各位の御取成に由るものにして感謝の辭なし一同に代わり謹んで御礼を申す

△褒状文 左の如し

青森縣青森市大字造道字浪打

相馬 駿

資性温厚篤実夙に地方の開拓に志し拮据經營すること多年遂に漁業部落に通称相馬町を建設するに至れり郷党咸其徳を頌す洵に奇特とす依つて為其賞木杯一組下賜候事

年月日

知事官氏名

青森縣西津輕郡車力村

鳴海 廉之助

資性篤実勤儉産を興し率先範を垂れ馬匹の改良蕃殖を図り其成績顯著なるものあり又地方公共の事に尽瘁すること多年老来益々精励して倦まず洵に奇特とす依つて為其賞木杯一組下賜候事

年月日

知事官氏名

青森縣東津輕郡油川村

勲八等 西田 林八郎

資性闊達にして俠氣あり夙に力を郷閭の改良に致し屢々食品を贈りて貧民を救恤し又各種の公職に膺ること多年地方の公益に貢献する所尠なからず洵に奇特とす為其賞木杯一組下賜候事

年月日

知事官氏名

青森縣下北郡田名部町

佐々木 弘 造

資性篤実巨費を投じて原野を開墾する事数百町苦心經營十餘年遂に部落を建設し又曾て戸長村長として自治及び教育の發達に貢献せる處尠なからず洵に奇特とす依つて依為其賞木杯一組下賜候事

年月日

知事官氏名

●小学校教育功績状

青森県三戸郡八戸高等小学校長訓導兼校長

稲葉萬藏

多年小学校の教育に従事し精励其職に尽くし教導感化の功観るべきものあり仍て明治三十八年文部省令第十一號小学校教育功績状規程第一条に依り功績顕著なるものと認め茲に之を選奨す

大正四年二月十一日

文部大臣従三位勲二等岡田良平

青森縣三戸郡八戸高等小学校訓導兼校長

稲葉萬藏

多年小学校の教育に従事し功績顕著なるに由り其賞として金百五十圓を給与す

年月日

知事官氏名

●鐵道漁夫輸送

▽申込五千四百名

青函連絡船に依る北海道漁夫輸送は去る九日酒田より中央小樽へ五十名を初めとし十一日狩川より岩内まで五十名にて合計百名に達せしが今後は來る十五日より三月二日まで十五日間の申込岩内又は余市行五千九十三名に及びあり尚ほ三月四五兩日余市行百八十五名の申込あるを以て総合計五千三百七十八名に達する次第なり詳細左の如し・・・省略

●出稼漁夫輸送船 本年は物価大暴騰の影響にて北海道漁場に漁夫及び仕込物は著しく減少せるため輸送船舶の如き至って少数の由なるが桂井磯谷両店にて決定せる輸送船は左の如し

樺太丸二月に拾參日美国幌武意行△小樽丸二月二十三日濱益行△伊吹丸二月二十七日利尻禮文行△伊勢丸二月二十八日禮文行△小樽丸三月六日増毛利尻禮文行△伊吹丸三月六日利尻行△伊勢丸三月八日禮文利尻行△宗谷丸三月七日利尻禮文行△甲辰丸三月十一日利尻禮文行△神勢丸三月十五日苫前羽幌行△甲辰丸三月二十二日樺太西海岸行以上桂井回漕店△甲辰丸二月二十八日利尻禮文行磯野回漕店

大正七年二月十四日

●鮫海岸の漁況

▽小鮫目抜鯛豊漁

三戸郡湊鮫方面の漁場は近來相当の活況を呈し居れるが種類としては小鮫類最も漁獲あり之に次いで目抜鯛も少なからず陸揚げされつゝあるが之等の魚類は主として鮫南方の沖合十四五哩に於て漁獲され値段も兩三年前より著しく騰がり殊に旧年末より昨今にかけ一層高値に取引され居れり其他本年は白魚の漁獲意外に多く遠く浅虫青森乃至盛岡東京にまで移送され居る模様なれば同地方の經濟状態は相当に緩和され居る由なり北寄も豊漁とまでは行かざるも日々

捕獲され居れど其幾部は鱈鯨類の餌として使用さるゝため市場に出づるもの少なく従って廉価ならずと云ふ又小鮫類の如きも石油発動汽船を使用せざれば漁獲不可能なる由にて発動機船以下の漁船は全く時代後れとなり競争場裡に立つ事能はずと云ふ

●湊船大工組合創立

組合三戸郡湊地方船大工組合は過般組織され其創立總會は去る十一日午後二時より小中野浦町音喜多亭に於て開催され出席者六十余名にして加藤組合長議長席に就き開會の挨拶あり組合規約の協定役員の推薦ありて總會を了へ直ちに懇親會を催し盛會を見て午後六時散會せり

△役員（組合長）加藤末吉（副組合長）榎谷浅次郎、島脇芳太（理事）尾崎勘之助、関川末吉、清水三之助、笹本長吉（幹事）中村豊次郎、清水庄五郎、清水初五郎、島脇精造、島脇萬吉

大正七年二月十五日

●漁業低利資金 大正七年度に於て漁業組合低利資金の供給を受けんとする組合にありては資金の用途及び其金額等を記載し來る三月十日迄に縣廳宛回報を要する旨昨日内務部長より夫々照会せられたり因に農工銀行に於て貸付決定の上は組合員中より個人保証を要求すと

●水産大会出席 帝國水産連合会第三回大会は來る十八日より二十一日迄四日間赤坂三會堂に於て開催せらるゝことは既報の如くなるが本縣水産代表者として松森豊氏本日上京の筈尚中村技師は主務省へ打合せ旁々同會へ出席すべく來る十七日頃出京の筈

大正七年二月十六日

●聯合水産大會

▽本縣提出問題

來る十八日より四日間開催さるべき帝國聯合水産會第三回全國大會に本縣水産會代表者の出席せるは既報の如くなるが本縣より提出問題の如左

一、輸出重要水産物販路調査の為調査員派遣方を其筋に建議する件

我国に於ける欧米輸出品は勿論支那輸出品と雖も其販路を拡張せんとせば自ら進んで需要の状況嗜好の變化売買の慣習等を實地に調査し其適否を研究し改善の方法及び改善せざるべからざる所以を知悉すべく如斯にして初めて當業者を指導啓発して効果有るべし然るに現今各地方の實況を考ふるに殆ど甲唱ふれば乙和すると云ふが如きのみにて深く実査して研究したるものにあらざるなり是れ一つに改善指導の實を得る能はざる處なり故に重要輸出品生産地に於ける直接指導者及び當業者を海外に派遣し實地研究せしむるの方法を講せられんことを其筋に建議せんとす

二、地方産業に関する技術官及び職員に對し官吏恩給法又は遺族扶助法に準ずるの法を制定せられんことを其筋に建議するの件

地方産業に従事する待遇官には未だ其種法令の制定なきを以て優秀の者を得難し教育者其他巡查消防手に至る迄之に関し法規の制定せられあるに拘らず産業に従事する者のみに無きは

之に当る者をして安んじて職に当るの保証無きを以て従って殖産工業の発達に支障を来す所
少なきとせず故に之に関し其筋に建議せんとす

三、専売塩特別定価売渡及び交付金規則第一条第一項第六号に鯨其他追加の件

本件は昨年の大會に提出し可決したる事項なるも実行を促さん為再び之を提出す

●西郡鐵道採択

鱒ヶ沢町會より請願したる陸奥鐵道の終点五所川原町より木造、鱒ヶ沢、深浦を経て秋田県
能代に至る鐵道敷設の件衆議院請願委員会に於て採択に相成りたる旨工藤代議士より同町に通
報ありたる由

●表彰されたる部落開拓者

◆相馬駿氏の回顧談

今度神武天皇紀元の佳節をトし市内浪打海岸なる漁業部落相馬町の開拓功勞を録して県知事
から表彰された相馬駿氏を雪深き野道を越えて浪の音手に取るばかりなる海辺に建てられた其
自宅に訪ふ、謙讓なる氏は強ひて記者の求むるまゝに語る、回顧すれば自分は明治十七年迄木
造其他警察の方に奉職していたのですが同年警察の方を

◇辞職して青森 へ参りしに津輕藩の奇傑一戸三之助の後裔なる一戸礼藏氏が當時青森戸長役
場に在職して居ってナーニ心配する事は無いからと云ふので自分を役場の筆生に推挙して呉れ
た當時の戸長は樋口光氏で自分は国税徴収係となった然るに或年の暮蜆貝町へ地租納税期の戒
告に行くと廳で正月も近付いたので年越しの支度をするやら炉辺の薄縁を新しいのに取替える
やら孰れも楽しげに新年を待つて居るのに一軒隣の田名部某宅に至りしに見る影も無い荒屋に
親子相擁して正月どころで無く今夜の食物も無いとて悲嘆に呉れていた

◇貧民賑恤 扱々世の中であると考えて樋口戸長へ報告すると樋口氏も成程そう云ふ家もある
か嘸難儀な事であらうと痛く同情せられ如何にかならぬものかとの事であったから自分は出来
る事か出来ぬ事か分からぬけれども一応此慘状を市内の重立に訴へ賑恤の方法を講じてみませ
うという事になって當時の重立有志及び寺院等を訪ね事情を述べると孰れもそれは気の毒な町
民もあるものであるとて忽ち米二十俵内外に醬油味噌も沢山集まったので之を貧民に分配した
事がありました

◇日銭納税組合 當時自分は安方町に住居したが漁業者と云ふものは至って腹のさっぱりした
もので気前はよく金銭は荒遣ひであるから税金の滞納が多い、漁業者ばかりでなく一般に當時
は滞納の多かつたもので或日樋口戸長の申すに何とかして納税の成績良好ならしめる方法はあ
るまいか私（樋口氏）は會津であるが會津の小作料は金納であるが少しも滞納がない夫れは毎
日毎日心がけて少しずつ積金するからである青森でも其の通り出来ぬ訳はあるまいとて自分
（相馬氏）に之を命令したから茲に初めて日銭集めの納税組合を組織し十戸毎に一人の責任者
を定め実行した所意外に成績宜しく國縣税及び町税を納付して余剰あれば年越年月の費用とし
て之を本人に返すので町民も大いに喜び當時の縣令福嶋九成氏も感服された

◇部落建設に志す 然るに其頃安方町と蜆貝町の両漁業部落は毎々反目勝ちである加之家政常
に逼迫を告げて動もすれば独立の生活を営み難い状態となる茲に於て一つ人数を限って新たな

る漁業部落を建設してみたいと志し下堤町柳谷龜太郎に話すと夫れが出来る事なら下堤町全部引移っても宜しいとの意気込みを示したから明治二十五年四十三戸連署して縣廳及び大林区署を経て其の筋へ開拓願を出した

◇開拓の恩人 當時の知事は佐和正氏、大林区署長は高橋琢也氏であつたが両氏とも自分に同情して呉れた事何れだけであるか話の出来ぬ程である佐和正氏はお前の事業は至極立派であるが保証人を付することが出来るかとの事であつたから故長谷川茂吉、故上田幸兵衛及び淡谷清藏三氏にお願ひして保証人になって貰ひ出願したら許可になり翌二十六年五六戸移転し二十七年迄に全部四十三戸引移りを終つた次第である家屋建築用材は高橋署長の好意でヒノキのスグリ木と称するものを二間一本十錢で払下げを受け其の金は長谷川氏が支払つて呉れたのでした
◇現在の相馬町 自分は漁業法実施と共に安方町より選ばれて評議員となり後青森漁業組合長として先年迄微力を致し又新部落の総代として去る四十三年頃迄子女教育にも尽くす所あり星霜茲に二十五年今度部落民の一致皆さんのお陰で表彰される事に相成りました開拓當時は歟下年期経過と共に間口十間奥行十間ずつ払下げとなつたが間口五間奥行十間を各自の所有とし残地を片寄せて共有地としました公園に近い方が夫れです現在五十三戸に達しましたから人口は三百人近いだろうと思ひます云々

大正七年二月十八日

●大坂家農會慰安會

青森市の大地主大坂金助氏家農會第四回總會兼小作人慰安會は既報の如く昨日午前十時より塩町歌舞伎座に於て開催せり小作人及び家族無慮一千二百老若男女早朝より押すな押すなの大盛況にて來賓としては阿部市長を初め大脇農林課長、村松東郡第一課長、徳差筒井村長外關係村長等数十名にて嚴父に代わりて息金四郎氏開會の挨拶を述べ大脇農林課長は地主と小作人が斯くの如く一家団欒的に會合し慰安會を開かるゝは将来に於て協力農事の改良に資する事甚大なるべしと説き徳差筒井村長は祝辞朗読せり

農事閑散の時期をトし茲に小作人慰安會を開催せらるゝに當たり親しく此席に列するを得たるは小職の最も光榮とする處なり抑我國に於ける農業の緊要なるは今更喋々を俟たざる處たるも之をして益々改良せしめ其の向上を図らんとするの道未だ充分なりと云ふを得ず茲に於てか今般之が發展を促さんとして本會を開かれ一方に於ては小作人をして日頃の労苦を慰藉し他方に於ては地主と小作人との一致融和を期せんとす其の意図の凡ならざる其の用意の周密なる當に範を斯界に垂れたりと云ふべし今や世界の亂は愈々農事の忽にすべからざるを教ふ願わくは協心同力以て其の目的を貫徹せられんことを聊か拙見を連ねて祝辞と為す

次に阿部市長は日本は列國と異なり農本國なりとて農家の發奮を促し之にて式を閉じ余興に移り大村一座の演劇あり正午には折詰、赤飯等を配られ午後三時過ぎ盛會裡に退散せるが當日農事功勞者四名に對し特に賞品として醬油一樽宛を授与せり又一般來會者には手拭二本宛贈れり

松森町小笠原安太郎△筒井村濱田今幸次郎△古茶屋町小野與七△後瀧村六枚橋赤平松助

因に同農會第一回總會以来功勞を表彰せられたるもの前期の外三十二名なりと

●陸奥灣の航海

△汽船の雇入

陸奥灣汽船株式會社にては東北丸の擱座以来陸奥灣丸と南部丸の二隻にて定期航海を継続し極力同航海の不便ならざらん事を期しつゝある由なるが東北丸は既報の如く曩に函館海事部に於て一萬五千五百円にて一切を引受け離州、修繕等に着手し試運転を行ひたる上にて會社の手引き渡すは來る四月十五日なりとのことなるが然るに南部丸は來る三月十五日より定時検閲を行なはざるべからず引続き陸奥灣丸も釜掃除に着手する事になり居るより約一カ月間は同會社の汽船は一隻より使用し能はざる事情あり現在の二隻にても容易ならざるに若しも更に其の一隻を欠くに於ては到底現在の定期航海を継続する事能はざる事情に立ち至るより會社にても豫ねて善後策を講究しつゝあり初めは余儀なき事情なれば其間野辺地航海を休止するの外なからんかとの議もありたれども全く同航海を休止する事同方面の苦痛とする處なるを慮り種々手を尽くし方法を講ぜるも時節柄の事とて容易に適當なる汽船を雇入れる事能はざりし處今回漸く小樽より新開丸（百七十噸）を來る三月十五日より向ふ一カ月間雇入れる契約なりたりとの事にて之が為に同會社にては数千円の犠牲を払らひ以て従來の通り航海を継続せしむる由

●漁夫輸送申込

◆七千九百七十名

青函連絡船甲便により輸送しつゝある北海道行出稼漁夫は昨十七日迄に四百九十名に達し今十八日は二百八十六名の輸送あるべき見込みにして明十九日より來月六日迄は每晚四百名乃至五百名ずつの申込あり満船となるを以て七日以降にあらざれば輸送申込を引受くる能はざる状況となりしが昨日迄に申込を受けたる内訳は十七日迄に輸送済四百九十人十八日より二十八日迄四千八百四十七人三月一日より六日迄二千五百六十八人にて合計七千九百七十人に達する次第なりと

◆手荷物先送せよ 漁夫団体の手荷物にして一車積となるものは可成先送手続き為さるべく斯くせば青森駅中継作業上至大の便利あり事故發生を防止する上より相互の好都合なればなりと

◆青森発時刻変更 漁夫輸送の甲便青森発時刻は毎夜十一時半なれども斯くては函館継送時間繰合わせの上に不便少なからざるを以て一昨日青函両当局者協議の結果一時間繰上午後十時半に変更し昨晚より直ちに実行したり

●漁夫輸送船決定 前報後磯野回漕店扱いの汽船にて北海道及び樺太に於ける漁夫輸送すべき船舶は如左

敦賀丸二月二十五日 美国積丹行 △神勢丸二月二十五日 厚田行 △宗谷丸二月二十七日 禮文行 △樺太丸三月十七日 樺太西海岸行 △甲辰丸三月二十日 トマリツボ行 △甲辰丸二月二十八日 利尻禮文行

大正七年二月二十一日

東郡水産組合 同組合は昨年八月創立發會式を挙げたるが來る四月より愈々事業実施する事

となりしを以て目下準備中なるが三月中旬代議員會を開く豫定にて各村毎に選挙を行ひし處左の如く當選せり

(瀧口) 相馬甚之助、(蟹田) 木戸市之助、(油川) 伊藤力藏、(蓬田) 坂本孝太郎、(東平内) 船橋松次郎、(中平内) 辻村儀助、(三厩) 大宮長太郎、(野内) 川村茂資、(原別) 小笠原倉之助、(今別) 小鹿多七、(造道) 伊山英三、(後潟) 山口甚十郎△平館、一本木、西平内報告未着

大正七年二月二十四日

●漁夫と鮮人夫

▽団体輸送申込

昨日迄に団体輸送せる漁夫員数は三千百四十九名に達せしが二十四日より二十八日迄分二千四百七十二名来月一日より十日迄分四千四百二十八名十一日以降一千四十六名の輸送方申込あるを以て以上

◆総計一萬一千九十五名に達する次第なり尚ほ右の外三井物産會社より北海道へ輸送すべき朝鮮人夫は来る二十七日青森發三便にて百名乗船するを手始めに三月二日三十便にて四百五十名其の以降は甲便又は丙便にて四百七十名九日十二日に各百名づつ十六日八十名以上合計六百名は各當日奥羽線午前五時四十分青森着の上夫々連絡する筈

大正七年二月二十五日

●東郡宇鐵より

□漁業組合祝宴 昨春宇鐵漁業組合にては鮑潜水機事業にて多額の収益を挙げたるが今回重立の帰村を機とし十五日午後二時より宇鐵小学校にて盛んなる祝宴を張れり理事大宮長太郎氏の開會及び決算報告牧野貞吉氏の所感及び希望矢作校長の謝辞等あり昨今蟹田に開催せられし東郡物産品評會にて賞せられし賞杯の披露もあり余興に移り點火後散會したり因に來賓は白取助役鳴海醫師矢作校長澤山訓導なりし

□青年団親睦會 十二日釜野澤分團にては役員の改選をなしたるが同夜分團事務所に於て矢作校長澤山訓導田中才作氏を招待し懇親會並びに講演會を開催したるが盛會なりき

大正七年二月二十六日

●下北郡より

◆川内町蠣埼

▲舊正 二月十一日は舊正元旦に相当し老いたるは宮に寺に神仏を参拝し若きは學校其他に友を尋ね皆ニコニコ顔なるが本年は物価騰貴の為か將亦各自覺醒せし為か泥酔放歌する者等皆無なりしは喜ばし舊正二三の両日は當部落年中行事の大集会あり同四日より薪材樵出しの為一般繁忙中なり

▲本年度鱈漁収入 去る一月四日初投縄以来一月三十日に至る二十七日間の内時化の為約二週

間の出漁を見たるのみなるが四人乗漁船十三艘にて総水揚高一萬四千四百五十本（此価格三千四百三十六圓餘）にして例年に比し著しく減収し中には収支償はさるものも数艘ありと

◆脇野沢村小澤

▲小澤青年団 第一期は昨年十一月十七日発会式を挙げ爾来三十日間開催せしが鱈漁の為中止の處此の頃鱈漁も漁済となりたれば十一日の紀元節をトし午後より小澤小学校に於て開会式を挙ぐ恰も當日は舊正月にも拘らず團員は全部集会式後は講話會に移り川島校長大間教員の演説を初め團員各自の演説談話其他傍聴者山本同團長等の演説あり盛会なりき解散せしは午後六時頃翌日より引き続き夜学開會目下正團員のみにて三十名以上其他幹部の人々を加ふる時は四十名以上にて盛会なり昨年よりは成績良好なり之れ兩講師の熱誠に依る科目は修身、国語、算術にして受持科目は修身、讀本、筆算は川島教員、作文、珠算は大間教員なり第一期の夜学開會中には隣村蠣崎補習學校生徒には校長引率六七名見学に来たり互いに互いに知識交換せりと云ふ去れば當団は近く実業補習學校に変更せらるべしとの説あり

▲漁事 當村の鱈漁は昨年に比し余程の減収にて最も多きものにて七八百本位なれば不漁と云ふて然るべし赤皿貝は此の頃三年間禁止して舊正月前に採取したるに意外に蕃殖し居り僅か三四日間にて一戸平均十五圓以上の漁獲あり全村にて一千圓の収穫を挙げたれば村民大いに喜び居れり

▲厄年祝 目下舊正に際し四十二に当たりたる人々は其の祝いの為却々の賑ひなり

大正七年二月二十七日

●水産大會模様

△中村技師談

全国水産大會に出席し一昨日帰庁せる中村水産技師の談に曰く今回の大會は例年と其趣を異にし頗る活気あり而して又効果の顯著なるものありしと其第一は衆議院議員中の水産關係者を以て

▽水産同志俱樂部 を設立し之等の人々中心となりて賛成者を募り二百三十名の衆議院議員を網羅し水産會の本會及び委員会に毎日繰り合わせて出席し意見を述べ或は問題を講究せしことなるが此団体が若し従來の水産俱樂部と提携して斯業の發展に努るに至らば其勢力は偉大にして実績を挙ぐる上に於て頗る都合なるべし故に兩俱樂部は明年の會期を一月十四五日に決定し議會前に一定方針を定むるやう希望し居れり

▽本縣の提出問題 は全部可決されたるが就中海外水産關係事業取り調べの為海外に視察員を派遣する事項の如きは非常に歓迎され忽ちにして議決し了せり付議せる条件の内重大なる問題尠なからさりしが其の内漁業税を国税とする事を貴衆兩院に建議の件漁港修築の件水産會法を制定の件漁政監察官制設の件等種々あるが本縣提出恩給法令制定の件は論議多種に分かれ結局同志俱樂部員より議會に於て質問する事と決定せり

▽実行委員選挙 本會議に於て可決なりたる事項を夫々決議の成りに従って取り運ぶ実行委員を九州、四国、中国、関東、東北、日本海方面、北海道の七方面より各一名を選定せるが松森

豊君東北を代表する事になりたれば滞在して夫々内閣及び貴衆両院に取り運ぶ事となりたるを以て今暫く在京するならん

大正七年三月三日

●田中元知事逝

元本縣知事田中武雄氏は其の後大正五年十二月小倉市長に挙げられ在職中縁戚に不幸ありて去る十七日上京し夫人の実家に滞留中豫ねて患ひ居たる心臓病病勢進み東京病院に入院治療せしも二十七日午後三時半逝去せり享年四十八、危篤の旨天聴に達するや特旨を以て位一級を進められ従四位に叙せらる

●鮫沖の難破船

▽死体は未発見

三戸郡鮫村大字濱通字下松内場八番地島脇末吉(二四)同字濱通七十三番戸白川長造(二九)は去る二十二日午前四時鱒漁の為鮫沖合十里内外に出漁中午前十一時頃に至り俄かに西南の暴風雪を食ひ船体共に転覆し行衛不明となりたり翌二十三日同村石戸松太郎は石油発動汽船にて同沖合を通過し船体は発見したるも死体は発見するに至らざりしと島脇末吉は丈五尺四寸顔長く色黒くして頭髮五分着衣はメリヤス襦袢及びネール黒豎の縞襦袢同様股引同様綿入刺子木綿今袷を着し白川長造は丈五尺五寸前頭部に約二寸の傷痕及び左腕に義勇奉公の入墨あり衣類は末吉と略同様なるも黒羅紗外套裏赤毛布にて赤犬毛皮一枚を着し居れり

大正七年三月六日

●岩木川稚魚放流 本縣水産試験場にては來る十日頃より鮭の稚魚を放流する筈にて既に準備に着手せるが今回放流するものは昨年十一月上北郡相坂孵化場に於て採卵孵化せるものにて其の數三十萬の由なり従來之等の放流稚魚を下流に於て捕獲するものありしが斯くては後日成魚の捕獲成績に非常の悪影響を來たすを以て沿岸村落は斯くの如き事なきやうお互いに注意せられたしと中村場長は語り居れり

●陸奥灣航海船

既報の如く陸奥汽船會社の東北丸は遭難の為目下修繕中にして南部丸も亦釜掃除並びに定時検閲の為一昨日函館に向ひし為豫ねて之が補充船雇入契約中の處愈々去る二日を以て汽船新開丸百七十噸小樽より回航し一昨日より航海を開始したりと

大正七年三月七日

●漁獲法競技

優勝旗授与

縣水産課主催にて

沖合漁業奨励の目的を以て鰹釣漁業柔魚釣漁業鱸延縄漁業者に對し其の漁獲方法を競技せしめ優秀なるものに優勝旗並びに賞金を交付する事となり左の期間に於て競技せしめたるは既報

の如し

△鯉釣漁業自八月十五日至十月三十一日

△柔魚釣漁業自八月十五日至十月三十一日

△鱸延縄漁業自十月一日至十二月三十一日

調査の方法は漁業組合に於て豫ねて漁船の所有者並びに乗組員数を調査し置き調査員を設けて毎日の漁獲数量と価格を調査せるが其の成績如左

△柔魚釣漁業競技者四十四名内十四萬五千八百尾一千四百五十八圓東通大槻文之丞△十四萬五千尾一千四百五十圓全角本伊太郎△十四萬四千尾千四百四十圓全三国寅吉△十二萬一千百七十五尾一千六百八十七圓六十八錢大畑村古川宇之松△十一萬二千二百三十尾一千四百四十圓全黒崎清吉

△鱸延縄漁業競技者三十三名内百五十七尾一千二百二十七圓鮫村小西源三郎△三十五尾八百三十六圓四十六錢全宮崎助五郎△四十九尾七百三十九圓五十錢全松橋芳松△十六尾百九十圓七十錢鱒ヶ沢安田仁三郎△十四尾百五十八圓五十錢全安田三郎

△鯉釣漁業競技者六名内一萬五千六百十三尾五千二十五圓鮫村松橋芳松△一萬五千二十五尾四千八百五十圓全宮崎助五郎△九千六百尾二千七百圓全小西源三郎

右の如き成績を示したるが縣水産課に於て彼此比較審査の上優勝漁業者を左の如く定めたり

△鯉釣漁業鮫村松橋芳松△柔魚釣漁業東通村大槻文之丞△鱸延縄漁業鮫村小西源三郎

右三名に對し今回優勝旗及び金十五圓宛授与する事となり不日發送せらるべし

大正七年三月八日

●鱒ヶ沢の初鯨

去る三日鱒ヶ沢町に於て大字七ツ石町三上永助は三十尾、同町長谷川仁太郎二十尾、同町松野惣吉十五尾の鯨初漁あり同町小杉商店にて一尾十五錢に買取たる由本年は大漁の見込みにて漁業者一同の人気一方ならずと

大正七年三月十五日

●本年の鯨は不揃

△海水温度低し

高嶋水産試験場にては沿岸及び沖合の水温試験を施行し居れるが最近数日の沿海水温は八日摂氏三度八分九日四度七分十日四度五分十一日五度にて上旬十日間を平均すれば三度七分となり昨年三月中の平均温度に比し一度二分低し沖合試験は探海丸及び親潮丸を以て美国増毛沖にて施行し居れるも未だ平均温度を得ざるが本年は概して沖合沿海共低温の年も相当に鯨群來の例あれば水温低きものゝ如きも五年度の如き低温必ずしも悲観するに足らず尚水産調査船の調査に依れば本年度の鯨は非常に不揃いなるも大別すれば大小二種に區別し得べしと

●漁夫輸送割引

樺太建網漁業水産組合連合会は組合建網業者に對し樺太漁夫輸送の場合は従来は鉄道院より

普通団体としての割引を得たりたるも昨年四月実施の庁令工場取締規則により建網業者も漁夫十五名以上を使用し魚粕を製造するものは工場と見做され従って漁夫も職員の資格を有するものなるを以て本年よりは職員団体としての割引を受くる事有利なれば注意あるべき旨通牒を發したり

●中島久吉氏金婚式

東郡今別村郡會議員中島久吉氏が同村梅田こと子と良縁を結びてより五十年に相当するを以て去る七、八、九の三日間親族官公署員議員知己百五十余名を自宅に招待して金婚式披露の盛宴を張れり室内に相当の装飾を施し高砂を安置し一同着席するに北山神職神前儀式あり終りて中島氏立ちて

本日は雪路にも拘はらず多数の御来会を得且つ過分の御祝詞を賜り感謝の至り小家四十有余年間微力を以て漸く今日の家業を挙げたるも一に是各位の御厚誼御指導の然らしむる處此より金婚式を挙行するに当たり粗酒粗肴を献じ併せて記念品を贈呈す各位十二分の興を尽されんことを云々

の挨拶あり夫より来賓木村登記官中島郵便局長小笠原校長角田区长佐藤久次郎氏の祝詞演説あり配膳と共に盃扇子を配賦し親族知己子孫の祝電祝歌等多数の朗読披露ありて献酬織るが如く酒三行にして浪花節手踊謡曲茶番吟聲等各自の隠芸を演じ拍手喝采暫く止まざりし夫より中島家の萬歳を三唱し各自十二分の興を尽くして散會せり實に同村未曾有の盛会なりし當日の重なる来賓及び祝詞如左

来賓木村登記官、中島郵便局長、佐藤森林主事、上原農業技手、小笠原今別校長、石澤三厩校長、堀谷村長代理、半田助役、角田、下山両区长、郡會議員、村會議員外数十名

因に中島氏には目下郡會議員村會議員消防組頭寺總代等の公職にあり村會議員の勤続四十年當年六十八歳にして子孫五十一人あり夫婦共豐饒壯者を凌ぐ家慶稀なりと謂ふべし

以下略。

大正七年三月十六日

●試験場所船

安否全く不明

本縣水産試験場大畑分場所属川崎船を深浦分場専務と為す事となり去る九日深浦主任松田技手船夫数名と共に乗船午前出発西郡深浦に向かつて進航せるが其の後の消息杳として知れずと云ふ出発の日より数ふる時は二三日の時化を食っても既に到着し居らざるべからざるに昨日までの處何等の報告なき為試験場に於ては海岸要所要所に問い合わせの電報を發する等安否を知るに苦心し居れるが何分九日の天候は夜に至って急変し支那大陸より起こり千島方面に進行せる低気圧の中心となりたる模様なれば幸いに三厩辺に避難せば安全なるも然らざれば船の運命如何とも凶り難しと云ふ昨日の處何等海上に異状を認めた報告に接せされば多分打電不可能の地に避難し居るものならんと想像され居れり

大正七年三月十七日

東郡海産検査

▽四月一日より実施

東郡にては昨夏郡水産組合を創設し爾来事業開始の準備中なりし處過般郡衙楼上に組合会を開きて収支予算製品検査施行細則其他諸般の決議を遂げ愈々四月一日より実行することとなり近く検査員の任命を見るべし因に組合評議員には三厩大宮長太郎一本木田中金兵衛蟹田木戸市之助中平内辻村儀助の諸氏当選したりと

種別	数量	手数料
魚粕	百石に付	五圓
干鮑	一梱に付	三十五錢
鯛	全右	五錢
海參	全右	二十五錢
貝柱	全右	二十五錢
田作	十貫に付	三錢
昆布其他海藻	百石に付	五圓
魚油	一缶に付	一錢

●試験場船無事 本縣水産試験場所屬川崎船に松田技手は漁夫七名を率い大畑より深浦に向け回漕中行衛不明となり試験場にて搜索中なりしは昨報の如くなるが該川崎船は龍飛崎辺を航行中九日夜猛烈なる低氣圧に襲はれしも此辺には避難すべき場所なきを以て運を天に任せ險を冒して深夜漸く小泊港に竄入せるが爾来時化続きにて出航出来難きに依り今尚同港に停泊し居れる旨一昨夜和田技手より報告ありしを以て試験場にては探索を停止せり

大正七年三月十八日

●隼丸の手柄

▽発動機船二隻救助

坂部青警署長は一昨日午前隼丸に搭乘して東郡奥内、蟹田の各駐在所を巡視し午後一時半蟹田より帰航の途に就けるが其途中後瀉を距つる約五海里沖合に於て石油発動機船波浪の中に遙かに救助を呼び居れる浮沈しつゝを以てそれと見るより直ちに針路を転じ近づいて様子を見るに此船は東郡三厩村工藤兼吉所有石油発動機船幸運丸（二十馬力十二噸）にして龍飛より木炭を満載し青森に向ふ途中

△機関に故障 を生じ進退の自由を失し波浪の間に漂い居れるなりと依つて隼丸は綱を投じて救曳し二時半元の針路に復し進航中三時半油川沖合に達せるに約四海里沖合にまたもや救助信号を掲げるあるを認めたるに依つて更に針路を転じ接近せるに此船は東郡釜野澤柳谷倉吉所有の発動機船扇海丸（十六馬力十二噸）にして一昨日青森より繩を満載して三厩に向かう途中機械に故障を生じ進退の度を失し昨夜來乗組員一同

△修理に着手 せるも其効なく且折柄天候次第に險悪となりたれば愈々狼狽しつゝある際隼丸

を発見救助を求めたるなりと云ふ故に投網して幸運丸と共に曳き午後四時半無事沖館堀内回漕店係留所に救助係留せり

大正七年三月十九日

●鯉粕の高値

▽湾内の準備

百石三千圓内外の高値なるより湾内大湊、宇田、奥内、中野等昨年の大羽鯉に味をしめたる依り漁網の準備に忙しく漁期を待ちあり豊漁ともならんは価格の低下を来すは当然なるべきもそれにてても百石二千圓は下らさるべしとて人気一方ならずと

大正七年三月二十日

●初鯉の景気 十七日早朝北海道余市近海の前浜や蠟燭岩付近の猪田小黑岡田各漁場其他の建網で豫ねて大漁を予言されて居た今年の雪走初鯉が早くも約五十箱漁獲されたので沿岸一帯頓に活気を呈し人気湧くが如しであるが折柄暴風波浪の為一時揚網したるも此時化後は引続き雪走り鯉の大漁を見らるゝ事で到る所鯉の声に景気を煽っている是にて今度の初鯉は魚體も肥大で十分に成長し長さは一尺二三寸是が蜜柑箱や石油箱に詰められて一箱五圓から五圓五十錢で飛ぶが如く余市駅から悉く発送されている

●大湊野辺地間の時間変更 陸奥汽船会社の湾内定期航海は去る十六日より改正されしが大湊野辺地間は郵便物搭載の都合に因りて一昨日より更に変更の余儀なきに至り別項広告の如く野辺地発を午後二時とせり

●炭酸瓦斯中毒で

◆漁夫の窒息

東郡三厩村大字宇鐵字釜野澤十二番地倉吉次男漁業柳谷與三郎（三二）は漁夫五名と共に石油発動機船扇海丸に乗組去る十七日青森より三厩に向け帰港の途中俄かに起こる強風激浪の為め機關に故障を来し航行不能となり運を天に任せて平館沖合に浮標する事二時間余にして漸く風浪静穏となりしも進退自由を欠き居るを以て通行船の来るを頼みに一夜を海上に明かせるかその内前期與三郎は船底の一室に火鉢を置き戸口を堅く密閉し夜十一時頃就寝せり然るに翌朝に至るも起き出つる模様なきより不審を抱き漁夫の一人戸を排してみれば炭酸瓦斯の中毒に罹り窒息し居たる為大騒ぎを為し種々介抱したれとも遂に蘇生するに至らざりし斯くする内に通行の発動機に救ひを求め曳かれて三厩に帰港し死体は父倉吉に引渡したり

大正七年三月二十一日

●東郡久栗坂便り

△証書授与式 來る二十一日野内、二十二日久栗坂、二十三日浅虫の各小学校に於て卒業修業証書授与式を挙行す

△漁夫出帆 北海道漁夫は大部分過日の伊吹丸及び小樽丸にて出帆せしが残余の樺太西海岸丸

メ赤坂漁場行漁夫は二十四日樺太丸にて當地出帆の筈天塩國沿岸鬼鹿苦前地方出稼ぎの漁夫は鐵道院にて來る二十三、四日頃迄に全部渡航す

●北海客の輻輳

◆安方界限の雜踏

昨今北海道へ往復する旅客は頓に増加し毎日當地の連絡波止場は船便毎に大混雜を來しつゝあり昨日の如きは午前七時十五分青森發の比羅夫丸の定員四百三十六名なるに

◆八百余名の船客 押しかけ來たり到底載せ切れべくもあらず漸く五百名ばかりを乗せたれども是が為漁夫やら移住民やら三百余名の乗り遅れを生じたるより是等の船客は連絡待合所、移住民事務所及び安方町の小店内に三々五々屯して夜航船の時刻の至るを待ったが折柄風寒く曇交じりの雨雪で老幼婦女連は孰れも小さく縮こまっていた然るに午後十二時十六分東北線着列車で富山県生地駅發

◆根室行の昆布取 五百八十名と云ふ大団体が下車したので安方界限は宛ら煮え返るばかりの大混雜大雜踏を來したが更に佐久や中朝鮮人夫百名及び朝鮮から第七師團への帰還兵八十名の団体も來青する筈であつたが午後五時青森發の田村丸は時化の為定時出帆する能わず青森室蘭間は遂に欠航に決したので是等の報を得た船客は刻々不安に襲われつゝあつた、豫定によれば昨夜は第三便田村丸及び甲便萬成源丸の他別に臨時便として弘濟丸を繰出し是等の大人数を函館へ輸送する筈であつた因に近頃、

◆青森通過移住民 は十五日五百十二名、十六日五百五十四名、十七日六百六名、十八日四百八十名、十九日約六百名

大正七年三月二十三日

●汽船の行衛不明 リエル兄弟商会所有汽船セーウエル號總噸數三百五十噸は箱入並びに袋入塩鱒二千有余石（積み荷に対しては東洋海上保險株式會社に保險付しあり）を積載して函館に向け浦塩拔錨以來未だに消息なく函館出張所に於ては露國領事を介し各官庁に向け搜索を依頼し尚ほ直接各灯台に向け本線通過の有無を照会せしも何れも通過を認めずとの返電に接し浦塩に於ては亦極力搜索せしも只一回沿海州パワロテナヤ灯台より二十一日午後五時同灯台下を通過して函館に向けたる消息あるのみ他は何れも雲を掴むの慨あり只々一縷の望みを属したるは航海中流水に困まれ脱出の機なく流水と共に洋上に漂泊せしにあらざるやと考へ浦塩に向け搜索の為碎氷船の派遣を要求せしにより浦塩より碎氷船派遣せしも得る處なく帰港せし旨入電ありたり今は唯何者か本船船具にても漂着物を取得するは本船の亡き乗組員並びに遺族に対する最善の義務と思考し同商会に於ては本州北海道並びに樺太朝鮮に於ける日本海沿岸に臨む各府県著名の新聞に廣告して拾得物に謝禮を付し通知を慫慂せりと

●第三北丸の座礁 去る二十日午前二時北海道室蘭札幌通り三百九十八番地三菱合資會社出張所所有帆船第三北丸は風浪の為下北郡東通村大字小田野澤海岸に座礁せるも乗組員は異状なく目下駐在巡查は村民と協力して救護せり

大正七年三月二十四日

●白鷗丸の発動機

本縣水産試験場用船白鷗丸に据付けある石油発動機は曩に遭難せる鶚丸の分なりしを多少の修理を施し使用し来たりしも故障頻発し運行上甚だ危険を感するを以て全場にては豫ねて此が取替方に関し調査中なりしが愈々此を売却し其売上金に二千八百圓の積立金を繰入れ加算し四千四百圓を以て新たに三十馬力の発動機を購入据付けに決し右追加予算等縣參事會の決議を経たりと

●昨夜連絡船の

□乗遅れ六百名

青函連絡船の下り船客は昨今非常の増加となり昨日の如きは每便乗り遅れ数百名づつを出だし最終便迄に六百名に達し是等は何れも當地一泊を余儀なくされしが本日青森発臨時便を運航し輸送の筈

大正七年三月二十五日

●湊傳習部卒業式

▽運転士修了式

縣水産試験場湊傳習部第八回卒業証書授与式並びに丙種運転士講習修了証書授与式は一昨日二十三日午前十時三十分より同所に於て挙行来賓は

尾上郡長、天城前郡長、藤吉実科高女学校長、玉井工業学校長、関湊村長、山田小中野村助役、和田清宣、浪打湊救護所長、福田八戸高小訓導、米川篤松、長谷川籐次郎、吉田第吉、橋本重三郎、神田品三、田中富次郎、長谷春松、岩岡覚三、八戸実業罐工口、其他卒業生父兄、新聞記者等

三十余名中村水産試験場長は島村技手小川書記を随えて来場し中村場長式挙行の旨を宣し卒業生左記十二名に対する卒業証書を夫々授与し運転士講習生に対する修了証書を総代宮崎寅太郎に授与し優等生鎌田子南に賞状賞品を授与し後告辞として卒業後の覚悟に就き名誉を重んずべき事責任を重んずべき事本務を尽くすべき事を説き懇篤なる訓辞を為し来賓尾上郡長の祝辞演説本校生総代島脇重次郎氏の祝辞朗読卒業生総代鎌田子南氏修了生総代宮崎寅太郎氏の答辞卒業生父兄を代表して中野善八郎氏の謝辞ありて午前十一時三十分式を了り暫時休憩后茶話会を催し昼餐及び生徒製作に係る製品の饗あり午後十二時半閉會せり

(卒業生) 鎌田子南、細越庄一郎、今良逸、田名部逸輔、中野信一、尾崎政太郎、長谷川貞三、大倉三次、石橋長吉、澤田岩藏、坂本梅雄、泉山一雄

●鮫漁港期成會

八戸地方にては鮫漁港改修期成會準備委員會を昨日午後八戸八百萬亭にて開き来る三十一日開會發會式に関する協議を為せり

●機関士流連して

◆海安丸の欠航

△船客一同の大こぼし

本市小倉回漕店扱上磯定期海安丸は昨日午前九時出帆の豫定にて各回漕店より夫々扱い客を乗船せしめたるに定刻に至るも出発せず正午に至るも出帆する様子なきに乘客二十余名は騒ぎ出し就中婦人客などは長時間の動揺に堪え切れず眩暈嘔吐するものなどもありしと然るに午後に至り今日は都合により出帆を見合わせたりとて乗客一同を降ろしたるが其都合と云ふは機関士某は旭町の遊廓に流連し居りし為なりしと

●連絡船の継続

◆羅州丸愈々引揚げ

青函連絡船弘済、萬成源、蛟龍丸は來る三月三十一日を以て傭船契約満了となるも大正七年度も引続き傭船するに契約成立したる由尚ほ逋信省所有羅州丸は愈々來る二十八日限り引揚げに決定したり

大正七年三月二十八日

●虹鱒飼育状況

△需要益々増加

本縣水産試験場相坂養魚場にては去る二月上旬以來虹鱒の採卵を開始し数日前迄に十四万五千粒を採取せるが該鱒卵は孵化槽に入れて孵化し希望者に配付の方針にて各郡市に照会せるに申込者頗る多く為に試験場に於ては此が取捨に苦しみ遂に申込の順序に其希望数丈け宛を配付し遅れて申込たる者に対しては謝絶するの止む無きに至れりと

◆他府県は謝絶 水産局にては本縣試験場の虹鱒孵化の成績良好なるを認め各府県に対し本縣より配付を受けて飼養しては如何と注意する處ありし為続々と配付方を交渉し來たれども序上の如き状況にては県内の需要をも充たす事能わざるを以て他府県に対しては実情を述べて謝絶せりと云ふ右様の次第にて縣下の需要も相当あり且又他府県よりの希望もあることなれば将来は一層規範を拡張して此が需要に應ずる必要あるにより本年度よりは岩木川にも養魚池を設けて多数の卵を採取すべしと云ふ

◆母魚の補充 産卵せる魚は自然衰弱して斃るゝもの多き為年々其数を減するを以て本年度に於ては四万粒を母魚補充に振り向け相坂の養魚池を拡張し新たに岩木川にも設置して母魚の養成を為す筈なるが今回採卵孵化せるものは明年には成魚となりて卵を産み蕃殖力は頗る旺盛なる為明年よりは可成多数の希望にも応じ得べしと虹鱒は元來アメリカの魚族にして成長力早く其上強くして病気に罹る事稀なれば至って飼育し易き為米國より欧州各地に輸出され今や世界各国に蕃殖しつつあり

◆本縣に適す 水清くして注排水適度ならば何れの地にも飼育し得れども摂氏二十度より二十五度以下の沼地ならば更に適當にして本縣の如きは至る所可ならざるはなしと云ふ母魚一尾の卵は平均一千粒にして三尾の母魚に対し一尾の雄魚の白子を振りかけ充分なる由なるか採卵は雌魚の腹を絞りにて卵を吐かせ夫れに雄魚の白子を混合して洗面器様のものに入れて攪拌し孵化槽に入れて水を通して置けば自然に孵化し浮遊するに至るが此を取り出して沼池に放流するも

のなりと

●青函連絡用白神丸の進水

△横浜船渠建造中

鉄道院が曩に横浜船渠に於て新造中なりし二千噸型木製船竣成し今二十八日横浜船渠にて進水式を挙行し白神丸と命名試運転を行いたる後直ちに青函連絡貨物船に配船就役せしむる事に決定せり青函線は貨物の増加著しくして現在の配船にては輸送力不足を来し居る結果白神丸配船となれるなりと

●第三安方丸進水 当市新安方町若井由蔵方の発動汽船の第三安方丸は過般来塩谷造船所に於て起工中の處一昨日同地に於て進水式を挙行し来る三四日頃に當地へ回航の由なるが噸数は百噸にて百馬力なれば余程大形の発動汽船なりと

大正七年三月三十一日

●露領漁業危険

日露漁業契約に依る両国人の会合は十八日浦塩に於て開會露国側四十五人日本側四十人出席レメジエーデフ氏（温和派）会長席に就きベーリング海オホツク海一帯の漁区入札を行ないたるが獲得権は日本の手に落ちたるも漁期に於て（六月より九月に至る）過激派政府の監督如何は甚だ憂慮せらるゝ所にして従来の制度に依る監視及び看守官の破壊せられ過激派が迫害を加振るが如き事あらば自然右獲得権は水泡に帰すべしと

●鯨ヶ沢たより

△鮪大謀と鯷漁業者

鳴沢漁業組合所有船北赤平地先鮪大謀網漁場は本年は北海道の某氏によって経営せらるゝ由にて目下準備中なるが全部を綿糸に改良し網目を縮小し漁獲物を変更するやの風聞あり或は近時豊漁の鯷の収穫が目的に非ずやとの懸念より該漁に従事し居る流網漁業者間の大恐慌となり漁業組合理事に迫り本月二十七日臨時総会を開き善後策を講究し本縣知事に対し事前に於て防止するの請願書を提出する事を決議せりと流網業者の主張を聞くに旧来の装置なれば何等の影響無きも綿糸を以て網目の最小なるものを使用せられたる場合鯷の散乱の恐れも一旦大謀網に乗り込みしものは全部収穫せらるべく殊に建設場所は魚道の中心に当たるを以て流網業者は此影響に依り非常なる損失を蒙るべしとの事なり鯷は昨年大豊漁なりしを以て本年の従業は全町漁業者殆ど全部にして米価の高騰も豊漁を見越して苦痛を訴えざる状況なるを以て万一薄漁の場合は悲惨なる状況を呈すべきに付け此の際独占的行動は慎まれたきものなりと某氏は語る因に漁業組合総會に於て前記の目的を達成せんかため若干の委員を選定し事に当たらしむる由

●鯧が来るので海岸に箱の山

△製造人が砂地で仕事

鯧の期節となったので新安方海岸には鯧箱の山を築き多数の男女職人が納屋の中又は海岸の砂地に筵を敷いてせつせと箱を釘付けとして居る様は目覚ましいもので追々鯧が来次第此の界限の雑踏が今から忍ばれる様である

大正七年四月二日

●罐詰會社の設宴 青森市外油川のフランコイタリヤン罐詰會社は新築工事落成の祝宴を一日昨日午後六時より同社に於て催せり来賓

川村知事、藤原東郡長、坂部青警署長、中村縣技師、吉田青郵便局長、西田油川村長、津幡文長、武田本社長等

在青者来会の外横浜より態々臨席せる外人英、米、伊国人六氏の出席ありファブリ社長の挨拶に対し知事の謝辞ありピアノ声樂其他の余興あり晚餐の饗応を受け十時過ぎ散會せり席上はファブリ氏及びヌースト氏、廣谷富治郎氏、中野技師の斡旋にて音樂は横浜より来青せる外人の大家の手に依りて奏せられ頗る盛會を極めたりと

大正七年四月三日

●練時の電話交換手

△目の回る程多忙

△複式となる迄は

三月中の青森郵便局電話交換数が前月に比較して二三割以上取扱が多くなって居る此の理由は練が青森へ輸送されて以來 又は練取りの漁夫連が青森に入り込んで青森市内電話備付けの内大主力を占めて居る飲食物製造販売店又は旅宿飲食店に水産物店が盛んに活気付き電話の使用が高まった為である所が

◆青森局の電話 は電話規則の定る丁地と稱さるゝ部類に在って此の丁地と云ふのが四百以上の地域を指し全国六十一都市の内青森が最上位にあるが此が為交換手の繁忙一方ならず今少し電話が増えて八百以上となれば早速複式に取替えて少しは楽になれるのだが現在では何と申されても手が付けられぬと云ふ然るに市内電話の發達たるや輕視すべからざるものがあつて年度初めに六百四十五口のものが年度終わりの現在では

◆八十口の増加 唱つて七百二十五口最早八百迄間がないのである複式となれば機械が全然変わつて中継が無くなるだけに交換手の手数も省け能率向上し御小言頂戴する事も減少するであらうが現在では電話が増えても大切な交換台が依然として十台のみと云ふのであれば交換手の繁忙はお察し下さいとある

●待たるゝ塩船

△大部分は練塩造用

青森出張所に着荷となる筈の官塩を満載した知多丸大栄丸の両汽船が坂出港を出帆して以來相当の日数となつたがまだ仲々入港の様相がない恐らく途中で何かの都合の為停泊して居るのであろう但し今月上旬中には保険付き入港するとの事である現在出張所倉庫の内地塩は皆無となつて居るが右両汽船の積載内地塩は青森納めが五等八十斤包み八十二萬六千斤五等四十斤包二十萬斤二等八十斤包六萬二千斤合計百八萬八千斤八戸納め五等八十斤包十六萬四千八百斤双方合計百二十五萬二千八百斤に上つて居る但し大部分は練塩造用に使われるであらうと云ふ

大正七年四月五日

●鮫漁港趣意書

鮫漁港修築期成同盟會は來る七日を以て發會式を舉行する筈なるが其の趣意書は如左

能く天然を征服する者は大は以て國家を益し小は以て身を利す可し我が東北の地征服す可き天然の存するもの屈指に勝へすと雖も就中最も力を盡くして征服せざる可からざるものは實に海利の大に在り南金華山より北襟裳岬に達する太平洋面は寒暖二流の交互する所鱗介の族棲息せざるなく寔に是れ天與の宝庫と稱すべき一大漁場なり斯くの方面にあるの漁業家にして斯業の進歩甚だ遅々たるは果して諦事そや悲し沿岸に於て漁業の根拠たる可き良港なきに職由す此れ人力の天然を征服す可き好機を得ざるが為か抑も吾人の力努めざるが為か

顧みれば明治三十五六年の頃沿岸漁業一転して遠洋漁業となり随て漁船建造の改良となり同く四十三四年の頃に至り再轉して石油發動機船の勃興となりて我が漁業界の革新を促し爾來年々歳々發動機船の建造を見るに至れるを以て一般斯業の進歩發展大いに刮目に値す可きものあるを期せしに事予期に副はず尚ほ牛歩の感あるは一に港湾の不良にして漁家の安固を欠けるの結果に他ならざるなり吾が青森県東海岸は南岩手県に連なり其れ宮古港より北尻屋岬に達する沿岸凡そ一百数十哩其間安全に漁船を停泊せしめ迅速に漁獲物を処理するに足る可き利便の港湾なし纔に鮫港ありと雖も是平和の錨地にして一朝風濤の襲來に遇ふ時は鐵船濤腫と雖も覆没擱座を免るゝ能わさる所たり亦湊川のあるありて會避難を僥倖しつゝありと雖も其の不良なる川口は到底船舶の出入り安全なるを期する能はず過去を顧みれば頻々たる遭難は生命財産を失ひて惨害量り知る可からざるもの存り其れ斯くの如きは如何に天與の宝庫を開き不尽の利富を開拓するを以て己の任と為し海若を叱して奮勵努力するの漁業家と雖も事業の生命なる漁船の安全を保持する能わざる時は何を以てか其の活動を縦にするを得可けんや故に水産を開発し海利の大を獲得すべき事業の根本問題は速やかに港湾を修築して天然を征服するに在り港湾の修築なるを得は天與の宝庫期せずして開かるべく沿岸の利も亦従いて興るべく延いて縣國乃面目も亦一新せらるゝに至らん吾人茲に見るあり鮫港漁港修築を絶叫する事多年而して今日尚ほ目的を達するを得ざるは真に遺憾に堪えざるなり

抑鮫港湾の位置たるや前には天與の大漁場を控え而して後に鐵道の灣頭近く臨めるあり塩釜港以北青森港に至る間に於て陸海の連絡及び都市交通の利便を有せる唯一無比の形勝に在り故に錨地の不安なるにも拘らず常に漁船の根拠地の如く各県の遠洋漁船回航し來るもの年々其の数を増し湊川口と相俟つて一の漁港たる觀を呈せり其れ斯くの如し是を以てか當局曩に漁港候補地の調査を為すや先づ目を吾が鮫港に着け夙に公簿に入る近頃又鮫港漁港修築の議は広く識者の認むる所となり青森築港及び岩木川治水と共に本縣の必要なる三大事業として其の必成を期せらるゝに至れり而して今や海國時運の要求は漁港修築を急務と為し恰も政府をして國庫補助の端緒を開かしむ是即ち吾人希望の前途に於ける一大光明あらずして何ぞや嗚呼天の時は到れり地の利は是を占めたり唯其れ人の和を口は精神一到何事か成らざらん天然の征服豈其れ難からんや即ち此の會の拠る所以なり近く利害を共にする東海岸三郡は勿論広く縣下同志の士に

対して縣国の為に蹶起協力事業の必成を期せん事を希ふ

大正七年四月六日

●粒鯨輸入 昨日海龍丸にて沖五商店揚粒鯨三十五萬尾第六善知鳥丸にて千葉商店揚二十五萬尾輸入せり

●発動機船の入港 市内新安方町沖五商店に於て石巻に於て新造中の発動機船神龍丸は今回竣成を告げ昨日当港に入港せり

●知多丸の出帆 淡谷扱いの食塩搭載船知多丸は昨日迄食塩全部の陸揚を了し同夜小樽に向け出帆せり

大正七年四月七日

●河野栄蔵氏設宴 三日の吉辰をトし氏か前途を祝福する賀筵を張る玄関突当の大衝立は高橋竹年画伯のものせし岩上に鷲の雄々しき目覚むるばかり導かれし休憩室に陳列の数個の賞牌は主人が斯界に積年奮闘の経路努力の効果を思はしむ

来賓には

小西郡長、大原税長、高屋警長、山本縣参、森郡議長、菊池町長、菊池第二課長、石田視学、遠藤第一課長、石井、杉山両校長、三浦、深澤両御料、高野小林区、富樫、田中直間課長、佐藤登記所長、二瓶、太田各村長、丸山、山中、稻熊の三医師、山本軍人会長、野村、山本両局長、菊池部長、南部水産技手、佐藤五九支店長、北野商業組長、武田、山本の産牛馬組長、野村、白濱、中島、日本柳、山本の諸郡議、村上組頭其他重なる人々百余名

河野主人は安野崎合名會社の円満なる満期多年の眷顧を謝し引続き貿易品たる海産業開始すへければ将来の指導援助を望む旨の挨拶に対し小西郡長より懇懃なる謝辞あり田名部大湊各旗亭の粋を網羅せる紅裙数十名の斡旋にて紅裙隊の歌舞酒の酣なるに及びて各得意の歌舞あり中にも山本産馬長の「紀伊の国」の舞ひ振りは最も喝采を博せり興益々加はりて時の移るを覚えす主客陶然茲に小西郡長の音頭に河野主人の萬歳を唱し三々五々散會せり蓋し地方稀有の盛宴なりし尚ほ下風呂佐賀氏蛇浦の鈴木氏等より丁重なる祝電を寄せらる因に當日安野崎合名會社店員たりし菊池重次郎西堀啓吉工藤政五郎河野廣治山崎傳次郎の諸氏に対し左の如く記念品の授与式を举行せり

弊社創立以来十ヶ年着実なる營業を継続し満期解散を見たるは洵に貴下精励の致す所たらずんばあらず茲に為記念銀盃一個を贈呈し永久に其の勤勞を感謝す

大正七年二月十一日

合名會社安野崎商店代表社員

河野 栄蔵

大正七年四月八日

●下北郡たより

◆安野崎合名會社 斯社満期となり円満なる解散を以て平素重なる取引先たる下風呂佐賀、蛇

浦鈴木、東通村、石持、岩屋、尻屋、尻芳の各部落戸沖は函館、横浜、神戸安達本支店等に
弊社創立以来十ヶ年間堅実なる商事を営み満期解散の今日を見たるは甚大なる御眷顧の致す
所に外ならず茲に記念の為銀盃一個を贈呈し永久に感謝の意を表す

合名會社安野崎商店代表社員

河野 栄蔵

以上

の外地方得意家数十名に記念品を贈配し亦平素運搬物に従事したる陸上は荷馬車連、海は舳夫
等数十名に対しては看板及び金品等夫々記念の贈物ありたりと

大正七年四月九日

●鮫漁港修築期成同盟發會式

▽八戸錦座に於て

南部地方多年の懸案たる鮫湾漁港改修問題は時勢の発展と共に近時愈々其の歩を進め曩に地
方の有志蹶起して中央及び地方当局者に陳情し有志に訴ふる所ありしが今回更に其の歩調を新
たにし速成を期する為め修築期成同盟會を組織し活動する事となり既報の如く一昨日午後三時
より八戸町錦座に於て是が發會式を挙行したり當日は春雨瀟々たりしにも拘らず関係各地方よ
り來會したるは縣郡掛議員町村長を初め重なる有志者は殆ど網羅され其他の來會者とも無慮一
千名と註せらる發起人を代表して八戸町長

▲奈須川光實氏 開會の辞を述べ鮫湾を漁港として修築するの必要は既に發表せる其の趣旨書
及び修築資料に拠り明らかなるも尚ほ一層の要点を摘述すべしとて鮫湾の歴史より漁港として
適當なる本邦多く其の比を見すとて東北及び北海道東海岸と鮫湾の關係を縷述し更に進んで独
り漁業上の關係のみならず運輸交通上枢要の港湾たるを説きて頗る詳細を極はむ尚ほ大いに言
はんとする所あると時間の關係上省略すべしとて約四十分を亘りて發會の理由を述べられ次い
で

▲議事 に入らんとするや満場の同意を得奈須川氏より県會議員遠山景三氏を座長に推薦し同
氏座長席に着き一場の挨拶あり一致協力飽迄修築の目的を達せざる可からすと述べて愈々議事
に移る先づ會則の制定に入り満場異議なく原案通り可決す

▽鮫湾漁港修築期成同盟會會則

第一条 本會は漁港修築期成同盟會と稱す

第二条 本會は鮫湾漁港修築の必成を期す

第三条 本會の事務所を三戸郡八戸町役場内に置く

第四条 本會は三戸郡上北郡下北郡の住民にして本會の目的を賛するものは何人と雖も會員た
る事を得

第五条 本會に左の役員を置く

幹事五名、理事若干名、評議員若干

第六条 幹事は本會を代表し事務を総理し理事は幹事の指揮監督を受け事務を掌る

第七条 本會は名誉顧問を置き本會總會に於て推薦す

第八条 本會の經費は関係町村の醸金並びに寄付を以て之に充つ

第九條 役員會並びに總會は必要に応じて幹事之を招集す評議員五名以上の請求ある時亦同じ

第十條 本會は第二條の目的を達成する迄之を存続す

▲委員の選挙 石橋萬治氏の發議にて幹事は座長を加へて五名其他理事、評議員（実行委員）とを座長より指名する事となり座長より左の如く指名せり

▽幹事 奈須川光實、遠山景三、今泉秀雄、関春茂、北村益△理事 八戸新聞記者俱樂部、福田大助、長谷川権之助、山浦武夫、神田重雄▽評議員（実行委員） 奈須川光實、遠山影三、今泉秀雄、関春茂、北村益、江渡種助、田中実、田島祐博、古川好寛、中村栄吉、近藤喜衛、正部家正太郎、濱栄助、三浦元次郎、鈴木武登馬、笠尾善太郎、種市忠七、名倉慾治、石橋萬治、八戸新聞記者俱樂部、山浦武夫、石井嘉八郎、大久保善三郎、岩見良七、吉田第吉、佐々木喜兵衛、清水喜七郎、神田重雄、長谷川権之助、石田多吉、高嶋庄次郎、早川陸奥太郎、長谷川藤次郎、黒沢治助、田中富次郎、大久保彌三郎、八戸穀物商組合、八戸木炭商組合、八戸呉服商組合、八戸鮮魚商組合、八戸酒造組合、八戸醬油醸造業組合、八戸商業組合、八戸水力電気株式會社、松橋兵八、佐川圓之、駒井庄三郎、秋山熊五郎、越後右衛門佐、中村吉太郎、大崎伊五郎、大下末吉、階上銀行、八戸商業銀行、泉山銀行、五十九銀行八戸支店、松橋喜平治、東北名石株式會社

尚ほ顧問として清水上北郡長、小西下北郡長、尾上三戸郡長を推す事に決し次いで

▲決議文 に移り神田理事の朗読にて満場喝采の裡に原案を可決し実行方法亦異議なく決定せり

▽決議

本縣東海岸は太平洋に面する事殆ど一百海里に近く魚族豊富無尽蔵なるも海岸一の漁船根拠地を有せず数万漁民は風浪を避くるに由なく常に不安の間に其の業に従事し年々船舶の遭難多く人命財産を損ずる事尠なからず漁獲物の処理亦頗る困難を極めつゝあり今や遠洋漁業勃興の機に際せるも漁船根拠地を有せざる悲しさには到底其の發展を望むべからず然るに鮫灣は三陸沿岸に於ける唯一の漁港適地たるは夙に世人の認むる所此地に国費及び縣費を以て相当防波の設備を施し漁業根拠地と為すに於ては多数漁民が風浪に侵さるゝ危険を除き且つ本縣水産業の大なる發展を期するを得べく啻に關係地方人民の利益なるのみならず縣國の利益亦尠なからざるべきを信ず吾人は多年之を唱道し來れるも未だ目的を達せざるは遺憾極まりなき所仍て此の際一層奮勵を加へ協心盡力誓ひて鮫灣内に漁港を修築せんことを期す

▽実行方法

- 一、貴衆兩院及び縣會に請願すること
 - 二、當局大臣及び県知事に請願すること
 - 三、各政党本部及び本縣政党支部に陳情すること
 - 四、本縣貴衆兩院議員其他有力の士に依頼して援助を乞ふこと
 - 五、中央及び本縣各新聞社に依頼して助力を乞ふこと
 - 六、右実行を期する為委員若干名を選出して其の衝に当らしむること
- 是にて議事全く終了し夫より

▲有志演説 となり第一席として恰も着場せる今泉縣會副議長登壇し先づ婦人の病危篤に迫り折角の発会式に参列し能わざるを遺憾としたりしが主治医が誓って本日一日丈を維持せしむべしとて注射を行はれし為努めて只今出場せりとて述ぶるや満場一種の悲痛に打たれ氏の熱誠に感じて水を打ちたらんか如し斯くて氏は鮫湾修築の極めて必要なるにも拘らず今日迄其の目的を達すること能はさりし理由を述べ縣經濟の關係は之か主因なりとて凶作、青森築港及び岩木川治水に関する県債を列举して更に鮫湾の為に百萬圓を投せざるべからざるに於て県の財政の容易ならざるを説き尚ほ地方の軋轢を戒飭し此より地方一致協力飽迄今日の決意を維持し其の目的の達成に努力せざるべからずとて岩木川治水問題に関して同地方が如何に熱心努力し来れるかを説きて今回の成功偶然にあらざるを述べ治水以上に關係の広く必要の切なる漁港の如きは是非とも速成を期せざるべからずとて更に三陸鐵道に及び鮫港は東海岸交通の要衝として益々修築の必要なるに論及せり次に本縣水産會幹事松森豊氏は鮫湾の位置より鮫湾修築の急務を論じ修築の目的を達するや決して遠きにあらずと恐らくは第四十一議會の問題たるべしとて修築に伴なふ地方漁業者の覚悟に及び其の覚醒を促せり次に本社和田勝衛氏は青森記者側を代表して鮫湾修築実行の期到来せるを述べて地方の發展は積極的の施設にありと断し時局の關係より國民の覚悟に及び徒に財政を云々するは百年河清の類本縣の依然振はざるは之が為なりとて鮫湾修築促成の急を論断せり弘前毎日新聞主筆小川英敏氏亦弘前記者団を代表して協同一致之か促成に猛進せられんことを希望し最後に三戸町長北村芳太郎氏は協同一致目的の彼岸に達するに努めざるべからずとて一場の通俗的实例を挙げて述ふる所あり是にて有志の演説も終はり神田氏より北山縣會議長、竹内前代議士、河野栄蔵、平澤均治、岸太、田島祐博、藤原柯芳氏等の祝電を朗読し遠山座長は円満裡に発会式を終了したるを歎喜し此の上は諸君一層の努力により本會の目的を達し地方の發展國家の隆昌に資せんことを切望すと述べて閉會を告ぐ時に五時を過く直ちに八百萬亭に於て

▲懇親會 を開く来会者約二百名當日の発会式に臨める

松森豊、上田函每、笹澤陸奥、小山弘每、村山弘新、中居青新、和田本社
の六氏は招待せらる奈須川町長の開宴の挨拶来賓を代表して松森氏の謝辞あり酒間鮫、小中野、湊校書は幹旋し同地方には稀なる盛会にて八時全く散會せり尚ほ同夜九時より更に鮫石田屋にて八戸記者倶楽部の発起にて遠来の記者一同の為に招待會を開き奈須川氏の挨拶和田氏の謝辞あり懇談聲裡に時を移して撤宴したり

●八戸たより

▲鮫捕鯨場開始 東洋捕鯨株式會社鮫事業場にては去る一日より本年度の事業を開始し場長として田丸隆三郎氏赴任八戸町各官公衙を歴訪し挨拶為したりと

●野内駅工事の石材道路を塞ぐ

△車馬往來の迷惑

野内駅構内拡張工事は昨九年秋より請負者の手に依りて着手せられしが構内複線延長の為に停車場付近なる石山を更に切り崩して線路の敷地を拡張せざるべからざるが為請負人は停車場向この石山を盛んに切り崩し其の石材の数量尠なからざるに切り出せる石材をば所もある

へきに

◆国道の真中に積み重ね往来の馬車及び荷馬車を手古摺らしめし事一方ならさりしが間もなく雪降り積みて馬櫓の往来盛んとなるに従ひ雪塊と共に盛んに道路上に積み重ね投げ捨てられたる大小石片に櫓の自由を失ひ雪中も相応の困難を感じしめたるに最早雪跡形もなく消え去れる今日にては大小の石塊道路上に露出し荷を積みたる馬車は積荷の儘にては通過する能はず止む無く石材の投げ捨てられたる場所に近づくと共に一先づ荷馬車より荷を卸し空な車を引っ張り通過せる後再び荷を背負ひ積載する有様にて

◆荷馬車の不便 言はん方なく往来の駄賃付けにて不便を溢さぬ者無きも如何せん右工事の請負者は工事にて損失を生じたる為何地に赴きしか行衛不詳にて之が交渉を為すの術なく斯く責任者の失踪の為手の付け様無しとして村當局にしても又は鐵道側に於ても全く放置し自然に土中に埋没するを俟ちつゝある様子なるが仲々五六月にて平坦となるものに非ざれば土砂を振り蒔るか又は全然運び去るかして車馬の難を除く様第二次の責任者に於て取計らはれたしと往来の旅客は何れも一方ならず溢し居れり場所は野内駅踏切付近の坂道なりと

●既に四千噸越えた本年の鯨輸送

◇四十萬圓の金が動く

昨年鯨初輸送は三月二十九日であったが本年は夫より三日早く二十六日が初輸送であったことは既記の通りで一昨日迄の景況は如左

(省略)

◆昨年と比較 而して今之を昨年と比較するに青森駅は四百二十一噸即ち一割二分の増加を示し居れども之は上述の如く本年の輸送開始が前年に比し三日間早かりし為然るものにして今後の輸送を予想するに昨年より多数なるべしとの見当はつき居らず是れ蓋し、傭船料高騰の結果鯨の値段著しく高くなりて売行き捗々しからざる見込みなるを以て各問屋に於ても取引高を控え目にしたる模様あり扱當地に於ける輸送方法は

◇樽詰め又は箱詰めと為し居るが樽詰めは八九十尾入れ箱詰めは百尾乃至百十尾入れとし樽詰めは二噸に付き七十個箱詰めは二噸に付き五十五個の割合となり居れるを以て一噸約三千尾の計算にて青森浦町両駅合計にて既に四千三百餘噸の郵送を為し居ればこれを尾数に換算する時は約一千三百萬尾に達し一尾三錢平均とすれば去月二十六日以来三十九萬圓の金が鯨の為動ける次第なり

大正七年四月十日

●鮫修築資料 (一)

七日八戸に於て鮫湾漁港修築期成同盟會發會式を舉行したること既報の如くなるが同會に於て調査地たる資料の要点を左に掲げて参考に資することとすべし

八戸前浜 (鮫湾) 漁港築設に関する調

八戸前浜は太平洋に面せる本州北端の一浦にして青森県三戸郡にあり北下北郡尻屋岬より西南に長く一湾曲して其の南端鮫角は東北に斗出し半円を描ける所謂鮫湾を構成せる鮫、湊両濱

を総称せるものにして古来より漁業地として世に著る、地勢暖寒両流の抱和点にあるを以て魚族の豊富なるは實に無尽蔵を以て稱せらる今や沿岸漁業一転して遠洋漁業の勃興となり年々進歩発達の域にあり而も鐵路の湊川口に臨めるありて都市交通の利便なるは漁港として漁獲物処理上我が東北に於て稀にみるの好適地にして夙に漁船の根拠地として目せられ各県より遠洋漁業の回航年々其の数を増し現在の鮫港を以て漁船の假泊地となし湊川を以て漁獲物処理場となし將た避難港とし両々相俟って一の商港的盛觀を呈するに至れりと雖も其の港湾の不良は年々歳々貴重の人命と財産とを喪失する頻々にして大いに其の発達を阻害しつゝあるは實に国益上の一大恨事たり幸いに港湾修築にして実現せらるゝあらんか其の発達進展豈一の漁業のみに止まらんや茲に漁業上に関する各種調査並びに統計を表示して以て漁港修築の資料に供せんとす

水産状態

◆漁獲物の名称 當前浜に於ける漁獲物は沿岸にありては鯷魚を以て最とす是に次は魚少(注:イサザ)、刺螺(注:ホッキガイ)、鮭、鰈、平目、鱸、鱒、白魚、烏賊、玉筋魚、鰯、章魚等は主たるものなり

遠洋にありては鯨、鯉、鱈を以て最とし目抜魚、金鯛、旗魚、鱈、小鮫等是に次秋刀魚又將來有望として属目せらる

◆漁獲物処理の状況 漁獲物の処理に至りては鐵道東北線八戸支線の湊川に臨めるあり海陸の連絡至便にして其の処理上些かの遺憾なく氷蔵塩蔵製造等魚族適応の処理をなし可得東都市場は勿論東北沿線並びに奥羽沿線の各郡市へ即時輸送の利便を有す製造場に至りては罐詰工場、節類製造場等規模稍大なる製造業者あるあり殊に肥料製造に至りては古来八戸メ粕の名を以て世に稱せらるゝ所にして其の製造業者の数實に数百の多きを算し過半は魚商を兼ね其の設備又完全にして漁獲物の処理に至りては最も至便の地たり現今岩手県宮古以北本縣の尻屋岬に至る州岸の鮮塩干魚類悉く発動機船の便により湊川に至るの状況にあるを以て今や湊駅に於ける鐵道の利便と相俟ち漁港避難港として一日も欠くべからざる枢要の位置にあるを見て其の一般を知るべし

◆漁獲物並びに製造販売の状況 魚市場並びに製造品特定販売所の設置なしと雖も取引機関たるべき大小海産物商一百餘を有し且つ西南一里にして人口二万を有する八戸町のあるあり湊駅を距つ僅かに六十餘里にして盛岡市のあるあり花巻黒沢尻水沢駅等各地は我が魚介の最大需要地たり又一昼夜にして東郡市場に至すを得べく東北沿線奥羽沿線の各駅は又皆我が供給に俟つあり岩越信越の二線亦近來の顧客として知られ製造品に至りては遠く中国より大坂名古屋横浜鐵道沿線各駅に輸出せられ是一つに鐵道の利便あるか為にして現今に於ては岩手県宮古以北尻屋岬以南の海産は悉く我が手によりて各地に輸出せらるゝの実況にあり

●八戸まで(一)

□鮫湾漁港修築期成同盟會發會式に案内を得て七日朝久方振りて八戸を訪問することゝなれり、鮫湾漁港問題は實に多年の懸案なれども是迄は殆ど身が入らず今や地方の有志は覺醒し奮起して茲に期成同盟會を組織し愈々真劍の行動に着手することゝなれるは誠に頼母しく快心の至り

□之を公平に觀察して其の地位に於て將た實力に於て鮫灣の如くに漁港として避難港として適當なるもの我が邦に於て果たして幾許ある、政府当局者に於ても曾て茲に着眼し特に其の調査を實行せるや久しかりしというもの故なきにあらざるべし、されは若しも政府に於て愈々漁港修築の必要を認め之が實行を期するとせば我が鮫灣の如き恐らく其の筆頭たるべきを期したりしに豈図らんや第四十議会の提案に阻害せられて見事なる落選を見るに至らんとは、固より今回の選に洩れしものは地方有志の平生の注意と努力の足らざる為にもよるべけれども一面に於ては中央政府が東北に対し比較的冷淡の嫌いあることが其の主因にあらざるべきかとも想はる、東北の不振が政府当局者に閑却せられ其の施設往々他の為に先鞭を付せらるゝの感あるは遺憾といはざるべからず、鮫灣關係地方の有志此の際蹶起し当局者を動かし天下に訴うるに至りしもの洵に当然とも言うべし

□九時二十二分發に搭すべく浦町駅に至れば松森市會議員も同じ目的にて來らる、松森氏には曩に全国水産家大會に參列すべく縣の水産家を代表して上京し更に同大會の委員として水産界の為に政府と折衝の任に当たられ過般帰青したる程にて縁故深き同問題だけに特に出席するものと覺ゆ、車中には図らずも弘毎の小山主筆と邂逅す、云ふ迄もなく記者と同一目的なるべしと思へば何となく心強く感ぜらる、實を言へば本問題の如きは主として八戸地方に關係を有することなれども本縣にとりては實に重要案件にして地方の發展上、本縣の振興上忽にすべからず苟も縣の経綸を念とするものゝ奮ふて同情に努力せざるべからざることゝ思へば地方の重なる有志は進んで參會し氣勢を添ふべく信したりし也、現に北山縣會議長の如き他に前約ありとて參加し能はざるを遺憾とせられしが如く同朝特に記者を訪問し伝言を依頼されし程なりし、而して又小山氏の言によれば弘新記者も既に先發されしかの如く各方面の同業者何れも申し合はしたるが如くに行を共にしたるは記者の特に快心したる所なりし也、亦以て縣下の重要問題が如何に吾人同業者の閑却を許さず、県民の注意を要求しつゝありと思へば（一記者）

大正七年四月十一日

●鮫灣修築資料（二）

水産状態（續）

◆将来發達の程度 漁港として漁船根拠地として我が前浜の位置並びに現在の状況に考ふる時は實に東北の太平洋にありては最も適當なる地位にあるを信するなり今其の要項を挙げれば

- 一、重要漁場と最も近接すること
- 二、都市の交通運輸の利便なる位置にあること
- 三、漁獲物処理に最も便宜なる設備あること
- 四、漁業經濟上並びに設備の上に於て日用品需給の点に於て最も利便なること

尚ほ是を細説せんか第一の要項たる漁場に関しては識者の認めて以て天恵無尽の宝庫と稱する「ガバ帯」は南金華山沖より北日高の襟裳岬に互りて最も近く我が沿海に横たわり暖寒兩潮に棲息の魚族交互に回遊し周歲絶ゆるなし是實に得易からざる天与の漁場たり

第二都市交通の点に至りては東北線八戸支線の鐵路は腕頭近く湊川に臨み海陸の連絡都市交

通の利は間然する所無き至便の位置にあり

第三漁獲物処理に関する設備に至りては既に述べたる如く交通の利便と物資の供給及び諸機関と相俟ちて恐らく三陸に比肩すべきの地なきを信するなり

第四の要項は交通の至便と八戸町とを有するの故を以て三陸沿岸の過半を其の勢力範囲に置き貨物の集散を掌るの実況に見て其の一般を推知し得べく電信電話電燈等の利便は勿論警報信号台並びに日本水難救災會湊救難所の設置あり数個の造船所及び鐵工所亦備はらざるなく石炭貯蔵所石油貯蔵所氷貯蔵所の設備あり實に金華山以北に於て其の比を求むべからざるの地たり

殊に第一の要項と第二第四の要項とは相背するの常なるに拘らず我にありては最も完全に是を具備せるあるは實に天与の富源地たりと云ふを得べし若し幸にして漁港の築設せらるゝあらんか漁場の広大なると相俟ちて湊川、馬淵川の両川を擁する陸上の設備如何に将来の發達を促進すべきやは推して知るべき也

若し其れ我が前浜にして幸いに相当港湾の修築せらるゝあらんか北海道東海岸との交通は期せずして開かるべく十勝、日高の両国にして相当港湾の修築せらるゝあらんか彼の豊富なる鮮魚干魚は僅かに十二三時間を以て我に達すを得べく釧路方面にして尚ほ且つ二十時間内外を以て我に達すを得べし何ぞ青森經由の迂をなさんや聞く日高浦河港に数十萬圓を投じて修築の企画ありと果たして実現せらるゝあらんか將に我と相俟ちて北太平洋の開拓期して俟つべく彼我相連絡するに於ては東郡の魚介供給上に一大革新を來すべきや必せり

◆港湾を根拠とする主要なる漁場の距離及び漁業並びに季節 我が前浜に於ける漁業は今や一転して沖合漁業の發達となり漁船の改良に漁具の改善に次て石油發動機船の勃興となり益々遠洋の利を開発するに至り将来大いに見るべきものあるに至れりと雖も恨むらくは港湾の不良なる冬春の季の漁撈をして充分に其の業を専らならしむる不能の不幸あり為に大いに其の發達を阻害せられつゝありと雖も漁場の有利なると交通便利とは金華山以北に於て無比の地たるを以て夙に漁船根拠地として漁獲物処理港として遠くは静岡、神奈川、千葉、茨城等の各県より漁船を回航し來るの盛況にあり況んや宮城、岩手の如きは常に相往来して漁撈に従事しつゝあり唯夫れ一朝風波の荒むあれば港湾の不良なる遂に生命と財産の安固を期すべからざるを恨みとす

●鮫湾実行委員會 過般發會式を挙げて鮫湾漁港修築期成同盟會実行委員會は本日午後一時より事務所なる八戸町役場内に於て開會の筈

●八戸まで (二)

□朝來麗らかなる春の日も尻内に降車する頃より雨模様となり余寒亦身に迫る、八戸に至れば一点亦一点雨足頗る急なるものあれとも當日は地方にとりては消長に関する重大案件たる鮫湾修築期成同盟會の發會式、有志と覺しきが三々五々と道を急ぐを見るは記者等が指し行く發會式場の錦座なるは云ふまでもあらず、心からにもや曇れるにも一道の光明は輝きて町の光景は緊張し有志の面希望に充やう感せらるゝも嬉し

□目指せる錦座に着すれば、北村はちのへ社長を筆頭に地方の同業者甲斐甲斐しく萬事を斡旋しつゝあり、聞く今回の擧に関しては八戸記者倶楽部の諸君一団となり中堅となり有志を援

けて盡力至らざるなしと、多くは記者と相識の間、久瀧の人亦尠なからず相逢ふて綿々の情なくんはあらず、導かれて階上の休憩室に入れは最高幹部の奈須川、遠山の両翁を初め川勝、北村（芳）其他の町村長等地方有力の人々見え、笹澤陸奥、村山弘新等先着の同業諸氏亦在り上田函每氏亦盛岡よりの帰途なりとて來會するに逢ふ、見渡す所流石に關係各地の有力者多数網羅され居るか如くなれとも南部地方以外に於ける有志としては独り松森氏臨席せられしのみなるは稍物足らぬ感無き能はさりしも我が同業者の偶然にも各方面より而も縣下の殆ど各社を通して参列したるは聊か意外、記者にとりては快此の上もなし

□記者等の會場に着せし頃は既に二時に近し、定刻を過ぎ準備最早成りたれとも開會は尚ほ暫しの時間あるべしと云ふ、發起の一人たる今泉県會副議長は遅くも記者等と同車すべき筈、而して会場にも未だ姿は見えず、若しやと危ぶみしまゝ遠山翁に問へは斯々なりと云ふ、即ち今泉氏は夫人の病愈々危篤の状態に陥り折角の發會式にも参列する能はさりしとの打電に接し引續きて主治医の尽力により少なくも本日は生命を引止むべく手当をすべければ心置きなく出席すべしとの証言を得たれば、午後一時の急行にて出發すべく三時半迄には着八すべくとの電報只今着したるばかり、折角の誠意氏の着場するまでは閉會に至らざるよう開會の都合なりと語る、公事の前の私事とは云ひなから今泉氏の心事に想挑して記者鐵石の腸も為に旧懷の思なきを得さりき、密に思へらく地方の有志者が如何に本問題の為に熱中し居れるか、而して斯かる熱誠を以て今後に処せんか精神一到何事か成ららんや、況んや本問題の如く必要なる懸案たるに於てをや、必ずや克く天下を動かし其の目的を達成するの遠きにあらざらんかと

□本問題に関して記者の歡ばしく感心したるは地方の一致的行動也、渾然融合心を虚にして之が為に尽さんとしつゝあると云ふこと是也、寧ろ當然というべき事なれとも、実を言えば八戸地方程軋轢の甚だしきはなく、随分極端なる傾向なき能はさるは心あるものゝ顰蹙しつゝある所、本問題の如き多年の懸案に属しつゝも而も容易に進展の跡なかりしもの必ずしも是等の關係も一因たるべし事にはあらざるべきも何事も一致的活動に如くはなし、兎角乖離の風あり反感の態を見せて相提携し相調和せさりし両者が融然として茲に此の公共事業に奮闘を誓ふに至れるは固より問題の性質にもよりけんも、地方有志の自覚とし面目として慶すべく本問題の前途にとりては大なる光明といはざるべからず（一記者）

大正七年四月十一日

●待ちたる汐干狩

◆好日和を祈りつゝ

旧曆の三月節句も目の前に迫って来た家に飾るべき雛を持たぬものゝ興味は汐干狩にある其の汐干狩といえは直ちに浅虫が目の前に彷彿とするが、同地の有志が来客の誘因策として寶探しを催してより汐干狩は浅虫の年中行事の最も重なるものとなった◆此の汐干狩の寶探しを催したのは今より七年ばかりも前と思ふて居るが其以来年々盛況を呈して居る即ち寶探しの催しの伝播は其の範囲を弘ると共に来遊者は多くなつ来るのである昨年の如きは當日汽車を降りた客ばかりも二千人以上たつたと云ふ◆物価騰貴で生活難の声は高いが或る方面には其の声を空

吹く風として上景気な人も多い其等の色彩として見るべきものゝ一つとして今春は温泉客は非常に多い各旅館を初めとして貸間貸間も満員の有様であるといへば此の滞在客ばかりでも当日は可成の賑いなるべきに汽笛のなる度に汽車を降りる客は水の溢るゝが如くであろうから狭い浅虫の雑踏は思ひやらの次第である◆昨年は一等に米一俵を出したが折角探り出でても持ち運びの出来ないやうなものでは困却するたろうから今年は米はやめにして一等二等三等に餘り大懸隔のないやうにして籤を多くするとの事である◆毎年とも來客者の困却するのは生憎の荒い日に当たる事であるから、浅虫の人々は一心に風のない好日和ならん事を祈っているさうだ、待たるゝ汐干狩、我々も亦浅虫の人に負けぬほど待ち設けて居る◆汐干狩の其の後の寄付如左
五圓椿旅館、五十錢浅虫館、五十錢古澤菓子店、一圓千年新吉、三圓又〇商店、一圓星政吉、二圓小嶋友七、一圓佐藤三八、四十錢永利商店、一圓五十錢木村嘉吉、一圓濱町東屋、二圓横井商店、二圓樋口商店、六圓成田書店

大正七年四月十二日

●八戸まで（三）

□発会式は滞りなく終了し次いで有志の懇親会に招待せらる、此より先八戸記者倶楽部諸氏の發起にて同盟会の有志と謀り同夜別に鮫港に於て遠來の同業者を招待の計画ある旨を伝えらる、既に有志の懇親会に招かれ親しく地方多数の重なる諸氏と膝を交えて歓談するの機会を得たること此の上もなく光荣なるに更に招待を重ねらるゝが如きは本意ならさりしも今回の問題に直接関係ある鮫湾の現状を紹介せんと云ひ記者等も又此の一夜を鮫に宿らん意志ありしものから遂に一行と謀りてこれに応することゝしたり

□七時頃には八戸の懇親会場を辞し雨中馬車を駆りて鮫に向かう、奈須川翁及び松森氏亦同乗す車中徐に翁は東北振興問題に関して語る、確かに傾聴すべきものもあるも茲には略して記さず、八戸より湊に至る路傍依然として空き地を存するあり、近時八戸地方の発展著しきありと云ふに、独り此の方面を荒寥に委して顧みざるは惜しむべし此を利用するの計画如何と端なく同所の通過と共に一行の話頭に上る、畢竟するに飲料水のなき為にして補給の道さへあるに於ては既に家屋の櫛比を見たるや明らかなり今や八戸に於ては救済方法を講究しつゝあり此が為には二三萬圓を要すべしと云ふ八戸の将来にとりては確かに必要な事業と云ふべし

□飲料水の談は偶々駒井氏の醸造酒に及ぶ、此の辺に滾々たる泉水あり駒井庄三郎氏の有に属すと云ふ駒井氏の清酒の醇良なる亦用水の関係与りて効あるべしと云ふ、当夜八百萬亭の懇親会に用いしは駒井氏の清酒なりとの事にて、地方酒としては如何にも醇良なりとて一行の称揚する所となり特に地方の会合に於て成るべく地方酒を用いるの慣行を造らさるべからずとの談となりしが、奈須川翁の談によれば同地方にても地方産を奨励し之が改良発展を期する為成るべく地方酒を用いしむる事に注意し奨励し居れりとは喜ぶべし、独り八戸地方のみならず縣下一般に此の傾向を普及せしめたきものなれ、斯くして初めて地方酒の改良も期し発展をも図らるれ

□車窓より暗黒たる路傍を僅かに電燈の晃々たるに依りて小中野、湊の光景を想像しつゝ八

時頃鮫は石田家に着し豫定の招待会は開かる、満座殆ど旧知ならさるなきに一段の興趣を加え
遂に更の深くるを覚えず斯くて本日の日程を終わる（一記者）

大正七年四月十三日

●鮫湾修築資料（四）

▽主要なる港湾との距離

一湊駅発着貨物数

大正五年度發送貨物噸数

六萬九千三百三十七噸

全 到着貨物噸数

九千二百八十六噸

一鮫湾より重要港湾に至る海里数

岩手県宮古港に至る 六十八海里

全久慈港に至る 三十二海里

本縣上北郡泊港に至る 三十五海里

本縣尻屋崎に至る 五十五海里

函館に至る 百海里

室蘭港に至る 百十五海里

日高幌泉港に至る 百三十五海里

全 浦河港に至る 百二十海里

十勝広尾に至る 百六十五海里

釧路港に至る 百九十八海里

根室港に至る 二百八十海里

△地方住民資力（大正六年末現在 鮫湊小中野三ヶ村分）

地租総額及び納税人員

税額 三千七百八十九圓四十九錢

人員 二千百一人

營業税総額及び納税人員

税額 千百四十圓七十錢

人員 六十三人

所得税総額及び納税人員

税額 千八百八十八圓四十七錢

人員 百四十五人

県税各種総額

税額 二萬八百三十二圓五十三錢

牛馬頭数

牛 五十頭
馬 九百十五頭

(大正七年一月一日現在 八戸町分)

地租総額及び納税人員

税額 九千百四十九圓十六錢
人員 一千八十人

営業税総額及び納税人員

税額 一萬八千五百六十三圓七十錢
人員 四千六百六十一人

所得税総額及び納税人員

税額 一萬五千二百九十九圓九十二錢
人員 三百八十七人

牛馬頭数

牛 五百七十九頭
馬 一千二十二頭

人口及び戸数 (大正六年末現在鮫湊小中野三ヶ村分)

人口 二萬三千九百五十四人
戸数 三千二百九十口戸

(大正六年末現在八戸町分)

人口 一万九千六百二十六人
戸数 三千五戸 (其他略す)

●八戸まで (四)

□八日宿醉未だ醒めず、椽に倚りて海に対すれば夜来の雨は僅かに霽れしも北東の風は身に沁むを感せしむ、同盟会の幹事神田重雄氏来たりて記者の為に説明の勞を執らる、鮫湾の修築は蕪島より約三四百間北方に向かい防波堤を築造して東方よりする風波を防ぐにありと、市瀬工学博士(前仙台土木出張所長)の意見は更に西方にも築堤して海面を抱擁するにありとのことなれども鮫湾の恐るゝ所は東風にあり他は殆ど介意するに足らざるのみならず之を抱擁するに於ては徒に海面を狭隘ならしむるに過ぎず将来鮫湾の發展を要するの場合の障害ともなることなれば単に東方の築堤のみにて十分なりとは関係地方人の意見なる由にて過日川村知事が雨宮技師等を随伴して親しく実地を視察したる當時に於て地方人の意見を採納したりと云ふ当局者の机上の意見よりは其の实情に詳しき地方當業者の見所は実際に適切なり知事が技術者の意見を採らずして経験のある地方人の所見を入れたるは洵に當を得たるものならん、而して修築の結果として一面に流砂をも防止し以て湊河口の閉塞を避くるを得べしと

□見渡せば蕪島付近には数隻の發動機船の停泊するあり湊河口の沖合に当たりて一汽船係留す、後者は樺太への石炭石を搭載の為なりと云ふ一般の汽船は勿論發動機の多くは湊河口に停泊するを例とするも河口狭隘なる為其の多数を収容するに足らずヨギナク蕪島付近に係留する

由なれとも稍々もすれば風浪の難に遭ひて破船する事尠なからすと

□鮫湾は昔に漁業上の関係のみならず、東海岸に於ける海陸連絡上枢要の地点として隣縣は岩手の宮古付近以北は悉く此の地に依るを便とす、全地方の物産にして之を輸出するものは海路此の地を經由せざるべからず、全地方一切の日用品は必ず此の地の取引に待たざるべからず、旅行の便此の地よりするに如かず、全地方より盛岡方面に出づるもの必ず此の地方を經由すされば岩手県東海岸と此地との関係の密接なる年と共に甚だしく、全地方の開発と共に此の地方の発展を促進する事著しきものあり、兩者航海用の発動汽船の如きは、漸次増加し湊河口の一斑を語るものと云ふべし、現に製作中の発動汽船の中には實に二百噸のものもありと云ふ、近時宮城県にて塩釜と宮古間に汽船を以て定期航海を開始し全地方に於ける商權を掌握せんとして競争の態度に出でつゝあるも塩釜宮古間は汽船を以てするも尚ほ十時間を要するに八戸方面よりせば発動汽船にて八時間以内にて優に航海し得るの便あり従つて容易に塩釜の自由を許さざるものありと云ふ況んや其の北方諸海岸に於てをや近來湊河口を中心として此の方面の発展の著しきもの決して偶然にあらず、鮫湾に対する設備の粗忽にすべからざる所以を知るべし

(一記者)

●浅虫の汐干狩 浅虫汐干狩の余興宝探しは三日間にて昨日は其の第一日なりしが 希望通りの好日和なりしことゝて各列車より第一日としては予想以上の下車客ありて賑を呈せる由なるが本日は村落の休み日なる節句のことなれば盛況を極るなるべく籤は列車到着毎に散布し居れりと云ふ尚ほ其の後の寄付は青森市大町光栄堂三圓浅虫金吉本店四十銭にて続々申込ありと

●徹底倶楽部園遊会

▽桜咲く頃浅虫に開催

十日午後六時より五所川原町徹底倶楽部卯月会は同地淡水草庵に開かれたり会する者 澤田長太郎、佐々木彦造、櫛引健蔵、山上善一、小山久三郎、成田篤彌、田村貞三郎、桜庭梅三郎、木村勇蔵、岩崎藤吉、境健太郎、中村勝太郎、川村長之助、外崎嘉一郎、飛島浩三以上十五氏にして遠行者数名を除く外は全員の出席を見たり刻至りて飛島会長開會の挨拶に次ぎ当卯月会の懸案たる大正七年度園遊会開催の件を付議したるが其の候補地に付きて議論紛々三時間に互り意気頗る壯なる者ありしが結局九対六の差にて原案可決し臆て来ん桜咲きの頃の五月三日を以て浅虫温泉場に開催の事に決定引き続き収支予算及びプログラム等につき協議を重ねる所ありしが左の如く協定を見ていとも盛会裡に午後十時半閉會を告げたり

徹底倶楽部園遊会開催次第

△目的地浅虫温泉場△時日五月三日金曜日△会員参加人員二十名△三日午前一時前までに古一ホテル前に参集△一時十分出發徒歩△全五時九分大釈迦駅發△全四十分青森駅着全六時三十分全駅發△全六時五十九分浅虫駅着丸山旅館小憩△全七時三十分より島巡り△全九時上陸記念写真撮影△全九時十分八幡山登攀△全十時半丸山帰館入浴△全十一時各新聞記者招待△全時より懇親会開催福引余興開催△午後二時撤宴△二時三十四分浅虫駅發△全二時五十四分浦町駅着△全三時より合浦公園散策△全五時五十分青森駅發△全六時三十六分大釈迦駅着△六時四十分馬車便乗同地出發△九時五所川原着解散

●鮪を拾ふて罪 市内蛸貝町漁業田村藤喜（三二）全新蛸貝町田名部多市（二五）の兩名は去月二十九日午前十時頃蛸貝海岸沖にてガサエビを漁獲中ブクブク大きな魚が浮いて来るのに怪しみて拾ってみれば鮪なり斯はエビ所の話に非ずと兩人大いに喜び濱に揚げて売り飛ばしたるに此の鮪は比羅夫丸に積む際逃げたのではなく海中に落としたのが浪に浚はれしものゝ由にて兩人は届け出でぬが悪いので検事局送り

大正七年四月十四日

●八戸まで（五）

□鮫湾は兩陸の沿岸百二十海里間の要衝に居るのみならず更に北海道東海岸との関係も亦密接なるものあり鮫より北海の端なる根室に至るまで漸く二百八十海里に過ぎず現に兩陸沿岸の交通は沿岸の開発と共に益々鮫地方の発展を促し居るが如くに将来鮫湾の設備にして完成し港湾としての利用にして克く行はるゝを得るに至らんか北海道東海岸との関係も大いに面目を改むるに至るべく従って同方面の発展は後日鮫地方の上に大なる影響を及すべきや察するに難からざる也

□神田氏は尚ほ縷々として語る、鮫湾にして愈々初期の防波堤を築造して船舶の収容に便せんか運輸航海上一大革新を呈するに至るべく地方の発展期して待つべきなるが其に対しては地方亦自ら種々の計画を實行して発展に伴ふ準備を怠らざる決心を要す、譬えば鮫沿岸の埋め立ての如き若しくは湊河口の改修の如き着々實行して港湾の面目を改めんと欲す、沿岸埋立の如き現に見るが如き状態にあるを以て之を實行する事必ずしも難事にあらず、斯くて運輸航海上大いに貢献を期し得べしと、修築後の鮫湾の前途に対して大なる希望と抱負を有するものゝ如く鮫湾の将来は確かに多望なる運命を有するに相違なし

□各鮫湾一帯を前にしながら神田氏の熱心なる説明に端なく将来を想望して感慨に打たれ時の移るを知らず、最早出発の時刻も近付きたれば室に帰りて一行と朝食を共にし午前八時四十五分湊発の汽車に搭すべく行く行く付近の光景を眺め地方の情勢を聞きつゝ馬車を驅る、今は同地方は湊河口を中心として発展しつゝあり記者曾遊の十餘年前とは隔世の感なくんはあらず

□湊駅に着して驚きしは貨物の多き事なり、構内一面薪炭木材石灰石を初め其他堆積するを見る駅長に問へば滞貨日に千二百車の多数に達し此が為に駅に供給さる、貨車漸く二十車に過ぎず現在の滞貨のみを整理するにも尚ほ二カ月を要すと如何にも心細くなり、構内の東部には今や頻りにホームを築きつゝあり石灰石を積載すへき設備にかかると云ふ、而して石灰石は八戸地方は名産にして其の鉱質の良好なる他に其の比稀なるへしとのことにて近時名石會社に於て盛んに採掘し各所に供給し居る外に今は三井にて階上部落内に於て大規模の採掘計画にて此を室蘭製鋼所に輸送の筈なりと云ふ

□去つて八戸駅に着すれば八戸記者俱樂部諸氏の多数の見送りを受く、茲にも滞貨は湊の其に譲らず、蓋し湊駅の滞貨斯くの如くにして何時整理し得らるへきか前途茫漠の感なき能わざるを以て荷主は湊の外八戸駅よりも搭載の機会を得んと斯くは兩駅共に自ら同一の程度のもとに滞貨を余儀なくしつゝある也と、近頃は何処も同じ滞貨にて其の影響の大なるものあるは遺

憾とする所なるが、而も八戸地方の滞貨の多き丈け運輸交通の如何に頻繁にして如何に物貨吞吐の要衝にあるかの一斑を証するに足るといはさるべからず、鮫湾の修築が皆に東海岸に於ける漁港として海上の宝庫を開発し水産界の発展を期する上に於てのみならず、更に此の方面に於ける航海運輸の要地として必要なる施設といはさるべからず、蒔田君は八戸の同業者を代表し特に記者等の一行を尻内まで見送らる、終わりに滞在中の厚意を深謝す（一記者）

大正七年四月十七日

●昨年中の難破漁船

▽三十六名死んでいる

本縣に籍を有する漁船であつて昨年中に遭難せるものは三十四隻に上つて居るが其の内破壊されたる者十二隻漂流せる者十三隻転覆せる者は八隻其他に属する者は一隻となつて居る以上の乗組員は百四十三名であつて内遭難せる者は四十七名に達し其の内三十六名は死亡し十名は負傷し一名は行衛不明になつて居るが此の行方不明者を生じた出来事は昨年六月の事であるから溺死した事は想像に難くない

◆破壊船 十二隻の内五隻は西郡深浦沖合にて破壊され何れも川崎船であるが此の乗組員は二十三名あつたけれど何れも無事に避難した又四隻は東郡蟹田沖合で六月の大時化を食つて破壊したが此の乗組員十五名の内二名は負傷して居る又二月に北郡脇元村沖合で一隻八月下北郡東通村沖合で一隻六月青森湾内で一隻の小型和船が同様激浪に打たれて破壊したけれど此の乗組員十二名は無事に救助された

◆漂流船 六月の時化に東郡蟹田村沖合に漂流した小型和船が八隻あつたが其の乗組員二十八名の内八名は重軽傷を負ふた十一月上北郡百石村沖合にて五隻漂流したけれど幸ひにして救助され乗組員総て事なきを得た尤も鮫及び湊沖合にも破壊船なり漂流船なりが少なくない尚ほ又河口で転覆し大騒ぎをした事も折り折りあつたけれど是等は何れも岩手県に船籍を置いてあるので此の調べには入らぬ其の度毎に湊水難救済会は目覚ましい救助をするから死亡者を多く生じない

◆転覆船 一月北海道余市沖合の時化に遭難した本縣漁船六隻は相前後して転覆し其の乗組員三十五名の内三十二名は遂に海底の魚腹に葬られた事は其の當時報道した事で稀有の惨事として悲しまれた又六月には下北郡大湊沖合で一隻転覆し乗組員四名の内三名は死亡し一名は行衛不明となつた十一月には上北郡百石村沖合で一隻転覆し漁夫五名の内一名死亡した其他同沖合で一隻遭難したけれど乗組員は無事であつた右の結果に見られた破壊漂流は人命に影響を及ぼす事は少ないけれど転覆せば必ず乗員中に死亡者を出すやうに思はれる

大正七年四月十八日

●東郡水産検査員 東郡水産組合にては各村に海産物検査員を置き主として加工品の検査を為し等級を定めて価格を査定し以て製品の改善に資せんとして郡費の補助金を受くる事となれるは既報の如くなるが既に事業期に入れるを以て左の如く検査員の囑託ありたり

△油川平井作次郎△瀧内浅田吉三郎△奥内奥吉米吉△後潟木村寅衛△蟹田村田栄三△一本木太田兼松、長島勇太郎、米田周作△三厩牧野貞吉、三浦良一、宇恵野岩次郎△原別小笠原彌市△野内川村巖夫△西平内逢坂亀松、後藤善松、須藤権蔵△東平内江戸與次右衛門、田中子之松

●三戸郡たより

▲漁業優勝旗伝達式 三戸郡鮫村漁業組合員松橋芳松、宮崎助五郎両氏に対し今回本縣知事より漁業優勝旗授与さるゝ事となり全郡衙に到達したるより來る二十二日午後二時鮫村役場に於て此が伝達式を挙行し郡長臨席の上右伝達すへしと

●三厩鮑好漁 東郡三厩村大字三厩にては鮑潜水器漁業を開始しさる二日より漁業に従事せるが頗る好成绩にて毎日七八百より一千三四百個宛の漁獲あり十四日迄の所一萬三千三十三個に達せるが其の内小粒は僅かに十分の三にして十分の七は大粒に属すべきものなれば此の値は相当の額に及ぶことなるべし

大正七年四月二十一日

●北海道の鯨漁

▽七萬石餘減収

北海道第一期鯨収獲高は十九萬八千二百二十八石にして前年同期の二十七萬八十石に比較し七萬一千九百五十二石減収し之を明治四十一年より大正六年に至る十カ年間の同期平均収獲高二十一萬六千二百四石に比較するも一萬八千七十六石の減収を見たるが各漁業地別に示せば如左

郡 別	本 年 漁獲高	前 年 漁獲高	増 減
濱 益	二、七五九	一、八五五	九〇三
厚 田	一、五五〇	一〇〇	一、四五〇
計	四、三〇八	一、九五五	二、三五三
小 樽	・・・	一	△一
高 嶋	八、〇〇〇	一	七、九九九
忍 路	一〇、〇〇〇	二〇〇	九、八〇〇
余 市	一二、〇〇〇	一六、〇〇〇	△四〇〇
古 平	八、五〇〇	八、七二〇	△二二〇
美 国	一一、〇〇〇	八、五二三	二、四六七
積 丹	一一、〇二六	二〇、一九三	△九、一六七
古 宇	三九、〇二七	三八、七四八	二七八
岩 内	一五、〇八一	二五、〇〇〇	△九、九一九
磯 谷	四、五〇〇	一二、六一一	△八、一一一
歌 棄	二〇〇	一三、六一七	△一三、四一七

寿 都	二〇	一二、六六七	△一二、六四七
島 牧	一一	三、七三〇	△三、七一九
瀬 棚	三八〇	・・・	三八〇
太 櫓	二〇	・・・	二〇
上 磯	八	五五	△四七
亀 田	一	・・・	一
茅 部	一六	二	一四
目 梨	二〇〇	・・・	二〇〇
枝 幸	三	・・・	三
宗 谷	七	二	五
利 尻	一一、五〇〇	四六、〇〇〇	△三四、五〇〇
禮 文	二四、〇〇〇	一七、〇〇〇	七、〇〇〇
計	三五、五一〇	六三、〇〇二	△二七、四九二
苫 前	二七、〇〇〇	二九、〇〇〇	△二、〇〇〇
留 萌	・・・	一、三四二	△一、三四二
増 毛	一、三〇〇	四、七〇〇	△三、四〇〇
計	二八、三〇〇	三五、〇四二	△六、七四二
函館区	二〇	二	一八

●鯨漁の皆無地方

▲天売、焼尻だけは大漁

昨日北海道より帰客談に依れば本年は同道各地とも稀なる大不漁にて歌棄島牧寿都檜山久遠熊石方面は殆ど皆無にて磯谷郡にては島古丹の金木漁場にて四百石尻別村の共同網にて四百石其他五十石以上の漁獲者なく岩内古宇美国積丹古平余市及び利尻方面にて多少漁獲あり禮文は相当の漁にて只天売焼尻だけは近年になき大漁なり前記不漁の場所は全く火の消えたる如き有様なりと

大正七年四月二十二日

●縣補助辞退

▲陸奥汽船の方針

陸奥汽船會社にては定期船開始以来縣の補助を受けて指定航海をなし來たれるが今や大湊鐵道工事も進捗して明年中にて野辺地横浜間は汽車の運転を見るに至るならんとのことなるより之を機会に明八年度より縣の補助金一千圓を辞退するの方針なる由尤も縣の補助を辞退しても少なくも野横間の鐵道開業なき間は従來の通り定期航海を繼續して地方の便利を計るべしと云ふ

大正七年四月二十三日

●利尻の惨状

▽仙法志漁場の全滅

十八日午後八時より翌午前七時に掛け北海道利尻郡仙法志村付近一帯に大暴風起りたる為折柄鯨漁獲中の漁船四五十隻破壊又は転覆し乗員百餘名の中十五名行衛不明となれる椿事あり同日朝來鯨群の来襲ありたる為本年中の大漁日として村民は殆ど総出の有様なりしが不幸にして午前八時頃より大暴風襲来せる為刺網二萬並びに杵全部流失或は破壊し僅かに袋鯨三千石丈陸揚せるのみにて事実上同村の漁場は殆ど全滅の有様なりと此の光景を目撃せる各漁夫の家族は沖合より遙かに救助を求めつゝある声を宛然狂気の如く海岸に篝火を炊きて慟哭する惨状目も当てられざりしと

大正七年四月二十四日

●隼丸の手柄

▲発動汽船を救ふ

函館区東川町二百十七番地江差谷長太郎所有発動汽船朝日丸（十七噸）は船長宮野長之助（三十六）他数名乗組一昨二十二日午前に函館を出帆して青森に向け航海し来たれるが東郡沖館村沖合二海里の所に差し掛かりたる際突然機関に故障を生じて進行不能となりたれば船員は早速前檣に帆を掛け風力を利用して前進せんとしたるに折しも風位俄かに東風に変じ高浪甲板に打上げられ船体危険に瀕したれば遂に救助を求むるの信号を掲げたるを以て夫れと見たる青警水上巡邏船隼丸は即座に活動を初め即時曳船して午後四時鉄道院西船渠に救助したり船員船体共に故障なし

●捕鯨船入鯨 東洋捕鯨株式會社鯨事業場にては本月初めより事業を開始せるが全事業場に於て出動すべき捕鯨船アバロン丸（船長兼砲手夏目市太郎氏）は去る二十一日午後二時紀州大島事業場より回航して鯨港に入り翌二十二日早朝より出動せりと

大正七年四月二十五日

回顧二十年 工藤卓爾

居諸の転移する流星飛丸の如く古人の脾を撫でゝ涙を落とし柳を擁して嘆息せしとは実に左もさあるべきことにこそ、本市に於ける市制実施は今尚ほ昨の思ひせしに早既に二十年ならんとは豈に驚かざるを得んや、左れど事實は事實なり、今より當時を回顧すれば多少の興味なきにあらざると共に亦将来の参考となり得べきふしなきにもあらざるべし、いでや記憶を辿りて其一端をものせんかな

思ひ起こす、予が初めて青森町長の職に就きしは明治二十九年九月にして當時町役場（今の公會堂の在る所）は火災に罹り書類器具等挙げて烏有に帰し頗る困難の時なりし、於是一面之を整理すると共に他面町の発展を図らんとするには先づ其の基礎より刷新せざるべからざるを感じ市制実施を思ひ立ち時の知事牧朴眞氏に謀りしに同氏も同意を表し及ぶだけの助力を吝まざるべきを約され兎に角種々の調査を為すべきを注意されて之を為しつゝある間に早くも翌三

十年となりぬ、調査終りて内務省に稟請せしに市制施行地は其の標準として人口二萬五千以上なかるべからざるに今、青森は之に達せざるを以て詮議に及び難き旨を達せられたり、是於乎隣接地浦町村は青森町とは密接して略其の利害を同ふするを以て之を合併して二萬五千に合格せしめ以て市制実施の許可を得るに如かずと決心し之を該村に謀りしに初めは不同意者多くして容易に纏まるべくもあらざりしも、双方有志の熱心なる斡旋に依りて辛ふじて協定するを得しも猶ほ市費負担の上に於て均一を不可とし旧浦町村には青森町より軽減すべきを約して其纏りを付けしも而も猶之を不可として旧浦町村有志中にては特に人を派して内務省に陳情するもの尠なからざりし、然れども内務省は深く当市の将来に見る所ありけん、断固として三十一年四月一日より市制実施を令せられ一切の機關の成立する迄予に市長事務取扱を命せられ、斯くて市会成立の後、予の市長に選挙せられ其の後裁可を蒙りたるは実に其年の七月四日なりき、予は其の後三十二年に至り一度辞職し四十三年四月再選、大正五年四月再々選、大正六年一月辞職するに至りたり、此間職に在る殆ど十有四年、開港場に、水道に、築港に、浦塩命令航路に、火災後の始末に、其関係する所尠なからざりしと雖とも幸ひに天時、地理、人和を得て駸々乎として発展し以て二十年後の今日あるを見るに至りしは予の喜びに堪えざる所、就中予の最も喜びに堪えざる所は市民の協同心に富めるの点にして、市制実施の場合には浦町村を合併して辛うじて実施するを得たりしも猶ほ両者間に多少の不円滑を残しはせずやと懸念せしに爾来渾然融和して殆ど合併の痕跡をだに見るに由なきに至らしめたと予の町長、市長に選挙せられしは前後四回の多きに亘りて其度毎に激烈なる議論、異見なきにあらざるも其愈々選挙となるや、さしも激烈なる議論、意見も殆ど之を忘れたるが如く、虚心坦懐、満場一致を以て推薦するの美風是也とす、世人動もすれば本市民協同心の欠乏を唱ふるものなきにあらざるも予が経験する所に依れば決して之に同意する能わさるのみならず前二点の如きは寧ろ其反証として之を誇るに足るべしと信ず、今後益々此の美風を助長し發揮して本市の為に貢献せらるゝあらば本市の前途洋々として春海の如きものあらん、彰往考來とは古人の曾て云ひつる所、二十年を回顧すれば多少の感興を湧かすと同時に後の二十年を冥想すれば自ら望蜀の念に駆られざるを得ず、乃ち後の今を見ること亦猶ほ今の古を見るが如くならんことを欲し否な寧ろそれ以上に出てんことを欲して斯くはものしつ

●海洋調査方針

農商務省にては大正七年に於て水産講習所所属調査船及び練習船を以て海洋調査を施行するに就ては従来地方水産試験場等に於て実施しつゝありし海洋及び漁場に関する調査と連絡する必要を認め協議の結果水産講習所調査船及び練習船は沖繩沿岸より九州本土北海道千島付近オコツク海を調査区域とし連絡府県にては青森他二十九府県の調査上必要なる箇所を選定し之を基点とし五十哩乃至百五十哩の沖合を毎月一回初めに於て横断観測を為し猶内湾浅海に於ける調査範囲を定め且つ納沙、布崎外二十五ヶ所に於ける燈台又は測候所に依頼し毎月六回其沿岸海水の温度比重等を観測する事に協定せり

大正七年四月二十八日

●鯧魚は悲観か

▽未曾有の不漁

沖合に鯧群の遊泳を見たりとの報航海中の汽船及び船舶より傳へらるゝを以て其都度多大の期待を囑しめたる舊寿都支庁管内の鯧漁は未だ何等快報を傳ふるに至らず沖模様屢々良好を示すにも拘らず斯く襲来を見ざるは従来曾て無きことにして豊漁帯を以て目さるゝ歌棄が僅かに二百石寿都の如きは更に数ふるに足らず磯谷は漸く二千石を算し得たるに止まり島牧亦見るべきものなし遺憾の次第にして同地方開闢以来初めての不漁なるべし今後猶第三期迄には時日あることなれば今後の沖模様如何に依り大漁を見るべきも若し此の俛にて終了せば同地方の為に不幸を悲しまざることを得ざるも老漁業者の語る所に依れば第二期の末頃より第三期にかけて豊漁を見たる例あるを以て今より悲観するに及ばずと云へば猶力を強ふするに足る松山支庁管内は瀬棚を除きては皆無なるは気の毒と云ふの外なしと

●食料としての鯧の研究が不足

▽木村講習所助教来青

水産講習所助教木村金太郎氏は同講習所生徒を引率して北海道各地における鯧の漁獲状況を視察し室蘭經由にて一昨日来青し生徒を帰京せしめて同氏は猶滞青の俛縣廳會議所又は鐵道水産商等を訪問し調査中なるが氏の談に曰く鯧は元來

△肥料として需要 が多いが食料としての鯧はまだ夫れ迄に研究されて居ない傾きがある御承知の如く欧州戦乱開始以降鯧粕の暴騰は凄じいものであるが今後果たして現在の如き三千圓以上の高値が継続されて行かれるかどうか現に苫小牧に空中窒素の會社が出来た位で窒素肥料の製造が盛んになり又戦乱の終熄と共に欧州から肥料の輸入が増えて行くと同時に鯧粕の相場の激変期が確かに想像され得る故に余は鯧を

△食料として利用 嗜好するのを一層普及し猶利用法を研究する所あらんとして渡道したのである青森では北海道から集まった生鯧が如何なる費途に対し如何なる方面に捌かるゝか調査をする積りである。

●虹鱒放養成績

西郡岩崎村地内十二湖に四十二三年頃虹鱒放養を企て二回程放養せるも成績全く不良にして遂に失敗に終れるが昨年同村長及び地方の有志よりの懇請もあり旁々従来の方法を更めて昨年二萬粒を放養せるが成績頗る良好にて今の所六七寸に成長し居れりと右の好成績を挙げたるを以て水産試験場に於ては本年も同様二萬粒を放養するに決し去る十一日卵子を送付し孵化の上目下盛んに放流中なり猶水産試験場にては恐山に五萬粒を放養する筈にて昨日發送せり

大正七年四月二十九日

●水産界に於ける政府の新方針

中村本縣水産試験場長談

去る十二日より十八日まで一週間農商務省に於て全国水産試験場長並に水産講習所長其他水産に関する技術官を招集して會議を催したるに依り本縣よりは中村水産試験場長出席せるは既

報の如くなるが其會議の模様を聞くに参会者は国内は勿論台湾、朝鮮、関東州等の新領土よりも多数出席せるを以て総員七十六名に達せり鶴見水産局長會長となりて議事を司り毎日午前九時より午後五時に至るまで各県技術官より

△既往試験経過 を述べ或は将来の新規計画に就いて陳述せるが開會當日鶴見局長が政府に於て本年度より新たに執れる政策に就き一通説明せられたるが其演説は取りも直さず政府の方針水産當業者の向かつて進むべき針路を示したるものなれば左に其大要を語らん、第一は漁港及び避難港に関することなるが明治三十一年遠洋漁船を奨励せる以来今や約三千二百隻に達し其漁獲高千五百萬圓に上れり而て是等の漁船は普通我国の在来船に比し船体重く且つ大にして終漁後陸上に曳き上げ難し之れ即ち漁港を要する所以にして又年々千隻以上の遭難船あるのみならず多数有為の漁業者を失ふ是等を防止せんが為には是非とも

△漁港及び避難港 を設置するを急務なりと認め本年度より其实行に着手し先づ以て重要漁港六ヶ所を選定し其地方團體に補助することとして豫算二十八萬八千圓を計上せり従来遠洋漁業は宮城県以南の太平洋面は多く其恩典に浴し之を利用して長足の進歩を為したりと雖も日本海方面及び同縣以北に至りては其進歩頗る遅れ居る実況にあるを以て今後は是等遅れたる地方に特に力を注ぎ北海漁場の開拓利用を促すべしと云はれたり又漁港を新設せんとせば其地方に多数の遠洋漁船あるか又は現在少なくとも

△将来多数造船 せらるゝか或は多数漁船の集合する位置たらざるべからず然るに其地方にして此の意気込みなく仮令多額の経費を投じ之を設備するも利用する者少なき時は一種の裝飾物となるに至るべし故に漁場に便なると漁獲物の整理運搬に好適し地方人の利用する者多かるべき場所を選定し逐次増設する方針なる旨を述べられたり第二は漁業組合の改善なるが是亦本年度新たに計劃せし一新事業にして水産業の堅実なる發展を期するには漁村の改善を図るを以て捷徑とす漁業組合は

△漁業經濟改善 に対し自ら中心となりて活動せざるべからず然るに未だ茲に至らざるを以て本年度に於ては本事業の為専任の職員を設置し之を指導監督せしむることとなし以て組合理事者の講習指導又は善良組合の表彰功労者の選奨等に力むる事とせられたる旨を述べられたり右は新規事業にして此他漁業監督費の増加額或は遠洋漁業奨励法の改正及び補助金の増額等を通算する時は前年度に比し約六十萬圓の増額にして本邦に於ける水産業の漸次向上しつゝあるを證すべしと説かれたり（未完）

●鮫漁港の視察

▽所長と課長

南部築港所長及び雨宮土木課長の一行は去る二十四日午後出發鮫浦石田家へ宿泊翌日午前九時頃より午後に互り港湾状況を一通視察せり當日は相当風波強かりしに由り船体動揺して詳細の視察は困難なりし為前回の調査書を基礎とし浅深を量りたるに大体に於て左程の変化を生じ居らぬ模様なりしと今回は僅かに港内を一通り巡視せるのみなれば如何に修築すべきかに就いては一定の方針定まらず何れ慎重考査の上大体の計劃を立つべしと云ふ猶當日は期成同盟會員多数出でて案内せりと

●青函連絡増加

△旅客船三往復

鐵道院にては來る六月一日より愈々青函間連絡旅客船便を一往復増加して三往復と為すことに決定したるが

◆発着時間 は従来の一、二、三、四便は現在と大差なきも新たに設くべき五便は青森夜半十二時出帆函館翌午前五時着、六便は函館午後十一時半発青森翌午前四時半着の筈猶新連絡船の青函兩地に於ける接続列車は如左

△下り

- 一便 第一列車 (釧路行急行)
- 三便 第三列車 (旭川行直行)
- 五便 第五列車 (旭川行直行及び厚岸行)

△上り

- 二便 第八〇二 (常磐線) 第二〇二 (東北本線)
- 四便 第七〇四 (奥羽線) 二〇四 (東北本線)
- 六便 第七〇六 (奥羽線直行) 第二〇六 (東北本線直行)

◆貨物便不変 而して貨物便は現在の如く甲乙丙丁便の二往復とし変更なし因に過般横浜に於て進水せる貨物船白神丸は來月上旬頃來航すべく全船乗組高等船員は既に決定し一兩日中に何れも横浜へ向け出發する筈

●川内の電気業

▽七月頃までに開業

下北郡川内町にては資本金六萬圓を以て電気株式會社を創立することとなり二十五日創立總會を開きたることは昨紙既報の如し同會社は火力にて第一期事業は川内町内だけに止め來る七月頃までに點燈の計劃とし第二期事業として宿野部、銀杏木方面に及すにありと云ふ

大正七年四月三十日

●東郡水産組合検査員協議會

東郡水産組合は愈々新年度より事業創始の運びに至りたるを以て昨日午前十時より赤十字支部會議室に検査員協議會開催さる來賓には中村縣技師臨席藤原組長以下の幹部及び検査員

瀧内浅田吉之助、油川平井作次郎、奥内奥谷末吉、後瀨木村徳衛、蓬田吉田清助、蟹田村田栄三、平館濱野傳次郎、今別小鹿慶太郎、三厩宇恵野定次郎、全三浦良一造道原別小笠原彌市、野内川村巖夫、西平内逢坂龜松、全須藤権藏、中平内上村豊次郎、全宿野部末太郎、東平内江口與次右衛門、全田中子之松

席定まるや藤原組長より開議を宣し中村技師は縣水産界の趨勢を説き東郡斯界の發展隆興は検査員諸君に俟つもの多きを以て縣國の為奮勵を望むといへる意味の口演を為し夫より左の指示事項を付議す

▲指示事項 (一) 検査員は職責を重し懇切丁寧を旨とし機敏に検査を執行し當業者に不便

を感ぜしめざる様注意し且つ苟も疑惑を抱かしむる等の事なき様力むべし△（二）検査に当たりては定款の趣旨を遵守し注意周到なるを要す△（三）地区内に於ける漁業者水産物製造業者水産物仲買者は勿論組合外に於ける同上の當業者にして製品を地区外に搬出せんとする時には検査を受くべきものなるを以て注意を要す

藤原組長より逐項大体の説明を為し三四検査員の質問あり右に対し村松郡書記等答ふる所ありて正午一先休憩午後一時再開左の協議事項を付議各員の討議あり午後四時過散會せり

▲協議事項 △魚粕の荷造及び検査料の件（一）二十五貫を一俵とす皆掛（二）筵は建筵一枚の重量は八百目乃至、九百五十匁のこと（三）一俵の検査料金は三錢（一俵の目方は内外五百目迄黙許するも其れ以外は改修せしむ即ち外は二十五貫五百目、内は二十四貫五百目とす）△鯛の荷造及び検査料の件（一）束縄は磨縄にして一把に要する重量は四匁一五匁とす（二）梱の重量十六貫以上二十五貫目までの皆掛け（三）検査は一把毎に詳細に行ひ製品の悪しきものはハネテ検査票は一梱に對して付すること（四）十六貫目に満たざるものにして適宜荷造をなしたるものに對する検査料金は左の如く徴収すへし（十二貫目以上金四錢、十四貫目以上金五錢、十二貫目に満たざるものは金三錢）（五）二十五貫を越ゆるものは五百目迄は黙許するも其れ以上は改修せしむ（六）梱（風袋）は縄等すべてにて一貫五百目乃至一貫六百目のこと△乾物、海參、田作、貝柱の荷造及び検査料の件（一）箱の寸法（八分の折板を用ふべし、二十貫目入れもの標準を示せば・・・北海道内法長二尺四寸、巾一尺四寸五分、高一尺一寸五分）（二）海鼠及び貝柱の検査料（十五匁二十三錢、十四匁二十二錢、十三匁二十錢、十二匁十九錢、十一匁十七錢、十匁十六錢、九匁十三錢、八匁十二錢、七匁十一錢、六匁九錢、五匁八錢、四匁六錢、三匁五錢、二匁三錢、一匁二錢）（貫以下の端数は四除五入して貫に直し斯く検査料金を徴収すべし）（三）干鮑の検査料（十五匁三十三錢、十四匁三十一錢、十三匁二十八錢、十二匁二十六錢、十一匁二十四錢、十匁二十二錢、九匁二十錢）

●海底電線修理

▽沖繩丸の入港

内地と北海道間を連絡する海底電線は現在十四回線となり居り本縣における

◆敷設基点は 四ヶ所なるが其の最も古きは明治十五年東郡一本木及び北海道木古内間に敷設せる青函、青札兩線にして其の後一本木よりは三十三年東札一番線、新函線を加へ次いで三十六年東函一、二番線及び大札線を敷設したり明治二十三年に至り更に下北郡佐井村に基点を設け秋函線及び青小線を敷設し次に三十一年東郡平館村に基点を設け酒函線、新札線を敷設し三十八年之に東小一、二番線を加へしが最近明治四十年七月に及び東郡造道村大字八重田字磯野海岸即ち

◆合浦公園の 東方約数丁の地点に東札二番線を沈下したるが全線は約一カ月前より故障を生じ不通となりたるより之が修理の為海底電線修理船沖繩丸二千二百噸は去る二十七日青森入港し取調の結果破損の箇所は東郡平館沖合にあることを確かめ全方面へ向ひ翌二十八日出航せしが全方面修理の上試験の為昨日再び入港し來れり

●水産界に於ける政府の新方針（中）

中村本縣水産試験場長談

△農相の訓辞 は五日目にありたるが其の要点を示せば即ち本邦は天與の水産國にして廣大無限の海洋中に存する無尽蔵の財宝ありて吾人の欲する所に従ひ開発利用し得らるゝなり国勢国情の既に海中の天然資源を開拓せんと欲し時局の推移天然資源の開発を一層高調せざるを得ざるときに当り斯業の現況を他産業に比すれば頗る如何の点あり彼の工業の如き近世科学の進歩に伴ひ学理の応用技術の練磨に於て長足の進歩を示し商業の如きも亦経営組織の方法は時勢の趨勢に応じ泰西先進の諸國と相並進するに拘らず獨り水産業は進歩の跡遅々として振るはず是れ

△天然の情勢 それを然らしむるに非ずして人力の末に至らざるの結果に外ならざるべし茲に於て斯業の改良發達に関し銳意施設經營其の画策を怠らず即ち海洋調査事業を興し漁業の基本事項を簡明せむ事を期し遠洋漁業の奨励方法を革新し其の發展を期し製法の改善販路の拡張を図らんと欲し臨時産業調査局を設置し或は漁港の修築或は漁村の根本培養するの切なるを思ひ漁業組合の良善指導の方法を講ずる等日夜剴切なる施設に付き計劃しつゝあり近世産業の興起は科学の發達と此か応用の普及に負ふ所大なり職を水産に奉ずる者外は

△既得の販路 を鞏固ならしむると共に益々之を開拓し内は方今の問題たる食糧の自給獨立を策して國家社會の長計に資し本邦水産業の振興に違算なからしめん事を期せざるべからずと述べられたり而して諮問協議事項中重要なるものを挙げれば先づ第一海洋調査連絡方法に関する件にして主務省は新たに調査船を新造し之を充用すると共に講習生練習船雲鷹丸海獸保護船得撫丸及び漁業取締船速鳥丸をして補助せしめ各府縣の海洋調査と連絡せしむるにありと右に付き本縣に対し既に鮫沖合五十哩調査は福島外二縣と連絡調査しつゝあれは之を百マイル迄延長せんことを希望せらる然れども本縣水産試験場の

△二十噸級漁船 にては日を期して之を遂行し難し殊に冬期凜烈の候にありては従業し得るものに非ず而して俄かに相当漁船六七十噸のものを新造するとせんも之か碇築港なき為計画すること能はざるなり故に其の希望に応じ難き旨を述べて従来通りと為せり海洋調査事業を確実にし漁業の豊凶を豫知するに至らば漁業者のみならず製造業者も其の利益を享くこと少なからざるべからずと雖も海洋の調査は陸上の調査に比し頗る困難にして其の目的を達すること容易に非ず然れども水産國たる本邦の如きは一層本事業の遂行に努力せざるべからずと為し各県にも聯合調査を為すに決し其の方法器具機械位置等を協定せり（未完）

大正七年九月十日

●北海博授与式

開道五十年紀念北海道博覽會褒賞授与式は八日午前十時より第一会場内式場に於て舉行す此日来賓の主なるは

首相代理別府内閣書記官、内相代理松山衛生局長、農相代理鶴見水産局長、池野内務省警保局事務官、川口秋田、依田山形、川崎福井、川崎福島の各知事其他の諸氏にして俵会長、尾崎事務総長、佐藤審査総長、水越道協賛會副會長以下博覽會同協賛會

の役職員出品人等約二千五百名を算したり定刻尾崎事務総長挙式を宣し総員最敬礼裡君が代の奏楽あり佐藤審査総長審査申告を為し授賞者名簿を俵会長に提出し次いで会長俵孫一氏立って式辞を朗読し四千四十四名に対し賞牌褒状の授与を行ふ

次いで来賓の祝辞に移り

首相（別府内閣書記官代読）内相（杉山衛生局長代読）農相（鶴見水産局長代読）各府県知事総代依田山形県知事、佐藤北大総長、松下道会議長、支庁長総代河毛函館支庁長、道内商業會議所総代大滝商会頭、道内実業団体総代南道農会長、大日本畜牛改良同盟会主木村選太郎、協賛会長（水越副会長代読）道内各区協賛会長阿部札幌区協賛会長、札幌記者倶楽部等の祝辞朗読あり尾崎事務総長祝電を披露して最後に出品人総代松平農場長の答辞を朗読す右にて全く式を終り尾崎事務総長閉会を宣し来賓以下退場時に十二時夫より来賓を各館に案内し以て場内東海道五十三次構内に於ける園遊会に招待せり因に審査の結果授賞せられたる者の内名誉金牌は如左

鱈肝油	香深村	岡村徳次郎
澱粉	士別村	庄司 九助
炭化石炭、窒素、窒素及び硫酸アンモニア		苫小牧町電気化学工業會社苫小牧工場
製粉	札幌区	札幌製粉會社
鯨搾粕	東塵町	花川 傳七
同	浜益村	木田 圓吉
農場経営法	鷹栖村	松平農場
塩鱒	根室町	柳田 鐵三
長切昆布	浜中村	吉田 達衛
綿糸網地	函館区	函館製網船具會社
捕鯨事業方法	大阪市	東洋捕鯨會社
事業成績		
	根室町	根室外四郡水産組合
札幌麦酒	札幌黒麦酒	麦酒
	札幌区	大日本麦酒札幌支店
清酒（五稜正宗）		
	函館区	菅谷合名會社
醬油（丸鶴）	小樽区	石橋彦三郎
練乳	札幌区	北海道連有會社
鱒罐詰	標津村	藤野辰次郎
罐詰用衛生缶	函館区	堤商会
金銀及び水銀	東京市	田中鑛業會社
石炭	夕張町	北海道炭鋳汽船會社北海道支店

石炭 東京市 三菱鑛業會社
石炭 同 石狩石炭會社
新聞用卷紙、竹白紙、特竹白紙、薄茶ハترون
東京市 富士製紙會社
白紅新聞用中等、印刷用紙雜記帳用紙、口座 苫小牧町王子製紙會社苫小牧分社
ポルトランドセメント 上磯村 浅野セメント會社北海道支店
鯨印一号帆布 札幌区 帝國製麻會社札幌支店
牛牡（ホルスタイン種プリンスランデー四世号） 白石村 宇都宮仙太郎

昭和五年十一月二十八日

●相坂川の鮭孵化場は未曾有の大豊漁

一昼夜に一千七尾の新記録 藤坂だけは不景氣知らず

鮭で全国一の実績を上げている上北郡相坂川は其の後も天候に恵まれて大漁続き、捕獲の任に当たる藤坂漁業組合は勿論のこと一村挙げてほくほくして居る、農産物暴落で極度の不景氣に苦しみながらも食事の膳だけは大根汁の代わりに鮭を食べざるを得ないと云ふから羨ましい次第第二十二日の朝留漁場を訪問したら牧野技手は作業服に襷をかけて採卵に懸命となり其の腕の見事さは技術員とは云ふものゝ驚き入った程で助手は先に雌を俎上に載せると牧野氏は鋭利なる包丁を以てスラリと腹を割き直に卵を搾り取り続いて雄より精液を搾りて卵に振りかけ受精せしむ其の早さは一分間に三、四尾一時間約二百尾の割合、牧野技手ならでは出来ぬ芸当である、組合員は総動員の形で其處此処に立廻り生簀より掬い上げるやら其を採卵場に運ぶやら更に採卵した親魚を売捌場に運搬するやら塩漬にするやら剰余を分配するやら非常に多忙を極めている、牧野技手は語る

年々数百万の卵を孵化放流していますが其は何れも五年目で成長し再び元の川へ上り来るは広く認められている所で其の捕獲数の多寡は其の年の天候に依るので人為では如何ともすることは出来ないのです、即ち氣温が低ければ従って水温も低く為に鮭の活動鈍くして上りも少なく其と反対に今年の場合には氣温も高く又水温も高い関係上鮭の活動も敏活で昨日の如きは一昼夜に一千七尾の捕獲を見た十数年前には一日九百九十九本の記録であったが本年は其を突破して千余尾の新記録を作った訳です、要するに鮭卵の孵化放流の実績は確実に認められる所で当孵化場の成績もどうやら全国的に認められて来たのは幸ひです

留を作って以来二十二日迄約七千本の収穫あり禁漁期間の十一月三十日迄は約一萬尾にと意氣込んでいる組合員は婦女子迄動員して忙殺され稲扱等は後回しとなり村前の広い田圃の始末も出来ない忙しさである

昭和五年十一月三十日

●津島県議の令弟修治氏

鎌倉で心中を図る 女は遂に絶命 修治氏も目下重態

(鎌倉電話) 二十九日午前八時頃相州腰越津村不動神社裏手海岸にて若い男女が心中を図り苦悶中を付近の者が発見七里ヶ浜恵風園にて手当てを加へたが女は間もなく絶命男は重態である鎌倉署にて取調べた結果右は青森県北津軽郡金木町県会議員津島文治氏弟東京府下戸塚町諏訪二五〇常盤館止宿帝大文科第一学年学生津島修治(二二)女は銀座ホリウッドバーの女給田邊あつみ(一九)でカルモチン情死を図ったものであるが原因其他は不明である

津島家から急行 心中を企てた津島修治氏は北郡金木町津島文治氏の令弟で故津島源右衛門氏の四男に当り、青中出身弘高から今春東京帝大仏文科に進んだ秀才である。津島家では急報に驚き二十九日午後一時半青森駅発の急行で修治氏の次兄英治氏が鎌倉に急行した。目下県会開會中のため在青中の文治氏は塩谷旅館にて心配気に語る。

「昨夜修治が行方不明になったとの知らせだけ受けていたので何かしたかも知れぬと気がかかっていましたが、そんなことをしたとは思ひませんでした、何にしても困ったことですが原因などについてもよく判りません、けふ取敢えず家の者が急行しました」

昭和五年十二月二日

●師走の生活戦線異状あり

鮫湾岸漁民の月収は五圓五十錢これでは生計がたため

八戸市で仔細に調査

不況に不漁がつづき本年もはや漁期を過ぎ昨年のような大漁がなく三陸沿岸の漁場を控へた八戸市濱通り海岸は至って閑散に過ごした、昨年の今頃は手の切れる様な百圓札が漁民の手にも渡ったが今年は漁民の大半は餓死線上を彷徨する悲惨な状態にある、最近の調査(八戸市役所統計課)の数字が最も明瞭に総てを物語っている、先づ流網で見ると本年六、七両月中七十五艘の機船が出動して総収二萬二千四十五圓、一艘の平均額が二百八十圓六十錢となるが一艘の支出は平均乗組員漁夫七名として配当金が十三圓二十二錢で九十二圓五十九錢、出漁平均二十回として重油外消耗品四十圓、機関士雇員一名給料二カ月分で一名当り平均九十圓、乗組全員二カ月分の食費が百九十二圓合計して五百十四圓五十九錢となり差引して二百三十三圓九十九錢の損失となっている、更に揚繰網では

△収入 千五百十五圓五十錢(漁期七、八、九の三カ月間四十一ヶ統、総収入六萬二千三十七圓、1ヶ統の平均額)

△支出 二千三百四十二圓十一錢(五百十一圓十一錢漁夫三十名の配当歩合一人当り十六圓六十錢四百二十圓出漁六十回重油消耗品、二百七十圓機関士二名三カ月分の給料、千百五十二圓三十二名の食費三カ月分)差引八百二十六圓六十一錢

機関士は定給四十五圓平均で先づ生活は保証されているが悲惨なのは乗組員で流網では配当一名当り六、七両月分で十三圓二十二錢で一カ月六圓六十一錢、揚繰網では配当一名当り七、八、九の三カ月十六圓六十錢、一カ月五圓五十三錢強で一家を支える主収入がこの月収では家族数名を養ふ事は困難で数字が示す以上に窮迫している。

この統計は八戸市當局が失業救済の為立案した八戸港商港設備埋立工事起債の説明に当てた

材料である

最近の豊漁も焼石に水

変調的の鯷群襲来で今までの不漁挽回にならぬ

八戸海岸では既報の通珍しく鯷群れが襲来し、不漁に打しほれていた漁民を狂喜せしめたが、今度の鯷群襲来は既に漁期を過ぎた後の変調的の襲来で従って短期間のものであり如何に能力的に漁獲に努めても結局漁民の収入は大したものではなく、今までの最も収入の多かるべき漁期七、八、九月頃の不漁による悲境を挽回するの収入にはならず、依然漁民は苦しい生活の中にあり、最近の収入も昨今の生活困難な漁民にとっては焼石に水の有様で八戸海岸漁民にとっては今年は近來にない不況の年である。

昭和五年十二月十日

近海物不人気 売行振るはず

近海物として生鱈四千五百本、生イカ千二百貫、カナガシラ四百貫、鯷二千貫、近海鰈千三百貫、室蘭積鰈五百個等の入荷あり入荷が相当豊富であったが売行不振の為場面は頗るの不振で次の通り商談が行はれた

生鱈	四千五百本四十銭—三十二銭
金頭	四百貫一圓—六十銭
鯷	二千貫五十銭—四十銭
近海鰈	千三百貫六十銭—二十銭
室蘭鰈	五百個
宗八	一圓五十銭—一圓
母鰈	二圓八十銭—二圓五十銭

昭和五年十二月十二日

●泣くに泣かれぬ柔魚釣漁夫 殆ど無一文で帰る

最近北海道の漁場より柔魚釣漁夫が漁期を終へたので連絡船その他北海道航路の汽船で一日平均百名宛帰郷しているが積もる不景気は北海道方面の漁場にも辛酸に反映し生活費を目的として漁場稼ぎに出た漁夫は本縣人が多いが青森上陸と共に懐中無一文と云ふ泣くに泣かれぬ悲惨を土産に携へて来た。此ら漁夫の話によると今年は前借りを漸く返済し例年懐に携へてくる金は何れへか姿を消してしまつたと語っていた、さうしてみれば農村から漁場の景気を夢見て出稼ぎした漁夫の生活は予想以上に逼迫しているものと鐵道側では觀察している。

昭和五年十二月十四日

●北海漁場の大整理で出稼ぎ漁夫は大打撃

当てがはずれて大弱りの八戸市組合

不況と漁場の整理等で本縣の出稼ぎ漁夫間にも大きな亀裂が入って八戸市湊供給組合も打開

策に苦しんでいた折柄久保同組合長が三戸郡同市聯合会長となっている関係上、上北、下北両郡に対し協調を提唱し十日野辺地町で連合会長会議を開会した其の席上久保連合会長代理山中書記から渡道の上北海道水産会長その他道庁水産局等訪問の上多少賃金の低下は忍ぶ事として陳情しようと思ふ意見を發表したが其の必要なしとされた折も折り北海道鯺漁場の大整理に内地から出稼ぎ漁夫の供給を受けないと云ふ事なので八戸湊組合では大狼狽で早速十一日午前縣當局に此の対策を質した、北海道漁場行きは同組合から年々千二百名は供給されて来たのが全然なくなるので困惑している、湊海岸は本年は例年になく不漁に加へて冬期に入れば漁民の書入時で百圓から二百圓迄の纏まった貯金を持ち帰り得る出稼ぎ迄出来ず弱り目に祟り目で大弱りである、久保組合長は語る

尤も北海道の漁場整理は何処も同じ秋風で失業者救済の為に雇用の範囲を狭くして内地のは断る事に余儀なくされたものであらう、而も亦當地漁夫は漁民として生活に追はれながらも生計を営んでいる、其に比べては北海道漁夫は色々な問題から非常に失業が多いと云ふ、副業(?)で北海道に行くのとは根本的に違ふとしても不況と不漁とどん底生活に潰されさうな漁民の救済に最も良いはけ口と思つていたが非常な打撃で北海道水産関係當局に陳情が益々必要となつた。

昭和五年十二月十七日

●命の綱と頼む秋漁も魚の影さへ見せず

出稼不況の予想にハタと行き詰まった太平洋の三澤地方

縣下の模範村でありタコマ市号の出発地として世界に其の名を知られた三澤村淋代を中心に沿岸の漁民は太平洋を唯一の生活の根城としているが去る八月以来の大不漁と殺人的大不景気の為憂ふべき状況にあり不漁は不漁としてそれに次ぐ農作物殊に全国に誇る主要産物の第一位を占める馬鈴薯の如きは高価な肥料を施し豊作ではあつたが値は去年の半額で如何とも算盤がとれぬけれども家の経済がとれぬため高値の来るのが待てずに投売すると云ふ惨めな清算となり肥料代にも不足であり結局算盤が合はないが米は値の高低に拘らず求めねばならず沿岸一帯を吹き捲る大不景気は今後の漁不漁の如何に依ては座して餓死する惨状を招来せぬとも計り知れぬ場合に直面しつゝある漁家は好漁期たる秋の海を血眼になって今日か明日かと海辺に火を焚き乍ら魚群の襲来を待ったが袋の物を捕らえるが如く思ふ様に行かず今では降雪期に入り諦めるより外ないがしかし昨年あたりの大漁は一月早々からの大漁だったから敢へてまだ遅いと云ふ訳でもないのにもう駄目だと青息吐息の漁場主や中には見込みがないとて漁具を全部困っている気の早い人もある、斯様な悲惨な海岸を見る時此の年の瀬を控へて何とも言へぬ暗い気分になるこのまゝ漁がないものとしたら今年よりも来年の春はより以上の響きが一般に濃厚になるだらう、かてゝ加へて今春の北海道未曾有の大不漁が六年度の出稼に影響し給料の減額人夫の減員は当然だらうと見られている、毎年ならば三澤村からも千数百人の出稼人が北海道へ渡り約二十萬圓位の収入が間違ひなく入るのだがそれが今度漁場の数を減じそして歩方制度にしてやる方針とすれば従来通りの収入がない訳で家計上非常な狂いが生じ従つて漁夫の失業者

も出来るかも知れない、それが由々しい大事である、不景気知らずの三澤村でも世知辛い此の不景気に弱り切っており純農村よりも一段の悲惨を見て居る斯様な場合こそ基本財産十八萬圓を引き出して吾々を救済するのが急務などと云ふものも出る始末だが当局の意向としては来年の大不漁大不作襲来に備ふる為め余程考究すべき問題として居り一時の不景気風に脅えず懸命に打開に努め納税の如きも光輝ある三澤村の歴史に汚点を残さぬ様にと只管村民を励まして居る

昭和五年十二月二十一日

●鱒ヶ澤のはたはたは近年にない大豊漁

列車を増結する騒ぎ

十九日以来西郡鱒ヶ澤に襲来した鱒は近年にない豊漁となり同地方方面は異常な活気を呈して居るが十九日二十日の二日間で既に一萬圓以上の漁獲高を挙げる等不景気そのこのけの観である、此の報を聞いた五所川原沿線方面の人たちは我も我もと見物旁々買い出しに出掛けるもの殺到して五所川原線の旅客及び貨物は大幅轉を来して居るので青森運輸事務所では抜かりなく早くも列車の増結を行なつて居る、尚ほ鱒ヶ澤方面の豊漁は二十五六日迄続く模様であると云ふから素晴らしい

昭和五年十二月二十二日

●北洋出稼漁夫に不景気の痛手 募集人員はぐっと減り給金二割減

それでも応募者殺到

毎年十一月頃からぼつぼつ開始される日魯漁業會社はじめ各蟹工船の所謂北洋出稼漁夫募集は不景気のため会社側の準備が遅れてか十二月に入っても音なく去年は全部で一萬三千人からの漁夫を募集し本縣からのみでも三千人も応募者を出した日魯漁業會社の漁夫募集を縣下各地方出稼希望者は鶴の首で待ち焦がれていたが十九日漸く日魯漁業で募集事務が始められた。此の年の瀬を越すに越されぬ場合なので縣下各所でそれとばかり応募者が殺到すると云ふ有様を現出している。之は出稼の契約がなればすぐ前借りが出来るので不景気の一時期凌ぎも出来、又毎年出稼漁夫を殆ど生業にしている者もあるから今年は年の瀬を控へて此の不景気、希望者が殺到したのは無理もないが昨年一萬三千から募集した日魯漁業會社今年の募集数は約三割減の九千人位とされ本縣からは昨年三千人であったのが今年は二千百人位しか募集せず給料も二割減の日給一圓六十錢（昨年二圓）と云ふ低下振りで九、一（生産高の歩）にも多少変動があるだらうと云われているがそれでも応募の漁夫は昨年にも増して殺到しどんな条件でも良いから雇ってくれと云ふ競争ぶりで全く不景気時代の如実な反映である。日魯漁業の他北洋の蟹工船各會社は昨年全部で十八艘位でたが今年は十艘減じてただの八艘。樺太の杓夫は毎年八百人位を入れていたが今冬は殆ど見込みがないと云はれている。

昭和五年十二月二十四日

●東北に唯一の揮発油タンク

ライ社では野内に建設することになった

激甚なる競争を演ぜられて居る今年の揮発油界は政府の国産愛用強調に依って外国産揮発油が可成の打撃を蒙った様であるが、輸入外国油の権威たるライジング・サン會社では東北地方、北海道地方の自動車使用激増に着眼し本縣野内に二千五百噸入りの揮発油入保税タンクを建設に決定した。従来の本縣及び東北各県へのライジング・サン會社の揮発油は主として横濱からタンク車入り、或はドラム缶入りとして鐵道輸送となつて居つたものであるが、鐵道輸送としては経費が多くかかるのでその合理化を研究中のものであつた。この結果東北、北海道揮発油需要の根拠地として野内が選定されたものでライジング・サンの揮発油野内保税タンク建設が渦を巻いて東北地方の揮発油界は一層競争激甚なるものがあるに至るだらうと注目されて来た

昭和五年十二月二十七日

●青森駅発送の鱈は不振

最近の鮮魚発送量激減

青森駅で待ち焦がれた湾内鱈は愈々二十四日初めて三車（二十トン）発送され、二十五日は十車（六十トン）発送されたが、二十六日は一車しかなかった。然し、昨年より著しく出回り季が遅れた関係で鮮魚の発送量は激減して居る。即ち青森運輸事務所管内鮮魚に就いて見ると本月十一日以降二十五日迄の発送量は千七百十四トンで昨年同期に比較すると四割五分減に当る千六百トンの減少である。

昭和五年十二月二十八日

今日の談片（一一一） 市内新安方町

海産問屋 若井由五郎氏

鱈の漁は例年ですと十二月の九日頃からで魚商に取っては書き入れ時と云ふ所ですが今年は例年より十二日位遅く年末需要に間に合はぬ始末です—今年の鱈漁の予想は一寸つきませんネ... それでも鱈の得意先は東京群馬長野といふ比較的良いお客さんばかりですから金の回収は鯨などに比較して楽です。最も需要の多い所は何と言っても東京で漁獲された大半は東京に出ます。今年の鱈の漁は昨年に比較し實に惨憺たるもので昨年の漁の五分の一と云ふ所です。尤も昨年の鱈は未曾有の大豊漁年でしたが... 来年は沿海州鱈が漁のある年回りですが鱈の大勢を左右するカムチャツカが不振年に当たつて居るのでどうですかネ鱈の漁獲高はカムチャツカは約五十萬石樺太が十萬石択捉が七八萬石から十萬石でせう北海道の鯨合同會社の設立も来年一杯かゝつた所でもものになるかどうか一寸難しい様に思われますネ

東奥日報紙上に見られた水産関係記事の再録集

発 行 平成 30 年 7 月 30 日

発行所 地方独立行政法人 青森県産業技術センター水産総合研究所

〒039-3381 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊 10

TEL 017-755-2155 FAX 017-775-2156

<http://www.aomori-itc.or.jp>